

2026年度

大学院シラバス

経 営 学 研 究 科

明治大学大学院

明治大学校歌

明治大学校歌

児玉花外 作詩

山田耕筰 作曲

一

白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

二

権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三

霊峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

目 次

2026 年度大学院学年暦・行事予定	2
授業時間割	3
人材養成その他教育研究上の目的	4
互いの人権を尊重し、ハラスメントのない研究科に向けて	5
「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針	6
修士学位取得のためのガイドライン	9
博士学位取得のためのガイドライン	13
履修登録について	18
履修登録スケジュール・登録完了までの流れ	19
科目ナンバリングについて	20
他大学大学院の聴講について	21
博士前期課程	
修了要件・履修にあたっての注意事項	25
経営労務プログラム（マネジメントコース）履修モデル	26
ダブルディグリー・プログラムの概要	27
科目名一覧表	28
シラバス	46
博士後期課程	
修了要件・修了について	233
科目名一覧表	234
シラバス	237
交通遅延発生時の授業等の措置について	282
大規模地震等災害発生時の対応について	282
大地震発生時の避難マニュアル	285

◎2026年度 大学院学年暦・行事予定（2026年4月～2027年3月）

<春学期>

時 間 割 ・ 履 修 関 連 書 類 配 布	2026年 4月1日(水)～
【学生証有効期限・通学区間】証明(学生証裏面シール)更新	
各 研 究 科 新 年 度 ガ イ ダ ン ス	
入 学 式	4月7日(火)
授 業 開 始	4月10日(金)
研 究 論 集 提 出 締 切 日 (9 月 発 刊 分)	4月9日(木)10:00まで
履 修 届・履 修 計 画 書 提 出 (M ・ D)	4月17日(金)～4月20日(月)
W E B 履 修 登 録 (M の み)	4月17日(金)10:00～4月20日(月)10:00
個 人 別 時 間 割 表 公 開	4月20日(月)12:00～
履 修 修 正 期 間	4月20日(月)12:00～4月22日(水)15:00
休 日 授 業 実 施 日	4月29日(水)〔昭和の日〕
臨 時 休 業 (休 講) 日	5月1日(金)・5月2日(土)
研 究 論 集 予 備 登 録 (2 月 発 刊 分)	6月22日(月)～6月26日(金)10:00
休 日 授 業 実 施 日	7月20日(月)〔海の日〕
授 業 終 了 日	7月22日(水)
夏 季 休 業	8月1日(土)～9月19日(土)
研 究 論 集 発 刊	9月4日(金)

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

<秋学期>

研 究 論 集 提 出 締 切 日 (2 月 発 刊 分)	9月18日(金)10:00まで
授 業 開 始	9月20日(日)
履 修 修 正 期 間	9月21日(月)～9月30日(水)
休 日 授 業 実 施 日	9月21日(月)〔敬老の日〕
休 日 授 業 実 施 日	9月22日(火)〔国民の休日〕
修 士 論 文 予 備 登 録	10月1日(木)10:00～10月5日(月)15:00
休 日 授 業 実 施 日	10月12日(月)〔スポーツの日〕
大 学 祭 週 間 (全 日 休 講)	10月29日(木)～11月3日(火)
大 学 祭 (明 大 祭 ・ 生 明 祭)	10月30日(金)～11月1日(日)
創 立 記 念 祝 日	11月1日(日)
休 日 授 業 実 施 日	11月23日(月)〔勤労感謝の日〕
臨 時 休 業 (休 講) 日	12月23日(水)・12月24日(木)
冬 季 休 業	2027年 12月25日(金)～1月7日(木)
修 士 論 文 提 出 日	1月8日(金)10:00～1月12日(火)15:00
創 立 記 念 日	1月17日(日)
臨 時 休 業 (休 講) 日	2026年度は1月中の臨時休業日無し
授 業 終 了	1月23日(土)
修 士 論 文 面 接 試 問	2月1日(月)
研 究 論 集 発 刊	2月26日(金)
修 了 通 知	3月初旬
研 究 論 集 予 備 登 録 (9 月 発 刊 分)	3月8日(月)～3月12日(金)10:00
修 了 式	3月26日(金)

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

◎授業時間割

〔全キャンパス共通〕

学部・大学院

専門職大学院（法務研究科、会計専門職研究科）

【月～土曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：40
2 時 限	10：50～12：30
3 時 限	13：30～15：10
4 時 限	15：20～17：00
5 時 限	17：10～18：50
6 時 限	19：00～20：40

※経営学研究科博士前期課程マネジメントコースは平日夜間および土曜日に授業を実施しています。
授業時間は下記の表のとおりとなります。（土曜日は上記の表の時間帯です。）

時 限	時 間 帯
マネジメント 1 時限(M 1 時限)	18：00～19：40
マネジメント 2 時限(M 2 時限)	19：50～21：30

〔駿河台キャンパス〕

専門職大学院（ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科）

【月～金曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：30
2 時 限	10：40～12：10
3 時 限	13：00～14：30
4 時 限	14：40～16：10
5 時 限	16：20～17：50
6 時 限	18：55～20：25
7 時 限	20：30～22：00

※ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科の平日授業は90分で授業を実施します。

【土曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：40
2 時 限	10：50～12：30
3 時 限	13：30～15：10
4 時 限	15：20～17：00
5 時 限	17：10～18：50
6 時 限	19：00～20：40

【経営学研究科】

経営学研究科は、独立した精神と個の強さを有し、優れた専門知識を身につけた人材を養成することを目的とする。博士前期課程では、研究・教育分野におけるスペシャリストを育成し、様々な企業や公的分野におけるトップマネジメント及び経営関連分野における高度専門職業人の育成を目標とする。博士後期課程では、研究領域のプロフェッショナル、すなわち、大学や研究機関で研究・教育の任に当たる人材の養成を目標とする。博士前期課程においても、また後期課程においても、学問の本質を究めるとともに、今日的な問題の解明・解決にも力を注ぐことにより実学としての経営学を追究する。

【経営学専攻】

経営学専攻では、特定分野はもとより経営現象全体に対する総合的視野を有した人材養成を目的とする。そのために、関連領域を、経営理論・管理、企業論、経営科学、人事・労務、経営史、財務会計、管理会計、公共経営の8専門分野に系統化し、それらを有機的に配置する。そして、各系における最重要課題を、系に特化した専門能力ばかりでなく、多面的視点から解決できる能力を育成する。

新入生の皆さん、在校生の皆さん、入学・進級を果たされ、それぞれの新しい生活に向け決意を新たにしていることでしょう。

さて皆さんは明治大学の建学の精神を知っていますか。「権利自由」、「独立自治」です。これらは大学の基本姿勢を表現したものです。本学で学び、本学で働いているすべての人々がお互いに「人格を認め合い」、「個人として尊重される」ことは建学の精神の神髄です。言い換えれば、相手の人格を傷つける行為、蔑む行為、すなわちハラスメント行為は、学ぶ権利を奪うことになり、建学の精神を蝕むことです。こうした観点から、明治大学ではあらゆる形の人権侵害とハラスメント行為とは無縁なキャンパスをめざしています。

しかしこの実現は、「言うは易く行うは難し」の言葉通り、簡単ではありません。学生と教員、職員と教員、学生同士、教員同士、職員同士、多様で複雑な人間関係のなかで知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまうことがあるのです。とても残念なことです。経営学研究科もハラスメントと無縁ではありませんでした。研究科委員会はその度に、目を覆うことなく、正面から受け止め、真剣に議論し、必要な対応をするなど毅然たる姿勢をとってきました。特にこの数年間は多くの時間を割いて議論を重ねてきましたし、研修会ももちました。もちろんまだ万全ではありません。しかし、われわれはあらゆる種類のハラスメントを許さないこと、被害者の立場にたって議論を重ねること、そして被害者の救済のために必要な措置をとること、これまで重視してきたこのような三つの態度を、今後とも、いやこれまでに以上に堅持していきたいと考えています。

経営学研究科の学生の皆さん、皆さんは自分の能力を高めるために日々勉学に励んでいることでしょう。しかし同時に、自立した人間として、社会のルールを守り、互いの人権を尊重し、ハラスメントを「しない、させない、許さない」姿勢が求められています。安心して学ぶことが出来る快適な環境を形成・維持・発展させるために、以下のように行動して下さい。

1. 学期初めにキャンパス・ハラスメント対策委員会編『ハラスメントのないキャンパスへ』を配布しますので、ぜひ読んで下さい。
2. 互いの人格を認め合い、ハラスメントを「しない、させない、許さない」姿勢を持つだけでなく、第三者としてハラスメントに遭遇したら、見て見ぬふりはしないで下さい。
3. ハラスメントに遭遇したら、ハラスメント対策室や学生相談室、教員、事務室などに速やかに相談して下さい。

明治大学大学院経営学研究科

「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針

【入学者受入方針】

【博士前期課程】

経営学研究科博士前期課程では、独立した精神と個の強さを有し、優れた専門知識を身につけた研究や教育の分野におけるスペシャリスト、すなわちさまざまな企業や公的分野におけるトップマネジメント及び経営関連分野における高度専門職業人を養成します。そのため、研究に向かう真摯な姿勢を抱いた次の国内外の学生を積極的に受け入れます。

- (1) リサーチコースでは、経営学をより高度に発展、展開したいと希望する者。
- (2) マネジメントコースでは、職業上経験を踏まえて諸課題の本質を見きわめたいと考え、実務の世界で修得してきた知識を理論的に掘り下げたい者。
- (3) 経営に関する知識を拡大することにより、実務で培ってきた知識が学問的にどのような位置にあるのかを探究したい者。
- (4) 外国語を使用して経営・会計研究を行い、国内のみならず海外の大学において経営の専門科目を学びたい者、ダブルディグリープログラムなど提携関係にある海外大学院の院生、全国社会保険労務士会連合会及び日本中小企業診断士協会連合会など学外機関と開発したプログラムへの参加希望者。

以上の求める学生像に基づいて、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験、3年早期卒業予定者入学試験、飛び入学試験を実施し、筆記試験（筆記試験以外の方法で学力を評価できる場合を除く）と面接試験によって選考を行ないます。

経営学研究科博士前期課程に入学するにあたり、求める知識、技能、関心等を以下のとおり求めます。

- (1) 研究の基礎となる語学力や経営学に係る知識や理解力。
- (2) 研究課題について論理的に分析する能力。
- (3) 基本的な情報処理能力。
- (4) 誰とでもコミュニケーションを取れる能力と協調性。

【博士後期課程】

経営学研究科博士後期課程では、独立した精神と個の強さを有し、優れた専門知識を身につけたプロフェッショナルとして経営学研究に携わる人々、すなわち大学や研究機関で研究、教育の任にあたる人材を養成します。そのため、高度な研究に向かう真摯な姿勢を抱いた次の国内外の学生を積極的に受け入れます。

- (1) 自身の研究分野をさらに究める意識の強さをもち、社会科学としての経営学の発展に寄与したい者、国内外の修士学位取得者。
- (2) 経営学の研究領域の本質を理論的・実証的に確立し、研究者としてプロフェッションを目指す者、提携関係にある海外大学院の交換留学生。
- (3) 大学教員、公認会計士、裁判官、検事、弁護士など修士学位取得者と同等の学力があると認められる者。

以上の入学者受入方針が求める学生像に基づいて、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、修士学位請求論文、修士学位論文を作成していない場合には修士学位請求論文相当の論文の審査、筆記試験（筆記試験以外の方法で学力を評価できる場合を除く）、面接試験によって選考を行ないます。

経営学研究科博士後期課程に入学するにあたり、求める知識、技能、関心等を以下のとおり求めます。

- （１）経営学に係る専門知識や問題解決能力。
- （２）定量的・定性的なものの見方。
- （３）外国語文献を読み解く語学力。
- （４）海外留学や国際学会に積極的に参加する国際性。

【教育課程編成・実施方針】

【博士前期課程】

経営学研究科博士前期課程では、企業経営を中心として経営現象全体に対する総合的視野から教育研究を実現するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- （１）経済社会の激動を単に現状追従的認識ではなく、理論的・実証的に明らかにしていくにあたり、研究教育分野又はビジネス・公的分野で活躍する人材を輩出すべく、研究者養成型のリサーチコースと社会人再教育型のマネジメントコースの２つのコースを設置します。
- （２）米国ビジネススクールのように所定のコースに沿って科目を受講するようなコースワークではなく、研究テーマの考察を徹底した少人数クラスで行うことにより、独自の研究テーマを追究し、それに依拠した専門性を育てるリサーチワークに力点を置きます。
- （３）専門能力を学ぶだけでなく、多角的視点から企業の諸問題を解決できる能力を育成するため広い視野から研究を進められるように、経営理論・管理、企業論、経営科学、人事・労務、経営史、財務会計、管理会計、公共経営、グローバル（英語による授業）という 9 専門分野の系からなる授業科目および外国語経営・会計研究、海外提携大学院における授業科目を設置します。
- （４）国際的視野から研究を展開できるようにダブルディグリープログラムを設置する等、提携関係にある海外大学院への留学支援を積極的に行います。

【博士後期課程】

経営学研究科博士後期課程では、企業経営を中心として経営現象全体に対する総合的視野から教育研究を実現するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- （１）大学や研究機関における専門的研究教育者を養成するために必要な自身の研究領域のさらなる発展を図り、研究テーマに基づく研究報告、論文作成をマンツーマンで指導します。さらには、国内外学会での研究報告や論文投稿、大学院生論集への論文投稿を積極的に指導します。
- （２）自身の専門領域に固執せず、多角的視点から経営現象を解決できる能力を育成するため広い視野から研究を進められるように、経営理論・管理特殊研究、企業論特殊研究、経営科学特殊研究、人事労務特殊研究、経営史特殊研究、財務会計特殊研究、管理会計特殊研究、公共経営特殊研究という 8 つの特殊研究から成る授業科目を設置し、それぞれを複数の教員が担当します。
- （３）研究の国際交流や、研究自体の国際化を図り、国際的視野から高度な独自研究を展開できるように海外提携大学院での修学機会を提供します。

【学位授与方針】

【博士前期課程】

経営学研究科博士前期課程では、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに学位論文に基づき、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し修士（経営学）の学位を授与します。

- （１）経営学に係る 9 の専門分野のいずれかに分けられた研究を深め、優れた専門知識や問題解決能力を身につけていること。
- （２）リサーチコースについては、自立した研究者を目指し、種々の経営に係る研究・調査などを、理論的・学問的展望の下で掘り下げる資質や能力を有していること。
- （３）マネジメントコースについては、高度専門職業人として、具体的な課題に対し研究に裏打ちされた問題解決能力を広く社会に還元できる資質や能力を有していること。
- （４）ダブルディグリープログラムについては、国内外の研究を融合させて理論的・実証的視点、あるいは国際的視点によって、多面的研究能力を示すこと。

【博士後期課程】

経営学研究科博士後期課程では、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに学位論文に基づき、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し博士（経営学）の学位を授与します。

- （１）経営学に係る 8 つの特殊研究のいずれかから自身の研究領域を応用・高度化させ、国際水準に達する問題解決能力や知識を有していることに加え、博士後期課程修了後も国内外において研究・教育を続ける資質や能力を有していること。
- （２）自身の研究・教育を通して社会科学としての経営学の発展に寄与する意志。グローバルな視点で研究展開し、経営現象を総合的に理解し、多様な言語を用いて自身の研究領域を発信していること。

明治大学大学院経営学研究科

修士学位取得のためのガイドライン

【本研究科で授与する学位】

経営学専攻

修士（経営学）

Master of Business Administration

【修士学位請求の要件】

在学期間

本研究科博士前期課程（修士課程）に2年以上在学し、所定の研究指導を受けていること。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士前期課程（修士課程）に1年以上在学すれば足りるものとする（要修業年限短縮申請）。

単位要件

（1）修了要件

- ① 博士前期課程においては、36単位以上を修得しなければならない。
- ② リサーチコースを選定した者は、指導教員の演習科目8単位及び講義科目4単位に加え、母国語以外の外国文献研究から2か国語各4単位、計8単位の20単位を必修とする。ただし、指導教員の演習科目のうち、4単位は、指導教員の指示により、他の演習科目の修得をもって代えることができる。
- ③ マネジメントコースを選定した者は、指導教員の演習科目8単位及び講義科目2単位の10単位を必修とする。ただし、指導教員の演習科目のうち、4単位は、指導教員の指示により、他の演習科目の修得をもって代えることができる。

（2）上記に定める単位を修得し、その成績が平均「B」以上の者。

研究倫理教育の受講

本学が定める研究倫理教育を受講していること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ている者とする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

入学志願時に指名し、承認を得た指導教員が修士学位取得のための研究指導を行う。院生は1年次の始めに指導教員の指導のもとに研究計画を立て、指導教員の許可を得たうえで研究計画にそった履修計画書を作成する。指導教員は、研究計画に基づき演習や講義を通じて研究テーマに関連した幅広い知識と学位請求に必要な理論的・実証的な研究方法を修得させる。

1 年 次

4 月 各自の研究テーマにそって、指導教員の許可を得たうえで履修計画書を作成し、履修する科目を決定する。

4月～3月 文献研究科目や講義科目の履修により、研究テーマに関する知識を拡充しつつ、演習科目の履修により具体的な論文テーマを絞りこむ。また、論文テーマが具体的になった院生は先行研究等、論文執筆に必要な調査活動を行う。研究活動により纏まった章の論文執筆ができるようになった者は、研究論集・学会誌等へ投稿する。

2 年 次

4 月 研究テーマや履修テーマが変更となった院生は履修修正期間までに指導教員の許可を得たうえで履修修正を行う。

4月～1月 文献研究科目や講義科目を引き続き履修しつつ、1年次に履修できなかった科目を履修する。また、研究テーマを掘り下げ、修士論文執筆に必要な情報収集・研究調査活動を行う。研究活動により纏まった章の論文執筆ができるようになった者は、研究論集・学会誌等へ投稿する。指導教員からの許可を得たうえで修士論文を執筆する。

【修士論文に求められる要件】

修士論文は、専攻分野における基本的な問題解決能力及び研究遂行能力を示し、自らの研究課題について厳密に論証していると認められるものである。したがって、リサーチコースを修了するためには修士論文の作成が必須とされている。ただしマネジメントコースにおいては、課題研究レポートをもって修士論文に代えることができる。

修士論文を作成するにあたっては、以下の点に留意しなければならない。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 論文の体系性
- (4) 先行研究の調査
- (5) 理論的分析、実証的分析
- (6) 論旨・主張の統合性・一貫性
- (7) 形式的要件

また、課題研究レポートは実務的経験や学術的関心を研究課題として、検討・考察したものとする。

修士論文は4万字（英文の場合は1万ワード）以上、課題研究レポートは2万字（英文の場合は5,000ワード）以上とする。また、すでに『経営学研究論集』『社会人経営論集』などで発表した論文等を修士論文の一部として用いる場合には、初出一覧表を修士論文の最後に掲載することとする。

【修士学位請求論文等の提出書類・提出期日】

予備登録

- (1) 予備登録時期は論文提出年度の10月上旬とする。
- (2) 論文提出予定者は、必ず指導教員と相談のうえ、論文題名（仮題でも可）を登録すること。
- (3) 予備登録後に修士論文および課題研究レポートを取り下げる場合は、面接が開始されるまでに取り下げ願い書を提出するものとする。

提出書類等

- (1) 「修士学位請求書」1通（経営学研究科のホームページからダウンロード）

必要事項を記入のうえ、指導教員の承認を得たうえで提出すること。

※この請求書に記載された論文題名を正とする。

なお、論文題名に副題がある場合、ダッシュ（－）で最初と最後を括ること（波線（～）不可）。

(2)「修士学位請求論文」または課題研究レポート（マネジメントコース）

（下記①～④により完成されたもの）

① 紙：A4判（横書き）

図表・資料もA4判で作成すること。

②字数：修士論文4万字（英文の場合は1万ワード）以上、課題研究レポート2万字（英文の場合は5,000ワード）以上

※必ずページ番号を付すこと。

③書式：制限なし（指導教員の指示に従うこと。）

※縦書きの場合は2段組にする等、読みやすいよう配慮すること。（論文要旨も同じ）

④「扉（表紙）」（経営学研究科のホームページからダウンロード）

必要事項を記入のうえ、論文の表紙とすること。

(3)「修士学位請求論文要旨または課題研究レポート要旨」

A4判、3,000字程度（英文の場合は750ワード程度）、課題研究レポートの場合は2,000字程度（英文の場合は500ワード程度）で作成し、表紙には論文題名（課題研究レポート題名）、所属研究科名・専攻名・氏名等を明記すること。

論文提出

(1) 論文提出時期は論文提出年度の1月上旬とする。

(2) Oh-o! Meiji グループへの提出を原則とする。

ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などにより Oh-o! Meiji での提出ができない場合は、別途研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MB を超える可能性がある場合は、提出期間前に提出方法について研究科に問い合わせること。

なお、受付は、指定提出期間内のみとし、提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

修士学位を請求しようとする者は、修士論文提出要件を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が修士学位請求に十分な水準であるとの判断をした場合に、論文を提出することができる。

研究科委員会での受理

研究科委員会は、学位請求論文に対して受理を決定し、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科・他大学等の研究者を選定することがある）の審査委員を選出する。

審査委員による面接試問

- (1) 審査委員は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。審査終了後、審査委員は研究科委員会に可否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。
- (2) 面接試問は論文提出年度の2月上旬ごろに実施する。

研究科委員会の合否判定

研究科委員会は審査委員からの報告をもとに、審議のうえ合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者には、修士学位が授与される。

【合否判定後の論文の取扱いについて】

審査に合格した論文は、本学大学院で保管し、教育・研究のために活用する。

明治大学大学院経営学研究科 博士学位取得のためのガイドライン

課程博士

【本研究科で授与する学位】

経営学専攻 博士（経営学）

Doctor of Philosophy in Business Administration

【博士学位請求の要件】

在学期間

- (1) 本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。
- (2) 本研究科博士後期課程に3年以上在学し、所定の研究指導を受けた後退学した者にあつては、博士後期課程入学時の入学日から起算して8年以内に限り、研究科委員会の許可を得て再入学し、課程博士の学位を請求できるものとする。

単位要件

- (1) 指導教員が必要と認める授業科目12単位を修得しなければならない。
- (2) 指導教員が必要と認めた場合には、博士前期課程設置科目、他研究科設置科目及び別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。

研究業績

本研究科の『経営学研究論集』、本学経営学部の『経営論集』、本学社会科学研究所の『明治大学社会科学研究所紀要』などに4編程度発表されていることが必要である。そのうち1編はレフリー制のある学会誌に掲載されていることが望ましい。

研究倫理教育の受講

本学が定める研究倫理教育を受講していること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ているものとする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

入学志願時に指名し、承認を得た受入担当教員を指導教員として博士学位取得のための研究を行う。
また、毎年5月末までに、指導教員と面談のうえ研究計画書を作成する。

- ステップ1 博士前期課程で学んだ基礎知識に基づき、入学時に決定した指導教員から、各自の研究テーマに関係する文献・資料などの収集、さまざまな調査・分析活動と「特殊研究」を通じて博士学位取得に必要な研究指導を受ける。
- ステップ2 指導教員からの研究指導を受け、本研究科の『経営学研究論集』、本学経営学部の『経営論集』、本学社会科学研究所の『明治大学社会科学研究所紀要』、その他レフリー制のある学会誌に論文を投稿する。
- ステップ3 学術的に優れた論文、計4編程度を統一的なテーマのもとで体系化し、学位請求論文とする。作成された学位請求論文について、指導教員が経営学研究科で定めた要件を備えているものと判断した場合、4月1日から8月31日までに予備登録をし、予備登録の当日から8月31日23時59分までの間に経営学研究科委員会に提出する。

【博士論文に求められる要件】

博士論文は、自律的に研究活動を遂行することのできる研究能力を有し、その基礎となる豊かな学識を示すと認められるものであり、かつ、本研究科の博士学位請求論文として相応しい質・量・内容・水準を備えたものでなければならない。加えて、以下の点に留意したものでなければならない。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 論文の体系性
- (4) 先行研究の調査
- (5) 理論的分析、実証的分析
- (6) 論旨・主張の統合性・一貫性
- (7) 形式的要件

論文の審査にあたっては、次のような規準を適用する。

- (1) 論文は、これまでの研究状況を踏まえたうえで、何を付け加えたかを明確にするとともに、そのことを通じてその分野の研究に寄与する内容をもつことが求められる。
- (2) 理論ないし学説に関するテーマについては、その分野でこれまでの業績に十分に検討を加えたうえで、理論を明確にしながら、論文提出者の知見を提示することが求められる。
- (3) 実証的ないし歴史的なテーマについては、これまでの研究成果についての検討に加えて、十分なデータないし史料を検討・分析し一定の命題を論証することが求められる。
- (4) 新たな認識あるいは方法の適用や国際比較など新しい分野の研究やアプローチについては、そのユニークさや特徴について論述することが求められる。

なお、すでに『経営学研究論集』や学会誌などで発表した論文等を博士論文の一部として用いる場合には、初出一覧表を博士論文の最後に掲載することとする。

【博士学位請求時の提出書類・提出期間等】

予備登録時期は論文提出年度の4月1日から8月31日までとする。論文提出予定者は、必ず指導教員と相談のうえ、以下の書類を提出すること。

- (1) 学位請求書（本学所定様式：経営学研究科のホームページからダウンロード）
指導教員の署名を得たうえでスキャンデータを提出すること。また、論文題名は和文には英文訳を、欧文には和文訳を付すこと。（欧文が英文以外の場合、英文訳も付すこと。）
- (2) 履歴書（本学所定様式：経営学研究科のホームページからダウンロード）
暦年は西暦表記とする。
- (3) 業績書（本学所定様式：経営学研究科のホームページからダウンロード）
暦年は西暦表記とする。
- (4) 博士学位請求者推薦書（推薦者は指導教員または本研究科委員会委員2名）

論文等提出期間

予備登録の当日から8月31日23時59分まで。

提出先

Oh-o! Meijiグループへの提出を原則とする。

ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などによりOh-o! Meijiでの提出ができない場合は、別途研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MBを超える可能性がある場合は、提出方法について研究科に問い合わせること。

なお、受付は、指定提出期間内のみとし、提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

審査手数料

不要

提出書類

(1) 学位請求論文

表紙は、本学所定様式（経営学研究科のホームページからダウンロード）を使用すること。

(2) 論文要旨（4,000字程度）（本学所定様式：経営学研究科のホームページからダウンロード）

(3) 明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書（本学所定様式：経営学研究科のホームページからダウンロード）

【学位審査の概要】

指導教員による承認

博士学位を請求しようとする者は、博士論文提出資格を満たし、指導教員から当該論文の内容、水準、形式について確認及び指導を受け、指導教員が博士学位請求に十分な水準であるとの判断をした場合に、論文を提出することができる。

学位請求者の推薦

指導教員または研究科委員会委員2名が学位請求者を推薦することができる。研究科執行部は提出された学位請求論文について、申請資格と当該論文の形式要件について確認を行う。研究科執行部が提出資格と論文の形式要件を満たすと判断した場合、すみやかに研究科委員会に諮り、指導教員または研究科委員会委員2名からの推薦をもとに審査して予備審査開始の可否を決定する。

予備審査

研究科委員会は、予備審査を決定した学位請求論文について、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科、他大学等の研究者を選定することがある）の予備審査委員を選出する。予備審査委員には推薦者1名を委員に選定することができる。

予備審査期間は12月に開催される研究科委員会までとする。予備審査においては面接も実施し、予備審査委員は博士学位請求者に対して学位請求論文の加筆、修正を求めることができる。

予備審査報告と閲覧

予備審査委員は予備審査報告書を研究科長に提出し、予備審査の結果について研究科委員会に報告する。

予備審査を終了した後、予備審査で指摘のあった修正後学位請求論文の提出を求め、論文については予備審査の結果の報告後から受理の可否を決定するまでの約1ヵ月の間、研究科委員会委員の閲覧に供する。

受理審査

閲覧期間後に、研究科長は学位請求論文を研究科委員会に諮り、受理の可否を決定する。

本審査

論文の受理を決定した場合、研究科委員会は主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科、他大学等の研究者を選定することがある）の審査委員を選出する。審査委員には、原則として予備審査にあたった委員を選定する。

受理を決定した論文は、引き続き可否を決定するまでの間、研究科委員会委員の閲覧に供する。

審査委員会は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。ただし、次のいずれかの条件を満たす者には外国語に関する試問を行わない。

- (1) 論文提出時において大学または大学院の専任教員である者
- (2) 博士前期課程において英語以外の外国文献研究を4単位修得した者
- (3) 論文作成にあたって2ヵ国語以上の外国語文献を使用していて、2ヵ国語以上の外国語に精通していると認められる者

博士学位請求者は、可否判定を行う研究科委員会開催の10日前までに最終版の「学位請求論文」及び「論文要旨」のPDFデータ並びに「明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書」を大学院事務室にデータにて提出する。なお、提出後の論文修正は一切認められない。

審査終了後、審査委員会は研究科委員会に可否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。

博士学位請求論文の審査及び試問は、2月の研究科委員会までに終了しなければならない。ただし特別の事情があるときは、研究科委員会の議を経て、1年以内に限り延長することができる。

学内機関による審査

研究科委員会は審査委員会からの報告をもとに、審議のうえ投票により可否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者は、大学院委員会の承認を経て、博士学位が授与される。

【学位審査等に関わる教員の責務】

審査委員の構成と責務

審査委員会は、指導教員のほか、当該論文に関連ある科目の担当教員2名以上（副査には他研究科、他大学等の研究者を選定することがある）により構成し、厳正なる学位審査に努めるものとする。

各教員の責務

各教員は、研究科委員会における審査において、当該学位論文を公正かつ客観的に評価し、当該学位の水準を保つよう努めるものとする。

【博士学位論文の公表】

審査要旨の公表

博士学位が授与された場合は、当該学位論文の内容の要旨及び審査結果の要旨をインターネットにより公表する。

学位論文の公表

博士学位論文は、本学学位規程第22条に準拠してこれを公表しなければならない。

明治大学学位規程 第22条

本大学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、明治大学審査学位論文と明記して、当該学位論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に、既に公表したときは、この限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本大学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を、求めに応じ、閲覧に供するものとする。
- 3 前2項の規定による公表は、本大学の定めるところに従って、インターネットの利用により行うものとする。

※ 「やむを得ない事由がある場合」とは、客観的に見てやむを得ない特別な理由があると本大学が承認した場合をいう。

例 ① 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合

② 博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合

③ 出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士学位を授与された日から1年を超えて生じる場合

なお、これらの場合においても、やむを得ない事由が解消された際には、速やかに博士論文全文をインターネットで公開しなければならない。

※ 博士学位論文提出にあたり、学位請求者は博士学位論文をインターネットにより公表することについての著作権関係上の諸問題を解消しておかなければならない。

例 ○ 刊行物の場合、出版社の了解を得ておくこと。

○ 引用の図版・写真がある場合、著作権者の同意を得ておくこと。

※ 博士学位論文が、特許などの申請に関連する場合、同申請手続きについては論文提出前に行っておかなければならない。なお、手続き方法等について不明な場合は、指導教員の指示を受けた後、各キャンパスの研究知財事務室に相談すること。

本学及び国立国会図書館における公表

博士学位論文の要旨及び全文は「明治大学学術成果リポジトリ」により公表する。明治大学学術成果リポジトリにより公表された博士学位論文の要旨及び全文のデータは、国立国会図書館において利用に供される。

履修登録について

- 1 履修登録 毎年度初めの所定の時期に、履修科目の登録を行う必要があります。この登録を正しく行わなかった場合、受講した科目の単位が認定されないので、注意してください。
- 2 履修計画書の提出 各自の研究計画に基づき、研究指導教員と相談の上、WEB による履修登録とは別途に履修計画書を提出してください。
- 3 履修登録方法
 - (1) ガイダンス時に、時間割表、履修計画書を受け取ってください。
 - (2) 博士前期課程は WEB により、博士後期課程は専用の届出用紙により、所定の期間に履修登録を行ってください。なお、WEB による履修登録の詳細は WEB 履修登録要領を参照してください。
 - (3) 履修登録期間後の科目の追加、変更、取消は認められません。
 - (4) 病気その他やむを得ぬ理由によって履修登録期間に手続きができない場合は、事前に大学院事務室まで連絡してください。
 - (5) 所定の単位を取得した者は、履修登録の必要はありません。
 - (6) 履修登録後、個人別時間割表を各自教務システムで、所定の期間に確認してください。この期間を過ぎると修正することはできません。なお、修正は次の場合に限り認めます。その他の場合については、大学院事務室で相談してください。
 - 登録科目の誤り
 - エラーメッセージ記載事項
 - 修了要件不足
 - (7) 他研究科履修をしようとする者は、大学院事務室で該当する研究科の時間割等を確認してください。所属研究科以外の時間割等は、配布できません。
 - (8) 他大学の授業科目を履修する場合は、「他大学大学院の履修の手続」に従ってください。
- 4 個人別時間割表 履修登録後、4 月下旬に教務システムで配信します。必ず確認してください。
- 5 履修登録スケジュール
履修計画書・時間割表の配布 …………… 4 月初旬 オリエンテーション時
WEB 履修登録・履修計画書の提出…………… 4 月中旬
個人別時間割表の確認 …………… 4 月下旬
履修登録不備の修正 …………… 4 月下旬
秋学期開講科目履修修正の受付 …………… 9 月下旬
※次頁の履修登録スケジュールを参照してください。

履修登録スケジュール

各研究科別新入生ガイダンス **4月上旬** ※研究科の日程を確認のうえ出席すること

- 履修計画書・授業時間割表・履修の手引き等の受領、各種事務説明

博士前期課程・修士課程

博士後期課程

指導教員と履修計画について相談のうえ、履修計画書を作成・提出する（締切：4月中旬）

※博士前期課程在籍者は、履修計画書の提出のみでは履修登録を行ったことにはなりません。以下のとおり、履修計画書に記載した科目をシステムに登録する作業が必要です。
※各手続きの日程は、ガイダンス等案内のある「WEB履修登録要領」を参照すること。

WEB履修登録システムを用いて履修登録を行う

- 登録するのは当該年度に履修する科目のみ
- 明治大学のホームページ上からWEB履修登録ページにアクセス
(携帯電話・スマートフォンは不可)

WEB履修非対応科目を登録する(該当者のみ)

- 「WEB履修非対応科目履修届」を別途作成のうえ提出する

WEB履修非対応科目（例）

- ・WEBで該当曜日時限に表示されなかった科目
- ・研究科で履修が認められている学部設置科目

※博士後期課程在籍者は履修計画書の他に、「履修届」も提出する必要があります。
(商学研究科、教養デザイン研究科を除く。)

※博士後期課程在籍者はWEB履修登録をする必要はありません。

登録期限
4月中旬

個人別時間割表を確認する（4月下旬）

- 教務システムの個人別時間割表から、履修科目が正しく登録できているか必ず確認する

履修エラー等がある場合

履修登録を修正する（4月下旬）

- 履修修正願を別途作成する
- 履修修正期間中に提出する

履修修正後の個人別時間割表を確認する（4月下旬）

- 教務システムの個人別時間割表から、登録にエラーがないかを確認する

履修エラー等がなかった場合

履修計画書の記載科目が正しく登録できているかを必ず確認！

履修登録完了

科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

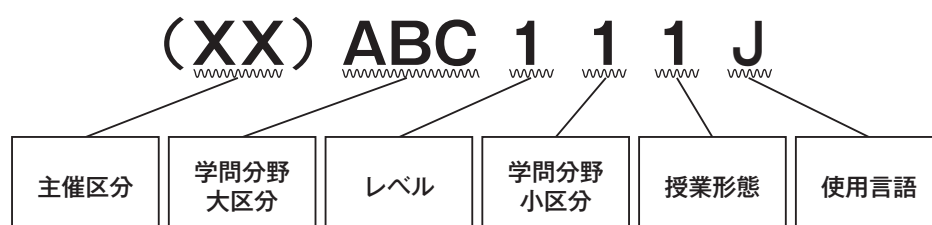
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバを付番します。

<科目ナンバの構造>



<各ナンバリングコードの定義>

- ① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。
- ② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。
- ③ レベルコード
当該科目のレベルを数字1文字で示しています。
- ④ 学問分野 小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。
- ⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。
- ⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

<各コードの詳細>

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバについては、本学ホームページ又は Oh-o! Meiji システムにて確認ください。

<科目ナンバの例>

(BA) MAN 5 1 1 J

経営学研究科／社会学／大学院（修士・専門職）基礎的な内容の科目／企業論／講義／日本語

※ 経営学研究科が設置する、経営学－企業論分野の科目で、日本語により行われる大学院（修士・専門職）レベルの基礎的な内容の科目という意味。

以 上

他大学大学院の聴講について

他大学院との学術的提携・交流を促進し、教育・研究の充実をはかることを目的として、経営学研究科では「大学委員特別聴講制度（単位互換制度）」及び「首都大学院コンソーシアム」を設けています。

他大学大学院からの科目履修に関わる本学受付期間 ～ 4 月 24 日（金）

希望者は大学院事務室にて手続方法を確認してください。

また、受入大学の受付期間について各自で確認し、その指示に従ってください。

1. 大学院特別聴講生制度（単位互換制度）

これは、大学院学生が研究上の必要から、他の大学院（特別聴講生に関する協定を締結した大学院）に設置されている授業科目を履修して、その履修した単位を所属する大学院に、修了に必要な単位として認定する制度のことです。

現在、本研究科において実施されているものは、次に掲げる制度です。

（1）明治大学大学院経営学研究科と文京学院大学経営学研究科経営学専攻との協定

（2）経済・経営・商学分野に関する協定

協定校	明治大学大学院	経営学研究科経営学専攻
	同	商学研究科商学専攻
	法政大学大学院	経済学研究科経済学専攻
	同	経営学研究科経営学専攻
	立教大学大学院	経済学研究科経済学専攻
	中央大学大学院	商学研究科商学専攻
	専修大学大学院	経営学研究科経営学専攻
	同	商学研究科商学専攻

2. 「首都大学院コンソーシアム」

詳細は研究科ホームページを参照してください。

經 営 学 研 究 科

博士前期課程

(授業科目・担当者及び履修方法)

博士前期課程

1. 修了要件

- (1) 本研究科の博士前期課程においては、36 単位以上を修得しなければならない。
- (2) 各コースにおける修得すべき単位は、次のとおりとする。
 - ① リサーチコース
指導教員の演習科目 8 単位及び講義科目 4 単位に加え、母国語以外の外国文献研究から 2 か国語各 4 単位、計 8 単位の 20 単位を必修とする。ただし、指導教員の演習科目のうち、4 単位は、指導教員の指示により、他の演習科目の修得をもって代えることができる。
 - ② マネジメントコース
指導教員の演習科目 8 単位及び講義科目 2 単位の 10 単位を必修とする。
ただし、指導教員の指示により、次のとおり他の科目の修得をもって代えることができる。
ア 指導教員の演習科目のうち 4 単位を他の演習科目に代える。
イ 指導教員の講義科目 2 単位を副指導教員の講義科目に代える。（ダブルディグリープログラム選択者に限る。）
- (3) 外国文献研究は 8 単位までを修了要件単位数として認める。
- (4) 外国文献研究のうち、日本語経営文献研究及び日本語会計文献研究は、外国人留学生のみ履修することができる。
- (5) 指導教員が必要と認めたときは、10 単位を限度として、他研究科（専門職学位課程を含む。ただし、諸条件あり。）及び単位互換協定による他大学院の授業科目から修得することができる。ただし、この場合は当該授業科目の担当教員の承認を得るものとする。
- (6) 別表 1 の 2 に規定する研究科間共通科目については、8 単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。
- (7) 指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。

2. 履修にあたっての注意事項

- (1) 標準的な履修方法は、第 1 年次においては原則として 20 単位以上 24 単位以内を履修するものとする。これを例示すると次のとおりである。

リサーチコース

年 次 \ 区 分	必 修 科 目			選択科目	計
	専修科目	講義科目	外国文献研究		
第 1 年次	演習 4	講義 4	文 8	8	24
第 2 年次	演習 4			8	12
計	20			16	36

マネジメントコース

年 次 \ 区 分	必 修 科 目		選択科目	計
	専修科目	講義科目		
第 1 年次	演習 4	講義 2	18	24
第 2 年次	演習 4		8	12
計	10		26	36

- (2) 第 1 年次の始めに、指導教員の指導の下に履修・研究計画を立てなければならない。
- (3) 各自の研究計画にしたがって、当該年度の履修計画書（指導教員の承認欄あり）を定められた日までに提出しなければならない。
- (4) 履修登録は、毎年度初めに履修計画に基づき、WEB により、指定された期間に登録を済ませること。
- (5) 単位互換協定のある他大学院の授業科目を履修しようとする場合は、指導教員の許可を得たうえで定められた期日までに事務室に申し出て、必要な手続きをとること。
- (6) 標準的履修方法は上記で例示したが、各年度 4～8 単位程度多めに履修することが望ましい。
- (7) 指導教員による必要な研究指導を受けたうえ、リサーチコース及びマネジメントコースにおいては、修士論文（4 万字以上）を作成すること。
なお、マネジメントコースにおいて指導教員の許可を得たものは、修士論文にかえて課題研究レポート（2 万字以上）を提出することができる。
- (8) 既に第 2 年次演習を履修し単位修得した者が、修士論文（課題研究レポートを含む）を提出することができず、次年度も引き続き在籍することとなった場合、休学の場合を除いて、必要な研究指導を受けるために第 2 年次演習を再履修するものとする。
なお、本取扱いによって修得した単位は修了要件単位に含まれず、GPA にも含まれない。

経営労務プログラム（マネジメントコース）履修モデル

マネジメントコースの在籍者で、全国社会保険労務士会連合会の推薦により入学した者は、下記を参照の上、履修すること。

- 演習 8 単位（1 年次および 2 年次各 4 単位）
人事・労務系の指導教員の演習を履修する。
- 2 年次に、修士論文を作成する。
課題研究レポートでも可
- 専修科目 2 単位
指導教員の講義科目から少なくとも 2 単位
- 自由科目から 26 単位
経営労務に関わる科目には、労務管理特論 A・B、人的資源管理特論 A・B、労働経済特論、賃金管理特論、人材育成特論、人的資源開発特論、産業・組織心理学特論、ナレッジ・マネジメント特論、労働関係法特論 A・B、労務監査特論、ADR 論 A・B がある。

上記科目以外に、他の系やリサーチコースの科目（演習は除く）も自由に履修することができる。

ダブルディグリー・プログラムの概要

本研究科は、2010 年度からマレーシア工科大学（UTM）とダブルディグリー・プログラムを実施している。ダブルディグリーとは、両大学の学生が、所属大学に在学しながら同時に相手方の大学へ正規生として入学し、双方の大学の修了要件を満たすことにより、両大学の学位（修士）を取得する制度をいう。

詳細は、別途経営学研究科事務室に問い合わせること。

1. UTM とのダブルディグリー・プログラム

（1）目的

本プログラムは、文理融合型のグローバル人材を養成することを目的とするものである。すべて英語による授業を展開することにより、グローバル人材の育成を図り、技術とマネジメントの双方を理解することにより文理融合型人材の育成を求めるものである。

本プログラムの達成によって日本・マレーシア両国にとって有為の人材を養成する。

（2）授与する学位

明治大学大学院経営学研究科 修士（経営学）

マレーシア工科大学 修士（経営管理工学）

（3）入学時期：当該入学年度の 2 月

（4）募集人数：若干名

（5）標準修業年限：2 ～ 3 年間

（6）修了に係る単位数

本学での取得単位数：36 単位

UTM での取得単位数：46 単位（含む共同設置科目・単位振替科目）

（7）修士論文：所定の審査を実施

（8）カリキュラム概要

- ① Master Project : Master Project 1 及び 2、計 2 科目 10 単位必修。UTM 教員の恒常的な研究指導は遠隔により実施する。
- ② Core Courses : Core Courses に属する 6 科目 18 単位を履修。
- ③ University Courses : Research Methodology を履修（必修）。併せて、University Courses から 1 科目 3 単位を履修。
- ④ Elective Courses : Technology Management 及び Supply Chain Management を履修（必修）。併せて、Elective Courses から 2 科目 6 単位を履修。

上記②～④の科目における履修方法は以下によるものとする。

ア マレーシア現地での履修＝1 科目 3 単位若しくは 2 科目 6 単位

イ 日本での受講＝通年で 3 科目 9 単位開講予定

ウ 単位振替科目＝経営学研究科で開講している科目を履修し単位を振替

詳細は大学院事務室までお問い合わせください。

（9）学費等

本プログラム参加の際の相手方大学における学費（入学金・授業料等）及び検定料は徴収しない。なお、学費の免除期間は入学年度より 3 年間とし、いずれかの学位取得のための修学を辞退した場合は、当該学期をもって学費の免除を停止する。

授業科目及び担当者

リサーチコース

(1) 経営理論・管理系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 学 史 演 習 I A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 学 史 演 習 I B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 学 史 演 習 II A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 学 史 演 習 II B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 哲 学 演 習 I A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 哲 学 演 習 I B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 哲 学 演 習 II A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 哲 学 演 習 II B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 戦 略 演 習 I A (RC)	演2	○		○	専任教授 歌 代 豊	
経 営 戦 略 演 習 I B (RC)	演2		○	○	専任教授 歌 代 豊	
経 営 戦 略 演 習 II A (RC)	演2	○		○	専任教授 歌 代 豊	
経 営 戦 略 演 習 II B (RC)	演2		○	○	専任教授 歌 代 豊	
財 務 管 理 演 習 I A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
財 務 管 理 演 習 I B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
財 務 管 理 演 習 II A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
財 務 管 理 演 習 II B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
国 際 経 営 演 習 I A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
国 際 経 営 演 習 I B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
国 際 経 営 演 習 II A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
国 際 経 営 演 習 II B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 組 織 演 習 I A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 組 織 演 習 I B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 組 織 演 習 II A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 組 織 演 習 II B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
企 業 行 動 論 演 習 I A (RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 行 動 論 演 習 I B (RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 行 動 論 演 習 II A (RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 行 動 論 演 習 II B (RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
グローバル・マーケティング演習 I A (RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 古 川 裕 康	
グローバル・マーケティング演習 I B (RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 古 川 裕 康	
グローバル・マーケティング演習 II A (RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 古 川 裕 康	2026年度開講せず
グローバル・マーケティング演習 II B (RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 古 川 裕 康	2026年度開講せず
マーケティング経営演習 I A (RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	
マーケティング経営演習 I B (RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	
マーケティング経営演習 II A (RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	2026年度開講せず
マーケティング経営演習 II B (RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	2026年度開講せず
経 営 管 理 演 習 I A (RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	
経 営 管 理 演 習 I B (RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	
経 営 管 理 演 習 II A (RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	
経 営 管 理 演 習 II B (RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	
経 営 学 史 特 論	講2	—				2026年度開講せず
現 代 経 営 学 特 論	講2		—			2026年度開講せず
経 営 哲 学 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
経 営 哲 学 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
経 営 戦 略 特 論 A	講2	○			専任教授 歌 代 豊	

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 戦 略 特 論 B	講2		○		専任教授 歌 代 豊	
経 営 組 織 特 論 A	講2	○			兼任講師 黒 澤 壮 史	
経 営 組 織 特 論 B	講2		○		兼任講師 黒 澤 壮 史	
企 業 行 動 特 論 A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 行 動 特 論 B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
財 務 管 理 特 論	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 境 睦	秋学期開講
現代コーポレートファイナンス特論	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 境 睦	
グローバル・マーケティング特論A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 古 川 裕 康	
グローバル・マーケティング特論B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 古 川 裕 康	
マ ー ケ テ ィ ン グ 経 営 特 論 A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 原 田 将	
マ ー ケ テ ィ ン グ 経 営 特 論 B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 原 田 将	
国 際 経 営 特 論 A	講2	○			兼任教授 博士(経営学) 吉 村 孝 司	
国 際 経 営 特 論 B	講2		○		兼任教授 博士(経営学) 吉 村 孝 司	
経 営 管 理 特 論 A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	
経 営 管 理 特 論 B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	

(2)企業論系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
欧 州 企 業 論 演 習 I A (RC)	演2	—		—	専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	2026年度開講せず
欧 州 企 業 論 演 習 I B (RC)	演2		—	—	専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	2026年度開講せず
欧 州 企 業 論 演 習 II A (RC)	演2	—		—	専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	2026年度開講せず
欧 州 企 業 論 演 習 II B (RC)	演2		—	—	専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	2026年度開講せず
ロ シ ア 東 欧 企 業 演 習 I A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
ロ シ ア 東 欧 企 業 演 習 I B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
ロ シ ア 東 欧 企 業 演 習 II A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
ロ シ ア 東 欧 企 業 演 習 II B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
日 本 経 営 論 演 習 I A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
日 本 経 営 論 演 習 I B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
日 本 経 営 論 演 習 II A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
日 本 経 営 論 演 習 II B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
中 小 企 業 論 演 習 I A (RC)	演2	—		—	専任教授 岡 田 浩 一	2026年度開講せず
中 小 企 業 論 演 習 I B (RC)	演2		—	—	専任教授 岡 田 浩 一	2026年度開講せず
中 小 企 業 論 演 習 II A (RC)	演2	○		○	専任教授 岡 田 浩 一	
中 小 企 業 論 演 習 II B (RC)	演2		○	○	専任教授 岡 田 浩 一	
東 ア ジ ア 企 業 論 演 習 I A (RC)	演2	—		—	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	2026年度開講せず
東 ア ジ ア 企 業 論 演 習 I B (RC)	演2		—	—	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	2026年度開講せず
東 ア ジ ア 企 業 論 演 習 II A (RC)	演2	○		○	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
東 ア ジ ア 企 業 論 演 習 II B (RC)	演2		○	○	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
経 済 地 理 学 演 習 I A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 済 地 理 学 演 習 I B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 済 地 理 学 演 習 II A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 済 地 理 学 演 習 II B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
現 代 企 業 特 論 A	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 境 睦	
現 代 企 業 特 論 B	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 境 睦	春学期開講
中 小 企 業 特 論 A	講2	—			専任教授 岡 田 浩 一	2026年度開講せず
中 小 企 業 特 論 B	講2		—		専任教授 岡 田 浩 一	2026年度開講せず
日 本 経 営 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
日 本 経 営 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
欧 州 企 業 特 論 A	講2	○			専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	
欧 州 企 業 特 論 B	講2		○		専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
ロシア東欧経済・経営特論 A	講2	—				2026年度開講せず
ロシア東欧経済・経営特論 B	講2		—			2026年度開講せず
東 ア ジ ア 企 業 特 論 A	講2	○			専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
東 ア ジ ア 企 業 特 論 B	講2		○		専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
経 済 地 理 学 特 論 A	講2	—			兼任教授 博士(学術) 中 澤 高 志	2026年度開講せず
経 済 地 理 学 特 論 B	講2		—		兼任教授 博士(学術) 中 澤 高 志	2026年度開講せず

(3)経営科学系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
リスク・マネジメント演習ⅠA (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
リスク・マネジメント演習ⅠB (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
リスク・マネジメント演習ⅡA (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
リスク・マネジメント演習ⅡB (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 統 計 学 演 習 Ⅰ A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 統 計 学 演 習 Ⅰ B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 統 計 学 演 習 Ⅱ A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 統 計 学 演 習 Ⅱ B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 技 術 演 習 Ⅰ A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 技 術 演 習 Ⅰ B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 技 術 演 習 Ⅱ A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 技 術 演 習 Ⅱ B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 数 学 演 習 Ⅰ A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 数 学 演 習 Ⅰ B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 数 学 演 習 Ⅱ A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 数 学 演 習 Ⅱ B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
情 報 シ ス テ ム 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
情 報 シ ス テ ム 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
経 営 数 学 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
経 営 数 学 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
経 営 統 計 学 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
経 営 統 計 学 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
経 営 技 術 特 論 A	講2	○			特任教授 経済学博士 新 宅 純二郎	
経 営 技 術 特 論 B	講2		○		特任教授 経済学博士 新 宅 純二郎	
リスク・マネジメント特論 A	講2	—				2026年度開講せず
リスク・マネジメント特論 B	講2		—			2026年度開講せず
コ ン テ ン ツ ・ ビ ジ ネ ス 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
コ ン テ ン ツ ・ ビ ジ ネ ス 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
組 織 経 済 学 特 論 A	講2	○			専任教授 博士(経済学) 三 上 真 寛	
組 織 経 済 学 特 論 B	講2		○		専任教授 博士(経済学) 三 上 真 寛	

(4)人事・労務系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 社 会 学 演 習 Ⅰ A (RC)	演2	○		○	専任教授 博士(文学) 山 下 充	
経 営 社 会 学 演 習 Ⅰ B (RC)	演2		○	○	専任教授 博士(文学) 山 下 充	
経 営 社 会 学 演 習 Ⅱ A (RC)	演2	—		—	専任教授 博士(文学) 山 下 充	2026年度開講せず
経 営 社 会 学 演 習 Ⅱ B (RC)	演2		—	—	専任教授 博士(文学) 山 下 充	2026年度開講せず
経 営 社 会 シ ス テ ム 論 演 習 Ⅰ A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 社 会 シ ス テ ム 論 演 習 Ⅰ B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 社 会 シ ス テ ム 論 演 習 Ⅱ A (RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 社 会 シ ス テ ム 論 演 習 Ⅱ B (RC)	演2		—	—		2026年度開講せず

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
企業内教育論演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	2026年度開講せず
企業内教育論演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	2026年度開講せず
企業内教育論演習ⅡA(RC)	演2	—		—	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	2026年度開講せず
企業内教育論演習ⅡB(RC)	演2		—	—	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	2026年度開講せず
経営労務演習ⅠA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
経営労務演習ⅠB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
経営労務演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
経営労務演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
労使関係演習ⅠA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
労使関係演習ⅠB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
労使関係演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
労使関係演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
経営心理学演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
経営心理学演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
経営心理学演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	
経営心理学演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	
経営社会学特論A	講2	○			専任教授 博士(文学) 山 下 充	
経営社会学特論B	講2		○		専任教授 博士(文学) 山 下 充	
経営社会システム特論A	講2	—				2026年度開講せず
経営社会システム特論B	講2		—			2026年度開講せず
能力開発特論A	講2	○		○	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	
能力開発特論B	講2		○	○	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	
経営労務特論A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
経営労務特論B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
労使関係特論A	講2	○		○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
労使関係特論B	講2		○	○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
経営心理学特論A	講2	○			専任教授 博士(学術) 中 西 晶	
経営心理学特論B	講2		○		専任教授 博士(学術) 中 西 晶	

(5)経営史系

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
経営史演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	2026年度開講せず
経営史演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	2026年度開講せず
経営史演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	
経営史演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	
日本経営史演習ⅠA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	
日本経営史演習ⅠB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	
日本経営史演習ⅡA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず
日本経営史演習ⅡB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず
経営史特論A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	
経営史特論B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	
日本経営史特論A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	
日本経営史特論B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	
国際経営史特論A	講2	○			兼任講師 博士(経済学) 湊 照 宏	
国際経営史特論B	講2		○		兼任講師 博士(経済学) 湊 照 宏	
産業史特論A	講2	○			兼任講師 博士(経済学) 河 村 徳 士	
産業史特論B	講2		○		兼任講師 博士(経済学) 河 村 徳 士	

(6)財務会計系

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
財務諸表論演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任教授 大倉 学	2026年度開講せず
財務諸表論演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任教授 大倉 学	2026年度開講せず
財務諸表論演習ⅡA(RC)	演2	—		—	専任教授 大倉 学	2026年度開講せず
財務諸表論演習ⅡB(RC)	演2		—	—	専任教授 大倉 学	2026年度開講せず
会計学原理演習ⅠA(RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
会計学原理演習ⅠB(RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
会計学原理演習ⅡA(RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
会計学原理演習ⅡB(RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
監査論演習ⅠA(RC)	演2	○		○	専任教授 小俣 光文	
監査論演習ⅠB(RC)	演2		○	○	専任教授 小俣 光文	
監査論演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 小俣 光文	
監査論演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 小俣 光文	
国際会計論演習ⅠA(RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
国際会計論演習ⅠB(RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
国際会計論演習ⅡA(RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
国際会計論演習ⅡB(RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
環境会計論演習ⅠA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律	
環境会計論演習ⅠB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律	
環境会計論演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律	
環境会計論演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律	
財務会計論演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵	2026年度開講せず
財務会計論演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵	2026年度開講せず
財務会計論演習ⅡA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵	2026年度開講せず
財務会計論演習ⅡB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵	2026年度開講せず
租税法演習ⅠA(RC)	演2	○		○	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳	
租税法演習ⅠB(RC)	演2		○	○	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳	
租税法演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳	
租税法演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳	
会計学原理特論A	講2	○			兼担教授 博士(経営学) 梅原 秀継	
会計学原理特論B	講2		○		兼担教授 博士(経営学) 梅原 秀継	
財務諸表特論A	講2	○			専任教授 大倉 学	
財務諸表特論B	講2		○		専任教授 大倉 学	
監査特論A	講2	○			専任教授 小俣 光文	
監査特論B	講2		○		専任教授 小俣 光文	
国際会計特論A	講2	—				2026年度開講せず
国際会計特論B	講2		—			2026年度開講せず
環境会計特論A	講2	○			専任教授 博士(学術) 千葉 貴律	
環境会計特論B	講2		○		専任教授 博士(学術) 千葉 貴律	
財務会計特論A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵	
財務会計特論B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵	
租税法特論A	講2	○			専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳	
租税法特論B	講2		○		専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳	

(7)管理会計系

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
原価計算論演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻	2026年度開講せず
原価計算論演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻	2026年度開講せず
原価計算論演習ⅡA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻	2026年度開講せず
原価計算論演習ⅡB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻	2026年度開講せず

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
経営分析論演習ⅠA(RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経営分析論演習ⅠB(RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経営分析論演習ⅡA(RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経営分析論演習ⅡB(RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
管理会計論演習ⅠA(RC)	演2	○		○	専任教授 大槻晴海	
管理会計論演習ⅠB(RC)	演2		○	○	専任教授 大槻晴海	
管理会計論演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 大槻晴海	
管理会計論演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 大槻晴海	
予算管理論演習ⅠA(RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
予算管理論演習ⅠB(RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
予算管理論演習ⅡA(RC)	演2	—		—		2026年度開講せず
予算管理論演習ⅡB(RC)	演2		—	—		2026年度開講せず
原価計算特論A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 長野史麻	
原価計算特論B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 長野史麻	
予算管理特論A	講2	—				2026年度開講せず
予算管理特論B	講2		—			2026年度開講せず
原価管理特論A	講2	—				2026年度開講せず
原価管理特論B	講2		—			2026年度開講せず
経営分析特論A	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 青淵正幸	
経営分析特論B	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 青淵正幸	
管理会計特論A	講2	○			専任教授 大槻晴海	
管理会計特論B	講2		○		専任教授 大槻晴海	

(8) 公共経営系

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
非営利組織論演習ⅠA(RC)	演2	○		○	専任教授 塚本一郎	
非営利組織論演習ⅠB(RC)	演2		○	○	専任教授 塚本一郎	
非営利組織論演習ⅡA(RC)	演2	—		—	専任教授 塚本一郎	2026年度開講せず
非営利組織論演習ⅡB(RC)	演2		—	—	専任教授 塚本一郎	2026年度開講せず
環境マネジメント演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経済学) 松野裕	2026年度開講せず
環境マネジメント演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経済学) 松野裕	2026年度開講せず
環境マネジメント演習ⅡA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(経済学) 松野裕	2026年度開講せず
環境マネジメント演習ⅡB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(経済学) 松野裕	2026年度開講せず
行政経営論演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(政治学) 菊地端夫	2026年度開講せず
行政経営論演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(政治学) 菊地端夫	2026年度開講せず
行政経営論演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(政治学) 菊地端夫	
行政経営論演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(政治学) 菊地端夫	
社会的金融論演習ⅠA(RC)	演2	—		—	専任教授 博士(社会学) 小関隆志	2026年度開講せず
社会的金融論演習ⅠB(RC)	演2		—	—	専任教授 博士(社会学) 小関隆志	2026年度開講せず
社会的金融論演習ⅡA(RC)	演2	○		○	専任教授 博士(社会学) 小関隆志	
社会的金融論演習ⅡB(RC)	演2		○	○	専任教授 博士(社会学) 小関隆志	
非営利組織論特論A	講2	○			専任教授 塚本一郎	
非営利組織論特論B	講2		○		専任教授 塚本一郎	
行政経営特論A	講2	○			専任教授 博士(政治学) 菊地端夫	
行政経営特論B	講2		○		専任教授 博士(政治学) 菊地端夫	
環境マネジメント特論A	講2	○			専任教授 博士(経済学) 松野裕	
環境マネジメント特論B	講2		○		専任教授 博士(経済学) 松野裕	
社会的金融特論A	講2	○			専任教授 博士(社会学) 小関隆志	
社会的金融特論B	講2		○		専任教授 博士(社会学) 小関隆志	

(9) グローバルコース系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
Transnational Management I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Transnational Management I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Transnational Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Transnational Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Corporate Finance I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Corporate Finance I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Corporate Finance II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Corporate Finance II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Global Business I A[M]	演2	—		—	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	2026年度開講せず
Global Business I B[M]	演2		—	—	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	2026年度開講せず
Global Business II A[M]	演2	○		○	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
Global Business II B[M]	演2		○	○	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
Organizational Behavior I A[M]	演2	—		—	特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	2026年度開講せず
Organizational Behavior I B[M]	演2		—	—	特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	2026年度開講せず
Organizational Behavior II A[M]	演2	○		○	特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Organizational Behavior II B[M]	演2		○	○	特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Marketing Management I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Marketing Management I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Marketing Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Marketing Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Strategic Management I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Strategic Management I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Strategic Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Strategic Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Human Resource Management I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Human Resource Management I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Human Resource Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Human Resource Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting I A[M]	演2	—		—	兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting I B[M]	演2		—	—	兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting II A[M]	演2	—		—	兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting II B[M]	演2		—	—	兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	2026年度開講せず
Accounting and Finance I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Accounting and Finance I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Accounting and Finance II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Accounting and Finance II B	演2		—	—		2026年度開講せず
International Marketing I A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	2026年度開講せず
International Marketing I B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	2026年度開講せず
International Marketing II A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	2026年度開講せず
International Marketing II B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	2026年度開講せず
Information Ethics I A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	2026年度開講せず
Information Ethics I B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	2026年度開講せず
Information Ethics II A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	2026年度開講せず
Information Ethics II B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	2026年度開講せず
Advanced Management Accounting I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Advanced Management Accounting I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Advanced Management Accounting II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Advanced Management Accounting II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Organizational Psychology I A[M]	演2	—		—		2026年度開講せず
Organizational Psychology I B[M]	演2		—	—		2026年度開講せず

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
Organizational Psychology II A[M]	演2	—		—		2026年度開講せず
Organizational Psychology II B[M]	演2		—	—		2026年度開講せず
Management Control Systems I A[M]	演2	—		—		2026年度開講せず
Management Control Systems I B[M]	演2		—	—		2026年度開講せず
Management Control Systems II A[M]	演2	—		—		2026年度開講せず
Management Control Systems II B[M]	演2		—	—		2026年度開講せず
Public Management I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Public Management I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Public Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Public Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Business Management and Organization I A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization I B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization II A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization II B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization I A[M]	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization I B[M]	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization II A[M]	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization II B[M]	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Transnational Management A	講2	○			専任准教授 博士(人類学) 鷺 見 淳	
Transnational Management B	講2		○		専任准教授 博士(人類学) 鷺 見 淳	
Family Business A[M]	講2	—			兼任教授 Ph.D. 許 佑 旭	2026年度開講せず
Family Business B[M]	講2	○			兼任教授 Ph.D. 許 佑 旭	
Corporate Finance A[M]	講2	—				2026年度開講せず
Corporate Finance B[M]	講2		—			2026年度開講せず
Investments A	講2	—				2026年度開講せず
Investments B	講2		—			2026年度開講せず
Global Business A[M]	講2	○			特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
Global Business B[M]	講2		—		特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	2026年度開講せず
Organizational Behavior A[M]	講2	○			特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Organizational Behavior B[M]	講2		—		特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	2026年度開講せず
Marketing Management A	講2	—				2026年度開講せず
Marketing Management B	講2		—			2026年度開講せず
Strategic Management A[M]	講2	○			特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Strategic Management B[M]	講2		○		特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Human Resource Management A[M]	講2		○		兼任教授 Ph.D. 許 佑 旭	
Human Resource Management B[M]	講2		—		兼任教授 Ph.D. 許 佑 旭	2026年度開講せず
Environmental Accounting A	講2	—				2026年度開講せず
Environmental Accounting B	講2		—			2026年度開講せず
Accounting and Finance 1A	講2	—				2026年度開講せず
Accounting and Finance 1B	講2		—			2026年度開講せず
Accounting and Finance 2A	講2	—				2026年度開講せず
Accounting and Finance 2B	講2		—			2026年度開講せず
Cost Accounting A	講2	—				2026年度開講せず
Cost Accounting B	講2		—			2026年度開講せず
International Marketing A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	
International Marketing B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	
Service Marketing A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	
Service Marketing B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	
Information Ethics A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Information Ethics B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
Public Management A	講2	—				2026年度開講せず
Public Management B	講2		—			2026年度開講せず
Information Science A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Information Science B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
The Future of E Business A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
The Future of E Business B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Advanced Management Accounting A[M]	講2	—				2026年度開講せず
Advanced Management Accounting B[M]	講2		—			2026年度開講せず
Organizational Communication A	講2	—				2026年度開講せず
Organizational Communication B	講2		—			2026年度開講せず
Organizational Psychology A[M]	講2	—			兼任講師 Ph.D. 金 素 延	2026年度開講せず
Organizational Psychology B[M]	講2		—		兼任講師 Ph.D. 金 素 延	2026年度開講せず
Business Management and Organization 1A	講2	○			兼任講師 博士(行政学) 中 村 虎 彰	
Business Management and Organization 1B	講2		○		兼任講師 博士(行政学) 中 村 虎 彰	
Business Management and Organization 1B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS	秋学期集中講義
Business Management and Organization 1A	講2	—			専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization 1B	講2		—		専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization 2A[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS	秋学期集中講義
Business Management and Organization 2B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS	秋学期集中講義
Business Management and Organization 2A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	
Business Management and Organization 2B[M]	講2		—		兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization 3A	講2	—	—			2026年度開講せず
Business Management and Organization 3B	講2	○	○		兼任講師 小田切 尚 登	春・秋同内容
Business Management and Organization 4A	講2	—	—			2026年度開講せず
Business Management and Organization 5A	講2		○		兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE	秋学期集中講義
Business Management and Organization 5B	講2		○		兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE	秋学期集中講義
Business Management and Organization 6A	講2		○		兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE	秋学期集中講義
Business Management and Organization 6B	講2		○		兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE	秋学期集中講義
E Commerce A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
E Commerce B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Management Control Systems A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	
Management Control Systems B[M]	講2		—		兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Management Control Systems A[M]	講2	—				2026年度開講せず
Management Control Systems B[M]	講2		—			2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting A[M]	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	
Advanced Financial Accounting B[M]	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	
Financial Statement Analysis A[M]	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	
Financial Statement Analysis B[M]	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	
International Business Study 1A	講2	○				
International Business Study 1B	講2		○			
International Business Study 2A	講2	○				
International Business Study 2B	講2		○			
International Business Study 3A	講2	○				
International Business Study 3B	講2		○			
Fundamentals of Finance	講2		○		兼担教授 Ph.D. ビントドサントスジョゼミゲル	
Fundamentals of Management[M]	講2	○			兼担教授 Ph.D. 許 佑 旭	
Fundamentals of Accounting	講2	○			兼担教授 博士(経営学) 姚 俊	
Fundamentals of Marketing[M]	講2	○			兼担教授 博士(工学) 鳥 山 正 博	
Global Business Studies	講2	○	○		兼担教授 Ph.D. ビントドサントスジョゼミゲル	
Global Business Studies	講2	○	○		兼担教授 Ph.D. 沼 田 優 子	

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
Strategy for CFO and M&A Accounting	講2		○		客員教授 大久保 昭 平	
Business Analysis (Seminar)	講2		○		兼任講師 博士(商学) 許 英 姿	

(10) 外国語及び基礎経営・会計研究

①外国文献研究

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
英 語 経 営 文 献 研 究 A	文2	○			兼任講師 松 本 和 明	
英 語 経 営 文 献 研 究 B	文2		○		兼任講師 松 本 和 明	
英 語 経 営 文 献 研 究 A	文2	○			兼任講師 博士(経営学) 唐 澤 龍 也	
英 語 経 営 文 献 研 究 B	文2		○		兼任講師 博士(経営学) 唐 澤 龍 也	
英 語 会 計 文 献 研 究 A	文2	○			兼任講師 博士(経営学) 建 部 宏 明	
英 語 会 計 文 献 研 究 B	文2		○		兼任講師 博士(経営学) 建 部 宏 明	
英 語 会 計 文 献 研 究 A	文2	○			兼任講師 博士(経営学) 蔣 飛 鴻	
英 語 会 計 文 献 研 究 B	文2		○		兼任講師 博士(経営学) 蔣 飛 鴻	
ド イ ツ 語 経 営 文 献 研 究 A	文2	○			専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	
ド イ ツ 語 経 営 文 献 研 究 B	文2		○		専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	
ド イ ツ 語 会 計 文 献 研 究 A	文2	○			兼担教授 博士(商学) 千 葉 修 身	
ド イ ツ 語 会 計 文 献 研 究 B	文2		○		兼担教授 博士(商学) 千 葉 修 身	
フ ラ ン ス 語 経 営 文 献 研 究 A	文2	—				2026年度開講せず
フ ラ ン ス 語 経 営 文 献 研 究 B	文2		—			2026年度開講せず
ロ シ ア 語 経 営 文 献 研 究 A	文2	—				2026年度開講せず
ロ シ ア 語 経 営 文 献 研 究 B	文2		—			2026年度開講せず
中 国 語 経 営 文 献 研 究 A	文2	○			専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
中 国 語 経 営 文 献 研 究 B	文2		○		専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
日 本 語 経 営 文 献 研 究 A	文2	○			専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	
日 本 語 経 営 文 献 研 究 B	文2		○		専任教授 博士(商学) 清 水 一 之	
日 本 語 会 計 文 献 研 究 A	文2	—			専任教授 大 槻 晴 海	2026年度開講せず
日 本 語 会 計 文 献 研 究 B	文2		—		専任教授 大 槻 晴 海	2026年度開講せず

②コミュニケーション研究

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
アカデミック・プレゼンテーション研究A〔M〕	講2	○			特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
アカデミック・プレゼンテーション研究B〔M〕	講2		○		特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
アカデミック・プレゼンテーション研究A	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
アカデミック・プレゼンテーション研究B	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	

③経営学研究方法

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 学 研 究 方 法 特 論 A	講2	○			特任教授 経済学博士 新 宅 純 二 郎	
経 営 学 研 究 方 法 特 論 B	講2		○		特任教授 経済学博士 新 宅 純 二 郎	
経 営 学 研 究 方 法 特 論 A〔M〕	講2	○			特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
経 営 学 研 究 方 法 特 論 B〔M〕	講2		○		特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
経 営 学 研 究 方 法 特 論 A〔M〕	講2	—				2026年度開講せず
経 営 学 研 究 方 法 特 論 B〔M〕	講2		—			2026年度開講せず
経 営 学 研 究 方 法 特 論 A	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 児 玉 麻 衣 子	
経 営 学 研 究 方 法 特 論 B	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 児 玉 麻 衣 子	

授業科目及び担当者

マネジメントコース

(1)経営理論・管理系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 学 史 演 習 I A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 学 史 演 習 I B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 学 史 演 習 II A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 学 史 演 習 II B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 哲 学 演 習 I A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 哲 学 演 習 I B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 哲 学 演 習 II A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 哲 学 演 習 II B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
財 務 管 理 演 習 I A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
財 務 管 理 演 習 I B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
財 務 管 理 演 習 II A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
財 務 管 理 演 習 II B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
国 際 経 営 演 習 I A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
国 際 経 営 演 習 I B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
国 際 経 営 演 習 II A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
国 際 経 営 演 習 II B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 組 織 演 習 I A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 組 織 演 習 I B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 組 織 演 習 II A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 組 織 演 習 II B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
企 業 行 動 論 演 習 I A (MC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 行 動 論 演 習 I B (MC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 行 動 論 演 習 II A (MC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 行 動 論 演 習 II B (MC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
戦 略 マ ネ ジ メ ン ト 演 習 I A (MC)	演2	○		○	専任教授 歌 代 豊	
戦 略 マ ネ ジ メ ン ト 演 習 I B (MC)	演2		○	○	専任教授 歌 代 豊	
戦 略 マ ネ ジ メ ン ト 演 習 II A (MC)	演2	○		○	専任教授 歌 代 豊	
戦 略 マ ネ ジ メ ン ト 演 習 II B (MC)	演2		○	○	専任教授 歌 代 豊	
比 較 経 営 学 特 論	講2	—				2026年度開講せず
ビ ジ ネ ス マ ネ ジ メ ン ト 特 論	講2		—			2026年度開講せず
経 営 倫 理 特 論 A	講2	○			兼任講師 博士(学術) 木 全 晃	
経 営 倫 理 特 論 B	講2		○		兼任講師 博士(学術) 木 全 晃	
オーガニゼーション・スタディ特論A	講2	○			兼任講師 黒 澤 壮 史	
オーガニゼーション・スタディ特論B	講2		○		兼任講師 黒 澤 壮 史	
企 業 行 動 方 法 特 論	講2	○			専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 行 動 測 定 特 論	講2		○		専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
ファイナンス戦略事例研究特論	講2	—				2026年度開講せず
財 務 管 理 事 例 研 究 特 論	講2		—			2026年度開講せず
マ ー ケ テ ィ ン グ 戦 略 特 論	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 川 端 庸 子	秋学期開講
マ ー ケ テ ィ ン グ 事 例 研 究 特 論	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 川 端 庸 子	
戦 略 マ ネ ジ メ ン ト 特 論 A	講2	○			専任教授 歌 代 豊	
戦 略 マ ネ ジ メ ン ト 特 論 B	講2		○		専任教授 歌 代 豊	
マーケティングコミュニケーション特論A	講2	—				2026年度開講せず
マーケティングコミュニケーション特論B	講2		—			2026年度開講せず
生 産 管 理 特 論 A	講2	○			特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
生 産 管 理 特 論 B	講2		○		特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
競 争 戦 略 特 論 A	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 文 智 彦	
競 争 戦 略 特 論 B	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 文 智 彦	
消 費 者 行 動 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
消 費 者 行 動 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず

(2)企業論系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
ロシア東欧企業演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
ロシア東欧企業演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
ロシア東欧企業演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
ロシア東欧企業演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
日 本 経 営 論 演 習 Ⅰ A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
日 本 経 営 論 演 習 Ⅰ B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
日 本 経 営 論 演 習 Ⅱ A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
日 本 経 営 論 演 習 Ⅱ B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
中小企業経営論演習ⅠA (MC)	演2	—		—	専任教授 岡 田 浩 一	2026年度開講せず
中小企業経営論演習ⅠB (MC)	演2		—	—	専任教授 岡 田 浩 一	2026年度開講せず
中小企業経営論演習ⅡA (MC)	演2	○		○	専任教授 岡 田 浩 一	
中小企業経営論演習ⅡB (MC)	演2		○	○	専任教授 岡 田 浩 一	
東アジア企業論演習ⅠA (MC)	演2	—		—	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	2026年度開講せず
東アジア企業論演習ⅠB (MC)	演2		—	—	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	2026年度開講せず
東アジア企業論演習ⅡA (MC)	演2	○		○	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
東アジア企業論演習ⅡB (MC)	演2		○	○	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
日 本 企 業 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
日 本 企 業 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
ロシア東欧企業特論A	講2	—				2026年度開講せず
ロシア東欧企業特論B	講2		—			2026年度開講せず
中国企業事例研究特論A	講2	○			専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
中国企業事例研究特論B	講2		○		専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
中 小 企 業 経 営 特 論 A	講2	○			専任教授 岡 田 浩 一	
中 小 企 業 経 営 特 論 B	講2		○		専任教授 岡 田 浩 一	
ファミリー・ビジネス特論A	講2	—				2026年度開講せず
ファミリー・ビジネス特論B	講2		—			2026年度開講せず

(3)経営科学系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
リスク・マネジメント演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
リスク・マネジメント演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
リスク・マネジメント演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
リスク・マネジメント演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経営統計学演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経営統計学演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経営統計学演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経営統計学演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
ビジネス・スタティスティクス特論A	講2	—				2026年度開講せず
ビジネス・スタティスティクス特論B	講2		—			2026年度開講せず
ゲ ー ム 理 論 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
ゲ ー ム 理 論 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず

(4)人事・労務系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 社 会 学 演 習 I A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 社 会 学 演 習 I B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 社 会 学 演 習 II A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 社 会 学 演 習 II B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
企 業 内 教 育 論 演 習 I A (MC)	演2	○		○	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	
企 業 内 教 育 論 演 習 I B (MC)	演2		○	○	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	
企 業 内 教 育 論 演 習 II A (MC)	演2	○		○	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	
企 業 内 教 育 論 演 習 II B (MC)	演2		○	○	専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	
経 営 労 務 演 習 I A (MC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
経 営 労 務 演 習 I B (MC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
経 営 労 務 演 習 II A (MC)	演2	○		○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
経 営 労 務 演 習 II B (MC)	演2		○	○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
人 的 資 源 管 理 演 習 I A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
人 的 資 源 管 理 演 習 I B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
人 的 資 源 管 理 演 習 II A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
人 的 資 源 管 理 演 習 II B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
労 使 関 係 演 習 I A (MC)	演2	○		○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
労 使 関 係 演 習 I B (MC)	演2		○	○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
労 使 関 係 演 習 II A (MC)	演2	○		○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
労 使 関 係 演 習 II B (MC)	演2		○	○	専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
経 営 心 理 学 演 習 I A (MC)	演2	—		—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
経 営 心 理 学 演 習 I B (MC)	演2		—	—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
経 営 心 理 学 演 習 II A (MC)	演2	—		—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
経 営 心 理 学 演 習 II B (MC)	演2		—	—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
労 務 管 理 特 論 A	講2	○			専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
労 務 管 理 特 論 B	講2		○		専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
人 的 資 源 管 理 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
人 的 資 源 管 理 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
労 働 経 済 特 論	講2	○			専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
賃 金 管 理 特 論	講2		○		専任教授 博士(経済学) 石 塚 史 樹	
人 材 育 成 特 論	講2	○			専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	
人 的 資 源 開 発 特 論	講2		○		専任准教授 博士(経営学) 早 川 佐知子	
産 業・組 織 心 理 学 特 論	講2	—			専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
ナレッジ・マネジメント 特 論	講2		—		専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
労 働 関 係 法 特 論 A	講2	—				2026年度開講せず
労 働 関 係 法 特 論 B	講2		—			2026年度開講せず
労 務 監 査 特 論	講2		—		兼任講師 博士(経営学) 田 村 豊	2026年度開講せず
社 会 保 障 特 論	講2	—				2026年度開講せず
A D R 論 A	講2	○			兼任講師 内 藤 忍	
A D R 論 B	講2		○		兼任講師 内 藤 忍	

(5)経営史系

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 史 演 習 I A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 史 演 習 I B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経 営 史 演 習 II A (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経 営 史 演 習 II B (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
日 本 経 営 史 演 習 I A (MC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず
日 本 経 営 史 演 習 I B (MC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
日本経営史演習ⅡA (MC)	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず
日本経営史演習ⅡB (MC)	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず
企業家活動特論	講2	○			兼任講師 松本和明	
企業戦略特論	講2		○		兼任講師 松本和明	
日本企業発展特論	講2	○			専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	
日本企業者史特論	講2	—			専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず

(6)財務会計系

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
会計学原理演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
会計学原理演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
会計学原理演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
会計学原理演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
監査論演習ⅠA (MC)	演2	—		—	専任教授 小俣光文	2026年度開講せず
監査論演習ⅠB (MC)	演2		—	—	専任教授 小俣光文	2026年度開講せず
監査論演習ⅡA (MC)	演2	—		—	専任教授 小俣光文	2026年度開講せず
監査論演習ⅡB (MC)	演2		—	—	専任教授 小俣光文	2026年度開講せず
国際会計論演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
国際会計論演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
国際会計論演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
国際会計論演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
財務諸表論演習ⅠA (MC)	演2	○		○	専任教授 大倉 学	
財務諸表論演習ⅠB (MC)	演2		○	○	専任教授 大倉 学	
財務諸表論演習ⅡA (MC)	演2	—		—	専任教授 大倉 学	2026年度開講せず
財務諸表論演習ⅡB (MC)	演2		—	—	専任教授 大倉 学	2026年度開講せず
企業会計特論 A	講2	—				2026年度開講せず
企業会計特論 B	講2		—			2026年度開講せず
監査基礎特論	講2	○			専任教授 小俣光文	
監査応用特論	講2		○		専任教授 小俣光文	
税務会計特論 A	講2	—				2026年度開講せず
税務会計特論 B	講2		—			2026年度開講せず
国際会計実務特論 A	講2	—				2026年度開講せず
国際会計実務特論 B	講2		—			2026年度開講せず
債券格付特論 A	講2	○			兼任講師 乾 智里	
債券格付特論 B	講2		○		兼任講師 乾 智里	
制度会計特論 A	講2	○			専任教授 大倉 学	
制度会計特論 B	講2		○		専任教授 大倉 学	

(7)管理会計系

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
経営分析論演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経営分析論演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経営分析論演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
経営分析論演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
管理会計論演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
管理会計論演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
管理会計論演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
管理会計論演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
予算管理論演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
予算管理論演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
予算管理論演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
予算管理論演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
経営原価計算特論A	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 建 部 宏 明	
経営原価計算特論B	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 建 部 宏 明	
企業予算特論A	講2	—				2026年度開講せず
企業予算特論B	講2		—			2026年度開講せず
戦略的コストマネジメント特論	講2	—				2026年度開講せず
財務分析特論	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 青 淵 正 幸	

(8) 公共経営系

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
非営利組織経営論演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
非営利組織経営論演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
非営利組織経営論演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
非営利組織経営論演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
行政経営論演習ⅠA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
行政経営論演習ⅠB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
行政経営論演習ⅡA (MC)	演2	—		—		2026年度開講せず
行政経営論演習ⅡB (MC)	演2		—	—		2026年度開講せず
社会的金融論演習ⅠA (MC)	演2	—		—	専任教授 博士(社会学) 小 関 隆 志	2026年度開講せず
社会的金融論演習ⅠB (MC)	演2		—	—	専任教授 博士(社会学) 小 関 隆 志	2026年度開講せず
社会的金融論演習ⅡA (MC)	演2	—		—	専任教授 博士(社会学) 小 関 隆 志	2026年度開講せず
社会的金融論演習ⅡB (MC)	演2		—	—	専任教授 博士(社会学) 小 関 隆 志	2026年度開講せず
公共サービスマネジメント特論A	講2	—				2026年度開講せず
公共サービスマネジメント特論B	講2		—			2026年度開講せず
行政組織特論A	講2	—				2026年度開講せず
行政組織特論B	講2		—			2026年度開講せず
ソーシャル・ファイナンス特論A	講2	○			専任教授 博士(社会学) 小 関 隆 志	
ソーシャル・ファイナンス特論B	講2		○		専任教授 博士(社会学) 小 関 隆 志	

(9) グローバルコース系

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
Transnational Management ⅠA	演2	—		—		2026年度開講せず
Transnational Management ⅠB	演2		—	—		2026年度開講せず
Transnational Management ⅡA	演2	—		—		2026年度開講せず
Transnational Management ⅡB	演2		—	—		2026年度開講せず
Corporate Finance ⅠA	演2	—		—		2026年度開講せず
Corporate Finance ⅠB	演2		—	—		2026年度開講せず
Corporate Finance ⅡA	演2	—		—		2026年度開講せず
Corporate Finance ⅡB	演2		—	—		2026年度開講せず
Global Business ⅠA[M]	演2	—		—	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	2026年度開講せず
Global Business ⅠB[M]	演2		—	—	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	2026年度開講せず
Global Business ⅡA[M]	演2	○		○	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
Global Business ⅡB[M]	演2		○	○	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
Organizational Behavior ⅠA[M]	演2	○		○	特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Organizational Behavior ⅠB[M]	演2		○	○	特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Organizational Behavior ⅡA[M]	演2	○		○	特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Organizational Behavior ⅡB[M]	演2		○	○	特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Marketing Management ⅠA	演2	—		—		2026年度開講せず
Marketing Management ⅠB	演2		—	—		2026年度開講せず

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
Marketing Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Marketing Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Strategic Management I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Strategic Management I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Strategic Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Strategic Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Human Resource Management I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Human Resource Management I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Human Resource Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Human Resource Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting I A[M]	演2	—		—	兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting I B[M]	演2		—	—	兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting II A[M]	演2	—		—	兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting II B[M]	演2		—	—	兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	2026年度開講せず
Accounting and Finance I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Accounting and Finance I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Accounting and Finance II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Accounting and Finance II B	演2		—	—		2026年度開講せず
International Marketing I A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	2026年度開講せず
International Marketing I B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	2026年度開講せず
International Marketing II A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	2026年度開講せず
International Marketing II B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	2026年度開講せず
Information Ethics I A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	2026年度開講せず
Information Ethics I B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	2026年度開講せず
Information Ethics II A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	2026年度開講せず
Information Ethics II B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	2026年度開講せず
Advanced Management Accounting I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Advanced Management Accounting I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Advanced Management Accounting II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Advanced Management Accounting II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Organizational Psychology I A[M]	演2	—		—		2026年度開講せず
Organizational Psychology I B[M]	演2		—	—		2026年度開講せず
Organizational Psychology II A[M]	演2	—		—		2026年度開講せず
Organizational Psychology II B[M]	演2		—	—		2026年度開講せず
Management Control Systems I A[M]	演2	—		—		2026年度開講せず
Management Control Systems I B[M]	演2		—	—		2026年度開講せず
Management Control Systems II A[M]	演2	—		—		2026年度開講せず
Management Control Systems II B[M]	演2		—	—		2026年度開講せず
Public Management I A	演2	—		—		2026年度開講せず
Public Management I B	演2		—	—		2026年度開講せず
Public Management II A	演2	—		—		2026年度開講せず
Public Management II B	演2		—	—		2026年度開講せず
Business Management and Organization I A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization I B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization II A[M]	演2	—		—	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization II B[M]	演2		—	—	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization I A[M]	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization I B[M]	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization II A[M]	演2	—		—	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization II B[M]	演2		—	—	専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
Transnational Management A	講2	○			専任准教授 博士(人類学) 鷺 見 淳	
Transnational Management B	講2		○		専任准教授 博士(人類学) 鷺 見 淳	
Family Business A[M]	講2	—			兼任教授 Ph.D. 許 佑 旭	2026年度開講せず
Family Business B[M]	講2	○			兼任教授 Ph.D. 許 佑 旭	
Corporate Finance A[M]	講2	—				2026年度開講せず
Corporate Finance B[M]	講2		—			2026年度開講せず
Investments A	講2	—				2026年度開講せず
Investments B	講2		—			2026年度開講せず
Global Business A[M]	講2	○			特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	
Global Business B[M]	講2		○		特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd	秋学期集中講義
Organizational Behavior A[M]	講2	○			特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Organizational Behavior B[M]	講2		○		特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	秋学期集中講義
Marketing Management A	講2	—				2026年度開講せず
Marketing Management B	講2		—			2026年度開講せず
Strategic Management A[M]	講2	○			特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Strategic Management B[M]	講2		○		特任教授 博士(経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN	
Human Resource Management A[M]	講2		○		兼任教授 Ph.D. 許 佑 旭	
Human Resource Management B[M]	講2		—		兼任教授 Ph.D. 許 佑 旭	2026年度開講せず
Environmental Accounting A	講2	—				2026年度開講せず
Environmental Accounting B	講2		—			2026年度開講せず
Accounting and Finance 1A	講2	—				2026年度開講せず
Accounting and Finance 1B	講2		—			2026年度開講せず
Accounting and Finance 2A	講2	—				2026年度開講せず
Accounting and Finance 2B	講2		—			2026年度開講せず
Cost Accounting A	講2	—				2026年度開講せず
Cost Accounting B	講2		—			2026年度開講せず
International Marketing A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	
International Marketing B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	
Service Marketing A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	
Service Marketing B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵	
Information Ethics A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Information Ethics B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Public Management A	講2	—				2026年度開講せず
Public Management B	講2		—			2026年度開講せず
Information Science A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Information Science B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
The Future of E Business A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
The Future of E Business B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Advanced Management Accounting A[M]	講2	—				2026年度開講せず
Advanced Management Accounting B[M]	講2		—			2026年度開講せず
Organizational Communication A	講2	—				2026年度開講せず
Organizational Communication B	講2		—			2026年度開講せず
Organizational Psychology A[M]	講2	—			兼任講師 Ph.D. 金 素 延	2026年度開講せず
Organizational Psychology B[M]	講2		—		兼任講師 Ph.D. 金 素 延	2026年度開講せず
Business Management and Organization 1A	講2	○			兼任講師 博士(行政学) 中 村 虎 彰	
Business Management and Organization 1B	講2		○		兼任講師 博士(行政学) 中 村 虎 彰	
Business Management and Organization 1B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS	秋学期集中講義
Business Management and Organization 1A	講2	—			専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization 1B	講2		—		専任教授 博士(経営学) 青 木 克 生	2026年度開講せず
Business Management and Organization 2A[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS	秋学期集中講義

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
Business Management and Organization 2B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS	秋学期集中講義
Business Management and Organization 2A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	
Business Management and Organization 2B[M]	講2		—		兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Business Management and Organization 3A	講2	—	—			2026年度開講せず
Business Management and Organization 3B	講2	○	○		兼任講師 小田切 尚 登	春・秋同内容
Business Management and Organization 4A	講2	—	—			2026年度開講せず
Business Management and Organization 5A	講2		○		兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE	秋学期集中講義
Business Management and Organization 5B	講2		○		兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE	秋学期集中講義
Business Management and Organization 6A	講2		○		兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE	秋学期集中講義
Business Management and Organization 6B	講2		○		兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE	秋学期集中講義
E Commerce A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
E Commerce B[M]	講2		○		兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS	
Management Control Systems A[M]	講2	○			兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	
Management Control Systems B[M]	講2		—		兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI	2026年度開講せず
Management Control Systems A[M]	講2	—				2026年度開講せず
Management Control Systems B[M]	講2		—			2026年度開講せず
Advanced Financial Accounting A[M]	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	
Advanced Financial Accounting B[M]	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	
Financial Statement Analysis A[M]	講2	○			兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	
Financial Statement Analysis B[M]	講2		○		兼任講師 博士(経営学) 中 島 真 澄	
International Business Study 1A	講2	○				
International Business Study 1B	講2		○			
International Business Study 2A	講2	○				
International Business Study 2B	講2		○			
International Business Study 3A	講2	○				
International Business Study 3B	講2		○			
Fundamentals of Finance	講2		○		兼担教授 Ph.D. ビントスサントスジョゼミゲル	
Fundamentals of Management[M]	講2	○			兼担教授 Ph.D. 許 佑 旭	
Fundamentals of Accounting	講2	○			兼担教授 博士(経営学) 姚 俊	
Fundamentals of Marketing[M]	講2	○			兼担教授 博士(工学) 鳥 山 正 博	
Global Business Studies	講2	○	○		兼担教授 Ph.D. ビントスサントスジョゼミゲル	
Global Business Studies	講2	○	○		兼担教授 Ph.D. 沼 田 優 子	
Strategy for CFO and M&A Accounting	講2		○		客員教授 大久保 昭 平	
Business Analysis (Seminar)	講2		○		兼任講師 博士(商学) 許 英 姿	

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN522J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営戦略演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		歌代 豊

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略に関する研究を進めようとする大学院生を対象に、研究方法論を学ぶとともに、経営戦略に関する今日的テーマの先行研究レビューを行う。また、これらを踏まえ、研究テーマの設定および研究アプローチの検討を行う。

授業内容

研究方法論、リサーチデザインに関する入門書を題材に、輪読および討議を行う。

- 1 経営学研究入門
- 2 リサーチデザイン
- 3 先行研究レビュー
- 4 調査方法(2次データの収集)
- 5 調査方法(1次データの収集)
- 6 データ分析の概要
- 7 相関分析と重回帰分析
- 8 因子分析
- 9 共分散構造分析
- 10 ケース研究法
- 11 研究アプローチの分析(ぬるま湯体質研究)
- 12 研究アプローチの分析(Product Development Performance)
- 13 研究アプローチの分析(日本企業の競争戦略)
- 14 研究アプローチの分析(消費者行動のメカニズム)

履修上の注意

授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表、討議の準備を行うこと。

教科書

藤本隆宏他(2005)『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ。

参考書

・ロバート・K.イン(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房。
・その他授業の中で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度(40%)、授業での貢献(20%)、および研究報告レポート(40%)を総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN522J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営戦略演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		歌代 豊

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略に関する研究を進めようとする大学院生を対象に、研究方法論を学ぶとともに、経営戦略に関する今日的テーマの先行研究レビューを行う。また、これらを踏まえ、研究テーマの設定および研究アプローチの検討を行う。

授業内容

研究方法論、リサーチデザインに関する入門書を題材に、輪読および討議を行う。

- 1 ガイダンス
- 2 関心領域に関する発表・討議
- 3 関心領域に関する動向調査
- 4 関心領域のまとめと決定
- 5 関心領域に関する先行研究レビュー(嚆矢研究)
- 6 関心領域に関する先行研究レビュー(先端研究)
- 7 先行研究レビューのまとめ
- 8 研究課題に関する発表・討議
- 9 研究フレームワークに関する発表・討議
- 10 研究仮説に関する発表・討議
- 11 研究仮説の精緻化と討議
- 12 研究課題/フレームワーク/仮説のまとめ
- 13 調査計画に関する発表・討議
- 14 分析手法に関する発表・討議

履修上の注意

授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表、討議の準備を行うこと。

教科書

藤本隆宏他(2005)『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ。

参考書

・ロバート・K.イン(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房。
・その他授業の中で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度(40%)、授業での貢献(20%)、および研究報告レポート(40%)を総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN622J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営戦略演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		歌代 豊

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略に関する研究を進めようとする大学院生を対象に、研究方法論を学ぶとともに、経営戦略に関する今日的テーマの先行研究レビューを行う。また、これらを踏まえ、研究テーマの設定および研究アプローチの検討を行う。

授業内容

研究方法論，リサーチデザインに関する入門書を題材に、輪読および討議を行う。

- 1 経営学研究入門
- 2 リサーチデザイン
- 3 先行研究レビュー
- 4 調査方法(2次データの収集)
- 5 調査方法(1次データの収集)
- 6 データ分析の概要
- 7 相関分析と重回帰分析
- 8 因子分析
- 9 共分散構造分析
- 10 ケース研究法
- 11 研究アプローチの分析(多角化研究)
- 12 研究アプローチの分析(ユーザ・イノベーション研究)
- 13 研究アプローチの分析(組織学習研究)
- 14 研究アプローチの分析(ダイナミック・ケイパビリティ研究)

履修上の注意

授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表、討議の準備を行うこと。

教科書

藤本隆宏他(2005)『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ。

参考書

・ロバート・K.イン(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房。
・その他授業の中で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度(40%)、授業での貢献(20%)、および研究報告レポート(40%)を総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN622J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営戦略演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		歌代 豊

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略に関する研究を進めようとする大学院生を対象に、研究方法論を学ぶとともに、経営戦略に関する今日的テーマの先行研究レビューを行う。また、これらを踏まえ、研究テーマの設定および研究アプローチの検討を行う。

授業内容

研究方法論，リサーチデザインに関する入門書を題材に、輪読および討議を行う。

- 1 ガイダンス
- 2 関心領域に関する発表・討議
- 3 関心領域に関する動向調査
- 4 関心領域のまとめと決定
- 5 関心領域に関する先行研究レビュー(嚆矢研究)
- 6 関心領域に関する先行研究レビュー(先端研究)
- 7 先行研究レビューのまとめ
- 8 研究課題に関する発表・討議
- 9 研究フレームワークに関する発表・討議
- 10 研究仮説に関する発表・討議
- 11 研究仮説の精緻化と討議
- 12 研究課題/フレームワーク/仮説のまとめ
- 13 調査計画に関する発表・討議
- 14 分析手法に関する発表・討議

履修上の注意

※授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表、討議の準備を行うこと。

教科書

藤本隆宏他(2005)『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ。

参考書

・ロバート・K.イン(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房。
・その他授業の中で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度(40%)、授業での貢献(20%)、および研究報告レポート(40%)を総合的に評価する。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN512J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動論演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学)	牛丸	元

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

定量的アプローチによる修士論文を書くために必要な知識と解析能力を養う。

〈到達目標〉

経営研究に必要な多変量解析の基礎がわかるようになる。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：データの分布

第3回：推測統計とさまざまな多変量解析

第4回：平均値の差の検定

第5回：一元配置分散分析

第6回：二元配置分散分析

第7回：相関と検定

第8回：単回帰分析

第9回：重回帰分析

第10回：単純傾斜分析

第11回：媒介分析ならびに最近の検定法としてのブートストラップ法

第12回：因子分析(1)

第13回：因子分析(2)

第14回：パス解析

履修上の注意

・コンピューターを使用する。

・本演習は対面形式です。リモートではありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。

理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

小宮あすか・布井雅人著『Excelで今すぐはじめる心理統計』講談社。

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表10%。レポート90%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN512J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動論演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学)	牛丸	元

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

定量的アプローチによる修士論文を書くために必要な知識と文献理解力を養う。

〈到達目標〉

定量的アプローチによる実証論文を理解できるようになる。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：実証文献研究1

第3回：実証文献研究2

第4回：実証文献研究3

第5回：実証文献研究4

第6回：実証文献研究5

第7回：実証文献研究6

第8回：実証文献研究7

第9回：実証文献研究8

第10回：実証文献研究9

第11回：実証文献研究10

第12回：実証文献研究11

第13回：実証文献研究12

第14回：総まとめ

履修上の注意

・使用する文献は、文献5までは、こちらで準備したものを使いますが、6以降は自分の研究に関係する論文を準備し、各々発表してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。

理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

・Academy of Management Journal

・Strategic Management Journal

・組織科学

・日本経営学会誌

・経営行動科学学会誌

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表10%。レポート90%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN612J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 牛丸 元		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

企業のグローバル化とネットワーク化に関する修士論文を書くために必要とされる理論研究に関する研究。

〈到達目標〉

日本企業の産業集積やネットワーク化とグローバル化といった2つの課題に関する基礎概念を理解することを目標とする。

授業内容

主として、Academy of Management Reviewにおいて展開されている論文について検討する。

第1回:イントロダクション

第2回:企業グループに関する理論研究の検討

第3回:産業集積に関する理論研究の検討

第4回:企業間関係に関する理論研究の検討

第5回:社会ネットワーク理論の理論的研究

第6回:戦略的提携に関する理論的研究

第7回:国際化に関する経済学的研究

第8回:国際化に関する経営学的研究

第9回:国際化と組織構造に関する理論研究

第10回:国際企業モデルに関する理論研究

第11回:企業文化に関する理論研究

第12回:研究開発に関する理論研究

第13回:コーポレートガバナンスの理論研究

第14回:社会科学研究の方法

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

配布文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。

理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表10%。レポート90%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN612J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 牛丸 元		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

企業のグローバル化とネットワーク化に関する事例研究

〈到達目標〉

グローバルに展開する日本企業を取り上げて、経営者の思考方法、現地企業との企業間関係について理解することを目標とする。

授業内容

主として、Academy of Management Journalにおいて掲載されている論文について検討する。

第1回:イントロダクション

第2回:企業グループに関する実証研究の検討

第3回:産業集積に関する実証研究の検討

第4回:企業間関係に関する実証研究の検討

第5回:社会ネットワーク理論の実証研究

第6回:戦略的提携に関する実証研究の検討

第7回:国際化の経済学的実証研究の検討

第8回:国際化の経営学的実証研究の検討

第9回:国際化と組織構造に関する実証研究

第10回:国際企業モデルに関する実証研究

第11回:企業文化に関する実証研究

第12回:研究開発に関する実証研究

第13回:コーポレートガバナンスの実証研究

第14回:仮説検証の方法

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

配布文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。

理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表10%。レポート90%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	グローバル・マーケティング演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 古川 裕康		

授業の概要・到達目標

＜概要＞

本演習では、グローバル・マーケティングについて専門的に学ぶ。またこの専門知識を学習しながら、各人の挑戦力、説得力も養成する。グローバル・マーケティングに関するケースやテキストを用いながら専門知識を学習するだけでなく、研究活動を通して各自の理解を深めてもらう。

研究活動は「今までに無いものを考える」事の連続となる。ただしこれを考えるためには、これまでに実施されてきた数々の最新研究とその課題を徹底的に理解しておく必要がある。研究活動を通して、受講生は社会に貢献するだけでなく、自身を飛躍的に成長させてもらう。

＜到達目標＞

この学びを通して、「歴史的・地理的・文化的背景から多様な人間の特性を理解して協働する能力」、「経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力」、「多様な環境において課題を発見し、解決する能力」の養成を目指す。更に本演習では以下の具体的な能力を身に着けることを目指す。

1. 世界の現状を理解し、説明することができる。
2. 論理的・批判的に物事を思考することができる。
3. 問題の所在を発見し、各人なりの解決策を提示することができる。
4. 世の中に遍在する未解決の課題解決や、自らの新しい能力開発について積極的に挑戦することができる。
5. 受講生や指導教員との間で円滑なコミュニケーションを取り、建設的に議論ができる。
6. リーダーシップとは何かを理解し、協働しながらチームで成果を出すことができる。

授業内容

第1回 イントロダクション

第2回 テキスト輪読1： グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。
第3回 テキスト輪読2： グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。
第4回 テキスト輪読3： グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。
第5回 テキスト輪読4： グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。
第6回 テキスト輪読5： グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。

第7回 研究のテーマ選定1： 研究のテーマについて選定し全体と共有する。
第8回 研究のテーマ選定2： 研究のテーマについて選定し全体と共有する。
第9回 研究のテーマ選定3： 研究のテーマについて選定し全体と共有する。
第10回 研究のテーマ選定4： 研究のテーマについて選定し全体と共有する。
第11回 研究の進捗報告1： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第12回 研究の進捗報告2： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第13回 研究の進捗報告3： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第14回 研究の進捗報告4： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

履修上の注意

無断欠席や無断遅刻をしないこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

普段から経営学全般に関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で定期的に読むこと。

教科書

受講生と相談しながら決定する。

参考書

古川裕康(2021)、『グローバル・マーケティング論』、文眞堂。
大石芳裕編著(2017)、『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。
古川裕康(2016)、『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。
Ghemawat, P. (2009)、『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。

課題に対するフィードバックの方法

メールやTeamsを用いてコミュニケーション&フィードバックを行う。

<https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxj2656>

成績評価の方法

毎回の参加姿勢・態度50%、論文の完成度50%。

その他

指導テーマ

グローバル・マーケティング論

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	グローバル・マーケティング演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 古川 裕康		

授業の概要・到達目標

＜概要＞

本演習では、グローバル・マーケティングについて専門的に学ぶ。またこの専門知識を学習しながら、各人の挑戦力、説得力も養成する。グローバル・マーケティングに関するケースやテキストを用いながら専門知識を学習するだけでなく、研究活動を通して各自の理解を深めてもらう。

研究活動は「今までに無いものを考える」事の連続となる。ただしこれを考えるためには、これまでに実施されてきた数々の最新研究とその課題を徹底的に理解しておく必要がある。研究活動を通して、受講生は社会に貢献するだけでなく、自身を飛躍的に成長させてもらう。

＜到達目標＞

この学びを通して、「歴史的・地理的・文化的背景から多様な人間の特性を理解して協働する能力」、「経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力」、「多様な環境において課題を発見し、解決する能力」の養成を目指す。更に本演習では以下の具体的な能力を身に着けることを目指す。

1. 世界の現状を理解し、説明することができる。
2. 論理的・批判的に物事を思考することができる。
3. 問題の所在を発見し、各人なりの解決策を提示することができる。
4. 世の中に遍在する未解決の課題解決や、自らの新しい能力開発について積極的に挑戦することができる。
5. 受講生や指導教員との間で円滑なコミュニケーションを取り、建設的に議論ができる。
6. リーダーシップとは何かを理解し、協働しながらチームで成果を出すことができる。

授業内容

第1回 イントロダクション

第2回 研究の進捗報告1： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第3回 研究の進捗報告2： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第4回 研究の進捗報告3： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第5回 研究の進捗報告4： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第6回 研究の進捗報告5： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第7回 研究の進捗報告6： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第8回 研究の進捗報告7： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第9回 研究の進捗報告8： 研究の進捗状況と課題を全体と共有する。
第10回 論文の発表1： 論文の最終成果について全体に発表する。
第11回 論文の発表2： 論文の最終成果について全体に発表する。
第12回 論文の発表3： 論文の最終成果について全体に発表する。
第13回 論文の発表4： 論文の最終成果について全体に発表する。
第14回 論文の発表5： 論文の最終成果について全体に発表する。

履修上の注意

無断欠席や無断遅刻をしないこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

普段から経営学全般に関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で定期的に読むこと。

教科書

受講生と相談しながら決定する。

参考書

古川裕康(2021)、『グローバル・マーケティング論』、文眞堂。
大石芳裕編著(2017)、『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。
古川裕康(2016)、『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。
Ghemawat, P. (2009)、『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。

課題に対するフィードバックの方法

メールやTeamsを用いてコミュニケーション&フィードバックを行う。

<https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxj2656>

成績評価の方法

毎回の参加姿勢・態度50%、論文の完成度50%。

その他

指導テーマ

グローバル・マーケティング論

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN662J			
経営理論・管理系		備考	2026年度開講せず
科目名	グローバル・マーケティング演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 古川 裕康		

授業の概要・到達目標

＜概要＞

本演習では、グローバル・マーケティングについて専門的に学ぶ。またこの専門知識を学習しながら、各人の挑戦力、説得力も養成する。グローバル・マーケティングに関するケースやテキストを用いながら専門知識を学習するだけでなく、研究活動を通して各自の理解を深めてもらう。研究活動は「今までに無いものを考える」事の連続となる。ただしこれを考えるためには、これまでに実施されてきた数々の最新研究とその課題を徹底的に理解しておく必要がある。研究活動を通して、受講生は社会に貢献するだけでなく、自身を飛躍的に成長させてもらう。

＜到達目標＞

この学びを通して、「歴史的・地理的・文化的背景から多様な人間の特性を理解して協働する能力」、「経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力」、「多様な環境において課題を発見し、解決する能力」の養成を目指す。更に本演習では以下の具体的な能力を身に付けることを目指す。

1. 世界の現状を理解し、説明することができる。
2. 論理的・批判的に物事を思考することができる。
3. 問題の所在を発見し、各人なりの解決策を提示することができる。
4. 世の中に遍在する未解決の課題解決や、自らの新しい能力開発について積極的に挑戦することができる。
5. 受講生や指導教員との間で円滑なコミュニケーションを取り、建設的に議論ができる。
6. リーダーシップとは何かを理解し、協働しながらチームで成果を出すことができる。

授業内容

第1回 イントロダクション

第2回 テキスト輪読1：グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。

第3回 テキスト輪読2：グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。

第4回 テキスト輪読3：グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。

第5回 テキスト輪読4：グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。

第6回 テキスト輪読5：グローバル・マーケティング論に関するテキストを基に専門知識を養成する。

第7回 研究のテーマ選定1：研究のテーマについて選定し全体と共有する。

第8回 研究のテーマ選定2：研究のテーマについて選定し全体と共有する。

第9回 研究のテーマ選定3：研究のテーマについて選定し全体と共有する。

第10回 研究のテーマ選定4：研究のテーマについて選定し全体と共有する。

第11回 研究の進捗報告1：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第12回 研究の進捗報告2：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第13回 研究の進捗報告3：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第14回 研究の進捗報告4：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

履修上の注意

無断欠席や無断遅刻をしないこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

普段から経営学全般に関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で定期的に読むこと。

教科書

受講生と相談しながら決定する。

参考書

古川裕康(2021)、『グローバル・マーケティング論』、文眞堂。
大石芳裕編著(2017)、『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。
古川裕康(2016)、『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。
Ghemawat, P. (2009)、『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。

課題に対するフィードバックの方法

メールやTeamsを用いてコミュニケーション＆フィードバックを行う。
<https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxjf2656>

成績評価の方法

毎回の参加姿勢・態度50％、論文の完成度50％。

その他

指導テーマ

グローバル・マーケティング論

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN662J			
経営理論・管理系		備考	2026年度開講せず
科目名	グローバル・マーケティング演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 古川 裕康		

授業の概要・到達目標

＜概要＞

本演習では、グローバル・マーケティングについて専門的に学ぶ。またこの専門知識を学習しながら、各人の挑戦力、説得力も養成する。グローバル・マーケティングに関するケースやテキストを用いながら専門知識を学習するだけでなく、研究活動を通して各自の理解を深めてもらう。研究活動は「今までに無いものを考える」事の連続となる。ただしこれを考えるためには、これまでに実施されてきた数々の最新研究とその課題を徹底的に理解しておく必要がある。研究活動を通して、受講生は社会に貢献するだけでなく、自身を飛躍的に成長させてもらう。

＜到達目標＞

この学びを通して、「歴史的・地理的・文化的背景から多様な人間の特性を理解して協働する能力」、「経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力」、「多様な環境において課題を発見し、解決する能力」の養成を目指す。更に本演習では以下の具体的な能力を身に付けることを目指す。

1. 世界の現状を理解し、説明することができる。
2. 論理的・批判的に物事を思考することができる。
3. 問題の所在を発見し、各人なりの解決策を提示することができる。
4. 世の中に遍在する未解決の課題解決や、自らの新しい能力開発について積極的に挑戦することができる。
5. 受講生や指導教員との間で円滑なコミュニケーションを取り、建設的に議論ができる。
6. リーダーシップとは何かを理解し、協働しながらチームで成果を出すことができる。

授業内容

第1回 イントロダクション

第2回 研究の進捗報告1：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第3回 研究の進捗報告2：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第4回 研究の進捗報告3：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第5回 研究の進捗報告4：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第6回 研究の進捗報告5：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第7回 研究の進捗報告6：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第8回 研究の進捗報告7：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第9回 研究の進捗報告8：研究の進捗状況と課題を全体と共有する。

第10回 論文の発表1：論文の最終成果について全体に発表する。

第11回 論文の発表2：論文の最終成果について全体に発表する。

第12回 論文の発表3：論文の最終成果について全体に発表する。

第13回 論文の発表4：論文の最終成果について全体に発表する。

第14回 論文の発表5：論文の最終成果について全体に発表する。

履修上の注意

無断欠席や無断遅刻をしないこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

普段から経営学全般に関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で定期的に読むこと。

教科書

受講生と相談しながら決定する。

参考書

古川裕康(2021)、『グローバル・マーケティング論』、文眞堂。
大石芳裕編著(2017)、『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。
古川裕康(2016)、『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。
Ghemawat, P. (2009)、『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。

課題に対するフィードバックの方法

メールやTeamsを用いてコミュニケーション＆フィードバックを行う。
<https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxjf2656>

成績評価の方法

毎回の参加姿勢・態度50％、論文の完成度50％。

その他

指導テーマ

グローバル・マーケティング論

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN592J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	マーケティング経営演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 原田 将		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

学術論文を執筆するためには、方法論について正しく理解している必要がある。そこで、本演習では定量研究、定性研究の方法論について学ぶ。

(到達目標)

研究テーマに相応しい方法論を選択し、それに基づいて学術論文を執筆できるようになること。

方法論について自らの研究の課題を報告してもらう。まずは、方法論について学ぶため次の文献を全員で輪読する。

須田敏子(2019)『マネジメント研究への招待』中央経済社。

上記テキストの輪読が終わったのち、その知識に基づいて各自の研究を報告する。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 テキスト輪読1
第3回 テキスト輪読2
第4回 テキスト輪読3
第5回 テキスト輪読4
第6回 テキスト輪読5
第7回 テキスト輪読6
第8回 テキスト輪読7
第9回 テキスト輪読8
第10回 テキスト輪読9
第11回 研究報告1
第12回 研究報告2
第13回 研究報告3
第14回 研究報告4

履修上の注意

積極的参加を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

方法論に関する様々な文献を読んでおくこと。

教科書

第1回目で指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

演習への貢献度30%、報告内容70%。

その他

無断欠席は認めない。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN592J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	マーケティング経営演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 原田 将		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

院生紀要での論文執筆を目指し、各自の研究テーマについて報告する。

(到達目標)

研究テーマに相応しい方法論を選択し、それに基づいて学術論文を執筆できるようになること。

授業内容

学術論文の執筆に向けて、毎週、研究報告をしてもらい、それに基づき議論する。

第1回 INTRODUCTION
第2回 研究報告1
第3回 研究報告2
第4回 研究報告3
第5回 研究報告4
第6回 研究報告5
第7回 研究報告6
第8回 研究報告7
第9回 研究報告8
第10回 研究報告9
第11回 研究報告10
第12回 研究報告11
第13回 研究報告12
第14回 研究報告13

履修上の注意

積極的参加を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

方法論に関する様々な文献を読んでおくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

演習への貢献度30%、報告内容70%。

その他

無断欠席は認めない。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN692J			
経営理論・管理系		備考	2026年度開講せず
科目名	マーケティング経営演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 原田 将		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

修士論文作成に向けて、その準備をする。

(到達目標)

学術的な修士論文を執筆できるようになること。

授業内容

毎週、研究報告をしてもらい、それに基づいて議論する。

第1回 イン트로ダクション

第2回 研究報告1

第3回 研究報告2

第4回 研究報告3

第5回 研究報告4

第6回 研究報告5

第7回 研究報告6

第8回 研究報告7

第9回 研究報告8

第10回 研究報告9

第11回 研究報告10

第12回 研究報告11

第13回 研究報告12

第14回 研究報告13

履修上の注意

積極的参加を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自、関係文献を読んでおくこと。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

演習への貢献度30%、報告内容70%。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN692J			
経営理論・管理系		備考	2026年度開講せず
科目名	マーケティング経営演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 原田 将		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

修士論文作成に向けて、その準備をする。

(到達目標)

学術的な修士論文を執筆できるようになること。

授業内容

毎週、研究報告をしてもらい、それに基づいて議論する。

第1回 イン트로ダクション

第2回 研究報告1

第3回 研究報告2

第4回 研究報告3

第5回 研究報告4

第6回 研究報告5

第7回 研究報告6

第8回 研究報告7

第9回 研究報告8

第10回 研究報告9

第11回 研究報告10

第12回 研究報告11

第13回 研究報告12

第14回 研究報告13

履修上の注意

積極的参加を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自、関係文献を読んでおくこと。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

演習への貢献度30%、報告内容70%。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN522J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営管理演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

この講義では経営管理・組織分析の基礎となる社会科学的研究のパラダイムについて概説する。

授業内容

社会科学的研究のパラダイムについての英語著書・論文をベースに授業を進めていく。授業の前には必ず英語論文を読み、自分が発表の時にはレジュメをまとめてくること。それ以外の時は積極的に議論に参加すること。

第1回: イントロダクション
第2回: 社会科学についての基礎的前提
第3回: 社会についての基礎的前提
第4回: 2つの次元と4つのパラダイム
第5回: 機能主義的社会学: 社会システム理論
第6回: 機能主義的社会学: 相互作用理論と社会行動理論
第7回: 機能主義的組織論: 客観主義
第8回: 機能主義的組織論: 行動の準拠枠
第9回: 解釈主義的社会学
第10回: 解釈主義パラダイムと組織研究
第11回: 急進的ヒューマニズム
第12回: 反組織論
第13回: 急進的構造主義
第14回: 総まとめ

履修上の注意

しっかりと準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

前の授業で次の事業で使用する英語論文を指示する。次の事業までに必ずそれを読み、要点を整理すること。

教科書

Burrell and Morgan (1979) Social paradigms and organizational analysis, Heinemann: London.

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表、レジュメ 60%。議論への貢献度 40%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN522J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営管理演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

この講義では経営管理・組織研究の基礎となる方法論について定性的方法論に焦点を置きつつ説明する。

授業内容

定性的方法論についての英語著書・論文をベースに授業を進めていく。授業の前には必ず英語論文を読み、自分が発表の時にはレジュメをまとめてくること。それ以外の時は積極的に議論に参加すること。

第1回: イントロダクション
第2回: 経営管理研究へのアプローチ
第3回: リサーチデザイン
第4回: リサーチクエッションの生成
第5回: 文献レビューの方法
第6回: 経営管理研究における倫理
第7回: 定性的方法の性質
第8回: エスノグラフィーと参与観察
第9回: インタビューの方法
第10回: 焦点グループ
第11回: 定性的研究と言語
第12回: データとしてのドキュメント
第13回: 定性的データ分析
第14回: 総まとめ

履修上の注意

しっかりと準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

前回の授業で次回に使用する英語論文を紹介する。必ずそれを読み、要点をまとめてくること。セクションの報告者にはレジュメの用意と担当部分の内容に基づいたディスカッションの準備が求められる。

教科書

Bryman and Bell (2007) Business research methods, Oxford University Press: Oxford.

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表、レジュメ 60%。議論への貢献度 40%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN622J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営管理演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

この講義では経営管理・組織研究の基礎となる諸理論について基礎的な理論を中心に説明する。

授業内容

経営管理・組織についての英語著書・論文をベースに授業を進めていく。授業の前には必ず英語論文を読み、自分が発表の時にはレジュメをまとめてくること。それ以外の時は積極的に議論に参加すること。

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 論文の構造
- 第3回: ケーススタディー
- 第4回: 理論的貢献
- 第5回: コンティンジェンシー理論
- 第6回: 組織の合理性
- 第7回: 情報処理モデル
- 第8回: 資源依存モデル
- 第9回: コンティンジェンシー理論の限界
- 第10回: 戦略的選択アプローチ
- 第11回: 組織コンフィギュレーション
- 第12回: 企業戦略のタイポロジー
- 第13回: 資源依存理論
- 第14回: 総まとめ

履修上の注意

しっかりと準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

前の授業で次の事業で使用する英語論文を指示する。次の事業までに必ずそれを読み、要点を整理すること。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表、レジュメ 60%。議論への貢献度 40%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN622J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営管理演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

この講義では経営管理・組織研究の基礎となる諸理論についての近年の展開について説明する。

授業内容

経営管理・組織についての英語著書・論文をベースに授業を進めていく。授業の前には必ず英語論文を読み、自分が発表の時にはレジュメをまとめてくること。それ以外の時は積極的に議論に参加すること。

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 組織文化とサブカルチャー
- 第3回: ルートメタファーとしての組織文化
- 第4回: 組織学習(機能主義的理論)
- 第5回: 組織学習(解釈主義的理論)
- 第6回: 組織と知識(暗黙知)
- 第7回: 組織と知識(実践ベースモデル)
- 第8回: 組織学習とコミュニティ
- 第9回: 実践ベース組織論
- 第10回: 組織制度論(構造的アプローチ)
- 第11回: 組織制度論(エージェンシー的アプローチ)
- 第12回: 組織ディスコース
- 第13回: 批判的組織ディスコース
- 第14回: 総まとめ

履修上の注意

しっかりと準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

前の授業で次に使用する英語論文を紹介する。必ずそれを読み、要点をまとめてくること。セクションの報告者にはレジュメの用意と担当部分の内容に基づいたディスカッションの準備が求められる。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表、レジュメ 60%。議論への貢献度 40%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営戦略特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		歌代 豊

授業の概要・到達目標

経営戦略論には、さまざまな研究アプローチがあり、その中から多くの有用な概念・理論が提示されてきた。経営戦略特論では、これらの中で基礎となる概念と理論をしっかりと理解することを目的とする。

授業内容

第1回：戦略の概念
第2回：目標、価値および業績
第3回：産業分析—基本原理
第4回：産業分析と競争分析にかんする追加的话题
第5回：資源と能力の分析
第6回：組織の構造と経営システム
第7回：競争優位の本質と源泉
第8回：コスト優位
第9回：差別化優位
第10回：総合分析
第11回：総合分析
第12回：総合分析
第13回：総合分析
第14回：総合分析

履修上の注意

受講生全員が教科書を予習するとともに、受講生が分担し、教科書の説明と解説を行い、それを受け討議する。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生全員が教科書を予習するとともに、受講生が分担し、教科書の説明と解説を行い、それを受け討議する。

教科書

ロバート・M・グラント『グラント現代戦略分析(第2版)』中央経済社、2019年

参考書

ジェイ B.バーニー・ウィリアム S.ヘスタリー 『[新版]企業戦略論(上・中・下)』ダイヤモンド社、2021年
マイケル・A・ヒット・R・デュエーン・アイルランド・ロバート・E・ホスキソン『戦略経営論(第3版) 競争力とグローバリゼーション』パンローリング、2021年

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業の出席態度(40%)、授業での説明・解説、授業での討議等貢献(30%)、レポート(30%)に基づき総合評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営戦略特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		歌代 豊

授業の概要・到達目標

経営戦略論には、さまざまな研究アプローチがあり、その中から多くの有用な概念・理論が提示されてきた。経営戦略特論では、これらの中で基礎となる概念と理論をしっかりと理解することを目的とする。

授業内容

第1回：産業発展と戦略変化
第2回：技術に基礎を置く産業と革新の管理
第3回：成熟産業での競争優位
第4回：垂直統合と企業の事業領域
第5回：グローバル戦略と多国籍企業
第6回：多角化戦略
第7回：多角化事業(マルチビジネス)企業経営
第8回：戦略的経営の現在の傾向
第9回：総合分析
第10回：総合分析
第11回：総合分析
第12回：総合分析
第13回：総合分析
第14回：総合分析

履修上の注意

受講生全員が教科書を予習するとともに、受講生が分担し、教科書の説明と解説を行い、それを受け討議する。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生全員が教科書を予習するとともに、受講生が分担し、教科書の説明と解説を行い、それを受け討議する。

教科書

ロバート・M・グラント『グラント現代戦略分析(第2版)』中央経済社、2019年

参考書

ジェイ B.バーニー・ウィリアム S.ヘスタリー 『[新版]企業戦略論(上・中・下)』ダイヤモンド社、2021年
マイケル・A・ヒット・R・デュエーン・アイルランド・ロバート・E・ホスキソン『戦略経営論(第3版) 競争力とグローバリゼーション』パンローリング、2021年

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業の出席態度(40%)、授業での説明・解説、授業での討議等貢献(30%)、レポート(30%)に基づき総合評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営組織特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 黒澤 壮史		

授業の概要・到達目標

概要：本科目は、経営組織論の中でも特にマクロ組織論と呼ばれる領域を中心に理論・学説を中心とした体系的な知識を習得することを目的としている。本科目では組織理論をメタファーの観点から理解することで、体系的な理解をするだけに留まらず実践的な応用への手がかりとする。
到達目標：経営組織論（特にマクロ組織論領域）の体系的な理解、理論知識の実践的な応用

授業内容

組織理論に関する体系的知識を下記の授業構成に基づいて進行していく。各回では発表者がテキストの要約と関連する知見をまとめて発表していくものとする。

※ただし、履修者人数に応じて進め方は修正する可能性がある

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：組織構造 テキスト1章
- 第3回：官僚制と科学的管理 テキスト2章
- 第4回：組織均衡と組織生態学 テキスト3章
- 第5回：意思決定理論 テキスト4章
- 第6回：システム論的組織観 テキスト5章
- 第7回：組織変革論 テキスト7章
- 第8回：組織学習 テキスト8章
- 第9回：組織文化論 テキスト9章
- 第10回：組織シンボリズム テキスト10章
- 第11回：センスメイキング理論 テキスト11章
- 第12回：資源依存理論と権力論 テキスト12章
- 第13回：コミュニティとしての組織 テキスト13章
- 第14回：最終プレゼンテーションと総括

履修上の注意

経営心理学、産業・組織心理学、など関連する科目を履修済みもしくは並行して履修していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、発表の担当の場合は予習として発表準備が求められる。それ以外の回では、事前にテキストの対応箇所を読んでおき、疑問点などを整理しておくこと。

復習については、授業内容の振り返りを行うこと。

教科書

ダフト著『組織の経営学』ダイヤモンド社

参考書

高橋正泰ほか編『マクロ組織論』学文社

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業内でフィードバックを行う。必要に応じて、メールなどでも対応する。

成績評価の方法

授業内の発言、プレゼンテーションによって評価する。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営組織特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 黒澤 壮史		

授業の概要・到達目標

概要：本科目は、前期で習得した体系的な経営組織論に関する知見に基づいて、現代的なトピックスへの理解をより深めていくことを目的とする。特に本科目では、「パワー（権力・影響力）」について理解を深めるが、単にテキスト指定される文献だけを理解するだけではなく、前期に扱った体系的な組織理論に基づいてより深く、時に批判的な議論を展開できることを目的とする。

到達目標：体系的な組織論の知見に基づく現代的なトピックスの理解と、トピックスへの批判的な議論を展開できること

授業内容

組織理論に関する体系的知識を下記の授業構成に基づいて進行していく。各回では発表者がテキストの要約と関連する知見をまとめて発表していくものとする。

※ただし、履修者人数に応じて進め方は修正する可能性がある

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：テキスト1章
- 第3回：テキスト2章
- 第4回：テキスト3章
- 第5回：テキスト4章
- 第6回：テキスト5章
- 第7回：テキスト6章
- 第8回：テキスト7章
- 第9回：テキスト8章
- 第10回：テキスト9章
- 第11回：補足文献（配布します）
- 第12回：想定外のマネジメントに関する総括と議論
- 第13回：最終プレゼンテーション
- 第14回：総括

履修上の注意

経営戦略論、経営心理学、産業・組織心理学、など関連する科目を履修済みもしくは並行して履修していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、発表の担当の場合は予習として発表準備が求められる。それ以外の回では、事前にテキストの対応箇所を読んでおき、疑問点などを整理しておくこと。

復習については、授業内容の振り返りを行うこと。

教科書

カール・ワイク&キャスリーン・サトクリフ著 『想定外のマネジメント』文真堂

参考書

高橋正泰ほか編『マクロ組織論』学文社
高橋正泰ほか編『ミクロ組織論』学文社

課題に対するフィードバックの方法

原則的に授業内でフィードバックするが、必要に応じてメールなどでも対応する。

成績評価の方法

授業内の発言、プレゼンテーションによって評価する。

その他

特になし。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(経営学)	牛丸 元

授業の概要・到達目標

- ・カーネギー学派による企業行動論を理解するうえで不可欠と思われる経営理論について検討する。
- ・Aではとくに、戦略論とカーネギー学派の企業行動論の基礎を検討する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：SCP理論
第3回：SCPと戦略論
第4回：リソースベースレビュー
第5回：SCPとリソースベースとビュー
第6回：取引理論
第7回：ゲーム理論
第8回：トピック研究(アクセルロッドの研究)
第9回：カーネギーの企業行動理論
第10回：知の探索と深化の理論(1)
第11回：知の探索と深化の理論(2)
第12回：組織の記憶の理論(1)
第13回：認知心理学ベースの進化理論
第14回：ダイナミックケイパビリティ

履修上の注意

- ・発表者を決めて、テキストの内容についてまとめて発表してもらいます。
- ・テキストプラスアルファの発表内容にするよう努力してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。
- ・理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

入山章栄著『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

宿題40%、発表内容30%、授業貢献度30%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(経営学)	牛丸 元

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

- ・カーネギー学派による企業行動論を理解するうえで不可欠と思われる経営理論について検討する。
- ・Bではとくに、社会学ディシプリン系の理論とカーネギー学派の企業行動論の基礎を検討する。

【目標】

- ・ビジネス現象と理論との関連性を理解できるようになる。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：エンベデッドネス理論
第3回：弱いつながりの強さの理論
第4回：ストラクチャルホール理論
第5回：ソーシャルキャピタル理論
第6回：社会学ベースの制度理論
第7回：資源依存理論
第8回：組織エコロジー論
第9回：エコロジーベースの進化理論
第10回：レッドクイーン理論
第11回：企業ガバナンスと経営理論
第12回：アントレプレナーシップと経営理論
第13回：企業組織と経営理論
第14回：最先端の経営学研究例

履修上の注意

- ・発表者を決めて、テキストの内容についてまとめて発表してもらいます。
- ・テキストプラスアルファの発表内容にするよう努力してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。
- ・理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

入山章栄著『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

宿題40%、発表内容30%、授業貢献度30%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN541J			
経営理論・管理系		備考	秋学期開講
科目名	財務管理特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(経営学)	境 陸

授業の概要・到達目標

・授業の概要

本講義では、企業の存在意義、企業形態の歴史と分類、株式会社の構造と意義、企業と市場、所有構造について、多角的な視点から検討し、議論する。

・到達目標

学生が企業の構造について体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。そして現代的な課題に繋がるような提言ができるようにする。

授業内容

- 第1回 企業とは何か
- 第2回 企業とは何か リスクテイクとリターン
- 第3回 企業形態1
- 第4回 企業形態2
- 第5回 株式会社の構造と意義
- 第6回 企業と労働力市場
- 第7回 企業と商品・サービス市場
- 第8回 企業と資本市場
- 第9回 M&A
- 第10回 経営統合と持ち株会社
- 第11回 所有構造と経営
- 第12回 経営者とコーポレート・ガバナンス
- 第13回 経営のしくみと経営者報酬
- 第14回 機関投資家とコーポレート・ガバナンス

履修上の注意

履修者は受け身にならず積極的に発言することが求められる。
ミクロ経済学と経済数学の知識が一部必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前にテキストを熟読しておくこと。

教科書

坂本恒夫・大阪良宏・鳥居陽介(2015)『テキスト 現代企業論(第四版)』同文館出版。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を提示した日の翌週の講義で解説の時間を設けて、議論する。

成績評価の方法

毎回の発言・発表内容50%、最終レポート50%。

その他

ミクロ経済学と経済数学の知識が必要である。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN541J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	現代コーポレートファイナンス特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(経営学)	境 陸

授業の概要・到達目標

・授業の概要

コーポレートファイナンスは特に企業の経営資源であるお金の面に焦点を当てている。企業のお金は人間でいえば血液にあたり、当然のことながら常に循環させて、きれいなものにしなければ人同様に企業も死に絶えてしまう。本講義ではコーポレートファイナンスの講義を、現代の経営環境を踏まえながら、理論的なアプローチも用いて、経営管理、投資管理、リスクマネジメント等の包括的な観点から展開する。

・到達目標

学生がコーポレートファイナンス理論を体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。

授業内容

- 第1回 コーポレートファイナンスについての基礎的概念
- 第2回 コーポレートファイナンスと経営戦略
- 第3回 リスクの下での投資の評価方法
- 第4回 リスクマネジメントとデリバティブ
- 第5回 金融先物取引とオプション取引
- 第6回 スワップ取引
- 第7回 資本コストと経営戦略
- 第8回 企業評価の重要性
- 第9回 最適資本構成戦略
- 第10回 株主還元策
- 第11回 エージェンシー理論
- 第12回 コーポレート・ガバナンス
- 第13回 経営者報酬の問題
- 第14回 スチュワードシップ・コードとESG投資

履修上の注意

履修者は受け身にならず積極的に発言することが求められる。
数学と統計学の知識が必須となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前にコーポレートファイナンスに関するテキストを熟読しておくこと。

教科書

『グラフィック経営財務』境陸・落合孝彦編(2019)，(新世社)。

参考書

『テキスト財務管理論』坂本恒夫，鳥居陽介編；現代財務管理理論研究会著(2015)，(中央経済社)。
『経営財務論』小山明宏(2016)，(創世社)。

課題に対するフィードバックの方法

課題を提示した日の翌週の講義で解説を行い、議論する。

成績評価の方法

毎回の発言・発表内容50%、最終レポート50%。

その他

数学と統計学の知識が必須である。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	グローバル・マーケティング特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 古川 裕康		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本講義は、グローバル・マーケティングの専門的な知識を養成することを目的とする。本講義では特にグローバル・マーケティングの基本概念に焦点を当てる。現在、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を国内市場のみから調達することは難しく、海外の消費者と触れ合う機会も多いのが現状である。この点を踏まえ本講義では、

・なぜ企業経営にグローバル・マーケティングの考え方が必要なのか
・いつ、どのように企業はグローバル・マーケティングへと足を踏み入れるのか
・どのようなプロセスを経てグローバル・マーケティングは展開されていくのか
というテーマを基に関連する事例やフレームワークを用いて議論する。
本講義ではまず、グローバル・マーケティングとは何か、それは経営活動とどのように繋がっているのか、日本企業の多くに共通するグローバル・マーケティング上の課題は何かといった点を議論する。その後、海外市場参入のパターンや参入プロセスについての考え方について学ぶ。またケーススタディを通して実際に企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題に触れながら、最終的に各人なりのソリューションが提示できるようになることを目標とする。

(到達目標)

本講義では以下の具体的な能力を身に着けることを目指す。

- 複数の企業事例をグローバル・マーケティングの視点から解説することができる。
- 日本企業の実施しているグローバル・マーケティングの傾向と課題を解説することができる。
- グローバル・マーケティングとブランド構築の関係性を解説することができる。
- グローバル・マーケティングの一般的発展プロセスを解説することができる。
- グローバル・マーケティングの観点から市場参入のパターンについて解説することができる。

授業内容

- 第1回 (a)イントロダクション:本講義の特徴ならびにルールについて議論する。
(b)グローバル・マーケティングとは：グローバル・マーケティングの定義、歴史、発展形態について解説する。
- 第2回 グローバル・マーケティングの分析枠組み：グローバル・マーケティングの発展段階について議論し、なぜ、そしてどのように企業が国際化するのかについて検討する。
- 第3回 日本企業の抱える課題：過剰品質問題の観点から日本企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題について明らかにし、それを克服するための考え方について議論する。
- 第4回 [Case]最新技術とニュース、どちらを重視すべきか:技術を受容する技術者と市場環境を重視するマーケティングの対立をケースとして、第3回で取り扱った内容について議論する。
- 第5回 EPRGプロフィール：経営者の意思決定についてのモデルを議論し、グローバル・マーケティングの意思決定プロセスについて検討する。
- 第6回 標準化－適合理化フレームワーク：標準化－適合理化フレームワークについて議論し、経営者の意思と本フレームワークの関係性について検討する。
- 第7回 ブランド・コンセプトとグローバル・マーケティング構築：コア・コンセプト、サブ・コンセプトから構成されるブランド・コンセプトを基に、どのようにグローバル・マーケティングを構築するかについての考え方を議論する。
- 第8回 グローバル製品展開：モジュラー型・インテグラル型のアーキテクチャー別製品開発をグローバル・マーケティングの観点から展開する際の課題について議論する。
- 第9回 グローバル価格展開：グローバルの観点から価格マネジメントにおいて考慮しなければならない要素について議論し、シェアリングやダイナミックプライシングの登場による新しいグローバル価格展開の考え方について検討する。
- 第10回 [Case]セカンドブランドの開発：商品を各国市場に浸透させるために「低価格なセカンドブランド」を構築すべき否かについて第8回、第9回の内容を踏まえて議論する。
- 第11回 新興市場でのイノベーション：消費市場としては未成熟であっても、イノベーション創出の場として機能する新興市場について議論し、コスト／グッドイナフ／フルーガル／リパース・イノベーションについて検討する。
- 第12回 国際市場細分化：海外市場をどのようなパターンで細分化できるのかについて議論し、市場細分化とブルーオーシャン戦略との関係性について検討する。
- 第13回 市場参入フレームワーク：第11回と第12回の内容を踏まえ、新市場へ参入を検討する際の企業のモチベーションと市場参入のプロセスについて議論する。
- 第14回 グローバル・マーケティングの策定プロセス：これまで解説してきた各概念が、どのように関連し合い、最終的にグローバル・マーケティング策定プロセスに影響をもたらすのかについて議論し、本講義の内容を総括する。

履修上の注意

受講生は単に知識を頭の中に入れるだけでなく、グローバル・マーケティングの論理・フレームワークや企業の抱える諸問題を踏まえ、「自分ならどうするか」について常に考えながら参加すること。またケーススタディの際には、事前に配布した資料を熟読し、自らの考えや意見を持った状態でなければ参加できない。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で取り扱った事例について、連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で調べておくこと。

教科書

古川裕康(2021)、『グローバル・マーケティング論』、文眞堂。

参考書

大石芳裕編著 (2017)、『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。
井上真里編著 (2020)、『グラフィック グローバル・ビジネス』、新世社。
古川裕康 (2016)、『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。
Ghemawat, P. (2009)、『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-of Meijiシステムや下記URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション&フィードバックを行う。
<https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxj2656>

成績評価の方法

平常点50%、参加姿勢・態度50%

その他

本講義を履修するにあたっては、マーケティング分野の関連知識を有していることが望ましい。そのためマーケティング経営特論等といった関連講義を併せて受講することを薦める。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	グローバル・マーケティング特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 古川 裕康		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本講義は、グローバル・マーケティングの専門的な知識を養成することを目的とする。本講義では特にグローバル・マーケティングと市場環境の関係性に焦点を当てる。展開する国が異なれば、当然のことながら文化的背景・制度・気候・経済状況が大きく異なり、各国の市場間をマネジメントするのは容易ではない。本講義では、
・何が各国・各地域の差異を決定づけているのか
・なぜ海外市場への適応だけでは成果が得られないのか
というテーマを基に関連する事例やフレームワークを用いて解説する。

本講義ではまずMade in ○○といった原産国情報や、カントリー・バイアス、世界に遍在する文化の傾向といった点から、各国・各地域の差異について検討するフレームワークを学習する。その後、これらの差異を考慮しグローバル・マーケティングを展開するための考え方について議論していく。またケーススタディを通して実際に企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題に触れながら、最終的に各人なりの解決策が提示できるようになることを目標とする。

(到達目標)

本講義では以下の具体的な能力を身に着けることを目指す。

- 複数の企業事例をグローバル・マーケティングの視点から解説することができる。
- 原産国情報やカントリー・バイアスがグローバル・マーケティングに与える影響について解説することができる。
- 文化の枠組みとグローバル・マーケティングを関係づけることができる。
- 市場環境とグローバル・マーケティングの相互作用について解説することができる。
- グローバル・マーケティングにおけるチャネルの重要性を解説することができる。

授業内容

- 第1回 (a)イントロダクション:本講義の特徴ならびにルールについて説明する。
(b)グローバル・マーケティングとは：グローバル・マーケティングの定義、歴史、発展形態について解説する。
- 第2回 カントリー・オブ・オリジン:手掛かり情報としての原産国(カントリー・オブ・オリジン)がグローバル・マーケティングのプログラム策定にどう影響をもたらすのかについて議論する。
- 第3回 カントリー・バイアス：自国で作られた商品を好む消費者と、特定の国で作られた商品を嫌悪する消費者の存在、そして外国製品に対する肯定的な態度について議論する。
- 第4回 グローバル・マーケティング・リサーチ:グローバル・マーケティングにおけるリサーチの考え方やプロセスについて解説し、各市場の特徴をどのように測定し市場間の差異と共通性を管理するかについて議論する。
- 第5回 CAGEフレームワーク:文化、制度、地理、経済の観点から母国市場と展開先市場の差を考えるCAGEについて議論し、各要素の持つグローバル・マーケティングへの影響を明らかにする。
- 第6回 [Case]世界標準化プロモーション：某化粧品メーカーの世界的プロモーションをケースとして、標準化プロモーションの是非について議論する。
- 第7回 グローバル・プロモーション:国際的な広告の標準化－適合理化について議論し、ポスト・マスメディア時代のグローバル・プロモーションについて検討する。
- 第8回 文化研究の歴史：グローバル・マーケティングに関連する既存の文化研究がこれまでどのように発展してきたのかについて議論する。
- 第9回 グローバル・チャネル展開:延期・投機理論について議論し、ブランド・コンセプトに応じても国際的に構築する流通チャネルの形態が異なることを検討する。
- 第10回 グローバル・サプライチェーン・マネジメント:世界最古のクロスボーダー戦略である裁定戦略について議論し、世界的なバリューチェーンを構築することの意義と課題について検討する。
- 第11回 コンテンツを用いたグローバル・マーケティング:アニメ、映画、音楽等といったコンテンツは、日本の強みであると共に、製造業主体のグローバル・マーケティングとは様相が異なる。形の無いコンテンツ展開についてグローバル・マーケティングの観点から議論する。
- 第12回 [Case] キャラクターを用いた製品の海外展開：キャラクターを展開する某企業の事例をケースに、ライセンス管理とグローバル・マーケティングの関係性について議論する。
- 第13回 サービスの国際化：サービス業においては製造業とは異なるグローバル・マーケティングの考え方が必要となる。サービス業や小売業の国際化を事例としながら、国際的な知識移転とサービス・マーケティングの課題について議論する。
- 第14回 グローバル・マーケティング:本講義の内容を総括しながら、グローバル・マーケティングの役割と現代的な意義・課題について解説する。

履修上の注意

受講生は単に講義の内容を頭の中に入れるだけでなく、グローバル・マーケティングの論理・フレームワークや企業の抱える諸問題を踏まえ、「自分ならどうするか」について常に考えながら参加すること。またケーススタディの際には、事前に配布した資料を熟読し、自らの考えや意見を持った状態でなければ参加できない。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で取り扱った事例について、関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で調べておくこと。

教科書

古川裕康 (2021)、『グローバル・マーケティング論』、文眞堂。

参考書

大石芳裕編著 (2017)、『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。
井上真里編著 (2020)、『グラフィック グローバル・ビジネス』、新世社。
古川裕康 (2016)、『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。
Ghemawat, P. (2009)、『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-of Meijiシステムや下記URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション&フィードバックを行う。
<https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxj2656>

成績評価の方法

平常点20%、小テスト30%、最終試験50%

その他

本講義を履修するにあたっては、マーケティング分野の基礎的な知識を有していることが望ましい。そのためマーケティング経営特論等といった講義を併せて受講することを薦める。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) CMM511J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	マーケティング経営特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 原田 将		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

マーケティング活動の主な対象は、消費者である。消費者がどのような購買行動をするのかという消費者行動論の理解は、マーケティング研究において不可欠である。そこで、本授業では、消費者行動に関する著書を輪読する。毎回、担当者が担当章の要約とそれに関する事例を報告する。

(到達目標)

マーケティング研究の最先端の知識を獲得し、マーケティング現象を分析できるようになること

授業内容

輪読する文献は、次の文献である。

松井剛監訳(2015)『ソロモン消費者行動論』丸善出版。

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 テキストの輪読1
- 第3回 テキストの輪読2
- 第4回 テキストの輪読3
- 第5回 テキストの輪読4
- 第6回 テキストの輪読5
- 第7回 テキストの輪読6
- 第8回 テキストの輪読7
- 第9回 テキストの輪読8
- 第10回 テキストの輪読9
- 第11回 テキストの輪読10
- 第12回 テキストの輪読11
- 第13回 テキストの輪読12
- 第14回 総括

履修上の注意

報告者は、しっかりと報告資料の準備をすること。そうでないと議論ができない。担当章をパワーポイント・15シートほどで要約し、そこから論点を導き、それに対する自分の意見や考えをさらに15シートほどで報告すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告者以外も必ず事前に予習し、不明なところは各自で調べておくこと。また、『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの新聞・経済雑誌を日頃から読んでおくこと。

教科書

松井剛監訳(2015)『ソロモン消費者行動論』丸善出版。

参考書

授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

議論への貢献度50%、報告50%。

その他

積極的に参加することを求める。かなり予習が必要となるので、予習に時間を割くこと。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) CMM511J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	マーケティング経営特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 原田 将		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

春学期に引き続き、消費者行動論のテキストを輪読する。毎回、担当者が担当章の要約とそれに関する事例を報告する。

(到達目標)

マーケティング研究の最先端の知識を獲得し、マーケティング現象を分析できるようになること

授業内容

輪読する文献は、次の文献である。

松井剛監訳(2015)『ソロモン消費者行動論』丸善出版。

- 第1回 イントロダクシヨ
- 第2回 テキストの輪読1
- 第3回 テキストの輪読2
- 第4回 テキストの輪読3
- 第5回 テキストの輪読4
- 第6回 テキストの輪読5
- 第7回 テキストの輪読6
- 第8回 テキストの輪読7
- 第9回 テキストの輪読8
- 第10回 テキストの輪読9
- 第11回 テキストの輪読10
- 第12回 テキストの輪読11
- 第13回 テキストの輪読12
- 第14回 総括

履修上の注意

報告者は、しっかりと報告資料の準備をすること。そうでないと議論ができない。担当章をパワーポイント・15シートほどで要約し、そこから論点を導き、それに対する自分の意見や考えをさらに15シートほどで報告すること。また、秋学期からの履修はできない。「マーケティング経営特論A」を履修していること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告者以外も必ず事前に予習し、不明なところは各自で調べておくこと。また、『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの新聞・経済雑誌を日頃から読んでおくこと。

教科書

松井剛監訳(2015)『ソロモン消費者行動論』丸善出版。

参考書

授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

議論への貢献度50%、報告50%。

その他

積極的に参加することを求める。かなり予習が必要となるので、予習に時間を割くこと。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	国際経営特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任教授 博士(経営学) 吉村 孝司		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

グローバルな経営展開志向を基調としてきたわが国の企業経営は、依然として真のグローバル化に向けた多様かつ山積する課題に直面している。同時に、加速度的に変化する経営環境のなかで、従来とは異なる国際経営基盤の構築と整備を急務としている。

不確実で混迷する国際経済のなかで、企業経営の針路は大きく揺らぐ一方で、中国を中心とするアジアでの覇権をめぐる政治的かつ外交的な課題や、グローバルな経済連携構想の迷走、アジア市場および欧州市場における変化と混迷は、わが国の企業の進路に大きな影響をおよぼしてきている。

本講義では、国際経営に関する基本的課題をはじめとし、最新の国際経営事情を踏まえながら多方面からの考察と検討を試みたいと考える。特に日本に求められる“内なる国際化”の実現に向けた具体的な施策をいかに講じるかということを中心課題に据え、グローバルな資質に富む人的資源の開発と育成の方策を探る。

【到達目標】

本講義の受講をとおして、国際経営の現況を知るとともに、グローバル化が求められる現代において具備すべき素養および“内なる国際化”としての国際性の涵養を目標とする。

授業内容

- 第1回: イントロダクション・国際経営の概念
- 第2回: 対外直接投資
- 第3回: 多国籍企業(1) 多国籍企業の理論的考察
- 第4回: 多国籍企業(2) 多国籍企業の歴史的考察
- 第5回: 国際経営と経営組織
- 第6回: 国際経営戦略(1) 海外進出戦略
- 第7回: 国際経営戦略(2) 国際的M&A
- 第8回: 国際経営戦略(3) 現地管理
- 第9回: 国際経営戦略(4) 海外撤退戦略
- 第10回: 国際経営戦略(5) ソーシング戦略
- 第11回: 国際経営管理(1) 生産・ロジスティックス
- 第12回: 国際経営管理(2) 国際マーケティング
- 第13回: 国際経営管理(3) 人事労務
- 第14回: 国際経営事例研究および総括

履修上の注意

本講義においては、毎回の講義に対する積極的な学習姿勢が求められることは言うまでもなく、講義は受講生の取り組み方とともに高められることから、研究に対する真摯な姿勢が強く求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

シラバスに記載されている各回の講義テーマについて事前に基本情報を整理したうえで積極的に講義に参加するとともに、講義終了後における要点の整理を済ませることが望ましい。

教科書

特に定めない。必要に応じて、講義の内容に関連する先行研究、資料等を事前配布し、それらをもとに講義を進めるものとする。

参考書

特に定めない。受講生各位は適宜必要に応じて積極的に参考資料にあたることが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

受講期間内に適宜、小括を実施し、その際に理解度の確認と補足的な講義を実施することにより、習熟度の進捗を確認する。

成績評価の方法

受講時における研究姿勢に基づいて総合的に評価する。特に研究に対する真摯な姿勢を重視する。具体的には「授業への取り組みの積極性およびディスカッションへの参加」70%、「レポート」30%として評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	国際経営特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授 博士(経営学) 吉村 孝司		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

グローバルな経営展開志向を基調としてきたわが国の企業経営は、依然として真のグローバル化に向けた多様かつ山積する課題に直面している。同時に、加速度的に変化する経営環境のなかで、従来とは異なる国際経営基盤の構築と整備を急務としている。

不確実で混迷する国際経済のなかで、企業経営の針路は大きく揺らぐ一方で、中国を中心とするアジアでの覇権をめぐる政治的かつ外交的な課題や、グローバルな経済連携構想の迷走、アジア市場および欧州市場における変化と混迷は、わが国の企業の進路に大きな影響をおよぼしてきている。

本講義では、国際経営に関する基本的課題をはじめとし、最新の国際経営事情を踏まえながら多方面からの考察と検討を試みたいと考える。特に日本に求められる“内なる国際化”の実現に向けた具体的な施策をいかに講じるかということを中心課題に据え、グローバルな資質に富む人的資源の開発と育成の方策を探る。

【到達目標】

本講義の受講をとおして、国際経営の現況を知るとともに、グローバル化が求められる現代において具備すべき素養および“内なる国際化”としての国際性の涵養を目標とする。

授業内容

- 第1回: 国際経営と環境(1) ナショナリズムと国際規制
- 第2回: 国際経営と環境(2) カントリーリスク
- 第3回: 国際経営と環境(3) リスクマネジメント
- 第4回: 国際経営と環境(4) 現地経営資源の活用と管理
- 第5回: 日本企業の国際化(1) 国際競争力
- 第6回: 日本企業の国際化(2) 北米市場
- 第7回: 日本企業の国際化(3) 欧州市場
- 第8回: 日本企業の国際化(4) アジア市場
- 第9回: 日本企業の国際化(5) 日本市場における外資系企業実態
- 第10回: 国際経営における最新課題(1) 日本企業にみる最新経営課題
- 第11回: 国際経営における最新課題(2) 海外企業にみる最新経営課題
- 第12回: 国際経営事例研究(1) 日本企業の国際経営事例(ケーススタディ)
- 第13回: 国際経営事例研究(2) 海外企業の国際経営事例(ケーススタディ)
- 第14回: 総括(国際経営の概況と課題およびこれからの方向性)

履修上の注意

本講義においては、毎回の講義に対する積極的な学習姿勢が求められることは言うまでもなく、講義は受講生の取り組み方とともに高められることから、研究に対する真摯な姿勢が強く求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

シラバスに記載されている各回の講義テーマについて事前に基本情報を整理したうえで積極的に講義に参加するとともに、講義終了後における要点の整理を済ませることが望ましい。

教科書

特に定めない。必要に応じて、講義の内容に関連する先行研究、資料等を事前配布し、それらをもとに講義を進めるものとする。

参考書

特に定めない。受講生各位は適宜必要に応じて積極的に参考資料にあたることが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

受講期間内に適宜、小括を実施し、その際に理解度の確認と補足的な講義を実施することにより、習熟度の進捗を確認する。

成績評価の方法

受講時における研究姿勢に基づいて総合的に評価する。特に研究に対する真摯な姿勢を重視する。具体的には「授業への取り組みの積極性およびディスカッションへの参加」70%、「レポート」30%として評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営管理特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

本講義の狙いは2つある。1つ目は経営管理と組織についての基礎的な知識の習得である。これを通して経営管理や組織についての理論的な考え方とは何かを学習してもらいたい。もう1つは経営管理系における論文作成の方法についての基本的な知識の習得である。これらの知識を身に着けることによって、経営管理系の論文を執筆するためのスキルをマスターしてもらいたい。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 組織と管理の合理性
- 第3回 組織における効率性とルーティン
- 第4回 組織における意思決定
- 第5回 オープンシステム・モデル
- 第6回 情報処理モデル
- 第7回 組織におけるセンスメイキング
- 第8回 組織学習
- 第9回 組織能力
- 第10回 組織における知識と実践
- 第11回 組織と制度
- 第12回 取引コストアプローチ
- 第13回 組織ディスコース
- 第14回 総まとめ

履修上の注意

しっかりと準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

前の授業で次回の事業で使用する英語論文を指示する。次の事業までに必ずそれを読み、要点を整理すること。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表、レジュメ60%。議論への貢献度40%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営管理特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

本講義は、経営管理特論Aの内容をさらに補強していくことを目的としている。基礎的な知識の習得については、Aとは異なる本や論文を用いて多様な考え方を学んでいく。論文作成の方法については経営管理系の論文を執筆する上で基本となる方法論(定性的方法論)について概説する。この講義を受講することを通して定性的方法(特にケーススタディの方法)をベースに論文を執筆するスキルを身に着けてもらいたい。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 定性的方法論とは
- 第3回 理論構築の方法論
- 第4回 プロセスモデルと変数モデル
- 第5回 ケース・スタディの方法
- 第6回 ケース・スタディの設計
- 第7回 ケース・スタディの実施
- 第8回 ケース・スタディにおけるデータの収集
- 第9回 ケース・スタディにおけるデータの分析
- 第10回 ケース・スタディを通じた論文の作成
- 第11回 プロセス調査の設計
- 第12回 プロセス調査におけるデータ収集
- 第13回 プロセス調査におけるデータ分析
- 第14回 総まとめ

履修上の注意

しっかりと準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

前回の授業で次回に使用する英語論文を紹介する。必ずそれを読み、要点をまとめてくること。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表、レジュメ60%。議論への貢献度40%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
企業論系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	欧州企業論演習ⅠA (RC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(商学)	清水	一之

授業の概要・到達目標

本授業は、ESG投資、ドイツのIndustrie 4.0（第4次産業革命）、およびブロックチェーン技術という三つの領域を、「データ」という共通概念を軸として統合的に理解することを目的とする。従来、ESGは投資評価指標、Industrie 4.0は製造業における技術革新、ブロックチェーンは金融・暗号資産分野の基盤技術として、それぞれ個別に議論されてきた。本授業では、これらを相互に関連づけることで、現代資本主義における産業構造、企業価値、コーポレート・ガバナンスの容を理解するための分析ツールとして位置づける。

授業の前半では、マックス・ヴェーバーの倫理思想を手がかりに、ESG投資を単なるスコアリングや評価指標としてではなく、企業の意思決定を形成する本質的な「情報」として再定義する。あわせて、ESGとSRIの理論的差異、グリーンウォッシングの問題、年金制度や長期投資における将来価値の取り込み方について検討する。

中盤では、自動車産業を中心とした事例分析を通じて、Industrie 4.0、IoT、サイバー・フィジカル・システム（CPS）が、生産プロセスのみならず、ガバナンス構造そのものをいかに変容させているかを分析する。ここでは、企業価値が「物」として把握されてきた段階から、データによって可視化・評価される段階へと移行している点に注目し、バリューチェーンやスマイリングカーブを用いて、企業行動のデータ化とその含意を検討する。

後半では、ブロックチェーン技術が信頼の再構築、分散型ガバナンスの進展、透明性の向上に果たす役割を理論的に考察する。PoW・PoS、DAO、分散型金融（DeFi）に関する議論を通じて、生産中心の経済から、「交換の設計が価値を左右する経済への転換を捉える。

最終的に本授業では、ステークホルダー理論、ザンクト・ガレン・マネジメント・モデル、ヘーゲル弁証法、ボバーの三世界論といった学際的枠組みを用いながら、持続可能な経済モデルへの移行を理論的かつ実証的に理解する力を養う。

到達目標

1. ESG投資を、倫理・情報・ガバナンスの観点から理論的に再定義し、SRIとの違いを説明できるようになる。
2. Industrie 4.0、IoT、CPSが産業構造および企業ガバナンスに与える影響を、具体的事例と理論枠組みを用いて分析できるようになる。
3. ブロックチェーン技術の役割を、金融技術に限定せず、信頼・透明性・分散型ガバナンスの視点から評価できるようになる。
4. データ化された企業行動と価値創造を、バリューチェーンやスマイリングカーブ等を用いて説明できるようになる。
5. ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーンの相互作用を統合的に捉え、持続可能な経済・社会モデルについて自らの見解を論理的に提示できるようになる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス／問題設定
本講義の目的、分析枠組み、評価方法を説明する。ヨーロッパ経営、ESG、インダストリー 4.0、ブロックチェーンを「データ」と「ガバナンス」の視点から統合的に理解する問題意識を共有する。
- 第2回 ヨーロッパ経営学の発展
英米型経営モデルとの比較を通じて、ヨーロッパ経営学の思想的源流と理論的特徴を整理する。特にドイツにおけるステークホルダー論と社会的市場経済の形成過程を検討する。
- 第3回 Pricing Game
価格形成をめぐる理論と実践を取り上げ、アルゴリズム、競争、市場構造の関係を分析する。デジタル時代における価格決定とガバナンスの問題を考察する。
- 第4回 EUの歴史・経済 ①
EU統合の歴史的背景を、戦後復興、冷戦構造、市場統合の進展という観点から整理する。統合理念と経済秩序形成の関係を理解する。
- 第5回 Smart Factory or Smart Car?
― The concept of IoT usability (1)
インダストリー 4.0におけるIoTの基本概念を整理し、スマートファクトリーとスマートカーの比較を通じてIoTの「利用可能性(usability)」を検討する。
- 第6回 Smart Factory or Smart Car?
― The concept of IoT usability (2)
前回の議論を発展させ、IoTが生産性、組織構造、企業戦略に与える影響を分析する。製造業におけるデータ活用限界と可能性を考察する。
- 第7回 EUの経済・通貨統合 ①
単一市場および単一通貨の導入がEU経済に与えた影響を検討する。通貨統合の制度設計、財政規律、金融政策上の課題を整理する。
- 第8回 Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System
自動車産業を事例として、技術革新が企業ガバナンスに与える影響を分析する。デジタル化と組織統制の変化に焦点を当てる。
- 第9回 EUの経済モデルとEU企業・ヨーロッパ企業論
EU経済モデルの特徴を、社会的市場経済、競争政策、産業政策の観点から整理する。SE（欧州会社）制度を通じてヨーロッパ企業のガバナンスを検討する。
- 第10回 Social Responsibility of Online Charge-Free Services Providers
無料サービスを提供するオンライン事業者の社会的責任を取り上げ、データ、プラットフォーム、利用者の関係を分析する。デジタル経済における責任概念を検討する。
- 第11回 A Cybernetic Approach to Stakeholder Governance
サイバネティクス理論を用いて、ステークホルダー・ガバナンスを分析する。フィードバック、制御、情報の観点から企業統治を再解釈する。
- 第12回 Governing "Invisible Hand" by Cybernetics Approach: Understanding Adam Smith's Legacy
アダム・スミスの「見えざる手」をサイバネティクスの視点から再検討する。市場とガバナンスの関係を理論的に考察する。
- 第13回 Strategic Governance in the United States of Europe (USE): A Case Study of Volkswagen
フォルクスワーゲンを事例に、EUにおける戦略的ガバナンスと産業政策の関係を分析する。USE（ヨーロッパ合衆国）構想との関連を検討する。
- 第14回 Value and Blockchain
ブロックチェーン技術を価値創造とガバナンスの視点から総括する。ESG投資、エネルギー、モビリティとの関係を整理し、本講義全体を統合的に振り返る。

履修上の注意

欧州企業論演習ⅠBの履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義では、配付レジュメおよび教科書の関連書籍を事前に読み、論点や不明点を整理する。学生同士の簡単な意見交換や関連資料による補足的な下調べを行い、授業内容を振り返った上で疑問点は授業で質問すること。あわせて次回講義のレジュメ・参考書に目を通す。準備学習時間は1回45分程度を目安とする。

教科書

Kazuyuki Shimizu "ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain", Springer, 2025.（公刊予定）

参考書

『ドイツのマネジメント学』Horst Steinmann, Georg Schreyogg, Jochen Koch著, 清水一之翻訳, 2019年4月出版。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価は原則として講義内においてフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価は原則として講義出席及び講義内議論・発言(100%)で判断する。詳しくは初回授業において明示する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
企業論系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	欧州企業論演習ⅠB (RC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(商学)	清水	一之

授業の概要・到達目標

本授業は、ESG投資、ドイツのIndustrie 4.0（第4次産業革命）、およびブロックチェーン技術という三つの領域を、「データ」という共通概念を軸として統合的に理解することを目的とする。従来、ESGは投資評価指標、Industrie 4.0は製造業における技術革新、ブロックチェーンは金融・暗号資産分野の基盤技術として、それぞれ個別に議論されてきた。本授業では、これらを相互に関連づけることで、現代資本主義における産業構造、企業価値、コーポレート・ガバナンスの変容を理解するための分析ツールとして位置づける。

授業の前半では、マックス・ヴェーバーの倫理思想を手がかりに、ESG投資を単なるスコアリングや評価指標としてではなく、企業の意思決定を形成する本質的な「情報」として再定義する。あわせて、ESGとSRIの理論的差異、グリーンウォッシングの問題、年金制度や長期投資における将来価値の取り込み方について検討する。

中盤では、自動車産業を中心とした事例分析を通じて、Industrie 4.0、IoT、サイバー・フィジカル・システム（CPS）が生産プロセスのみならず、ガバナンス構造そのものをいかに変容させているかを分析する。ここでは、企業価値が「物」として把握されてきた段階から、データによって可視化・評価される段階へと移行している点に注目し、バリューチェーンやスマイリングカーブを用いて、企業行動のデータ化とその含意を検討する。

後半では、ブロックチェーン技術が信頼の再構築、分散型ガバナンスの進展、透明性の向上に果たす役割を理論的に考察する。PoW・PoS、DAO、分散型金融（DeFi）に関する議論を通じて、生産中心の経済から、「交換の設計が価値を左右する経済への転換を捉える。

最終的に本授業では、ステークホルダー理論、ザンクト・ガレン・マネジメント・モデル、ヘーゲル弁証法、ボバーの三世界論といった学際的枠組みを用いながら、持続可能な経済モデルへの移行を理論的かつ実証的に理解する力を養う。

到達目標

1. ESG投資を、倫理・情報・ガバナンスの観点から理論的に再定義し、SRIとの違いを説明できるようになる。
2. Industrie 4.0、IoT、CPSが産業構造および企業ガバナンスに与える影響を、具体的事例と理論枠組みを用いて分析できるようになる。
3. ブロックチェーン技術の役割を、金融技術に限定せず、信頼・透明性・分散型ガバナンスの視点から評価できるようになる。
4. データ化された企業行動と価値創造を、バリューチェーンやスマイリングカーブ等を用いて説明できるようになる。

ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーンの相互作用を統合的に捉え、持続可能な経済・社会モデルについて自らの見解を論理的に提示できるようになる。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション:本講義の概要
講義の目的、分析枠組み、評価方法を説明する。ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーン、AI・DAOを軸に、後期講義全体の問題意識と理論的射程を共有する。
- 第2回 ESG投資の理論的基礎:
Comply or Explain のジレンマとSRI・ESGの方法論
コーポレート・ガバナンスにおける「Comply or Explain」を起点に、SRIからESGへの概念転換と倫理的投資の方法論的变化を整理する。
- 第3回 ESG投資の展開 ②:
評価指標から意思決定情報へ
ESGを単なる評価スコアではなく、企業意思決定を支える情報体系として再定義し、移行期における用語・概念の混乱(transitional terminology)を検討する。
- 第4回 Industrie 4.0: デジタル技術と生産・組織の再編
Industrie 4.0の基本構造を整理し、IoT、CPS、DXが生産体制とガバナンスに与える影響を理論的に検討する。
- 第5回 Blockchain and Biometrics Authorization: What We Actually Count Truly Counts?
ブロックチェーンと生体認証を手がかりに、「何を計測し、何を価値として数えるのか」というデータ統治の根本問題を考察する。
- 第6回 Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity and Corporate Governance: The Case of Merck KGaA and Merck & Co. ①
機関投資家の多様性と投資期間の違いが、企業ガバナンスに与える影響を独米製薬企業の比較を通じて分析する。
- 第7回 Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity and Corporate Governance: The Case of Merck KGaA and Merck & Co. ②
企業統治とESG戦略の比較分析
Merck KGaA（独）とMerck & Co./MSD（米）のガバナンス構造とESG戦略を整理し、制度差の意味を検討する。
- 第8回 EUと企業の社会性ードイツ化学産業を中心に
EU規制下における化学産業の社会的責任と、特にドイツの独占・寡占化したドイツ化学産業について学習する。
- 第9回 Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System
日本独自の自動車産業の産業構造についてスマイルカーブ分析や他の理論モデルを利用して分析する。
- 第10回 The process of value transformation due to the countervailing power of DAO by AI
ブロックチェーン・マイニングをめぐる批判を検討し、ガバナンスの関係をPOWとPOSの観点から考察する。
- 第11回 Bullshit Blockchain Mining?
デジタル化が労働構造と市場競争に与える影響を、組織の官僚化とBlockchainによる柔軟な組織形態への架け橋を独占・競争政策・ESGの観点から分析する。
- 第12回 Digital transformation of work and ESG: Perspectives on monopoly and fair trade
プラットフォーム経済における労働問題と規制のあり方を検討し、ESGと特にGig労働（ソフトウェア・エンジニア）のOnline Workそして仕事のデジタル化における社会保険性制度の展開を整理する。
- 第13回 Digital transformation of work and ESG: ②
SGと社会保険性制度の関係を整理し、分散型経済の将来像を検討する。
- 第14回 総括: Designing Time: ESG Investment, Blockchain, and the Convergence of Mobility and Energy in the Digital Era
後期講義全体を振り返り、ESG投資、AI、ブロックチェーンがもたらす価値変容とガバナンス再設計を統合的に整理する。

履修上の注意

欧州企業論演習ⅠAの履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義では、配付レジュメおよび教科書の関連書籍を事前に読み、論点や不明点を整理する。学生同士の簡単な意見交換や関連資料による補足的な下調べを行い、授業内容を振り返った上で疑問点は授業で質問すること。あわせて次回講義のレジュメ・参考書に目を通す。準備学習時間は1回45分程度を目安とする。

教科書

Kazuyuki Shimizu "ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain", Springer, 2025.（公刊予定）

参考書

『ドイツのマネジメント学』Horst Steinmann, Georg Schreyogg, Jochen Koch著, 清水一之翻訳, 2019年4月出版。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価は原則として講義内においてフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価は原則として講義出席及び講義内議論・発言(100%)で判断する。詳しくは初回授業において明示する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	欧州企業論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(商学) 清水 一之		

授業の概要・到達目標

本授業は、ESG投資、ドイツのIndustrie 4.0（第4次産業革命）、およびブロックチェーン技術という三つの領域を、「データ」という共通概念を軸として統合的に理解することを目的とする。従来、ESGは投資評価指標、Industrie 4.0は製造業における技術革新、ブロックチェーンは金融・暗号資産分野の基盤技術として、それぞれ個別に議論されてきた。本授業では、これらを相互に関連づけることで、現代資本主義における産業構造、企業価値、コーポレート・ガバナンスの変容を理解するための分析ツールとして位置づける。

授業の前半では、マックス・ヴェーバーの倫理思想を手がかりに、ESG投資を単なるスコアリングや評価指標としてではなく、企業の意思決定を形成する本質的な「情報」として再定義する。あわせて、ESGとSRIの理論的差異、グリーンウォッシングの問題、年金制度や長期投資における将来価値の取り込み方について検討する。

中盤では、自動車産業を中心とした事例分析を通じて、Industrie 4.0、IoT、サイバー・フィジカル・システム(CPS)が、生産プロセスのみならず、ガバナンス構造そのものをいかに変容させているかを分析する。ここでは、企業価値が「物」として把握されてきた段階から、データによって可視化・評価される段階へと移行している点に注目し、バリューチェーンやスマイリングカーブを用いて、企業行動のデータ化とその含意を検討する。

後半では、ブロックチェーン技術が信頼の再構築、分散型ガバナンスの進展、透明性の向上に果たす役割を理論的に考察する。PoW・PoS、DAO、分散型金融(DeFi)に関する議論を通じて、生産中心の経済から、「交換の設計が価値を左右する経済」への転換を捉える。

最終的に本授業では、ステークホルダー理論、ザンクト・ガレン・マネジメント・モデル、ヘーゲル弁証法、ボバーの三世界論といった学際的枠組みを用いながら、持続可能な経済モデルへの移行を理論的かつ実証的に理解する力を養う。

到達目標

1. ESG投資を、倫理・情報・ガバナンスの観点から理論的に再定義し、SRIとの違いを説明できるようになる。
2. Industrie 4.0、IoT、CPSが産業構造および企業ガバナンスに与える影響を、具体的事例と理論枠組みを用いて分析できるようになる。
3. ブロックチェーン技術の役割を、金融技術に限定せず、信頼・透明性・分散型ガバナンスの視点から評価できるようになる。
4. データ化された企業行動と価値創造を、バリューチェーンやスマイリングカーブ等を用いて説明できるようになる。

ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーンの相互作用を統合的に捉え、持続可能な経済・社会モデルについて自らの見解を論理的に提示できるようになる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス／問題設定
本講義の目的、分析枠組み、評価方法を説明する。ヨーロッパ経営、ESG、インダストリー4.0、ブロックチェーンを「データ」と「ガバナンス」の視点から統合的に理解する問題意識を共有する。
- 第2回 ヨーロッパ経営学的发展
英米型経営モデルとの比較を通じて、ヨーロッパ経営学の思想的源流と理論的特徴を整理する。特にドイツにおけるステークホルダー志向と社会的市場経済の形成過程を検討する。
- 第3回 Pricing Game
価格形成をめぐる理論と実践を取り上げ、アルゴリズム、競争、市場構造の関係を分析する。デジタル時代における価格決定とガバナンスの問題を考察する。
- 第4回 EUの歴史・経済①
EU統合の歴史的背景を、戦後復興、冷戦構造、市場統合の進展という観点から整理する。統合理念と経済秩序形成の関係を理解する。
- 第5回 Smart Factory or Smart Car?
― The concept of IoT usability ①
インダストリー4.0におけるIoTの基本概念を整理し、スマートファクトリーとスマートカーの比較を通じてIoTの「利用可能性 (usability)」を検討する。
- 第6回 Smart Factory or Smart Car?
― The concept of IoT usability ②
前回の議論を発展させ、IoTが生産性、組織構造、企業戦略に与える影響を分析する。製造業におけるデータ活用の限界と可能性を考察する。
- 第7回 EUの経済・通貨統合①
単一市場および単一通貨の導入がEU経済に与えた影響を検討する。通貨統合の制度設計、財政規律、金融政策上の課題を整理する。
- 第8回 Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System
自動車産業を事例として、技術革新が企業ガバナンスに与える影響を分析する。デジタル化と組織統制の変化に焦点を当てる。
- 第9回 EUの経済モデルとEU企業・ヨーロッパ企業論
EU経済モデルの特徴を、社会的市場経済、競争政策、産業政策の観点から整理する。SE (欧州会社) 制度を通じてヨーロッパ企業のガバナンスを検討する。
- 第10回 Social Responsibility of Online Charge-Free Services Providers
無料サービスを提供するオンライン事業者の社会的責任を取り上げ、データ、プラットフォーム、利用者の関係を分析する。デジタル経済における責任概念を検討する。
- 第11回 A Cybernetic Approach to Stakeholder Governance
サイバネティクス理論を用いて、ステークホルダー・ガバナンスを分析する。フィードバック、制御、情報の観点から企業統治を再解釈する。
- 第12回 Governing "Invisible Hand" by Cybernetics Approach: Understanding Adam Smith's Legacy
アダム・スミスの「見えざる手」をサイバネティクスの観点から再検討する。市場とガバナンスの関係を理論的に考察する。
- 第13回 Strategic Governance in the United States of Europe (USE): A Case Study of Volkswagen
フォルクスワーゲンを事例に、EUにおける戦略的ガバナンスと産業政策の関係を分析する。USE (ヨーロッパ合衆国) 構想との関連を検討する。
- 第14回 Value and Blockchain
ブロックチェーン技術を価値創造とガバナンスの視点から総括する。ESG投資、エネルギー、モビリティとの関係を整理し、本講義全体を統合的に振り返る。

履修上の注意

欧州企業論演習ⅡBの履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義では、配付レジュメおよび教科書の関連書籍を事前に読み、論点や不明点を整理する。学生同士の簡単な意見交換や関連資料による補足的な下調べを行い、授業内容を振り返った上で疑問点は授業で質問すること。あわせて次回講義のレジュメ・参考書に目を通す。準備学習時間は1回45分程度を目安とする。

教科書

Kazuyuki Shimizu "ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain", Springer, 2025. (公刊予定)

参考書

『ドイツのマネジメント学』Horst Steinmann, Georg Schreyogg, Jochen Koch 著, 清水一之翻訳, 2019年4月出版。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価は原則として講義内においてフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価は原則として講義出席及び講義内議論、発言(100%)で判断する。詳しくは初回授業において明示する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	欧州企業論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(商学) 清水 一之		

授業の概要・到達目標

本授業は、ESG投資、ドイツのIndustrie 4.0（第4次産業革命）、およびブロックチェーン技術という三つの領域を、「データ」という共通概念を軸として統合的に理解することを目的とする。従来、ESGは投資評価指標、Industrie 4.0は製造業における技術革新、ブロックチェーンは金融・暗号資産分野の基盤技術として、それぞれ個別に議論されてきた。本授業では、これらを相互に関連づけることで、現代資本主義における産業構造、企業価値、コーポレート・ガバナンスの変容を理解するための分析ツールとして位置づける。

授業の前半では、マックス・ヴェーバーの倫理思想を手がかりに、ESG投資を単なるスコアリングや評価指標としてではなく、企業の意思決定を形成する本質的な「情報」として再定義する。あわせて、ESGとSRIの理論的差異、グリーンウォッシングの問題、年金制度や長期投資における将来価値の取り込み方について検討する。

中盤では、自動車産業を中心とした事例分析を通じて、Industrie 4.0、IoT、サイバー・フィジカル・システム(CPS)が、生産プロセスのみならず、ガバナンス構造そのものをいかに変容させているかを分析する。ここでは、企業価値が「物」として把握されてきた段階から、データによって可視化・評価される段階へと移行している点に注目し、バリューチェーンやスマイリングカーブを用いて、企業行動のデータ化とその含意を検討する。

後半では、ブロックチェーン技術が信頼の再構築、分散型ガバナンスの進展、透明性の向上に果たす役割を理論的に考察する。PoW・PoS、DAO、分散型金融(DeFi)に関する議論を通じて、生産中心の経済から、「交換の設計が価値を左右する経済」への転換を捉える。

最終的に本授業では、ステークホルダー理論、ザンクト・ガレン・マネジメント・モデル、ヘーゲル弁証法、ボバーの三世界論といった学際的枠組みを用いながら、持続可能な経済モデルへの移行を理論的かつ実証的に理解する力を養う。

到達目標

1. ESG投資を、倫理・情報・ガバナンスの観点から理論的に再定義し、SRIとの違いを説明できるようになる。
2. Industrie 4.0、IoT、CPSが産業構造および企業ガバナンスに与える影響を、具体的事例と理論枠組みを用いて分析できるようになる。
3. ブロックチェーン技術の役割を、金融技術に限定せず、信頼・透明性・分散型ガバナンスの視点から評価できるようになる。
4. データ化された企業行動と価値創造を、バリューチェーンやスマイリングカーブ等を用いて説明できるようになる。

ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーンの相互作用を統合的に捉え、持続可能な経済・社会モデルについて自らの見解を論理的に提示できるようになる。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション:本講義の概要
講義の目的、分析枠組み、評価方法を説明する。ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーン、AI・DAOを軸に、後期講義全体の問題意識と理論的射程を共有する。
- 第2回 ESG投資の理論的基礎
Comply or Explain のジレンマとSRI-ESGの方法論
コーポレート・ガバナンスにおける「Comply or Explain」を起点に、SRIからESGへの概念転換と倫理的投資の方法論的変化を整理する。
- 第3回 ESG投資の展開①
評価指標から意思決定情報へ
ESGを単なる評価スコアではなく、企業意思決定を支える情報体系として再定義し、移行期における用語・概念の混乱(transitional terminology)を検討する。
- 第4回 Industrie 4.0:デジタル技術と生産・組織の再編
Industrie 4.0の基本構造を整理し、IoT、CPS、DXが生産体制とガバナンスに与える影響を理論的に検討する。
- 第5回 Blockchain and Biometrics Authorization: What We Actually Count Truly Counts?
ブロックチェーンと生体認証を手がかりに、「何を計測し、何を価値として数えるのか」というデータ統治の根本問題を考察する。
- 第6回 Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity and Corporate Governance: The Case of Merck KGaA and Merck & Co. ①
機関投資家の多様性と投資期間の違いが、企業ガバナンスに与える影響を独米製薬企業の比較を通じて分析する。
- 第7回 Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity and Corporate Governance: The Case of Merck KGaA and Merck & Co. ②
企業統治とESG戦略の比較分析
Merck KGaA (独) と Merck & Co./MSD (米) のガバナンス構造とESG戦略を整理し、制度差の意味を検討する。
- 第8回 EUと企業の社会性ードイツ化学産業を中心に
EU規制下における化学産業の社会的責任と、特にドイツの独占・寡占化したドイツ化学産業について学習する。
- 第9回 Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System
日米欧の自動車産業の産業構造についてスマイルカーブ分析や他の理論モデルを利用して分析する。
- 第10回 The process of value transformation due to the countervailing power of DAO by AI
ブロックチェーン・マイニングをめぐる批判を検討し、ガバナンスの関係をPOWとPOSの観点から考察する。
- 第11回 Bullshit Blockchain Mining
デジタル化が労働構造と市場競争に与える影響を、組織の官僚化とBlockchainによる柔軟な組織形態への架け橋を独占・競争政策-ESGの観点から分析する。
- 第12回 Digital transformation of work and ESG: Perspectives on monopoly and fair trade
プラットフォーム経済における労働問題と規制のあり方を検討し、ESGと特にGig労働(ソフトウェア・エンジニア)のOnline Workそして仕事のデジタル化における社会保障性制度の展開を整理する。
- 第13回 Digital transformation of work and ESG: ②
SGと社会保障性制度の関係を整理し、分散型経済の将来像を検討する。
- 第14回 総括: Designing Time: ESG Investment, Blockchain, and the Convergence of Mobility and Energy in the Digital Era
後期講義全体を振り返り、ESG投資、AI、ブロックチェーンがもたらす価値変容とガバナンス再設計を統合的に整理する。

履修上の注意

欧州企業論演習ⅡAの履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義では、配付レジュメおよび教科書の関連書籍を事前に読み、論点や不明点を整理する。学生同士の簡単な意見交換や関連資料による補足的な下調べを行い、授業内容を振り返った上で疑問点は授業で質問すること。あわせて次回講義のレジュメ・参考書に目を通す。準備学習時間は1回45分程度を目安とする。

教科書

Kazuyuki Shimizu "ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain", Springer, 2025. (公刊予定)

参考書

『ドイツのマネジメント学』Horst Steinmann, Georg Schreyogg, Jochen Koch 著, 清水一之翻訳, 2019年4月出版。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価は原則として講義内においてフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価は原則として講義出席及び講義内議論、発言(100%)で判断する。詳しくは初回授業において明示する。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN512J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	中小企業論演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

(授業概要)

日本では中小企業研究が盛んにおこなわれてきており、その歴史も古い。このことは、日本において、中小企業問題が顕著に現れているということを物語っているといえる。また、この中小企業研究において、その対象となる中小企業の観方が、経済環境の変化とともに変わってきていることも興味あるところである。このことについて、「中小企業観の変化は、中小企業の実態の変化を表現しているものなのか」という疑問の声も少なくない。ここでは、そうした議論をふまえて、中小企業の実態を探っていくとともに、中小企業問題の理論研究をおこなっていく。

(到達目標)

修士論文作成に向けた必要知識の習得。

授業内容

第1回 インTRODクッション
第2回 研究テーマ相談
第3回 研究計画作成
第4回 先行研究論文調査
第5回 文献リスト作成・指導
第6回 文献の確認・指導
第7回 基本資料講読および討論
第8回 基本資料講読および仮説の検証
第9回 論文構想の確認
第10回 実証研究方法の検討
第11回 実証研究の進捗報告
第12回 研究作業の課題の確認
第13回 論文のテーマの修正案の提示
第14回 論文構想最終発表

履修上の注意

(履修上の注意)

修士論文の作成を目的としているので、履修者の研究報告をもとに議論していく。受け身の講義の場ではないことに注意すること。

(準備学習)

中小企業研究の基本的な文献については一通り通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマに関連する学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

修士論文の作成に向けての授業であるため、特にテキストを用いることはせず、随時必要文献を指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN512J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	中小企業論演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

(授業概要)

演習ⅠAでおこなった授業を踏まえて、さらに中小企業問題の理論研究をおこなっていく。その内容については、世界的にも手も長い歴史と蓄積を持つ日本の中小企業研究をあらためてレビューし、今日的な問題意識をもって中小企業のおかれている現状を客観的に把握するとともに、問題解決に向けての理論的な研究を目指す。

(到達目標)

修士論文作成に向けた必要知識の習得。

授業内容

第1回 インTRODクッション
第2回 研究テーマ相談
第3回 研究計画作成
第4回 先行研究論文調査
第5回 文献リスト作成・指導
第6回 文献の確認・指導
第7回 基本資料講読および討論
第8回 基本資料講読および仮説の検証
第9回 論文構想の確認
第10回 実証研究方法の検討
第11回 実証研究の進捗報告
第12回 研究作業の課題の確認
第13回 論文のテーマの修正案の提示
第14回 論文構想最終発表

履修上の注意

(履修上の注意)

修士論文の作成を目的としているので、履修者の研究報告をもとに議論していく。受け身の講義の場ではないことに注意すること。

(準備学習)

中小企業研究の基本的な文献については一通り通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

修士論文の作成に向けての授業であるため、特にテキストを用いることはせず、随時必要文献を指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN612J			
企業論系		備考	
科目名	中小企業論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

(授業概要)

演習ⅠA・Bでおこなった授業を踏まえて、さらに中小企業問題の理論研究をおこなっていく。その内容については、世界的にも手も長い歴史と蓄積を持つ日本の中小企業研究をあらためてレビューし、今日的な問題意識をもって中小企業のおかれている現状を客観的に把握するとともに、問題解決に向けての理論的な研究を目指す。

(到達目標)

修士論文作成に向けた必要知識の習得。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 研究計画作成
- 第4回 先行研究論文調査
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論
- 第8回 基本資料講読および仮説の検証
- 第9回 論文構想の確認
- 第10回 実証研究方法の検討
- 第11回 実証研究の進捗報告
- 第12回 研究作業の課題の確認
- 第13回 論文のテーマの修正案の提示
- 第14回 論文構想最終発表

履修上の注意

(履修上の注意)

修士論文の作成を目的としているので、履修者の研究報告をもとに議論していく。受け身の講義の場ではないことに注意すること。

(準備学習)

中小企業研究の基本的な文献については一通り通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマに関連する学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

修士論文の作成に向けての授業であるため、特にテキストを用いることはせず、随時必要文献を指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN612J			
企業論系		備考	
科目名	中小企業論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

(授業概要)

演習ⅠA・BならびにⅡAでおこなった授業を踏まえて、さらに中小企業問題の理論研究をおこなっていく。その内容については、世界的にも手も長い歴史と蓄積を持つ日本の中小企業研究をあらためてレビューし、今日的な問題意識をもって中小企業のおかれている現状を客観的に把握するとともに、問題解決に向けての理論的な研究を目指す。

(到達目標)

修士論文作成に向けた必要知識の習得をもとに修士論文の完成。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 研究計画作成
- 第4回 先行研究論文調査
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論
- 第8回 基本資料講読および仮説の検証
- 第9回 論文構想の確認
- 第10回 実証研究方法の検討
- 第11回 実証研究の進捗報告
- 第12回 研究作業の課題の確認
- 第13回 論文のテーマの修正案の提示
- 第14回 論文構想最終発表

履修上の注意

(履修上の注意)

修士論文の作成を目的としているので、履修者の研究報告をもとに議論していく。受け身の講義の場ではないことに注意すること。

(準備学習)

中小企業研究の基本的な文献については一通り通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

修士論文の作成に向けての授業であるため、特にテキストを用いることはせず、随時必要文献を指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	東アジア企業論演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

この授業では、国有企業、民営企業、外資系企業の事例を中心に、その改革と成長の歴史を振り返るとともに、既存の経営管理方式の長所と短所を吟味し、外国企業の経営管理方式と融合するプロセスを考察し、現在形成されつつある中国の経営管理方式の特質を考察する。

中国における改革開放政策実施の究極的目標は、競争力のある企業の創出により経済発展を図り、国民生活を向上させることにある。中国企業は、改革・開放政策を実施して以後、政府主導の下で企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式・技術を吸収、習得し、進化してきた。かつての国営「工場」から、改革開放後の30数年間において、いかなるプロセスを経て多岐にわたる競争のある多様化の形態の企業を創出し得たのか、現状との問題点はなにか、どの程度まで進化を遂げたのか、中国企業の創出と成長の過程を考察することによって、現時点の中国企業の進化の到達点を把握し、今後の課題を検討する。

授業内容

第1回：中国企業の創出と進化
第2回：国有企業の改革
第3回：国有企業の技術形成
第4回：国有企業の人材育成
第5回：国有企業の労務管理
第6回：民営企業の生成
第7回：民営企業の成長
第8回：民営企業の企業家
第9回：民営企業の経営管理
第10回：民営企業の地域制
第11回：外資系企業の経営管理
第12回：外資系企業の労務管理
第13回：外資系企業の人材育成
第14回：外資系企業の技術移転
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

李捷生等『日系企業の人事・労務管理—人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015年11月6日発行

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業でのレポートおよび期末レポートによる。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	東アジア企業論演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

この授業では、国有企業、民営企業、外資系企業の事例を中心に、その改革と成長の歴史を振り返るとともに、既存の経営管理方式の長所と短所を吟味し、外国企業の経営管理方式と融合するプロセスを考察し、現在形成されつつある中国の経営管理方式の特質を考察する。

中国における改革開放政策実施の究極的目標は、競争力のある企業の創出により経済発展を図り、国民生活を向上させることにある。中国企業は、改革・開放政策を実施して以後、政府主導の下で企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式・技術を吸収、習得し、進化してきた。かつての国営「工場」から、改革開放後の30数年間において、いかなるプロセスを経て多岐にわたる競争のある多様化の形態の企業を創出し得たのか、現状との問題点はなにか、どの程度まで進化を遂げたのか、中国企業の創出と成長の過程を考察することによって、現時点の中国企業の進化の到達点を把握し、今後の課題を検討する。

授業内容

第1回：国有企業の歴史
第2回：国有企業の事例研究1
第3回：国有企業の事例研究2
第4回：国有企業の事例研究3
第5回：国有企業の事例研究4
第6回：民営企業の生成
第7回：民営企業の事例研究1
第8回：民営企業の事例研究2
第9回：民営企業の事例研究3
第10回：民営企業の事例研究4
第11回：外資導入と外資系企業
第12回：合併企業の実例研究
第13回：独資企業の実例研究
第14回：外資系企業の実例研究
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

李捷生等『日系企業の人事・労務管理—人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015年11月6日発行

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業でのレポートおよび期末レポートによる。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN662J			
企業論系		備考	
科目名	東アジア企業論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

この授業では、国有企業、民営企業、外資系企業の事例を中心に、その改革と成長の歴史を振り返るとともに、既存の経営管理方式の長所と短所を吟味し、外国企業の経営管理方式と融合するプロセスを考察し、現在形成されつつある中国の経営管理方式の特質を考察する。

中国における改革開放政策実施の究極的目標は、競争力のある企業の創出により経済発展を図り、国民生活を向上させることにある。中国企業は、改革・開放政策を実施して以後、政府主導の下で企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式・技術を吸収、習得し、進化してきた。かつての国営「工場」から、改革開放後の30数年間において、いかなるプロセスを経て多岐にわたる競争のある多様化の形態の企業を創出し得たのか、現状との問題点はなにか、どの程度まで進化を遂げたのか、中国企業の創出と成長の過程を考察することによって、現時点の中国企業の進化の到達点を把握し、今後の課題を検討する。

授業内容

- 第1回：中国企業の創出と進化
- 第2回：国有企業の改革
- 第3回：国有企業の技術形成
- 第4回：国有企業の人材育成
- 第5回：国有企業の労務管理
- 第6回：民営企業の生成
- 第7回：民営企業の成長
- 第8回：民営企業の企業家
- 第9回：民営企業の経営管理
- 第10回：民営企業の地域制
- 第11回：外資系企業の経営管理
- 第12回：外資系企業の労務管理
- 第13回：外資系企業の人材育成
- 第14回：外資系企業の技術移転

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

李捷生等『日系企業の人事・労務管理—人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015年11月6日発行

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業でのレポートおよび期末レポートによる。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN662J			
企業論系		備考	
科目名	東アジア企業論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

この授業では、国有企業、民営企業、外資系企業の事例を中心に、その改革と成長の歴史を振り返るとともに、既存の経営管理方式の長所と短所を吟味し、外国企業の経営管理方式と融合するプロセスを考察し、現在形成されつつある中国の経営管理方式の特質を考察する。

中国における改革開放政策実施の究極的目標は、競争力のある企業の創出により経済発展を図り、国民生活を向上させることにある。中国企業は、改革・開放政策を実施して以後、政府主導の下で企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式・技術を吸収、習得し、進化してきた。かつての国営「工場」から、改革開放後の30数年間において、いかなるプロセスを経て多岐にわたる競争のある多様化の形態の企業を創出し得たのか、現状との問題点はなにか、どの程度まで進化を遂げたのか、中国企業の創出と成長の過程を考察することによって、現時点の中国企業の進化の到達点を把握し、今後の課題を検討する。

授業内容

- 第1回：国有企業の歴史
- 第2回：国有企業の事例研究1
- 第3回：国有企業の事例研究2
- 第4回：国有企業の事例研究3
- 第5回：国有企業の事例研究4
- 第6回：民営企業の生成
- 第7回：民営企業の事例研究1
- 第8回：民営企業の事例研究2
- 第9回：民営企業の事例研究3
- 第10回：民営企業の事例研究4
- 第11回：外資導入と外資系企業
- 第12回：合併企業の事例研究
- 第13回：独資企業の事例研究
- 第14回：外資系企業の事例研究

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

李捷生等『日系企業の人事・労務管理—人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015年11月6日発行

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業でのレポートおよび期末レポートによる。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
企業論系		備 考	
科 目 名	現代企業特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師	博士(経営学)	境 陸

授業の概要・到達目標

・授業の概要

本講義では、企業の存在意義、企業形態の歴史と分類、株式会社の構造と意義、企業と市場、所有構造について、多角的な視点から検討し、議論する。

・到達目標

学生が企業の構造について体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。そして現代的な課題に繋がるような提言ができるようにする。

授業内容

- 第1回 企業とは何か
- 第2回 企業とは何か リスクテイクとリターン
- 第3回 企業形態1
- 第4回 企業形態2
- 第5回 株式会社の構造と意義
- 第6回 企業と労働力市場
- 第7回 企業と商品・サービス市場
- 第8回 企業と資本市場
- 第9回 M&A
- 第10回 経営統合と持ち株会社
- 第11回 所有構造と経営
- 第12回 経営者とコーポレート・ガバナンス
- 第13回 経営のしくみと経営者報酬
- 第14回 機関投資家とコーポレート・ガバナンス

履修上の注意

履修者は受け身にならず積極的に発言することが求められる。ミクロ経済学と経済数学の知識が一部必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前にテキストを熟読しておくこと。

教科書

坂本恒夫・大阪良宏・鳥居陽介(2015)『テキスト 現代企業論(第四版)』同文館出版。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を提示した日の翌週の講義で解説の時間を設けて、議論する。

成績評価の方法

毎回の発言・発表内容50%、最終レポート50%。

その他

ミクロ経済学と経済数学の知識が必要である。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
企業論系		備 考	春学期開講
科 目 名	現代企業特論B		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師	博士(経営学)	境 陸

授業の概要・到達目標

・授業の概要

本講義では、企業の存在意義、企業形態の歴史と分類、株式会社の構造と意義、企業と市場、所有構造について、多角的な視点から検討し、議論する。

・到達目標

学生が企業の構造について体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。そして現代的な課題に繋がるような提言ができるようにする。

授業内容

- 第1回 企業とは何か
- 第2回 企業とは何か リスクテイクとリターン
- 第3回 企業形態1
- 第4回 企業形態2
- 第5回 株式会社の構造と意義
- 第6回 企業と労働力市場
- 第7回 企業と商品・サービス市場
- 第8回 企業と資本市場
- 第9回 M&A
- 第10回 経営統合と持ち株会社
- 第11回 所有構造と経営
- 第12回 経営者とコーポレート・ガバナンス
- 第13回 経営のしくみと経営者報酬
- 第14回 機関投資家とコーポレート・ガバナンス

履修上の注意

履修者は受け身にならず積極的に発言することが求められる。ミクロ経済学と経済数学の知識が一部必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前にテキストを熟読しておくこと。

教科書

坂本恒夫・大阪良宏・鳥居陽介(2015)『テキスト 現代企業論(第四版)』同文館出版。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を提示した日の翌週の講義で解説の時間を設けて、議論する。

成績評価の方法

毎回の発言・発表内容50%、最終レポート50%。

その他

ミクロ経済学と経済数学の知識が必要である。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	中小企業特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

概要

日本の中小企業問題について、問題の解明と課題克服を目指す、歴史的視点をもって展開していく。

海外から見た日本の中小企業の現状・経営動向について比較検討もしていく。

到達目標

日本の中小企業問題を理解し、問題解決の方策を見出す。

授業内容

中小企業問題は、資本主義の独占段階一般において生じる問題であり、世界中の資本主義国において、どこにでも見られる問題であるといわれている。しかし、とりわけ日本は、中小企業問題が深刻な国であるといわれ、その研究の歴史も古い。ここでは、そうした研究をレビューするとともに、中小企業とは何か、中小企業問題とは何か、なぜ中小企業の定義が必要で、企業一般と区別して捉える必要があるのかといった問題意識からスタートし、中小企業問題の移り変わりをみつつ、中小企業経営の実態を考察していく。

また、欧米の中小企業研究との比較も交え、日本の特殊性を明らかにしていくことも重要なものとして考察していく。

授業の進捗に関しては、およそ以下のような順で授業を進めていく。

- 第1回 導入(最近の中小企業の動向)
- 第2回 中小企業の定義
- 第3回 国民経済における中小企業の位置
- 第4回 中小企業の存立形態
- 第5回 中小企業問題の登場とその研究
- 第6回 高度経済成長と中小企業近代化
- 第7回 低成長期の中小企業
- 第8回 バブル経済から今日の中小企業経営
- 第9回 下請問題
- 第10回 系列問題
- 第11回 中小商業問題
- 第12回 商店街と地域活性化
- 第13回 国際化と中小企業
- 第14回 情報化と中小企業

ただし、履修者との相談によって項目の変更をすることもある。

履修上の注意

大学院の授業なので、ただ講義を聴くということではなく、履修者の研究報告をもとに議論していく場であることを理解した上で履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

開講時に指示する。

参考書

岡田編著『中小企業のIT経営論』同友館

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-o! Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	中小企業特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

概要

中小企業特論Aをさらに発展させた形で、個別企業の成長戦略により焦点を当てて日本の中小企業問題の解明と課題克服を目指すしていく。

到達目標

日本の中小企業問題を理解し、問題解決の方策を見出す。

授業内容

バブル崩壊以降、中小企業の成長・発展にたいする期待が高まった。創業支援、新分野進出支援など中小企業にたいする積極的支援策が展開されてきている。そうした中、かつて中小企業の典型的存立形態であった下請型中小企業は、自立化の道を目指して「脱下請」をはかっている。

従来、中小企業問題では、「そのすべてではないが、かなりの部分を占めるもの」として下請問題が指摘されてきた。下請それ自体が変わってきている中で、中小企業問題をどう捉え直すのかといった点を中心に考察していく。中小製造業の問題が中心となる。

授業の進捗に関しては、およそ以下のような順で授業を進めていく。

- 第1回 導入
- 第2回 近年の中小企業・ベンチャービジネスの動向について
- 第3回 二重構造論と中堅企業論
- 第4回 ベンチャービジネス論登場とその経済的背景
- 第5回 ベンチャービジネス
- 第6回 ベンチャービジネス・ブーム
- 第7回 中小企業を巡る金融環境
- 第8回 ベンチャーキャピタルの現状
- 第9回 証券市場の動向
- 第10回 起業・創業環境の変化
- 第11回 中小企業のイノベーション
- 第12回 ベンチャービジネスの経営課題
- 第13回 課題克服に向けた戦略策定
- 第14回 中小企業政策とベンチャービジネス

履修者との相談によって項目を変更することもある。

履修上の注意

大学院の授業なので、ただ講義を聴くということではなく、履修者の研究報告をもとに議論していく場であることを理解した上で履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

開講時に指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-o! Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
企業論系		備 考	
科 目 名	欧州企業特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(商学)	清水	一之

授業の概要・到達目標

本授業は、ESG投資、ドイツのIndustrie 4.0（第4次産業革命）、およびブロックチェーン技術という三つの領域を、「データ」という共通概念を軸として統合的に理解することを目的とする。従来、ESGは投資評価指標、Industrie 4.0は製造業における技術革新、ブロックチェーンは金融・暗号資産分野の基盤技術として、それぞれ個別に議論されてきた。本授業では、これらを相互に関連づけることで、現代資本主義における産業構造、企業価値、コーポレート・ガバナンスの変容を理解するための分析ツールとして位置づける。

授業の前半では、マックス・ヴェーバーの倫理思想を手がかりに、ESG投資を単なるスコアリングや評価指標としてではなく、企業の意思決定を形成する本質的な「情報」として再定義する。あわせて、ESGとSRIの理論的差異、グリーンウォッシングの問題、年金制度や長期投資における将来価値の取り込み方について検討する。

中盤では、自動車産業を中心とした事例分析を通じて、Industrie 4.0、IoT、サイバー・フィジカル・システム(CPS)が、生産プロセスのみならず、ガバナンス構造そのものをいかに変容させているかを分析する。ここでは、企業価値が「物」として把握されてきた段階から、データによって可視化・評価される段階へと移行している点に注目し、バリューチェーンやスマイリングカーブを用いて、企業行動のデータ化とその含意を検討する。

後半では、ブロックチェーン技術が信頼の再構築、分散型ガバナンスの進展、透明性の向上に果たす役割を理論的に考察する。PoW・PoS、DAO、分散型金融(DeFi)に関する議論を通じて、生産中心の経済から、「交換の設計」が価値を左右する経済への転換を捉える。

最終的に本授業では、ステークホルダー理論、ザンクト・ガレン・マネジメント・モデル、ヘーゲル弁証法、ボバーの三世界論といった学際的枠組みを用いながら、持続可能な経済モデルへの移行を理論的かつ実証的に理解する力を養う。

到達目標

1. ESG投資を、倫理・情報・ガバナンスの観点から理論的に再定義し、SRIとの違いを説明できるようになる。
2. Industrie 4.0、IoT、CPSが産業構造および企業ガバナンスに与える影響を、具体的事例と理論枠組みを用いて分析できるようになる。
3. ブロックチェーン技術の役割を、金融技術に限定せず、信頼・透明性・分散型ガバナンスの観点から評価できるようになる。
4. データ化された企業行動と価値創造を、バリューチェーンやスマイリングカーブ等を用いて説明できるようになる。

ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーンの相互作用を統合的に捉え、持続可能な経済・社会モデルについて自らの見解を論理的に提示できるようになる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス／問題設定
本講義の目的、分析枠組み、評価方法を説明する。ヨーロッパ経営、ESG、インダストリー 4.0、ブロックチェーンと「データ」と「ガバナンス」の視点から統合的に理解する問題意識を共有する。
- 第2回 ヨーロッパ経営学の発展
英米型経営モデルとの比較を通じて、ヨーロッパ経営学の思想的源流と理論的特徴を整理する。特にドイツにおけるステークホルダー論と社会的市場経済の形成過程を検討する。
- 第3回 Pricing Game
価格形成をめぐる理論と実践を取り上げ、アルゴリズム、競争、市場構造の関係を分析する。デジタル時代における価格決定とガバナンスの問題を考察する。
- 第4回 EUの歴史・経済 ①
EU統合の歴史的背景を、戦後復興、冷戦構造、市場統合の進展という観点から整理する。統合理念と経済秩序形成の関係を理解する。
- 第5回 Smart Factory or Smart Car?
― The concept of IoT usability (1)
インダストリー 4.0におけるIoTの基本概念を整理し、スマートファクトリーとスマートカーの比較を通じてIoTの「利用可能性(usability)」を検討する。
- 第6回 Smart Factory or Smart Car?
― The concept of IoT usability (2)
前回の議論を発展させ、IoTが生産性、組織構造、企業戦略に与える影響を分析する。製造業におけるデータ活用の限界と可能性を考察する。
- 第7回 EUの経済・通貨統合 ①
単一市場および単一通貨の導入がEU経済に与えた影響を検討する。通貨統合の制度設計、財政規律、金融政策上の課題を整理する。
- 第8回 Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System
自動車産業を事例として、技術革新が企業ガバナンスに与える影響を分析する。デジタル化と組織統制の変化に焦点を当てる。
- 第9回 EUの経済モデルとEU企業・ヨーロッパ企業論
EU経済モデルの特徴を、社会的市場経済、競争政策、産業政策の観点から整理する。SE（欧州会社）制度を通じてヨーロッパ企業のガバナンスを検討する。
- 第10回 Social Responsibility of Online Charge-Free Services Providers
無料サービスを提供するオンライン事業者の社会的責任を取り上げ、データ、プラットフォーム、利用者の関係を分析する。デジタル経済における責任概念を検討する。
- 第11回 A Cybernetic Approach to Stakeholder Governance
サイバネティクス理論を用いて、ステークホルダー・ガバナンスを分析する。フィードバック、制御、情報の観点から企業統治を再解釈する。
- 第12回 Governing "Invisible Hand" by Cybernetics Approach: Understanding Adam Smith's Legacy
アダム・スミスの「見えざる手」をサイバネティクスの視点から再検討する。市場とガバナンスの関係を理論的に考察する。
- 第13回 Strategic Governance in the United States of Europe (USE): A Case Study of Volkswagen
フォルクスワーゲンを事例に、EUにおける戦略的ガバナンスと産業政策の関係を分析する。USE（ヨーロッパ合衆国）構想との関連を検討する。
- 第14回 Value and Blockchain
ブロックチェーン技術を価値創造とガバナンスの視点から総括する。ESG投資、エネルギー、モビリティとの関係を整理し、本講義全体を統合的に振り返る。

履修上の注意

欧州企業論演習 I Bの履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義では、配付レジュメおよび教科書の関連書籍を事前に読み、論点や不明点を整理する。学生同士の簡単な意見交換や関連資料による補足的な下調べを行い、授業内容を振り返った上で疑問点は授業で質問すること。あわせて次回講義のレジュメ・参考書に目を通す。準備学習時間は1回45分程度を目安とする。

教科書

Kazuyuki Shimizu "ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain", Springer, 2025.（公刊予定）

参考書

『ドイツのマネジメント学』Horst Steinmann, Georg Schreyogg, Jochen Koch著、清水一之翻訳, 2019年4月出版。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価は原則として講義内においてフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価は原則として講義出席及び講義内議論、発言(100%)で判断する。詳しくは初回授業において明示する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
企業論系		備 考	
科 目 名	欧州企業特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(商学)	清水	一之

授業の概要・到達目標

本授業は、ESG投資、ドイツのIndustrie 4.0（第4次産業革命）、およびブロックチェーン技術という三つの領域を、「データ」という共通概念を軸として統合的に理解することを目的とする。従来、ESGは投資評価指標、Industrie 4.0は製造業における技術革新、ブロックチェーンは金融・暗号資産分野の基盤技術として、それぞれ個別に議論されてきた。本授業では、これらを相互に関連づけることで、現代資本主義における産業構造、企業価値、コーポレート・ガバナンスの変容を理解するための分析ツールとして位置づける。

授業の前半では、マックス・ヴェーバーの倫理思想を手がかりに、ESG投資を単なるスコアリングや評価指標としてではなく、企業の意思決定を形成する本質的な「情報」として再定義する。あわせて、ESGとSRIの理論的差異、グリーンウォッシングの問題、年金制度や長期投資における将来価値の取り込み方について検討する。

中盤では、自動車産業を中心とした事例分析を通じて、Industrie 4.0、IoT、サイバー・フィジカル・システム(CPS)が、生産プロセスのみならず、ガバナンス構造そのものをいかに変容させているかを分析する。ここでは、企業価値が「物」として把握されてきた段階から、データによって可視化・評価される段階へと移行している点に注目し、バリューチェーンやスマイリングカーブを用いて、企業行動のデータ化とその含意を検討する。

後半では、ブロックチェーン技術が信頼の再構築、分散型ガバナンスの進展、透明性の向上に果たす役割を理論的に考察する。PoW・PoS、DAO、分散型金融(DeFi)に関する議論を通じて、生産中心の経済から、「交換の設計」が価値を左右する経済への転換を捉える。

最終的に本授業では、ステークホルダー理論、ザンクト・ガレン・マネジメント・モデル、ヘーゲル弁証法、ボバーの三世界論といった学際的枠組みを用いながら、持続可能な経済モデルへの移行を理論的かつ実証的に理解する力を養う。

到達目標

1. ESG投資を、倫理・情報・ガバナンスの観点から理論的に再定義し、SRIとの違いを説明できるようになる。
2. Industrie 4.0、IoT、CPSが産業構造および企業ガバナンスに与える影響を、具体的事例と理論枠組みを用いて分析できるようになる。
3. ブロックチェーン技術の役割を、金融技術に限定せず、信頼・透明性・分散型ガバナンスの観点から評価できるようになる。
4. データ化された企業行動と価値創造を、バリューチェーンやスマイリングカーブ等を用いて説明できるようになる。

ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーンの相互作用を統合的に捉え、持続可能な経済・社会モデルについて自らの見解を論理的に提示できるようになる。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション:本講義の概要
講義の目的、分析枠組み、評価方法を説明する。ESG、Industrie 4.0、ブロックチェーン、AI・DAOを軸に、後期講義全体の問題意識と理論的射程を共有する。
- 第2回 ESG投資の理論的基礎
Comply or Explain、グリーンマとSRI・ESGの方法論
コーポレート・ガバナンスにおける「Comply or Explain」を起点に、SRIからESGへの概念転換と倫理的投資の方法論的変化を整理する。
- 第3回 ESG投資の展開 ②
評価指標から意思決定情報へ
ESGを単なる評価スコアではなく、企業意思決定を支える情報体系として再定義し、移行期における用語・概念の混乱(translational terminology)を検討する。
- 第4回 Industrie 4.0: デジタル技術と生産・組織の再編
Industrie 4.0の基本構造を整理し、IoT、CPS、DXが生産体制とガバナンスに与える影響を理論的に検討する。
- 第5回 Blockchain and Biometrics Authorization: What We Actually Count Truly Counts?
ブロックチェーンと生体認証を手がかりに、「何を計測し、何を価値として数えるのか」というデータ統治の根本問題を考察する。
- 第6回 Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity and Corporate Governance: The Case of Merck KGaA and Merck & Co. ①
機関投資家の多様性と投資期間の違いが、企業ガバナンスに与える影響を独米製薬企業の比較を通じて分析する。
- 第7回 Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity and Corporate Governance: The Case of Merck KGaA and Merck & Co. ②
企業統治とESG戦略の比較分析
Merck KGaA（独）とMerck & Co./MSD（米）のガバナンス構造とESG戦略を整理し、制度差の意味を検討する。
- 第8回 EUと企業の社会性―ドイツ化学産業を中心に
EU規制下における化学産業の社会的責任と、特にドイツの独占・寡占化したドイツ化学産業について学習する。
- 第9回 Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System
日米独の自動車産業の産業構造についてスマイルカーブ分析や他の理論モデルを利用して分析する。
- 第10回 The process of value transformation due to the countervailing power of DAO by AI
ブロックチェーン・マイニングをめぐる批判を検討し、ガバナンスの関係をPOWとPOSの観点から考察する。
- 第11回 Bullshit Blockchain Mining?
デジタル化が労働構造と市場競争に与える影響を、組織の官僚化とBlockchainによる柔軟な組織形態への架け橋を独占・競争政策・ESGの観点から分析する。
- 第12回 Digital transformation of work and ESG: Perspectives on monopoly and fair trade
プラットフォーム経済における労働問題と規制のあり方を検討し、ESGと特にGig労働（ソフトウェア・エンジニア）のOnline Workそして仕事のデジタル化における社会保険性制度の展開を整理する。
- 第13回 Digital transformation of work and ESG: ②
SGと社会保険性制度の関係を整理し、分散型経済の将来像を検討する。
- 第14回 総括: Designing Time: ESG Investment, Blockchain, and the Convergence of Mobility and Energy in the Digital Era
後期講義全体を振り返り、ESG投資、AI、ブロックチェーンがもたらす価値変容とガバナンス再設計を統合的に整理する。

履修上の注意

欧州企業論演習 I Aの履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義では、配付レジュメおよび教科書の関連書籍を事前に読み、論点や不明点を整理する。学生同士の簡単な意見交換や関連資料による補足的な下調べを行い、授業内容を振り返った上で疑問点は授業で質問すること。あわせて次回講義のレジュメ・参考書に目を通す。準備学習時間は1回45分程度を目安とする。

教科書

Kazuyuki Shimizu "ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain", Springer, 2025.(公刊予定)

参考書

『ドイツのマネジメント学』Horst Steinmann, Georg Schreyogg, Jochen Koch著、清水一之翻訳, 2019年4月出版。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価は原則として講義内においてフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価は原則として講義出席及び講義内議論、発言(100%)で判断する。詳しくは初回授業において明示する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
企業論系		備考	
科目名	東アジア企業特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 経済学博士	郝	燕書

授業の概要・到達目標

企業制度、企業組織、雇用システム、生産システム、企業の技術形態、企業の経営戦略、人材育成等諸側面において、欧米諸国の企業の諸特徴に触れながら、東アジアの代表である日中韓企業の比較を行い、その諸特質を考察し、それぞれの共通点、相違点等を検討する。

授業内容

第1回：講義の概要を解説、院生の研究課題の把握
 第2回：企業体制の国際比較
 第3回：日米独の企業管理システム
 第4回：日本企業のシステム
 第5回：中国企業のシステム
 第6回：日中企業システム特徴の比較
 第7回：日本企業の人本主義システム
 第8回：中国企業の人間主義システム
 第9回：企業システムの人的側面の比較
 第10回：日本企業の雇用システム
 第11回：中国企業の雇用システム
 第12回：日中企業の雇用システムの比較
 第13回：日本企業の生産システム
 第14回：中国企業の生産システム
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

李捷生等『日系企業の人事・労務管理—人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015年11月6日発行

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
 その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

討論参加・発表・レポートの状況など総合状況による評価。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
企業論系		備考	
科目名	東アジア企業特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 経済学博士	郝	燕書

授業の概要・到達目標

東アジアにおける代表的な企業である日本企業、韓国企業、華人企業の中国大陸の進出および現地経営に焦点を当て、中国で同企業を取り巻く経営環境の変化、経営組織、管理、さらには華人の行動パターンなどの諸側面及び諸特質を考察し、その共通点、相違点等を比較し検討する。

授業内容

第1回：講義の概要を解説、院生の研究課題の把握
 第2回：中国における外資系の諸形態
 第3回：日系企業の概要と特徴
 第4回：日系独資企業の事例
 第5回：日系合弁企業の事例
 第6回：日系電機企業の事例
 第7回：日系自動車企業の事例
 第8回：華人系企業の概要と特徴
 第9回：華人系企業の事例
 第10回：台湾系企業の概要と特徴
 第11回：台湾系巨大EMS企業の事例
 第12回：韓国系企業の概要と特徴
 第13回：韓国系電機企業の事例
 第14回：韓国系自動車企業の事例
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

李捷生等『日系企業の人事・労務管理—人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015年11月6日発行

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
 その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

討論参加・発表・レポートの状況など総合状況による評価。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN591J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	経済地理学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼担教授 博士(学術)	中澤 高志	

授業の概要・到達目標

経済地理学は、広い意味での経済活動が、なぜ、ある特定の場所で、そのような形で行われているのかを論理的に説明することを学問的な目的としている、と理解されている。本授業では、こうした日本におけるオーソドックスな経済地理学の内容を学ぶ。これは、後期の経済地理学特論Bにおいて展開される、新たな経済地理学の模索の土台をなすものである。講義の主な内容は、経済地理学のテキスト『キーワードで読む経済地理学』の講読ならびにそれに基づく討論である。

授業内容

第1講では、経済地理学とはいかなる学問なのかについて、一般的に解説する。第2講からは、担当者がレジュメを元に内容を報告し、それに基づくディスカッションを、参加者全員で行う。『キーワードで読む経済地理学』は、700頁を超える著作であり、Ⅰ. 基礎理論から新しい概念へ、Ⅱ. 産業空間の進化、Ⅲ. 都市と社会、Ⅳ. 政策の4部に分かれているので、それぞれから3章ずつ選んで講読することとする。

- 第1講 経済地理学とは何か
- 第2講 基礎理論から新しい概念へ1
- 第3講 基礎理論から新しい概念へ2
- 第4講 基礎理論から新しい概念へ3
- 第5講 産業空間の進化1
- 第6講 産業空間の進化2
- 第7講 産業空間の進化3
- 第8講 都市と社会1
- 第9講 都市と社会2
- 第10講 都市と社会3
- 第11講 政策1
- 第12講 政策2
- 第13講 政策3
- 第14講 本講義のまとめ

履修上の注意

- ・報告担当者は十分な準備をした上で報告に望むこと。
- ・その他の受講者は、予習を必ずしてくること。
- ・積極的に発言すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・報告担当者は、十分な準備をした上で報告に望むこと。
- ・その他の受講者は、予習を必ずしてくること。

教科書

経済地理学会編2018.『キーワードで読む経済地理学』原書房。オンデマンド出版なので、下記などから注文して購入すること。4,180円
https://honto.jp/netstore/pd-book_30732386.html

参考書

川端基夫『改訂版 立地ウォーズ―企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』新評論, 2,592円
この書籍は、経営学部向けの経済地理学と呼べるものであり、その内容も適宜紹介していく予定である。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

報告レジュメ、報告内容、授業中の発言により、総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN591J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	経済地理学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼担教授 博士(学術)	中澤 高志	

授業の概要・到達目標

一般的な経済地理学のテキストは、立地論の説明とその実証的適用に重点が置かれていることが多い。しかし、そうした合理主義的・還元主義的な方法論によって経済とその地理を認識することは、今日ではますます難しくなっている。本広義では、戦後日本を題材としながら、「経済地理学」における「経済」とは何であり、その「経済」なるものは、どのようにしたら理解できるのかという存在論的・認識論的問いに少しでも答えることを目指す。

授業内容

以下の内容の講義を中心とするが、受講者の意見をしばしば求めるので、その際には積極的に発言すること。

1. 経済地理学のアイデンティティ
2. 立地論の思考法
3. 経済の2つの意味
4. 生態学的認識論
5. 「労働力の地理」から「労働の地理学」へ
6. 制度化された全国労働市場
7. 農村工業化と地域労働市場
8. 成長から停滞へ
9. フレキシビリティというリスク
10. 脱資本主義化する地域労働市場
11. 海外で働く
12. 複線化するライフコース
13. 地方創生の目的論
14. 社会の自己防衛あるいはアポトーシス

履修上の注意

- ・前期の経済地理学特論Aを受講しているか、経済地理学の基礎的な知識を身に付けていることが望ましい。
- ・積極的に発言すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・講義の中で紹介する参考文献を独習する積極性がほしい。

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は、毎回の講義資料に含まれている。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業中の発言などにより、総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
経営科学系		備考	
科目名	経営技術特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	特任教授 経済学博士 新宅 純二郎		

授業の概要・到達目標

技術にかかわる経営問題について、基本的な概念について学ぶ。教科書をベースに学ぶが、適宜、関連する研究論文も取り上げる。技術にかかわる研究論文を構想できるような知識を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 初回 ガイダンス
 第1回 MOTの役割と視点
 第2回 組織能力の役割
 第3回 製品アーキテクチャ
 第4回 コア技術戦略
 第5回 プラットフォーム戦略
 第6回 イノベーションの理論と本質
 第7回 組織構造のデザイン
 第8回 組織プロセスのマネジメント
 第9回 プロジェクト知識のマネジメント
 第10回 顧客価値創造の事業システム
 第11回 事業システムのデザインとマネジメント
 第12回 企業間ネットワークとマネジメント
 第13回 付加価値創造のための組織能力構築に向けたMOTの実践
 第14回 まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書で取り上げる章と、参考文献について読んで理解してくること。
 また、毎回レジュメを提出し、学期中に何度か発表することを義務とする。

教科書

延岡健太郎『MOT[技術経営]入門』日経BP、2020年。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックする。

成績評価の方法

提出されたレジュメ、発表、出席など、平常点で総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
経営科学系		備考	
科目名	経営技術特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	特任教授 経済学博士 新宅 純二郎		

授業の概要・到達目標

技術にかかわる問題の中で、新製品開発に焦点を絞って学習する。最初の4回は教科書を使って、新製品開発の基礎について学ぶ。その後は、国内、海外の学術雑誌に掲載された論文を取りあげて、輪読することで先端的な研究について学んでいく。新製品開発の研究論文を正確に理解し、この分野の研究を構想できることを到達目標とする。

授業内容

- 初回 ガイダンス
 第1回 製品開発の基礎(①-13章)
 第2回 製品開発とその短縮(①-14章)
 第3回 開発コスト・開發生産性とその向上(①-15章)
 第4回 総合商品力と開発の組織・プロセス(①-16章)
 第5回 研究開発戦略(①-17章)
 第6回 製品開発の基本構造とコンティンジェンシー仮説(②-11章)
 第7回 産業別開発プロセスの見取り図(②-12章)
 第8回 研究論文
 第9回 研究論文
 第10回 研究論文
 第11回 研究論文
 第12回 研究論文
 第13回 研究論文
 第14回 まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書で取り上げる章と、論文について読んで理解してくること。
 また、毎回レジュメを提出し、学期中に何度か発表することを義務とする。

教科書

- ①藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞社、2001年。
 ②藤本隆宏・安本雅典『成功する製品開発』有斐閣、2000年。

参考書

後半で取り上げる論文は、随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックする。

成績評価の方法

提出されたレジュメ、発表、出席など、平常点で総合的に評価する。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN511J			
経営科学系		備考	
科目名	組織経済学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 三上 真寛		

授業の概要・到達目標

組織の経済学は、現代経済学において重要な位置を占めるとともに経営学との関連も深い新制度派経済学の一分野であり、合理的な経済行動あるいはその阻害要因に基づいて企業組織における制度の形成発展を説明する諸理論の統合体である。この授業では、主要文献の講読を通して、経営学研究においても用いられることの多い取引費用理論、エージェンシー理論、所有権理論などの諸理論を修得しながら、新制度派経済学の根底にある諸前提および方法論を検討する。

〈到達目標〉
組織の経済学の主要な概念・理論・数理モデルについて統合的な理解を得ること、それにより経済学的な観点から企業組織の様態を考察できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 組織は重要か
第3回 経済組織と効率性(1)：前半
第4回 経済組織と効率性(2)：後半
第5回 コーディネーションと動機づけにおける価格の役割(1)：前半
第6回 コーディネーションと動機づけにおける価格の役割(2)：後半
第7回 中間まとめ
第8回 計画と行動のコーディネーション(1)：前半
第9回 計画と行動のコーディネーション(2)：後半
第10回 限定合理性と私的情報(1)：前半
第11回 限定合理性と私的情報(2)：後半
第12回 モラル・ハザードと業績インセンティブ(1)：前半
第13回 モラル・ハザードと業績インセンティブ(2)：後半
第14回 まとめ

履修上の注意

大学院レベルの授業であるため、学部レベルのミクロ経済学及び経済数学の基礎知識が必要となる。使用する教科書は理論的かつ大部な文献であり、数理的理解にも重きをおくことから、決して容易ではない。事前の教科書の全体(数学的問題含む)に目を通し、自身の研究テーマにとっての必要性や研究計画に鑑みて、慎重に履修を検討すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で発表担当者となることが見込まれる。教科書を精読し要約を作成してくること、数学の演習問題の解答を作成してくることが必須の課題となる。準備学習として相当な時間と労力を要するため、自身の研究テーマにとっての必要性や研究計画に鑑みて、慎重に履修を検討すること。

教科書

『組織の経済学』ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ著、奥野正寛ほか訳(NTT出版)、1997年。

参考書

『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著(学文社)、2020年。
『市場競争のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著(学文社)、2022年。
『経済理論と認知科学：ミクロの説明』ドン・ロス著、長尾史郎監訳、三上真寛訳(学文社)、2018年。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

試験やレポートではなく、議論への積極的な参加・発言(60%)と発表・課題への取り組み(40%)によって評価する。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN511J			
経営科学系		備考	
科目名	組織経済学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 三上 真寛		

授業の概要・到達目標

組織の経済学は、現代経済学において重要な位置を占めるとともに経営学との関連も深い新制度派経済学の一分野であり、合理的な経済行動あるいはその阻害要因に基づいて企業組織における制度の形成発展を説明する諸理論の統合体である。この授業では、主要文献の講読を通して、経営学研究においても用いられることの多い取引費用理論、エージェンシー理論、所有権理論などの諸理論を修得しながら、新制度派経済学の根底にある諸前提および方法論を検討する。

〈到達目標〉
組織の経済学の主要な概念・理論・数理モデルについて統合的な理解を得ること、それにより経済学的な観点から企業組織の様態を考察できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 リスク・シェアリングとインセンティブ契約
第3回 レントと効率性
第4回 所有と財産権
第5回 雇用政策と人的資源のマネジメント
第6回 内部労働市場、職務配置、昇進
第7回 中間まとめ
第8回 報酬と動機づけ
第9回 経営者および管理者の報酬
第10回 投資とファイナンスの古典的理論
第11回 金融構造、所有、コーポレート・コントロール
第12回 企業の境界と構造
第13回 経営・経済システムの進化
第14回 まとめ

履修上の注意

大学院レベルの授業であるため、学部レベルのミクロ経済学及び経済数学の基礎知識が必要となる。使用する教科書は理論的かつ大部な文献であり、数理的理解にも重きをおくことから、決して容易ではない。事前の教科書の全体(数学的問題含む)に目を通し、自身の研究テーマにとっての必要性や研究計画に鑑みて、慎重に履修を検討すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で発表担当者となることが見込まれる。教科書を精読し要約を作成してくること、数学の演習問題の解答を作成してくることが必須の課題となる。準備学習として相当な時間と労力を要するため、自身の研究テーマにとっての必要性や研究計画に鑑みて、慎重に履修を検討すること。

教科書

『組織の経済学』ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ著、奥野正寛ほか訳(NTT出版)、1997年。

参考書

『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著(学文社)、2020年。
『市場競争のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著(学文社)、2022年。
『経済理論と認知科学：ミクロの説明』ドン・ロス著、長尾史郎監訳、三上真寛訳(学文社)、2018年。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

試験やレポートではなく、議論への積極的な参加・発言(60%)と発表・課題への取り組み(40%)によって評価する。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN592J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営社会学演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山下 充		

授業の概要・到達目標

本演習では、社会学のアプローチを用いながら企業活動の研究をおこなうスキルを養成することを目的とする。経営活動における集団や個人の活動に焦点をあて、雇用システム、労働の歴史、人事組織などに関する諸研究を先行研究として、企業の実態を多様な観点から考察する。社会学のアプローチを習得することを主眼とする。

授業内容

1. 経営社会学、社会学の基礎的アプローチ
2. 隣接領域との共通性と違い
3. 他の社会学分野との関係
4. キャリアとは
5. キャリアと個人のライフスタイル
6. 日本企業と長期雇用
7. 長期雇用の国際的多様性
8. 雇用システムと資本主義の多様性
9. 内部労働市場と人事組織の関係
10. 長期雇用の歴史(経営家族主義)
11. 労働と豊かさ
12. 労働者集団内における公正さ
13. 働き方改革と効率性
14. 社会学アプローチからみた労働のゆくえ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

指示した文献を事前に読んでレジュメを作成すること。

教科書

受講者に合わせた課題で授業をおこなうため、指定なし。

参考書

小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充(2015)『働くこと』を社会学する一産業・労働社会学』有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

対面授業を基本とするので、対面授業で報告についてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

参加における習熟度(80%)と報告内容(20%)で評価をおこなう。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN592J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営社会学演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山下 充		

授業の概要・到達目標

本演習では、社会学のアプローチを用いながら企業活動の研究をおこなうスキルを養成することを目的とする。経営活動における集団や個人の活動に焦点をあて、雇用システム、労働の歴史、人事組織などに関する諸研究を先行研究として、企業の実態を多様な観点から考察する。社会学のアプローチを習得することを主眼とする。演習Ⅰを踏まえて、演習Ⅱではより深く企業と組織の分析をおこない、より高度な分析スキルを身につける。

授業内容

1. 研究とは何か
2. 研究に求められるアカデミックスキルの確認
3. リサーチ手法の検討
4. 問題関心の設定
5. 研究課題の構想
6. 研究課題の構想、再検討
7. 研究課題の構想に必要な先行研究の整理
8. 先行研究の概要報告
9. 先行研究の個別報告
10. 先行研究の個別報告2
11. 競合アプローチの比較検討
12. 競合アプローチの整理
13. 論文の構成方法
14. イントロダクション、本論、結論の構成

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

体系的な教育によりアカデミックライティングがおこなえるようにする。方法的な知識を身につけ、それを使えるようにすることに主眼を置く。

教科書

指定なし

参考書

小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充(2015)『働くこと』を社会学する一産業・労働社会学』有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

対面授業を基本とするので、対面授業で報告についてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

参加における習熟度(80%)と報告内容(20%)で評価をおこなう。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN692J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営社会学演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山下 充		

授業の概要・到達目標

本演習では、社会学のアプローチを用いながら企業活動の研究をおこなうスキルを養成することを目的とする。経営活動における集団や個人の活動に焦点をあて、雇用システム、労働の歴史、人事組織などに関する諸研究を先行研究として、企業の実態を多様な観点から考察する。社会学のアプローチを習得することを主眼とする。

授業内容

1. 経営社会学、社会学の基礎的アプローチ
2. 隣接領域との共通性と違い
3. 他の社会学分野との関係
4. キャリアとは
5. キャリアと個人のライフスタイル
6. 日本企業と労働
7. 日本的雇用システム
8. 組織と社会的ネットワーク
9. ジェンダー
10. ジェンダーと日本的雇用システム
11. テクノロジーが変える労働
12. 雇用の多様化
13. ワークライフバランス
14. 雇用多様化と公正さ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

指示した文献を事前に読んでレジュメを作成すること。

教科書

指定なし

参考書

小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充(2015)『働くこと』を社会学する一産業・労働社会学』有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

対面授業を基本とするので、対面授業で報告についてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

参加における習熟度(80%)と報告内容(20%)で評価をおこなう。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN692J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営社会学演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山下 充		

授業の概要・到達目標

本演習では、社会学のアプローチを用いながら企業活動の研究をおこなうスキルを養成することを目的とする。経営活動における集団や個人の活動に焦点をあて、雇用システム、労働の歴史、人事組織などに関する諸研究を先行研究として、企業の実態を多様な観点から考察する。社会学のアプローチを習得することを主眼とする。演習Ⅰを踏まえて、演習Ⅱではより深く企業と組織の分析をおこない、より高度な分析スキルを身につける。

授業内容

1. 研究とは何か
2. 研究に求められるアカデミックスキルの確認
3. リサーチ手法の検討
4. 問題関心の設定
5. 研究課題の構想
6. 研究課題の構想、再検討
7. 研究課題の構想に必要な先行研究の整理
8. 先行研究の概要報告
9. 先行研究の個別報告
10. 先行研究の個別報告2
11. 競合アプローチの比較検討
12. 競合アプローチの整理
13. 論文の構成方法
14. イントロダクション、本論、結論の構成

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

体系的な教育によりアカデミックライティングがおこなえるようにする。方法的な知識を身につけ、それを使えるようにすることに主眼を置く。

教科書

受講者に合わせた課題で授業をおこなうため、指定なし。

参考書

小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充(2015)『働くこと』を社会学する一産業・労働社会学』有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

対面授業を基本とするので、対面授業で報告についてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

参加における習熟度(80%)と報告内容(20%)で評価をおこなう。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN532J			
人事・労務系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	企業内教育論演習ⅠA（RC）		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授 博士（経営学）早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆すること，および人事労務管理，および企業内教育の生成過程について学術的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨン
第2回 修士論文執筆計画の発表1
第3回 修士論文執筆計画の発表2
第4回 企業内教育に関する論文1
第5回 企業内教育に関する論文2
第6回 企業内教育に関する論文3
第7回 企業内教育に関する論文4
第8回 修士論文執筆計画の発表3
第9回 修士論文執筆計画の発表4
第10回 企業内教育に関する論文5
第11回 企業内教育に関する論文6
第12回 企業内教育に関する論文7
第13回 修士論文執筆計画の発表5
第14回 修士論文執筆計画の発表6

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み，自分なりの感想や意見，疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ，自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN532J			
人事・労務系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	企業内教育論演習ⅠB（RC）		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授 博士（経営学）早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆するための構想を行いながら，人事労務管理，および企業内教育の生成過程について学術的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨン
第2回 修士論文執筆計画の発表1
第3回 修士論文執筆計画の発表2
第4回 企業内教育に関する論文1
第5回 企業内教育に関する論文2
第6回 企業内教育に関する論文3
第7回 企業内教育に関する論文4
第8回 修士論文執筆計画の発表3
第9回 修士論文執筆計画の発表4
第10回 企業内教育に関する論文5
第11回 企業内教育に関する論文6
第12回 企業内教育に関する論文7
第13回 修士論文執筆計画の発表5
第14回 修士論文執筆計画の発表6

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み，自分なりの感想や意見，疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ，自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

特に指定しない

参考書

特に指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN632J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	企業内教育論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆すること、および人事労務管理、および企業内教育の生成過程について学術的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 修士論文執筆計画の発表1
第3回 修士論文執筆計画の発表2
第4回 企業内教育に関する論文1
第5回 企業内教育に関する論文2
第6回 企業内教育に関する論文3
第7回 企業内教育に関する論文4
第8回 修士論文執筆計画の発表3
第9回 修士論文執筆計画の発表4
第10回 企業内教育に関する論文5
第11回 企業内教育に関する論文6
第12回 企業内教育に関する論文7
第13回 修士論文執筆計画の発表5
第14回 修士論文執筆計画の発表6

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

特に指定しない

参考書

特に指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN632J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	企業内教育論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆すること、および人事労務管理、および企業内教育の生成過程について学術的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 修士論文執筆計画の発表1
第3回 修士論文執筆計画の発表2
第4回 企業内教育に関する論文1
第5回 企業内教育に関する論文2
第6回 企業内教育に関する論文3
第7回 企業内教育に関する論文4
第8回 修士論文執筆計画の発表3
第9回 修士論文執筆計画の発表4
第10回 企業内教育に関する論文5
第11回 企業内教育に関する論文6
第12回 企業内教育に関する論文7
第13回 修士論文執筆計画の発表5
第14回 修士論文執筆計画の発表6

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

特に指定しない

参考書

特に指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN532J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営労務演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化とAI、IoTといった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。それは、従来考えられてきたような日本と欧米の違いというものを超え、グローバル企業に共有の普遍性として、大学生の採用や働き方、働きかたとして現れるようになってきている。

論文輪読およびグループワークにより考察することを通じて、変化の内実に近づくことを到達目標とする。中期的目標としては、論文執筆にあたってのテーマ設定、参考文献の収集、論文の書き方、調査方法、プレゼンテーションの方法等を身に着けることであり、到達目標としては修士論文執筆にあたっての仮説の設定、章立てが構成を完成させることにある。

授業内容

- 第1講 インTRODクシヨ
- 第2講 文献輪読1
- 第3講 文献輪読2
- 第4講 文献輪読3
- 第5講 学生よりテーマ設定および参考文献リストについて報告1
- 第6講 学生よりテーマ設定および参考文献リストについて報告2
- 第7講 学生よりテーマ設定および参考文献リストについて報告3
- 第8講 文献輪読4
- 第9講 文献輪読5
- 第10講 文献輪読6
- 第11講 文献輪読7
- 第12講 学生より自らのテーマについての中間報告1
- 第13講 学生より自らのテーマについての中間報告2
- 第14講 学生より自らのテーマについての中間報告3

履修上の注意

経営労務特論を受講しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

グループワークの時間をとること。

教科書

特に定めない。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、発表内容50%。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN532J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営労務演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

企業活動は利益を追求するだけに存在するわけではなく、社会的な役割を担っている。人事労務管理は社会、経済、政治的なつながりのなかで変化を遂げてきているが、これまでの変化がどのようなものだったのか、そしてそうした変化のなかでどのように人事労務管理は変わっていかねばならないのかについて議論を通じながら考察する。

到達目標は授業に参加する一人ひとりにとってのふさわしい人事労務管理について現時点の解を示すことができるようになることであるとともに、修士論文を書くためのテーマ設定、仮説の提示、参考文献整理、章立てなどを構築ができるようになることである。

授業内容

- 第1講 インTRODクシヨ
- 第2講 グループワーク1
- 第3講 グループワーク2
- 第4講 グループワーク報告
- 第5講 文献輪読1
- 第6講 文献輪読2
- 第7講 文献輪読3
- 第8講 文献輪読4
- 第9講 文献輪読5
- 第10講 学生より論文テーマに関する中間報告1
- 第11講 学生より論文テーマに関する中間報告2
- 第12講 学生より論文テーマに関する中間報告3
- 第13講 中間報告論文指導1
- 第14講 中間報告論文指導2

履修上の注意

経営労務特論を受講しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読用の書籍を購入し、輪読当日までに読んでおくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、発表内容50%。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN632J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営労務演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化とAI、IoTといった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。それは、従来考えられてきたような日本と欧米の違いというものを超え、グローバル企業に共有の普遍性として、大学生の採用や働き方、働き方として現れるようになってきている。

これら企業活動および社会における変化を研究対象とし、参考文献の輪読およびレジュメ、レポート執筆指導、プレゼンテーション等を通じて修士論文執筆へとつなげていく。

中期的な到達目標は、論文執筆にあたってのテーマ設定と仮説の構築、参考文献の収集、論文の章立ての完成であり、最終的な到達目標は修士論文の執筆にある。

授業内容

- 第1講 インTRODダクション
- 第2講 学生による論文テーマ・仮説の報告と文献輪読1
- 第3講 学生による論文テーマ・仮説の報告と文献輪読2
- 第4講 学生による論文テーマ・仮説の報告と文献輪読3
- 第5講 学生による論文テーマ・仮説の報告と文献輪読4
- 第6講 文献輪読1
- 第7講 文献輪読2
- 第8講 文献輪読3
- 第9講 文献輪読4
- 第10講 文献輪読5
- 第11講 学生による中間報告1
- 第12講 学生による中間報告2
- 第13講 学生による中間報告3
- 第14講 学生による中間報告4

履修上の注意

経営労務特論を履修しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献輪読にあたって、指定された文献を読んでおくとともに、自分の意見をメモ書きしておくこと。

教科書

学生のテーマ設定に基づき指定する。

参考書

学生のテーマ設定に基づき指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

中間報告(70%) + 講義への貢献(30%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN632J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営労務演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化とAI、IoTといった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。それは、従来考えられてきたような日本と欧米の違いというものを超え、グローバル企業に共有の普遍性として、大学生の採用や働き方、働き方として現れるようになってきている。

これら企業活動および社会における変化を研究対象とし、参考文献の輪読およびレジュメ、レポート執筆指導、プレゼンテーション等を通じて修士論文執筆へとつなげていく。

中期的な到達目標は、修士論文にあたってのテーマ設定と仮説の構築、参考文献の収集、論文の章立ての完成であり、最終的な到達目標は修士論文の執筆にある。

授業内容

- 第1講 インTRODダクション
- 第2講 グループワーク1 (共通テーマの設定)
- 第3講 グループワーク2 (共通テーマの設定)
- 第4講 グループワーク3 (共通テーマの設定)
- 第5講 グループプレゼンテーション
- 第6講 論文案報告1
- 第7講 論文案報告2
- 第8講 論文案報告3
- 第9講 論文案報告4
- 第10講 文献輪読1
- 第11講 文献輪読2
- 第12講 文献輪読3
- 第13講 学生による最終報告1
- 第14講 学生による最終報告2

履修上の注意

経営労務管理特論を履修しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献輪読にあたって、指定された文献を読んでおくとともに、自分の意見をメモ書きしておくこと。

教科書

学生のテーマ設定に基づき指定する。

参考書

学生のテーマ設定に基づき指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

中間報告(70%) + 講義への貢献(30%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) IND512J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

ドイツにおける労使関係の構造を全体的に理解するために、ドイツ語(部分的に英語と仏語)の学術文献の講読およびこれに基づく報告作成を行う。目的は、企業レベルでの分析ができるドイツ労使関係論の本格的な研究者を養成することにある。

授業内容

- 第1回: Zielvereinbarung
 第2回: Abelshauser, W. (Hrsg.) (2002) BASF, Verlag C.H.Beck, München.
 第3回: Abelshauser, W. (2003) Kulturkampf, Kulturverlag Kadmos, Berlin.
 第4回: Abelshauser, W. (2004) Deutsche Wirtschaftsgeschichte seit 1945, Verlag C.H.Beck, München.
 第5回: Albert, M. (1991) Capitalisme contre Capitalisme, Paris: Seuil
 第6回: Bähr, J., et al. (2008) Der Flick-Konzern im Dritten Reich, Oldenbourg Verlag, München.
 第7回: Bartels, A. (2013) Monetarisierung und Individualisierung, Franz Steiner Verlag, Stuttgart.
 第8回: Beckerath, Paul Gert von (1989, 1993) Monographien zur Geschichte des Personalwesens (Band I-V), Leverkusen.
 第9回: Berghahn, V.R. (1985) Unternehmer und Politik in der Bundesrepublik, Suhrkamp Verlag, Frankfurt am Main.
 第10回: Berghahn, V.R., Unger, S., Ziegler, D., (Hrsg.) (2003) Die deutsche Wirtschaftselite im 20. Jahrhundert, Klartext Verlag, Essen.
 第11回: Bormann, S. et al. (2005) Grenzenlos billig? Globalisierung und Discountierung im Einzelhandel, DruckVogt Berlin.
 第12回: Brown, C. (2016) Der Sinn des Lebens, AAVAA Verlag, Berlin.
 第13回: Brnjak, W. (2009) Vom Verwaltungsakt zum Management, Cuvellier Verlag, Göttingen.
 第14回: Rückmeldung zur Leistung der Teilnehmer
 参加者は、第2回～第13回授業に指定された各文献をあますことなく精読し、独自の視点からまとめ上げ、授業内で報告することが、基本的な授業の流れとなる。

履修上の注意

授業は主に、ドイツ語を用いて行う。そのため、日本の通訳案内業の資格を取得済みか、あるいはGoethe Institutの独語上級試験であるGoethe-Zertifikat C2: Großes Deutsches Sprachdiplom (GDS)を取得済みであることを参加条件とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容で指定された文献を精読し、報告書を作成すること。

教科書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

参考書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

課題に対するフィードバックの方法

講義内でその都度各自のパフォーマンスを講評し、最後の授業で全体的な講評を行う。

成績評価の方法

就職活動及び通院以外の理由での欠席回数が3回に至った場合は、単位を認定しない。各回の課題の遂行状況とコミットメントを総合的に評価し、評点を決める。

その他

授業内での要求水準が極めて高いので履修上の要件を満たしている場合にのみ参加すること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) IND512J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

ドイツにおける労使関係の構造を全体的に理解するために、ドイツ語の学術文献の講読およびこれに基づく報告作成を行う。目的は、企業レベルでの歴史的視点を踏まえた分析ができるドイツ労使関係論のみに特化した本格的な専門研究者を養成することにある。

授業内容

- 第一回: Zielvereinbarung
 第二回: Rosenberger, R. (2008) Experten für Humankapital-Die Entdeckung des Personalmanagements in der Bundesrepublik Deutschland, Oldenbourg Wissenschaftsverlag GmbH, München.
 第三回: Roland Berger Strategy Consultants (2012) Akedemiker im Chfesssel (Studie 2012), Roland Berger, München.
 第四回: Reuber, C. (2012) Der lange Weg an die Spitze, Campus Verlag: Frankfurt am Main.
 第五回: Reimer, E., Schade, H., Schippel, H. (2007) ArbEG: Gesetz über Arbeitnehmererfindungen und deren Vergütungsrichtlinien-Kommentar (8. Auflage), Erich Schmidt Verlag, Berlin.
 第六回: Reichwein, R. (1965) Funktionswandlungen der betrieblichen Sozialpolitik. Eine soziologische Analyse der zusätzlichen betrieblichen Sozialleistungen, VS Verlag für Sozialwissenschaften, Köln.
 第七回: Rammer, C., Schubert, T. (2022) Dokumentation zu den Innovationserhebungen 2017 bis 2021, ZEW/Fraunhofer-Institut für System- und Innovationsforschung, Mannheim und Karlsruhe.
 第八回: Peters, P., Zehnter, A. (1997) Grenz überwinden-150 Jahre Th. Goldschmidt, Verlag Peter Pomp, Bottrop Essen.
 第九回: Perrey, M. (1992) Gewinnbeteiligung als alternatives Entlohnungssystem - Mikroökonomische Fundierung und Analyse der Auswirkungen auf Beschäftigung und Einkommen, Verlag Dr. Kovac, Hamburg.
 第十回: Plumpe, W. (1999) Betriebliche Mitbestimmung in der Weimarer Republik. Fallstudien zum Ruhrbergbau und zur Chemischen Industrie, Oldenbourg, München.
 第十一回: Plumpe, G. (1990) Die I.G. Farbenindustrie AG - Wirtschaft, Technik und Politik 1904-1945, Duncker & Humblot, Bielefeld.
 第十二回: Paul, W. and Straub, A. (2012) Der Schatten: Im Visier des Privatdetektivs, Rowohlt Taschenbuch Verlag, Reinbek.
 第十三回: Passow, R. [1922] Die Aktiengesellschaft-Eine Wirtschaftswissenschaftliche Studie (2. Auflage), Verlag von Gustaf Fischer, Jena.
 第十四回: Rückmeldung zur Leistung der Teilnehmer
 参加者は、第2回～第13回授業に指定された各文献をあますことなく精読し、独自の視点からまとめ上げ、授業内で報告することが、基本的な授業の流れとなる。

履修上の注意

授業はすべてドイツ語を用いて行う。そのため、日本の通訳案内業の資格を取得済みか、あるいはGoethe Institutの独語上級試験であるGoethe-Zertifikat C2: Großes Deutsches Sprachdiplom (GDS)を取得済みであることを参加条件とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容で指定された文献を精読し、毎回10,000字以上の報告書を作成すること。

教科書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

参考書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

課題に対するフィードバックの方法

講義内でその都度各自のパフォーマンスを講評し、最後の授業で全体的な講評を行う。

成績評価の方法

就職活動及び通院以外の理由での欠席回数が3回に至った場合は、いかなる理由があろうとも単位を認定しない。各回の課題の遂行状況とコミットメントを総合的に評価し、評点を決める。

その他

授業内での要求水準が極めて高いので履修上の要件を満たしている場合にのみ参加すること。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) IND612J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

ドイツにおける労使関係の構造を全体的に理解するために、ドイツ語(部分的に英語と仏語)の学術文献の講読およびこれに基づく報告作成を行う。目的は、企業レベルでの歴史的視点を踏まえた分析ができるドイツ労使関係論の本格的な専門研究者を養成することにある。

授業内容

- 第1回: Zielvereinbarung
- 第2回: Burhop, C. (2009) "Pharmaceutical Research in Wilhelmian Germany", Business History Review, 83, pp.475-503.
- 第3回: Burhop, C. and Lübbers, T. (2008) Incentives and Innovation? Preprints of the Max Plank Institute for Research on Collective Goods, 2008/38, pp. 1-25.
- 第4回: Cappelli, P. (1999) The new deal work: managing the market-driven workforce, Boston: Harvard Business School Press.
- 第5回: Conrad, C. (1986) „Erfolgsbeteiligung und Vermögensbildung der Arbeitnehmer bei Siemens (1847-1945)“ in: Zeitschrift für Unternehmensgeschichte, Beiheft 36.
- 第6回: Der Neue Betrieb (Hg.) (1963) Der Personalleiter im Betrieb, Grundsätze und Erfahrungsberichte, Essen.
- 第7回: Evonik Industries AG (2015) VerSIert-Frauen machen Geschichte bei Evonik, Evonik Industries AG, Essen.
- 第8回: Faßbender, S. (1957) Die Führungskräfte in Unternehmen. Gedanken zu ihrer Gliederung und ihrer überbetrieblicher Weiterbildung, Essen.
- 第9回: FKI (2011), "Image und Rolle der Leitenden Angestellten und der Sprecherorganisation bei Siemens (Vortrag v. Dr. Rainer Sieg)", FKI-Schriftenreihe, Nov. 2011.
- 第10回: Fritz, W. et al. (2007) Die Discountisierung der Gesellschaft. Eine ökonomische Perspektive, Deutscher Betriebswirte-Verlag, Gernsbach.
- 第11回: Gall, L. et al. (1995) Die Deutsche Bank 1870-1995, C.H. Beck Verlag, München.
- 第12回: Gerlach, R. (2014) Betriebliche Sozialpolitik im historischen Systemvergleich, Franz Steiner Verlag, Stuttgart.
- 第13回: Hamann, A., Giese, G. (2004) Schwarzbuch Lidl, Ver.di. Medien Buchhandel Verlag, Berlin.
- 第14回: Rückmeldung zur Leistung der Teilnehmer
参加者は、第2回～第13回授業に指定された各文献をあますことなく精読し、独自の視点からまとめ上げ、授業内で報告することが、基本的な授業の流れとなる。

履修上の注意

授業は主に、ドイツ語を用いて行う。そのため、日本の通訳案内士の資格を取得済みか、あるいはGoethe Institutの独語上級試験であるGoethe-Zertifikat C2: Großes Deutsches Sprachdiplom (GDS)を取得済みであることを参加条件とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容で指定された文献を精読し、報告書を作成すること。

教科書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

参考書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

課題に対するフィードバックの方法

講義内でその都度各自のパフォーマンスを講評し、最後の授業で全体的な講評を行う。

成績評価の方法

就職活動及び通院以外の理由での欠席回数が3回に至った場合は、単位を認定しない。各回の課題の遂行状況とコミットメントを総合的に評価し、評点を決める。

その他

授業内での要求水準が極めて高いので履修上の要件を満たしている場合にのみ参加すること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) IND612J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

ドイツにおける労使関係の構造を全体的に理解するために、ドイツ語(部分的に英語と仏語)の学術文献の講読およびこれに基づく報告作成を行う。目的は、企業レベルでの歴史的視点を踏まえた分析ができるドイツ労使関係論の本格的な専門研究者を養成することにある。

授業内容

- 第1回: Zielvereinbarung
- 第2回: Burhop, C. (2009) "Pharmaceutical Research in Wilhelmian Germany", Business History Review, 83, pp.475-503.
- 第3回: Burhop, C. and Lübbers, T. (2008) Incentives and Innovation? Preprints of the Max Plank Institute for Research on Collective Goods, 2008/38, pp. 1-25.
- 第4回: Cappelli, P. (1999) The new deal work: managing the market-driven workforce, Boston: Harvard Business School Press.
- 第5回: Conrad, C. (1986) „Erfolgsbeteiligung und Vermögensbildung der Arbeitnehmer bei Siemens (1847-1945)“ in: Zeitschrift für Unternehmensgeschichte, Beiheft 36.
- 第6回: Der Neue Betrieb (Hg.) (1963) Der Personalleiter im Betrieb, Grundsätze und Erfahrungsberichte, Essen.
- 第7回: Evonik Industries AG (2015) VerSIert-Frauen machen Geschichte bei Evonik, Evonik Industries AG, Essen.
- 第8回: Faßbender, S. (1957) Die Führungskräfte in Unternehmen. Gedanken zu ihrer Gliederung und ihrer überbetrieblicher Weiterbildung, Essen.
- 第9回: FKI (2011), "Image und Rolle der Leitenden Angestellten und der Sprecherorganisation bei Siemens (Vortrag v. Dr. Rainer Sieg)", FKI-Schriftenreihe, Nov. 2011.
- 第10回: Fritz, W. et al. (2007) Die Discountisierung der Gesellschaft. Eine ökonomische Perspektive, Deutscher Betriebswirte-Verlag, Gernsbach.
- 第11回: Gall, L. et al. (1995) Die Deutsche Bank 1870-1995, C.H. Beck Verlag, München.
- 第12回: Gerlach, R. (2014) Betriebliche Sozialpolitik im historischen Systemvergleich, Franz Steiner Verlag, Stuttgart.
- 第13回: Hamann, A., Giese, G. (2004) Schwarzbuch Lidl, Ver.di. Medien Buchhandel Verlag, Berlin.
- 第14回: Rückmeldung zur Leistung der Teilnehmer
参加者は、第2回～第13回授業に指定された各文献をあますことなく精読し、独自の視点からまとめ上げ、授業内で報告することが、基本的な授業の流れとなる。

履修上の注意

授業は主に、ドイツ語を用いて行う。そのため、日本の通訳案内士の資格を取得済みか、あるいはGoethe Institutの独語上級試験であるGoethe-Zertifikat C2: Großes Deutsches Sprachdiplom (GDS)を取得済みであることを参加条件とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容で指定された文献を精読し、報告書を作成すること。

教科書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

参考書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

課題に対するフィードバックの方法

講義内でその都度各自のパフォーマンスを講評し、最後の授業で全体的な講評を行う。

成績評価の方法

就職活動及び通院以外の理由での欠席回数が3回に至った場合は、単位を認定しない。各回の課題の遂行状況とコミットメントを総合的に評価し、評点を決める。

その他

授業内での要求水準が極めて高いので履修上の要件を満たしている場合にのみ参加すること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) PSY592J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営心理学演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。したがって、研究理論、研究方法も多様であるが、本演習では受講生の研究関心を確認したうえで、その研究活動上必要となる知識・技能の習得をめざす。

〈到達目標〉

修士論文作成に必要な基礎力をつけるのが目的である。具体的には、文献を輪読し、研究にとって必要な視点を養成する。1年生の年末の段階で、1万字程度の学術論文を作成し、2年生の年末の段階で修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

受講生の研究テーマにそった文献収集・解説、研究方法論の理解のための書籍輪読を中心に、可能であれば学内や学会・研究会等での発表を目標とした論文作成を行う。

おおよそのスケジュールは以下のとおりであるが、演習という性格上、変動する場合がある。

- 第1回：研究のための準備
- 第2回：組織行動研究の俯瞰
- 第3回：「知っている」ということについて
- 第4回：概念と理論
- 第5回：組織行動の測定
- 第6回：リーダーシップ
- 第7回：組織の中の公正
- 第8回：欲求とモチベーション
- 第9回：人的資本、社会関係資本、心理的資本
- 第10回：組織と個人の心理的契約
- 第11回：組織コミットメント、ジョブ・エンベデッドネス
- 第12回：組織行動の成果
- 第13回：2つの知のサイクルが共振する共同研究
- 第14回：組織行動研究のレリバンスを求めて

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションには『Oh-ol Meiji』を積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

経営学・経営心理学の基礎知識を理解していること。
研究に必要な情報リテラシーを備えていること。
(検索、文書作成、プレゼンテーション、表計算等)
受験時に作成した研究計画書に関連する参考文献を紹介できること。

教科書

『組織行動論の考え方・使い方 - 良質のエビデンスを手にするために』(服部泰宏著)有斐閣, 2020。

参考書

『マネジメント研究への招待』(須田敏子著)中央経済社, 2019。
『社会科学の考え方—認識論、リサーチ・デザイン、手法—』(野村康著)名古屋大学出版会, 2017。
その他、受講者の研究関心に合わせて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に毎週のディスカッションの中でフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、論文内容40%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) PSY592J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営心理学演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。したがって、研究理論、研究方法も多様であるが、本演習では受講生の研究関心を確認したうえで、その研究活動上必要となる知識・技能の習得をめざす。

〈到達目標〉

修士論文作成に必要な基礎力をつけるのが目的である。具体的には、1年生の年末の段階で、1万字程度の学術論文を作成し、2年生の年末の段階で修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

受講生の研究テーマにそった文献収集・解説、研究方法論の理解を中心に、可能であれば学内や学会・研究会等での発表を目標とした論文作成を行う。

おおよそのスケジュールは以下のとおりであるが、演習という性格上、変動する場合がある。

- 第1回：研究進捗状況の確認
- 第2回：学術研究論文の作成準備
- 第3回：研究のためのディスカッション1
- 第4回：研究のためのディスカッション2
- 第5回：研究のためのディスカッション3
- 第6回：研究のためのディスカッション4
- 第7回：研究のためのディスカッション5
- 第8回：研究のためのディスカッション6
- 第9回：研究のためのディスカッション7
- 第10回：研究のためのディスカッション8
- 第11回：研究のためのディスカッション9
- 第12回：研究のためのディスカッション10
- 第13回：研究のためのディスカッション11
- 第14回：1年次研究成果発表

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションには『Oh-ol Meiji』を積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

春学期の段階で、修士論文に向けての研究計画が演習のなかでレビューされていること。
授業開始までに、修士論文研究に必要なコア文献を読み込み、授業内で批判的に紹介できる準備ができていくこと。

教科書

受講生個々の関心と成熟度に合わせて選択する。

参考書

受講者の研究関心に合わせて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションでフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、論文内容40%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) PSY692J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営心理学演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)		中西 晶

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。したがって、研究理論、研究方法も多様であるが、本演習では受講生の研究関心を確認したうえで、その研究活動上必要となる知識・技能の習得をめざす。

〈到達目標〉

修士論文作成に必要な基礎力をつけるのが目的である。具体的には、1年生の年末の段階で完成させた1万字程度の学術論文をもとに、修士論文作成のために必要な文献レビュー、調査分析等を行い、2年生の年末の段階で修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

受講生の研究テーマにそった文献収集・解説、研究方法論の理解を中心に、可能であれば学内や学会・研究会等での発表を目標とした論文作成を行う。

おおよそのスケジュールは以下のとおりであるが、演習という性格上、変動する場合がある。

第1回：研究進捗状況の確認

第2回：研究計画のリバイズ

第3回：研究計画の確認

第4回：研究のためのディスカッション1

第5回：研究のためのディスカッション2

第6回：研究のためのディスカッション3

第7回：研究のためのディスカッション4

第8回：研究のためのディスカッション5

第9回：研究のためのディスカッション6

第10回：研究のためのディスカッション7

第11回：研究のためのディスカッション8

第12回：研究のためのディスカッション9

第13回：研究のためのディスカッション10

第14回：まとめと修士論文に向けての作業計画

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションには『Oh-ol Meiji』を積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

1年次の段階で、1万字程度の学術研究論文を作成し、レビューを受けていること。

教科書

受講生個々の関心と成熟度に合わせて選択する。

参考書

受講者の研究関心に合わせて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションでフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、論文内容40%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) PSY692J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営心理学演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)		中西 晶

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。したがって、研究理論、研究方法も多様であるが、本演習では受講生の研究関心を確認したうえで、その研究活動上必要となる知識・技能の習得をめざす。

〈到達目標〉

修士論文作成に必要な基礎力をつけるのが目的である。具体的には、1年生の年末の段階で、1万字程度の学術論文を作成し、2年生の年末の段階で修士論文を完成させることを目標とする。演習ⅡBでは、修士論文の提出を持って目標達成とする。

授業内容

受講生の研究テーマにそった文献収集・解説、研究方法論の理解を中心に、可能であれば学内や学会・研究会等での発表を目標とした論文作成を行う。

おおよそのスケジュールは以下のとおりであるが、演習という性格上、変動する場合がある。

第1回：研究進捗状況の確認

第2回：修士論文目次案の提出

第3回：研究のためのディスカッション1

第4回：研究のためのディスカッション2

第5回：研究のためのディスカッション3

第6回：研究のためのディスカッション4

第7回：研究のためのディスカッション5

第8回：研究のためのディスカッション6

第9回：研究のためのディスカッション7

第10回：研究のためのディスカッション8

第11回：研究のためのディスカッション9

第12回：研究のためのディスカッション10

第13回：修士論文の完成

第14回：口頭試問にむけての振り返り

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションには『Oh-ol Meiji』を積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

1年次の段階で、1万字程度の学術研究論文を作成していること。

その他、修士論文研究に必要な文献レビュー、調査分析が完了していること。

教科書

受講生個々の関心と成熟度に合わせて選択する。

参考書

受講者の研究関心に合わせて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションおよび論文添削においてフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、論文内容40%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営社会学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 山下 充		

授業の概要・到達目標

この授業では資本主義の多様性について近年の文献を中心に検討する。グローバル化が進展する中で、資本主義のあり方が国ごとに異なることを理解することは、企業活動の特徴や雇用システムの変化を捉える上で重要な枠組みとなる。本講義では各国の資本主義の違いを理解し、また経済的・社会的帰結について把握できること、また一定の将来予測が可能となることを目的とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 資本主義の多様性論の概要
- 第3回 CMEとLMEの比較
- 第4回 ドイツ型資本主義とアメリカ型資本主義の比較
- 第5回 資本主義の多様性と福祉国家および政治システム
- 第6回 資本主義の多様性における金融・財政政策
- 第7回 欧州における多様性
- 第8回 日本型資本主義の特徴
- 第9回 組織志向型と市場志向型
- 第10回 日本企業におけるコミュニティ性
- 第11回 グローバル化と日本的雇用慣行の変化
- 第12回 経営戦略と日本的雇用慣行の関係
- 第13回 サービス経済化と日本的雇用慣行の関係
- 第14回 多様な資本主義の未来

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は、授業後の復習として授業で学んだ内容が自分の研究テーマに即して具体的な事例について各自検討することが求められる。

教科書

ホール・ソスキス他2007『資本主義の多様性』ナカニシヤ出版

参考書

必要な参考資料や文献などは、受講者に合わせて教育効果のあるものを選択する。
 労働政策研究・研修機構2022『日本労働研究雑誌』(特集-産業の変化と人事管理・労使関係) No.743
 須田敏子編著2015『「日本型」戦略の変化』東洋経済新報社
 マリー・アンチョルドギー2012『日本経済の再設計』文真堂
 山田鋭夫2008『さまたげな資本主義』藤原書店
 サンフォード・ジャコービィ2005『日本の人事部・アメリカの人事部』東洋経済新報社
 ミシェル・アルベール小池はるひ訳・久水宏之監修1992『資本主義対資本主義』竹内書店

課題に対するフィードバックの方法

対面授業を基本とするので、対面授業で報告についてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

毎回の授業での発表(40%)、貢献度(30%)、研究レポート(30%)で評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営社会学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 山下 充		

授業の概要・到達目標

この授業では変化する日本企業の人的資源管理の現状を、組織内部の変化にとどまらず、広く社会全体の動向と関連させて理解することを目的とする。人事・労務系として特に「人事組織」の機能、利点、問題点についての的確に理解できることを到達目標とする。経営社会学特論Bでは、日本的人事管理の特徴である長期雇用を支える「正社員」という存在の意味と、この正社員を考える上で重要な社会制度である学校との関わりからこの問題を掘り下げて行きたい。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 人的資源管理と社会的動向の関係研究
- 第3回 日本的雇用システムにおける雇用調整のメカニズム
- 第4回 日本的雇用システムにおける雇用調整の歴史
- 第5回 日本的雇用システムにおける賃金制度の特徴
- 第6回 日本的雇用システムにおける賃金制度の歴史
- 第7回 日本的雇用システムの形成の人事部の役割
- 第8回 日本企業における人事部の機能(概要)
- 第9回 日本企業における人事部機能の発展
- 第10回 日本企業における人事部の現在
- 第11回 自動車産業における日本的雇用慣行
- 第12回 サービス産業における日本的雇用慣行
- 第13回 グローバル化と日本的雇用システムの変化
- 第14回 日本的雇用システムの未来

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は、授業後の復習として授業で学んだ内容が自分の研究テーマに即して具体的な事例について各自検討することが求められる。

教科書

仁田道夫・久本憲夫2008『日本の雇用システム』ナカニシヤ出版

参考書

梅崎修・江夏幾多郎 編著2023『日本の人事労務研究』中央経済社
 園田薫2023『外国人雇用の産業社会学』有斐閣
 佐口和郎2018『雇用システム論』有斐閣
 八代充史2017『日本的雇用制度はどこへ向かうのか』中央経済社
 連合総合生活開発研究所2015『「日本の雇用システム」の生成と展開』
 必要な参考資料や文献などは、受講者に合わせて教育効果のあるものを選択する。

課題に対するフィードバックの方法

対面授業を基本とするので、対面授業で報告についてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

毎回の授業での発表(40%)、貢献度(30%)、研究レポート(30%)で評価する。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	能力開発特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

人材育成に関する学術的な研究に触れ、体系的に理解する。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 研究の中の能力開発とキャリア
第3回 多様な職業訓練・能力開発1 職業教育と福祉
第4回 多様な職業訓練・能力開発2 文献紹介『コマンド・カルチャー』
第5回 日本の職業教育訓練1(明治～敗戦) 隅谷三喜男(1971)『日本職業訓練発展史』(上・下)より
第6回 日本の職業教育訓練2(戦後)
第7回 教育訓練制度の国際比較1
第8回 教育訓練制度の国際比較2
第9回 各論の論文1
第10回 各論の論文2
第11回 各論の論文3
第12回 各論の論文4
第13回 各論の論文5
第14回 まとめ

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	能力開発特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

企業内教育、人的資源開発に関する学術的な研究に触れ、体系的に理解する。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 能力主義は本当に人を幸せにするのか？
第3回 『暴走する能力主義－教育と現代社会の病理』1
第4回 『暴走する能力主義－教育と現代社会の病理』2
第5回 関連文献の紹介
第6回 『暴走する能力主義－教育と現代社会の病理』3
第7回 研究報告
第8回 『ジョブ型雇用社会とは何か』1
第9回 『ジョブ型雇用社会とは何か』2
第10回 『ジョブ型雇用社会とは何か』3
第11回 『ジョブ型雇用社会とは何か』4
第12回 関連文献の紹介
第13回 研究報告
第14回 まとめ

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

中村高康(2018)『暴走する能力主義－教育と現代社会の病理』(ちくま新書)
→学校教育からのつながりの中で、能力主義評価について考える。
濱口桂一郎(2021)『ジョブ型雇用社会とは何か』(岩波新書)
→流行語のようにになっているジョブ型雇用については是非を考える。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営労務特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

日本企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化とAI、IoTといった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。そのなかで長時間労働の削減や過労死・ハラスメントの防止、非正規労働者の処遇改善、男女の労働条件格差の是正といった働く側の課題から、才能のある人材を採用する方法、そうした人材を確保し続けるための報酬や評価の仕組みなど、人事労務管理、人的資源管理を通じて企業の競争力をどうやって高めていくのかといった働かせる側の課題の解決にむけた方策を検討していく。

到達目標は課題解決にむけた理論的フレームワークを身に着けることである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション:人事労務管理概観
- 第2回 産業革命とテラーシステム1
- 第3回 産業革命とテラーシステム2
- 第4回 ウェルフェアマネジメント
- 第5回 人間関係管理
- 第6回 フォード生産システム
- 第7回 フォード生産システムと労務管理
- 第8回 ニューディール体制と人事労務管理1
- 第9回 ニューディール体制と人事労務管理2
- 第10回 経営環境と人事労務管理の変化1
- 第11回 経営環境と人事労務管理の変化2
- 第12回 人事労務管理と人的資源管理
- 第13回 企業の国際化の進展と人事労務管理
- 第14回 企業経営と人事労務管理の社会的役割

履修上の注意

経営労務特論Bを受講することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の予習および関連参考文献を調べておくこと。

教科書

守屋隆司・中村艶子・橋場俊展(編著)『価値創発(EVP)時代の人的資源管理-Industry4.0の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房 2018年

参考書

黒田兼一・山崎憲『フレキシブル人事の失敗』旬報社 2012年
そのほか授業で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、発表内容50%。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営労務特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

日本企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化とAI、IoTといった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。企業競争力の向上のみならず、持続可能な経済成長や働く側のキャリア育成とやりがい、地域社会における役割など人事労務管理に求められる範囲が拡大している。その一方で、RPA(Robotic Process Automation)の導入が進むなど人事労務管理にはより高度なスキルが求められるようになってきている。これらを検討することを通じて、課題解決にむけたフレームワークを身に着けることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 AIとプラットフォームビジネス1
- 第3回 AIとプラットフォームビジネス2
- 第4回 AIとプラットフォームビジネス3
- 第5回 日本的経営と人事労務管理1
- 第6回 日本的経営と人事労務管理2
- 第7回 日本的経営と人事労務管理3
- 第8回 働き方改革と成長戦略1
- 第9回 働き方改革と成長戦略2
- 第10回 働き方改革と成長戦略3
- 第11回 雇用システムの各国比較1
- 第12回 雇用システムの各国比較2
- 第13回 雇用システムの各国比較3
- 第14回 地域社会とのつながり

履修上の注意

経営労務特論Aを受講していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考文献等の整理を行っておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、発表内容50%。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) IND511J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士（経済学）石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

ドイツ労使関係についてドイツ語と英語の文献を講読しながら学ぶ。目標は、幅広い視点と歴史的な観点からドイツ労使関係論のみに特化した研究者を養成することにある。

授業内容

以下の文献を講読する。報告担当者は一回につき一つの文献について7,000字程度のレポートを作り、報告する。

第一講: Zielvereinbarung

第二講: Wuppertaler Kreis e.V. (2015) 60 Jahre Weiterbildung für die Wirtschaft, Wuppertaler Kreis e.V., Köln.

第三講: Wimmer, W. (1994) „Wir haben immer was „Neues“: Gesundheitswesen und Innovationen in der Pharma-Industrie in Deutschland, 1880-1935, Duncker & Humboldt, Berlin.

第四講: Willems, H. (2003) Die Förderung des Mittelstandes, Carl Heymanns Verlag, Köln, Berlin, Bonn, München.

第五講: Williamson, O.E. (1975) Markets and Hierarchies, Macmillan Publishing Co., Inc., New York.

第六講: Whyte, Jr., W.H. (1956) The Organization Man, Simon and Schuster

第七講: Whitley, R. (1999) Divergent capitalism: The social structuring and change of business systems, Oxford, New York: Oxford University Press.

第八講: Wächter, H. and Stengelhofen, T. (1995) “Germany” in Brunstein, I. (eds.) Human Resource Management in Western Europe, Walter de Gruyter, Berlin/New York.

第九講: Whalley, P. and Barley, S.R. (1997) “Technical Work in the Division of labor: Stalking the Wily Anomaly”, in Barley, S.R. and Orr, J.E. eds., Between Craft and Science: Technical Works in U.S. Settings, New York: Cornell University Press.

第十講: Verg, E., Plumpe, G., Schultheis, H. (1988) Meilensteine. 125 Jahre Bayer 1863-1988, Informedia Verlag, Köln.

第十一講: VAA (Verband der angestellter Akademiker und leitenden Angestellten), Gehalts- und Bonussystem, Köln, 2010.

第十二講: Streb, J., Baten, J. and Yin, S. (2006) Technological and geographical Knowledge Spillover in the German Empire 1877-1914, Economic History Review, 59, pp. 343-373.

第十三講: Straub, A. (2012) Aldi-Einfach billig: Ein ehemaliger Manager packt aus (5. Auflage), Rowohlt Taschenbuch Verlag, Reinbek.

第十四講: Rückmeldung zur Leistung der Teilnehmer

履修上の注意

授業の圧倒的大部分は、ドイツ語を用いて行う。そのため、日本の通訳案内士の資格を取得済みか、あるいはGoethe Institutの独語上級試験であるGoethe-Zertifikat C2: Großes Deutsches Sprachdiplom (GDS)を取得済みであることを参加条件とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業内容で指定された文献を精読し、毎回7,000字以上の報告書を作成すること。

教科書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

参考書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

課題に対するフィードバックの方法

講義の最中に個々人に対しその都度、および最終講義で全体的に。

成績評価の方法

就職活動及び通院以外の理由での欠席回数が3回に至った場合は、いかなる理由があろうとも単位を認定しない。各回の課題の遂行状況とコミットメントを総合的に評価し、評点を決める。

その他

授業内での要求水準が極めて高いので履修上の要件を満たしている場合のみ参加すること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) IND511J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士（経済学）石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

ドイツ労使関係についてドイツ語の文献を講読しながら学ぶ。目標は、幅広い視点と歴史的な観点からドイツ労使関係論のみに特化した研究者を養成することにある。

授業内容

以下の文献を講読する。報告担当者は一回につき一つの文献について毎回10,000字程度のレポートを作り、報告する。

第一講: Zielvereinbarung

第二講: BAB (2015) Mitbestimmung braucht Beratung: Stand und Perspektiven Arbeitsorientierter Beratung, Graewis Verlag GmbH.

第三講: Straub, A. (2013) Inside Aldi&Co., Rowohlt Taschenbuch Verlag, Reinbek.

第四講: Steinle, W.J. (1984) „Der Beitrag kleiner und mittlerer Unternehmen zur Beschäftigungsentwicklung“, in: Mitteilungen aus der Arbeitsmarkt- und Berufsforschung, vol. 17, issue 2, 257-266.

第五講: Stadler, C. & Waltermann, P. (2021) Die Jahrhundert-Champions: Fünf Prinzipien für dauerhaften Unternehmenserfolg oder Was wir aus der Geschichte europäischer Top-Unternehmen lernen können, Schäffer-Poeschel Verlag, Stuttgart.

第六講: Stadler, C. (2004) Unternehmenskultur bei Royal Dutch/Shell, Siemens und DaimlerChrysler, Franz Steiner Verlag, Stuttgart.

第七講: Simon, H. (1990) Hidden Champions: Speerspitze der deutschen Wirtschaft, in: Zeitschrift für Betriebswirtschaft, 60 (9), pp. 875-890.

第八講: Sieg, R. (2011) „Image und Rolle der Leitenden Angestellten und der Sprecherorganisation bei Siemens“ in: FKI-Schriftenreihe (Dokumentation des Sprecherausschusstages 2011), Nov. 2011.

第九講: Sieg, R. (KSpA-/GspA-Vorsitzender Siemens, Der Leitende Angestellte in der Mitbestimmung (Folie für Vortrag), 2006.

第十講: Seckelmann, M. (2006) Industrialisierung, Internationalisierung und Patentrecht im Deutschen Reich, 1871-1914, Vittorio Klostermann, Frankfurt am Main.

第十一講: Schach, E., 1994, Personalleiter in japanischen Niederlassungen in der Bundesrepublik Deutschland, Centauro Verlagsgesellschaft: Pfaffenweiler.

第十二講: Sauerbrei, M.(1951) Der Mensch im Betrieb: 50 Jahre soziale Fürsorge bei der Th. Goldschmidt AG, Essen, W. Th. Webels, Essen.

第十三講: v. Saldern, A. (2009) Das „Harzburger Modell“. Ein Ordnungssystem für bundesrepublikanische Unternehmen, 1960-1975. In: Thomas Etzemüller (Hrsg.), Die Ordnung der Moderne. Social Engineering im 20. Jahrhundert. Bielefeld, S. 303-329.

第十四講: Rückmeldung zur Leistung der Teilnehmer

履修上の注意

授業はドイツ語のみを用いて行う。そのため、日本の通訳案内士の資格を取得済みか、あるいはGoethe Institutの独語上級試験であるGoethe-Zertifikat C2: Großes Deutsches Sprachdiplom (GDS)を取得済みであることを参加条件とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業内容で指定された文献を精読し、毎回10,000字以上の報告書を作成すること。

教科書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

参考書

各回の授業内容で指定された学術書すべて

課題に対するフィードバックの方法

講義の最中に個々人に対しその都度、および最終講義で全体的に。

成績評価の方法

就職活動及び通院以外の理由での欠席回数が3回に至った場合は、いかなる理由があろうとも単位を認定しない。各回の課題の遂行状況とコミットメントを総合的に評価し、評点を決める。

その他

授業内での要求水準が極めて高いので履修上の要件を満たしている場合のみ参加すること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) PSY591J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営心理学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業概要〉

経営心理学、産業・組織心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。本講義では、組織内外で生じる経営心理学的現象を見ていく。具体的には、教科書を輪読し、ディスカッションを行うという形で進める。

〈到達目標〉

経営心理学特論Aにおいては授業全体を通じて経営心理学で使用される概念が理解できるようにしたい。

授業内容

以下のようなスケジュールで考えている。

- 第1回 産業・組織心理学とは
- 第2回 人事の心理学
- 第3回 キャリア開発
- 第4回 人間関係と働き方
- 第5回 組織行動とリーダーシップ
- 第6回 モチベーション
- 第7回 作業安全
- 第8回 ストレスとメンタルヘルス
- 第9回 インターフェースと設計
- 第10回 消費者行動
- 第11回 事例研究(1)
- 第12回 事例研究(2)
- 第13回 事例研究(3)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

基本的な用語については、原語(英語)も対応させながら学習するので、必要ならば辞書/PC持参のこと。

レジュメやレポートの提出、ディスカッションにはOh-o! Meijiを積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

経営学・経営心理学(産業組織心理学)の基礎知識を理解していること。

教科書

『産業・組織心理学を学ぶ：心理職のためのエッセンシャルズ(産業・組織心理学講座 第1巻)』(金井篤子編著)北大路書房、2019。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションでフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表内容50%、授業への参加度50%。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) PSY591J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営心理学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。経営心理学Bにおいては、最近の経営心理学に関するトピックを中心に代表的な文献を輪読し、ディスカッションを行う。近年は、「知識と学習」をテーマに、『知識創造企業』(野中&竹内)、『状況に埋め込まれた学習』(レイヴ&ウエンガー)、『コミュニティ・オブ・プラクティス』(ウエンガーほか)、『組織化の社会心理学』(ワイク)、『恐れのない組織』(エドモンドソン)などを文献として取り上げてきた。

〈到達目標〉

代表的な文献を精読し、その研究の貢献と課題を批判的に理解することができるよう目線が向上することをめざす。今年度は、経営心理学、組織心理学の代表的研究者エドガー・シャインの著書『経営心理学第2版』を解説することで検討する。

授業内容

以下のような予定で考えている。基本的には教科書の各章に対応する。

- 第1回 経営心理学とは何か
- 第2回 個人と組織 - 組織とは何か
- 第3回 モチベーション(人間性)
- 第4回 管理者の人間観
- 第5回 モチベーションの発達の視点
- 第6回 モチベーション(複雑人)
- 第7回 リーダーシップ(リーダーシップの分析)
- 第8回 リーダーシップ(リーダーシップと参加)
- 第9回 組織の中の集団(集団の構造と機能)
- 第10回 組織の中の集団(集団間の問題)
- 第11回 組織構造と組織の静態(開放性システム)
- 第12回 組織構造と組織の動態(動態的システム)
- 第13回 組織構造と組織の動態(組織変革と組織開発) / 組織変革
- 第14回 組織構造と組織の動態(組織変革と組織開発) / 組織開発

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションにはOh-o! Meijiを積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

また、必要に応じて量的研究の文献をよんだり、表計算ソフトや統計ソフトを用いることがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業までに少なくとも教科書を読み、自分なりにまとめていること。

経営学・心理学における研究方法論にはどのようなものがあるかを理解しておくこと。

教科書

『経営心理学 第2版』エドガー・シャイン著、尾形丈一他監修、プロセス・コンサルテーション、2023年
<https://amzn.asia/d/3aaDzD0>

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションでフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、最終成果物40%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN582J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営史演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

＜概要＞
経営史研究は、極めて多角的な主題を追求するために、隣接諸科学と密接な関連をもち、絶えず新たな方向へ発展していく学際的学問領域である。本演習では、そうした学際的あるいは複眼的視点や考え方が求められる経営史研究をおこなうために必要とされる基礎的な研究方法や考え方を身につけることを目指す。具体的には、春学期においては近年の新しい経営史研究成果を輪読しながら、研究の実践的アプローチを学び、秋学期においては経営史の研究手法、あるいは経営学や経済学などの古典を輪読しながら、研究を進めていく上での基盤となる、新たな研究アプローチ、概念、理論、を経営史研究との関わりから理解していく。
今期の経営史演習ⅠAでは、アメリカの大衆消費社会の成立と企業活動に関する研究書の読解を通じて、経営史研究における企業と社会の関係を主眼においた考察を検討し、前期課程における自らの研究枠組みの構築を目的としたい。
＜到達目標＞
・アメリカの大衆消費社会と企業のマーケティング活動に関する歴史的検討方法について理解する。
・経営史研究における消費文化や消費者行動を考察する上で利用可能な歴史資料について検討する。

授業内容

【イントロダクション】
第01回 研究報告
【春学期前半】
第02回 第01章
第03回 研究報告
第04回 第02章
第05回 研究報告
第06回 第03章
第07回 研究報告
【春学期後半】
第08回 第04章
第09回 研究報告
第10回 第05章
第11回 第06章
第12回 第07章
第13回 研究報告
【春学期総括】
第14回 第08章および第09章

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・テキストの対象範囲を事前に読んで上で毎回授業に臨むこと。
- ・履修者の希望に応じてテキストを変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 予習(4時間)
・テキストの指定された部分を読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
・テキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。
□復習(1時間)
・授業での議論を踏まえて、テキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

講義用テキストとして下記書籍を利用する。
テキスト：『欲望を生み出す社会』スーザン・ストラッサー著(東洋経済新報社) 2011年。
※ただし参加者の要望を踏まえて、テキストを変更する場合がある。

参考書

American Business since 1920, McCraw, Thomas and William Childs 著 (Wiley Blackwell), 2018.
The Rise of Big Business: 1860-1920, Poter, Glenn 著 (Wiley Blackwell), 2005.
American Business History, Walter, Friedman 著 (Oxford University Press), 2020.
『日本経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2004年。
『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。
その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HP トップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることができる。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN582J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営史演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

＜概要＞
経営史研究は、極めて多角的な主題を追求するために、隣接諸科学と密接な関連をもち、絶えず新たな方向へ発展していく学際的学問領域である。本演習では、そうした学際的あるいは複眼的視点や考え方が求められる経営史研究をおこなうために必要とされる基礎的な研究方法や考え方を身につけることを目指す。具体的には、春学期においては近年の新しい経営史研究成果を輪読しながら、研究の実践的アプローチを学び、秋学期においては経営史の研究手法、あるいは経営学や経済学などの古典を輪読しながら、研究を進めていく上での基盤となる、新たな研究アプローチ、概念、理論、を経営史研究との関わりから理解していく。
今期の経営史演習ⅠBでは、1960年代末頃からL・ガランボスによって提唱された「組織総合理論」に関する文献の読解を通じて、経営史研究におけるチャンドラー・パースペクティブからの脱却に向けた批判的検討のあり方、異なる視点による研究を進めていくための論証と史料のあり方などを検討し、前期課程における自らの研究を進める手がかりを得ることを目的としたい。
＜到達目標＞
・経営史研究者によるチャンドラー研究の批判的検討方法について学ぶ。
・企業と社会の関係を踏まえた経営史研究に求められる研究方法について理解する。
・これからの経営史研究アプローチについて考える。

授業内容

【イントロダクション】
第01回 研究報告①
【秋学期前半】
第02回 第01章
第03回 研究報告②
第04回 第02章
第05回 研究報告③
第06回 第03章
第07回 研究報告④
【秋学期後半】
第08回 第04章
第09回 研究報告⑤
第10回 第05章
第11回 研究報告⑥
第12回 第06章
第13回 研究報告⑦
【秋学期総括】
第14回 第07章および第08章

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・テキストの対象範囲を事前に読んで上で毎回授業に臨むこと。
- ・履修者の希望に応じてテキストを変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 予習(4時間)
・テキストの指定された部分を読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
・テキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。
□復習(1時間)
・授業での議論を踏まえて、テキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

講義用テキストとして下記書籍を利用する。
テキスト：『アメリカ経営史学の新潮流：組織総合理論』ルイス・ガランボス(同文館出版) 1991。
※ただし参加者の要望を踏まえて、テキストを変更する場合がある。

参考書

American Business since 1920, McCraw, Thomas and William Childs 著 (Wiley Blackwell), 2018.
The Rise of Big Business: 1860-1920, Poter, Glenn 著 (Wiley Blackwell), 2005.
American Business History, Walter, Friedman 著 (Oxford University Press), 2020.
『日本経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2004年。
『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。
その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HP トップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることができる。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN682J			
経営史系		備考	
科目名	経営史演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

<概要>

経営史研究は、極めて多角的な主題を追求するために、隣接諸科学と密接な関連をもち、絶えず新たな方向へ発展していく学際的学問領域である。本演習では、そうした学際的あるいは複眼的視点や考え方が求められる経営史研究をおこなうために必要とされる基礎的な研究方法や考え方を身につけることを目指す。具体的には、春学期において最新の経営史研究成果を輪読しながら、研究の実践的アプローチを学び、秋学期においては経営学や経済学などの古典を輪読しながら、研究を進めていく上での基盤となる概念や理論を経営史研究との関わりから理解していく。

今期の経営史演習ⅡAでは、アーサー・コールの『経営と社会』の読解を通じて、忘れ去られた経営史研究の古典的な社会の見方について批判的に検討しつつ、その現代的な意味を考えながら、前期課程における自らの研究を進める手がかりを得ることを目的としたい。

<到達目標>

- ・経営史研究の基礎をなす根本概念について学ぶ。
- ・本来構想された経営史研究という学術領域の枠組みの新規性と限界について理解する。
- ・現在の経営史研究に求められる要請を考慮しつつ、古典的経営史研究の限界を克服し、学術的新規性を見出す洞察力を養う。

授業内容

【イントロダクション】

第01回 序 文および研究報告

【第Ⅰ部 諸概念的問題】

第02回 第01章

第03回 第02章

第04回 第03章

第05回 研究報告

第06回 第04章

第07回 第05章

【第Ⅱ部 企業者的実体】

第08回 第01章

第09回 第02章

第10回 研究報告

第11回 第03章

第12回 第04章

第13回 第05章

【春学期総括】

第14回 第Ⅲ部および研究報告

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・テキストの対象範囲を事前に読んだ上で毎回授業に臨むこと。
- ・履修者の希望に応じてテキストを変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

□予習(4時間)

- ・テキストの指定された部分を読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
- ・テキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
- ・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。

□復習(1時間)

- ・授業での議論を踏まえて、テキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

講義用テキストとして下記書籍を利用する。

テキスト:『経営と社会』アーサー・コール(ダイヤモンド社) 1965。

※ただし参加者の要望を踏まえて、テキストを変更する場合がある。

参考書

『経営史の再構想』フィリップ・スクラントン＝パトリック・フリダソン(蒼天社出版) 2017年。

『日本経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2004年。

『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。

その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN682J			
経営史系		備考	
科目名	経営史演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

<概要>

経営史研究は、極めて多角的な主題を追求するために、隣接諸科学と密接な関連をもち、絶えず新たな方向へ発展していく学際的学問領域である。本演習では、そうした学際的あるいは複眼的視点や考え方が求められる経営史研究をおこなうために必要とされる基礎的な研究方法や考え方を身につけることを目指す。具体的には、春学期において最新の経営史研究成果を輪読しながら、研究の実践的アプローチを学び、秋学期においては経営学や経済学などの古典を輪読しながら、研究を進めていく上での基盤となる概念や理論を経営史研究との関わりから理解していく。

今期の経営史演習ⅡBでは、組織や企業に関する経済学の古典的名著の読解を通じて、経営史研究における組織や利潤の考え方を検討し、前期課程における自らの研究洞察の手がかりを得ることを目的としたい。

<到達目標>

- ・組織や企業利潤に関する理論的考えの基礎について理解する
- ・経営史研究における組織や企業利潤を考察する上で利用可能な歴史資料について検討する。

授業内容

【イントロダクション】

第01回 研究報告

【組織の限界】

第02回 第01章

第03回 第02章

第04回 第03章

第05回 第04章(1)

第06回 第04章(2)

第07回 研究報告

【リスク、不確実性、利潤】

第08回 第01部(1)

第09回 第01部(2)

第10回 第02部(1)

第11回 第02部(2)

第12回 第03部(1)

第13回 第03部(2)

【秋学期総括】

第14回 研究報告

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・テキストの対象範囲を事前に読んだ上で毎回授業に臨むこと。
- ・履修者の希望に応じてテキストを変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

□予習(4時間)

- ・テキストの指定された部分を読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
- ・テキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
- ・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。

□復習(1時間)

- ・授業での議論を踏まえて、テキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

講義用テキストとして下記書籍を利用する。

テキスト(1):『組織の限界』ケネス・J・アロー (2017)ちくま学芸文庫。

テキスト(2):『リスク、不確実性、利潤』フランク・H・ナイト(2021)ちくま学芸文庫。

※ただし参加者の要望を踏まえて、テキストを変更する場合がある。

参考書

『社会的選択と個人的評価』ケネス・J・アロー (2013)勁草書房。

その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN582J			
経営史系		備考	
科目名	日本経営史演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では、日本の経営史についての基礎的な素養を身につけることを目的とする。

授業内容

第1回：授業の目的と概要
第2回：経営史学の課題
第3回：江戸時代の商家経営
第4回：幕末・維新期の企業者活動
第5回：後進国の工業化と企業者活動
第6回：会社制度の導入と普及
第7回：財閥の形成
第8回：商社の生成
第9回：専門経営者の形成
第10回：財閥のコンツェルン化と新興コンツェルンの台頭
第11回：明治・大正期の工場労働とホワイトカラー層の形成
第12回：都市型第3次産業の形成と財界団体の系譜
第13回：科学的管理法の導入と普及
第14回：戦前日本経営史の課題と方法のまとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、学問的理解を深めるために歴史的評価についての議論を中心に進める。相当な予習・復習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

宮本・阿部・宇田川・沢井・橘川編『日本経営史[第3版]』（有斐閣、2023年）、佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善、2001年）
佐々木聡編著『グラフィック経営史』（新世社、2022年）

参考書

佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善、2011年）、佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹼・洗剤産業』（日本経営史研究所、2016年）、佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所、2017年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論に対する評価(50%)と課題レポート(40%)および最終(期末)試験(10%)を総合して評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN582J			
経営史系		備考	
科目名	日本経営史演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では、「日本経営史演習ⅠA」に続いて、日本の経営史についての基礎的な素養を身につけることを目的とする。

授業内容

第1回：企業者活動の国際化
第2回：戦時期の企業者活動
第3回：財閥解体と集中排除
第4回：復興期の経済政策と朝鮮特需
第5回：労使関係の変化
第6回：企業集団の形成とその特徴
第7回：新しい経営管理手法の導入と生産性向上運動
第8回：高度成長・安定成長・バブル崩壊の流れ
第9回：高度成長期の企業者活動
第10回：中間組織の成長促進要因
第11回：産業政策の功罪
第12回：日本的経営再考
第13回：3大メガバンク体制と日本の国際競争力の源泉
第14回：授業全体のまとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、学問的理解を深めるために、それぞれの回の主なテーマについての課題と方法の議論を中心に進めるので、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

宮本・阿部・宇田川・沢井・橘川編『日本経営史[第3版]』（有斐閣、2023年）、佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善、2001年）
佐々木聡編著『グラフィック経営史』（新世社、2022年）

参考書

佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善、2011年）、佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹼・洗剤産業』（日本経営史研究所、2016年）、佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所、2017年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論についての評価(50%)と課題レポート(40%)および最終(期末)試験(10%)を総合して評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN682J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	日本経営史演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では、経営史の専門的研究者を志す者のレベルを想定して、経営史学の方法と課題および現在の学会の中心的な議論などについて学ぶことを主眼とする。

授業内容

第1回：授業の目的と概要
 第2回：経営史学の課題
 第3回：経済発展と企業者活動
 第4回：後進国の工業化と企業者活動
 第5回：経営組織の歴史性と組織の「生物学的成長」
 第6回：国際比較経営史と国際関係経営史
 第7回：経済・経営における「人間的要因」と「組織」
 第8回：経営理念と日本の経営
 第9回：ファミリー・ビジネスと経営発展
 第10回：インドの経営発展と企業者活動
 第11回：イギリスにおける企業者活動
 第12回：政府と企業者活動
 第13回：高度成長期から21世紀初頭までの日本企業
 第14回：経営史学の課題と方法のまとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

中川敬一郎『比較経営史序説』（東大出版会，1981年）
 佐々木聡編著『グラフィック経営史』（新世社，2022年）

参考書

佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善，2001年），佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善，2003年），佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣，2001年），佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善，2011年），佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹸・洗剤産業』（日本経営史研究所，2016年），佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所，2017年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での評価と課題レポートおよび最終（期末）試験を総合して評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN682J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	日本経営史演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では、経営史の専門的研究者を志す者のレベルを想定して、経営史学の方法と課題および現在の学会の中心的な議論などについて学ぶことを主眼とする。

授業内容

第1回：江戸時代の日本
 第2回：明治前期の日本
 第3回：明治後期の日本
 第4回：大正期の日本
 第5回：昭和（戦前・戦中・復興）期の日本
 第6回：昭和（自立期・高度成長）期の日本
 第7回：平成期の日本
 第8回：イギリス経営史の概要
 第9回：フランス経営史の概要
 第10回：ドイツ経営史の概要
 第11回：アメリカ経営史の概要
 第12回：アジア経営史の概要
 第13回：グローバル経営史の概要
 第14回：テーマから考える世界の経営史

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、学問的理解を深めるために歴史的評価についての議論を中心に進めることにしたいので、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

佐々木聡編著『グラフィック経営史』（新世社，2022年）

参考書

佐々木聡編，『日本の企業家群像』（丸善，2001年），佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善，2003年），佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣，2001年），佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善，2011年），佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹸・洗剤産業』（日本経営史研究所，2016年），佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所，2017年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での評価と課題レポートおよび最終（期末）試験を総合して評価する。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備 考	
科 目 名	経営史特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

＜概要＞
経営史の研究は、経済史や経営学に加えて、文化史、経済学、社会学や政治学など社会科学の諸分野との関係を通じて学際的に発展しながら、企業者活動ないし企業の経営活動の変化、そして社会や経済発展におけるそれら役割について様々な視点から展開されている。そこでは、経営者や企業の主体的側面をより重視しながら、近現代社会に影響を与えた経営事象、企業行動の生成プロセスやメカニズムの分析を通じて、経営的側面から、私たちのいる現代社会についてより深い理解を与えてくれる。さらに、当時の生産技術と経済的可能性によって設定された経営環境において、企業家、経営者あるいはミドルマネジャー等の人々が直面する挑戦と機会への個々人の反応や意思決定を考えながら、「経営とは何か?」、「企業とは何か?」、「ビジネスとは何か?」を考える基礎を提供している。最近では、経済のグローバル化やITなどの技術革新による経営環境の大きな変化を背景にして、大企業の変化やベンチャー企業の台頭と、その基盤にある制度との関係が大きなテーマの一つとして注目されている。

本講義では、経営史研究の基本概念である「現代企業(modern business enterprise)」の形成、発展、変容について、国際比較の観点から理解していく。そして、なぜ現代企業が存在するのか、経営者による経営上の問題とその解決の過程でどのように形成・発展してきたのか、現在、それはどのような変容を遂げつつあるのか等を考えながら、現代企業の変化の方向と企業経営の今日的課題を考察していく。経営史特論Aでは、19世から現在に至るまでの現代企業の形成期・発展期を主な対象として、各国の現代企業制度の類似点や独自性を検討しながら、現代企業の経済性や社会的影響について議論していきたい。

＜到達目標＞
・現代企業の代表的説明モデルとされるチャンドラー・モデルについて理解した上で、そのモデルで捨象されている点について自ら考察できるようになることを目標とする。
・国際比較の視点や長期的視点から、企業制度の多様性について考える力を身につける。
・関連科目である日本経営史特論、国際経営史特論、産業史特論を履修する上での基礎知識を身につける。

授業内容

【イントロダクション】

第01回 経営史の基本的キーワード:第1章と第2章

【第Ⅱ部アメリカ:競争的経営者資本主義】

第02回 第03章

第03回 第04章

第04回 第05章

第05回 第06章

【第Ⅲ部イギリス:個人資本主義】

第06回 第07章

第07回 第08章

第08回 第09章

【第Ⅳ部ドイツ:協調的経営者資本主義】

第09回 第10章

第10回 第11章

第11回 第12章

第12回 第13章

第13回 第14章

【春学期の総括】

第14回 第1章と結論

※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更がある。

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・テキストの対象範囲を事前に読んだ上で毎回授業に臨むこと。
- ・経営史特論Bを合わせて履修することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

□予習(4時間)

- ・テキストの指定された部分を読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。
- ・テキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
- ・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。
- 復習(1時間)
- ・授業での議論を踏まえて、テキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

講義用テキストとして下記書籍を利用する。
『スケール・アンド・スコープ』A・D・チャンドラー Jr.著(有斐閣) 1993年。
※ただし参加者の要望を踏まえて、テキストを変更する場合がある。

参考書

『ビジネス・ヒストリー』フランク・アマトリーほか著(ミネルヴァ書房) 2014年。
『経営史』鈴木良隆ほか著(有斐閣) 1987年。
『日本経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2004年。
『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。
その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、あるいは授業後において口頭でフィードバックをする。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。
日本経営史特論、国際経営史特論、産業史特論を並行して履修することで、関連する専門知識を得ることができる。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備 考	
科 目 名	経営史特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

＜概要＞
経営史の研究は、経済史や経営学に加えて、経済学、社会学や政治学など社会科学の諸分野との関係を通じて学際的に発展しながら、企業者活動ないし企業の経営活動の変化、そして社会や経済発展におけるそれら役割について様々な視点から展開されている。そこでは、経営者や企業の主体的側面をより重視しながら、近現代社会に影響を与えた経営事象、企業行動の生成プロセスやメカニズムの分析を通じて、経営的側面から、私たちのいる現代社会についてより深い理解を与えてくれる。さらに、当時の生産技術と経済的可能性によって設定された経営環境において、企業家、経営者あるいはミドルマネジャー等の人々が直面する挑戦と機会への個々人の反応や意思決定を考えながら、「経営とは何か?」、「企業とは何か?」、「ビジネスとは何か?」を考える基礎を提供している。最近では、経済のグローバル化やITなどの技術革新による経営環境の大きな変化を背景にして、大企業の変化やベンチャー企業の台頭と、その基盤にある制度との関係が大きなテーマの一つとして注目されている。

本講義では、経営史研究の基本概念である「現代企業(modern business enterprise)」の形成、発展、変容について、国際比較の観点から理解していく。そして、なぜ現代企業が存在するのか、経営者による経営上の問題とその解決の過程でどのように形成・発展してきたのか、現在、それはどのような変容を遂げつつあるのか等を考えながら、現代企業の変化の方向と企業経営の今日的課題を考察していく。経営史特論Bでは、第二次大戦後から現在に至るまでの現代企業の変容期を主な対象として、今回はリチャード・ラングロアの著作を手掛かりに1980年代以降の企業制度の変容について検討しながら、現代企業について議論していきたい。

＜到達目標＞
・現代企業との比較から、「見える手」から「消える手」という考え方を批判的に理解しつつ、今後の企業システムの動向を展望する洞察力を養うことを目標とする。
・プラットフォーム企業など新たな大企業をどのように捉えられるかを考える洞察力を身につける。

授業内容

【『企業制度の理論』を読む】

第01回 テキスト(1):第1章

第02回 テキスト(1):第2章

第03回 テキスト(1):第3章

第04回 テキスト(1):第4章

第05回 テキスト(1):第5章

第06回 テキスト(1):第6章

第07回 テキスト(1):第7章

第08回 テキスト(1):第8章

【消えゆく手』を読む】

第09回 テキスト(2):第1章

第10回 テキスト(2):第2章

第11回 テキスト(2):第3章

第12回 テキスト(2):第4章

第13回 テキスト(2):第5章

第14回 総括

※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更がある。

履修上の注意

- ・経営史特論Aの知識を前提に講義は進行するため、経営史特論Aを合わせて履修することを勧める。
- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・テキストの対象範囲を事前に読んだ上で毎回授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

□予習(4時間)

- ・テキストの指定された部分を読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。
- ・テキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
- ・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。
- 復習(1時間)
- ・授業での議論を踏まえて、テキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

講義用テキストとして下記書籍を利用する。
テキスト(1):『企業制度の理論』リチャード・ラングロア=ポール・ロバートソン著(NTT出版) 2004年。
テキスト(2):『消えゆく手』リチャード・ラングロア著(慶応義塾大学出版会) 2007年。
※ただし参加者の要望を踏まえて、テキストを変更する場合がある。

参考書

『情報経済の鉄則』カール・シャピロほか著(日経BP) 2018年。
『日本経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2004年。
『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。
その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、あるいは授業後において口頭でフィードバックをする。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備考	
科目名	日本経営史特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

日本の経営発展の通史を学ぶことによって、日本の企業システムの諸特徴の生成過程についての理解を深め、近未来の日本企業のあるべき姿を展望する能力を身につけることを目的とする。

対面授業のなかに一部メディア授業（ZOOMによるリアルタイム型オンライン授業）を採り入れるタイプの授業形態で実施する。オンライン授業実施回については、下記の授業内容の横に（オンライン授業）と記しているが、都合により変更することもある。

授業内容

- 第1回：行商から「定住商」へ
- 第2回：江戸期の呉服店の革新と両替商
- 第3回：幕末・維新期の企業者機会
- 第4回：会社制度の普及〔1〕（オンライン授業①）
- 第5回：会社制度の普及〔2〕
- 第6回：工業化と政府
- 第7回：財閥の形成とコンサルティング
- 第8回：財界団体の系譜（オンライン授業②）
- 第9回：戦時・戦後の統制と企業経営（オンライン授業③）
- 第10回：財閥解体と集中排除（オンライン授業④）
- 第11回：戦後復興と新規事業の創出（オンライン授業⑤）
- 第12回：企業グループの再編と高度成長期の日本企業
- 第13回：バブル崩壊と3大メガバンク体制（オンライン授業⑥）
- 第14回：まとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、学問的理解を深めるために歴史的評価についての議論を中心に進めることにしたいので、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

阿部・宇田川・橘川・沢井・宮本編『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣、2023年）、宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経営史』（有斐閣、1999年）
佐々木聡編著『グラフィック経営史』（新世社、2022年）

参考書

佐々木聡編、『日本の企業家群像』（丸善、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善、2011年）、佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣、2001年）、佐々木聡『産業経営史シリーズ⑩石炭・洗剤産業』（日本経営史研究所、2016年）、佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所、2017年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論の評価（50％）と課題レポート（25％）および最終（期末）試験（25％）を総合して評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備考	
科目名	日本経営史特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

日本経営史特論Bは、春学期の日本経営史特論Aで学んだ基礎知識を基礎に、主な企業家の革新とその社会経済の進化にもたらした影響について学ぶ。個別の革新の担い手の資質形成や主体的条件と客体的条件との関係、企業革新を生む組織的能力の熟成などが経営環境とどのように関わって革新が生まれるのか、などについて考察する能力を身につけることが目標となる。

対面授業のなかに一部メディア授業（ZOOMによるリアルタイム型オンライン授業）を採り入れるタイプの授業形態で実施する。オンライン授業実施回については、下記の授業内容の横に（オンライン授業）と記しているが、都合により変更することもある。

授業内容

- 第1回：授業の目的と概要
- 第2回：経営史の進化的検討のパースペクティブ
- 第3回：日本経済の近代化と経営発展の進化モデル
- 第4回：財閥の進化と継続性（安田財閥）（オンライン授業①）
- 第5回：労使観の進化（洪沢栄一）
- 第6回：地域開発と進化的経営（箱根土地）
- 第7回：創業者からの経営方針の進化的継承（伊勢丹）（オンライン授業②）
- 第8回：中小企業政策の進化（吉野信次）（オンライン授業③）
- 第9回：新しいマーケットへの組織的挑戦（国分商店）（オンライン授業④）
- 第10回：人脈と革新的DNAの継承（関西電力業界）
- 第11回：事業継承と経営発展（堤康次郎と堤清二）
- 第12回：垂直的統合組織への進化（花王の販社戦略）（オンライン授業⑤）
- 第13回：経営の淵源とその進化（キャノン）（オンライン授業⑥）
- 第14回：組織進化のモデル

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、学問的理解を深めるために歴史的評価についての議論を中心に進めることにしたいので、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

橘川武郎・島田昌和編『進化の経営史』（有斐閣、2008年）
佐々木聡監修『すごい実業家のアカン話』（ナツメ社、2022年）

参考書

佐々木聡編、『日本の企業家群像』（丸善、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善、2011年）、佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣、2001年）、佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所、2017年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論の評価（50％）と課題レポート（25％）および最終（期末）試験（25％）を総合して評価する。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備考	
科目名	国際経営史特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士（経済学）	湊 照宏

授業の概要・到達目標

本授業では、アジアで事業を展開した企業を分析対象とする経営史研究について学ぶ。アジア経済史の主要論点に関係する企業の研究文献を輪読する。その作業により、米国・欧州・日本の経営史研究によって蓄積されている知見を相対化し、多様性を認識する能力の習得を目標とする。

アジア経済史における主要な論点として、日本経済と中国経済との比較がある。明治政府による殖産興業政策と清朝による洋務運動、開港後に外国商社と取引した日本商人と外国商社の代理商となった買弁、外国金融機関からの融資は受けなかった日本の両替商と外国金融機関からの融資を受けた中国の錢莊、などである。本授業では、これらの論点に関係する中国における企業活動の研究文献を取り上げる。具体的には、清朝の洋務運動期において民間資金を動員しながら政府が経営を監督した官督商弁（Official Supervision and Merchant Management）企業、外国資本の代理商として活動した買弁（Comprador）、伝統的な金融機関である錢莊、を分析対象とした文献を輪読する。

基本的にはBusiness History Review やBusiness History に掲載された英語論文を中心に輪読し、理解を深めるために『経営史学』などに掲載された日本語論文も補助的に使用する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション 以下< >内は輪読文献
- 第2回 The Institution of the Official Supervision and Merchant Management System（1）<楊天澍(1966)「清末洋務運動期の企業者活動—官督商弁制度を中心に—」『経営史学』1:3.>
- 第3回 The Institution of the Official Supervision and Merchant Management System（2）<Yun Liu (2010) "Revisiting Hanyeping Company (1889-1908): A case study of China's early industrialization and corporate history", Business History, 52:1.>
- 第4回 The Institution of the Official Supervision and Merchant Management System（3）<Ibid.>
- 第5回 The Institution of the Official Supervision and Merchant Management System（4）<王子龍(2022)「輪船招商局の経営と長江ブール協定—1882年から1911年まで—」『社会経済史学』87:4.>
- 第6回 The Comprador System（1）<Howard Cox, Huang Biao & Stuart Metcalfe (2003) "Compradors, Firm Architecture and the Reinvention of British Trading Companies: John Swire & Sons' Operations in Early Twentieth-Century China", Business History, 45:2.>
- 第7回 The Comprador System（2）<Ibid.>
- 第8回 The Comprador System（3）<山藤竜太郎(2009)「三井物産の買弁制度廃止—上海支店に注目して—」『経営史学』44:2.>
- 第9回 The Comprador System（4）<K.Y. Chan (2001) "A Turning Point in China's Comprador System: KMA's Changing Marketing Structure in the Lower Yangzi Region, 1912-25", Business History, 43:2.>
- 第10回 The Comprador System（5）<Ibid.>
- 第11回 The Financial Institution（1）<浜下武志(1974)「十九世紀後半、中国における外国銀行の金融市場支配の歴史的特質：上海における金融恐慌との関連において」『社会経済史学』40:3.>
- 第12回 The Financial Institution（2）<Craig Wilson & Fan Yang (2016) "Shanxi Piaohao and Shanghai Qianzhuang: a comparison of the two main banking systems of nineteenth-century China", Business History, 58:3.>
- 第13回 The Financial Institution（3）<Ibid.>
- 第14回 総括

履修上の注意

上記計画に変更がある場合は、随時授業中に連絡する。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読する文献についてはPDFファイルを配布する。報告担当者はレジュメを用意し、報告担当者以外も予習して論点の提示を準備する。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

報告担当者には、レジュメの改善点を報告終了後にアドバイスする。議論参加者にはより良いディスカッションの方法を議論終了後にアドバイスする。

成績評価の方法

授業における報告や議論に対する貢献を総合して評価する。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備考	
科目名	国際経営史特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士（経済学）	湊 照宏

授業の概要・到達目標

本授業では、アジアで事業を展開した企業を分析対象とする経営史研究を学ぶ。アジア経済史の主要論点に関係する企業の研究文献を輪読する。その作業により、米国・欧州・日本の経営史研究によって蓄積されている知見を相対化し、多様性を認識する能力の習得を目標とする。

アジア経済史における主要な論点の一つに、戦間期中国における綿製品の急速な輸入代替がある。本授業では、この論点に関係する企業活動の研究文献を取り上げる。具体的には、民族紡と呼ばれた中国資本紡績企業を分析対象とした文献を輪読する。また、その民族紡を事例にして、後発国の経営史において必須の論点であるファミリー・ビジネスについても学習する。

『経営史学』などに掲載された日本語論文を輪読したうえで、Business History Review やBusiness History に掲載された英語論文を輪読する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション 以下< >内は輪読文献
- 第2回 Chinese Modern Cotton Mills（1）<横山英(1961)「中國民族工業資本と錢莊との関係について」『社会経済史学』27:3.>
- 第3回 Chinese Modern Cotton Mills（2）<中井英基(1980)「清末の綿紡績企業の経営と市場条件—中国民族紡における大生紗廠の位置—」『社会経済史学』45:5.>
- 第4回 Chinese Modern Cotton Mills（3）<久保亨(1991)「青島における中国紡—在華紡問の競争と協調」『社会経済史学』56:5.>
- 第5回 Chinese Modern Cotton Mills（4）<庄紅娟(2003)「中国の企業家活動における伝統と革新—一九三〇年代の民族紡績業の経験—」『経営史学』38:4.>
- 第6回 Chinese Modern Cotton Mills（5）<王穎琳(2006)「申新紡織公司の「生産過程重視」戦略—1930年代の工場合理化を中心に—」『歴史と経済』48:2.>
- 第7回 Family Business（1）<Kai Yiu Chan (2011) "Making Sense of the 'Business Group' in Modern China: The Rong Brothers' Businesses, 1901-37", Australian Economic History Review, 51:3.>
- 第8回 Family Business（2）<Ibid.>
- 第9回 Family Business（3）<Cheryl Susan McWatters, Qiu Chen, Shujun Ding, Wenxuan Hou & Zhenyu Wu (2016) "Family business development in mainland China from 1872 to 1949", Business History, 58:3.>
- 第10回 Family Business（4）<Ibid.>
- 第11回 Family Business（5）<Choi Chi-Cheung (1998) "Kinship and Business: Paternal and Maternal Kin in Chaozhou Chinese Family Firms", Business History, 40:1.>
- 第12回 < Ibid.>
- 第13回 Finance（1）<Michael Ng (2023) "Borrowing without Banks: Deposit-Taking by Early Twentieth-Century Chinese Firms (1920s-1930s)", Business History Review, 97:4.>
- 第14回 Finance（2）< Ibid.>

履修上の注意

上記計画に変更がある場合は、随時授業中に連絡する。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読する文献についてはPDFファイルを配布する。報告担当者はレジュメを用意し、報告担当者以外も予習して論点の提示を準備する。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

報告担当者には、レジュメの改善点を報告終了後にアドバイスする。議論参加者にはより良いディスカッションの方法を議論終了後にアドバイスする。

成績評価の方法

授業における報告や議論に対する貢献を総合して評価する。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN581J			
経営史系		備考	
科目名	産業史特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経済学) 河村 徳士		

授業の概要・到達目標

授業の概要は、日本を事例として様々な産業の発展あるいは衰退の特徴を、明治期から近年までを対象として考えます。個別産業に即した捉え方を意識しながら、企業の役割も考えるものにしたいと思います。

到達目標としては、学生は、専門書の読解を通じて、主体的に考える力、議論する力を身につけることができます。

授業内容

- 第1回 産業史とはなにかを考える
 第2回 産業革命期の時代的背景：資本主義社会が幕開けする時代を理解します。
 第3回 綿紡績業1:市場の発展とそれに応じた生産方法の選択を理解します。
 第4回 綿紡績業2:生産性上昇の要因を考えます。
 第5回 製糸業1:市場の発展とそれに応じた生産方法の選択を理解します。
 第6回 製糸業2:生産性上昇の要因と国際競争力の源を理解します。
 第7回 鉱業—石炭産業：市場の拡大、運搬過程の機械化、生産性上昇の要因を理解します。
 第8回 鉱業—金属鉱山：市場の拡大、企業間競争などを理解します。
 第9回 戦間期の日本経済：資本主義の段階的な変化を理解します。
 第10回 造船業1：市場拡大と縮小にどのような対応が可能だったのか理解します。
 第11回 造船業2:生産性上昇の要因を理解します。
 第12回 電力業：発展に必要な技術的条件、資金的な課題、企業間様相を理解します。
 第13回 化学工業：発展に必要な技術的条件、国際競争の様相を理解します。
 第14回 総括議論

履修上の注意

日本経営史および日本経済史の分野における主要な文献あるいは論文を輪読する予定です。内容を理解したうえで、積極的に議論していただきたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献を読み、内容報告の準備を行います。報告担当でないときは疑問点や考えたいことを用意しておきましょう。議論したことをおさらいし、課題文献以外の文献を参考にしながら自分で考える力を養いましょう。授業の該当箇所をレポートなどに毎回まとめましょう。

教科書

指定しません。

参考書

授業の都度、紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題文献の要約報告、研究内容の報告を行っていただき、良い点と課題点をその都度、フィードバックすることに致します。履修者に共通する課題点があれば、Oh-o! Meijiで公表する場合もあります。

成績評価の方法

授業での報告・発表（50%）、授業への貢献度および参加度（50%）、あわせて100%で評価します。

その他

特にありません。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN581J			
経営史系		備考	
科目名	産業史特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経済学) 河村 徳士		

授業の概要・到達目標

授業の概要は、日本を事例として様々な産業の発展あるいは衰退の特徴を、明治期から近年までを対象として考えます。個別産業に即した捉え方を意識しながら、企業の役割も考えるものにしたいと思います。

到達目標としては、学生は、専門書の読解を通じて、主体的に考える力、議論する力を身につけることができます。

授業内容

- 第1回 産業史とはなにかを考える
 第2回 産業革命期の時代的背景：資本主義社会が幕開けする時代を理解します。
 第3回 綿紡績業1:市場の発展とそれに応じた生産方法の選択を理解します。
 第4回 綿紡績業2:生産性上昇の要因を考えます。
 第5回 製糸業1:市場の発展とそれに応じた生産方法の選択を理解します。
 第6回 製糸業2:生産性上昇の要因と国際競争力の源を理解します。
 第7回 鉱業—石炭産業：市場の拡大、運搬過程の機械化、生産性上昇の要因を理解します。
 第8回 鉱業—金属鉱山：市場の拡大、企業間競争などを理解します。
 第9回 戦間期の日本経済：資本主義の段階的な変化を理解します。
 第10回 造船業1：市場拡大と縮小にどのような対応が可能だったのか理解します。
 第11回 造船業2:生産性上昇の要因を理解します。
 第12回 電力業：発展に必要な技術的条件、資金的な課題、企業間様相を理解します。
 第13回 化学工業：発展に必要な技術的条件、国際競争の様相を理解します。
 第14回 総括議論

履修上の注意

日本経営史および日本経済史の分野における主要な文献あるいは論文を輪読する予定です。内容を理解したうえで、積極的に議論していただきたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献を読み、内容報告の準備を行います。報告担当でないときは疑問点や考えたいことを用意しておきましょう。議論したことをおさらいし、課題文献以外の文献を参考にしながら自分で考える力を養いましょう。授業の該当箇所をレポートなどに毎回まとめましょう。

教科書

指定しません。

参考書

授業の都度、紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題文献の要約報告、研究内容の報告を行っていただき、良い点と課題点をその都度、フィードバックすることに致します。履修者に共通する課題点があれば、Oh-o! Meijiで公表する場合もあります。

成績評価の方法

授業での報告・発表（50%）、授業への貢献度および参加度（50%）、あわせて100%で評価します。

その他

特にありません。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC532J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務諸表論演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 大倉 学		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

会計および会計学の基礎概念や会計目的について基本レベルの知識を確認する。

特に財務会計、制度会計、国際会計と称される領域を取り扱う。

〔到達目標〕

基礎概念および会計目的を多角的に検討する視座を修得すること。

授業内容

第1回：概念的枠組の意義

第2回：概念的枠組の必要性

第3回：概念的枠組のアプローチ

第4回：概念的枠組(財務報告の目的)

第5回：概念的枠組(情報の質的特性)

第6回：概念的枠組(財務諸表の構成要素)

第7回：概念的枠組(認識と測定)

第8回：会計目的

第9回：会計目的と会計情報

第10回：会計目的と利益計算構造

第11回：会計目的と財務諸表

第12回：会計目的と情報利用者

第13回：会計目的と規制当局

第14回：会計目的と証券市場

履修上の注意

毎回レジュメを用いた解説を行い、その内容に関する課題について討論を行う。

財務会計に係る基礎知識を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

当該回において示された「次回授業に向けて」に基づいて事前に各種資料を調べておくこと。

教科書

使用しない。毎回レジュメを配布する。

参考書

『体系現代会計学第1巻企業会計の基礎概念』 斎藤静樹責任編集(中央経済社)

『財務会計講義』桜井久勝著(中央経済社)最新版

課題に対するフィードバックの方法

定期的を実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meijiシステムを通して行う。

成績評価の方法

レポート20%、演習での討論状況(理解度、論理一貫性等)80%として評価をおこなう。

その他

変化の著しい領域であるので、関連情報を常にチェックする姿勢が求められる。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC532J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務諸表論演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 大倉 学		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

主として国際会計の領域に係る基本レベルの知識を確認する。

〔到達目標〕

国際会計の領域に関して多角的に検討する視座を修得すること。

授業内容

第1回：国際会計論のアプローチ法：制度比較

第2回：国際会計論のアプローチ法：国際的取引の会計処理

第3回：国際会計論のアプローチ法：収斂・統一

第4回：IASCとIAS：調和化

第5回：IASCとIAS：画一化

第6回：財務諸表の比較可能性：時系列比較

第7回：財務諸表の比較可能性：企業間比較

第8回：会計基準：帰納的アプローチ

第9回：会計基準：演繹的アプローチ

第10回：会計基準：包括アプローチ

第11回：会計基準：ピース・ミール・アプローチ

第12回：IASBとIFRS

第13回：財務諸表を読む(1)

第14回：財務諸表を読む(2)

履修上の注意

毎回レジュメを用いた解説を行い、その内容に関する課題について討論を行う。

財務会計に係る基礎知識を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『エッセンシャルIFRS』秋葉賢一著(中央経済社)最新版

課題に対するフィードバックの方法

定期的を実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meijiシステムを通して行う。

成績評価の方法

レポート20%、演習での討論状況(理解度、論理一貫性等)80%として評価をおこなう。

その他

変化の著しい領域であるので、関連情報を常にチェックする姿勢が求められる。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC632J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務諸表論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 大倉 学		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

修士論文執筆のための視座を検討する。

〔到達目標〕

修士論文を完成させるための明確な検討視座をもつこと。

授業内容

第1回：会計学と会計と会計行為
 第2回：会計行為の識別：認識
 第3回：会計行為の識別：測定・評価
 第4回：会計行為の識別：記録
 第5回：会計行為の識別：表示
 第6回：記述的ルール
 第7回：規範的ルール
 第8回：理論研究
 第9回：実証研究
 第10回：会計制度
 第11回：法規と基準
 第12回：財務諸表の体系
 第13回：財務諸表の種類
 第14回：財務諸表の利用

履修上の注意

報告・討論を中心とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『体系現代会計学』（中央経済社）のなかから各人のテーマに即したものを使用する。

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

レポート20%、演習での報告・討論状況（理解度，論理一貫性等）80%として評価をおこなう。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC632J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務諸表論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 大倉 学		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

各自が設定した修士論文のテーマに沿った報告・質疑を行う。

〔到達目標〕

明確な検討視座をもって修士論文を完成させること。

授業内容

第1回：テーマの報告
 第2回：テーマの意義
 第3回：テーマの検討
 第4回：先行研究レビューの検討
 第5回：先行研究レビューの報告
 第6回：構成の検討
 第7回：構成の報告
 第8回：導入部分の検討
 第9回：導入部分の報告
 第10回：考究部分の検討
 第11回：考究部分の報告
 第12回：考究部分の論理的整合性
 第13回：結論部分の検討
 第14回：結論部分の報告

履修上の注意

報告・討論を中心とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の指摘を踏まえたうえで、次回の報告の準備（レジュメの用意）をすること。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。各人のテーマに即し必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

レポート20%、演習での報告・討論状況（理解度，論理一貫性等）80%として評価をおこなう。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC562J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	監査論演習ⅠA (RC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〈概要〉

近年の企業不祥事に伴う監査に対する社会的信頼を回復するために、様々な監査制度改革が行われている。特に英国ではBrexiteを契機に自国の資本市場を魅力あるものにすべく積極的に監査制度改革を行っている。そこで、英国で公表された監査制度改革に対する報告書を読み解くことによって、監査制度の基本について学んでいく。

〈到達目標〉

財務諸表監査に関する事例分析を通して、現代の経済社会になくなくてはならない財務諸表監査の基礎理論について学ぶ。学習を通して監査に関する社会的期待、財務諸表監査が有する経済的機能についての分析ができる能力を身につける。

授業内容

- 第1回:イントロダクション ―財務諸表監査のフレームワーク
 - 第2回:株式会社の成立過程とその背景
 - 第3回:コーポレート・ガバナンスと財務監査の機能
 - 第4回:企業情報ディスクロージャー制度
 - 第5回:監査のフレームワーク
 - 第6回:財務諸表監査の特質
 - 第7回:監査の経済的機能
 - 第8回:監査制度の生成と展開 ―イギリス
 - 第9回:監査制度の生成と展開 ―アメリカ
 - 第10回:監査制度の生成と展開 ―日本
 - 第11回:監査規範の意義と体系
 - 第12回:監査基準の生成と展開 ―イギリス・アメリカ
 - 第13回:監査基準の生成と展開 ―日本
 - 第14回:会計プロフェッションと監査基準
- * 講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

直接仕訳をするわけではないが、ある程度の会計に関する知識があることを前提に進めるので、会計関連科目を履修しておく必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考資料を指示するので、事前に該当箇所を読んでおくこと。

教科書

開講時に指定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(講義への貢献度、発表)(70%)と課題提出物(30%)

その他

講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC562J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	監査論演習ⅠB (RC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〈概要〉

監査理論の基本書とされるMautz, R. K. & Sharaf, Hussein A. “Philosophy of Auditing”の輪読を行う。

〈到達目標〉

監査理論の基本書を輪読することによって、財務諸表監査の根底に流れる理論を理解するとともに、監査理論を実際に生じている様々な財務諸表監査上の問題に適用して、理論的にどのような問題を包含しているかを解明することのできる能力を身につける。

授業内容

- 第1回:イントロダクション ―監査実施プロセスの全体像
 - 第2回:リスクアプローチの概要
 - 第3回:監査計画
 - 第4回:財務諸表監査における要証命題
 - 第5回:監査リスクと重要性
 - 第6回:リスク評価手続
 - 第7回:企業および企業環境の理解
 - 第8回:内部統制
 - 第9回:リスク対応手続
 - 第10回:監査の完了と監査意見形成
 - 第11回:監査報告の意義と種類
 - 第12回:ゴーイングコンサーン問題と監査意見
 - 第13回:不正への対応
 - 第14回:まとめ
- * 講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

英文テキストを使用する。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に資料を配付するので、該当箇所を読んでおくこと。

教科書

Mautz, R. K. & Sharaf, Hussein A. “Philosophy of Auditing”

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(講義への貢献度、発表)(70%)と課題提出物(30%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC662J			
財務会計系		備考	
科目名	監査論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

近年の企業不祥事に伴う監査に対する社会的信頼を回復するために、様々な監査制度改革が行われている。特に英国ではBrexiteを契機に自国の資本市場を魅力あるものにすべく積極的に監査制度改革を行っている。そこで、英国で公表された監査制度改革に対する報告書を読み解くことによって、監査制度の基本について学んでいく。

〈到達目標〉

不正を行った企業を中心に、実際の企業の財務諸表、新聞記事や雑誌の記事、テレビニュースなどを題材にして、会計・監査上どのような問題があったのかを検討し、健全なアカウンティング・マインドを身につけるとともに、このような企業不祥事を防止するために、どのような会計基準の整備が必要であり、企業側にどのようなガバナンスや内部統制が必要であったか等を検討し、問題を解決する能力を身につける。

授業内容

第1回：イントロダクション ―企業不正と財務諸表監査

第2回：監査とその利用者の定義

第3回：期待ギャップ1

第4回：期待ギャップ2

第5回：監査とより広い保証

第6回：監査の範囲

第7回：監査の目的

第8回：監査の成果物

第9回：監査の品質

第10回：法的義務

第11回：監査発見事項のコミュニケーション

第12回：不正

第13回：監査人の法的責任

第14回：まとめ

* 講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

テキストの該当する箇所を中心に輪読を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に資料を指定するので、該当箇所を読んでおくこと。

教科書

・UK Corporate Governance Code – Consultation document
・Independent review into the quality and effectiveness of audit
等

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(講義への貢献度、発表)(70%)と課題提出物(30%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC662J			
財務会計系		備考	
科目名	監査論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

これまで学習してきた財務諸表監査に関する様々な問題点からテーマを選定して、修士論文にまとめ上げ、問題点を自分なりの視点で分析し、解決する能力を身につける。

授業内容

第1回：問題点の抽出と背景の検討

第2回：問題点の概要把握

第3回：問題点の分析

第4回：修士論文の全体構想の検討

第5回：先行研究のレビュー

第6回：既存の研究との比較

第7回：分析方法の検討

第8回：反証例の収集

第9回：反証例の検討

第10回：自説の展開

第11回：自説と反証例の検討

第12回：反証例に対する自説の優位性の論拠がため

第13回：論文の限界と残された課題の検討

第14回：最終報告とプレゼンテーション

* 講義内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

修士論文作成に関しては入念な準備学習が必要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指示した資料を読み、論文を書き進めること。

教科書

特になし。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

修士論文の内容によって評価する。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC592J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	環境会計論演習ⅠA (RC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
会計が環境問題をはじめとする社会的課題に取り組むことについての意義並びに手法、そこで期待される役割や克服すべき問題点などについて、環境会計・環境マネジメントへの取り組みを中心に検討します。
2026年改訂予定のISO環境マネジメントシステム規格では、ライフサイクルの視点にもとづく戦略的な方向性の強化など、規格要求事項の見直しに加えられ、各種経営管理ツールとの整合が必須となってきます。また情報開示の面では、国際統合報告<IR>プラットフォームにもとづく開示が進展するとともに、2025年3月に発行された「SSBJサステナビリティ開示基準（ユニバーサル基準、一般開示基準、気候関連開示基準）」の適用も始まり、財務及び非財務の両面にわたって制度化が進んできています。これらの検討を通じ、何が目指され、どのような会計的な貢献に結び付いていくのかを、実践的な観点から考察して欲しいと思います。
〈到達目標〉
環境会計についての論文を作成できるようになることを目標とします。

授業内容

第1回：イントロダクションー環境会計の現状ー
第2回：研究テーマと研究手法の選択
第3回：研究計画の作成(1) ー準備
第4回：研究計画の作成(2) ー修正
第5回：先行研究調査(1) ー基礎編
第6回：先行研究調査(2) ー発展編
第7回：基本資料の検討(1) ー準備
第8回：基本資料の検討(2) ー修正
第9回：論文構想についての予備発表
第10回：基本資料の検討(3) ー考察
第11回：基本資料の検討(4) ーまとめ
第12回：研究計画の遂行状況と経過の確認
第13回：研究計画の修正
第14回：論文構想についての発表

履修上の注意

環境問題は憂うだけでは何の問題の解決にはなりません。何をどうしたいのか、それはできるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、などの具体的な実践手法を考えるようにしてください。
また、学位論文の作成に向けて、先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組むとともに、自分の問題意識のどのあたりに独創性や学問的貢献があるのかを考えてみてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

まずは環境省や国際NGO等が発行する各種ガイドライン等を手がかりとして、理解を深めてください。
次いで、それらが企業等が行う内部管理や外部報告に、実際にどのように反映されているか、照らし合わせて検討してみてください。

教科書

研究テーマによって使用するべき教科書が異なります。
研究テーマが固まるまでは、参考書に掲載した資料を用いて授業を行います。

参考書

①SSBJ (2025) 「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
②SSBJ (2025) 「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
③SSBJ (2025) 「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

課題研究の進捗・遂行状況に応じて評価(100%)します。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC592J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	環境会計論演習ⅠB (RC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
会計が環境問題をはじめとする社会的課題に取り組むことについての意義並びに手法、そこで期待される役割や克服すべき問題点などについて、環境会計・環境マネジメントへの取り組みを中心に検討します。
2026年改訂予定のISO環境マネジメントシステム規格では、ライフサイクルの視点にもとづく戦略的な方向性の強化など、規格要求事項の見直しに加えられ、各種経営管理ツールとの整合が必須となってきます。また情報開示の面では、国際統合報告<IR>プラットフォームにもとづく開示が進展するとともに、2025年3月に発行された「SSBJサステナビリティ開示基準（ユニバーサル基準、一般開示基準、気候関連開示基準）」の適用も始まり、財務及び非財務の両面にわたって制度化が進んできています。これらの検討を通じ、何が目指され、どのような会計的な貢献に結び付いていくのかを、実践的な観点から考察して欲しいと思います。
〈到達目標〉
環境会計についての論文を作成できるようになることを目標とします。

授業内容

第1回：研究計画進捗状況の確認
第2回：研究論文の予備的報告
第3回：研究資料の追加的検討(1)
第4回：研究資料の追加的検討(2)
第5回：研究資料の追加的検討(3)
第6回：研究発表に向けての報告資料作成(1)
第7回：研究発表に向けての報告資料作成(2)
第8回：研究発表に向けての報告資料作成(3)
第9回：研究計画の進捗状況の確認
第10回：論文作成状況の報告と確認(1)
第11回：論文作成状況の報告と確認(2)
第12回：論文作成状況の報告と確認(3)
第13回：研究論文の発表
第14回：総括

履修上の注意

環境問題は憂うだけでは何の問題の解決にはなりません。何をどうしたいのか、それはできるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えるようにしてください。
また、学位論文の作成に向けて、具体的な作業計画を作成してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

まずは環境省や国際NGO等が発行する各種ガイドライン等を手がかりとして、理解を深めてください。
次いで、それらが企業等が行う内部管理や外部報告に、実際にどのように反映されているか、照らし合わせて検討してみてください。

教科書

選択した研究テーマによって使用するべき教科書が異なります。研究テーマが固まるまでは、参考書に掲載した資料等を用います。

参考書

①SSBJ (2025) 「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
②SSBJ (2025) 「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
③SSBJ (2025) 「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

課題研究の進捗・遂行状況に応じて評価(100%)します。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC692J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	環境会計論演習ⅡA (RC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授	博士 (学術)	千葉 貴律

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
会計が環境問題をはじめとする社会的課題に取り組むことについての意義並びに手法、そこで期待される役割や克服すべき問題点などについて、環境会計・環境マネジメントへの取り組みを中心に検討します。
2026年改訂予定のISO環境マネジメントシステム規格では、ライフサイクルの視点にもとづく戦略的な方向性の強化など、規格要求事項の見直しに加えられ、各種経営管理ツールとの整合が必須となってきます。また情報開示の面では、国際統合報告<IR>プラットフォームにもとづく開示が進展するとともに、2025年3月に発行された「SSBJサステナビリティ開示基準（ユニバーサル基準、一般開示基準、気候関連開示基準）」の適用も始まり、財務及び非財務の両面にわたって制度化が進んできています。これらの検討を通じ、何が目指され、どのような会計的な貢献に結び付いていくのかを、実践的な観点から考察して欲しいと思います。

〈到達目標〉
環境会計についての論文を作成できるようになることを目標とします。

授業内容

- 第1回：イントロダクションー環境会計の現状ー
第2回：研究テーマと研究手法の選択
第3回：研究計画の作成(1)
第4回：研究計画の作成(2)
第5回：先行研究調査(1)
第6回：先行研究調査(2)
第7回：基本資料の検討(1)
第8回：基本資料の検討(2)
第9回：論文構想についての予備発表
第10回：基本資料の検討(3)
第11回：基本資料の検討(4)
第12回：研究計画の遂行状況と経過の確認
第13回：研究計画の修正
第14回：論文構想についての発表

履修上の注意

環境問題を憂うだけでは何の問題の解決になりません。何をどうしたいのか、それはできるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えてください。
また、学位論文の作成に向けての先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組むとともに、自分の作成する論文のどこに独創性や学問的貢献があるのかを意識してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

学位論文の構成と、その論述内容について、繰り返し検討することが日々の学習になります。
環境への取り組みは変化の激しい領域ですので、最新の動向を常にチェックすることも欠かせません。

教科書

各自が選択した研究テーマによって使用すべき教科書が異なります。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

授業中の研究発表や論文作成状況を評価資料(100%)とします。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC692J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	環境会計論演習ⅡB (RC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授	博士 (学術)	千葉 貴律

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
会計が環境問題をはじめとする社会的課題に取り組むことについての意義並びに手法、そこで期待される役割や克服すべき問題点などについて、環境会計・環境マネジメントへの取り組みを中心に検討します。
2026年改訂予定のISO環境マネジメントシステム規格では、ライフサイクルの視点にもとづく戦略的な方向性の強化など、規格要求事項の見直しに加えられ、各種経営管理ツールとの整合が必須となってきます。また情報開示の面では、国際統合報告<IR>プラットフォームにもとづく開示が進展するとともに、2025年3月に発行された「SSBJサステナビリティ開示基準（ユニバーサル基準、一般開示基準、気候関連開示基準）」の適用も始まり、財務及び非財務の両面にわたって制度化が進んできています。これらの検討を通じ、何が目指され、どのような会計的な貢献に結び付いていくのかを、実践的な観点から考察して欲しいと思います。

〈到達目標〉
環境会計についての論文を作成できるようになることを目標とします。

授業内容

- 第1回：研究計画進捗状況の確認
第2回：研究論文の予備的報告
第3回：研究資料の追加的検討(1)
第4回：研究資料の追加的検討(2)
第5回：研究資料の追加的検討(3)
第6回：研究発表に向けての報告資料作成(1)
第7回：研究発表に向けての報告資料作成(2)
第8回：研究発表に向けての報告資料作成(3)
第9回：研究計画の進捗状況の確認
第10回：論文作成状況の報告と確認(1)
第11回：論文作成状況の報告と確認(2)
第12回：論文作成状況の報告と確認(3)
第13回：研究論文の発表
第14回：総括

履修上の注意

環境問題を憂うだけでは何の問題の解決になりません。何をどうしたいのか、それはできるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えてください。
また、学位論文の作成に向けての先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組むとともに、自分の作成する論文のどこに独創性や学問的貢献があるのかを意識してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

学位論文の構成と、その論述内容について、繰り返し検討することが日々の学習になります。
環境への取り組みは変化の激しい領域ですので、最新の動向を常にチェックすることも欠かせません。

教科書

各自が選択した研究テーマによって使用すべき教科書が異なります。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

授業中の発表や課題レポートを評価資料(100%)とします。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC532J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計論演習ⅠA（RC）		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（経営学） 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

授業の形態は対面です。公務等の関係でZoomなどで対応することがある可能性もあります。

【授業の概要】

テーマは財務報告の拡張である。企業活動の多様化・複雑化・グローバル化、そして国際会計基準への収斂過程にあって、現在、企業会計には新たな概念や会計基準等が検討・公表されている。さらに、そういった現行会計の変革に伴って財務報告の拡張にも大きな関心が向けられるようになってきている。

本授業では、まず、現行財務会計の現状と課題を検討した後、その課題の一部を改善していくものとしての「財務会計の拡張」について検討するものである。

【到達目標】

現行会計の現状と課題を理解した上で、企業会計の拡張としてのフロンティア領域について関心を広め、多角的に企業の「財務報告」を捉えることができるようになる。

授業内容

演習は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1: 授業の概要
- 2: 現代の企業会計
- 3: 企業会計の本質とフレームワーク
- 4: 会計制度の理論と体系
- 5: 企業のディスクロージャー
- 6: 損益計算書のパラダイム
- 7: 貸借対照表のパラダイム
- 8: 中間的まとめ
- 9: 資産の会計
- 10: 持分の会計
- 11: 統合報告
- 12: 非営利組織の報告
- 13: 非財務情報の監査・保証業務
- 14: 授業のまとめ

履修上の注意

下記テキストを用いるので、事前に読んでおくこと。受講生が持ち回りで報告をし、討論する。

なお、当分野の最新の情報は別途研究論文で補って検討していくが、その研究論文については別途指示する。
報告者に事前の準備が必要なことは言うまでもないが、活発な質疑が行われるよう、報告者以外の出席者も十分な準備が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記テキストを熟読しておくこと。

教科書

伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社。

参考書

平井克彦他(2013)『損益計算と情報開示』白桃書房。
藤井秀樹(2025)『入門・財務会計(第5版)』中央経済社。
その他、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告者のレジュメは添削の上返却する。

成績評価の方法

授業での発表50%、授業中の質疑で40%、出席態度で10%。ただし、正当な理由のない欠席を重ねた場合は評価の対象にならない。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC532J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計論演習ⅠB（RC）		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（経営学） 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

授業の形態は対面です。

校務との関係で、Zoomによる授業となる回次がある可能性があります。

【授業の概要】

非営利組織（助成財団、学校、病院、介護施設、市役所等）への企業会計の手法の導入をテーマに研究する。非営利組織が経済規模が拡大するにつれ、その会計は重要性を増してきている。そして、民間企業が用いている「企業会計の手法」は、近年、非営利組織にもとり入れられるようになってきている。当講義では様々な主体の財務会計について、アカウンタビリティの視点から「企業会計の手法」導入のあり方について検討を加える。

【到達目標】

非営利組織会計の概要を理解した上で、その概念や実務的な課題について把握できるようになること。また、多様な発展を遂げている非営利組織の会計の現状・課題を理解し、その発展方向について理論的に発信できる力を涵養することを目的とする。

授業内容

演習は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1: 授業の概要
- 2: 新たな会計領域の誕生
- 3: 政府会計の基盤
- 4: 政府会計の基礎概念
- 5: 公会計情報の信頼性
- 6: 中間的とりまとめ
- 7: ニュー・パブリック・マネジメントの課題
- 8: 公共性と効率性
- 9: 財政悪化と政府会計
- 10: 地方公共団体の情報開示
- 11: 独立行政法人会計の課題
- 12: 公益法人会計の課題
- 13: 学校法人会計の課題
- 14: 授業のまとめ

履修上の注意

下記のテキストを用いて、受講生が持ち回りで報告をし、討論する。報告者に事前の準備が必要なことは言うまでもないが、活発な質疑が行われるよう、報告者以外の出席者も十分な準備が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記テキストを熟読して授業に臨むこと。

教科書

石津寿恵ほか編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識—寄付等による支援先を選ぶために—』白桃書房。
大塚宗治、黒川行治(2012)『政府と非営利組織の会計』中央経済社。
別途、学術雑誌論文も用いるがそれについては当該講義の2週間前までに該当ページをコピーして配布する。

参考書

山本清(2005)『政府会計改革のビジョンと戦略』中央経済社
『会計法規集』『非営利法人会計監査六法』（中央経済社）
その他、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは添削の上返却する。

成績評価の方法

授業での発表50%、授業中の質疑で40%、出席態度で10%。ただし、正当な理由のない欠席を重ねた場合は評価の対象にならない。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC632J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

授業の形態は対面です。
校務との関係で、Zoomによる授業となる回数もあります。

【授業の概要】

非営利会計分野(公益法人、社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、学校法人等)においては情報開示の充実、事業の効率性等の観点から企業会計の手法が取り入れられるようになってきている。本演習では、こういった非営利会計の現状と課題について、営利企業の会計との異同や内外の動向を踏まえて検討する。なお、非営利会計を学ぶことにより企業会計の特色を一層明確にすることが可能となると考えられる。

【到達目標】

非営利組織の経営を会計の面から理解できるようになる。

授業内容

演習は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1: 営利会計の会計目的観
- 2: 営利企業の会計体系
- 3: 非営利組織の会計目的観
- 4: 非営利組織の会計体系
- 5: 非営利組織の会計基準(公益法人会計基準)
- 6: 非営利組織の会計基準(社会福祉法人会計基準)
- 7: 非営利組織の会計基準(特定非営利活動法人の会計の手引き)
- 8: 非営利組織の会計基準(医療法人会計基準)
- 9: 非営利組織の会計基準(学校法人基準)
- 10: 非営利組織のアカウントビリティとディスクロージャー
- 11: 非営利法人会計の事例研究(医療法人)
- 12: 非営利法人会計の事例研究(学校法人)
- 13: 米国非営利組織会計基準
- 14: 非営利法人会計の課題と展望

履修上の注意

下記テキスト及びテーマに応じた学術雑誌論文を用いて授業を行う。受講生が持ち回りで報告をし、討論する。報告者に事前の準備が必要なことは言うまでもないが、活発な質疑が行われるよう、報告者以外の出席者も十分な準備が必要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

下記のテキストを事前に読み込んでおくこと。

教科書

石津寿恵ほか編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識一寄付等による支援先を選ぶために一』白桃書房。
別途、学術雑誌論文も用いるがそれについては当該講義の2週間前までに該当ページをコピーして配布する。

参考書

徳永洋子(2023)『非営利団体の資金調達ハンドブック』時事通信社。

課題に対するフィードバックの方法

報告者のレジュメは、添削の上返却する。

成績評価の方法

授業での発表50%、授業中の質疑で40%、出席態度で10%。ただし、正当な理由のない欠席を重ねた場合は評価の対象にならない。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC632J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

授業の形態は対面です。
校務との関係で、Zoomで授業となる回数がある可能性があります。

【授業の概要】

非営利組織会計分野(公益法人、社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人等)においては情報開示の充実、事業の効率性等の観点から企業会計の手法が取り入れられるようになってきている。本演習では、こういった非営利組織会計の現状と課題について、営利企業の会計との異同や内外の動向を踏まえて検討する。なお、非営利組織会計を学ぶことにより企業会計の特色を一層明確にすることが可能となると考えられる。

【到達目標】

非営利組織の経済規模は拡大してきている。それに伴い、会計の重要性が増している。本演習では、非営利組織会計の理念とともに実務についても研究対象とし、実社会にも通用できる会計スキルを身に付けることを目的とする。

授業内容

演習は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1: 営利組織と非営利組織
- 2: 非営利組織の概念フレームワーク(米国)
- 3: 非営利組織の概念フレームワーク(日本)
- 4: 非営利組織の会計目的観、情報利用者
- 5: 非営利組織の資産と負債
- 6: 非営利組織の「純資産」
- 7: 非営利組織各論
- 8: 非営利組織の収益認識
- 9: 非営利組織のカップリング
- 10: 補助金の会計
- 11: 営利企業の補助金の会計処理
- 12: 民間非営利組織の補助金の会計処理
- 13: 公的営利組織の補助金の会計処理
- 14: 非営利法人会計の課題と展望

履修上の注意

下記テキストを用いるほか、テーマに応じた学術雑誌論文を用いて授業を行う。受講生が持ち回りで報告をし、討論する。報告者に事前の準備が必要なことは言うまでもないが、活発な質疑が行われるよう、報告者以外の出席者も十分な準備が必要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

下記テキストを事前に熟読しておくこと。

教科書

石津寿恵ほか編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識一寄付等による支援先を選ぶために一』白桃書房。
その他、学術雑誌論文を用いる。当該講義の2週間前までに該当ページをコピーして配布する。

参考書

『企業会計小六法』(中央経済社)
『非営利会計監査小六法』(中央経済社)
その他、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは添削の上返却する。

成績評価の方法

授業での発表50%、授業中の質疑で40%、出席態度で10%。ただし、正当な理由のない欠席を重ねた場合は評価の対象にならない。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) LAW522J			
財務会計系		備考	
科目名	租税法演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

租税法は、経済取引を行う上で重要な考慮要素である。多角的視点からの問題解決アプローチが求められる租税法の研究には、憲法、民法、会社法などの知識も必要となる。この授業では、判例分析を中心に租税法を学ぶ。

＜到達目標＞

租税法の修士論文執筆に必要な基本的知識の習得を目標とする。具体的には、判例や法令の検索方法や、関連する評釈や参考文献等を様々なツールを使用して検索できるようになる。

授業内容

授業は租税法の総論から各論まで、裁判例を中心に受講者の関心に即して進める。

第1回：イントロダクション—研究計画書の再検討

【総論】

第2回：租税の意義

第3回：租税法律主義

第4回：租税公平主義

第5回：信義則

第6回：租税法と私法

第7回：課税単位

【各論】

第8回：所得税法(1)

第9回：所得税法(2)

第10回：所得税法(3)

第11回：所得税法(4)

第12回：相続税法(1)

第13回：相続税法(2)

第14回：消費税法

履修上の注意

大学院では学生の主体的な研究が重要であることから、本講義は受講者の興味関心に応じた判例報告を主とする。報告担当者は責任を持って報告し、授業中の質問にも対応できるように準備を行うこと。その他の受講者においても、該当部分について教科書等でよく調べたうえで、講義に参加する必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

（予習）報告準備にあたっては、参考文献の収集に十分な時間をかけること。

（復習）講義中に指摘された内容について再度読み直し、不足がある場合には資料収集を重ねること。報告者以外の受講者は、講義での指摘が自身の研究にどのような示唆を与えるか検討する。

教科書

講義時に適時指示する。

参考書

金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂、2021年）、水野忠恒『大系租税法〔第5版〕』（中央経済社、2024年）など、その他受講者に応じて授業中適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に報告資料等の修正点および改善ポイントについて指導を行う。

成績評価の方法

報告内容(70点)と議論での発言(30点)で評価する。

その他

必要に応じて、他大学との合同指導を行う場合がある。その際は、事前に受講生との日程調整を行う。オンライン開講とする場合もある。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) LAW522J			
財務会計系		備考	
科目名	租税法演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

租税法の最新の裁判例を中心に研究を行う。近年では、タックスヘイブン対策税制や移転価格税制、組織再編税制等、複雑化する国際取引に対する税制の対応が問題になっている。この授業では、これらの事例を取り上げて、法的観点から分析する。

＜到達目標＞

租税法の判例分析を行うための知識の習得を目標とする。

授業内容

授業は租税法の総論から各論まで、裁判例を中心に受講者の関心に即して進める。

第1回：イントロダクション—論文テーマ報告

【法人税法】

第2回：租税法における法人の意義

第3回：所得の帰属

第4回：益金(1)

第5回：益金(2)

第6回：損金(1)

第7回：損金(2)

【国際課税】

第8回：経済の国際化と租税法

第9回：租税条約

第10回：国際課税(1)

第11回：国際課税(2)

第12回：国際課税(3)

第13回：国際課税(4)

第14回：国際課税(5)

履修上の注意

大学院では学生の主体的な研究が重要であることから、本講義は受講者の興味関心に応じた判例報告を主とする。報告担当者は責任を持って報告し、授業中の質問にも対応できるように準備を行うこと。その他の受講者においても、該当部分について教科書等でよく調べたうえで、講義に参加する必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

（予習）報告準備にあたっては、参考文献の収集に十分な時間をかけること。

（復習）講義中に指摘された内容について再度読み直し、不足がある場合には資料収集を重ねること。報告者以外の受講者は、講義での指摘が自身の研究にどのような示唆を与えるか検討する。

教科書

講義時に適時指示する。

参考書

金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂、2021年）、水野忠恒『大系租税法〔第5版〕』（中央経済社、2024年）、中里実他編『租税判例百選〔第7版〕』（有斐閣、2021年）など、その他受講者に応じて授業中適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に報告資料等の修正点および改善ポイントについて指導を行う。

成績評価の方法

報告内容(70点)と議論での発言(30点)で評価する。

その他

必要に応じて、他大学との合同指導を行う場合がある。その際は、事前に受講生との日程調整を行う。受講者の希望により、オンライン開講とする場合もある。

指導テーマ

租税法

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) LAW622J			
財務会計系		備考	
科目名	租税法演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

様々な法分野からの多角的視点が求められる租税法の研究には、民法、会社法などの知識が必要となる。この授業では、報告者の研究テーマに応じた判例分析を中心に租税法を学ぶ。

＜到達目標＞

租税法の修士論文執筆に必要な、応用的知識の習得を目標とする。具体的には、判例分析の手法や、比較法研究についての基礎をできるようにする。

授業内容

授業は租税法の総論から各論まで、裁判例を中心に受講者の関心に即して進める。

第1回：イントロダクションー修士論文の構成と問題意識

第2回：修士論文とは

第3回：論文執筆に必要な情報収集

第4回：論文のマナー

第5回：注釈の役割

第6回：先行研究と参考文献

第7回：論文テーマと判例

第8回：判例の役割

第9回：租税法研究と税制研究

第10回：政策税制の位置づけ

第11回：テーマ報告(1)報告者1

第12回：テーマ報告(2)報告者2

第13回：テーマ報告(3)報告者3

第14回：最終報告

履修上の注意

大学院では学生の主体的な研究が重要であることから、本講義は受講者の興味関心に応じた判例報告を主とする。報告担当者は責任を持って報告し、授業中の質問にも対応できるように準備を行うこと。その他の受講者においても、該当部分について教科書等でよく調べたうえで、講義に参加する必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

（予習）報告準備にあたっては、参考文献の収集に十分な時間をかけること。

（復習）講義中に指摘された内容について再度読み直し、不足がある場合には資料収集を重ねること。
報告者以外の受講者は、講義での指摘が自身の研究にどのような示唆を与えるか検討する。

教科書

講義時に適時指示する。

参考書

金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂、2021年）、水野忠恒『大系租税法〔第5版〕』（中央経済社、2024年）など、その他受講者に応じて授業中適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に報告資料等の修正点および改善ポイントについて指導を行う。

成績評価の方法

報告内容(70点)と議論での発言(30点)で評価する。

その他

必要に応じて、他大学との合同指導（オンライン開講）とする場合もある。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) LAW622J			
財務会計系		備考	
科目名	租税法演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

修士論文の構成や検討内容についての具体的な指導を行う。組織再編税制やタックスヘイブン対策税制等、報告者の執筆論文テーマについて、多角的な観点から検討する。

＜到達目標＞

修士論文を執筆する。

授業内容

授業は報告者の論文テーマに即して進める。

第1回：修士論文執筆スケジュールについて

【論文報告】

第2回：判例報告(1)報告者1

第3回：判例報告(2)報告者2

第4回：判例報告(3)報告者3

第5回：論文構成分析(1)報告者1

第6回：論文構成分析(2)報告者2

第7回：論文構成分析(3)報告者3

【執筆指導】

第8回：論文形式指導(1)報告者1、2

第9回：論文形式指導(2)報告者3

第10回：論文内容指導(1)報告者1

第11回：論文内容指導(2)報告者2

第12回：論文内容指導(3)報告者3

第13回：最終指導(1)報告者1、2

第14回：最終指導(2)報告者3

履修上の注意

大学院では学生の主体的な研究が重要であることから、本講義は受講者の興味関心に応じた判例報告を主とする。報告担当者は責任を持って報告し、授業中の質問にも対応できるように準備を行うこと。その他の受講者においても、該当部分について教科書等でよく調べたうえで、講義に参加する必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

（予習）報告準備にあたっては、参考文献の収集に十分な時間をかけること。

（復習）講義中に指摘された内容について再度読み直し、不足がある場合には資料収集を重ねること。
報告者以外の受講者は、講義での指摘が自身の研究にどのような示唆を与えるか検討する。

教科書

講義時に適時指示する。

参考書

金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂、2021年）、水野忠恒『大系租税法〔第5版〕』（中央経済社、2024年）など、その他受講者に応じて授業中適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に報告資料等の修正点および改善ポイントについて指導を行う。

成績評価の方法

報告内容(70点)と議論での発言(30点)で評価する。

その他

他大学との合同指導を行う場合には、オンライン開講とする。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC531J			
財務会計系		備考	
科目名	会計学原理特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼担教授 博士(経営学) 梅原 秀継		

授業の概要・到達目標

財務会計制度の中心となる会計基準を的確に解釈するには、規定された会計処理の知識はもちろんのこと、すでに定着した概念フレームワークをみてもわかるように、より基礎的な概念の理解も欠かせない。そこで、本講義では、設例をもとに会計基準の意味内容を具体的に理解したうえで、財務会計の基本思考とも関連付けながら議論を進める。さらに考察を深めるため、日本基準の変遷やIFRSとの比較も対象とする予定である。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 企業会計制度と会計基準
第3回 棚卸資産
第4回 固定資産(1)
第5回 固定資産(2)
第6回 固定資産(3)
第7回 繰延資産
第8回 研究開発費等
第9回 リース(1)
第10回 リース(2)
第11回 金融商品
第12回 負債
第13回 引当金
第14回 貸借対照表論

履修上の注意

本講義では、会計学の基本的な文献の理解を中心とする。予習復習を怠らないこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で議論した内容は、必ず関連文献等を調べること。

教科書

梅原秀継(2022)『財務会計論』白桃書房。
その他、適宜、レジュメを配布する。

参考書

企業会計審議会・企業会計基準委員会から公表された会計基準・公開草案・論点整理など。

課題に対するフィードバックの方法

授業における質疑のほか、Oh-ol Meijiのクラスウェブ機能も利用する。

成績評価の方法

授業への貢献度80%、レポート20%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC531J			
財務会計系		備考	
科目名	会計学原理特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼担教授 博士(経営学) 梅原 秀継		

授業の概要・到達目標

財務会計制度の中心となる会計基準を的確に解釈するには、規定された会計処理の知識はもちろんのこと、すでに定着した概念フレームワークをみてもわかるように、より基礎的な概念の理解も欠かせない。そこで、本講義では、設例をもとに会計基準の意味内容を具体的に理解したうえで、財務会計の基本思考とも関連付けながら議論を進める。さらに考察を深めるため、日本基準の変遷やIFRSとの比較も対象とする予定である。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 収益の認識基準、工事契約、費用の認識基準、発生主義会計の意義
第3回 当期業績主義と包括主義、純利益と包括利益
第4回 資本取引と損益取引、資本剰余金と利益剰余金
第5回 自己株式の取得と処分、役員賞与
第6回 評価換算差額等、純利益と包括利益
第7回 新株予約権
第8回 分配規制と会社法における分配可能額の算定
第9回 資本維持論
第10回 会計主体論と会計公準
第11回 連結会計(1)
第12回 連結会計(2)
第13回 企業結合会計
第14回 概念フレームワーク

履修上の注意

本講義では、会計学の基本的な文献の理解を中心とする。予習復習を怠らないこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で議論した内容は、必ず関連文献等を調べること。

教科書

梅原秀継(2022)『財務会計論』白桃書房。
その他、適宜、レジュメを配布する。

参考書

企業会計審議会・企業会計基準委員会から公表された会計基準・公開草案・論点整理など。

課題に対するフィードバックの方法

授業における質疑のほか、Oh-ol Meijiのクラスウェブ機能も利用する。

成績評価の方法

授業への貢献度80%、レポート20%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC531J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	財務諸表特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

国際財務報告基準(IFRS)との収斂問題を含め、わが国の会計ルールに関する特質究明を試みる。処理規定内容の理解にとどまるのではなく、認識対象の拡大や評価属性の多様化などの視点から近時の「会計」を考究する。

〔到達目標〕

財務諸表による情報開示制度の特質および個別的会計諸規定を多角的な視点から考究する能力の養成。

授業内容

- 第1回：各種アプローチ法
- 第2回：情報開示：情報の非対称性と諸問題
- 第3回：情報開示：情報の非対称性に対応策
- 第4回：会計情報開示の諸類型：会社法会計と金融商品取引法会計
- 第5回：会計情報開示の諸類型：証券取引所規程、IR
- 第6回：財務諸表の体系
- 第7回：財務諸表の構造
- 第8回：会計行為：認識
- 第9回：会計行為：評価、測定
- 第10回：会計行為：記録、表示
- 第11回：会計主体論
- 第12回：会計公準論
- 第13回：会計基準：各種アプローチ・制度的位置づけ・権威性
- 第14回：財務諸表の意義

履修上の注意

具体的テーマを取りあげて検討することがあるので、各種基準の指示内容の知識と基本的な会計処理スキルを必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『体系現代会計学第3巻会計情報の有用性』伊藤邦雄責任編集(中央経済社)

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-ol Meijiシステムを通して行う。

成績評価の方法

レポート4回(20%×4)および討論状況(20%)に基づいて評価をおこなう。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC531J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	財務諸表特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

財務諸表特論Aに続き、「国際財務報告基準(IFRS)との収斂問題を含め、わが国の会計ルールに関する特質究明を試みる。処理規定内容の理解にとどまるのではなく、認識対象の拡大や評価属性の多様化などの視点から近時の「会計」を考究する。

〔到達目標〕

財務諸表による情報開示制度の特質および個別的会計諸規定を多角的な視点から考究する能力の養成。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：概念フレームワーク：財務報告の目的
- 第3回：概念フレームワーク：会計情報の質的特性
- 第4回：概念フレームワーク：財務諸表の構成要素
- 第5回：概念フレームワーク：財務諸表における認識と測定
- 第6回：資産会計：認識
- 第7回：資産会計：評価、測定
- 第8回：負債会計：認識
- 第9回：負債会計：評価、測定
- 第10回：資本会計：認識、評価、測定
- 第11回：収益会計：認識、評価、測定
- 第12回：費用会計：認識、評価、測定
- 第13回：個別財務諸表・連結財務諸表
- 第14回：財務諸表と財務情報

履修上の注意

具体的テーマを取りあげて検討することがあるので、各種基準の指示内容の知識と基本的な会計処理スキルを必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『財務会計講義』桜井久勝著(中央経済社)最新版

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-ol Meijiシステムを通して行う。

成績評価の方法

レポート4回(20%×4)および討論状況(20%)に基づいて評価をおこなう。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC561J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	監査特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本講義は、金融商品取引法の下における監査制度について正しく理解することを目的とする。特に、そのために、金融商品取引法監査に関する概説書の講読だけでなく、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎についても学ぶ。さらに、広く財務諸表監査の会計プロフェッションによる監査制度の実態についての最新情報を取り上げる。

また監査は、つねに実務を念頭において実務と整合するものでなければならない。このため、本講義では、関連する社会経済上のトピックス等についても積極的に取り上げる予定である。

〈到達目標〉

今日の財務諸表監査は、投資者の投資行動に資するために、企業が公表する財務諸表の信頼性を保証する社会的制度であり、同時に企業にとっても、財務諸表の適正性を担保してもらうことにより証券市場において有利に資金調達を行うことができる制度でもある。本講義は財務諸表監査のフレームワーク（監査の意義、社会的機能、監査制度等）と、監査基準（一般基準、監査人の人的条件、職業倫理等）等について理論的考察を行える知識を習得することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：株式会社の成立過程とその背景
 - 第3回：株式会社とコーポレートガバナンス
 - 第4回：ディスクロージャー制度の生成要因
 - 第5回：財務諸表監査の生成要因
 - 第6回：金融商品取引法の下における開示制度(1)
 - 第7回：金融商品取引法の下における開示制度(2)
 - 第8回：金融商品取引法監査の基本的枠組み(1)
 - 第9回：金融商品取引法監査の基本的枠組み(2)
 - 第10回：公認会計士・監査法人の役割と責任
 - 第11回：「監査基準」の設定と経緯
 - 第12回：公認会計士法に見る監査人の適格性
 - 第13回：監査報告書の情報効果
 - 第14回：まとめ
- * 講義内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

本講義では、監査関係の法令やJICPAの各種委員会報告等も取り上げるため、これらが収載されている資料集（『監査法規集』など）があれば便利である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に資料を配付するので、各回の該当箇所を読んでおくこと。

教科書

ガイダンス時に指示する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点（講義への貢献度、発表）（70%）と課題提出物（30%）

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC561J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	監査特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本講義は、わが国の会社法の下における監査制度について、その制定から発展そして今日の規制内容について基本的な知識の習得を図ることを目的としている。この目的を達成するために、わが国の会社法の下における監査制度に関する諸問題に焦点を当てて、受講生の理解を深めていきたい。合わせて、監査を取り巻く最新の動向についてもできる限り講義に反映させていくよう工夫する。

〈到達目標〉

本講義は会社法の下における監査制度について、その制定から発展そして今日の規制内容について基本的な知識の習得を図ることを目標としている。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：会社法の意義および役割
 - 第3回：会社法とコーポレート・ガバナンス
 - 第4回：会社法開示制度の概要
 - 第5回：会社法改正の経緯
 - 第6回：会社の機関
 - 第7回：会社法監査制度の概要
 - 第8回：監査役の権限
 - 第9回：監査委員会制度の概要
 - 第10回：会社法における内部統制
 - 第11回：内部統制の展開
 - 第12回：監査役等と外部監査人の連携
 - 第13回：監査役の監査報告
 - 第14回：まとめ
- * 講義内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

本講義は、監査特論Aを受講済みであることを前提とするものではないが、同特論Aを受講していれば、さらに深く理解できると思われる。また、監査関係の法令やJICPAの各種委員会報告等も取り上げるため、これらが収載されている資料集（『監査法規集』など）があれば便利である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した参考図書の該当箇所を読んでおくこと。

教科書

ガイダンス時に指示する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点（講義への貢献度、発表）70%、提出物30%

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	環境会計特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業概要〉
環境会計論の基礎講義として、会計が環境問題に取り組むことについての意義や手法、期待される役割や克服すべき課題などについて、歴史的展開に基づきながら、わが国の環境会計・環境報告に関する取組みを中心に授業を行います。
〈到達目標〉
「環境会計」とは何かという問題提起と、それに対する答えを自分自身で探究できるようになることを目標とします。

授業内容

- 第1回 序論—環境会計とは何か：環境と会計の接点
第2回 環境報告の意義と態様
第3回 環境報告の概念的基礎
第4回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ(1)：ガバナンス
第5回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ(2)：戦略
第6回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ(3)：リスク管理
第7回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ(4)：指標及び目標
第8回 サステナビリティ関連の財務情報
第9回 TCFDの概要
第10回 第三者保証の基礎
第11回 第三者保証の実務
第12回 Carbon Pricing (1)：環境税と排出量取引
第13回 Carbon Pricing (2)：カーボンクレジットとカーボンオフセット
第14回 まとめ

履修上の注意

環境問題に対しては、会計によるアプローチよりも科学技術開発や社会イノベーション、経済理論・経済政策、社会制度や国内外の法規制・国際的スキームなどが先行して取り組まれています。
会計はこれらの後追的な側面もあるので、まずは環境問題への取り組みについて関心を持ってください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業だけで環境問題のすべての内容を紹介・解説することは困難ですので、事前・事後に文献等で調べてください。
特に気候変動枠組み条約等を巡る国際的な動向は、しばしばニュース報道されていますから、それらについてもチェックをしてください。
参考となりそうなニュース記事や資料等についてはOh-ol Meiji を通じて紹介もします。

教科書

特に指定しません。
授業で参照する資料については、Oh-ol Meiji や紙媒体でその都度配布します。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、前回授業の振り返りと課題内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

出席を前提として、授業中の発表並びに課題レポートを評価資料(100%)とします。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	環境会計特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業概要〉
環境会計論の発展形態として、組織の内部に導入が図られている環境会計手法、いわゆる内部環境会計ツールについて、わが国のみならず海外の動向を踏まえながら授業を行います。具体的には、環境配慮が組織活動にどのように組み込まれているのか、また、それによって何が目指され、どのように達成されていくのかを実践的な観点から検討して欲しいと思います。
〈到達目標〉
環境管理会計に関する手法について、基礎的理解を身につけることを目標とします。

授業内容

- 第1回 序論：環境マネジメント会計入門
第2回 環境会計の歩み(Part1)：社会責任会計の展開
第3回 環境会計の歩み(Part1)：事例研究・水俣病
第4回 環境会計の歩み(Part2)：環境マネジメントと環境監査
第5回 環境会計の歩み(Part2)：WBCFDと国際標準化
第6回 環境会計の歩み(Part3)：USEPAのアプローチ
第7回 環境会計の歩み(Part3)：ライフサイクル思考
第8回 環境省環境会計ガイドラインのフレームワーク
第9回 環境省環境会計ガイドラインの演習
第10回 マテリアルフローコスト会計(1)：原理と基本要素
第11回 マテリアルフローコスト会計(2)：ケーススタディ
第12回 環境効率・ファクター指標
第13回 環境品質原価計算の基礎
第14回 まとめ

履修上の注意

環境問題に対しては、会計によるアプローチよりも科学技術開発や社会イノベーション、経済理論・経済政策、社会制度や国内外の法規制・国際的スキームなどが先行して取り組まれています。
会計はこれらの後追的な側面もあるので、まずは環境問題への取り組みについて関心を持ってください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業だけで環境問題のすべての内容を紹介・解説することは困難ですので、事前・事後に文献等で調べてください。
特に、気候変動枠組み条約等を巡る国際的な動向は、しばしばニュース報道されていますから、それらについてもチェックをしてください。
参考となりそうなニュース記事や資料等についてはOh-ol Meiji を通じて紹介もします。

教科書

特に指定しません。
授業で参照する資料については、Oh-ol Meiji や紙媒体でその都度配布します。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、前回授業の振り返りと課題内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

出席を前提として、授業中の発表並びに課題レポートを評価資料(100%)とします。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC531J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	財務会計特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

授業の形態は対面です。

学務との関係で、Zoomによる授業になる回次がある可能性もあります。

【授業の概要】

企業活動の多様化・複雑化・グローバル化、そして国際会計基準への収斂過程にあって、現在、企業会計には新たな概念や会計基準等が検討・公表されている。さらに、そういった現行会計の変革に伴って財務報告の拡張にも大きな関心が向けられるようになってきている。

本授業では、まず、現行財務会計の現状と課題を検討した後、その課題の一部を改善していくものとしての「財務会計の拡張」について検討するものである。

【到達目標】

現行会計の現状と課題を理解した上で、企業会計の新しい側面(フロンティア)について関心を広め、多角的に企業の「財務報告」を捉えることができるようになる。

授業内容

授業は下記のように進める予定である。しかし、受講生の状況等により変更もあり得る。

- 1:授業のアウトライン
- 2:会計とは何か
- 3:会計の機能
- 4:会計のルール
- 5:会計の精度性
- 6:会計の基礎概念
- 7:会計の仕組み
- 8:利益計算の考え方
- 9:発生主義会計
- 10:配分と評価
- 11:2つのアプローチ
- 12:資産・負債の認識と測定
- 13:純資産の会計
- 14:授業のまとめ

履修上の注意

講義では、学術雑誌論文及び下記教科書を用いる。活発な質疑が展開されるよう、事前学習し、問題認識を持って講義に出席してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記教科書を事前に読み込むことが期待される。

教科書

藤井秀樹(2025)『入門財務会計(5版)』中央経済社。

学術雑誌論文については当該講義の2週間前までに該当ページをコピーして配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは添削の上返却します。

成績評価の方法

報告(2回程度、受講生の人数による)の内容で50%、授業中の質疑で40%、出席態度で10%。ただし、正当な理由なく欠席を重ねた場合は、評価の対象とならない。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC531J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	財務会計特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

非営利組織(助成財団、学校、病院、介護施設、市役所等)が経済規模が拡大するにつれ、非営利組織会計は重要性を増してきている。そして、民間企業が用いている「企業会計的手法」は、近年、非営利組織にもとり入れられるようになってきている。当講義では様々な主体の財務会計について、アカウンタビリティの視点から「企業会計的手法」導入のあり方について検討を加える。このことは、企業会計の意義を再認識するとともに、財務会計ディスクロージャーの社会的役割を捉えることにつながると考える。

【到達目標】

本講義では、非営利組織会計の概要を理解した上で、その概念や実務的、課題について把握できるようになること。

授業内容

授業は以下のように進める予定である。ただし、受講生の状況等により変更することもあり得る。

- 1:授業の概要
- 2:財務会計の概要(1)概念
- 3財務会計の概要(2)各論
- 4:非営利組織会計の基礎概念と財源
- 5:情報開示(財務情報・非財務情報)
- 6:中間的検討
- 7:公益法人会計の現状と課題
- 8:学校法人会計の現状と課題
- 9:社会福祉法人会計の現状と課題
- 10:NPO法人会計の現状と課題
- 11:非営利組織の税制
- 12:非営利組織会計の発展(米国)
- 13:非営利組織会計の発展(国際的統合化)
- 14:授業のまとめ

履修上の注意

講義では、下記教科書と学術雑誌論文を用いて行う。活発な質疑が展開されるよう、問題認識を持って講義に出席してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記教科書を事前に読んだ上で授業に臨むこと。

教科書

石津寿恵ほか編著(2023)『非営利組織の会計の基礎知識－寄付等による支援先を選ぶために－』(白桃書房)。

参考書

大塚宗春、黒川行治(2010)『政府と非営利組織の会計』中央経済社。

黒川和美、石崎忠司編著(2009)『公共性志向の会計学』中央経済社

山本清(2005)『政府会計改革のビジョンと戦略』中央経済社
その他、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメ、レポートについてはコメント・添削の上、返却する。

成績評価の方法

報告(2回程度、ただし受講生の人数による)の内容で50%、授業中の質疑で40%、出席態度で10%。ただし、正当な理由なく欠席を重ねた場合は、評価の対象とならない。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) LAW521J			
財務会計系		備考	
科目名	租税法特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳		

授業の概要・到達目標

租税法と現代社会における問題の関係性について、多角的視点から企業の諸問題を解決できる能力を育成するため、広い視野から研究を進められる考察力の習得を目標とします。具体的には、租税法の基本問題について納税者、課税庁のそれぞれの立場からその正当性を論理的に検討し、先例および学説をあわせて分析することで、判例の読解や条文の解釈だけではなく、自らの主張を論理的に述べるができるようになります。

授業内容

授業は租税法の体系にそって、裁判例も参照しつつ受講者の関心に即してわかりやすく進めたい。

- 第1回:大学院としての講義の進め方
- 第2回:租税の意義と原則
- 第3回:租税法の基本原則—租税法律主義
- 第4回:租税法の基本原則—租税公平主義
- 第5回:租税回避
- 第6回:租税法と私法
- 第7回:課税単位と納税義務
- 第8回:所得税の計算(1)
- 第9回:所得税の計算(2)
- 第10回:所得税の計算(3)
- 第11回:所得税の計算(4)
- 第12回:相続税の計算(1)
- 第13回:相続税の計算(2)
- 第14回:贈与税の計算

履修上の注意

大学院では学生の主体的な研究が重要であることから、本講義は受講者の興味関心に応じた判例報告を主とする。報告担当者は責任を持って報告し、授業中の質問にも対応できるように準備を行うこと。その他の受講者においても、該当部分について教科書等でよく調べたうえで、講義に参加する必要がある。

修士論文では外国論文の参照も必要なので、自分のテーマについて外国文献も勉強してもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文執筆にあたり、論文執筆の基礎知識および文献検索の習慣を身に付けてもらいたい。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂、2021年）、水野忠恒『大系租税法〔第5版〕』（中央経済社、2024年）その他受講者に応じて授業中適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に報告資料等の修正点および改善ポイントについて指導を行う。

成績評価の方法

報告内容(70点)と議論での発言(30点)で評価する。

その他

必要に応じて、オンライン開講とする場合がある。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) LAW521J			
財務会計系		備考	
科目名	租税法特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(法学) 加藤 友佳		

授業の概要・到達目標

多角的視点から企業の諸問題を解決できる能力を育成するため、広い視野から研究を進められるように、租税法と企業会計の関係性を、裁判所の判決なども取り上げながら研究します。法学を学んでいない学生を対象に、法人税法等の基本問題について納税者、課税庁のそれぞれの立場からその正当性を論理的に検討し、先例および学説をあわせて分析することで、判例の読解や条文の解釈だけではなく、自らの主張を論理的に述べるができるようになります。

授業内容

- 第1回:講義の進め方
- 第2回:法人税の根拠
- 第3回:企業会計と税務会計
- 第4回:法人税の計算—益金(1)
- 第5回:法人税の計算—益金(2)
- 第6回:法人税の計算—損金(1)
- 第7回:法人税の計算—損金(2)
- 第8回:法人税の計算—損金(3)
- 第9回:法人税の計算—損金(4)
- 第10回:同族会社と課税
- 第11回:グループ企業と課税
- 第12回:組織再編成税制
- 第13回:国際課税(1)
- 第14回:国際課税(2)

履修上の注意

大学院では学生の主体的な研究が重要であることから、本講義は受講者の興味関心に応じた判例報告を主とする。報告担当者は責任を持って報告し、授業中の質問にも対応できるように準備を行うこと。その他の受講者においても、該当部分について教科書等でよく調べたうえで、講義に参加する必要がある。

修士論文では外国論文の参照も必要なので、自分のテーマについて外国文献も勉強してもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文執筆にあたり、論文執筆の基礎知識および文献検索の習慣を身に付けてもらいたい。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂、2021年）、水野忠恒『大系租税法〔第5版〕』（中央経済社、2024年）など、その他授業中適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に報告資料等の修正点および改善ポイントについて指導を行う。

成績評価の方法

報告内容(70点)と議論での発言(30点)で評価する。

その他

必要に応じて、オンライン開講とする場合がある。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC522J			
管理会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	原価計算論演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

演習では、管理会計領域における修士論文の作成を目標に、まずは研究方法をテキストの輪読をつうじて学んでいきます。会計学の研究方法を学び、自らの研究課題について厳密に論証していく基礎を身につけます。

〈到達目標〉

会計学における研究方法を学び、管理会計領域の研究者としての基礎を身につけます。

授業内容

第1回 インTRODakション
第2回 テキストの輪読(第1章)
第3回 テキストの輪読(第2章)
第4回 テキスト輪読(第3章)
第5回 テキスト輪読(第4章)
第6回 テキスト輪読(第5章)
第7回 テキスト輪読(第6章)
第8回 テキスト輪読(第7章)
第9回 テキスト輪読(第8章)
第10回 テキスト輪読(第9章)
第11回 テキスト輪読(第10章)
第12回 テキスト輪読(第11章)
第13回 テキスト輪読(第12章)
第14回 テキスト輪読(第13章)

履修上の注意

毎回、必ずテキストを事前に読み込み、理解したうえで授業に参加してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前学習を徹底するように心がけてください。

教科書

Malcolm Smith (2022) *Research methods in accounting*. 6th ed. Los Angeles: SAGE.

参考書

Mark Saunders, Philip Lewis, Adrian Thornhill (2016) *Research methods for business students*. 7th ed. Harlow, England: Pearson.

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容(50%)と授業への貢献度(50%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC522J			
管理会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	原価計算論演習ⅠB (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

演習では、管理会計領域における修士論文の作成を目標に、会計学の研究方法を学び、自らの研究課題について厳密に論証していく基礎を身につけます。そのために、演習ⅠBでは、研究手法の修得期間として位置づけ、先行研究を渉猟することで学術研究について理解していきます。

〈到達目標〉

研究テーマに必要な先行研究を徹底的に渉猟し、批判的レビューを行えるようになることを目標とします。

授業内容

研究テーマに必要な先行研究を徹底的に渉猟し、毎週、先行研究のレビューを発表し、参加者で先行研究を批判的に検討していきます。

第1回 INTRODUCTION

第2回～第14回 先行研究のレビューの発表1～13

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表準備を徹底するように心がけてください。

教科書

Malcolm Smith (2022) *Research methods in accounting*. 6th ed. Los Angeles: SAGE.

参考書

Mark Saunders, Philip Lewis, Adrian Thornhill (2016) *Research methods for business students*. 7th ed. Harlow, England: Pearson.

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容(50%)と授業への貢献度(50%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC622J			
管理会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	原価計算論演習ⅡA (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

演習Ⅱでは、学術論文を執筆するために、各自の研究テーマにもとづき、研究を進めます。これまでに学んだ研究方法と渉猟した先行研究をもとに、自らの研究課題について厳密に論証していきます。

〈到達目標〉

研究テーマに相応しい研究方法を選択し、それに基づき、学術論文を執筆できるようになることを目的とします。

授業内容

学術論文の執筆に向けて、毎週、各自の研究報告を行い、それに基づき議論していきます。

第1回 イン트로ダクション

第2回～第14回 研究報告1～13

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表準備を徹底するように心がけてください。

教科書

Malcolm Smith (2022) *Research methods in accounting*. 6th ed. Los Angeles: SAGE.

参考書

Mark Saunders, Philip Lewis, Adrian Thornhill (2016) *Research methods for business students*. 7th ed. Harlow, England: Pearson.

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容(50%)と授業への貢献度(50%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC622J			
管理会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	原価計算論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

演習Ⅱでは、学術論文を執筆するために、各自の研究テーマにもとづき、研究を進めます。これまでに学んだ研究方法と渉猟した先行研究をもとに、自らの研究課題について厳密に論証していきます。

〈到達目標〉

研究テーマに相応しい研究方法を選択し、それに基づき、学術論文を執筆できるようになることを目的とします。

授業内容

学術論文の執筆に向けて、毎週、各自の研究報告を行い、それに基づき議論していきます。

第1回 イン트로ダクション

第2回～第14回 研究報告1～13

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表準備を徹底するように心がけてください。

教科書

Malcolm Smith (2022) *Research methods in accounting*. 6th ed. Los Angeles: SAGE.

参考書

Mark Saunders, Philip Lewis, Adrian Thornhill (2016) *Research methods for business students*. 7th ed. Harlow, England: Pearson.

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容(50%)と授業への貢献度(50%)

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC542J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	管理会計論演習ⅠA (RC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		大槻 晴海

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、現代における戦略マネジメントを支援する管理会計である、戦略管理会計 (Strategic Management Accounting) を研究対象とする。

1980年代以降、管理会計における新たな展開として戦略管理会計という分野が注目されてきた。しかしながら、その内容はますます多岐にわたっており、理論的枠組みもなく未整備の状態にある。

演習ⅠAでは、戦略管理会計の分野における研究方法論を学び、論文を作成するための一連の作法を訓練する。

〈到達目標〉

研究を行うために必要な、研究方法論の理解、研究計画書の作成、先行研究のレビュー、研究資料の調査・収集・分析・整理、研究ノートの作成、論文の作成が、一通り行えるようになることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 管理会計研究への批判的アプローチ
- 第3回 リサーチ・アイディアの展開
- 第4回 理論、文献、仮説
- 第5回 データ収集と分析
- 第6回 研究倫理
- 第7回 経験的研究
- 第8回 サーベイ研究
- 第9回 フィールドワーク
- 第10回 アーカイバル研究
- 第11回 論文指導および査読プロセス
- 第12回 研究成果の出版
- 第13回 サンプル論文(1)・(2)の検討
- 第14回 論文構想の発表

履修上の注意

- ・演習は、上記の授業内容に従って段階的に進める。
- ・演習では、レポートの内容を報告してもらい、それを受けて履修者相互で改善点を述べ合ってもらおう。
- ・レポートは毎回終了時に回収する。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・演習には、テキストを和訳・要約したレポートと、各段階において与える課題についてのレポートを作成して臨むこと。
- ・毎回の演習時に得られたフィードバックは記録し、作成したレポートとともに保管しておくこと。

教科書

『Research Methods in Accounting』Malcolm Smith (SAGE Publications Ltd.)
※最新版を入手すること。

参考書

- ・『会計学の研究方法』マルコム・スミス著、平松一夫監訳 (中央経済社)
 - ・『ケース・スタディの方法』ロバート・K.イン著 (千倉書房)
- その他の参考文献は、必要に応じて演習時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

演習への参加態度 (50%) およびレポートの質 (50%) に基づき、総合的に評価する。

その他

管理会計および原価計算に関する知識・スキルが不足している者は、各自でそれらの向上に努めること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC542J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	管理会計論演習ⅠB (RC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		大槻 晴海

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、現代における戦略マネジメントを支援する管理会計である、戦略管理会計 (Strategic Management Accounting) を研究対象とする。

1980年代以降、管理会計における新たな展開として戦略管理会計という分野が注目されてきた。しかしながら、その内容はますます多岐にわたっており、理論的枠組みもなく未整備の状態にある。

演習ⅠBでは、戦略管理会計に関する研究テーマの設定から研究計画の作成・実行、研究成果の発表までを指導する。

〈到達目標〉

戦略管理会計に関するトピックスについて、先行研究による知見を踏まえながら、独自性を持つ学術論文を作成することを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究テーマの設定
- 第3回 研究計画書の作成
- 第4回 先行研究文献の調査・文献リストの作成
- 第5回 先行研究レビュー (1)
- 第6回 先行研究レビュー (2)
- 第7回 先行研究レビューのまとめ
- 第8回 仮説の設定
- 第9回 研究戦略の策定
- 第10回 データの収集と整理
- 第11回 データの分析と考察
- 第12回 研究成果のまとめ
- 第13回 研究成果の見直し
- 第14回 研究成果の発表

履修上の注意

- ・管理会計特論A・Bおよび管理会計論演習ⅠAを履修していることが望ましい。
- ・演習では、上記の各回の授業内容に関する報告をしてもらい、それを受けて討議・指導を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・各回の授業内容にしたがって、事前に準備をしておくこと。
- ・授業で得られたフィードバックを検討し、次の報告に反映すること。

教科書

特に定めない。

参考書

『Research Methods in Accounting』Malcolm Smith (SAGE Publications Ltd.)
※最新版を入手すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加態度 (20%)、討議における貢献度 (20%)、論文の完成度 (60%) に基づき、総合的に評価する。

その他

- ・楽しんで研究を行うこと。
- ・疑問や迷いなどが生じたら、すぐに相談すること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC642J			
管理会計系		備考	
科目名	管理会計論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、戦略管理会計(Strategic Management Accounting)を研究対象とする。戦略管理会計は現代の戦略経営を支援するための管理会計であるが、誕生からこれまで多様な展開を見せて発展してきており、いまだ確立された考え方や方法の体系が存在しない。

演習ⅡAでは、この分野における最新の先行研究をレビューすることによって、その研究方法および研究成果を整理するとともに、論文を作成するための一連の作法を訓練する。

〈到達目標〉

研究を行うために必要な、研究方法論の理解、研究計画書の作成、先行研究のレビュー、研究資料の調査・収集・整理・分析、研究ノートの作成、論文の作成が、一通りできるようになることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 問題の提起
- 第3回 研究目的の明確化
- 第4回 研究戦略の策定
- 第5回 研究計画書の作成
- 第6回 資料の調査
- 第7回 資料の収集
- 第8回 資料の整理
- 第9回 資料の分析
- 第10回 研究ノートの作成
- 第11回 論文の論理構成
- 第12回 論文の形式要件
- 第13回 論文の推敲
- 第14回 論文要旨の作成

履修上の注意

- ・演習は、概ね上記の授業内容に従って段階的に進める。
- ・演習では、レポートの内容を報告してもらい、それを受けて履修者相互で改善点を述べ合ってもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・演習には、各段階において与える課題についてのレポートを作成して臨むこと。
- ・毎回の演習時に得られたフィードバックは記録し、作成したレポートとともに保管しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

- ・『Strategic Management Accounting』K. Ward (Butterworth-Heinemann)
- ・『Strategic Management Accounting』R. Dixon and D.R. Smith ([OMEGA] Vol. 21, No. 6, pp. 605-618)
- ・『Strategic Management Accounting: Concepts, Processes and Issues, 2nd ed.』Z. Hoque (Pearson Education Australia)
- ・『The paradox of strategic management accounting』B. Nixon and J. Burns ([Management Accounting Research] Vol. 23, No. 4, pp. 229-244)
- その他の参考文献は、必要に応じて演習時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

演習への参加態度 (30%)、レポートの質 (30%)、論文の完成度 (40%) に基づき、総合的に評価する。

その他

管理会計に関する知識が不足している者は、各自で知識の向上に努めること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC642J			
管理会計系		備考	
科目名	管理会計論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、戦略管理会計(Strategic Management Accounting)を研究対象とする。戦略管理会計は現代の戦略経営を支援するための管理会計であるが、誕生からこれまで多様な展開を見せて発展してきており、いまだ確立された考え方や方法の体系が存在しない。

演習ⅡBでは、この分野における先行研究レビューを踏まえてテーマおよび仮説を設定し、その仮説を検証するためのデータの収集・分析を行い、最終的な研究成果を論文として纏め上げるまでのプロセスを指導する。

〈到達目標〉

先行研究のレビュー、テーマ設定および仮説設定、研究資料の調査・収集・整理・分析、研究ノートの作成、論文の作成・推敲のプロセスを経て、修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 問題の背景と提起
- 第3回 研究目的の明確化
- 第4回 研究戦略の策定
- 第5回 資料の調査
- 第6回 資料の収集
- 第7回 資料の整理
- 第8回 資料の分析
- 第9回 分析結果の考察
- 第10回 先行研究の確認
- 第11回 論文の論理構成の確認
- 第12回 論文の形式要件の確認
- 第13回 論文の推敲
- 第14回 論文要旨の作成

履修上の注意

- ・演習は、上記の授業内容に従って段階的に進める。
- ・演習では、論文作成の進捗状況と内容を報告してもらい、それを受けて履修者相互で改善点を述べ合ってもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・演習には、研究の進捗に応じた論文原稿を作成して臨むこと。
- ・毎回の演習時に得られたフィードバックは記録し、次回の演習までに論文原稿に反映させておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

- ・『Strategic Management Accounting』K. Ward (Butterworth-Heinemann)
- ・『Strategic Management Accounting』R. Dixon and D.R. Smith ([OMEGA] Vol. 21, No. 6, pp. 605-618)
- ・『Strategic Management Accounting: Concepts, Processes and Issues, 2nd ed.』Z. Hoque (Pearson Education Australia)
- ・『The paradox of strategic management accounting』B. Nixon and J. Burns ([Management Accounting Research] Vol. 23, No. 4, pp. 229-244)
- ・『Research Methods in Accounting』Malcolm Smith (SAGE Publications Ltd.)※最新版を入手すること。
- ・『会計学の研究手法』マルコム・スミス著、平松一夫監訳(中央経済社)
- ・『ケース・スタディの方法』ロバート・K.イン著(千倉書房)
- その他の参考文献は、必要に応じて演習時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

演習への参加態度 (30%)、レポートの質 (30%)、論文の完成度 (40%) に基づき、総合的に評価する。

その他

管理会計に関する知識が不足している者は、各自で知識の向上に努めること。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC521J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	原価計算特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

原価計算とは、企業活動から発生する原価、利益などの財務的データを、企業給付とのかかわりから認識・測定・分類し、要約・解説する理論と技術です。これは、経営管理者にたいして企業活動の計画、コントロールおよび意思決定に必要な経済的情報を提供するためになされます。原価計算特論では、日商2級工業簿記程度の知識は修得済みであることを前提として進めていきます。計算された原価情報が現実ではいかに使用されるべきであるのか、どのように解釈すべきであるのかということを深く考えていきます。

〈到達目標〉

授業では実際に原価を計算することを通じて、原価計算を深く理解していきます。計算された原価情報が現実ではいかに使用されるべきであるのか、どのように解釈すべきであるのかを理解できるようになるとともに、意思決定に際してより現実的な判断が下せるようになることを目標としています。

授業内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 原価計算の基礎概念
- 第3回 費目別計算(1)
- 第4回 費目別計算(2)
- 第5回 単純個別原価計算(1)
- 第6回 単純個別原価計算(2)
- 第7回 単純総合原価計算(1)
- 第8回 単純総合原価計算(2)
- 第9回 部門別個別原価計算(1)
- 第10回 部門別個別原価計算(2)
- 第11回 部門別個別原価計算(3)
- 第12回 活動基準原価計算(1)
- 第13回 活動基準原価計算(2)
- 第14回 活動基準原価計算(3)

*授業内容は、履修者の理解に応じて調整します。

履修上の注意

授業は、割り当てられた履修者が担当箇所を発表していく形で進めていきます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけではなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習を必ずしてきてください。また、計算問題は必ず事前に解いてきてください。

教科書

初回の授業で指示します。英語文献を用いることもあります。

参考書

岡本 清『原価計算(六訂版)』国元書房 2000年
岡本 清『原価計算問題集—問題・解説解答』国元書房 2005年
梶原武久『戦略のコストマネジメント』中央経済社 2022年
清水 孝『詳解 原価計算スタディ』中央経済社 2021年

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表(50%)と授業への貢献(50%)により総合的に評価します。

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC521J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	原価計算特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 長野 史麻		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

原価計算とは、企業活動から発生する原価、利益などの財務的データを、企業給付とのかかわりから認識・測定・分類し、要約・解説する理論と技術です。これは、経営管理者にたいして企業活動の計画、コントロールおよび意思決定に必要な経済的情報を提供するためになされます。原価計算特論では、日商2級工業簿記程度の知識は修得済みであることを前提として進めていきます。計算された原価情報が現実ではいかに使用されるべきであるのか、どのように解釈すべきであるのかということを深く考えていきます。

〈到達目標〉

授業では実際に原価を計算することを通じて、原価計算を深く理解していきます。計算された原価情報が現実ではいかに使用されるべきであるのか、どのように解釈すべきであるのかを理解できるようになるとともに、意思決定に際してより現実的な判断が下せるようになることを目標としています。

授業内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 総合原価計算の種類(1)
- 第3回 総合原価計算の種類(2)
- 第4回 工程別総合原価計算(1)
- 第5回 工程別総合原価計算(2)
- 第6回 標準原価計算(1)
- 第7回 標準原価計算(2)
- 第8回 標準原価計算(3)
- 第9回 直接原価計算(1)
- 第10回 直接原価計算(2)
- 第11回 原価計算領域における研究(1)
- 第12回 原価計算領域における研究(2)
- 第13回 原価計算領域における研究(3)
- 第14回 原価計算領域における研究(4)

*授業内容は履修者の理解に応じて調整します。

履修上の注意

授業は、割り当てられた履修者が担当箇所を発表していく形で進めていきます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけではなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習を必ずしてきてください。また、計算問題は必ず事前に解いてきてください。

教科書

初回の授業で指示します。

参考書

岡本 清『原価計算(六訂版)』国元書房 2000年
岡本 清『原価計算問題集—問題・解説・解答』国元書房 2005年
梶原武久『戦略のコストマネジメント』中央経済社 2022年
清水 孝『詳解 原価計算スタディ』中央経済社 2021年

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表(50%)と授業への貢献(50%)により総合的に評価します。

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC551J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	経営分析特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 青淵 正幸		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

企業経営にとって、自社や競合他社の状態を正しく把握し、理解することは重要である。企業の活動は貨幣単位に置き換えられ、財務諸表へと集約される。経営分析は、財務諸表を中心とした定量情報と、数値では表現できない定性情報を用いて対象企業の状態を把握する手法である。本講義では財務諸表を用いた財務分析を中心に解説と事例を用いた演習やディスカッションを行う。

〈到達目標〉

財務諸表には、出資者が託した資金を経営者がどのように活用し、どれだけの成果をもたらしたかが示されている。そこには経営者の様々なメッセージが込められている。本講義では、財務諸表の構造の理解および経営指標の理解を到達目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 経営分析の基礎
- 第3回 貸借対照表の構造
- 第4回 支払能力の分析
- 第5回 資金計算書の種類と構造
- 第6回 キャッシュ・フローを用いた分析
- 第7回 安全性分析のケーススタディ
- 第8回 損益計算書の構造
- 第9回 取引収益性の分析
- 第10回 資本収益性の分析
- 第11回 資本収益性の分解
- 第12回 収益性分析のケーススタディ
- 第13回 効率性の分析
- 第14回 総括

履修上の注意

会計学の基礎知識が必要となる。授業内でも補足説明を行うが、必要に応じて別途入門書での学習を指示する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業へ臨むにあたり、事前に教科書や配付資料等に目を通しておくこと。

教科書

『要説経営分析〔六訂版〕』青木茂男編著(森山書店)

参考書

必要に応じて講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を提示した以降の回に評価できる点・改善すべき点などをコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度35% 授業内での報告や発言35% レポート30%

その他

授業は全回対面で実施する。
授業の内容は、順番を入れ替えたり、一部変更する場合もある。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC551J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	経営分析特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 青淵 正幸		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

本講義の目的は、大きく分けて3つある。1つ目は各種情報を加味した分析である。近年ではセグメント情報や四半期情報、非財務情報など、多くの情報が開示されている。それらの情報を加味した分析手法を検討する。2つ目は利益の質である。財務諸表に示された額や計算された経営指標が良好な企業が、必ずしも良い企業とは限らない。企業の経済的実態を正しく把握するには利益の質を理解することが重要である。財務諸表数値、特に利益や付加価値の質に着目した分析を行う。3つ目は評価である。経営分析特論Aでは特定の視点(例えば安全性や収益性など)による計算構造の理解を念頭に置いていくが、本講義ではその結果の総合判断について検討する。また、企業価値や株主価値の評価モデルを取り上げ、モデルの特徴を検討して株主価値の推定計算を行う。

〈到達目標〉

財務諸表は企業活動を数値に置き換えて集計されたものである。本講義では、それらの数値が持つ真の意味の理解を到達目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 連結財務諸表と個別財務諸表
- 第3回 セグメント情報を用いた分析
- 第4回 四半期情報を用いた分析
- 第5回 企業の総合評価
- 第6回 企業分析のケーススタディ
- 第7回 利益の質
- 第8回 会計操作と不適切な会計処理
- 第9回 不適切な会計処理のケーススタディ
- 第10回 企業価値評価総論
- 第11回 DCFモデルとDDM
- 第12回 残余利益モデル
- 第13回 ネットアセットアプローチとマーケットアプローチ
- 第14回 総括

履修上の注意

経営分析特論Aから続いている履修が望ましい。経営分析特論Aと同様、会計学の基礎知識が必要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業へ臨むにあたり、事前に教科書や配付資料等に目を通しておくこと。

教科書

『要説経営分析〔六訂版〕』青木茂男編著(森山書店)

参考書

必要に応じて講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を提示した以降の回に評価できる点・改善すべき点などをコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度35% 授業内での報告や発言35% レポート30%

その他

授業は全回対面で実施する。
授業の内容は、順番を入れ替えたり、一部変更する場合もある。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC541J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	管理会計特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		大槻 晴海

授業の概要・到達目標

〈概要〉

管理会計は、伝統的には、組織体（主として企業）において日々繰り返される業務の管理とその業績の把握、また、組織体にとって重要な局面でその都度行われる経営上の意思決定（判断や決断）にあたって、経営管理者に財務情報を提供し支援する情報システムとして発展してきた。そして現代において、管理会計は、経営戦略の立案・策定・実行・評価・見直しなどを行うにあたって、組織成員に財務・非財務情報を提供し支援する情報システムであるだけでなく、組織成員の意思決定および行動に影響を与える影響システムでもあると理解されるようになっている。

本講義では、そのような管理会計に関する概念や手法を網羅的に学ぶことによって管理会計領域全般にわたって深く理解し、今後の管理会計研究でわれわれが成すべきことを明らかにする。

〈到達目標〉

本講義では、現在までに明らかにされてきた管理会計に関する概念や手法を身につけ、今後の管理会計研究の方向性を理解することを目標とする。

授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション
- 第2回 経営者のための管理会計
- 第3回 企業価値創造のための管理会計
- 第4回 キャッシュ・フロー経営
- 第5回 原価計算の基礎と「原価計算基準」の現代的意義
- 第6回 企業評価と財務諸表分析
- 第7回 中長期経営計画、利益計画、目標管理
- 第8回 企業予算によるマネジメント・コントロール
- 第9回 損益分岐点分析による収益性の検討
- 第10回 直接原価計算による利益管理
- 第11回 標準原価計算によるコスト・コントロール
- 第12回 原価企画による戦略的コスト・マネジメント
- 第13回 ABCによる製品戦略、原価低減、予算管理
- 第14回 コスト・品質の戦略的コスト・マネジメント

履修上の注意

- ・授業では、指名によりレポート（レジュメ）に基づいて教科書の内容を報告してもらい、それを受けて討議を行う。
- ・原価計算および管理会計に関する基礎的な知識を修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・事前に授業内容を予告するので、教科書の当該箇所をよく読み込んで各自でレポート（レジュメ）を作成し、授業に臨むこと。
- ・計算技術的側面に関する知識・スキルが不足している者は、各自でそれらの向上に努めること。
- ・授業において理解が不足していた内容・疑問が残った点などは、授業後に各自で調べて解消するとともに、未解決となった点は次の授業時に質問すること。

教科書

『管理会計（第七版）』櫻井通晴著（同文館出版）

参考書

『現場が動き出す会計：人はなぜ測定されると行動を変えるのか』伊丹敬之・青木康晴著（日本経済新聞出版社）
その他の参考文献は、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加態度（30%）、討議における貢献度（30%）、レポートの完成度（40%）に基づき、総合的に評価する。

その他

管理会計および原価計算に関する基礎的な知識・スキルが不足している者は、各自でそれらの向上に努めること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC541J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	管理会計特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		大槻 晴海

授業の概要・到達目標

〈概要〉

管理会計は、伝統的には、組織体（主として企業）において日々繰り返される業務の管理とその業績の把握、また、組織体にとって重要な局面でその都度行われる経営上の意思決定（判断や決断）にあたって、経営管理者に財務情報を提供し支援する情報システムとして発展してきた。そして現代において、管理会計は、経営戦略の立案・策定・実行・評価・見直しなどを行うにあたって、組織成員に財務・非財務情報を提供し支援する情報システムであるだけでなく、組織成員の意思決定および行動に影響を与える影響システムでもあると理解されるようになっている。

本講義では、そのような管理会計に関する概念や手法を網羅的に学ぶことによって管理会計領域全般にわたって深く理解し、今後の管理会計研究でわれわれが成すべきことを明らかにする。

〈到達目標〉

本講義では、現在までに明らかにされてきた管理会計に関する概念や手法を身につけ、今後の管理会計研究の方向性を理解することを目標とする。

授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション
- 第2回 販売促進費、物流費、本社費の管理
- 第3回 経営意思決定会計
- 第4回 戦略的意思決定と設備投資意思決定
- 第5回 戦略的・戦術的価格決定
- 第6回 経営戦略の管理会計への役立ち
- 第7回 バランス・スコアカードによる戦略マネジメント
- 第8回 インタングИБルズの戦略マネジメント
- 第9回 事業部制による業績管理会計
- 第10回 組織再編と分権化の管理会計
- 第11回 EVAによる経営効率の向上
- 第12回 IT投資戦略とコスト・マネジメント
- 第13回 AIの管理会計への適用
- 第14回 研究開発費の管理会計・まとめ

履修上の注意

- ・授業では、指名によりレポートに基づいて指定論文の内容を報告してもらい、それを受けて討議を行う。
- ・作成したレポートは授業終了時に回収する。
- ・原価計算および伝統的管理会計（業績管理会計、意思決定会計）に関する知識を修得していることが望ましい。
- ・授業において理解が不足していた内容・疑問が残った点などは、授業後に各自で調べて解消するとともに、未解決となった点は次の授業時に質問すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・事前に学術論文（和・洋文献）を指定するので、よく読み込んで各自でレポートを作成し、授業に臨むこと。
- ・計算技術的側面に関する知識・スキルが不足している者は、各自でそれらの向上に努めること。

教科書

『管理会計（第七版）』櫻井通晴著（同文館出版）

参考書

『現場が動き出す会計：人はなぜ測定されると行動を変えるのか』伊丹敬之・青木康晴著（日本経済新聞出版社）
その他の参考文献は、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加態度（30%）、討議における貢献度（30%）、レポートの完成度（40%）に基づき、総合的に評価する。

その他

管理会計および原価計算に関する基礎的な知識・スキルが不足している者は、各自でそれらの向上に努めること。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN572J			
公共経営系		備考	
科目名	非営利組織論演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、文献輪読を通じて、非営利組織の組織的変化に関する経済学・組織論・経営学理論の主要な先行研究をレビューしつつ、まず非営利組織研究の多様なアプローチについての理解を深めてもらう。その上で組織の資源依存構造、ハイブリッド性、組織間関係に焦点をあてたより理論的な研究論文を扱い、非営利組織研究のための理論枠組みの形成に役立てる。当該分野の実証的な研究成果についてもレビューし、理論と実証を重視した研究視点・方法を習得してもらう。

授業内容

第1回：非営利組織の経済理論：需要サイドアプローチ
 第2回：非営利組織の経済理論：供給サイドアプローチ
 第3回：非営利組織の経済理論：企業家アプローチ
 第4回：非営利組織の経営理論
 第5回：非営利組織の組織理論：資源依存アプローチ
 第6回：非営利組織の組織理論：制度化アプローチ
 第7回：非営利組織の政治理論：ソーシャル・キャピタルアプローチ
 第8回：非営利組織の商業化
 第9回：非営利組織のハイブリッド化
 第10回：非営利組織の組織的変化
 第11回：非営利組織と市場
 第12回：非営利組織と制度的環境
 第13回：非営利組織と法制・税制
 第14回：非営利組織研究の現状と課題

履修上の注意

報告内容、議論に積極的に参加する姿勢を重視する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に、輪読する範囲の学習を行い、論点、疑問点を整理する。授業後、関連する先行研究やデータなどを調べ、さらに理解を深める。

教科書

教科書は用いず、レジュメを配布

参考書

塚本一郎・関正雄編『社会貢献によるビジネスイノベーション』丸善
 塚本一郎・金子郁容編『ソーシャルインパクト・ボンドとは何か』ミネルヴァ書房。
 塚本一郎・関正雄編『インパクト評価と社会イノベーション』第一法規。
 塚本一郎・関正雄・馬場英朗編『インパクト評価と価値創造経営』第一法規。
 雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji、「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

報告内容(60点)、議論への参加度(40点)を中心に総合的に評価。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN572J			
公共経営系		備考	
科目名	非営利組織論演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、文献輪読を通じて、非営利組織の組織的変化に関する経済学・組織論・経営学理論の主要な先行研究をレビューしつつ、特にハイブリッド組織としての社会的企業の組織的特性についての理解を深め、研究論文を扱い、非営利組織研究のための理論枠組みの形成に役立てる。当該分野の実証的な研究成果についてもレビューし、理論と実証を重視した研究視点・方法を習得してもらう。

授業内容

第1回：非営利組織と営利組織との境界の曖昧化
 第2回：非営利組織の商業化・ハイブリッド化に関する諸理論
 第3回：非営利組織のハイブリッド化と社会的企業
 第4回：社会的企業の経済学的发展动向
 第5回：社会的企業の経済学的发展动向
 第6回：社会的企業の経営学的发展动向
 第7回：社会的企業の経営学的发展动向
 第8回：社会的企業の組織論的研究的发展动向
 第9回：社会的企業の組織論的研究的主要理論
 第10回：社会的企業と市場
 第11回：社会的企業と制度的環境
 第12回：社会的企業と法制・税制
 第13回：社会的企業研究の現状
 第14回：社会的企業研究の課題

履修上の注意

報告内容、議論に積極的に参加する姿勢を重視する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に、輪読する範囲の学習を行い、論点、疑問点を整理する。授業後、関連する先行研究やデータなどを調べ、さらに理解を深める。

教科書

毎回レジュメを配布する。

参考書

塚本一郎他編『ソーシャルエンタープライズ』丸善
 塚本一郎・関正雄・馬場英朗編著(2023)『インパクト評価と価値創造経営』第一法規

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji、「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

報告内容(60点)、議論への参加度(40点)を中心に総合的に評価。

その他

特になし。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN672J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	非営利組織論演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、修士論文の完成に向けた指導が主目的となるが、その関連で、主として優れた学術論文の輪読を通じて、非営利組織の組織的変化に関する経済学・組織論・経営学理論の主要な先行研究をレビューしつつ、非営利組織研究の発展動向、多様なアプローチについての理解を深めてもらう。一部、英文の国際ジャーナルに掲載された主要論文も扱うものとする。当該分野の国際的な理論的・実証的研究水準に達することが目標である。

授業内容

第1回：非営利組織の経済理論の主要研究の検討
第2回：非営利組織の経済理論の到達点と課題
第3回：非営利組織の経営理論の主要研究の検討
第4回：非営利組織の経営理論の到達点と課題
第5回：非営利組織の組織理論の主要研究の検討
第6回：非営利組織の組織理論の到達点と課題
第7回：非営利組織のマーケティング理論の主要研究の検討
第8回：非営利組織のマーケティング理論の到達点と課題
第9回：非営利組織の戦略論の主要研究の検討
第10回：非営利組織の戦略論の到達点と課題
第11回：非営利組織の公共経営的研究の主要理論の検討
第12回：非営利組織の公共経営的研究の到達点と課題
第13回：非営利組織の政治理論の主要研究の検討
第14回：非営利組織の政治理論の到達点と課題

履修上の注意

報告内容、議論に積極的に参加する姿勢を重視する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に、輪読する範囲の学習を行い、論点、疑問点を整理する。授業後、関連する先行研究やデータなどを調べ、さらに理解を深める。

教科書

毎回レジュメを配布する。

参考書

塚本一郎他編『ソーシャルインパクト・ボンドとは何か』ミネルヴァ書房。
塚本一郎・関正雄編著『インパクト評価と社会イノベーション』第一法規。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji、「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

報告内容(60点)、議論への参加度(40点)を中心に総合的に評価。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN672J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	非営利組織論演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、修士論文の完成に向けた指導が主目的となるが、その関連で非営利組織の商業化・ハイブリッド化した形態である社会的企業に焦点をあて、社会的企業に関する経済学・経営学の主要な先行研究をレビューしつつ、国際比較の観点から、当該分野の理論的・実証的な研究成果についてもレビューを行う。修士論文完成に向けた論文指導も実施する。

授業内容

第1回：社会的企業の基礎概念
第2回：修士論文研究指導：研究の視点・方法の確認
第3回：社会的企業の経済理論
第4回：社会的企業の経営理論
第5回：修士論文の理論的フレームワークとアウトラインの確認
第6回：社会的企業の組織論
第7回：アメリカにおける社会的企業研究の発展動向
第8回：アメリカにおける社会的企業研究の主要理論
第9回：ヨーロッパにおける社会的企業研究の発展動向
第10回：ヨーロッパにおける社会的企業研究の主要理論
第11回：英国における社会的企業研究の発展動向
第12回：英国における社会的企業研究の主要理論
第13回：韓国における社会的企業研究の発展動向
第14回：日本における社会的企業研究の発展動向

履修上の注意

報告内容、議論に積極的に参加する姿勢を重視する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に、輪読する範囲の学習を行い、論点、疑問点を整理する。授業後、関連する先行研究やデータなどを調べ、さらに理解を深める。

教科書

毎回レジュメを配布する。

参考書

塚本一郎他編『ソーシャルインパクト・ボンドとは何か』ミネルヴァ書房。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji、「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

報告内容(60点)、議論への参加度(40点)を中心に総合的に評価。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN592J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	環境マネジメント演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 松野 裕		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

ロナルド・コースの主要著書The firm, the market, and the law (または、『企業・市場・法』)を読み、議論する。

〈到達目標〉

そうした文献を読み、取引費用概念を用いた経済の理解を獲得すること。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 The firm, the market, and the law 1
- 第3回 The firm, the market, and the law 2
- 第4回 The nature of the firm 1
- 第5回 The nature of the firm 2
- 第6回 Industrial organization: a proposal for research
- 第7回 The marginal cost controversy
- 第8回 The problem of social cost 1
- 第9回 The problem of social cost 2
- 第10回 The problem of social cost 3
- 第11回 Notes on the problem of social cost 1
- 第12回 Notes on the problem of social cost 2
- 第13回 The lighthouse in economics
- 第14回 総括

履修上の注意

上記内容・順序は履修者との相談により変えることがある。
環境マネジメント演習ⅠBと合わせて履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に教科書等で調べておくこと。
授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。
普段から授業での議論内容と現実との対応について関心を持つこと。

教科書

下記のものをを用いる。
Coase, H. Ronald (1988) The firm, the market, and the law, The University of Chicago Press, Chicago
(ロナルド・コース著、宮沢健一、後藤晃、藤垣芳文訳(1992)『企業・市場・法』東洋経済新報社、を用いてもよい。)

参考書

必要に応じて随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度50%
授業での発表50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN592J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	環境マネジメント演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 松野 裕		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

ウィリアム・カッパの主要著書The social cost of private enterprise (または、『私的企業と社会的費用』)を読み、議論する。

〈到達目標〉

そうした文献を読み、社会的費用概念を用いた経済の理解を獲得すること。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 Social costs and economic science
- 第3回 The nature and significance of social costs
- 第4回 Earlier discussions of social costs
- 第5回 The social costs resulting from the impairment of the human factor of production
- 第6回 The social costs of air/water pollution
- 第7回 Depletion and destruction of animal resources
- 第8回 The premature depletion of energy resources
- 第9回 The social costs of technological change
- 第10回 The social costs of unemployment and idle resources
- 第11回 Monopoly and social losses
- 第12回 Social costs of distribution
- 第13回 Toward a new science of political economy
- 第14回 総括

履修上の注意

上記内容・順序は履修者との相談により変えることがある。
環境マネジメント演習ⅠAと合わせて履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に教科書等で調べておくこと。
授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。
普段から授業での議論内容と現実との対応について関心を持つこと。

教科書

下記のものをを用いる。
K. William Kapp (1950) The social cost of private enterprise, Harvard University Press
(または、篠原泰三訳『私的企業と社会的費用』岩波書店)

参考書

必要に応じて随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度50%
授業での発表50%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN692J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	環境マネジメント演習ⅡA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 松野 裕		

授業の概要・到達目標

植田和弘・國部克彦・岩田裕樹・大西靖『環境経営イノベーションの理論と実践』を読む。
環境経営についての基本的理解を獲得する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：環境経営イノベーションの意義
第3回：環境対応に伴う競争優位
第4回：環境経営イノベーションの分析視覚
第5回：ポーター仮説
第6回：パナソニックの環境経営イノベーション
第7回：マネジメントシステムのイノベーション
第8回：リコーの環境経営イノベーション
第9回：リサイクル事業のイノベーション
第10回：積水化学工業の環境経営イノベーション
第11回：環境志向の製品戦略
第12回：ダイキン工業の環境経営イノベーション
第13回：フロン問題
第14回：環境経営イノベーションの評価と推進

履修上の注意

環境マネジメント演習ⅠA・ⅠBの履修を前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業の範囲について、事前に教科書等で調べておくこと。
授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。
普段から報道などで環境問題に関する記事を注意して読むこと。

教科書

植田和弘・國部克彦・岩田裕樹・大西靖『環境経営イノベーションの理論と実践』中央経済社

参考書

随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度と発表等により総合的に評価する。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN692J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	環境マネジメント演習ⅡB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 松野 裕		

授業の概要・到達目標

馬奈木俊介(2010)『環境経営の経済分析』を読む。
環境経営についての基本的理解を獲得する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：環境経営と経済
第3回：格付け結果を用いた環境経営の評価
第4回：地球温暖化とガバナンス
第5回：排出権取引制度の評価
第6回：環境技術のイノベーション
第7回：再生可能エネルギー普及施策
第8回：エネルギー技術のイノベーション
第9回：交通機関とCO2削減
第10回：パラメトリックモデルとノンパラメトリックモデル
第11回：環境効率性とマネジメント
第12回：自主的取り組みの誘因
第13回：環境と生産性
第14回：まとめ

履修上の注意

環境マネジメント演習ⅠA・ⅠBの履修を前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に教科書等で調べておくこと。
授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。
普段から報道などで環境問題に関する記事を注意して読むこと。

教科書

馬奈木俊介(2010)『環境経営の経済分析』中央経済社

参考書

随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度と発表等により総合的に評価する。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN572J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	行政経営論演習ⅠA (RC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、基本文献・資料の講読と研究テーマや構成など論文の構想に関する指導を行う。

本演習を通じて、修士論文執筆に向け受講生の研究に対する理解が深まることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 先行研究論文の調査方法
- 第4回 先行研究論文調査のまとめ方
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論(1)
- 第8回 基本資料講読および討論(2)
- 第9回 基本資料講読および討論(3)
- 第10回 研究テーマ、論文構想の確認
- 第11回 研究の方法論、対象に関する議論
- 第12回 研究テーマ、論文構想の修正案の提示
- 第13回 研究テーマ、論文構想に関する最終議論
- 第14回 論文構想の発表

履修上の注意

本演習に関連する本研究科・他研究科の講義科目の履修を薦める。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

『政策リサーチ入門』、伊藤修一郎、(東京大学出版会)

参考書

指定しない

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体講評と個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度50%、最終レポート50%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN572J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	行政経営論演習ⅠB (RC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、基本文献・資料の講読と研究テーマや構成など論文の構想に関する指導を行う。

本演習を通じて、修士論文執筆に向け受講生の研究に対する理解が一層深まることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 研究テーマ相談・討論
- 第3回 行政学、地方自治論の最新研究動向調査
- 第4回 先行研究と研究テーマの位置づけ
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 研究作業（データ分析やヒアリング調査など）のスケジュール確認
- 第7回 基本資料講読および討論(1)
- 第8回 基本資料講読および討論(2)
- 第9回 基本資料講読および討論(3)
- 第10回 研究テーマ、論文構想の確認
- 第11回 研究テーマに関連する先行研究の整理と議論
- 第12回 研究テーマ、論文構想の修正案の提示
- 第13回 研究テーマ、論文構想に関する最終議論
- 第14回 論文構想の発表

履修上の注意

本演習に関連する本研究科・他研究科の講義科目の履修を薦める。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体講評と個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度50%、最終レポート50%

その他

特になし

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN672J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	行政経営論演習ⅡA (RC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、基本文献・資料の講読と研究テーマや構成など論文の構想に関する指導を行う。

本演習を通じて、修士論文執筆に向け受講生の研究の内容が一層深まり、より高いレベルの論文を完成させることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODダクション
- 第2回 研究目的・課題の設定
- 第3回 先行研究と研究内容の位置づけの確認
- 第4回 研究関連資料講読および討論(1)
- 第5回 研究関連資料講読および討論(2)
- 第6回 研究関連資料講読および討論(3)
- 第7回 研究内容・章立てに関する発表
- 第8回 研究目的・課題の再修正と討論
- 第9回 各章の細かい概要・構想の発表
- 第10回 研究作業の課題やスケジュールの確認
- 第11回 論文執筆の指導:序草案の報告
- 第12回 論文執筆の指導:序草案の検討
- 第13回 論文執筆の指導:序草案の修正
- 第14回 論文構想の最終確認

履修上の注意

本演習に関連する本研究科・他研究科の講義科目の履修を薦める。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体講評と個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度50%、最終レポート50%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN672J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	行政経営論演習ⅡB (RC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、基本文献・資料の講読と研究テーマや構成など論文の構想に関する指導を行う。

本演習を通じて、修士論文執筆に向け受講生の研究の内容が一層深まり、より高いレベルの論文を完成させることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODダクション
- 第2回 論文構想・章立て
- 第3回 研究作業の課題やスケジュールの確認
- 第4回 論文執筆の指導:本論文の報告(1)
- 第5回 論文執筆の指導:本論文の報告(2)
- 第6回 論文執筆の指導:本論文の検討(1)
- 第7回 論文執筆の指導:本論文の検討(2)
- 第8回 論文執筆の指導:本論文の修正指導(1)
- 第9回 論文執筆の指導:本論文の修正指導(2)
- 第10回 文献一覧表の報告
- 第11回 文献一覧表の修正
- 第12回 論文要旨報告
- 第13回 論文要旨修正
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

本演習に関連する本研究科・他研究科の講義科目の履修を薦める。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体講評と個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度50%、最終レポート50%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN562J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	社会的金融論演習ⅠA（RC）		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（社会学） 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：社会的金融の意義と理論，社会的金融の現状を中心に検討を進める。
到達目標：社会的金融の諸側面を包括的に検討し，課題を見出すこと。

授業内容

第1回 社会的金融の意義
第2回 社会的金融の歴史（ヨーロッパ）
第3回 社会的金融の歴史（アメリカ）
第4回 社会的金融の歴史（途上国）
第5回 社会的金融の歴史（日本）
第6回 社会的金融の理論（金融包摂）
第7回 社会的金融の理論（インパクト投資）
第8回 社会的金融の理論（マイクロファイナンス）
第9回 社会的金融の現状（ヨーロッパ）
第10回 社会的金融の現状（アメリカ）
第11回 社会的金融の現状（途上国）
第12回 社会的金融の現状（日本）
第13回 社会的金融の課題
第14回 社会的金融の展望

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

受講者の研究課題に沿った参考書を選定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN562J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	社会的金融論演習ⅠB（RC）		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（社会学） 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：金融排除・金融包摂の理論と現状を中心に検討を進める。
到達目標：金融排除・金融包摂の諸側面を包括的に検討し，課題を見出すこと。

授業内容

第1回 金融排除・金融包摂の概論
第2回 金融排除・金融包摂の歴史（ヨーロッパ）
第3回 金融排除・金融包摂の歴史（アメリカ）
第4回 金融排除・金融包摂の歴史（途上国）
第5回 金融排除・金融包摂の歴史（日本：近代）
第6回 金融排除・金融包摂の歴史（日本：現代）
第7回 金融排除・金融包摂の理論
第8回 各論(1)地理的排除
第9回 各論(2)多重・過剰債務
第10回 各論(3)マイノリティ
第11回 各論(4)金融教育
第12回 各論(5)デジタル金融
第13回 各論(6)消費者保護政策
第14回 金融排除・金融包摂の課題と展望

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

受講者の研究課題に沿った参考書を選定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN662J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	社会的金融論演習Ⅱ A (RC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：社会的金融及びその関連領域の先行研究を幅広く読み、研究動向と論点を整理する。
到達目標：社会的金融に関する研究動向と、社会的金融をめぐる論点について理解を深めること。

授業内容

第1回 金融排除論
第2回 金融包摂論
第3回 社会開発論
第4回 コミュニティ開発論
第5回 貧困研究
第6回 社会保障論
第7回 社会的企業論(社会学)
第8回 社会的企業論(経営学)
第9回 非営利組織論(社会学)
第10回 非営利組織論(経営学)
第11回 社会的経済論
第12回 協同組合論
第13回 地域金融論
第14回 リレーションシップバンキング

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

受講者の研究課題に沿った参考書を選定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN662J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	社会的金融論演習Ⅱ B (RC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：マイクロファイナンス及びその関連領域の先行研究を幅広く読み、研究動向と論点を整理する。
到達目標：先進国におけるマイクロファイナンスに関する研究動向と、マイクロファイナンスをめぐる論点について理解を深めること。

授業内容

第1回 マイクロファイナンスの概論
第2回 マイクロファイナンスの歴史
第3回 マイクロファイナンスの市場規模
第4回 マイクロファイナンスの利用者層
第5回 マイクロファイナンス機関の経営
第6回 マイクロファイナンス機関のガバナンス
第7回 融資手法：グループ融資
第8回 融資手法：個別融資
第9回 預金・保険・送金
第10回 零細企業の経営支援
第11回 マイクロファイナンスの社会的インパクト
第12回 マイクロファイナンス政策
第13回 マイクロファイナンスに対する批判(ミッション・ドリフト論)
第14回 マイクロファイナンスに対する批判(新自由主義批判)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

受講者の研究課題に沿った参考書を選定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN571J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	非営利組織論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

民間非営利組織論 (nonprofit organization, 以下, NPO) は, 特に1990年代以降, NPM(New Public Management)を基調とする公共サービス改革・民営化などを背景として, その規模を拡大させている。一方, NPOの台頭の背景には, ソーシャル・キャピタル (social capital) というコンセプトに象徴されるような社会的価値を創造する機能や, 間接民主主義を超えて, より直接的に市民・利害関係者の意見を政治に反映させるアドボカシー機能などへの期待の高まりがある。またNPOといっても, 組織形態・法人形態は多様である。また近年はNPOの商業化が進展するなど, NPOと企業との境界の曖昧化も進行している。

本講義では, こうしたNPOという組織の特徴(組織の構造や機能)を他の主要なセクター (公的セクター・民間営利セクター)との対比で考えていきたい。

【到達目標】

非営利組織に経済理論, 政治理論, 組織論などの理論からアプローチすることで, 営利セクター, 公共セクターと区別されるNPOの特性への理解を深める。

授業内容

- 第1回:NPOの台頭の背景—世界的な背景
- 第2回:NPOの台頭の背景—日本における背景
- 第3回:NPOに関する基本概念
- 第4回:NPOの政治理論—ソーシャル・キャピタル
- 第5回:NPOの政治理論—コ・プロダクション
- 第6回:NPOの政治理論—ニュー・パブリック・ガバナンス
- 第7回:NPOの経済理論—公共財理論
- 第8回:NPOの経済理論—契約の失敗理論
- 第9回:NPOの経済理論—企業家理論
- 第10回:NPOの組織論—資源依存理論
- 第11回:NPOの組織論—制度化理論
- 第12回:NPOの組織論—取引コスト理論
- 第13回:NPOと公共サービス—英国
- 第14回:NPOと公共サービス—日本

履修上の注意

報告内容, 議論に積極的に参加する姿勢を重視する。
文献を輪読するので, 発表者に限らず, 予習, 復習を行うこと。

準備学習 (予習・復習等) の内容

- ・文献輪読を行うので, 授業当日で扱う範囲を熟読し, 論点, 疑問点などをあらかじめ整理しておくこと。
- ・授業で扱った箇所を復習するとともに, 関連する先行研究や参考文献についても, サーベイし, 有用な文献であれば精読すること。

教科書

前半は毎回レジュメを配布。その後, 文献を指定し輪読する。文献は履修生と相談の上, 決定。

参考書

- 以下はあくまでも参考文献であるが, 一部を指定し輪読対象とすることもありうる。
- 稲葉陽二『ソーシャルキャピタル入門』中公新書。
- 山岸敏男『安心社会から信頼社会へ』中公新書。
- 塚本一郎他編『NPOと新しい社会デザイン』同文館。
- 塚本一郎他編著『ソーシャル・エンタープライズ』丸善。
- 塚本一郎他編『インパクト評価と社会イノベーション』第一法規。
- 塚本一郎他編『インパクト評価と価値創造経営』第一法規。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji, 「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容 (60点), 議論への参加度 (40点)を中心に総合的に評価。
1度も輪読文献について発表しない場合, 無断欠席2回以上, 正当な理由のない欠席3回以上 (正当な理由を証明できない欠席), 正当な理由のない遅刻 (開始20分を超えての遅刻) 3回以上は不可とする。

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN571J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	非営利組織論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

【概要】

民間非営利組織 (nonprofit organization: 以下, NPO) は, 社会的ミッションの実現のために, 非市場的・市場的な多様な資源に依存し, また公的セクターや企業セクターとの連携・協働を通じて活動を行う傾向にある。非営利組織論特論Bでは, 非営利組織の商業化・企業化に焦点をあて, 社会的企業やソーシャルビジネスというNPOの新潮流を中心に扱う。併せて, 企業の価値創造経営の可能性についても扱う。

【到達目標】

社会的企業や価値創造経営に理論的, 実証的にアプローチするための視点や知識を習得する。

授業内容

- 第1回:NPOの組織特性
- 第2回:NPOの組織特性の変化: 商業化
- 第3回:NPOの組織特性の変化: 企業化
- 第4回:NPOと行政との協働—英国
- 第5回:NPOと行政との協働—日本
- 第6回:NPOと社会的企業
- 第7回:社会的企業に関する理論的アプローチ
- 第8回:社会的企業台頭の背景—英国
- 第9回:社会的企業台頭の背景—日本
- 第10回:社会的企業と法制度
- 第11回:社会的企業と地域再生
- 第12回:企業の価値創造経営
- 第13回:企業の非財務情報開示
- 第14回:企業とESG投資

履修上の注意

報告内容, 議論に積極的に参加する姿勢を重視する。
予習・復習を重視する。

準備学習 (予習・復習等) の内容

- ・授業に臨む前に, 事前に授業で扱う範囲を熟読し, 論点・疑問点などを整理しておくこと。
- ・授業後, 復習にころがけ, なおかつ関連する先行研究や参考文献のサーベイを行い, 有用な文献については精読すること。

教科書

履修者と相談の上, 決定するが, 下記文献も候補とする。
塚本一郎・山岸秀雄編著『ソーシャル・エンタープライズ』丸善。

参考書

- 塚本一郎・関正雄編著『インパクト評価と社会イノベーション』第一法規。
- 塚本一郎・関正雄・馬場英朗編『インパクト評価と価値創造経営』第一法規。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji, 「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容 (60点), 議論への参加度 (40点)を中心に総合的に評価。
1度も輪読文献について発表しない場合, 無断欠席2回以上, 正当な理由のない欠席3回以上, 正当な理由のない遅刻 (開始から20分を超える遅刻) 3回以上は不可とする。

その他

特になし。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN571J			
公共経営系		備考	
科目名	行政経営特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本講義では、行政組織の古典的な運営原理や、民間・非営利組織との相違、ガバナンス上の特徴などについて主に文献研究や受講生同士の議論を通じて学習を行う。

最終的には、受講生が行政組織の基本手的な運営原理について理解を深めることを到達目標とする。

授業内容

授業は、事前に受講生に割り振った課題文献の輪読、報告、ケーススタディ等によって行う。取り扱う内容などについては、受講生と相談の上、決定する。またゲスト講師を呼ぶ場合もある。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：行政組織の運営原理(公共ガバナンスと行政経営)
- 第3回：行政組織の運営原理(古典的行政運営原理と行政経営)
- 第4回：行政組織の運営原理(情報の非対称性)
- 第5回：行政組織の運営原理(政策モデル)
- 第6回：行政組織の運営原理(実施モデル)
- 第7回：行政組織の運営原理(独立エージェンシー)
- 第8回：行政組織の運営原理(政策ネットワークモデル)
- 第9回：行政組織の運営原理(市場化モデル)
- 第10回：行政組織の運営原理(公企業)
- 第11回：行政組織の運営原理(本人代理人関係)
- 第12回：行政組織の運営原理(マルチレベルガバナンス)
- 第13回：行政組織の運営原理(政府経営の比較)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

教科書と参考文献の事前事後の学習が必要となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

ヤン＝エリック・レーン(稲継裕昭訳)『テキストブック政府経営』勁草書房 2017年

参考書

Tony Bovaird and Elke Loefller, eds. (2016) *Public Management and Governance*. Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体講評と個別講評を実施する。

成績評価の方法

出席態度と発表(60%)、レポート(40%)によって決定する。

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN571J			
公共経営系		備考	
科目名	行政経営特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本講義では、行政組織の古典的な運営原理や、民間・非営利組織との相違、ガバナンス上の特徴などについて主に文献研究や受講生同士の議論を通じて学習を行う。

最終的には、受講生が行政組織の基本手的な運営原理について理解を深めることを到達目標とする。

授業内容

「行政経営特論A」で学んだ知識を基礎に、行政組織の運営や公共政策の諸原理、そして実態や今後の在り方などについて、諸外国の事例も用いながら検討を進める。なお、扱う題材については、受講生と随時相談しながら決めていく。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：行政組織運営の諸原理(古典的な行政運営原理)
- 第3回：行政組織運営の諸原理(NPM・ガバナンス論)
- 第4回：公共政策の諸原理(公共政策学の系譜)
- 第5回：公共政策の諸原理(アジェンダ設定)
- 第6回：公共政策の諸原理(公共政策の手段)
- 第7回：公共政策の諸原理(規範的判断)
- 第8回：公共政策の諸原理(政策決定と合理性)
- 第9回：公共政策の諸原理(政策決定と利益)
- 第10回：公共政策の諸原理(政策決定と制度)
- 第11回：公共政策の諸原理(政策決定とアイデア)
- 第12回：行政組織運営の諸原理(マーケティング、戦略論)
- 第13回：行政組織運営の諸原理(参加)
- 第14回：総括講義

履修上の注意

英語の教科書と日本語の参考文献の事前事後の学習が必要となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと

教科書

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』有斐閣 2020年

参考書

Tony Bovaird and Elke Loefller, eds. (2016) *Public Management and Governance*. Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体講評と個別講評を実施する。

成績評価の方法

出席と発表(60%)、レポート(40%)によって決定する。

その他

特になし

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
公共経営系		備考	
科目名	環境マネジメント特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 松野 裕		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

環境政策に関する文献を読み、議論する。

〈到達目標〉

そうした文献を読み、議論することを通じて、環境政策全般についてある程度専門的な理解を獲得すること。

授業内容

授業内容は参加者と相談して決定するが、一応の提案としては下記教科書を読む。(読む章についても、参加者と相談して決定する。)以下はノードハウス(2013)『気候カジノ 経済学から見た地球温暖化問題の最適解』を採用した場合。

- 第1回 イン트로
- 第2回 第1章 気候カジノへの入り口
- 第3回 第2章 二つの湖のエピソード
- 第4回 第3章 気候変動の経済的起源
- 第5回 第4章 将来の気候変動
- 第6回 第5章 気候カジノの臨界点
- 第7回 第6章 気候変動から影響まで
- 第8回 第7章 農業の行く末
- 第9回 第8章 健康への影響
- 第10回 第9章 海洋の危機
- 第11回 第10章 ハリケーンの強化
- 第12回 第11章 野生動物と種の喪失
- 第13回 第12章 気候変動がもたらす損害の合計
- 第14回 第13章 気候変動への対応 適応策と気候工学

履修上の注意

上記内容・順序は履修者との相談により変えることがある。
環境マネジメント特論Bと合わせて履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に教科書等で調べておくこと。
授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。
普段から報道などでの環境問題に関する記事を注意して読むこと。

教科書

ノードハウス(2013)『気候カジノ 経済学から見た地球温暖化問題の最適解』
または
ノードハウス(2021)『グリーン経済学 ―つながってるけど、混み合いすぎて、対立ばかりの世界を解決する環境思考』

参考書

必要に応じて随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度50%
授業での発表50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
公共経営系		備考	
科目名	環境マネジメント特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 松野 裕		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

環境政策に関する文献を読み、議論する。

〈到達目標〉

そうした文献を読み、議論することを通じて、環境政策全般についてある程度専門的な理解を獲得すること。

授業内容

授業内容は参加者と相談して決定するが、一応の提案としては下記教科書を読む。(読む章についても、参加者と相談して決定する。)以下は、ノードハウス(2013)『気候カジノ 経済学から見た地球温暖化問題の最適解』を採用した場合。

- 第1回 イン트로
- 第2回 第14章 排出削減による気候変動の抑制 緩和策
- 第3回 第15章 気候変動抑制のコスト
- 第4回 第16章 割引と時間の価値
- 第5回 第17章 気候政策の変遷
- 第6回 第18章 気候政策と費用便益分析
- 第7回 第19章 炭素価格の重要な役割
- 第8回 第20章 国家レベルでの気候変動政策
- 第9回 第21章 国家政策から国際協調政策へ
- 第10回 第22章 最善策に次ぐアプローチ
- 第11回 第23章 低炭素経済に向けた先進技術
- 第12回 第24章 気候科学とそれに対する批判
- 第13回 第25章 気候変動をめぐる世論
- 第14回 第26章 気候変動政策についての障害

履修上の注意

上記内容・順序は履修者との相談により変えることがある。
環境マネジメント特論Aと合わせて履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に教科書等で調べておくこと。
授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。
普段から報道などでの環境問題に関する記事を注意して読むこと。

教科書

ノードハウス(2013)『気候カジノ 経済学から見た地球温暖化問題の最適解』
または
ノードハウス(2021)『グリーン経済学 ―つながってるけど、混み合いすぎて、対立ばかりの世界を解決する環境思考』

参考書

必要に応じて随時指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度50%
授業での発表50%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN561J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	社会的金融特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：社会的金融の意義と理論，日本における社会的金融の現状を中心に検討を進める。
到達目標：日本における社会的金融の諸側面を包括的に検討し，課題を見出すこと。

授業内容

第1回 イントロダクション、ソーシャル・ファイナンスの基礎
第2回 ソーシャル・ファイナンスの歴史(日本) 1
第3回 ソーシャル・ファイナンスの歴史(日本) 2
第4回 中小企業融資
第5回 社会的企業の資金調達
第6回 NPO融資
第7回 クラウドファンディング
第8回 コミュニティ財団と市民出資
第9回 インパクト投資・インパクト評価
第10回 サステナブル投資
第11回 消費者の金融排除
第12回 被災者の金融排除
第13回 外国人の金融排除
第14回 地域通貨

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ECN561J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	社会的金融特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：海外における社会的金融の歴史と現状を中心に検討を進める。
到達目標：海外における社会的金融の諸側面を包括的に検討し，課題を見出すこと。

授業内容

第1回 ヨーロッパのSF(1)歴史
第2回 ヨーロッパのSF(2)金融包摂
第3回 ヨーロッパのSF(3)ソーシャル・バンク
第4回 アメリカのSF(1)金融包摂
第5回 アメリカのSF(2)コミュニティ開発金融
第6回 アメリカのSF(3)社会的企業の資金調達
第7回 途上国のSF(1)マイクロファイナンス1
第8回 途上国のSF(2)マイクロファイナンス2
第9回 途上国のSF(3)金融包摂
第10回 グローバルな動向(1)サステナブル投資
第11回 グローバルな動向(2)インパクト投資
第12回 グローバルな動向(3)ESG債
第13回 グローバルな動向(4)デジタル金融と金融排除
第14回 移民に対する金融包摂

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN566E			
グローバルコース系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	Global Business I A [M]		
開 講 期	春学期集中	単 位	演 2
担 当 者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

Provide guidance on conducting master project research. This is first semester introduction to the research methods.

Objective :

1. To understand the research process in master project and the research methodology
2. To conduct literature review on the topic of interest
3. To develop research problem, research objectives and strategies to complete the project.

授業内容

THIS COURSE MAY BE CONDUCTED AS AN ONLINE MEDIA-BASED (REAL TIME DELIVERY TYPE)

Topics are mainly derived from the textbook for weeks 1 to 9

1. Introduction to research
2. The scientific approach in research
3. Defining and refining the problem
4. Critical literature review
5. Critical literature review
6. Theoretical framework and hypothesis development
7. Data collection methods - Interview, Survey
8. Experimental designs
9. Measurement of variables : Operational definition
10. Measurement : Scaling, reliability and validity
11. Research discussions - research problem statement
12. Research discussions - research objectives
13. Research discussions - research framework
14. Research discussions - data collection methodologies
15. Presentation of Research Proposal

履修上の注意

The content is used as a guide and may change according to the topic of research being conducted. Students must present their progress and also the understanding of methods from the literature student. The research should show progress in term of developing a research proposal at end of the semester.

準備学習（予習・復習等）の内容

Student will need to present and discuss research process using the textbook chapter by chapter and journals related to the topic. Therefore, students shall prepare for active discussions by reading the research methodology book, journal papers and other relevant publications.

教科書

1. Sekaran, Uma, and Bougie, Roger (2016) Research methods for business: a skill building approach, 7th edition, John Wiley & Sons.

参考書

1. Saunders, Mark, Lewis, Philip, Thornbill, Adrian (2016), Research methods for business students, 7th edition, Pearson Education
2. Other Research Methodology books
3. Related journal publications

課題に対するフィードバックの方法

Discussions and Continuous Feedback during meetings. Checking of submitted reports and chapters.

成績評価の方法

Presentation/In Class Participation - 20%
Assignment - 20%
Report - 60%

その他

All presentations must be in English and prepared in power point notes. At the end of the semester, student should have a draft of Chapters 1 Introduction and part of Chapter 2 Literature Review of the research /study.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN566E			
グローバルコース系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	Global Business IB [M]		
開 講 期	秋学期集中	単 位	演 2
担 当 者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

Provide guidance on preparing and completing master project research and prepare thesis.

Objective:

1. To conduct thorough literature review and decide research objectives
2. To review some relevant methodologies suitable for answering the research objectives
3. To complete the write up of Chapter 2 Literature review and begin writing Chapter 3 Research Methodology.

授業内容

THIS COURSE IS PROVIDED AS AN ONLINE MEDIA-BASED (REAL TIME DELIVERY TYPE)

Topics are mainly derived from the textbook

1. Discussions on research problem
2. Discussions on research objectives
3. Discussions of literature review findings
4. Determine research design
5. Develop research method - qualitative or quantitative
6. Develop data collection methods
7. Develop data collection methods
8. Data Collection process (e.g. Administering of Questionnaire/ Survey/Interview, etc.)
9. Measurement of data variables
10. Design Research Instrument
11. Design Research Instrument
12. Pilot Study
13. Discussions of data collection methodology and instrument confirmation
14. Presentation of Research Methodology - Completed Chapter 3 - Research Methodology

履修上の注意

The content may be subjected to some changes depending on the topic of research being conducted. The research should show progress in term of research methodology at end of the semester.

準備学習（予習・復習等）の内容

Student will need to present and discuss research process using the textbook chapter by chapter and journals related to the topic. Therefore, students shall prepare for active discussions by reading the research methodology book, journal papers and other relevant publications.

教科書

1. Sekaran, Uma, and Bougie, Roger (2016) Research methods for business: a skill building approach, 7th edition, John Wiley & Sons.
2. Halyna M. Kornuta, and Ron W. Germaine, (2019), A Concise Guide to Writing a Thesis or Dissertation Educational Research and Beyond, Second Edition, Taylor and Francis

参考書

1. Statistical Data Analysis Techniques
2. Relevant books on data collection and analysis
3. Related journal publications

課題に対するフィードバックの方法

Discussions and continuous feedback will be given immediately during class meetings. Any issues faced will be discussed. .

成績評価の方法

Presentations - 20%
Assignment - 20%
Report - 60%
Total - 100%

その他

All presentations must be in English and prepared in power point notes. The draft report for Chapter 3 Research Methodology must be submitted at the end of semester.

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN666E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Global Business II A [M]		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

Provide guidance on the research methodology and data analysis stage of completing master project research.

Objective:

1. To determine the research methodology to be used in the research
2. To implement data collection for achieving the research objectives
2. To conduct data analysis to meet the research objectives set.

授業内容

THIS COURSE IS PROVIDED AS AN ONLINE MEDIA-BASED (REAL TIME DELIVERY TYPE)

1. Confirmation of the research method
2. Collection of data progress
3. Collection of data progress
4. Completion of data collection
5. Analysis of data progress
6. Analysis of data progress
7. Completion of data analysis
8. Discussions of results and findings
9. Discussions of results and findings
10. Completion of results and analysis
11. Confirmation with research objectives with results
12. Discussions on results and analysis
13. Write up Chapter 4 Research Methodology and part of Chapter 5 Results and Analysis
14. Presentation of Research Methodology and Initial Analysis

履修上の注意

The content may change according to the topic of research being conducted..

Students is expected to complete Chapter 3 Research Methodology, and to begin writing part of Chapter 4 - Results and Analysis during this semester.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students need to present their data collection progress until completion of this stage. Then the analysis will begin with reference to books, journals and discussions with the advisor.

教科書

1. Sekaran, Uma, and Bougie, Roger (2016) Research methods for business: a skill building approach, 7th edition, John Wiley & Sons.

参考書

1. Research methods for business students, Mark Saunders, Philip Lewis, Adrian Thornhill, Seventh edition, 2016, Pearson Education
2. A Concise Guide to Writing a Thesis or Dissertation Educational Research and Beyond, Halyna M. Kornuta and Ron W. Germaine, 2019, Second Edition

課題に対するフィードバックの方法

Online discussions and presentations will be conducted periodically.

成績評価の方法

Presentation/In Class Participation -20%
Assignment - 20%
Report - 60%

その他

All presentations must be in English and prepared in power point notes. Draft of Chapter 3 should be submitted. All feedback given must be incorporated in the report.

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN666E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Global Business II B [M]		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

Provide guidance on research and preparing thesis/master report. This is the final part of the master project advising and supervision of the research.

Objective :

1. To report and complete all data analysis
2. To write up discussions, findings and outcomes of the research
2. To write up, compile and complete master project thesis/report

授業内容

THIS COURSE IS PROVIDED AS AN ONLINE MEDIA-BASED (REAL TIME DELIVERY TYPE)

1. Confirmation of methodology for data analysis 1
2. Confirmation on methodology for data analysis 2
3. Discussions on reliability and validity of data 1
4. Discussions on reliability and validity of data 2
5. Present and discuss data analysis results 1
6. Present and discuss data analysis results 2
7. Present and discuss data analysis results 3
8. Write up report of results analysis 1
9. Write up report of results analysis 2
10. Discussions of final report 1
11. Discussions of final report 2
12. Discussions of final report 3
13. Preparation for project presentation
14. Presentation of Final Report

履修上の注意

The content may change according to the topic of research and progress of the research. The final report should be prepared and completed at the end of the semester

準備学習（予習・復習等）の内容

To prepare and complete all the chapters for the report to be presented and discussed during class.

教科書

1. Sekaran, Uma, and Bougie, Roger (2016) Research methods for business: a skill building approach, 7th edition, John Wiley & Sons.

参考書

1. Saunders, Mark, Lewis, Philip, Thornbill, Adrian (2016), Research methods for business students, 7th edition, Pearson Education
2. Statistical or quantitative data Analysis Techniques books and references
3. Related journal papers

課題に対するフィードバックの方法

Prepare report and PowerPoint presentation of report.

成績評価の方法

Presentation/In Class Participation - 20%
Assignment - 20%
Report - 60%
Total - 100%

その他

All presentations must be in English and prepared in PowerPoint notes.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	Organizational Behavior I A [M]		
開 講 期	春学期集中	単 位	演 2
担 当 者	特任教授 博士 (経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

This course is about social science research (also called social research), focusing largely on Qualitative Research. Specifically, social science research within the broader domain of human behavior in organizational settings. It aims to help learning partners (students) build the basic foundation for conceptualizing, designing, conducting, and writing a master's thesis (or research report, depending on their personal choice and career development plan) on an original research issue, drawing upon spotting gaps in past studies. This course also creates a learning environment in which these learning partners could share their insights and thoughts on an original research issue/s with other learning partners and the course facilitator (lecturer). An academic exercise of this nature may be useful for narrowing down and fine tuning its scope with a view to developing a research proposal in brief (during the embryonic stage of planning a research project).

- At the end of this course, learning partners will be able to:
- explain what social science research is all about
 - recognize how social science research differs from pure science, natural science, and engineering research
 - sketch how to conceptualize a social science research project
 - assemble basic skills required for undertaking social science research.

授業内容

All 14 sessions of this course will be delivered by using Zoom Video-conferencing Technology.

Session 1 Preliminary discussion on what research is all about and research interests of learning partners

Session 2 Short lecture on social science research: The nature and process 1

Session 3 Short lecture on social science research: The nature and process 2

Session 4 Short lecture on social science research: The nature and process 3

Session 5 Short lecture on social science research (comparing with pure and natural science research and engineering research): The nature and process 4

Session 6 Presentation on what is research and what is a research proposal? (chapter one of the textbook) 1

Session 7 Presentation on formulating a research issue (chapter two of the textbook) 2

Session 8 Presentation on research questions (chapter three of the textbook) 3

Session 9 Presentation on hypotheses building and relevance, significance, and objectives (chapters four and five of the textbook) 4

Session 10 Presentation on literature review (chapter six of the textbook) 5

Session 11 Presentation on theoretical approach, methods, and methodology (chapters seven, eight, and nine of the textbook) 6

Session 12 Presentation on ethics in social science research 7

Session 13 Discussion on the nature and scope of master's thesis and research report and presentation on writing the research proposal (chapter 10 of the textbook) 8

Session 14 Presentation on the individual research project in brief 9 (and reflections and course wrap up)

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s for this course.

All learning partners taking this course are required to have a basic understanding of basic theories and concepts of Organizational Behavior, particularly micro-Organizational Behavior. They are welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.

Learning and teaching methods: Short lectures, interactive discussions, and presentations by learning partners based on textbook chapters and other types of literature

準備学習（予習・復習等）の内容

All learning partners are advised to a) read the course textbook prior to start taking this course and b) associate closely with journals on Organizational Behavior (and Organization Studies) that are indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI, available in the Web of Science Group Master Journal List) or Scopus. This would help them choose appropriately journal articles for reading and reviewing leading to planning an individual research project.

教科書

Course textbook: Uyangoda, J. (2010). *Writing research proposals in the social sciences and humanities: A theoretical and practical guide*. Social Scientists' Association.

Note: You may use the latest edition or latest print available of this textbook.

参考書

Aguinis, H., & Henle, C. A. (2002). Ethics in research. In S. G. Rogelberg (Ed.), *Handbook of research methods in industrial and organizational psychology* (pp. 34-56). Blackwell Publishers.

Alvesson, M., & Sandberg, J. (2013). *Constructing research questions: Doing interesting research*. SAGE Publications Ltd.

American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.). <https://doi.org/10.1037/000165-000>

Creswell, J. W., & Poth, C. N. (2018). *Qualitative inquiry & research design: Choosing among five approaches* (4th ed.). SAGE Publications, Inc.

Lincoln, Y. S., & Guba, E. G. (1985). *Naturalistic inquiry*. Sage Publications.

Pasmore, W., & Friedlander, F. (1982). An action-research program for increasing employee involvement in problem solving. *Administrative Science Quarterly*, 27(3), 343-362.

Rocco, T. S., & Plakhotnik, M. S. (2009). Literature reviews, conceptual frameworks, and theoretical frameworks: Terms, functions, and distinctions. *Human Resource Development Review*, 8(1), 120-130.

Sandberg, J., & Alvesson, M. (2011). Ways of constructing research questions: gap-spotting or problematization? *Organization*, 18 (1), 23-44. doi: 10.1177/1350508410372151

Siddaway, A. P., Wood, A. M., & Hedges, L. V. (2019). How to do a systematic review: A best practice guide for conducting and reporting narrative reviews, meta-analyses, and meta-syntheses. *Annual Review of Psychology*, 70, 91-924.

Stake, R. E. (1995). *The art of case study research*. Sage Publications, Inc.

Uyangoda, J. (2010). *Writing research proposals in the social sciences and humanities: A theoretical and practical guide*. Social Scientists' Association.

Yin, R. K. (2018). *Case study research and applications: Design and methods* (6th ed.). Sage Publications Inc.

Note: Use the latest edition available of these reference materials

Journals (suggestive): Journal of Organizational Behavior, Organizational Dynamics, Organization Studies, The International Journal of Human Resource Management, Academy of Management Review, Administrative Science Quarterly

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *Kaizen*-oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

- Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - Individual research project in brief, i.e. written assignment and oral presentation—30%
- No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together for producing and disseminating new knowledge.

Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	Organizational Behavior I B [M]		
開 講 期	秋学期集中	単 位	演 2
担 当 者	特任教授 博士 (経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

This is a continuation of Organizational Behavior IA. Organizational Behavior IB aims at creating a learning environment for learning partners (students) to produce a comprehensive review of the literature as part of their master's thesis (or research report). As such, this course devotes more time to help them acquire competencies (knowledge, skills, attitudes, and values) required for reading, understanding, summarizing, and discussing the literature available in the form of articles published in journals that are indexed in either Social Sciences Citation Index (SSCI, available in the Web of Science Group Master Journal List) or Scopus.

- At the end of this course, learning partners will be able to:
- assemble competencies needed for reading and reviewing journal articles on a multitude of topics of Organizational Behavior
 - identify basic academic writing skills and guidelines set forth in the Publication Manual of the American Psychological Association (APA-style)
 - organize a comprehensive review of the literature that would eventually become part of their master's thesis (or research report).

授業内容

All 14 sessions of this course will be delivered by using Zoom Video-conferencing Technology.

Session 1 Research proposal: Reflections on major components and putting them together

Session 2 Short lecture: Review of the literature and basic academic writing skills (using APA-style)

Session 3 Reading, reviewing, summarizing, and presenting a journal article 1

Session 4 Reading, reviewing, summarizing, and presenting a journal article 2

Session 5 Reading, reviewing, summarizing, and presenting a journal article 3

Session 6 Reading, reviewing, summarizing, and presenting a journal article 4

Session 7 Reading, reviewing, summarizing, and presenting a journal article 5

Session 8 Reading, reviewing, summarizing, and presenting a journal article 6

Session 9 Reading, reviewing, summarizing, and presenting a journal article 7

Session 10 Reading, reviewing, summarizing, and presenting a journal article 8

Session 11 Reading, reviewing, summarizing, and presenting journal article 9 and 10

Session 12 Writing questions and objectives of the study by drawing upon spotting gaps in past studies

Session 13 Presentation of comprehensive review of the literature

Session 14 Reflections and course wrap up

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s for this course.

All learning partners who are keen on taking this course are encouraged to be aware of what is covered in Organizational Behavior IA. They are welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.

Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, and presentations by learning partners based on reading, reviewing, and summarizing journal articles

準備学習（予習・復習等）の内容

Each learning partner is required to source journal articles from reputable journals (indexed in SSCI or Scopus) of his/her own choice for reading, reviewing, summarizing, and presenting in classroom meetings. They will also be inspired to explore new avenues for fine tuning their research interests developed already. And also, to align constructively these research interests with research questions, objectives of the study, appropriately chosen research strategy, and methods.

教科書

There is no specific textbook recommended for this course. Instead, all learning partners are encouraged to read the latest edition available of any textbook on social science research and literature review.

参考書

Aguinis, H., & Henle, C. A. (2002). Ethics in research. In S. G. Rogelberg (Ed.), *Handbook of research methods in industrial and organizational psychology* (pp. 34-56). Blackwell Publishers.

American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.). <https://doi.org/10.1037/000165-000>

Hamp-Lyons, L., & Courter, K. B. (1984). *Research matters*. Newbury House.

Hart, C. (1998). *Doing a literature review: Releasing the social science research imagination*. Sage Publications.

Lincoln, Y. S., & Guba, E. G. (1985). *Naturalistic inquiry*. Sage Publications.

Rocco, T. S., & Plakhotnik, M. S. (2009). Literature reviews, conceptual frameworks, and theoretical frameworks: Terms, functions, and distinctions. *Human Resource Development Review*, 8(1), 120-130.

Sandberg, J., & Alvesson, M. (2011). Ways of constructing research questions: gap-spotting or problematization? *Organization*, 18 (1), 23-44. doi: 10.1177/1350508410372151

Siddaway, A. P., Wood, A. M., & Hedges, L. V. (2019). How to do a systematic review: A best practice guide for conducting and reporting narrative reviews, meta-analyses, and meta-syntheses. *Annual Review of Psychology*, 70, 91-924.

Stake, R. E. (1995). *The art of case study research*. Sage Publications, Inc.

Uyangoda, J. (2010). *Writing research proposals in the social sciences and humanities: A theoretical and practical guide*. Social Scientists' Association.

Yin, R. K. (2018). *Case study research and applications: Design and methods* (6th ed.). Sage Publications Inc.

Note: Use the latest edition available of these reference materials

Journals (suggestive): Journal of Organizational Behavior, Organizational Dynamics, Organization Studies, The International Journal of Human Resource Management, Work and Occupations, Academy of Management Review, Academy of Management Journal, Administrative Science Quarterly

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *Kaizen*-oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

- Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - Comprehensive review of the literature, i.e. written component and oral presentation—30%
- No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together for producing and disseminating new knowledge.

Your suggestions and insights are welcome at all times for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN626E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Organizational Behavior II A [M]		
開 講 期	春学期集中	単 位	演2
担 当 者	特任教授 博士 (経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

This course is a continuation of Organizational Behavior IA and IB in combination. Given this understanding, Organizational Behavior IIA purports to create a robust platform that enables learning partners (students) to develop a comprehensive research proposal for producing their master's thesis (or research report). Concurrently, they may engage in writing in draft form chapters on introduction, review of the literature, and methods of this master's thesis (or research report). Obviously, this work requires learning partners to display a sound familiarity with designing, conducting, and writing an academic thesis (or research report) based on an original research issue. For completing well this task, they also need to be knowledgeable of ethics in research and how to apply ethics in their individual research project. Besides, they are supposed to continue smoothly engagement in reading, understanding, and summarizing the literature available in the form of journal articles published in journals that are indexed in either Social Sciences Citation Index (SSCI, available in the Web of Science Group Master Journal List) or Scopus.

At the end of this course, learning partners will be able to:

- identify major components of a research proposal
- recognize deeply the inter-related and interconnected nature of different components of a research proposal
- design a few chapters (in draft form) of their master's thesis (or research report)
- recognize the importance of cross-checking the contents of these chapters
- develop further academic writing skills whilst adhering to guidelines set forth in the Publication Manual of the American Psychological Association (APA-style).

授業内容

All 14 sessions of this course will be delivered by using Zoom Video-conferencing Technology.

- Session 1 Short lecture on recapturing components of a research proposal: An in-depth analysis
- Session 2 Discussion on review of the literature 1
- Session 3 Discussion on the research issue (spotting gaps and raising questions) and objectives of the study 2
- Session 4 Discussion on methods: Research strategy and conceptual/research framework 3
- Session 5 Discussion on methods: Theoretical framework (or theoretical lens), research setting, data collection instruments, and data analysis 4
- Session 6 Discussion on ethics in research: Writing based on actual experience of conducting social science research 5
- Session 7 Discussion on ethics in research: Writing based on actual experience of conducting social science research 6
- Session 8 Discussion on construction of data collection instruments 7
- Session 9 Discussion on structuring chapters of master's thesis (or research report) 8
- Session 10 Discussion on research proposal (in draft form) In retrospect 9
- Session 11 Discussion on chapters one and two (in draft form) of master's thesis (or research report) 10
- Session 12 Discussion on chapter three (in draft form) of master's thesis (or research report) 11
- Session 13 Presentation of the comprehensive research proposal (three chapters)
- Session 14 Reflections and course wrap up

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s for this course.

All learning partners who are keen on taking this course are encouraged to be aware of what is covered in Organizational Behavior IA and IB in combination. They are welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.

Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, and presentations of written pieces of work (in draft form) by learning partners

準備学習（予習・復習等）の内容

Each learning partner is required to continue with sourcing further journal articles from reputable journals that are indexed in SSCI or Scopus. These journals must be based on his/her own choice. Importantly, reading, reviewing, and summarizing these journal articles will help them improve continuously different components of the research proposal and chapters (in draft form) of master's thesis (or research report).

教科書

Major reference: Foss, S. K., & Waters, W. (2016). *Destination dissertation: A traveler's guide to a done dissertation* (2nd ed.). Rowman & Littlefield.

参考書

Aguinis, H., & Henle, C. A. (2002). Ethics in research. In S. G. Rogelberg (Ed.), *Handbook of research methods in industrial and organizational psychology* (pp. 34-56). Blackwell Publishers.
American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.).
<https://doi.org/10.1037/000165-000>
Corbin, J., & Strauss, A. (2015). *Basics of qualitative research: Techniques and procedures for developing and grounded theory*. Sage Publications.
Corley, K. G., & Gioia, D. A. (2004). Identity ambiguity and change in the wake of a corporate spin-off. *Administrative Science Quarterly*, 49, 173-208.
Hamp-Lyons, L., & Courter, K. B. (1984). *Research matters*. Newbury House.
Minto, B. (2009). *The pyramid principle: Logic in writing and thinking* (3rd ed.). Pearson Education Limited.
Rocco, T. S., & Plakhotnik, M. S. (2009). Literature reviews, conceptual frameworks, and theoretical frameworks: Terms, functions, and distinctions. *Human Resource Development Review*, 8(1), 120-130.
Sandberg, J., & Alvesson, M. (2011). Ways of constructing research questions: gap-spotting or problematization? *Organization*, 18 (1), 23-44. doi: 10.1177/1350508410372151
Uyagoda, J. (2010). *Writing research proposals in the social sciences and humanities: A theoretical and practical guide*. Social Scientists' Association.
Weinbaum, C., Landree, E., Blumenthal, M. S., Piquado, T., & Gutierrez, C. I. (2019). *Ethics in scientific research: An examination of ethical principles and emerging topics*. RAND Corporation.
Yin, R. K. (2018). *Case study research and applications: Design and methods* (6th ed.). Sage Publications Inc.
Note: Use the latest edition available of these reference materials Journals (suggestive): Journal of Organizational Behavior, Organizational Dynamics, Organization Studies, The International Journal of Human Resource Management, Academy of Management Review, Administrative Science Quarterly

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *Kaizen*-oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

- Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - Comprehensive research proposal, i.e. written component and oral presentation—30%
- No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together for producing and disseminating new knowledge.

Your suggestions and insights are welcome at all times for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN626E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Organizational Behavior II B〔M〕		
開 講 期	秋学期集中	単 位	演2
担 当 者	特任教授 博士（経済学） Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

This is a continuation of Organizational Behavior IA, IB, and IIA in combination. The overarching objective of Organizational Behavior IIB course is to create a learning environment for learning partners (students) to bring the task of writing their master's thesis (or research report) to fuller and timely completion. This course devotes more time to help them acquire further skills required for writing coherently and fine tuning continuously different chapters of the main body of this master's thesis (or research report). Quintessentially, these learning partners are inspired to produce systematically this master's thesis (or research report) by claiming a reasonable academic merit (originality) whilst adhering thoughtfully to ethics in research and guidelines for academic writing.

Furthermore, this course intends to provide the direction to learning partners to think proactively of reading for a degree of Doctor of Philosophy (PhD) and write a journal article based on their master's thesis. This journal article can be presented, first, at a suitable academic conference and then improved and submitted to a reputable journal.

At the end of this course, learning partners will be able to:

- sketch the global image of a master's thesis (or research report)
- develop continuously and considerably the academic and ethical rigor of different components of their master's thesis (or research report)
- assemble knowledge and experience that are deemed necessary for producing systematically an original master's thesis (or research report) whilst observing tenaciously ethics in research.

授業内容

All 14 sessions of this course will be delivered by using Zoom Video-conferencing Technology.

- Session 1 Presentation based on the progress of writing master's thesis (or research report) 1
- Session 2 Presentation based on the progress of writing master's thesis (or research report) 2
- Session 3 Presentation based on the progress of writing master's thesis (or research report) 3
- Session 4 Presentation based on the progress of writing master's thesis (or research report) 4
- Session 5 Presentation based on the progress of writing master's thesis (or research report) 5
- Session 6 Discussion on preliminary pages and appendices of master's thesis (or research report) 1
- Session 7 Discussion on the list of references/bibliography of master's thesis (or research report) 2
- Session 8 Discussion on cross-checking chapters of master's thesis (or research report), writing the abstract, and the extended abstract 3
- Session 9 Presentation based on full master's thesis or research report (in draft form) 6
- Session 10 Discussion on fine tuning further chapters of master's thesis (or research report) 4
- Session 11 Discussion on planning for reading for a degree of Doctor of Philosophy (PhD) 5
- Session 12 Discussion on writing a journal article based on master's thesis (or research report) 6
- Session 13 Mock *viva voce* examination
- Session 14 Reflections and course wrap up

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s for this course.

All learning partners who are keen on taking this course are encouraged to be aware of what is covered in Organizational Behavior IA, IB, and IIA in combination. They are welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.

Learning and teaching methods: Interactive conversations and presentations of written pieces of work (in draft form) of master's thesis (or research report) by learning partners

準備学習（予習・復習等）の内容

Each learning partner is required to continue with sourcing further journal articles from reputable journals that are indexed in SSCI (available in the Web of Science Group Master Journal List) or Scopus. The identification of these journals must be based on his/her own choice. Importantly, reading, reviewing, and summarizing these journal articles will help them improve continuously different components (particularly, chapters (in draft form) of their master's thesis (or research report)).

In addition, prior to completing master's thesis or research report to be in camera-ready form for the submission for examination purposes, each learning partner is advised to get the entire thesis (or research report) edited by an expert who offers editing/proofreading services. The quality of writing matters significantly, among others, in completing a master's thesis (or research report) of good standing.

教科書

There is no specific textbook recommended for this course. Instead, all learning partners are encouraged to read the latest edition available of any textbook on social science research.

参考書

Aguinis, H., & Henle, C. A. (2002). Ethics in research. In S. G. Rogelberg (Ed.), *Handbook of research methods in industrial and organizational psychology* (pp. 34-56). Blackwell Publishers.
American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.).
<https://doi.org/10.1037/000165-000>
Corley, K. G., & Gioia, D. A. (2004). Identity ambiguity and change in the wake of a corporate spin-off. *Administrative Science Quarterly*, 49, 173-208.
Foss, S. K., & Waters, W. (2016). *Destination dissertation: A traveler's guide to a done dissertation* (2nd ed.). Rowman & Littlefield.
Gastel, B., & Day, R. A. (2016). *How to write and publish a scientific paper* (8th ed.). Greenwood Publishing.
Gioia, D. A., Corley, K. G., & Hamilton, A. L. (2012). Seeking qualitative rigor in inductive research: Notes on the Gioia methodology. *Organizational Research Methods*, 16(1), 15-31.
Minto, B. (2009). *The pyramid principle: Logic in writing and thinking* (3rd ed.). Pearson Education Limited.
Rocco, T. S., & Plakhotnik, M. S. (2009). Literature reviews, conceptual frameworks, and theoretical frameworks: Terms, functions, and distinctions. *Human Resource Development Review*, 8(1), 120-130.
Uyagoda, J. (2010). *Writing research proposals in the social sciences and humanities: A theoretical and practical guide*. Social Scientists' Association.
Weinbaum, C., Landree, E., Blumenthal, M. S., Piquado, T., & Gutierrez, C. I. (2019). *Ethics in scientific research: An examination of ethical principles and emerging topics*. RAND Corporation.
Note: Use the latest edition available of these reference materials Journals (suggestive): Journal of Organizational Behavior, Organizational Dynamics, Organization Studies, The International Journal of Human Resource Management, Work and Occupations, Academy of Management Review, Academy of Management Journal, Administrative Science Quarterly

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *Kaizen*-oriented mindset.

They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

- Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - Full master's thesis or research report (in draft form), i.e. written output and oral presentation—30%
- No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together for producing and disseminating new knowledge.

Your suggestions and insights are welcome at all times for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

Learning is a lifelong journey. Let us, therefore, commit and dedicate ourselves to practice passionately lifelong learning.

Ars longa, vita brevis

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC536E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Advanced Financial Accounting IA (M)		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 中島 真澄		

授業の概要・到達目標

First, individual issues are picked up by original motivation. Second, the selected topic should be examined through a research project regarding the student's interest in accounting area. Third, a research paper should be prepared following the style of research paper.

授業内容

Class 1: Introduction (Media Class Realtime Live)
 Class 2: Research topics: Recognize a significant issue and summarize the related knowledge required the research project. (Media Class Realtime Live)
 Class 3: Motivation: Conduct a critical thinking for preparing concept study and the discussion related to the topics. (Media Class Realtime Live)
 Class 4: Previous Study Review 1: Identify the position of the student's paper in accounting literature
 Class 5: Previous Study Review 2: (Media Class Realtime Live)
 Class 6: Hypothesis development: Set up a hypothesis in order to induce the results for the topics. (Media Class Realtime Live)
 Class 7: Methodology: Develop and implement a methodology for examining the topics. (Media Class Realtime Live)
 Class 8: Data 1: Obtain data from database efficiently and effectively. (Media Class Realtime Live)
 Class 9: Data 2: (Media Class Realtime Live)
 Class 10: Analysis 1: Analyze the object by using data. (Media Class Realtime Live)
 Class 11: Analysis 2: (Media Class Realtime Live)
 Class 12: Interpretation: Interpret results to test the hypothesis. (Media Class Realtime Live)
 Class 13: Writing Style: Write a manuscript describing a research project consistent with writing style. (Media Class Realtime Live)
 Class 14: Presentation and Discussion: Present the research findings, as well as associated limitations. (Media Class Realtime Live)

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Students read the previous studies.

教科書

Earnings Management and Earnings Quality, 2015, Masumi Nakashima, Hakuto Shobo Publishing.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Feedback for assignments are given in class or via email at a later date.

成績評価の方法

Class Contribution 10%, Presentation 20%, and Paper 70%. No face-to-face testing is conducted.

その他

This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-ol Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-ol Meiji.

指導テーマ

Earnings Management, Corporate Governance, Earnings Quality, Accounting Fraud, Forensic Accounting.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC536E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Advanced Financial Accounting IB (M)		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 中島 真澄		

授業の概要・到達目標

First, individual issues are picked up by original motivation. Second, the selected topic should be examined through a research project regarding the student's interest in accounting area. Third, a research paper should be prepared following the style of research paper.

授業内容

Class 1: Introduction (Media Class Realtime Live)
 Class 2: Research Topics: Recognize a significant issue and summarize the related knowledge required the research project. (Media Class Realtime Live)
 Class 3: Motivation: Conduct a critical thinking for preparing concept study and the discussion related to the topics. (Media Class Realtime Live)
 Class 4: Previous Study Review 1: Identify the position of the student's paper in accounting literature (Media Class Realtime Live)
 Class 5: Previous Study Review 2: (Media Class Realtime Live)
 Class 6: Hypothesis Development: Set up a hypothesis in order to induce the results for the topics. (Media Class Realtime Live)
 Class 7: Methodology: Develop and implement a methodology for examining the topics. (Media Class Realtime Live)
 Class 8: Data 1: Obtain data from database efficiently and effectively. (Media Class Realtime Live)
 Class 9: Data 2: (Media Class Realtime Live)
 Class 10: Analysis 1: Analyze the object by using data. (Media Class Realtime Live)
 Class 11: Analysis 2: (Media Class Realtime Live)
 Class 12: Interpretation: Interpret results to test the hypothesis. (Media Class Realtime Live)
 Class 13: Writing Style: Write a manuscript describing a research project consistent with writing style. (Media Class Realtime Live)
 Class 14: Presentation and Discussion: Present the research findings, as well as associated limitations. (Media Class Realtime Live)

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Students need to read previous studies.

教科書

Earnings Management and Earnings Quality, 2015, Masumi Nakashima, Hakuto Shobo Publisher.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Feedback for assignments are given in class or via email at a later date.

成績評価の方法

Class Contribution 10%, Presentation 20%, and Paper 70%. No face-to-face testing is conducted.

その他

This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-ol Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-ol Meiji.

指導テーマ

Earnings Management, Corporate Governance, Accounting Policy by Managers, Internal Controls, and Accounting Fraud.

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC636E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Advanced Financial Accounting II A (M)		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 中島 真澄		

授業の概要・到達目標

Students keep working on preparing a research paper in this course. By the completion of this course, a student can demonstrate the following:

1. To understand the research methodology.
2. To summarize the literature review.
3. To understand how to critically analyze the research data and test the hypothesis
4. To develop the ability to discuss of research findings
5. To master how to show the future research and present reference.
6. To master how to prepare the power point slides for presentation.

授業内容

- Class 1: Introduction (Media Class Realtime Live)
 Class 2: Previous Study Review 1: Identify the position of the student's paper in accounting literature (Media Class Realtime Live)
 Class 3: Previous Study Review 2: (Media Class Realtime Live)
 Class 4: Hypothesis Development: Set up a hypothesis in order to induce the results for the topics. (Media Class Realtime Live)
 Class 5: Interpretation (Media Class Realtime Live)
 Class 6: Test the Hypothesis (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 7: Test the Hypothesis (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 8: Test the Hypothesis (3) (Media Class Realtime Live)
 Class 9: Implication (Media Class Realtime Live)
 Class 10: How to prepare PPTs for presenting a research paper (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 11: How to prepare PPTs for discussing a research paper (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 12: Revise a paper (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 13: Revise a paper (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 14: Submission of a research paper (Media Class Realtime Live)

履修上の注意

Paper is required to write in APA style.

準備学習（予習・復習等）の内容

A student should revise his or her paper following an advisor's comments after the class before next class.

教科書

Earnings Management and Earnings Quality, 2015. Masumi Nakashima, Hakuto Shobo Publisher.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Feedback for assignments are given in class or via email at a later date.

成績評価の方法

Class Contribution 10 % , Presentation 20 % , Research Paper 70% . No face-to-face testing is conducted.

その他

This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.

指導テーマ

Earnings Management, Earnings Quality, Corporate Governance, Forensic Accounting, and Accounting Fraud

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC636E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Advanced Financial Accounting II B (M)		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 中島 真澄		

授業の概要・到達目標

Students need to complete a research paper in this course. By the completion of this course, a student can demonstrate the following:

1. To understand the research methodology.
2. To summarize the literature review.
3. To understand how to critically analyze the research data and test the hypothesis
4. To develop the ability to discuss of research findings
5. To master how to show the future research and present reference.
6. To master how to prepare power point slides for presentation.
7. To master how to write a manuscript in APA Style.

授業内容

- Class 1: Introduction (Media Class Realtime Live)
 Class 2: Writing Style: Write a manuscript describing a research project consistent with writing style. (Media Class Realtime Live)
 Class 3: Writing Style: Write a manuscript describing a research project consistent with writing style. (Media Class Realtime Live)
 Class 4: How to prepare PPTs for presenting a research paper (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 5: How to prepare PPTs for discussing a research paper (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 6: Presentation of a research paper (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 7: Presentation of a research paper (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 8: Presentation of a research paper (3) (Media Class Realtime Live)
 Class 9: Revise a paper (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 10: Revise a paper (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 11: Revise a paper (3) (Media Class Realtime Live)
 Class 12: Revise a paper (4) (Media Class Realtime Live)
 Class 13: Revise a paper (5) (Media Class Realtime Live)
 Class 14: Submission of a research paper. (Media Class Realtime Live)

履修上の注意

Paper is required to write in APA style.

準備学習（予習・復習等）の内容

A student should revise his or her paper following an advisor's comments after the class before next class.

教科書

Earnings Management and Earnings Quality, 2015. Masumi Nakashima, Hakuto Shobo Publisher.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Feedback for assignments are given in class or via email at a later date.

成績評価の方法

Class Contribution 10 % , Presentation 20 % , Research Paper 70% . No face-to-face testing is conducted.

その他

This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.

指導テーマ

Earnings Management, Earnings Quality, Corporate Governance, Forensic Accounting, Internal Controls, and Accounting Fraud.

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN566E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	International Marketing I A [M]		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. 張 巧韵		

授業の概要・到達目標

The main purpose of this module is to equip students with an understanding of how research is conducted and it can transform findings into actionable business insights. During this semester, students will gain the ability to collect, analyze and evaluate information addressed their master's thesis. Moreover, students will be able to define the research problem and develop a research plan.

Upon completion of this module, students are required to produce their research proposal by the end of this semester.

授業内容

Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the tutorials are held via Zoom.

- Theme 1 Introduction of this module-What to expect?
 Theme 2 What is Research? Information and Competitive Advantage.
 Theme 3 The Research Process
 Theme 4 Time Management
 Theme 5 Ethics in Business Research
 Theme 6 Thinking Like a Researcher
 Theme 7 Clarifying the Research Question
 Theme 8 Research Allocation
 Theme 9 Valuing Research Information
 Theme 10 The Research Proposal
 Theme 11 What is Data Collection?
 Theme 12 Face-to-Face Discussion I
 Theme 13 Face-to-Face Discussion II
 Theme 14 Face-to-Face Discussion III (proposal due)

履修上の注意

This module is taught in English. Students are required to report their progress every week via oral and written reports.

An individual research proposal will be produced at the end of this semester.

準備学習（予習・復習等）の内容

This is a project-based learning module. Students must be self-motivated and self-disciplined in order to complete their work on time. Students should be able to identify their research question. Solving their research question requires students develop several skills such as information synthesizing, utilizing high tech and analytical tools and so on.

教科書

Hair, Joseph F. Jr. (2019), The Essentials of Business Research Methods, 4th Edition, Routledge. ISBN: 978-036-719-618-9

参考書

Hair, Joseph F. Jr., Black, William C., Babin, Barry J. and Anderson, Rolph (2018), Multivariate Data Analysis, 8th Edition, Pearson, ISBN: 978-1473756540.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided in either a verbal or written form.

成績評価の方法

- Research proposal (50%)
- Class Participation (40%)
- Weekly Report (10%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN566E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	International Marketing I B [M]		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. 張 巧韵		

授業の概要・到達目標

The main purpose of this module is to equip students with an understanding of how research is conducted and it can transform findings into actionable business insights. During this semester, students will gain the ability to collect, analyze and evaluate information addressed their master's thesis. Moreover, students will be able to define the research problem and develop a research plan.

Upon completion of this module, students are required to produce their research proposal by the end of this semester.

授業内容

Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the tutorials are held via Zoom.

- Theme 1 Qualitative Research
 Theme 2 Quantitative Research
 Theme 3 Surveys
 Theme 4 Measurement
 Theme 5 Measurement Scales
 Theme 6 Questionnaire Design and Instruments
 Theme 7 Sampling
 Theme 8 Data Preparation and Description
 Theme 9 Hypothesis Testing
 Theme 10 Multivariate Data Analysis
 Theme 11 Presenting Insights and Findings
 Theme 12 Face-to-Face Discussion I
 Theme 13 Face-to-Face Discussion II
 Theme 14 Face-to-Face Discussion III

履修上の注意

This module is taught in English. Students are required to report their progress every week via oral and written reports.

An individual research proposal will be produced at the end of this semester.

準備学習（予習・復習等）の内容

This is a project-based learning module. Students must be self-motivated and self-disciplined in order to complete their work on time. Students should be able to identify their research question. Solving their research question requires students develop several skills such as information synthesizing, utilizing high tech and analytical tools and so on.

教科書

Hair, Joseph F. Jr. (2019), The Essentials of Business Research Methods, 4th Edition, Routledge. ISBN: 978-036-719-618-9

参考書

Hair, Joseph F. Jr., Black, William C., Babin, Barry J. and Anderson, Rolph (2018), Multivariate Data Analysis, 8th Edition, Prentice Hall. ISBN: 978-147-375-654-0

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided in either a verbal or written form.

成績評価の方法

- Individual Work (40%)
- Class Participation (30%)
- Weekly Report (30%)

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN666E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	International Marketing II A [M]		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. 張 巧韵		

授業の概要・到達目標

The main purpose of this module is to equip students with an understanding of how research is conducted and it can transform findings into actionable business insights. During this semester, students will gain the ability to collect, analyze and evaluate information addressed their master's thesis. Moreover, students will be able to define the research problem and develop a research plan.

Upon completion of this module, students are required to produce their research proposal by the end of this semester.

授業内容

Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the tutorials are held via Zoom.

Theme 1	Review of the Research Process (Individual)/Time Management
Theme 2	Face-to-Face Discussion I (Questionnaire Design / Interview / Observation)
Theme 3	Face-to-Face Discussion II
Theme 4	Face-to-Face Discussion III
Theme 5	Face-to-Face Discussion (piloting) IV
Theme 6	Face-to-Face Discussion (piloting) V
Theme 7	Face-to-Face Discussion (piloting) VI
Theme 8	Face-to-Face Discussion VII (Data analysis)
Theme 9	Face-to-Face Discussion VIII (Data analysis)
Theme 10	Face-to-Face Discussion IX (Data analysis)
Theme 11	Face-to-Face Discussion X
Theme 12	Face-to-Face Discussion XI
Theme 13	Face-to-Face Discussion XII
Theme 14	Face-to-Face Discussion XIII

履修上の注意

This module is taught in English. Students are required to report their progress every week via oral and written reports.

準備学習（予習・復習等）の内容

This a project-based learning module. Students must be self-motivated and self-disciplined in order to complete their work on time. Students should be able to identify their research question. Solving their research question requires students develop several skills such as information synthesizing, utilizing high tech and analytical tools and so on.

教科書

Hair, Joseph F Jr. (2019), The Essentials of Business Research Methods, 4th Edition, Routledge. ISBN: 978-036-719-618-9

参考書

Hair, Joseph F. Jr., Black, William C., Babin, Barry J. and Anderson, Rolph (2018), Multivariate Data Analysis, 8th Edition, Prentice Hall. ISBN: 978-147-375-654-0

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provide in either a verbal or written form.

成績評価の方法

Individual Work (30%)
Class Participation (40%)
Weekly Report (30%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN666E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	International Marketing II B [M]		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. 張 巧韵		

授業の概要・到達目標

The main purpose of this module is to equip students with an understanding of how research is conducted and it can transform findings into actionable business insights. During this semester, students will gain the ability to collect, analyze and evaluate information addressed their master's thesis. Moreover, students will be able to define the research problem and develop a research plan.

Upon completion of this module, students are required to produce their research proposal by the end of this semester.

授業内容

Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the tutorials are held via Zoom.

Theme 1	Review of the Research Process (Individual)/Time Management
Theme 2	Face-to-Face Discussion I
Theme 3	Face-to-Face Discussion II
Theme 4	Face-to-Face Discussion III
Theme 5	Face-to-Face Discussion (data analysis) IV
Theme 6	Face-to-Face Discussion (data analysis) V
Theme 7	Face-to-Face Discussion (data analysis) VI
Theme 8	Face-to-Face Discussion VII
Theme 9	Face-to-Face Discussion VIII
Theme 10	Face-to-Face Discussion IX
Theme 11	Face-to-Face Discussion X
Theme 12	Face-to-Face Discussion XI
Theme 13	Face-to-Face Discussion XII
Theme 14	Face-to-Face Discussion XIII

履修上の注意

This module is taught in English. Students are required to report their progress every week via oral and written reports.

準備学習（予習・復習等）の内容

This a project-based learning module. Students must be self-motivated and self-disciplined in order to complete their work on time. Students should be able to identify their research question. Solving their research question requires students develop several skills such as information synthesizing, utilizing high tech and analytical tools and so on.

教科書

Hair, Joseph F Jr. (2019), The Essentials of Business Research Methods, 4th Edition, Routledge. ISBN: 978-036-719-618-9

参考書

Hair, Joseph F. Jr., Black, William C., Babin, Barry J. and Anderson, Rolph (2018), Multivariate Data Analysis, 8th Edition, Prentice Hall. ISBN: 978-147-375-654-0

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provide in either a verbal or written form.

成績評価の方法

Individual Work (50%)
Class Participation (20%)
Weekly Report (30%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN556E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Information Ethics I A [M]		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Introduction to Masters Level Research in Information Ethics.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

- # 1 Introduction to Module
- # 2 Introduction to Masters Level Research
- # 3 Identifying Research Topics I
- # 4 Identifying Research Topics II
- # 5 Forming a Problem Consciousness I
- # 6 Forming a Problem Consciousness II
- # 7 Forming a Problem Consciousness III
- # 8 Formulating Research Questions I
- # 9 Formulating Research Questions II
- # 10 Formulating Research Questions III
- # 11 Researching Methods I
- # 12 Researching Methods II
- # 13 Selecting Methods
- # 14 Research Plan

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Verbal and Written Reports on Research Planning.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Verbal and written feedback provided on plans for and reports on research undertaken.

成績評価の方法

Reports and Presentations in classes (100%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN556E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Information Ethics I B [M]		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Performing Masters Level Research

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

- # 1 Introduction to Module
- # 2 Recruiting Research Subjects
- # 3 Documenting Research Interactions
- # 4 Conducting Interviews
- # 5 Conducting Surveys
- # 6 Conducting Focus Groups
- # 7 Note Taking
- # 8 Research Ethics
- # 9 Literature Review I
- # 10 Literature Review II
- # 11 Epistemology: Knowledge Validity
- # 12 Ontology: Definitions of Terminology
- # 13 Discussion of Research Progress
- # 14 Research Plan

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Verbal and Written Reports on Research Planning.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Verbal and written feedback provided on plans for and reports on research undertaken.

成績評価の方法

Reports and Presentations in classes (100%)

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN656E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Information Ethics II A [M]		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Further Introduction to Masters Level Research in Information Ethics.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

- # 1 Introduction to Module
- # 2 Applying Research Methods I
- # 3 Applying Research Methods II
- # 4 Applying Research Methods III
- # 5 Identifying Research Subjects I
- # 6 Identifying Research Subjects II
- # 7 Identifying Research Subjects III
- # 8 Analysing Research Results I
- # 9 Analysing Research Results II
- # 10 Analysing Research Results III
- # 11 Developing Hypotheses I
- # 12 Developing Hypotheses II
- # 13 Discussion of Hypotheses
- # 14 Research Plan

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Verbal and Written Reports on Research Planning.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Verbal and written feedback provided on plans for and reports on research undertaken.

成績評価の方法

Reports and Presentations in classes (100%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN656E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Information Ethics II B [M]		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Writing A Masters Level Thesis

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

- # 1 Introduction to Module
- # 2 The Structure of a Thesis
- # 3 Writing a Literature Review
- # 4 Presenting Research Questions
- # 5 Writing Methods I
- # 6 Writing Methods II
- # 7 Writing Analysis I
- # 8 Writing Analysis II
- # 9 Writing Analysis III
- # 10 Writing Conclusions I
- # 11 Writing Conclusions II
- # 12 Writing Conclusions III
- # 13 Editing
- # 14 Discussion of Thesis Plan

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Verbal and Written Reports on Research Planning.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Verbal and written feedback provided on plans for and reports on research undertaken.

成績評価の方法

Reports and Presentations in classes (100%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization IA (M)		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI		

授業の概要・到達目標

Outline: Give guidance about writing paper.
Goal: Develop Hypothesis for making a paper.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

1. The object of research 1
2. The object of research 2
3. The background and current stream of research 1
4. The background and current stream of research 2
5. The contents of research 1
6. The contents of research 2
7. The significance of research 1
8. The significance of research 2
9. Literature review 1
10. Literature review 2
11. Literature review 3
12. Literature review 4
13. Hypothesis 1
14. Hypothesis 2

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Absence and being late without any notice leads to fail. The contents of this class may be changed according to the number of students and their academic ability.

教科書

Designated English papers relating to international journal or student's research topic in each case.

参考書

Designated in each case.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Assignment (60%), Report in the class (20%), The contribution of this class (20%).

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization IB (M)		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI		

授業の概要・到達目標

Outline: Give guidance about writing paper.
Goal: Make a paper based on Business Management and Organization IA outcome.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

1. The analysis data 1
2. The analysis data 2
3. The analysis data 3
4. The analysis data 4
5. Methodology 1
6. Methodology 2
7. Interim report of the analytical results 1
8. Interim report of the analytical results 2
9. Final report of the analytical results 1
10. Final report of the analytical results 2
11. Final report of the analytical results 3
12. Final report of the analytical results 4
13. The discussion of results 1
14. The discussion of results 2

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Absence and being late without any notice leads to fail. The contents of this class may be changed according to the number of students and their academic ability.

教科書

Designated English papers relating to international journal or student's research topic in each case.

参考書

Designated in each case.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Assignment (60%), Report in the class (20%), The contribution of this class (20%).

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN626E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization IIA (M)		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI		

授業の概要・到達目標

Outline: Give guidance about writing paper.
Goal: Develop Hypothesis for making a master's thesis.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

1. The object of research 1
2. The object of research 2
3. The background and current stream of research 1
4. The background and current stream of research 2
5. The contents of research 1
6. The contents of research 2
7. The significance of research 1
8. The significance of research 2
9. Literature review 1
10. Literature review 2
11. Literature review 3
12. Literature review 4
13. Hypothesis 1
14. Hypothesis 2

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Absence and being late without any notice leads to fail.
The contents of this class may be changed according to the number of students and their academic ability.

教科書

Designated English papers relating to international journal or student's research topic in each case.

参考書

Designated in each case.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Assignment (60%), Report in the class (20%), The contribution of this class (20%).

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN626E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization IIB (M)		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI		

授業の概要・到達目標

Outline: Give guidance about writing paper.
Goal: Make a master's thesis based on Business Management and Organization IIA outcome.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

1. The analysis data 1
2. The analysis data 2
3. The analysis data 3
4. The analysis data 4
5. Methodology 1
6. Methodology 2
7. Interim report of the analytical results 1
8. Interim report of the analytical results 2
9. Final report of the analytical results 1
10. Final report of the analytical results 2
11. Final report of the analytical results 3
12. Final report of the analytical results 4
13. The discussion of results 1
14. The discussion of results 2

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Absence and being late without any notice leads to fail.
The contents of this class may be changed according to the number of students and their academic ability.

教科書

Designated English papers relating to international journal or student's research topic in each case.

参考書

Designated in each case.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Assignment (60%), Report in the class (20%), The contribution of this class (20%).

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization IA [M]		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

To understand basic theories on organization and management.

授業内容

This class is provided as a media-class (real-time type).

- 1: Introduction
- 2: Organizations as systems
- 3: Organizational strategies and design
- 4: Organizational effectiveness
- 5: Organization structure
- 6: Information-processing perspective
- 7: The environmental domain
- 8: Resource dependence
- 9: Organizational ecosystems
- 10: Population ecology
- 11: Institutionalism
- 12: Manufacturing technology
- 13: Service technology
- 14: Conclusions

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

It is better read textbooks on organization and management theory.

教科書

Daft, R. (2001) Organization theory and design. Sage.

参考書

Some books and papers are recommended in the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Report 50%
Contribution to the class 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization IB [M]		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

To understand basic theories on organization and management.

授業内容

This class is provided as a media-class (real-time type).

- 1: Introduction
- 2: Information technology
- 3: Knowledge management
- 4: Organizational life cycle
- 5: Bureaucracy and control
- 6: Organizational culture
- 7: Organizational ethics
- 8: Innovation
- 9: Organizational change
- 10: Decision making
- 11: Conflict, power, politics
- 12: Global management
- 13: Transnational management
- 14: Conclusions

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

It is better read textbooks on organization and management theory.

教科書

Daft, R. (2001) Organization theory and design. Sage.

参考書

Some books and papers are recommended in the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Report 50%
Contribution to the class 50%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN626E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization II A (M)		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

To understand how to do case studies.

授業内容

This class is provided as a media-class (real-time type).

- 1: Introduction
- 2: Case study as a research strategy
- 3: Comparing case studies
- 4: Different kinds of case studies
- 5: General approach to designing case studies
- 6: Criteria for judging the quality of research designs
- 7: Case study designs
- 8: The case study investigator
- 9: Training and presentation for a specific case study
- 10: The case study protocol
- 11: Screening case study nominations
- 12: The pilot case study
- 13: Six sources of evidence
- 14: Conclusion

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

It is better read textbooks on case study methods.

教科書

Yin, R (2003) Case study research, Sage.
Eisenhardt, K. (1989) Building theories from case study research. Academy of Management Review, 14 (4): 532-550.

参考書

Some books and papers are recommended in the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Report 50%
Contribution to the class 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN626E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization IIB (M)		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

To understand how to do case studies.

授業内容

This class is provided as a media-class (real-time type).

- 1: Introduction
- 2: The principles of data collection
- 3: An analysis strategy
- 4: Specific analysis techniques
- 5: Processing for high-quality analysis
- 6: Analyzing within-case data
- 7: Searching for cross-case patterns
- 8: Shaping propositions
- 9: Enfolded literature
- 10: Theory building from cases
- 11: Targeting case study report
- 12: Illustrative structure for case study compositions
- 13: Procedures in doing case study report
- 14: Conclusion

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

It is better read textbooks on case study methods.

教科書

Yin, R (2003) Case study research, Sage.
Eisenhardt, K. (1989) Building theories from case study research. Academy of Management Review, 14 (4): 532-550.

参考書

Some books and papers are recommended in the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Report 50%
Contribution to the class 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Transnational Management A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(人類学) 鷲見 淳		

授業の概要・到達目標

Outline:

The globalization of a nation's socio-economy exerts significant influence on corporations. A prominent characteristic of this phenomenon is the rise in cross-border trade and foreign direct investment. This trend is particularly evident in the recent strategic shift of many corporations. Previously focused on export-oriented, multi-domestic strategies targeting the internationalization of selected divisions, these corporations are now adopting a more globalized approach. This strategy emphasizes establishing profit centers worldwide.

The complexity of global competition has increased, driven by the emergence of newly industrialized nations, such as the BRICs, alongside a growing focus on regionalization and regional economic alliances. These developments require corporations to adapt their managerial practices to navigate turbulent global environments effectively. In response to the shifting dynamics of today's international political economy, Japanese corporations face the imperative to develop international human resources capable of addressing pressing global challenges. In contrast, foreign-affiliated companies in Japan have been recognized for their success in localizing their management practices.

This course addresses these emerging challenges and issues in international management. It provides a comprehensive perspective on the subject, with a focus on theories of international management at a level beyond that of undergraduate studies. The course will feature English lectures and student presentations to enhance engagement and understanding.

Objectives:

Through the use of the English as a medium of instruction, students will develop a comprehensive understanding of globalization, international environments, and their impact on companies operating abroad. This course aims to equip students with the knowledge and skills necessary to navigate the complexities of global business effectively.

授業内容

Course Outline

1. Introduction
 - 1a. Course Introduction
 - 1b. What is International Management?
2. Globalization
 - 2. Globalization I
 - 3a. Globalization II
 - 3b. Discussion
3. National Differences in Political Economy
 - 4-5. National Differences in Political Economy I
 - 6a. National Differences in Political Economy II
 - 6b. Discussion
4. Political Economy and Economic Development
 - 7. Political Economy and Economic Development I
 - 8a. Political Economy and Economic Development II
 - 8b. Discussion
5. Cultural Differences
 - 9-11. Differences in Culture I
 - 12a. Differences in Culture II
 - 12b. Discussion
6. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability
 - 13. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability I
 - 14. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability II

履修上の注意

Enrollment Requirements:

Students interested in enrolling in this course must attend the first class, which covers the course introduction. A TOEIC score of approximately 730 is recommended for registration.

準備学習（予習・復習等）の内容

Course Delivery:

The course facilitator (lecturer) intends to deliver this course primarily through face-to-face (in-person) classes. However, all participants are advised to regularly check the class web in the Oh-o! Meiji System for updates regarding any changes in instructional delivery, as mandated by the university for all schools and graduate programs.

教科書

Course Textbook:

International Business: Competing in the Global Marketplace (14th Edition, 2022) by Charles W. L. Hill, McGraw-Hill Education.
 • ISBN-13: 978-1265038540

Students can access this textbook online via the ProQuest Ebook Central platform provided by the Meiji University library. To do so, they must use their Meiji University ID number and password.

参考書

Additional Materials:

Supplementary materials will be introduced in class as needed.

課題に対するフィードバックの方法

Communication:

The course facilitator will communicate with students via email regarding class presentations, paper topics, and the evaluation of research papers.

成績評価の方法

Course Evaluation:

Student performance will be assessed based on the following criteria:

1. Oral Presentations (50%)
 - Each student will deliver 5 to 6 oral reports on assigned textbook sections throughout the semester.
 - Presentations should be accompanied by a brief summary and 2-3 discussion questions.
2. Case Report (50%)
 - Submit an English report (A4 size, 8-10 pages, 3200-4000 words). The details will be explained in the class.

その他

Engagement and Communication:

Students are encouraged to openly share ideas and insights during classroom discussions and to ask any questions to enhance their understanding of the course content. The course facilitator can be reached at 2025spring.classes.sumi@gmail.com for any inquiries or assistance.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN561E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Transnational Management B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(人類学) 鷲見 淳		

授業の概要・到達目標

Outline:

The globalization of a nation's socio-economy exerts significant influence on corporations. A prominent characteristic of this phenomenon is the rise in cross-border trade and foreign direct investment. This trend is particularly evident in the recent strategic shift of many corporations. Previously focused on export-oriented, multi-domestic strategies targeting the internationalization of selected divisions, these corporations are now adopting a more globalized approach. This strategy emphasizes establishing profit centers worldwide.

The complexity of global competition has increased, driven by the emergence of newly industrialized nations, such as the BRICs, alongside a growing focus on regionalization and regional economic alliances. These developments require corporations to adapt their managerial practices to navigate turbulent global environments effectively. In response to the shifting dynamics of today's international political economy, Japanese corporations face the imperative to develop international human resources capable of addressing pressing global challenges. In contrast, foreign-affiliated companies in Japan have been recognized for their success in localizing management practices.

This course addresses these emerging challenges and issues in international management. It provides a comprehensive perspective on the subject, with a focus on theories of international management at a level beyond that of undergraduate studies. The course will feature English lectures and student presentations to enhance engagement and understanding.

Objectives:
 Using the English language, students will gain a solid understanding of the fundamental theoretical issues in International Business.

授業内容

Course Outline

1. Introduction
 - 1a. Introduction
 - 1b. What is International Management?
2. Foreign Direct Investment
 - 2. Foreign Direct Investment
3. The Strategy of International Business
 - 3-4. The Strategy of International Business
 - 5a. The Strategy of International Business
 - 5b. Discussion
4. Entering Foreign Markets
 - 6. Entering Foreign Markets
 - 7a. Entering Foreign Markets
 - 7b. Discussion
5. Global Production, Outsourcing, and Logistics
 - 8. Global Production, Outsourcing, and Logistics
 - 9a. Global Production, Outsourcing, and Logistics
 - 9b. Discussion
6. Global Marketing and R&D
 - 10. Global Marketing and R&D
7. Global Human Resource Management
 - 11-12. Global Human Resource Management
8. Individual Presentations
 - 13. Individual Presentation (1)
 - 14. Individual Presentation (2)

履修上の注意

Enrollment Requirements:

Students interested in enrolling in this course must attend the first class, which covers the course introduction. A TOEIC score of approximately 730 is recommended for registration.

準備学習（予習・復習等）の内容

Course Delivery:

The course facilitator (lecturer) intends to deliver this course primarily through face-to-face (in-person) classes. However, all participants are advised to regularly check the Oh-o! Meiji System for updates regarding any changes in instructional delivery, as mandated by the university for all schools and graduate programs.

教科書

Course Textbook:

International Business: Competing in the Global Marketplace (14th Edition, 2022) by Charles W. L. Hill, McGraw-Hill Education.
 • ISBN-13: 978-1265038540

Students can access this textbook online via the ProQuest Ebook Central platform provided by the Meiji University library. To do so, they must use their Meiji University ID number and password.

参考書

Additional Materials:

Supplementary materials will be introduced in class as needed.

課題に対するフィードバックの方法

Communication:

The course facilitator will communicate with students via email regarding class presentations, paper topics, and the evaluation of research papers.

成績評価の方法

Course Evaluation:

Student performance will be assessed based on the following criteria:

1. Oral Presentations (50%)
 - Each student will deliver 5 to 6 oral reports on assigned textbook sections throughout the semester.
 - Presentations should be accompanied by a brief summary and a few discussion questions for the class.
2. Case Report (50%)
 - Submit an English report (A4 size, 8-10 pages, 2400-3200 words). The Details to be explained in class.

その他

Engagement and Communication:

Students are encouraged to openly share ideas and insights during classroom discussions and to ask any questions to enhance their understanding of the course content. The course facilitator can be reached at 2026classes.sumi@gmail.com for any inquiries or assistance.

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN566E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Global Business A [M]		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

This course will present the current issues relating to Global/International Business from economic, social and political perspective.

Course Objectives:

At end of course the student can be able :

1. To appreciate the complexity of global business components, strategies, issues, and conditions
2. To determine global business issues for making decisions on internationalization of business.
2. To apply business management tools and techniques in global business environment affecting foreign trade and investment.

授業内容

THIS COURSE IS PROVIDED AS AN ONLINE MEDIA-BASED (REAL TIME DELIVERY TYPE)

1. Overview of International Business 1
2. Overview of International Business 2
3. Global Market Places and Business Centers
4. Case Study 1
5. Legal Technological and Political Forces
6. Role of Culture in Global Business
7. Ethics and Social Responsibility
8. International Trade and Investment
9. Case Study 2
10. Monetary System and Balance of Payments
11. Foreign Exchange and International Financial Markets
12. Formulation of National Trade Policies
13. International Cooperation Among Nations
14. Review and Presentation of Project

履修上の注意

This course is conducted in English. The course content may change according to the needs.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read the material before classes. Class discussions and case study will be used to improve understanding.

教科書

1. Pearson Education, Ricky W. Griffin, Micheal W. Pustay, International Business - A Managerial Perspective 9th edition 2020

参考書

1. Charles W.L. Hill and G. Thomas Hult, (2020), International Business - Competing in Global Marketplace, 9th edition, McGraw Hill
2. Relevant Journals and Conference papers in Global/International Business in Web of Science / SCOPUS

課題に対するフィードバックの方法

During class and comments given in Oh-ol Meiji.

成績評価の方法

Class Participation and Assignments - 20%
Test - 20%
Case Studies - 40%
Group Project- 20%
TOTAL - 100%

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN566E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Global Business B [M]		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

This course will present the current issues relating to Global/International Business from economic, social and political perspective.

Course Objectives:

At end of course the student can be able :

1. To appreciate the complexity of global business components, strategies, issues, and conditions
2. To determine global business issues for making decisions on internationalization of business.
3. To apply suitable strategies for successful global business operations and management

授業内容

THIS COURSE IS PROVIDED IN-PERSON FOR DOUBLE DEGREE

1. International Business Perspectives and Issues
2. International Strategic Management
3. Strategies for analyzing and entering Foreign Markets
4. Case Study on Global Business Strategies
5. International Strategic Alliances
6. International Organization Design and Control
7. Leadership and Behavior in Global Business
8. Case Study on Global Organizational Design
9. International Marketing
10. International Operations Management
11. International Supply Chain and Logistics
12. International Financial Management
13. International Human Resource Management
14. Review and Presentation .

履修上の注意

This course is conducted in English. The course content may change according to the necessary conditions of students.

準備学習（予習・復習等）の内容

Assigned chapters and reading material must be done before classes are conducted. Class discussions and cases study will be used extensively.

教科書

1. Ricky W. Griffin, Michael W. Pustay, (2020) International Business - A Managerial Perspective, 9th edition, Pearson Education

参考書

1. McGraw-Hill, Charles W.L. Hill and G. Thomas Hult, International Business - Competing in Global Marketplace 13th edition 2020
2. Relevant Journal and Conference papers in Global/International Business

課題に対するフィードバックの方法

Feedback in class and in the Oh-ol Meiji.

成績評価の方法

Class Participation and Contribution - 10%
Group Case Studies - 40%
Individual Case Studies - 20%
Post Module Assignment - 30%
TOTAL - 100%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Organizational Behavior A〔M〕		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	特任教授 博士（経済学）Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

Human behavior in an organization is a critical determinant of a) its profitability, growth, and survival as well as b) performance and holistic well-being of its employees. This micro-Organizational Behavior course aims to provide learning partners (students) with an opportunity to undertake an in-depth examination of individual and group/team behavior in organizations with related concepts, principles, theories, and practices. Furthermore, it builds a platform for these learning partners to appreciate an interdisciplinary behavioral science approach to understanding, predicting, and managing individual and group behavior in organizational settings. Consequently, this appreciation would enable them to view micro-Organizational Behavior as the foundation for managing human resource (human resource management) in an organization.

At the end of this course, learning partners will be able to:

- a) describe concepts of individual and group behavior in organizations
 - b) explain theories of individual and group behavior in organizations
 - c) assemble conceptual and theoretical knowledge to understand a wide array of behavioral phenomena occurring in real world organizations
- The learning environment this course will create may require and motivate learning partners to improve mindfully their reading, listening, speaking, and writing skills in English by interacting with others taking the course.

授業内容

The first class meeting of this course *as well as guest speaking session (tentative)* will be conducted online (by using Zoom Video-conferencing Technology).

All other 12 sessions will be delivered in person (face-to-face). More details will be announced in the first class meeting.

- Session 1 The nature of human beings and human behavior in organizations: A cursory glance through fundamentals 1
- Session 2 The nature of human beings and human behavior in organizations: A cursory glance through fundamentals 2
- Session 3 Individual behavior, personality, and values 1
- Session 4 Individual behavior, personality, and values (with role playing) 2
- Session 5 Perceiving ourselves and others in organizations
- Session 6 Workplace emotions, empathy at work, attitudes, and stress
- Session 7 Case study analysis 1: Oral presentations
- Session 8 Foundations of employee motivation
- Session 9 Case study analysis 2: Oral presentations
- Session 10 Team dynamics
- Session 11 Communicating in teams and organizations
- Session 12 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry (*tentative*) **or** a lecture on a selected (and relevant) topic by the course facilitator (as a contingency plan)
- Session 13 Leadership in organizational settings
- Session 14 Case study analysis 3: Written assignment and oral presentations (and reflections and course wrap up)

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s.

Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. They are welcome to contributing considerably to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.

Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, role playing, chapter reading-based presentations by learning partners, case study analysis and presentations by learning partners, and online guest speaking by a practicing manager from the industry (*tentative*)
Note: Chapter reading-based presentations and case study analysis and presentations in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.

準備学習（予習・復習等）の内容

Each learning partner is required to read relevant chapters in the course textbook as a preparatory exercise prior to attending each classroom meeting. Similarly, they are also encouraged to associate themselves with reputable journals (indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI)) on Organizational Behavior/Organization Studies for understanding current issues of topics covered in this course.

教科書

Course textbook:
McShane, S. L. & Von Glinow, M. A. (2021). *Organizational behavior: Emerging knowledge*. Global reality (9th ed.). McGraw-Hill Education.

参考書

Nicklin, M. (2024). *Empathy at work* (1st ed.). Embassy Book Distributors.
Learning partners are motivated to read other relevant books too (the latest edition available) and journals on Organizational Behavior for broadening and deepening their knowledge and understanding of micro- Organizational Behavior.
Journals (suggestive): Journal of Organizational Behavior, Organizational Dynamics, Academy of Management Perspectives

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *Kaizen*-oriented mindset.

They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using “Discussions” platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

- a) Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - b) Case study analysis, *i.e.* written assignment and oral presentations—30%
- No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together about human beings and their behavior in organizations.
Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.
This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Organizational Behavior B〔M〕		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	特任教授 博士（経済学）Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

This course is ideally a continuation of Organizational Behavior A. It will be delivered as an intensive course on two consecutive Saturdays and Sundays (four days in total), providing learning partners (students) with a learning environment for broadening and deepening their knowledge and understanding of individual and group behavior in organizational settings. Predominantly, the emphasis is placed on a) analyzing case studies and b) reviewing research-based literature, *i.e.* journal articles. This b) will help learning partners develop an in-depth understanding of the ongoing debates on topics of micro-Organizational Behavior and how they can be connected with realities of human behavior in present day organizations. In general, both a) and b) in combination creates a platform for learning partners to reflect on and share their work-related knowledge and experience in various organizations with other learning partners and the course facilitator (lecturer). In addition, these learning partners could gather many tools that may be beneficial for managing human resource (human resource management) whilst aligning constructively it with the nature of business of the organization.

At the end of this course, learning partners will be able to:

- a) examine deeply practical issues/phenomena/scenarios of understanding, predicting, and managing human behavior in organizations
- b) argue whether theories already in existence explain sufficiently micro-Organizational Behavior-related phenomena occurring in real world organizations
- c) recognize the relationship between micro-Organizational Behavior and Human Resource Management as the former is regarded as the foundation for the latter.

授業内容

All sessions of this intensive course will be delivered in person (face-to-face) and at the Universiti Teknologi Malaysia (UTM), Kuala Lumpur, Malaysia. Notably, the Zoom Video-conferencing Technology will be used only for holding the online Guest Speaking Session.

Those who are interested in taking this course are required to be prepared to attend all class meetings to be held over two consecutive weekends (both Saturday and Sunday) and at the UTM, Kuala Lumpur, Malaysia.

- Session 1 What micro-Organizational Behavior is all about: A cursory glance through fundamentals
- Session 2 Short lectures (and chapter reading-based presentations) on selected topics: Round 1
- Session 3 Short lectures (and chapter reading-based presentations) on selected topics: Round 2
- Session 4 Case study analysis 1: Oral presentations
- Session 5 Short lectures (and chapter reading-based presentations) on selected topics: Round 3
- Session 6 Case study analysis 2: Oral presentations
- Session 7 Reading and discussing journal articles: Round 1
- Session 8 Reading and discussing journal articles: Round 2
- Session 9 Reading and discussing journal articles: Round 3
- Session 10 Case study analysis 3: Oral presentations
- Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry (*tentative*) **or** a lecture on a selected (and relevant) topic by the course facilitator (as a contingency plan)
- Session 12 Case study analysis 4: Oral presentations
- Session 13 Case study analysis 5: Written assignment and oral presentations
- Session 14 Reflections and course wrap up

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s.

Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. All prospective learning partners are advised to be aware of what is covered in Organizational Behavior A course offered in the spring semester. They are welcome to contributing considerably to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings as well as two online meetings to be held prior to commencing on delivering it.

Learning and teaching methods: Short lectures (and chapter reading-based presentations by learning partners), interactive conversations, case study analysis and presentations by learning partners, analysis of video-based behavioral scenarios in organizations, role playing, presentations by learning partners based on reading and discussing journal articles, and online guest speaking by a practicing manager from the industry (*tentative*)

Note: Chapter reading-based presentations, case study analysis and presentations, and presentations based on reading and discussing journal articles in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills in a friendly environment.

準備学習（予習・復習等）の内容

Course facilitator will arrange two online meetings at two different times well in advance of commencing on delivering this course. Of them, the *preparatory meeting purports to discuss in depth the modus operandi of running this intensive course whilst inviting potential learning partners to share their insights and thoughts for making this course delivery a value creating/enhancing learning experience for them. The second meeting will take the form of a follow-up meeting where prospective learning partners can show their knowledge and understanding of this modus operandi of running the course and raise further concerns they may have for doing proactively preparations required for taking the course.*

教科書

Course textbook:
McShane, S. L. & Von Glinow, M. A. (2021). *Organizational behavior: Emerging knowledge*. Global reality (9th ed.). McGraw-Hill Education.

参考書

Luthans, F., Luthans, B. C., & Luthans, K. W. (2015). *Organizational behavior: An evidence-based approach* (13th ed.). Information Age Publishing, Inc.
Nicklin, M. (2024). *Empathy at work* (1st ed.). Embassy Book Distributors.
Note: Other books (the latest edition available) on micro-Organizational Behavior are also recommended
Journals (suggestive): Journal of Organizational Behavior, Organizational Dynamics, Academy of Management Perspectives, Academy of Management Review, Academy of Management Journal

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *Kaizen*-oriented mindset.

They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using “Discussions” platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

- a) Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - b) Case study analysis, *i.e.* written assignment and oral presentations—30%
- No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together about human beings and their behavior in organizations.
Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.
This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Strategic Management A〔M〕		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	特任教授 博士 (経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

This course, in the broadest sense, is about analyzing external and internal environments, strategy making, and strategy implementing in organizations operating in a competitive business environment. It aims to provide learning partners (students) with an overview of basic concepts, principles, tools, and related theories needed for understanding the process of analyzing environments for making business strategies and putting them into action.

Furthermore, Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity (VUCA) that characterize collectively the nature of broader external environment has compelled business organizations and their strategic leaders to reflect broadly and deeply on what implications that extends for short-, medium-, and long-term profitability, growth, and survival of their organizations. The nature and scale of these implications vary across business organizations, so their resilience depends on, among others, choices these strategic leaders make in strategy formulation and execution. Thus, this course also purports to build a platform for learning partners to discuss and understand issues of managing strategy in business organizations in the context of implications of this “VUCA world”.

At the end of this course, learning partners will be able to:

- explain the overall process of how business organizations formulate strategies and execute them
 - examine practical issues of strategy formulation and strategy execution in business organizations
 - appraise various business situations to visualize appropriate strategies for dealing with them.
- The learning environment this course will create may require and motivate learning partners to improve persistently their reading, listening, speaking, and writing skills in English by interacting with all others in the class whilst appreciating a friendly and relaxing ambience.

授業内容

The first class meeting of this course *as well as guest speaking session (tentative)* will be conducted online (by using Zoom Video-conferencing Technology).

All other 12 sessions will be delivered in person (face-to-face).

More details will be announced in the first class meeting.

- Session 1 What strategic management and the role of strategic leadership are all about: The nature and scope 1
- Session 2 What strategic management and the role of strategic leadership are all about: The nature and scope 2
- Session 3 External analysis: Industry structure, competitive forces, and strategic groups
- Session 4 Internal analysis: Resources, capabilities, and core competencies
- Session 5 Business strategy: Differentiation, cost leadership, innovation, entrepreneurship, and platforms
- Session 6 Corporate strategy: Vertical integration and diversification 1
- Session 7 Corporate strategy: Mergers and acquisitions 2
- Session 8 Analysis and presentation of minicase 1
- Session 9 Global strategy: Competing around the world
- Session 10 Analysis and presentation of minicase 2
- Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry (*tentative*) **or a lecture on a selected (and relevant) topic by the course facilitator (as a contingency plan)**
- Session 12 Corporate governance and business ethics
- Session 13 Case (full-length case) study analysis: Written assignment and oral presentations
- Session 14 Reflections and course wrap up

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s.

Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. They are always welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.

Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, chapter reading-based presentations by learning partners, analysis and presentation of minicases (and a full-length case) by learning partners, and online guest speaking by a practicing manager from the industry (*tentative*)

Note: Chapter reading-based presentations and analysis and presentation of minicases (and a full-length case) in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.

準備学習（予習・復習等）の内容

Each learning partner is required to read relevant chapters in the major course textbook as a preparatory exercise prior to attending each classroom meeting.

教科書

Course textbook:

Rothaermel, F. T. (2021). *Strategic management* (5th ed.). McGraw-Hill Education.

Additional reading:

Hitt, M. A., Ireland, R. D., & Hoskisson, R. E. (2017). *Strategic management: Competitiveness & globalization: Concepts and cases* (12th ed.). Cengage Learning.

参考書

Learning partners are motivated to read and associate with other relevant books (the latest edition available), journals on Strategic Management, business magazines, and web sites, to name a few, for broadening and deepening their knowledge and understanding. These journals need to be reputable ones which are indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI).

Journals (suggestive): Strategic Management Journal, Harvard Business Review, Management Decision, MIT Sloan Management Review, California Management Review, Academy of Management Perspectives

Business magazines (suggestive): NIKKEI Asia, The Economist, Forbes

Web sites (suggestive): THE ASAN FORUM, EAST ASIA FORUM

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *Kaizen*-oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using “Discussions” platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

- Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - Case study analysis, *i.e.* written assignment and oral presentations—30%
- No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together Strategic Management for developing a bird’s-eye view of a business organization.

Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Strategic Management B〔M〕		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	特任教授 博士 (経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

This is a continuation of Strategic Management A. The aim of this course is to provide learning partners (students) with a learning environment for broadening and deepening their knowledge and understanding of strategy formulation and execution in business organizations functioning in a competitive environment. Predominantly, the emphasis is given to discussing research-based literature, *i.e.* journal articles, so learning partners can develop an in-depth understanding of ongoing debates on topics of Strategic Management. The analysis and presentation of minicases and a full-length case will complement this.

Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity (VUCA) that characterize collectively the nature of broader external environment has changed the competitive landscape of business organizations and the role carried out by their strategic leaders. Its implications for short-, medium-, and long-term profitability, growth, and survival of these organizations are worth studying in depth. Thus, this course also purports to build a platform for learning partners to discuss and understand issues of managing strategy in organizations in a “VUCA world”.

At the end of this course, learning partners will be able to:

- recognize deeply practical issues/phenomena/scenarios of the process of strategy formulation and execution in business organizations
 - examine major influences on and challenges of strategy formulation and execution in present day business organizations
 - appraise the significance of strategic management as a discipline and practice (that draws upon all functional areas of management) for developing a bird’s-eye view of a business organization.
- The learning environment of this course will motivate learning partners to interact with each other in the class whilst appreciating a friendly and relaxing ambience.

授業内容

The first class meeting of this course *as well as guest speaking session (tentative)* will be conducted online (by using Zoom Video-conferencing Technology).

All other 12 sessions will be delivered in person (face-to-face).

More details will be announced in the first class meeting.

- Session 1 What strategic management and the role of strategic leaders are all about: A cursory glance through fundamentals 1
- Session 2 What strategic management and the role of strategic leaders are all about: A cursory glance through fundamentals 2
- Session 3 Chapter reading-based discussion on a selected topic 1
- Session 4 Chapter reading-based discussion on a selected topic 2
- Session 5 Chapter reading-based discussion on a selected topic 3
- Session 6 Analysis and presentation of minicase 1
- Session 7 Reading and discussing a journal article 1
- Session 8 Reading and discussing a journal article 2
- Session 9 Chapter reading-based discussion on a selected topic 4
- Session 10 Reading and discussing a journal article 3
- Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry (*tentative*) **or a lecture on a selected (and relevant) topic by the course facilitator (as a contingency plan)**
- Session 12 Analysis and presentation of minicase 2
- Session 13 Case study (full-length case) analysis: Written assignment and oral presentations
- Session 14 Reflections and course wrap up

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s.

Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. All prospective learning partners are advised to be aware of what is covered in Strategic Management A course offered in the spring semester. They are welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.

Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, chapter reading-based discussions by learning partners, journal article reading-based presentations by learning partners, analysis and presentation of minicases and a full-length case by learning partners, and online guest speaking by a practicing manager from the industry (*tentative*)

Note: Chapter reading-based discussions, journal article-based presentations, and analysis and presentation of minicases and a full-length case in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.

準備学習（予習・復習等）の内容

Course facilitator (lecturer) will communicate to learning partners during the first classroom meeting itself about minicases, full-length case, and journal articles chosen, so they will be able to prepare proactively themselves for navigating effectively respective discussions and presentations.

教科書

Course textbook:

Rothaermel, F. T. (2021). *Strategic management* (5th ed.). McGraw-Hill Education.

Additional reading:

Hitt, M. A., Ireland, R. D., & Hoskisson, R. E. (2017). *Strategic management: Competitiveness & globalization: Concepts and cases* (12th ed.). Cengage Learning.

参考書

Learning partners are motivated to read and associate with other relevant books (the latest edition available), journals on Strategic Management, business magazines, and web sites, to name a few, for broadening and deepening their knowledge and understanding. These journals need to be reputable ones which are indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI).

Journals (suggestive): Strategic Management Journal, Harvard Business Review, Management Decision, Long Range Planning, International Business Review, Journal of Management Studies, Academy of Management Perspectives, MIT Sloan Management Review, California Management Review

Business magazines (suggestive): NIKKEI Asia, The Economist, Forbes

Web sites (suggestive): THE ASAN FORUM, EAST ASIA FORUM

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *Kaizen*-oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using “Discussions” platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

- Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - Case study analysis, *i.e.* written assignment and oral presentations—30%
- No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together Strategic Management for developing a bird’s-eye view of a business organization.

Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN566E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	International Marketing A〔M〕		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵		

授業の概要・到達目標

This course is designed to explore key issues and current debates in the field of International Marketing. The main purpose of the module is to reflect both the theory and the application of the subject studied through the use of textbooks, case studies and journal articles. The module is structured as follows:
(i) Theoretical concepts in the discipline of international marketing and the importance of how to think globally in business will be discussed.
(ii) The impact of political, legal, economic and cultural factors on marketing activities across countries will be investigated.
(iii) Students will learn to analyze marketing plans and consumer product strategy at the global level via case studies.
To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertake any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work.
Upon completion of this International Marketing module, students will be able to:
・Understand how the basic principles of marketing are applied in a variety of diverse cultural, political, legal and economic environments.
・Be able to analyze foreign markets to determine their overall export potential.
・Be able to explain the various methods of entering foreign markets, the degree of commitment required and the associated levels of risk.
・Understand the concepts of product life cycle and the classification of goods and their importance for foreign market acceptance, product adaptation and overall marketing strategy decision making.
・Apply basic and advanced marketing concepts to develop integrated marketing plans in global markets.

授業内容

Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.
Session 1 Introduction of the module
Preview: syllabus
Session 2 Globalization
Preview: Chapter 1.
Review: Chapter 1.
Session 3 Economic Environment
Preview: Chapter 2.
Review: Chapter 2.
Session 4 Financial Environment
Preview: Chapter 3.
Review: Chapter 3.
Session 5 Global Cultural Environment and Buying Behavior I
Preview: Chapter 4.
Review: Preparing for Individual Presentation
Session 6 Global Cultural Environment and Buying Behavior II
Preview: Chapter 4.
Review: Prepare for Individual Presentation
Session 7 Political and Legal Environment
Preview: Chapter 5.
Review: Chapter 5.
Session 8 Mid-term Presentation
Global Segmentation and Positioning
Preview: Chapter 7.
Review: Chapter 7.
Session 10 Global Marketing Strategies
Preview: Chapter 8.
Global Market Entry Strategies
Preview: Chapter 9.
Review: Chapter 9.
Session 12 Case Study
Preview: Case
Review: Assignment
Session 13 Case Study
Preview: Case
Review: Assignment
Session 14 Final Presentation

履修上の注意

English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.

教科書

Kotabe, Masaaki and Helsen, Kristiaan (2023), Global Marketing Management, 9th Edition, New York: John Wiley and Sons.
*Students are able to download the ebook from our library.

参考書

1. Jagdish, Bhagwati (2005), "The Globalization Guru," Finance & Development, 42, September 2005: 4-7 (Available at <http://www.imf.org/external/pubs/ft/fandd/2005/09/people.htm>)
2. Gwynne, Peter (2003), "The Myth of Globalization?" Sloan Management Review, 44: 11 (Available at <https://sloanreview.mit.edu/article/global-business-the-myth-of-globalization/>)
3. van Ittersum, Koert, and Wong, Nancy (2010), "The Lexus or the Olive Tree? Trading off between Global Convergence and Local Divergence," International Journal of Research in Marketing, 27(2), pp. 107-118.
4. Hofstede, Geert (2011), "Dimensionalizing Cultures: The Hofstede Model in Context," Online Readings in Psychology and Culture, 2(1), <https://doi.org/10.9707/2307-0919.1014>
5. Hofstede, Geert, Hofstede, Gert Jan and Minkov, Michael (2010), Cultures and Organizations: Intercultural Cooperation and Its Importance for Survival, New York, McGraw-Hill, (Available at <http://testtrain.info/download/Software%20of%20mind.pdf>)
6. V. Kumar (2014), "Understanding Cultural Differences in Innovation: A Conceptual Framework and Future Research Directions," Journal of International Marketing, 22(3), pp. 1-29.
7. Schwartz, Shalom H. (2012), "An Overview of the Schwartz Theory of Basic Values," Online Readings in Psychology and Culture, 2(1), <https://doi.org/10.9707/2307-0919.1116>
8. Dentsu Conducts Sustainable Lifestyle Receptivity Survey in 14 Countries, Finds "Sustainablists" -People Inclined to Sustainable Lifestyles: Emerging in Growing Markets (Available at <http://www.dentsu.com/news/release/pdf/enr/2011064-0607.pdf>)
9. Laurent, Andr   (1990), "A Cultural View of Organizational Change," In: Evans P. Doz Y. Laurent A. (Eds), Human Resource Management in International Firms. Palgrave Macmillan, London. https://doi.org/10.1007/978-1-349-11255-5_5

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided via a verbal or written form.

成績評価の方法

Class Discussion and In-class Activities (30%)
Presentation (30%)
Case Study X2 (40%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN566E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	International Marketing B〔M〕		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. 張 巧 韵		

授業の概要・到達目標

This course is designed to explore key issues and current debates in the field of International Marketing. The main purpose of the module is to reflect both the theory and the application of the subject studied through the use of textbooks, case studies and journal articles. The module is structured as follows:
(i) Theoretical concepts in the discipline of international marketing and the importance of how to think globally in business will be discussed.
(ii) The impact of political, legal, economic and cultural factors on marketing activities across countries will be investigated.
(iii) Students will learn to analyze marketing plans and consumer product strategy at the global level via case studies.
To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertake any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work.
Upon completion of this International Marketing module, students will be able to:
・Understand how the basic principles of marketing are applied in a variety of diverse cultural, political, legal and economic environments.
・Be able to analyze foreign markets to determine their overall export potential.
・Be able to explain the various methods of entering foreign markets, the degree of commitment required and the associated levels of risk.
・Understand the concepts of product life cycle and the classification of goods and their importance for foreign market acceptance, product adaptation and overall marketing strategy decision making.
・Apply basic and advanced marketing concepts to develop integrated marketing plans in global markets.

授業内容

Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.
Session 1 Global Marketing Strategy
Preview: Mini case
Session 2 Global Market Entry Strategies
Preview: Chapter 9.
Session 3 Case Study
Preview: Case
Review: Assignment
Session 4 Global Product Policy Decisions
Preview: Chapter 10.
Review: Chapter 10.
Session 5 Global Pricing
Preview: Chapter 12.
Review: Chapter 12.
Session 6 Case Study
Preview: Case
Review: Assignment
Session 7 Communicating with the World Consumer
Preview: Chapter 13.
Review: Preparing for Individual Presentation
Session 8 Mid-term Presentation
Global Logistics and Distribution
Preview: Data collection: Ever Given
Session 9 Review: Chapter 15.
Session 10 Individual Presentation
Session 11 Export/Import Management
Preview: Incoterms 2010
Review: Chapter 16.
Session 12 Planning Organization, and Control of Global Marketing Operations
Preview: Chapter 17.
Review: Chapter 17.
Session 13 Marketing in Emerging Markets
Preview: Chapter 18.
Review: Chapter 18.
Session 14 Global Marketing and the Internet
Preview: Chapter 19.
Review: Chapter 19.

履修上の注意

English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.

教科書

Kotabe, Masaaki and Helsen, Kristiaan (2023), Global Marketing Management, 9th Edition, New York: John Wiley and Sons.

参考書

1. Craig, C. Samuel and Douglas, Susan P. (2005), International Marketing Research, 3rd Edition, Chichester: John Wiley and Sons. (Available at <https://eclass.aueb.gr/modules/document/file.php/ME231/Books/C.%20Samuel%20Craig.%20Susan%20P.%20Douglas%20International%20Marketing%20Research.pdf>)
2. Hassant, Salan and Katsanis, Lea Prevel (1991), "Identification of Global Consumer Segments: A Behavioral Framework," Journal of International Consumer Marketing, 3(2), pp. 11-28. (Available at https://www.researchgate.net/publication/292831911_Identification_of_Global_Consumer_Segments_A_Behavioral_Framework_Journal_of_International_Consumer_Marketing_Vol_3_No_2_1991_pp_11-28_with_L_Katsanis)
3. Kale, Sudhir H. (1995), "Grouping Euroconsumers: A Culture-Based Clustering Approach," Journal of International Marketing, 3(3), pp. 35-48
4. Oburai, Prathap and Baker, Michael (2005), "International Marketing Strategies in India: An Application of Mixed Method Investigation," Vikalpa The Journal for Decision Makers, 30(4), pp. 11-23.
5. The Global Marketing Handbook (Available at <http://read.prcit.com/percolate-global-marketing-strategy-handbook.pdf>)
6. Lasserre, Philippe (1995), "Corporate Strategies for the Asia Pacific Region," Long Range Planning, 28(1), pp. 18-30.
7. Schutte, Hellmut (1995), "Henkel's Strategy for Asia Pacific," Long Range Planning, 28(1), pp. 95-103.
8. Thihany, Laszlo, Griffith, David A. and Russell, Craig J. (2005), "The Effect of Cultural Distance on Entry Mode Choice, International Diversification and MNE Performance: A Meta-Analysis," Journal of International Business Studies, 36(3), pp. 270-283.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provide in either a verbal or written form.

成績評価の方法

Class Discussion (30%)
Presentation (30%)
Case Study X2 (40%)

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN566E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Service Marketing A〔M〕		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. 張 巧韵		

授業の概要・到達目標

The rapid growth of the service industry has generated a significant number of job opportunities. As many graduates may seek jobs in the service industry, it is vital for students to acquire knowledge of this new field in addition to the traditional product-based models of marketing. Indeed, services marketing, which was once a small academic field, has become a thriving area of activity with equally flourishing research effort in both academia and business.

This module aims, via attendance at lectures and case analysis seminars, to enable students to examine theoretical concepts surrounding service marketing and to be able to apply those concepts to a variety of service marketing situations. The unique nature of service marketing will be investigated with particular emphasis given to the service industry where customers are present at the site of production.

To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertaken any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work.

Learning Goals

Upon completion of this Services Marketing module, students will be able to:

- how customer behavior and expectations play a role in the service environment
- key considerations in selling and marketing services
- branding, promoting and positioning of services
- the complexities of managing demand and capacity in service organizations
- distribution and pricing considerations
- how to build customer loyalty and assess customer lifetime value
- the importance of workforce development and organizational culture in delivering quality
- customer research and survey design methods

授業内容

Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.

Session 1	Introduction of the module Preview: syllabus
Session 2	Introduction to Services Preview: Chapter 1.
Session 3	Review: Chapter 1. The Gap Model of Service Quality I Preview: Chapter 2.
Session 4	Review: Chapter 2. The Gap Model of Service Quality II Preview: Chapter 2.
Session 5	Customer Expectations of Service Preview: Chapter 3.
Session 6	Review: Chapter 3. Case Study Preview: Case
Session 7	Review: Assignment Customer Perception of Service Preview: Chapter 4.
Session 8	Review: Chapter 4. Listening to Customers through Research Preview: Chapter 5.
Session 9	Review: Chapter 5. Case Study Preview: Case
Session 10	Review: Assignment Build Customer Relationships Preview: Chapter 6.
Session 11	Review: Chapter 6. Case Study Preview: Case
Session 12	Review: Assignment Service Recovery Preview: Chapter 7.
Session 13	Review: Chapter 7. Case Study Preview: Case
Session 14	Review: Assignment Case Study Preview: Case
	Review: Assignment

履修上の注意

English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.

教科書

Zeithaml, Valarie A., Bitner Mary Jo and Gremler, Dwayne D. (2023), Services Marketing: Integrating Customer Focus Across the Firm, 8th Edition, McGraw-Hill.

参考書

1. Levitt, T., (1981), "Marketing Intangible Products and Product Intangibles", Harvard Business Review, May/June, pp. 94-102.
2. Lovelock, C.H. (1983), "Classifying Services to Gain Strategic Marketing Insights", Journal of Marketing, Vol. 47, Summer, pp. 9-20.
3. Shostack, L.G. (1977), "Breaking Free from Product Marketing", Journal of Marketing, Vol. 41, April, pp. 73-80.
4. Zeithaml, V.A., Parasuraman, A. and Berry, L., (1985), "Problems and Strategies in Services Marketing", Journal of Marketing, Vol. 49, Spring, pp. 33-46.
5. Evert Gunnemsson, "Lip Service - A Neglected Area in Services Marketing", Journal of Services Marketing, No. 1, 1987, p. 22.
6. Javier Reynoso, "The Evolution of Services Management in Developing Countries: Insights from Latin America", in Tony Meenaghan (ed), New and Evolving Paradigms: The Emerging Future of Marketing, Dublin: American Marketing Association and University College Dublin, 1997, pp. 112-21 (published on CD-ROM).
7. Regis McKenna, Real Time, Boston: Harvard Business School Press, 1997.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided in either a verbal or written form.

成績評価の方法

Class Discussion (20%)
Case Study X4 (80%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN566E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Service Marketing B〔M〕		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. 張 巧韵		

授業の概要・到達目標

The rapid growth of the service industry has generated a significant number of job opportunities. As many graduates may seek jobs in the service industry, it is vital for students to acquire knowledge of this new field in addition to the traditional product-based models of marketing. Indeed, services marketing, which was once a small academic field, has become a thriving area of activity with equally flourishing research effort in both academia and business.

This module aims, via attendance at lectures and case analysis seminars, to enable students to examine theoretical concepts surrounding service marketing and to be able to apply those concepts to a variety of service marketing situations. The unique nature of service marketing will be investigated with particular emphasis given to the service industry where customers are present at the site of production.

To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertaken any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work.

Learning Goals

Upon completion of this Services Marketing module, students will be able to:

- how customer behavior and expectations play a role in the service environment
- key considerations in selling and marketing services
- branding, promoting and positioning of services
- the complexities of managing demand and capacity in service organizations
- distribution and pricing considerations
- how to build customer loyalty and assess customer lifetime value
- the importance of workforce development and organizational culture in delivering quality
- customer research and survey design methods

授業内容

Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.

Session 1	Introduction of the module Preview: syllabus
Session 2	Case Study Preview: Case
Session 3	Review: Assignment Service Innovation and Design Preview: Chapter 8.
Session 4	Review: Chapter 8. Customer-Defined Service Standards Preview: Chapter 9.
Session 5	Review: Chapter 9. Physical Evidence and the Servicescape Preview: Chapter 10.
Session 6	Review: Chapter 10. Employees' Role in Service Delivery Preview: Chapter 11.
Session 7	Review: Chapter 11. Customers' Role in Service Delivery Preview: Chapter 12.
Session 8	Review: Chapter 12. Delivering Service Through Intermediaries and Electronic Channels Preview: Handouts
Session 9	Managing Demand and Capacity Preview: Chapter 13.
Session 10	Review: Chapter 13. Integrated Services Marketing Communications Preview: Chapter 14.
Session 11	Review: Chapter 14. Pricing of Services Preview: Chapter 15.
Session 12	Review: Chapter 15. Case Study Preview: Case
Session 13	Review: Assignment Case Study Preview: Case
Session 14	Review: Assignment Case Study Preview: Case
	Review: Assignment

履修上の注意

English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.

教科書

Zeithaml, Valarie A., Bitner Mary Jo and Gremler, Dwayne D. (2023), Services Marketing: Integrating Customer Focus Across the Firm, 8th Edition, McGraw-Hill.

参考書

1. Leonard L. Berry, "Services Marketing is Different", Business, May-June 1980.
2. W. Earl Sasser, R. Paul Olsen and D. Daryl Wyckoff, Management of Service Operations: Text, Cases, and Readings, Boston: Allyn & Bacon, 1978.
3. G. Lynn Shostack, "Breaking Free from Product Marketing", Journal of Marketing, April 1977.
4. Bonnie Farber Canziani, "Leveraging Customer Competency in Service Firms," International Journal of Service Industry Management, Vol. 8, No. 1, 1997, pp. 5-25.
5. Curtis P. McLaughlin, "Why Variation Reduction is Not Everything: A New Paradigm for Service Operations", International Journal of Service Industry Management, Vol. 7, No. 3, 1996, pp. 17-31.
6. Valarie A. Zeithaml, "How Consumer Evaluation Processes Differ between Goods and Services", in J.A. Donnelly and W.R. George, Marketing of Services, Chicago: American Marketing Association, 1981, pp. 186-90.
7. Christian Gronroos, "From scientific management to service management", International Journal of Service Industry Management, Vol. 5, pp5-90.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided in either a verbal or written form.

成績評価の方法

Class Discussion (20%)
Case Study X4 (80%)

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN556E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Information Ethics A [M]		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Information ethics is the study of the social impact of information flow enabled by technological computer and communication devices. A brief overview of ethical approaches will be given, together with studies of some of the key thinkers on these issues: Zittrain, Lessig, Castells, Bynum and Rogerson, Wiener. This is one of two modules on this issue which together provide a broad and deep examination of the subject.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform.

- 1 : Introduction: Information Ethics
- 2 : Ethical Theory for Information Ethics
- 3 : Copyrights
- 4 : Information Wants to be Free, People Want to be Paid
- 5 : Data Formats
- 6 : Digital Education
- 7 : Freedom of Expression
- 8 : Freedom to Tinker
- 9 : Freedom of Information
- 10 : Unwanted Electronic Attentions I: Spam
- 11 : Unwanted Electronic Attentions II: Harassment
- 12 : Unwanted Electronic Attentions III: Fraud in the Digital World
- 13 : Science Fiction and Information Ethics From 1984 to Ghost in the Shell
- 14 : Conclusions

履修上の注意

The course will be given in English.
Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.

準備学習（予習・復習等）の内容

An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session.

Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning.

The lecturer will then present details on the issue of the week.

The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module.

These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.

教科書

Pandora's Box: Social and professional Issues of the Information Age. Andrew A. Adams and Rachel J. McCrindle.

参考書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Essays (2): 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN556E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Information Ethics B [M]		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Information ethics is the study of the social impact of information flow enabled by technological computer and communication devices. A brief overview of ethical approaches will be given, together with studies of some of the key thinkers on these issues: Zittrain, Lessig, Castells, Bynum and Rogerson, Wiener. This is one of two modules on this issue which together provide a broad and deep examination of the subject.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform.

- 1 : Introduction: Information Ethics
- 2 : Ethical Theory for Information Ethics
- 3 : Privacy and Data Protection
- 4 : DNA
- 5 : Digital Health
- 6 : Information, Sex and Technology
- 7 : Online Crime
- 8 : Cyber-Warfare
- 9 : Artificial Intelligence
- 10 : (Anti-)Social Media
- 11 : Digital Entertainment
- 12 : Working in the Wired World
- 13 : Living in a Networked World
- 14 : Conclusions

履修上の注意

The course will be given in English.
Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.

準備学習（予習・復習等）の内容

An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session.

Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning.

The lecturer will then present details on the issue of the week.

The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module.

These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.

教科書

Pandora's Box: Social and Professional Issues of the Information Age. Andrew A. Adams and Rachel J. McCrindle.

参考書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Reports (2): 50%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN556E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Information Science A [M]		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

The Knowledge Economy is a key element of modern business. Information processing is the core technology which underpins the knowledge economy. Key concepts of information processing as part of a modern business will be presented in this course, together with links to the work of key thinkers in the role of information and knowledge in modern businesses. This is one of two courses which may be taken independently, but which together will add up to a broad understanding of the role of information and information technology in business. In this course the focus is on information within the organisation and the links between information technology, organisational structures and internal business processes. The lectures are arranged into three themes: Technology, Security, People.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform.

- 1 : Introduction: Information, Technology and Business Organisation
- 2 : Key Ideas: Place, Network, Interaction, Leverage
- 3 : Technology 1: Database Theory
- 4 : Technology 2: Information, Data, Knowledge
- 5 : Technology 3: Knowledge Management Theory
- 6 : Security 1: Information Security Concepts
- 7 : Security 2: Internal Information Security Policies
- 8 : People 1: Data Protection
- 9 : People 2: The Individual and the Role
- 10 : Security 3: Communication Technology and Strategy
- 11 : Technology 4: Communication Tools
- 12 : People 3: International Team-Working
- 13 : Principles of HCI Design
- 14 : Mobile HCI Design

履修上の注意

The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.

準備学習（予習・復習等）の内容

An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-ol Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session.

Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning.

The lecturer will then present details on the issue of the week.

The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module.

These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.

教科書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

参考書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Essays (2): 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN556E			
グローバルコース系		備 考	
科 目 名	Information Science B [M]		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

The Knowledge Economy is a key element of modern business. Information processing is the core technology which underpins the knowledge economy. Key concepts of information processing as part of a modern business will be presented in this course, together with links to the work of key thinkers in the role of information and knowledge in modern businesses. This is one of two courses which may be taken independently, but which together will add up to a broad understanding of the role of information and information technology in business. In this course the focus is on information flows into and out of the organisation, including legal requirements to provide information to regulators, customer and public relations, and inter-organisational information flow. The lectures are arranged into three themes: Technology, Security, People.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform.

- 1 : Introduction: Information, Technology and Business Organisation
- 2 : Key Ideas: Place, Network, Interaction, Leverage
- 3 : Technology 1: External Communications: From the Letter to the Web Order
- 4 : Technology 2: The Internet and the Web
- 5 : Technology 3: Interfaces
- 6 : Security 1: Information Security Concepts
- 7 : Security 2: External Information Security Policies
- 8 : People 1: Game Theory
- 9 : People 2: Competition
- 10 : People 3: Cooperation
- 11 : Security 3: Mashup Corporations
- 12 : Security 4: Legal Requirements on Information
- 13 : Security 5: Social Engineering Tricks and Counter-Measures
- 14 : Conclusions: The Information Revolution and the Knowledge Economy

履修上の注意

The course will be given in English.

Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.

準備学習（予習・復習等）の内容

An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-ol Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session.

Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning.

The lecturer will then present details on the issue of the week.

The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module.

These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.

教科書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

参考書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Reports (2): 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN656E			
グローバルコース系		備考	
科目名	The Future of E Business A [M]		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Digitisation has been happening in businesses for more than fifty years. The pace of change of technology and its impact on both society at large and businesses' processes, business models, employment practices, markets, and (sometimes lack of) profitability are not letting up and may even be increasing.

This module presents current technologies which are allowing or forcing businesses to change their approaches as well as updating, new and emerging technologies which will allow/force further change in the future. Technologies/issues covered include Artificial Intelligence; Virtual, Extended and Augmented Reality; Collaborative Robots (robots sharing space with human beings and physically working alongside them); mobile, wearable and implantable technologies; social impact of a growing further digitisation of the economy.

This is one of two modules covering this topic which may be taken separately or in either order to give a broad and deep understanding of the Future of Business, which in most cases will involve adoption of EBusiness elements. This module focusses on non-industrial businesses, including office-work, the entertainment industry, the health sector, the finance sector and agriculture.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform.

- 1 : Introduction
- 2 : The History and Present of IT in Business
- 3 : Virtual/Extended/Augmented Reality
- 4 : Remote Working
- 5 : Networking: Social Networking, Social Media, Professional Networking
- 6 : Entertainment: Static, music, books, video, fiction and fact
- 7 : Entertainment: Interactive fantasy (games) and reality (tourism)
- 8 : Healthcare
- 9 : Financial Markets
- 10 : Data: Privacy, Confidentiality and Security
- 11 : Agriculture 4.0
- 12 : Agriculture 5.0
- 13 : Knowledge Work
- 14 : Society 5.0

履修上の注意

The course will be given in English.

Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.

準備学習（予習・復習等）の内容

An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session.

Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning.

The lecturer will then present details on the issue of the week.

The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module.

These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.

教科書

Future Skills by Bernard Marr, Wiley, 2022

参考書

See the course handout for detailed references for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Essays (2): 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN656E			
グローバルコース系		備考	
科目名	The Future of E Business B [M]		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Digitisation has been happening in businesses for more than fifty years. The pace of change of technology and its impact on both society at large and businesses' processes, business models, employment practices, markets, and (sometimes lack of) profitability are not letting up and may even be increasing.

This module presents current technologies which are allowing or forcing businesses to change their approaches as well as updating, new and emerging technologies which will allow/force further change in the future. Technologies/issues covered include Artificial Intelligence; Virtual, Extended and Augmented Reality; Collaborative Robots (robots sharing space with human beings and physically working alongside them); mobile, wearable and implantable technologies; social impact of a growing further digitisation of the economy.

This is one of two modules covering this topic which may be taken separately or in either order to give a broad and deep understanding of the Future of Business, which in most cases will involve adoption of EBusiness elements. This module focusses on the future of industrial activity, particularly large scale manufacturing, considering the current drive to implement Industry 4.0 and the discussions about what Industry 5.0 will look like.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform.

- 1 : Introduction
- 2 : The History and Present of IT in Business
- 3 : Autonomous/Cooperative Robots and Cobots (IoT 1)
- 4 : Industrial IoT (IoT 2)
- 5 : Big Data and Analytics (Data-Driven Manufacturing 1)
- 6 : AI for Manufacturing (Data-Driven Manufacturing 2)
- 7 : Digital Twins (Data-Driven Manufacturing 3)
- 8 : VR/AR/RX (New Workplaces 1)
- 9 : 3D Printing (New Workplaces 2)
- 10 : Cloud Computing (Data-Driven Manufacturing 4/Structural Issues 1)
- 11 : Horizontal/Vertical Integration (Structural Issues 2)
- 12 : Cybersecurity (Structural Issues 3)
- 13 : Energy and Climate (Structural Issues 4)
- 14 : Social and Economic Implications (Structural Issues 5)

履修上の注意

The course will be given in English.

Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.

準備学習（予習・復習等）の内容

An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session.

Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning.

The lecturer will then present details on the issue of the week.

The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module.

These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.

教科書

Business Trends in Practice by Bernard Marr, Wiley 2021

参考書

See the module handout for detailed references for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Essays (2): 50%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN596E			
グローバルコース系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	Organizational Psychology A [M]		
開 講 期	春学期集中	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D.	金 素延	

授業の概要・到達目標

Improving organizational performance and sustaining competitiveness is a critical challenge that managers must address. This challenge requires various perspectives and knowledge to understand management and organization. Among those, this course approaches the challenge from the lens of organizational psychology, emphasizing the human dimension of management. Recognizing that people are a valuable asset for companies, understanding them, specifically, their needs, work values, attitudes, and behaviors is essential for effective people management. Effective people management will maximize individual potential, which finally contributes to achieving organizational goals.

The primary object of this course is to introduce the fundamental concepts or ideas regarding organizational psychology. The course particularly focuses on the substantive psychological and behavioral issues of people, interpersonal relationships, and the influences of contextual factors on people in organizations. Most subjects related to people management such as individual attitude, perception, and decision-making process will be discussed in detail. Upon the completion of the course, students will acquire a thorough understanding of key theories and principles pertinent to organizational psychology and behavior. The knowledge will enable students to identify and diagnose contemporary topical issues and challenges faced by organizations. The final goal of the course is to develop and present an individual research project that is grounded on the concepts and theories learned throughout the course. Working on the individual research project will foster critical and logical thinking and communication skills.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

Class1 Introduction to Organizational Psychology
Class2 Diversity in Organizations
Class3 Attitude and Job Satisfaction
Class4 Emotion and Organizational Behavior
Class5 Personality and Work Values
Class6 Perception and Decision Making
Class7 Motivation and Applied Concepts
Class8 Research Proposal
Class9 Groups and Teams
Class10 Communication Process
Class11 Decision Making
Class12 Leadership
Class13 Organizational Culture and Change
Class14 Research Presentation

履修上の注意

Students have a variety of learning opportunities in class not only from lectures but also from interactive discussion and group activities. Therefore, a proactive attitude toward learning is highly encouraged in class. This course instructor will provide constructive and informative feedback on your class activities.

準備学習（予習・復習等）の内容

Every class will be conducted by following the stipulated class schedule. Students are required to have brief knowledge by reading the book chapter and articles before class. Furthermore, completing assignments punctually and ensuring timely submission is a requisite for students.

教科書

Robbins, S.P., & Judge, T. A. (2021). Essentials of organizational behavior (15th ed.), Pearson. ISBN: 1292406666

参考書

Spector, P. E. (2016). Industrial and organizational psychology: Research and practice (7th ed.), Wiley. ISBN-10: 1119386144
Additional reading materials including academic papers and business cases will be provided during the class.
The reading materials will be used for discussion in class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on all the assignments including individual and group presentations will be provided in class or posted on Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

- Class presentation: 30%
- Class discussion and participation: 30%
- Writing individual research paper and presentation: 40%

その他

The instructor reserves the right to make changes to the syllabus during the course. If any modifications are required, they will be communicated and informed in advance.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN596E			
グローバルコース系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	Organizational Psychology B [M]		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D.	金 素延	

授業の概要・到達目標

How can improve organizational effectiveness?

This question is fundamentally important to most of organizations. This course is designed to respond to the question and find answers from the people side. Since people are a valuable asset to companies, it is crucial to understand people.

The primary purpose of this course is to provide main concepts and theoretical frameworks of organizational behavior. This course will take the integrative perspective, which focuses not only people behaviors but the dynamic interplay between people and organization. Students accordingly will be able to understand the contemporary issues of organizational behaviors at higher levels such as group and organization. The subjects of group and team behavior, leadership, organizational structure and culture will be covered in detail. Based on the theoretical knowledge, students are required to present and develop their own research paper. Their research should focus on the ways how their original works can contribute to current theory and real business. From the course completed, students will be well prepared for their professional career through their enhanced knowledge and research skills.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

Class1 Course Introduction/Overview
Class2 Foundation of Group Behavior
Class3 Understanding Work Teams (I)
Class4 Communication
Class5 Leadership (I)
Class6 Leadership (II)
Class7 Research Proposal
Class8 Power and Politics
Class9 Conflict and Negotiation
Class10 Business Case Analysis
Class11 Foundations of Organizational Structure
Class12 Organizational Culture
Class13 Organizational Change and Stress Management
Class14 Research Presentation

履修上の注意

Students have a variety of learning opportunities not only from lectures but also interactive discussions and group activities. Therefore, proactive attitude toward study is highly encouraged in class. As an instructor, I will provide constructive and informative feedback to your class activities.

準備学習（予習・復習等）の内容

Every class will be done by following the stipulated class schedule. Students are required to have brief knowledge before class by reading the book chapter and prepared articles. Students are also required to complete assignments and submit them in time.

教科書

Robbins, S.P., & Judge, T. A. (2021). Essentials of organizational behavior (15th ed.), Pearson. ISBN: 1292406666

参考書

Additional materials including academic papers and business cases will be provided during the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on all the assignments including individual and group presentations will be provided in class or posted on Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

Class presentation (30%), Class discussion and participation (30%), Individual research paper writing and presentation (40%)

その他

The instructor reserves the right to make changes to the syllabus during the course. If any change is made, they will be announced in advance.

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN521E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Business Management and Organization 1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(行政学) 中村 虎彰		

授業の概要・到達目標

This course is intended to provide in-depth knowledge of Japanese economic history and management systems. The course will also explain archetypal organizational structures and operational systems in Japanese organizations such as the business affiliation and small-medium sized companies after the bubble economy. Through this course, students will learn the essential knowledge for functioning effectively in a Japanese economic history and have the discussion of each topic with your master thesis. We sometimes go outside of classroom and take a factory or company tour.

授業内容

- 1: Introduction/Research Design
- 2: The post-World War II: Economic Expansion of Japan
- 3: Era of High-speed Economic Growth
- 4: Bubble Economy Burst
- 5: After Bubble Economy Burst and Management Style
- 6: Japanese Socioeconomic Condition 2000-2010
- 7: Japanese Socioeconomic Condition at the Present Time
- 8: Introduction of Case Study 1: Japanese Central Economic Policy
- 9: Introduction of Case Study 2: Japanese Local Economic Policy
- 10: Introduction of Case Study 3: Japanese Culture and Management
- 11: Introduction of Case Study 4: Local Industry (Shopping Street)
- 12: Introduction of Case Study 5: Small and Medium-Size Enterprises
- 13: Introduction of Case Study 6: Global Partnership
- 14: Summary

履修上の注意

Students should regard classes as important and attend all classes. Students should not be late for school. Our classes are sometimes taught remotely.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students should develop an effective resume that can be utilized for your next class and give students who take this course a resume of your report.

教科書

Morgan, James C. and Morgan, J. Jeffrey (1991) Cracking the Japanese Market: Strategies for Success in the New Global Economy, The Free Press/New York

参考書

Bucknall, Kevin B. (2006) Japan: Doing Business in a Unique Culture, Boson Books

課題に対するフィードバックの方法

At the end of the semester, students are required to write a report on what they are interested in based on what they have studied in this class.

成績評価の方法

1. Participation in class 20% (participation in activities)
2. Presentations 20%
3. Course Questionnaire 10%
4. Homework 20%
5. Term Paper 30%

その他

We will discuss and decide on the study tour together.

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN521E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Business Management and Organization 1B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(行政学) 中村 虎彰		

授業の概要・到達目標

This course is intended to provide in-depth knowledge of Japanese culture and management systems. The course will clarify the unique features of organizational behavior in the typical Japanese organizational culture and management culture. The course will also explain archetypal organizational structures and operational systems in small-medium sized companies. Through this course, students will learn the essential knowledge for functioning effectively in a Japanese organization and have the discussion of each topic. We sometimes go outside of classroom and take a factory or company tour. This course will help you to write your thesis too.

授業内容

- 1: Introduction/Research Design
- 2: Inside the Japanese Market 1: Structure of Japanese Market and Policy
- 3: Inside the Japanese Market 2: Structure of Japanese Market and Industry
- 4: Japanese Private Company and Culture 1: Business Culture
- 5: Japanese Private Company and Culture 2: Organizational Culture
- 6: Japanese Public Management and Culture 1: Structure of Japanese Government and Management
- 7: Japanese Public Management and Culture 2: Public Management and Policy
- 8: Introduction of Case Study 1: Small and Medium-Size Enterprises
- 9: Introduction of Case Study 2: Large Corporation
- 10: Introduction of Case Study 3: Comparative Study, US and Japan
- 11: Introduction of Case Study 4: Comparative Study, UK and Japan
- 12: Introduction of Case Study 5: Traditional Culture
- 13: Introduction of Case Study 6: History and Culture
- 14: Summary

履修上の注意

Students should regard classes as important and attend all classes. Students should not be late for school. Our classes are sometimes taught remotely.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students should develop an effective resume that can be utilized for your next class and give students who take this course a resume of your report.

教科書

Ivancevich, John M. Robert, Konopaske, Matteson, Michale T. (2011) Organizational Behavior and Management, McGraw-Hill: Irwin

参考書

Bucknall, Kevin B.(2006)Japan: Doing Business in a Unique Culture, Boson Books

Morgan, J. Jeffrey and Morgan, James C. (1991) Cracking The Japanese Market, A Division of Macmillan, Inc.

課題に対するフィードバックの方法

At the end of the semester, students are required to write a report on what they are interested in based on what they have studied in this class.

成績評価の方法

1. Participation in class 20% (participation in activities)
2. Presentations 20%
3. Course Questionnaire 10%
4. Homework 20%
5. Term Paper 30%

その他

We will discuss and decide on the study tour together.

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	秋学期集中講義
科目名	Business Management and Organization 1B (M)		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS		

授業の概要・到達目標

The course examines and explores the management of both organizations and its employees from a globalized and multiple stakeholder approach. Theoretical perspectives and their applications are examined in the context of creating and maintaining competitive advantage and developing organic organizations that are capable of adaptation to dynamic and changing global business environments. Topic areas include; Traditional and contemporary issues and challenges, managing people in organizations, organization theory, organization design, leadership, cultures, communication, globalization, multiple stakeholder approaches, creating competitive advantage.

授業内容

【Management and Organization Theory】

Session details

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

- Session 1 Traditional and contemporary issues and challenges
- Session 2 Managing in changing contexts
- Session 3 Managing cultures and organizational practices
- Session 4 Managing individuals
- Session 5 Managing teams, organizational structures and design
- Session 6 Leadership and power
- Session 7 Motivation theory
- Session 8 Managing communications
- Session 9 Creating competitive advantage, innovation, and change
- Session 10 Ethics and corporate social responsibility
- Session 11 Managing multiple stakeholders
- Session 12 Globalization-impacts, opportunities and challenges
- Session 13 Student presentations I
- Session 14 Student presentations II

履修上の注意

Teaching method will be by lecture style, case study analysis, other activities, and critical discussions.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be advised about further reading and material to read outside of class during the class. 3-5 hours of additional study per week outside of class time will be required.

教科書

No text book

参考書

Journal articles, case studies, and other materials will be provided to the students during the course.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback / Feedback Form

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail
Report- 40% (topic choices will be given early in course)
Presentation- 40% (linked to the report)
Class participation and discussion- 20%

その他

The course will be given in English, and class sessions will primarily be based on critical analysis and discussion of key concepts and theories explored from the literature.

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN521E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization 1A		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

In this class you can have a better understanding of management theory and Japanese management practices. In this class you can not only listen to my lectures, but also participate in discussions on a variety of topics on Japanese business and organization. As part of this class, you can have an opportunity to visit a Japanese factory to understand the reality of Japanese management practices based on the genchi-genbutsu (go and see) principle.

授業内容

- 1 : Introduction to Japanese business management and organization 1A
- 2 : Case studies on standardization and the Taylorism
- 3 : Standardization and the Taylorism
- 4 : Case studies on Human relations
- 5 : Human relations
- 6 : Case studies on Japanese HRM
- 7 : Japanese HRM
- 8 : Case studies on 5S
- 9 : 5S management
- 10: Case studies on kaizen
- 11: Kaizen management
- 12: Factory observation
- 13: Reflection of factory observation
- 14: Conclusions

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

It is better read textbooks on management theory and Japanese management practices.

教科書

Power point slides are used.

参考書

Some books and papers are recommended in the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Examination 50%
Contribution to case studies 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN521E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization 1B		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 青木 克生		

授業の概要・到達目標

In this class you can have a better understanding of Japanese business and organization, production systems and process development methods in particular. In this class you can not only listen to my lectures, but also participate in discussions on a variety of topics on Japanese business and organization.

授業内容

- 1: Introduction to Japanese business management and organization 1B
- 2: Case studies on the transfer of Japanese management practices to overseas
- 3: The transfer of Japanese management practices to overseas
- 4: Case studies on Toyota Production System
- 5: Toyota Production System
- 6: Case studies on keiretsu (inter-firm relationships)
- 7: Keiretsu (inter-firm relationships)
- 8: Case studies on PDCA
- 9: PDCA management
- 10: Case studies on customization strategies and SCM
- 11: Customization strategies and SCM
- 12: Factory observation
- 13: Reflection of factory observation
- 14: Conclusions

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

It is better read textbooks on production management and Toyota Production System.

教科書

Power point slides are used.

参考書

Some books and papers are recommended in the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Examination 50%
Contribution to case studies 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	秋学期集中講義
科目名	Business Management and Organization 2A (M)		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS		

授業の概要・到達目標

The course aim is to develop an understanding of organizational strategies and the concepts upon which they are based; it aims to establish a foundation of analysis and understanding of organization systems and sub-systems and their operation through constant interaction with their environments. The course examines and explores systems theory, strategy concepts, strategic management, business level strategy, corporate level strategy, network level strategy, innovation and creativity, leadership; analysis of external, industry and internal environments; globalization, drivers and impacts, strategic implementation and control.

授業内容

【Strategic Management Theory and Applications】

Session details

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

- Session 1 What is strategy?
Session 2 Alternative strategic concepts, stakeholders, and problem statements
Session 3 The external environment- Analysis and models
Session 4 The organizational context
Session 5 Business level strategies
Session 6 Corporate level strategies
Session 7 Network level strategies
Session 8 Strategy formation
Session 9 Strategy implementation
Session 10 Control and Performance Management
Session 11 Global comparisons and industry specific cases
Session 12 Strategy in paradoxical environments
Session 13 Student presentations I
Session 14 Student presentations II

履修上の注意

Teaching method will be by lecture style, case study analysis, other activities, and critical discussions.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be advised about further reading and material to read outside of class during the class. 3-5 hours of additional study per week outside of class time will be required.

教科書

No text book

参考書

Journal articles, case studies, and other materials will be provided to the students during the course.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback / Feedback Form

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail
Report- 40% (topic choices will be given early in course)
Presentation- 40% (linked to the report)
Class participation and discussion- 20%

その他

The course will be given in English, and class sessions will primarily be based on critical analysis and discussion of key concepts and theories explored, as well as their application in business and management environments.

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	秋学期集中講義
科目名	Business Management and Organization 2B (M)		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. John HATZINIKOLAKIS		

授業の概要・到達目標

The course enables students to develop the knowledge and skills required to supervise and manage individuals and groups in the workplace and to explore some of the key factors that influence people's performance and behavior in organizations in the international service sector from a perspective that draws upon leadership, organizational behavior and human resource literature. A core component of this course is to enable students to better understand and experience the need for supervisors and managers to be flexible and adaptable in their management style. Students will develop a deep understanding of dominant behavioral preferences when working with people and will learn how to extend the range of behaviors adapted with people according to the needs presented by various opportunities, challenges, and organizational environments.

授業内容

【Leadership and Management in the Service Sector】

Session details

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

- Session 1 Current issues in management in the hospitality/service sector
- Session 2 Classical versus contemporary theories of management
- Session 3 Organizational culture and climate (Internal environments)
- Session 4 External environments of management
- Session 5 Managing diversity
- Session 6 Strategic management and planning
- Session 7 Job design and organizing
- Session 8 Controlling
- Session 9 Leading and influencing
- Session 10 Personality and attitude
- Session 11 Motivation theory
- Session 12 Emotional labor and stress
- Session 13 Student presentations I
- Session 14 Student presentations II

履修上の注意

Teaching method will be by lecture style, case study analysis, and other activities, and critical discussions.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be advised about further reading and material to read outside of class during the class. 3-5 hours of additional study per week outside of class time will be required.

教科書

No text book

参考書

Journal articles, case studies, and other materials will be provided to the students during the course.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback / Feedback Form

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail
Report- 40% (topic choices will be given early in course)
Presentation- 40% (linked to the report)
Class participation and discussion- 20%

その他

The course will be given in English, and class sessions will primarily be based on critical analysis and discussion of key concepts and theories explored, as well as their application in business and management environments.

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Business Management and Organization 2A (M)		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI		

授業の概要・到達目標

The objective of the courses will be to present how to integrate sustainability constraints and opportunities into the governance and financial decisions of companies.

The course will present how ESG information are collected, organized and disclose and how ESG index are constructed. I will then analyse the consequences of taking into account those ESG information on the financial decisions of the company (investment and funding). It will also explore how sustainability considerations will impact the traditionally shareholder-oriented governance-performance model. The course will detail how the objectives of the company should be adapted to consider the sustainability objectives and constraints, how governance systems should consider those objectives and constraints and how to implement and develop non-financial performance measurement systems.

授業内容

1. Sustainability information analysis
2. Environmental information
3. Social and governance information
4. Production of sustainable information and greenwashing
5. Reporting standards for sustainable information
6. Construction of ESG ratings
7. Objective of the company: the limits of the shareholders' approach
8. Objective of the company: Long term objectives and the stakeholders' approach
9. Corporate governance and sustainability
10. Executives' compensation linked to sustainability
11. Capital budgeting and sustainability
12. Real option approach and sustainability
13. Green financial instruments (green bonds...)
14. Capital structure decision and sustainability

履修上の注意

This course is conducted in English.

Basic knowledge in corporate finance and governance can be useful.

Course contents may be modified according to circumstances such as number of students and academic ability.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course is conducted in English.

Basic knowledge in corporate finance and governance can be useful.

Course contents may be modified according to circumstances such as number of students and academic ability.

教科書

Main textbook: Principles of Sustainable Finance by Dirk Schoenmaker, Willem Schramade. Oxford.

Several books and scientific papers will be used.

参考書

Additional materials including academics papers and business cases will be provided during the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedbacks will be given in classes and additional materials will be provided on the Oh-o! Meiji system.

成績評価の方法

Active participation: solutions to exercises and case studies, answer to questions and quizz (40 %), answers to assignments (comments on research papers, bibliography analysis...60 %)
Feedbacks will be given in classes and additional materials will be provided on the Oh-o! Meiji system.

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN526E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Business Management and Organization 2B (M)		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI		

授業の概要・到達目標

The objective of the courses will be to present how to integrate sustainability constraints and opportunities into the governance and performance system of companies.

The course will present how sustainability considerations will impact the traditionally shareholder-oriented governance-performance model. The course will detail how the objectives of the company should be adapted to consider the sustainability objectives and constraints, how governance systems should consider those objectives and constraints and how to implement and develop non-financial performance measurement systems.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

Course Contents

1. Sustainability constraints and opportunities.
2. Impact of sustainability on the companies' business models
3. Impact of sustainability on the objectives of the company
4. Objective of the company: the limits of the shareholders' approach
5. Objective of the company: Long term objectives and the stakeholders' approach
6. Corporate Social Responsibility (CSR)
7. Corporate governance: the traditional shareholders-oriented view
8. Corporate governance and sustainability
9. Performance measurement system: financial performance
10. ESG performance measurement
11. Critics of ESG performance measurement
12. Management compensation package
13. Management compensation package and sustainability objectives
14. Case studies on non-financial performance system

履修上の注意

This course is conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Basic knowledge in finance and governance can be useful. Course contents may be modified according to circumstances such as number of students and academic ability.

教科書

Main textbook: Principles of Sustainable Finance by Dirk Schoenmaker, Willem Schramade. Oxford.
Several books and scientific papers will be used.

参考書

Additional materials including academics papers and business cases will be provided during the class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Active participation: solutions to exercises and case studies, answer to questions and quizz (40%), answers to assignments (comments on research papers, bibliography analysis...)

その他

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN521E			
グローバルコース系		備考	秋学期集中講義
科目名	Business Management and Organization 5A		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE		

授業の概要・到達目標

This course examines the dynamic interplay between business and society, focusing on the challenges and opportunities that arise in the context of global and contemporary business practices. Designed as an introduction to critical issues and themes at the intersection of business and society, this course aims to prepare you to act more effectively and responsibly in your future managerial roles.

Key Focus Areas include:

1. Business Ethics and Corporate Social Responsibility (CSR):
2. Sustainability and Sustainable Development Goals (SDGs):
3. Globalization and Its Impacts:
4. Stakeholder Management:
5. Business and Governance:
6. Contemporary Themes in Business-Society Interaction:
7. Managerial Skills for Global Leaders:
8. Developing cross-cultural communication and leadership skills.
9. Building frameworks for ethical decision-making in complex scenarios.

Learning Outcomes:

By the end of the course, students will:

- Understand the interdependence between business practices and societal well-being.
- Be equipped to make informed, ethical, and socially responsible decisions as future managers.
- Develop skills to analyse and respond to global challenges in a business context.

授業内容

【Global Business & Society Management】

- Session 1 Introduction & Overview
Session 2 Concepts & Issues
Session 3 Business & Society Relationship
Session 4 Social Responsibility of Business, Citizenship, and Sustainability
Session 5 Stakeholder Theory & Management
Session 6 Class Presentations
Session 7 Operationalising Social Responsibility, Philanthropy/Partnerships
Session 8 Class Presentations
Session 9 Business Ethics
Session10 Personal and Organisational Ethics, Values & Ethical Decision Making
Session11 Ethical Issues In Business, Ethical Trade & Fair Trade
Session12 Globalisation
Session13 Feedback and Class Presentation
Session14 Sustainable Development and Managing Environmental Issues

履修上の注意

There are no prerequisites for this course. However, I suggest you read all the articles provided for each session before you come to class.

準備学習（予習・復習等）の内容

Read all the articles provided for each session before class. In addition, students will be advised with other requirements before class.

- You are also expected to be active participants in the classroom discussions.
- Questions alone are not considered as participation, nor is merely coming to class and listening to the discussion. You are expected to know the facts as stated in cases and readings and offer meaningful analysis and convincing arguments.

教科書

Carroll, A. B., Brown, J. A., and Buchholtz, A. K (2018). Business and Society: Ethics, Sustainability and Stakeholder management. (10th ed). Cengage Learning: Boston.

Relevant academics articles will also be provided to students.

参考書

To be advised

課題に対するフィードバックの方法

Students will be adequately informed about the assignments and what is required to prepare for the assignments. There will be adequate time to prepare and discuss assignments as well as the requirements during the lectures.

成績評価の方法

Evaluation Method :

Class Participation (discussion, Q&A) 30%

Essay writing 35%

Report and Presentation 35%

その他

The class will be interactive and engaging. I look forward to meeting you all in class. Also, more information will be provided at the beginning of the course. Feel free to familiarize yourself with the course and introduce yourself in the forums. If you have issues accessing information about the course, please contact me in the first instance. I'm looking forward to meet you and get to know you all. If you have any questions or concerns, please do not hesitate to contact me either through "Oh-of Meiji" discussion function or by emailing to the address below:
Email address:
geweje@ecu.edu.au or gabgab1997@gmail.com (Professor Gabriel Eweje)

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN521E			
グローバルコース系		備 考	秋学期集中講義
科 目 名	Business Management and Organization 5B		
開 講 期	秋学期集中	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE		

授業の概要・到達目標

This course is designed to equip master's students with the essential skills to write an effective and well-structured thesis. Students will research topics of their choice, prepare mock thesis chapters, and present their findings to their lecturer and peers for constructive feedback.

Key Focus Areas include:

- Academic Writing Essentials:
 - Structuring a thesis: crafting an introduction, literature review, methodology, results, and conclusion.
 - Developing clear and coherent arguments.
 - Proper citation practices and avoiding plagiarism.
- Research Skills:
 - Identifying research gaps and formulating research questions.
 - Conducting comprehensive literature reviews.
 - Analyzing data and integrating findings into academic writing.
- Presentation Skills:
 - Delivering two 15-minute mock thesis presentations to build confidence and clarity in communication.
 - Receiving and incorporating feedback to refine the thesis and presentation skills.
- Critical Review and Peer Feedback:
 - Learning how to provide constructive criticism to peers.
 - Gaining insights by reviewing and discussing others' work.
- Editing and Polishing:
 - Strategies for self-editing and improving drafts.
 - Addressing feedback from the lecturer and peers for final revisions.

Course Objectives:

The overall aim of this course is to develop your ability to write a master's thesis that meets academic standards. By the end of the course, you will:

- Have a clearer understanding of thesis structure and academic conventions.
- Be able to write more effectively and appropriately for an academic audience.
- Gain confidence in presenting and defending your research ideas.

This course is an invaluable stepping stone for those looking to improve their research and academic writing skills while preparing for the rigorous process of thesis writing.

授業内容

- Session 1 Introduction to the Course/Publishing a Master's Thesis/research
- Session 2 Choosing a Research Topic/Study Background
- Session 3 Literature Review Search
- Session 4 Identifying relevant publication channels
- Session 5 Identifying Your Research Audience (Thesis Topic Submission)
- Session 6 Review Writing a Comprehensive Literature Review
- Session 7 Writing a Convincing Thesis Proposal Part 1
- Session 8 Get Published
- Session 9 Pitching Your Research Part 1
- Session 10 Skills Needed in Writing Thesis for Masters' Students
- Session 11 Writing a Research Proposal Part 2
- Session 12 Presentation of Mock Thesis
- Session 13 Feedback on Mock Thesis
- Session 14 Pitching Your Research Part 2 (Mock Thesis submission)

履修上の注意

You are expected to have read the relevant case and prescribed reading in advance of each session.

- You are also expected to be active participants in the classroom discussions.
- Questions alone are not considered as participation, nor is merely coming to class and listening to the discussion. You are expected to know the facts as stated in cases and readings and offer meaningful analysis and convincing arguments.

準備学習（予習・復習等）の内容

The students will be advised the requirements before each session.

教科書

No textbook required for this course. Students will be provided with relevant academic articles for each session.

参考書

To be advised

課題に対するフィードバックの方法

Students will be provided with feedback two days after assignment submission.

成績評価の方法

Class Participation (discussion, Q&A) - 30%
Mock Thesis Presentation - 35%
Writing a Literature Review - 35%

その他

The class will be interactive and engaging. I look forward to meeting you all in class. Also, more information will be provided at the beginning of the course. Feel free to familiarize yourself with the course and introduce yourself in the forums. If you have issues accessing information about the course, please contact me in the first instance. I'm looking forward to meet you and get to know you all. If you have any questions or concerns, please do not hesitate to contact me either through "Oh-of Meiji" discussion function or by emailing to the address below:
Email address: g.eweje@ecu.edu.au or gabgab1997@gmail.com (Professor Gabriel Eweje)

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN521E			
グローバルコース系		備 考	秋学期集中講義
科 目 名	Business Management and Organization 6A		
開 講 期	秋学期集中	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE		

授業の概要・到達目標

This course lays a foundational understanding of sustainability management in business, exploring the concepts of ecology, the major environmental challenges of the 21st century, and social sustainability. It examines how businesses, civil society, and governments respond to these pressing issues and how companies can proactively navigate this growing and complex area.

Objectives

The Global Sustainability Management for Business course introduces key social and environmental challenges while emphasizing the role of businesses in managing them. The course aims to equip you with the knowledge and skills to act effectively and responsibly in managerial roles.

Through this course, you will:

Identify major environmental and social challenges facing the business community.

Understand the principles and applications of sustainable business practices. Examine the global sustainability debate and its implications for business policies and management strategies.

By integrating theoretical insights with practical applications, this course ensures a formative and enjoyable learning experience, preparing you to lead in sustainable business management.

授業内容

- Session 1 Introduction & Overview
- Session 2 The Sustainability Concepts and The Historical Context
- Session 3 Sustainable Development and Environmental Sustainability
- Session 4 UN Sustainable Development Goals and The Circular Economy
- Session 5 Social Responsibility of Business and Citizenship
- Session 6 Sustainability Reporting
- Session 7 Modern Day Slavery and Business
- Session 8 Class Presentations (Essay Submission)
- Session 9 The Business Sector Response
- Session 10 Leadership and Strategy for Environmental Sustainability
- Session 11 Ethical Trade & Fair Trade
- Session 12 Sustainability in Global Value Chain (Report Submission)
- Session 13 The Evolutionary Corporation -The shift to Sustainability
- Session 14 Feedback and Class Presentation

履修上の注意

You are expected to have read the relevant case and prescribed reading in advance of each session.

- You are also expected to be active participants in the classroom discussions.
- Questions alone are not considered as participation, nor is merely coming to class and listening to the discussion. You are expected to know the facts as stated in cases and readings and offer meaningful analysis and convincing arguments.

準備学習（予習・復習等）の内容

The students will be advised the requirements before each session.

教科書

Epstein, M. J. and Buhovac, A. R. (2014). Making Sustainability Work: Best Practices in Managing, and Measuring Corporate Social, Environmental, and Economic Impacts. Greenleaf Publishing, UK
Relevant academics articles will also be provided to students.

参考書

To be advised

課題に対するフィードバックの方法

Students will be provided with feedback two days after assignment submission.

成績評価の方法

Class Participation (discussion, Q&A) - 30%
Essay Writing - 35%
Report and Presentation - 35%

その他

The class will be interactive and engaging. I look forward to meeting you all in class. Also, more information will be provided at the beginning of the course.

Feel free to familiarize yourself with the course and introduce yourself in the forums. If you have issues accessing information about the course, please contact me in the first instance. I'm looking forward to meet you and get to know you all.

If you have any questions or concerns, please do not hesitate to contact me either through "Oh-of Meiji" discussion function or by emailing to the address below:

Email address : g.eweje@ecu.edu.au
or gabgab1997@gmail.com (Professor Gabriel Eweje)

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN521E			
グローバルコース系		備考	秋学期集中講義
科目名	Business Management and Organization 6B		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Remmy Gabriel EWEJE		

授業の概要・到達目標

This course provides students an opportunity to learn how to publish research outputs at a master's level. Students will research topics of their choice and present their mock publications to the lecturer and other students. This course will help master's students to improve their publication skills. Each student will receive feedback from fellow students and the lecturer. The overall aim of this course is to assist you to write more effectively and appropriately. To support your learning, weekly lecture notes and supplementary materials will be made available on "Oh-ol Meiji".

The overall aim of this course is to assist you to write more effectively and appropriately. Every week on "Oh-ol Meiji" I will make lecture notes and supplementary materials available to assist you in understanding the key concepts. Make sure to carefully read your course guide so you know what is expected of you. Each student will deliver two 15-minute presentations of their mock publications, providing a practical platform to refine their research communication skills.

授業内容

Session 1 Introduction to Research, Writing, & Publication
 Session 2 Ingredients of Successful Research
 Session 3 Choosing a Research Topic
 Session 4 Literature Review Search Part 1
 Session 5 Literature Review Search Part 2
 Session 6 Qualitative Methods (Research Proposal Submission)
 Session 7 Quantitative Methods
 Session 8 Writing a Convincing Article Part 1
 Session 9 Writing a Convincing Article Part 2
 Session 10 Skills Needed for Research and Writing
 Session 11 Pitching Your Research & Presentation
 Session 12 Finishing Research
 Session 13 Presentation of Research Proposal
 Session 14 Feedback on Research Proposal (Article Submission)

履修上の注意

You are expected to have read the relevant case and prescribed reading in advance of each session.

- You are also expected to be active participants in the classroom discussions.
- Questions alone are not considered as participation, nor is merely coming to class and listening to the discussion. You are expected to know the facts as stated in cases and readings and offer meaningful analysis and convincing arguments.

準備学習（予習・復習等）の内容

The students will be advised the requirements before each session.

教科書

No textbook required for this course. Students will be provided with relevant academic articles for each session.

参考書

To be advised

課題に対するフィードバックの方法

Students will be provided with feedback two days after assignment submission.

成績評価の方法

Class Participation (discussion, Q&Q) - 30%
 Research Proposal / Presentation - 35%
 Writing an Article - 35%

その他

The class will be interactive and engaging. I look forward to meeting you all in class. Also, more information will be provided at the beginning of the course.

Feel free to familiarize yourself with the course and introduce yourself in the forums. If you have issues accessing information about the course, please contact me in the first instance. I'm looking forward to meet you and get to know you all.

If you have any questions or concerns, please do not hesitate to contact me either through "Oh-ol Meiji" discussion function or by emailing to the address below:

Email address : g.eweje@ecu.edu.au

or gabgab1997@gmail.com (Professor Gabriel Eweje)

リサーチコース

科目ナンバー: (BA) MAN556E			
グローバルコース系		備考	
科目名	E Commerce A [M]		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

ECommerce is often represented as a new way of doing business. Commerce has been conducted electronically since the introduction of the telegraph system in the mid-19th century, however. Legal issues such as contracts, regulatory issues such as advertising control, and a broad range of other concepts have all gradually evolved as more and different modes of electronic commerce have become available. In this module, the development and implications of ecommerce involving general customers/consumers is presented, covering both business to customer (B2C) and customer to customer (C2C) ecommerce issues.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform.

- 1 : Introduction to ECommerce
- 2 : Theories of ECommerce
- 3 : B2C Basics
- 4 : Infrastructure 1: Front Ends
- 5 : Infrastructure 2: Payment Systems
- 6 : Infrastructure 3: Fulfilment
- 7 : B2C Etail
- 8 : B2C Services
- 9 : Social Platforms and ECommerce
- 10: C2C Basics
- 11: Infrastructure 4: Reputation
- 12: Case Study: Amazon
- 13: Case Study: Rakuten
- 14: Conclusions

履修上の注意

The course will be given in English.

Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.

準備学習（予習・復習等）の内容

An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-ol Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session.

Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning.

The lecturer will then present details on the issue of the week.

The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module.

These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.

教科書

E-commerce: Business Technology, Society (17th Edition). Laudon Traver. Pearson. 2021

参考書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Reports (2): 50%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN556E			
グローバルコース系		備考	
科目名	E Commerce B [M]		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

ECommerce is often represented as a new way of doing business. Commerce has been conducted electronically since the introduction of the telegraph system in the mid-19th century, however. Legal issues such as contracts, regulatory issues such as advertising control, and a broad range of other concepts have all gradually evolved as more and different modes of electronic commerce have become available. In this module, the development and implications of ecommerce involving businesses and government is presented, covering both business to business (B2B) and business to government (B2G) and government to business (G2B) ecommerce issues.

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform.

- 1: Introduction to ECommerce
- 2: Theories of ECommerce
- 3: B2B Basics
- 4: B2B Infrastructure
- 5: B2B Fulfilment
- 6: B2G Services
- 7: B2B Case Study: Go2Paper
- 8: B2B Case Study: Toyota Production System: Just in Time
- 9: B2B Case Study: Shutterstock
- 10: B2G Basics
- 11: B2G Case Study: e-procurement and anti-corruption
- 12: G2B Basics
- 13: G2B Case Study: NIC Inc.
- 14: Conclusions

履修上の注意

The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.

準備学習（予習・復習等）の内容

An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-ol Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session.

Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning.

The lecturer will then present details on the issue of the week.

The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module.

These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.

教科書

E-commerce: Business Technology, Society (17th Edition). Laudon & Traver. Pearson. 2021.

参考書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Reports (2): 50%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC546E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Management Control Systems A [M]		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI		

授業の概要・到達目標

The objective of the course will be to present the climate change related risks (CCRR) (physical risk, transition risk, reputation risk, litigation risk) and their consequences on the risk management, investment decisions and performance of companies and banks.

The course will present in detail the various climate related risks and how the agents and companies should react in front of those risks. We will focus on the impact of CCRR on investors (how CCRR affect the value of assets), companies (we will study how CCRR affects the investment strategy of the company by using the real option approach) and banks (we will study the link between CCRR and credit risk).

授業内容

1. General Presentation of Climate Change Related Risks (CCRR)
2. CCRR: Company exposure to physical risks
3. CCRR: Management of physical risks
4. CCRR: Static transition risks
5. CCRR: Dynamic transition risk targets
6. CCRR: Dynamic transition risk exposure and management
7. Case studies on physical and transition risks
8. Impact of CCRR on asset valuation methods
9. Impact of CCRR on capital budgeting
10. Cases studies on valuation and capital budgeting
11. Real option and CCRR
12. Case study in real option and CCRR
13. CCRR and credit risk
14. Case studies on CCRR and bank management

履修上の注意

Basic knowledge in basic finance and risk management can be useful.

Course contents may be modified according to circumstances such as number of students and academic ability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Basic knowledge in basic finance and risk management can be useful.

Course contents may be modified according to circumstances such as number of students and academic ability.

教科書

Schoenmaker, D. & Schramade, W. "Principles of Sustainable Finance", Oxford.

参考書

Reference documents will be distributed at each class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedbacks will be given in classes and additional materials will be provided on the Oh-ol Meiji system.

成績評価の方法

Active participation: solutions to exercises and case studies, answer to questions and quizz (40 %), answers to assignments (comments on research papers, bibliography analysis...60 %)

Feedbacks will be given in classes and additional materials will be provided on the Oh-ol Meiji system.

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC546E			
グローバルコース系		備考	2026年度開講せず
科目名	Management Control Systems B [M]		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. Jean-Lauren Germain VIVIANI		

授業の概要・到達目標

The objective of the course will be to present the climate change related risks (CCRR) (physical risk, transition risk, reputation risk, litigation risk) and their consequences on the risk management, investment decisions and performance of companies and banks.

The course will present in detail the various climate related risks and how the agents and companies should react in front of those risks. We will focus on the impact of CCRR on investors (how CCRR affect the value of assets), companies (we will study how CCRR affects the investment strategy of the company by using the real option approach) and banks (we will study the link between CCRR and credit risk).

授業内容

This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type).

Course Contents

1. General Presentation of Climate Change Related Risks (CCRR)
2. CCRR: Physical risks
3. CCRR: Transitions risks
4. Case studies on physical and transition risks
5. Principle of risk management
6. Basic decision analysis in risk and uncertainty
7. Case studies on risk management and decision analysis
8. Impact of CCRR on asset valuation methods
9. Impact of CCRR on capital budgeting
10. Cases studies on valuation and capital budgeting
11. Real option and CCRR
12. Case study in real option and CCRR
13. CCRR and credit risk
14. Case studies on CCRR and bank management

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Basic knowledge in basic finance and risk management can be useful.

Course contents may be modified according to circumstances such as number of students and academic ability.

教科書

Schoenmaker, D. & Schramade, W. "Principles of Sustainable Finance", Oxford.

参考書

Reference documents will be distributed at each class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on presentations and assignments will be given in class as needed.

成績評価の方法

Active participation: solutions to exercises and case studies, answer to questions and quizz (40%), answers to assignments (comments on research papers, bibliography analysis...)

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC536E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Advanced Financial Accounting A [M]		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経営学） 中島 真澄		

授業の概要・到達目標

Forensic accounting is an accounting technique that assists companies in resolving disputes by investigating, calculating, analyzing, and reporting financial data before and after the dispute is brought to court. With the recent increase in litigation in organizations, more accounting expertise and credibility is required to calculate the amount of damage, etc. Forensic accountants investigate general accounting irregularities, whether civil or criminal, conduct investigations from a third-party perspective, and submit an investigation report after the investigation. If the subject of the investigation leads to litigation, the forensic accountant may testify in court as a witness. In addition, the forensic accountant learns how to speak persuasively in court as a key witness in a case and learns the relevant techniques in court.

授業内容

- Class 1: Guidance: What is Forensic Accounting? Definition and History (Media Class Realtime Live)
- Class 2: Forensic Accounting Education (Media Class Realtime Live)
- Class 3: Forensic Accounting in the U.S. (Media Class Realtime Live)
- Class 4: Corporate Misconduct and Financial Statement Fraud (Financial Statement Data and Textual Information) (Media Class Realtime Live)
- Class 5: Fraud Detection Methodologies (Media Class Realtime Live)
- Class 6: Characteristics of Accounting Fraud in Japan (Media Class Realtime Live)
- Class 7: Forensic Investigation (Media Class Realtime Live)
- Class 8: Forensic Audit (Media Class Realtime Live)
- Class 9: Forensic Services (Media Class Realtime Live)
- Class 10: Forensic Accounting Techniques (Media Class Realtime Live)
- Class 11: Information Analysis (Media Class Realtime Live)
- Class 12: Interviewing Practices (Media Class Realtime Live)
- Class 13: Governance (Media Class Realtime Live)
- Class 14: Summary (Media Class Realtime Live)

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Please read the content of each chapter before the class following the syllabus. After lecture, please work on the assignments for each chapter as the review.

教科書

Forensic Accounting: Investigation Services by Masumi Nakashima and Tomohiro Katayama, 2026.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.

成績評価の方法

- Class Contribution 15%
- Assignments 35%
- Final Exam 60%
- No face-to-face testing is conducted.

その他

This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC536E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Advanced Financial Accounting B [M]		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 中島 真澄		

授業の概要・到達目標

Forensic accounting is an accounting technique that assists companies in resolving disputes by investigating, calculating, analyzing, and reporting financial data before and after the dispute is brought to court. With the recent increase in litigation in organizations, more accounting expertise and credibility is required to calculate the amount of damage, etc. Forensic accountants investigate general accounting irregularities, whether civil or criminal, conduct investigations from a third-party perspective, and submit an investigation report after the investigation. If the subject of the investigation leads to litigation, the forensic accountant may testify in court as a witness. In addition, the forensic accountant learns how to speak persuasively in court as a key witness in a case and learns the relevant techniques in court.

授業内容

Class 1: Guidance: Overview of Litigation for Damages (Media Class Realtime Live)
 Class 2: Overview of the Litigation System (Media Class Realtime Live)
 Class 3: Subject of Proof (Media Class Realtime Live)
 Class 4: Rules of Evidence (Media Class Realtime Live)
 Class 5: Rules for Determining Facts (Media Class Realtime Live)
 Class 6: Evidence Collection and Examination (Media Class Realtime Live)
 Class 7: Accountants' Involvement in Litigation (Media Class Realtime Live)
 Class 8: Litigation for Tort (Media Class Realtime Live)
 Class 9: Litigation for Neglect of Duties by Directors (Media Class Realtime Live)
 Class 10: General Provisions on Criminal Liabilities (Media Class Realtime Live)
 Class 11: Overview of Civil Damages (Media Class Realtime Live)
 Class 12: Business Damage 1 (Media Class Realtime Live)
 Class 13: Business Damage 2 (Media Class Realtime Live)
 Class 14: Summary (Media Class Realtime Live) (Media Class Realtime Live)

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Please read the content of each chapter following the syllabus. After class please work on the assignment for each chapter as a review.

教科書

Forensic Accounting: Litigation Services by Tomohiro Katayama, 2026

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.

成績評価の方法

Class Contribution 15%
 Assignments 35%
 Final Exam 60%
 No face-to-face testing is conducted.

その他

This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC536E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Financial Statement Analysis A [M]		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 中島 真澄		

授業の概要・到達目標

This course provides a comprehensive framework for business analysis and valuation by using financial statement information. Students can learn not only the concepts and principles for evaluating a firm's financial performance and predicting its future economic condition but also tools for the financial statements analysis. Topics are covered: Strategy Analysis, Accounting Analysis, Financial Analysis, and Prospective Analysis. The goal is to understand the basic principles of fundamental analysis and to obtain skills and techniques to analyze the financial statements and determine the fundamental value.

授業内容

Class 1: Introduction: Framework for Business Analysis and Valuation (Media Class Realtime Live)
 Class 2: Strategic Analysis (Media Class Realtime Live)
 Class 3: Database Learning (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 4: Database Learning (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 5: Accounting Analysis (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 6: Accounting Analysis (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 7: Financial Analysis: Ratio Analysis (Media Class Realtime Live)
 Class 8: Financial Analysis: Cash Flow Analysis (Media Class Realtime Live)
 Class 9: Prospective Analysis: Forecasting (Media Class Realtime Live)
 Class 10: Prospective Analysis: Valuation Theory and Concepts (Media Class Realtime Live)
 Class 11: Earnings quality: Accruals Management (Media Class Realtime Live)
 Class 12: Earnings quality: Real Management (Media Class Realtime Live)
 Class 13: Paper Presentation (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 14: Paper Presentation (2) (Media Class Realtime Live)

履修上の注意

Since every class proceeds using Power Point Slides.

準備学習（予習・復習等）の内容

Please read the content of each chapter following the syllabus. After class, please work on the assignments for each chapter as a review.

教科書

Business Analysis Valuation: Using Financial Statements, Krishna G. Palepu and Paul M. Healy 5th edition, 2013. South-Western College Publishing (ISBN-10: 1111972303/ISBN-13: 978-1111972302).

Earnings Management and Earnings Quality: Evidence from Japan, Masumi Nakashima, 2015, Hakuto Shobo Publishing (ISBN: 9784561362104)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.

成績評価の方法

Contribution to class: 15%, Assignment: 15%, Presentation: 20%, and Paper: 50%. No face-to-face testing is conducted.

その他

This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC536E			
グローバルコース系		備考	
科目名	Financial Statement Analysis B [M]		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 中島 真澄		

授業の概要・到達目標

This course provides a comprehensive framework for business analysis and valuation by using financial statement information. Students can learn not only the concepts and principles for evaluating a firm's financial performance and predicting its future economic condition but also tools for the financial statements analysis. Topics are covered: Strategy Analysis, Accounting Analysis, Financial Analysis, and Prospective Analysis. The goal is to understand the basic principles of fundamental analysis and to obtain skills and techniques to analyze the financial statements and determine the fundamental value.

授業内容

- Class 1: Prospective analysis: Valuation Implementation (Media Class Realtime Live)
 Class 2: Database Learning (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 3: Database Learning (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 4: Equity Security Analysis (Media Class Realtime Live)
 Class 5: Credit Analysis and Distress Prediction (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 6: Credit Analysis and Distress Prediction (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 7: Merger and Acquisitions (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 8: Merger and Acquisitions (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 9: Communication and Governance (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 10: Communication and Governance (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 11: Case Study (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 12: Case Study (2) (Media Class Realtime Live)
 Class 13: Paper Presentation (1) (Media Class Realtime Live)
 Class 14: Paper Presentation (2) (Media Class Realtime Live)

履修上の注意

Since every class proceeds using Power Point Slides.

準備学習（予習・復習等）の内容

Please read the content of each chapter following the syllabus. After class, please work on the assingment for each chapter as a review.

教科書

Business Analysis Valuation: Using Financial Statements, Krishna G. Palepu and Paul M. Healy 5th edition, 2013. South-Western College Publishing (ISBN-10: 1111972303|ISBN-13: 978-1111972301).

Earnings Management and Earnings Quality: Evidence from Japan, Masumi Nakashima, 2015, Hakuto Shobo Publishing (ISBN: 9784561362104)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.

成績評価の方法

Contribution to class: 15% , Assignment: 15% , Presentation: 20% , and Paper: 50% . No face-to-face testing is conducted.

その他

This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備考	
科目名	英語経営文献研究A		
開講期	春学期	単位	文2
担当者	兼任講師 松本 和明		

授業の概要・到達目標

経営学の研究者を志す、あるいはビジネスリサーチャーを目指すにあたり、大学院生時代に専門領域はもとより周辺領域も含めて経営学ないしビジネスに関する英文を講読さらに精読する経験を重ねることが必要かつ不可欠である。

本講では、特に経営史ないし企業論に関する文献を熟読ないし味読していくこととしたい。

本講の到達目標として、(1)経営学ないしビジネスに関する標準的レベルの英語文献を読み解くことができる、(2)専門領域内外の英語のリサーチスキルを身に付けることができる、(3)英文に対する苦手意識を一定程度払拭できる、以上3点を掲げておく。

授業内容

本講では、M.G.ブラックフォード著The Rise of Modern Business in Great Britain, the United States, and Japan (Second Edition, 1998)の主要箇所を講読していくこととしたい。

ブラックフォード氏は、オハイオ州立大学教授として国際比較経営史を担当していた。

同書はイギリス、アメリカおよび日本の経営発展と企業成長のプロセスを比較して論じたもので、多彩かつ行き届いた構成および緻密な内容となっている。英語レベルは初学者を考慮して標準的である。

講義時間が限られているため、特に日本経営史に関わる箇所を精読する。イギリスやアメリカについては適宜取り上げていきたい。

第1講 イントロダクション

第2講 松本が執筆した英語論文の講読(1)

第3講 松本が執筆した英語論文の講読(2)

第4講 松本が執筆した英語論文の講読(3)

第5講 Zaibatsu and Non-Zaibatsu Businesses in Industrializing Japan (1)

第6講 Zaibatsu and Non-Zaibatsu Businesses in Industrializing Japan (2)

第7講 Business in an Expanding International Economy, 1945-1973 (1)

第8講 Business in an Expanding International Economy, 1945-1973 (2)

第9講 Business in an Expanding International Economy, 1945-1973 (3)

第10講 Business in an Expanding International Economy, 1945-1973 (4)

第11講 Toward the Twenty-First Century (1)

第12講 Toward the Twenty-First Century (2)

第13講 Toward the Twenty-First Century (3)

第14講 Toward the Twenty-First Century (4)

履修上の注意

各回、予めレポーターを指名し、訳出してもらう。

その内容について参加者間でディスカッションをおこなう。松本が適宜フォローしていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

指名されたレポーターは訳出部分のレジメないし資料を作成すること。

レポーター以外も取り上げられる箇所を少なくとも一読はしておくこと。

「英文を学ぶ」というよりも「英文に学ぶ」との姿勢をもってもらいたい。

教科書

特に指定しない。講読箇所はコピーを配布したい。

参考書

安部悦生編著『グローバル企業』(文真堂, 2017年)

松本和明編著『渋沢栄一がめざした「地域」の持続的成長』(ミネルヴァ書房, 2023年)

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは適宜おこない、受講者と共有していく。

成績評価の方法

プレゼンテーション・ディスカッション50%・講義への参加意欲50%

その他

詳細についてはメールにて問い合わせされたい。

アドレス: matukazu@cc.kyoto-su.ac.jp

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	英語経営文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	兼任講師 松本 和明		

授業の概要・到達目標

経営学の研究者を志す、あるいはビジネスリサーチャーを目指すにあたり、大学院生時代に専門領域はもとより周辺領域も含めて経営学ないしビジネスに関する英文を講読さらに精読する経験を重ねることは必要かつ不可欠である。

本講では、春学期の「英語経営文献研究A」に引き続き、特に経営史ないし企業論に関する文献を熟読ないし味読していくこととしたい。

本講の到達目標として、(1) 経営学ないしビジネスに関する標準的レベルの英語文献を読み解くことができる、(2) 専門領域内外の英語のリサーチスキルを身に付けることができる、(3) 英文に対する苦手意識を一定程度払拭できる、以上3点を掲げておく。

授業内容

本講では、P.フリデンソン・橋川武郎編著Ethical Capitalism: Shibusawa Eiichi and Business Leadership in Global Perspective (University of Toronto Press, 2017)の主要論文を講読していくこととしたい。

同書は、「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一の企業者活動や社会貢献活動および理念・哲学をテーマに、日本をはじめアメリカ・イギリス・フランスを代表する経営史研究者により進められた共同研究の成果である。

近年、渋沢の企業家精神やフィランソロビーおよび経営ないし事業スタンスに対しては、日本以上に、欧米諸国や中国をはじめとするアジア諸国での関心が急速に高まっていることを指摘しておく。

講義時間が限られているため、主要論文を取り上げ、他については適宜その内容を補足していきたい。

- 第1講 イントロダクション
第2講 渋沢栄一の足跡と活動(松本による講義)(1)
第3講 渋沢栄一の足跡と活動(松本による講義)(2)
第4講 Shibusawa Eiichi's View of Business Morality in Global Society(1)
第5講 Shibusawa Eiichi's View of Business Morality in Global Society(2)
第6講 Shibusawa Eiichi's View of Business Morality in Global Society(3)
第7講 Gaponshugi in Global Perspective: Debating the Responsibility of Capitalism (1)
第8講 Gaponshugi in Global Perspective: Debating the Responsibility of Capitalism (2)
第9講 Gaponshugi in Global Perspective: Debating the Responsibility of Capitalism (3)
第10講 Harmony between Morality and Economy (1)
第11講 Harmony between Morality and Economy (2)
第12講 The Crisis of Capitalism and the Gaponshugi of Shibusawa (1)
第13講 The Crisis of Capitalism and the Gaponshugi of Shibusawa (2)
第14講 The Crisis of Capitalism and the Gaponshugi of Shibusawa (3)

履修上の注意

各回、予めレポーターを指名し、訳出してもらう。
その内容について参加者間でディスカッションをおこなう。松本が適宜フォローしていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

指名されたレポーターは訳出部分のレジюмеないし資料を作成すること。
レポーター以外も取り上げられる箇所を少なくとも一読はしておくこと。
「英文を学ぶ」というよりも「英文に学ぶ」との姿勢をもってもらいたい。

教科書

特に指定しない。講読箇所はコピーを配布したい。

参考書

安部悦生編著『グローバル企業』(文真堂、2017年)
松本和明編著『渋沢栄一がめざした「地域」の持続的成長』(ミネルヴァ書房、2023年)

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは適宜おこない、受講者と共有していく。

成績評価の方法

プレゼンテーション・ディスカッション50%・講義への参加意欲50%

その他

詳細についてはメールにて問い合わせされたい。
アドレス:matukazu@cc.kyoto-su.ac.jp

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	英語経営文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 唐澤 龍也		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本講義は、履修生が英語文献から広く経営学に関する知識を修得することを目的としている。政治・法律・経済・社会・文化的な現象を理解し、研究に役立つ気付きを得ることを目指している。具体的には以下の二点に集約される。

- (1)海外(英語圏)の経営学(経営戦略・マネジメント・マーケティング等)に関する著書・論文を取り上げる。
(2)履修生のリサーチエスチョン設定に役立つ理論フレーム・研究方法について紹介する。

〈到達目標〉

企業や組織等で活躍するグローバル人材の育成と将来の研究者の育成。

具体的には以下の3点に集約される。

- (1)経営学の国内外の重要な研究課題を理解する。
(2)演繹法的アプローチ(理論やフレームワーク)や帰納法的なアプローチ(現実・事実)の両面から問題の本質に迫る思考力を高める。
(3)リサーチエスチョン設定に役立つ理論フレーム・研究方法について応用することができる。

授業内容

国際経営に関する1980年代から始まったグローバル化(Globalization of Market)の文脈において、PANKAJ GHEMAWHTが提唱したセミ・グローバルゼーションという概念を基に、経営者が理解すべき国ごとに残る差異を文化・制度・地理・経済(CAGE)というフレームワークで考える。グローバル企業のマーケティング活動の世界標準化と現地適合理化の問題も併せて検討をする。

- 第1回:イントロダクション(本講義の概要とゴールイメージを共有する)。
第2回:(序章) Introduction (第1章) 1.Semiglobalization and Strategy
第3回:(第2章) 2.Differences Across Countries-The CAGE Distance Framework①
第4回:(第2章) 2.Differences Across Countries-The CAGE Distance Framework②
第5回:(第3章) 3.Global Value Creation- The Adding Value Scorecard①
第6回:(第3章) 3.Global Value Creation- The Adding Value Scorecard②
第7回:(第4章) 4.Adaptation-Adjusting to Differences①
第8回:(第4章) 4.Adaptation-Adjusting to Differences②
第9回:(第5章) 5.Aggregation -Overcoming Differences①
第10回:(第5章) 5.Aggregation -Overcoming Differences②
第11回:(第6章) 6.Arbitrage-Exploiting Differences①
第12回:(第6章) 6.Arbitrage-Exploiting Differences②
第13回:(第7章) 7.Playing the Differences- The AAA Triangle
第14回:(第8章) 8.Toward a Better Future- Getting Started and Summary
本講義の総括。

履修上の注意

教科書の予習は必須。報告者は各章の要約のみならず、新しい問題提起を心掛けること。
授業内でのディスカッションを活性化するために履修者はOh-ol Meijiにアップロードされたテキストの該当する章を読んでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習:対象となるテキストの該当ページを読み留意点や疑問点などを整理しておく。
復習:授業で議論された内容について、再度、検討を試みる。
この予習と復習の一連の反復作業によって、英語文献による経営学的知識の定着につながる。

教科書

PANKAJ GHEMAWHT (2007),*Redefining Global Strategy: Crossing Borders in a World Where Differences Still Matter*, Harvard Business School Press.
適宜、関連する資料を配布する。

参考書

パンガジ・ゲマワット著・望月衛訳(2009)『コークの味は国ごとに違うべきか』文藝春秋。
PANKAJ GHEMAWHT (2011),*World 3.0-Global Prosperity and How to Achieve it*, Harvard Business Review Press.
適宜、関連する資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

事前作成のレジюмеやリアクションペーパー等の課題等が出された場合は、個別に講評をOh-ol Meijiでフィードバックをする。

成績評価の方法

毎回の参加度(事前学習によるディスカッション等)60%、担当する各章要約・報告40%を総合的に評価する。

その他

授業に10分以上の遅刻は認められない。(正当な理由や交通機関の遅延証明書などがある場合は除く)

指導テーマ

経営学研究における現代的課題に関する英語文献を取り上げる。各自の先行研究レビューをはじめとする研究の方法の気付きになる理論や概念の提供を指導テーマとする。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	英語経営文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 唐澤 龍也		

授業の概要・到達目標

〔概要〕
本講義は、履修生が英語文献から広く経営学に関する知識を修得することを目的としている。政治・法律・経済・社会・文化的な現象を理解し、研究に役立つ気付きを得ることを目指している。具体的には以下の二点に集約される。
(1)海外(英語圏)の経営学(経営戦略・マネジメント・マーケティング等)に関する著書・論文を取り上げる。
(2)履修生のリサーチエッセション設定に役立つ理論フレーム・研究方法について紹介する。
〔到達目標〕
企業や組織等で活躍するグローバル人材の育成と将来の研究者の育成。
具体的には以下の3点に集約される。
(1)経営学の国外の重要な研究課題を理解する。
(2)演繹法のアプローチ(理論やフレームワーク)や帰納法的なアプローチ(現実・事実)の両面から問題の本質に迫る思考力を高める。
(3)リサーチエッセション設定に役立つ理論フレーム・研究方法について応用することができる。

授業内容

本講義は米国の高級スーパーチェーン「ホールフーズ(Whole Foods Market)の創業者であるジョン・マッキー 2014年の著書である Conscious Capitalism (『世界でいちばん大切にしたい会社 コンシャス・カンパニー』をテキストとして、近年話題となっている持続型社会の実現にも関係するステークホルダー志向の経営について学ぶ。従業員、取引先、株主(投資家)、顧客、地域コミュニティ、自然・環境といかにして調和するかを検討する。後半には海外のトップジャーナルの最優秀論文(the Best Paper)から、優れた事例研究について学ぶ。
第1回:イントロダクション(本講義の概要とゴールイメージを共有する)。
第2回:Conscious Capitalism Chapter 1
第3回:Conscious Capitalism Chapter 2
第4回:Conscious Capitalism Chapter 3
第5回:Conscious Capitalism Chapter 4
第6回:Conscious Capitalism Chapter 5
第7回:Conscious Capitalism Chapter 6
第8回:Conscious Capitalism Chapter 7
第9回:Conscious Capitalism Chapter 8
第10回:Conscious Capitalism Chapter 9
第11回:Conscious Capitalism Chapter 10 &11
第12回:Powman, D.A. et al. (2007) "Radical Change Accidentally: The Emergence and Application of Small Change," Academy of Management Journal, Vol.50, No.3, pp.515-543.
第13回:Elsbach,K.D. and Kramer,R.M. (2003) "Assessing Creativity In Hollywood Pitch meetings: Evidence for a Dual-Process Model of Creativity Judgements," Academy of Marketing Journal,Vol.46,No.3,pp.283-301.
第14回:Ferlie, E. et al. (2005) "The Nonspread of Innovations: The Mediating Role of Professionals," The Academy of Management Journal, Vol.48, No.1, pp.117-184.
本講義の総括。

履修上の注意

教科書の予習は必須。報告者は各章の要約のみならず、新しい問題提起を心掛けること。
授業内でのディスカッションを活性化するために履修者はアップロードされる教科書の該当箇所を読んでくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習:対象となるテキストの該当ページを読み、留意点や疑問点など整理しておく。
復習:授業で議論された内容について、再度、検討をしてみる。
この予習と復習の一連の反復作業によって、英語文献による経営学的知識の定着につながる。

教科書

Mackey, J. and Sisodia, R. (2007), Conscious Capitalism, Harvard Business Review Press.
The Academy of Management Journal.論文は適宜、関連する資料(PDF)を配布する。

参考書

ジョン・マッキー /ラジェンドラ・シソーディア著・野田稔・鈴木立哉訳(2014)『世界でいちばん大切にしたい会社 コンシャス・カンパニー』翔泳社。

課題に対するフィードバックの方法

事前作成のレジュメやアクションペーパー等の課題等が出された場合は、個別に講評をOh-of Meijiでフィードバックをする。

成績評価の方法

毎回の参加度(事前学習やディスカッション) 60%, 担当する各章要約40%を総合的に評価する。

その他

英語文献研究Aを受講していなくても、英語文献研究Bからの受講も歓迎します。

指導テーマ

経営学研究における現代的課題に関する英語文献を取り上げる。各自の研究での先行研究レビューをはじめとする方法論の気付きになる内容の提供を指導テーマとする。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	英語会計文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 建部 宏明		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕
わが国の原価計算理論は、これまでおもに外国文献に依拠して形成されてきた。わが国の土壌として、外国の新しい理論や技法をすばやく取り入れ、それをわが国のものとして同化形成していくこと(咀嚼)が行われてきたのであり、その外国文献が時には英米のそれであったり、またドイツのそれであったりした。近年、原価計算は管理会計の分野に含められて論じられることが多くなってきており、管理会計の1手法として領域区分や体系づけが進行中である。しかしながら、管理会計も学際的諸方法を取り込みながら拡大成長中であり、必ずしもそれ自体の性格づけ、領域設定が明確でないために、原価計算をうまく位置づけられない状態にある。こうした困難性に直面したとき、外国文献、すなわち原典に立ち戻ってこれを講読することはもう一回「原価計算とは何か」、「管理会計とは何か」を見つめ直すきっかけになろう。こうした問題意識を持って、英語会計文献を講読していきたい。教材は開講時に受講者と相談する予定であるが、英米の大学で教科書として広く用いられている管理会計(原価管理)の入門書を教材としたい。
〔到達目標〕
受講者に求める到達目標は、英語会計文献を読み、日本語に訳し、それを論文に生かせるようになることである。

授業内容

本講座では、英語圏で出版された会計文献を講読する。このとき、精読を基本とし、逐語訳に心掛け、文脈を確実に捉えることを目的とする。また、単に訳すだけではなく、よりこなれた日本語として翻訳することにも挑戦する。下記はEdward Blocher, David F. Stout, Paul Juras and Steven Smith, Cost Management : A Strategic Emphasis, 8th edition, McGraw Hill, 2018をテキストとした授業内容である。
第1回 この講座が目指すもの、半年間の展望
第2回 Chapter 3 基礎的な原価管理の概念(イントロダクション)
第3回 Chapter 3 原価、原価作用因、配賦
第4回 Chapter 3 製品およびサービスのための原価概念
第5回 Chapter 3 Chapter 3のサマリー
第6回 Chapter 4 個別原価計算における原価管理(イントロダクション)
第7回 Chapter 4 原価計算システム
第8回 Chapter 4 原価計算の戦略的な役割
第9回 Chapter 4 コスト・フロー
第10回 Chapter 4 原価計算における製造間接費の配賦
第11回 Chapter 4 プロジェクト原価計算
第12回 Chapter 4 Chapter 4のサマリー
第13回 Chapter 3 の練習問題
第14回 Chapter 4 の練習問題

履修上の注意

できれば、英語会計文献研究A, Bを連続して履修することが望ましい。A, Bとも同一教材を用いる予定であるが、Aは精読を中心とした英語会計文献研究、Bは速読を中心とした英語外国文献研究にするつもりである。選定した教材はかなり平易である。いずれにしても、受講者の積極的な参加によって講座を運営したいと考えているので、予習および復習は欠かすことができないであろう。
もちろん受講者の意向を重視した授業運営を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

〔準備学習〕講読書の内容は原価管理であるので、基礎知識を持っておくと良い。
〔予習〕授業進度に合わせて、教科書を事前に読んでくこと。
〔復習〕授業終了後、当該範囲を復習すること。

教科書

Edward Blocher, David F. Stout, Paul Juras and Steven Smith, Cost Management: A Strategic Emphasis, 8th edition, McGraw Hill, 2018.
仮に上記を挙げたが、開講時に受講者と相談の上決定する。

参考書

『英和・和英会計経理ハンディ辞典(第2版)』新井清光編集(中央経済社) 2000年。
『現代英和会計用語辞典(三訂版)』小川 洵, 山田庫平, 鎌田信夫(同文館出版) 2006年。

課題に対するフィードバックの方法

授業における受講者の英文和訳についてはその都度、コメントを行う。提出された課題レポートは添削・評価の上、返却する。

成績評価の方法

担当箇所の翻訳(70%), 授業への貢献(30%)などを中心とした総合評価である。
試験は実施しない。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備考	
科目名	英語会計文献研究B		
開講期	秋学期	単位	文2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 建部 宏明		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

本講座の基本的な講義コンセプトは前期の英語会計文献研究Aと同じであり、英語圏で出版された会計文献を講読する。しかしながら、英語会計文献研究Aでは精読を中心としたが、英語会計文献研究Bは速読に挑戦し、文脈を大まかに捉えるなども試みてみたい。また、章、節、項における概要を英文で作成してみたい。

なぜならば、速読により英文が扱えるようになれば、英文における段落の最初の文章はkey sentenceと呼ばれる、その段落の内容を表しているの、これをまとめていけば、章の英文概要を作成することができるからである。英語会計文献研究Aより若干高いレベルを狙いたい。

〔到達目標〕

受講者は英語会計文献を読み、よりこなれた日本語に訳し、それを論文に生かせるようになることを目指す。

授業内容

本講座では、英語圏で出版された会計文献を講読する。このとき、精読を基本とし、逐語訳に心掛け、文脈を確実に捉えることを目的とする。また、単に訳すだけではなく、よりこなれた日本語として翻訳することにも挑戦する。下記はEdward Blocher, David F. Stout, Paul Juras and Steven Smith, Cost Management : A Strategic Emphasis, 8th edition, McGraw Hill, 2018をテキストとした授業内容である。

- 第1回 この講座が目指すもの、半年間の展望
- 第2回 Chapter 1 原価管理と戦略(イントロダクション)
- 第3回 Chapter 1 管理会計と原価管理の役割
- 第4回 Chapter 1 現在の企業が置かれている環境
- 第5回 Chapter 1 原価管理の戦略的重点
- 第6回 Chapter 1 現在の管理技法
- 第7回 Chapter 1 いかにして企業は成功を収めるか
- 第8回 Chapter 1 競争戦略の策定
- 第9回 Chapter 1 原価管理の専門家
- 第10回 Chapter 1 Chapter 1のサマリー
- 第11回 Chapter 2 戦略の遂行(イントロダクション)
- 第12回 Chapter 2 SWOT分析
- 第13回 Chapter 2 価値連鎖分析
- 第14回 Chapter 2 BSCと戦略マップ

履修上の注意

できれば、英語会計文献研究A、Bを連続して履修することが望ましい。A、Bとも同一教材を用いる予定であるが、Aは精読を中心とした英語会計文献研究、Bは速読を中心とした英語外国文献研究にするつもりである。選定した教材はかなり平易である。いずれにしても、受講者の積極的な参加によって講座を運営したいと考えているので、予習および復習は欠かすことができないであろう。

もちろん受講者の意向を重視した授業運営を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

〔準備学習〕講読書の内容は原価管理であるので、基礎知識を持っておくと良い。

〔予習〕授業進度に合わせて、教科書を事前に読んでくること。

〔復習〕授業終了後、当該範囲を復習すること。

教科書

Edward Blocher, David F. Stout, Paul Juras and Steven Smith, Cost Management : A Strategic Emphasis, 8th edition, McGraw Hill, 2018.
仮に上記を挙げたが、開講時に受講者と相談の上決定する。

参考書

『英和・和英会計経理ハンディ辞典(第2版)』新井清光編集(中央経済社) 2000年。

『現代英和会計用語辞典(三訂版)』小川 洸, 山田庫平, 鎌田信夫(同文館出版) 2006年。

課題に対するフィードバックの方法

授業における受講者の英文和訳についてはその都度、コメントを行う。提出された課題レポートは添削・評価の上、返却する。

成績評価の方法

担当箇所の翻訳(70%)、授業への貢献など(30%)を中心とした総合評価である。

試験は実施しない。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備考	
科目名	英語会計文献研究A		
開講期	春学期	単位	文2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 蔣 飛鴻		

授業の概要・到達目標

財務会計をめぐる近年の動向は、取得原価主義会計から時価主義会計へ、あるいは費用・収益アプローチから資産・負債アプローチへと財務会計の基本的な枠組みが変化しつつある。また、社会的責任、環境会計、企業評価と無形資産価値など会計に関する新たな方法が模索されている。

この授業では、事前に配付した英文雑誌論文について、受講者による輪読および教員による補足的な説明を通じて、現行の財務会計システムの概要についての理解を図ることとする。それと同時に、優れた論文を読むことによって学術論文の形式や展開についても把握することにする。

授業内容

- 1回 イントロダクション
- 2回 The Internal and External Failure of Accounting (1)
- 3回 The Internal and External Failure of Accounting (2)
- 4回 The Internal and External Failure of Accounting (3) (Zoomによる)
- 5回 The Inadequacy of Traditional Accounting (1)
- 6回 The Inadequacy of Traditional Accounting (2) (Zoomによる)
- 7回 The Inadequacy of Traditional Accounting (3)
- 8回 Feedback Failures and the Need for a New Accounting(1) (Zoomによる)
- 9回 Feedback Failures and the Need for a New Accounting(2)
- 10回 Feedback Failures and the Need for a New Accounting(3) (Zoomによる)
- 11回 The Significance for Financial Reporting (1)
- 12回 The Significance for Financial Reporting (2) (Zoomによる)
- 13回 The Significance for Financial Reporting (3) (Zoomによる)
- 14回 期末レポートを提出し、同解説の時間を設ける (Zoomによる)

履修上の注意

積極的に授業に参加することを望む。

Zoomのリンク先は授業の初回にお知らせする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。また、次回の授業内容について、事前に調べておくこと。

教科書

テキストは使用しない。事前に資料を配付する。

参考書

適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席を前提に、授業中の発表と議論への貢献度(50%)、輪読文献に関するレポートの提出(50%)を総合評価する。

その他

具体的な進めかたについての説明を行うので、受講を予定している場合は、初回の授業に出席してほしい。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
外国語及び基礎経営・会計研究	備 考		
科 目 名	英語会計文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 蔣 飛鴻		

授業の概要・到達目標

財務会計をめぐる近年の動向は、取得原価主義会計から時価主義会計へ、あるいは費用・収益アプローチから資産・負債アプローチへと財務会計の基本的な枠組みが変化しつつある。また、社会的責任、環境会計、企業評価と無形資産価値など会計に関する新たな方法が模索されている。

この授業では、事前に配付した英文雑誌論文について、受講者による輪読および教員による補足的な説明を通じて、現行の財務会計システムの概要についての理解を図ることとする。それと同時に、優れた論文を読むことによって学術論文の形式や展開についても把握することにする。

授業内容

- 1 回 イントロダクション
- 2 回 The Internal and External Failure of Accounting (1)
- 3 回 The Internal and External Failure of Accounting (2)
- 4 回 The Internal and External Failure of Accounting (3) (Zoomによる)
- 5 回 The Inadequacy of Traditional Accounting (1)
- 6 回 The Inadequacy of Traditional Accounting (2) (Zoomによる)
- 7 回 The Inadequacy of Traditional Accounting (3)
- 8 回 Feedback Failures and the Need for a New Accounting(1) (Zoomによる)
- 9 回 Feedback Failures and the Need for a New Accounting(2)
- 10 回 Feedback Failures and the Need for a New Accounting(3) (Zoomによる)
- 11 回 The Significance for Financial Reporting (1)
- 12 回 The Significance for Financial Reporting (2) (Zoomによる)
- 13 回 The Significance for Financial Reporting (3) (Zoomによる)
- 14 回 期末レポートを提出し、同解説の時間を設ける (Zoomによる)

履修上の注意

積極的に授業に参加することを望む。
Zoomのリンク先は授業の初回にお知らせする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。また、次回の授業内容について、事前に調べておくこと。

教科書

テキストは使用しない。事前に資料を配付する。

参考書

適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席を前提に、授業中の発表と議論への貢献度(50%)、輪読文献に関するレポートの提出(50%)を総合評価する。

その他

具体的な進めかたについての説明を行うので、受講を予定している場合は、初回の授業に出席してほしい。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究	備 考		
科 目 名	ドイツ語経営文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授 博士(商学) 清水 一之		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

・講義のテーマ:最新のドイツ語論文を講読する。

Management; Grundlagen der Unternehmensführung Konzepte - Funktionen - Fallstudie, Hors tSteinmann, Georg Schreyogg, Jochen Kochを輪読する。

テキストは、コピーを配布予定。

〈到達目標〉

ドイツ語経営文献研究に必要なことは、文化の異なるドイツ語圏で活動する企業活動を理解するため、ドイツ語圏の文化や慣習等の理解を必要とすることがあるため、授業時間中に教科書の利用に留まらず、他の教材を用いて理解を深めます。

加えて、半期14回の講義の中で1/3程度はコロナ感染対策のためオンラインでの実施予定である。

授業内容

春学期の講義内容は、Management; Grundlagen der Unternehmensführung Konzepte - Funktionen - Fallstudie, Hors tSteinmann, Georg Schreyogg, Jochen Kochを輪読する。

第一回目の講義に置いて、訳の分担を決定します。そのため、2回目からは分担した部分をレジュメ形式にて発表することが求められます。翻訳箇所は、文法解説が加えられつつ内容が理解されます。(受講生に魅力的な講義にするため、テキストの変更もあります。)

〈春学期〉

第1回:オリエンテーション

第2回:Managementの輪読(分担者1番目)

第3回:Managementの輪読(分担者2番目)

第4回:Managementの輪読(分担者3番目)

第5回:Managementの輪読(分担者4番目)

第6回:Managementの輪読(分担者5番目)

第7回:Managementの輪読(分担者6番目)

第8回:Managementの輪読(分担者7番目)

第9回:Managementの輪読(分担者8番目)

第10回:Managementの輪読(分担者9番目)

第11回:Managementの輪読(分担者10番目)

第12回:Managementの輪読(分担者11番目)

第13回:Managementの輪読(分担者12番目)

第14回:確認テスト

履修上の注意

〈履修上の注意〉

履修学生は、時間遵守の出席そして講義ごとに割り当てられた分担箇所を翻訳することが求められます。毎時限の積極的な発言は、加点対象として評価します。加えて、講義への時間厳守の出席、並びに、配布されたテキストの予習と復習が不可欠になり、他の受講生の発表の際に積極的な発言が望まれます。

〈準備学習〉

講義中にコピーを配布予定。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の割り当て箇所以外の予習と復習。

教科書

ホースト・シュタインマン、ゲオルク・シュライエク、ヨッヘン・コッホ著、清水一之訳『ドイツのマネジメント学 概念—機能—事例研究』, SBIアクセス, 2019年

参考書

1. 風間信隆, 松田健著『実践に学ぶ経営学』, 文真堂, 2018年
2. 風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』, ミネルヴァ書房, 2019年
3. 久保広正, 海道ノブチカ著『EU経済の進展と企業・経営』(シリーズ激動期のEU第2巻), 勁草書房, 2013年。
4. 高橋俊夫監修『EU企業論—体制・戦略・社会性—』中央経済社, 2008年

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点に出席態度を加味します。

その他

講義に出席することなしには単位の修得は期待できません。講義をきちんと聴き、そこで得られた問題関心を自ら学習し深めるなかで、はじめて正確な知識と論理的思考能力を身に付けることができると考えられます。

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	ドイツ語経営文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授 博士(商学)	清水	一之

授業の概要・到達目標

〈概要〉

・講義のテーマ:最新のドイツ語論文を講読する。

Management; Grundlagen der Unternehmensführung Konzepte - Funktionen - Fallstudie, Hors tSteinmann, Georg Schreyogg, Jochen Kochを輪読する。

テキストは、コピーを配布予定。

〈到達目標〉

ドイツ語経営文献研究に必要なことは、文化の異なるドイツ語圏で活動する企業活動を理解するため、ドイツ語圏の文化や慣習等の理解を必要とすることがあるため、授業時間中に教科書の利用に留まらず、他の教材を用いて理解を深めます。

加えて、半期14回の講義の中で1/3程度はコロナ感染対策のためオンラインでの実施予定である。

授業内容

秋学期の講義内容は、Management; Grundlagen der Unternehmensführung Konzepte - Funktionen - Fallstudie, Hors tSteinmann, Georg Schreyogg, Jochen Kochを輪読する。

第一回目の講義に置いて、訳の分担を決定します。そのため、2回目からは分担した部分をレジュメ形式にて発表することが求められます。翻訳箇所は、文法解説が加えられつつ内容が理解されます。(受講生に魅力的な講義にするため、テキストの変更もあります。)

〈秋学期〉

第1回:オリエンテーション

第2回:Managementの輪読(分担者1番目)

第3回:Managementの輪読(分担者2番目)

第4回:Managementの輪読(分担者3番目)

第5回:Managementの輪読(分担者4番目)

第6回:Managementの輪読(分担者5番目)

第7回:Managementの輪読(分担者6番目)

第8回:Managementの輪読(分担者7番目)

第9回:Managementの輪読(分担者8番目)

第10回:Managementの輪読(分担者9番目)

第11回:Managementの輪読(分担者10番目)

第12回:Managementの輪読(分担者11番目)

第13回:Managementの輪読(分担者12番目)

第14回:確認テスト

履修上の注意

〈履修上の注意〉

履修学生は、時間遵守の出席そして講義ごとに割り当てられた分担箇所を翻訳することが求められます。毎時限の積極的な発言は、加対象として評価します。加えて、講義への時間厳守の出席、並びに、配布されたテキストの予習と復習が不可欠になり、他の受講生の発表の際に積極的な発言が望まれます。

〈準備学習〉

講義中にコピーを配布予定。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の割り当て箇所以外の予習と復習。

教科書

ホースト・シュタインマン、ゲオルク・シュライエク、ヨッヘン・コッホ著、清水一之訳『ドイツのマネジメント学 概念―機能―事例研究』, SBIアクセス, 2019年

参考書

1. 風間信隆, 松田健著『実践に学ぶ経営学』, 文真堂, 2018年
2. 風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』, ミネルヴァ書房, 2019年
3. 久保広正, 海道ノブチカ著『EU経済の進展と企業・経営』(シリーズ激動期のEU第2巻), 勁草書房, 2013年。
4. 高橋俊夫監修『EU企業論―体制・戦略・社会性―』中央経済社, 2008年

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点に出席態度を加味します。

その他

講義に出席することなしには単位の修得は期待できません。講義をきちんと聴き、そこで得られた問題関心を自ら学習し深めるなかで、はじめて正確な知識と論理的思考能力を身に付けることができると考えられます。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC551J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	ドイツ語会計文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	兼任教授 博士(商学)	千葉	修身

授業の概要・到達目標

ドイツの会計文献を研究することは、わが国の会計制度を比較考察するための視座を得るところに狙いがある。日本の会計制度研究は、当初はドイツ会計学を基礎としていたといっても過言ではない。その後、敗戦を得て、米国会計にその思想的基盤をシフトさせていくのであるが、会計制度上は現在でもなお、ドイツ会計の源流を認めることのできる箇所は少なくない。

また、ドイツの会計文献を読み解いていくことは、会計というものが、元来、法学、経済学、経営学、哲学と密接不可分の関係を保持している学際分野であることを認識する一助ともなる。

わが国では往々にして、会計といえば、いわゆる検定ないしは資格試験上のそれを想起するが、ドイツの会計文献の研究から、そうした狭い認識を打破していただくところにも、本講義の狙いがある。

なお、会計学に関するドイツ語文献を精読するとはいっても、ドイツ語の初修者を前提としている。したがって、当面の目標は、ドイツ語辞書(独和)を使用すれば会計学の専門文献を一定程度まで訳出・理解できるようになる点に置いている。

授業内容

第01回:イントロダクション―講義運営方針と成績評価―

第02回:ドイツ語雑誌の紹介

第03回:ドイツ語雑誌の調査

第04回:ドイツ語文献の検討

第05回:文献の訳出、初級文法の解説<1>

第06回:文献の訳出、初級文法の解説<2>

第07回:文献の訳出、初級文法の解説<3>

第08回:文献の訳出、初級文法の解説<4>

第09回:文献の訳出、初級文法の解説<5>

第10回:文献の訳出、初級文法の解説<6>

第11回:文献の訳出、初級文法の解説<7>

第12回:文献の訳出、初級文法の解説<8>

第13回:文献の訳出、初級文法の解説<9>

第14回:まとめ

履修上の注意

- (1) ドイツ語の辞書(独和)を駆使してドイツ語の会計文献の訳出に果敢に挑戦していくことから、受講者には同一の辞書(紙ベース)の使用を求める。当該辞書は初回の講義時に指定する。その後、可能な限り速やかに購入していただきたい。なお、初級文法についても、この辞書を活用して各自で習得していただくが、自学自習教材として、下記「参考書」欄に示した文法書の使用を求めたい。

- (2) 指定のドイツ語辞書(和独)およびドイツ語文法書は、毎回の授業時には忘れずに持参されたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

- (1) 春学期中は、予習は不要である。復習に重点を置くことが肝要である。
- (2) その上で、次回まで、疑問点を用意しておくことが望ましい。

教科書

Karl Hax, Die Substanzerhaltung der Betriebe, Westdeutscher Verlag: Koeln & Opladen, 1957.

参考書

- (a) 関口存男著、関口一郎改訂『関口・初等ドイツ語講座【上巻】【中巻】【下巻】』三修社。
- (b) 松本剛著『ドイツ商法会計用語辞典』森山書店。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間、レポート課題を求める。

その評価結果は、毎回、次の授業時間の冒頭に復習の時間を設け、解説する。

成績評価の方法

授業参加度(60%)と期末試験(40%)の結果を総合的に判断し、成績を評価する。なお、授業参加度の評定基礎としては、確認レポートを課し、その提出を12回程度求めることにしたい。同レポートは、1回につき5点満点で評価する。

〈計算例〉

・授業参加度(60点満点):12回分の合計が55点

・期末試験(40点満点):粗点が35点

・評価点:55点+35点=90点

その他

ドイツ語についての事前知識は不要である。丹念にドイツ語辞書を引く根気だけは要求される。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC551J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	ドイツ語会計文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	兼担教授 博士(商学)	千葉	修身

授業の概要・到達目標

ドイツの会計文献を研究することは、わが国の会計制度を比較考察するための視座を得るところに狙いがある。日本の会計制度研究は、当初はドイツ会計学を基礎としていたといっても過言ではない。その後、敗戦を得て、米国会計にその思想的基盤をシフトさせていくのであるが、会計制度上は現在でもなお、ドイツ会計の源流を認めることのできる箇所は少なくない。

また、ドイツの会計文献を読み解いていくことは、会計というものが、元来、法学、経済学、経営学、哲学と密接不可分の関係を保持している学際分野であることを認識する一助となる。

わが国では往々にして、会計といえば、いわゆる検定ないしは資格試験上のそれを想起するが、ドイツの会計文献の研究から、そうした狭い認識を打破していただくところにも、本講義の狙いがある。

なお、会計学に関するドイツ語文献を精読するとはいっても、ドイツ語の初修者を前提としている。したがって、当面の目標は、ドイツ語辞書(独和)を使用すれば会計学の専門文献を一定程度まで訳出・理解できるようになる点に置いている。

この「ドイツ語会計文献研究B」では、同「A」の研究内容を更に発展させるべく、ドイツ会計学説の内容解説を加えることにする。

授業内容

- 第01回:イントロダクション
- 第02回:ドイツ語単行本の紹介
- 第03回:ドイツ語単行本の調査
- 第04回:ドイツ語単行本の検討
- 第05回:文献の訳出、中級文法の解説<1>
- 第06回:文献の訳出、中級文法の解説<2>
- 第07回:文献の訳出、中級文法の解説<3>
- 第08回:文献の訳出、中級文法の解説<4>
- 第09回:文献の訳出、中級文法の解説<5>
- 第10回:文献の訳出、中級文法の解説<6>
- 第11回:文献の訳出、中級文法の解説<7>
- 第12回:文献の訳出、中級文法の解説<8>
- 第13回:文献の訳出、中級文法の解説<9>
- 第14回:まとめ

履修上の注意

- (1)ドイツ語の辞書(独和)を駆使してドイツ語の会計文献の訳出に果敢に挑戦していくことから、受講者には同一の辞書(紙ベース)の使用を求める。当該辞書は初回の講義時に指定する。その後、可能な限り速やかに購入していただきたい。なお、初級文法についても、この辞書を活用して各自で習得していただくが、自学自習教材として、下記「参考書」欄に示した文法書の使用を求めたい。
- (2)指定のドイツ語辞書(和独)およびドイツ語文法書は、毎回の授業時には忘れずに持参されたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

- (1)秋学期には、予習は必須である。復習に重点を置くことは春学期と同様であるが、その復習成果の確認を予習内容で判断したい。
- (2)この予習では、負担にならない程度の分量に限定する。
- (3)ドイツ語文献の内容によっては、わが国の研究者が公表している関連論文のレジュメ作成を求める場合がある。

教科書

Karl Hax, Die Substanzerhaltung der Betriebe, Westdeutscher Verlag, Koeln & Opladen, 1957.

参考書

- (a)関口存男著、関口一郎改訂「関口・初等ドイツ語講座【上巻】【中巻】【下巻】」三修社。
- (b)松本剛著『ドイツ商法会計用語辞典』森山書店。

課題に対するフィードバックの方法

- ・毎時間、レポート課題を求める。
- ・その評価結果は、毎回、次の授業時間の冒頭に復習の時間を設け、解説する。

成績評価の方法

授業参加度(60%)と期末試験(40%)の結果を総合的に判断し、成績を評価する。なお、授業参加度の評定基礎としては、確認レポートを課し、その提出を12回程度求めることにしたい。同レポートは、1回につき5点満点で評価する。

- 〈計算例〉
- ・授業参加度(60点満点):12回分の合計が55点
- ・期末試験(40点満点):粗点が35点
- ・評価点:55点+35点=90点

その他

秋学期は、中級文法のレベルを対象とするが、やはりドイツ語についての事前知識は不要である。丹念にドイツ語辞書を引く根気だけは要求される。

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	中国語経営文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授 経済学博士	郝	燕書

授業の概要・到達目標

企業制度、企業組織、雇用システム、生産システム、企業の技術形態、企業の経営戦略、人材育成等諸側面から、中国語の文献を精読しながら、東アジアの代表である日中韓企業の比較を行い、それぞれの共通点、相違点等を検討し、その具体的な内容を把握する。

授業内容

- 第1回:講義の概要を解説、院生の研究課題の把握
 - 第2回:日米独の企業管理の文献ム
 - 第3回:企業体制の国際比較の文献
 - 第4回:日本企業のシステムの文献
 - 第5回:中国企業のシステムの文献
 - 第6回:日中企業システムの比較の文献
 - 第7回:日本企業の人本主義システムの文献
 - 第8回:中国企業の人間主義システムの文献
 - 第9回:企業システムの人的側面の比較の文献
 - 第10回:日本企業の雇用システムの文献
 - 第11回:中国企業の雇用システムの文献
 - 第12回:日中企業の雇用システムの比較の文献
 - 第13回:日本企業の生産システムの文献
 - 第14回:中国企業の生産システムの文献
- *講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前予習・事後復習が不可欠である。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し開講時に決定する。

参考書

授業のときに指定し、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

討論参加・発表・レポートの状況など総合状況による評価。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究	備 考		
科 目 名	中国語経営文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授 経済学博士	郝 燕書	

授業の概要・到達目標

中国企業は改革・開放政策を実施して以降、国有企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式、技術を吸収し、習得することによって大きく変貌してきた。本文献研究では、中国語の文献を精読しながら、国有企業、民営企業、外資系企業等中国企業の事例を通じて、その管理方式の諸特質の共通点、相違点等を検討し、具体的な内容を把握する。

授業内容

第1回：講義の概要解説、院生の研究課題の把握
 第2回：企業体制の国際比較の文献
 第3回：中国企業の諸形態の文献
 第4回：中央国有企業の文献
 第5回：地方国有電機企業の文献
 第6回：新型国有自動車企業の文献
 第7回：政経一体民営企業の文献
 第8回：中小民営企業の文献
 第9回：外向型の民営企業の文献
 第10回：日系合併企業の文献
 第11回：日系独資企業の文献
 第12回：日系自動車企業の文献
 第13回：日系自動車部品企業の文献
 第14回：日系電機企業の文献
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前予習・事後復習が不可欠である。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し開講時に決定する。

参考書

授業のときに指定し、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

討論参加・発表・レポートの状況など総合状況による評価。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究	備 考		
科 目 名	日本語経営文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授 博士(商学)	清水 一之	

授業の概要・到達目標

本日本語文献研究は、Kazuyuki Shimizu, ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain, Springer, 2025(公刊予定)の各章日本語訳を輪読することを目的とする。

輪読資料は各講義前に担当者が配布する。

また、文献の精読を通じて、「欧州におけるイノベーションとテクノロジー：ESG投資、Industrie 4.0、そしてBlockchain」(来年度出版予定)を構成する各章を精査する。

授業内容

【前期】

第1回 ガイダンス／問題設定
 本講義の目的、分析枠組み、評価方法を説明する。
 第2回 ヨーロッパ経営学の発展：「ドイツ自動車産業のイノベーションとESG投資（経営論集）」
 第3回 Pricing Game
 第4回 EUの歴史・経済①
 第5回 Smart Factory or Smart Car? — The concept of IoT usability (1)
 第6回 Smart Factory or Smart Car? — The concept of IoT usability (2)
 第7回 EUの経済・通貨統合①
 第8回 Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System
 第9回 EUの経済モデルとEU企業・ヨーロッパ企業論：SE（欧州会社）
 第10回 Social Responsibility of Online Charge-Free Services Providers
 第11回 A Cybernetic Approach to Stakeholder Governance
 第12回 Governing “Invisible Hand” by Cybernetics Approach: Understanding Adam Smith’s Legacy
 第13回 Strategic Governance in the United States of Europe (USE): A Case Study of Volkswagen
 第14回 Value and Blockchain

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義では、配付レジュメの関連書籍を事前に読み、論点や不明点を整理する。学生同士の簡単な意見交換や関連資料による補足的な下調べを行い、授業内容を振り返った上で疑問点は授業で質問すること。あわせて次回講義のレジュメ・参考書に目を通す。準備学習時間は1回45分程度を目安とする。

教科書

Kazuyuki Shimizu “ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain”, Springer, 2025. (公刊予定)

参考書

『ドイツのマネジメント学』Horst Steinmann, Georg Schreyogg, Jochen Koch 著、清水一之翻訳。2019年4月出版。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価は原則として講義内においてフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価は原則として講義出席及び講義内議論、発言（100%）で判断する。詳しくは初回授業において明示する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	日本語経営文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授 博士(商学) 清水 一之		

授業の概要・到達目標

本日本語文献研究は、Kazuyuki Shimizu, ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain, Springer, 2025 (公刊予定)の各章日本語訳を輪読することを目的とする。

輪読資料は各講義前に担当者が配布する。

また、文献の精読を通じて、「欧州におけるイノベーションとテクノロジー：ESG投資、Industrie 4.0、そしてBlockchain」を構成する各章を精査する。

授業内容

【後期】

- 第1回(後期第1回) オリエンテーション：本講義の概要
講義の目的、分析枠組み、評価方法を説明する。
- 第2回 ESG投資の理論的基礎：
Comply or Explain のジレンマとSRI・ESGの方法論
- 第3回 ESG投資の展開 ②
- 第4回 Industrie 4.0: デジタル技術と生産・組織の再編
- 第5回 Blockchain and Biometrics Authorization:
What We Actually Count Truly Counts?
- 第6回 Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity
and Corporate Governance:
The Case of Merck KGaA and Merck & Co. ①
- 第7回 Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity
and Corporate Governance:
The Case of Merck KGaA and Merck & Co. ②
- 第8回 EUと企業の社会性 ― ドイツ化学産業を中心に
- 第9回 Technological Development in Automotive Industry
and Transformation in Corporate Governance System
- 第10回 The process of value transformation due to the
countervailing power of DAO by AI
- 第11回 Bullshit Blockchain Mining?
- 第12回 Digital transformation of work and ESG:
Perspectives on monopoly and fair trade
- 第13回 The countervailing power of AI DAOs influences
value transformation;
Bitcoin (POW) vs. Ethereum (POS)
- 第14回 総括：Designing Time: ESG Investment, Blockchain,
and the Convergence of Mobility and Energy
in the Digital Era

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

本講義では、配付レジュメの関連書籍を事前に読み、論点や不明点を整理する。学生同士の簡単な意見交換や関連資料による補足的な下調べを行い、授業内容を振り返った上で疑問点は授業で質問すること。あわせて次回講義のレジュメ・参考書に目を通す。準備学習時間は1回45分程度を目安とする。

教科書

Kazuyuki Shimizu "ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain", Springer, 2025. (公刊予定)

参考書

『ドイツのマネジメント学』Horst Steinmann, Georg Schreyogg, Jochen Koch著, 清水一之翻訳。2019年4月出版。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価は原則として講義内においてフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価は原則として講義出席及び講義内議論、発言(100%)で判断する。詳しくは初回授業において明示する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	日本語会計文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

企業会計には大別して財務会計と管理会計という領域があるが、投資家や債権者などの企業外部の利害関係者に財務諸表等を通して情報を提供する財務会計に比べると、企業経営を行う経営者や管理者の意思決定や業績管理などに役立つ情報を提供する管理会計は知名度が低い。しかしながら、企業経営において管理会計は不可欠であり、それが企業の盛衰を左右することもある。そのような管理会計がどのような会計システムであるかを、管理会計に関する入門的な日本語文献を精読しながら理解する。

〈到達目標〉

本授業では、日本語の辞書を使用すれば、当該専門文献の内容と専門用語を理解できるようになることを目標とする。

授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション
- 第2回 管理会計は経営システムの要
- 第3回 利益とは何なのか
- 第4回 勘定あって、銭足らず
- 第5回 どの組織単位の業績を、何で図るか
- 第6回 原価計算がもたらす情報と歪み
- 第7回 事業部の利益計算はむづかしい
- 第8回 「ついつい」の資産増加を防ぐには
- 第9回 予算管理のウソ・マコト
- 第10回 投資採算計算の方法と落とし穴
- 第11回 研究開発管理システムの「最適なゆるさ」とは？
- 第12回 多様な影響システムー管理会計を超えてー
- 第13回 なぜ人は測定されると行動を変えるのか
- 第14回 会計を武器にする経営・まとめ

履修上の注意

日本語を母国語とする学生は履修できない。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は、事前に指定された範囲のテキストを読み、全体的な内容を理解するとともに専門用語の把握に努め、当該範囲を要約したレポートをWordを用いて作成し提出すること。復習として、教科書の該当箇所を再読すること。

教科書

『現場が動き出す会計』伊丹敬之・青木康晴(日本経済新聞出版社)

参考書

必要に応じて授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

レポート内容(50%)および授業への貢献度(50%)により総合的に評価する。

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	日本語会計文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

企業会計には大別して財務会計と管理会計という領域があるが、投資家や債権者などの企業外部の利害関係者に財務諸表等を通して情報を提供する財務会計に比べると、企業経営を行う経営者や管理者の意思決定や業績管理などに役立つ情報を提供する管理会計は知名度が低い。しかしながら、企業経営において管理会計は不可欠であり、それが企業の盛衰を左右することもある。そのような管理会計がどのような会計システムであるかを、管理会計に関する発展的な日本語文献を精読しながら理解する。

〈到達目標〉

本授業では、日本語の辞書を使用すれば、当該専門文献の内容と専門用語を理解できるようになることを目標とする。

授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション
- 第2回 マネジメントコントロールと組織構造
- 第3回 マネジメントコントロールとは何か
- 第4回 組織構造の設計
- 第5回 業績指標と責任センター
- 第6回 責任センターの設定
- 第7回 プロフィットセンターの管理会計
- 第8回 投資センターの管理会計
- 第9回 業績目標とインセンティブ、企業理念
- 第10回 業績目標の設定
- 第11回 業績評価とインセンティブ
- 第12回 マネジメントコントロールにおける企業理念の役割
- 第13回 競争力の源泉としてのマネジメントコントロール
- 第14回 まとめ

履修上の注意

日本語を母国語とする学生は履修できない。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修者は、事前に指定された範囲のテキストを読み、全体的な内容を理解するとともに専門用語の把握に努め、当該範囲を要約したレポートをWordを用いて作成し提出すること。復習として、教科書の該当箇所を再読すること。

教科書

『組織行動の会計学：マネジメントコントロールの理論と実践』青木康晴(中央経済社)

参考書

必要に応じて授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

レポート内容(50%)および授業への貢献度(50%)により総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACD526E			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	アカデミックプレゼンテーション研究A〔M〕		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

This course provides students with the knowledge and skills to conduct research. Students will be given guidance in developing a good thesis and publications through critical literature review, writing to the required format, structure and steps. All the necessary skills will be taught through hands-on preparation and actual preparation academic writing.

授業内容

THIS COURSE IS PROVIDED AS AN ONLINE MEDIA-BASED (REAL TIME DELIVERY TYPE)

1. Types of academic research communication (thesis/publications)
2. The five chapter format of writing (Introduction, Literature Review, Methodology, Results and Analysis, and Conclusions)
3. Developing the introduction chapter of report
4. Formulating problem statement, research questions and objectives
5. **Progress Presentation I**
6. Conducting a literature review
7. Preparing a good literature review.
8. Presenting and writing the literature review
9. **Progress Presentation II**
10. Determining the research methodologies
11. Qualitative and quantitative research methods
12. Presenting results and the findings chapter
13. Correct referencing, and format of Tables, Figures, etc. in a report.
14. **Final Presentation**

履修上の注意

This course is open to students doing research Master and PhD courses. The course will be given mainly in English with Japanese when needed. Students with little English background are also welcomed to join this class. Students will discuss and present the development of his or her research idea thorough out the semester. Assistance will be given to achieve the research goals.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course will be conducted in both Japanese and English. Class will have active participation and discussions.

教科書

1. Halyna M. Kornuta, and Ron W. Germaine, A Concise Guide to Writing a Thesis or Dissertation Educational Research and Beyond, Second Edition, 2019, Routledge Taylor and Francis.

参考書

1. Sekaran, Uma, Bougie, Roger, (2016), Research methods for business : a skill-building approach, Seventh edition, John Wiley & Sons

課題に対するフィードバックの方法

Discussions and Verbal Feedback After Progress Presentations

成績評価の方法

Presentations - 30%
Class Participation/Discussions - 30%
Proposed Summary of Research Topic - 40%
Total 100%

その他

The instructor may make changes to the syllabus if necessary if circumstances require the changes. Any changes made will be discussed with all the students.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACD526E			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	アカデミックプレゼンテーション研究B〔M〕		
開 講 期	秋学期	単 位	講 2
担 当 者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

This course will provide students with the knowledge and skills on planning, preparing and conducting good verbal academic talk and presentations. Students will be guided to deliver effective presentations for both academic and real business environment. Students will be given opportunity to actively participate in many class activities and discussions.

授業内容

THIS COURSE IS PROVIDED AS AN ONLINE MEDIA-BASED (REAL TIME DELIVERY TYPE)

1. Introduction to Public Speaking and Ethics
2. What are characteristics of excellent speaking and listening skills
3. How to select a topic and decide the purpose of presentation
4. How to understand the audience
5. How to gather materials and organize the body of talk/presentation
6. How to begin and end the talk
7. **Mid Term Presentation and Evaluation**
8. What and how to do outline of talk
9. How to effectively use the language in the talk
10. How to deliver the talk that gives impact
11. How to prepare visual aids, images, video to improve talk
12. What are the techniques of speaking that informs
13. What and how to present talk to persuade such as grants, competition, conference.
14. **Final presentation and Evaluation**

履修上の注意

This course is open to students doing research for Master and PhD courses. The course will be given both in Japanese and English and students with some English background are encouraged to attend this class. Students will discuss and present their ideas throughout the semester.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course will be conducted in both Japanese and English. Class will have continuous participation and discussions.

教科書

1. Stephen Lucas (2015), The Art of Public Speaking, 12th edition, McGraw Hill

参考書

1. Mark Saunders, Philip Lewis and Adrian Thornhill, (2016), Research Methods for Business Students, Seventh edition, Pearson Education Limited.

課題に対するフィードバックの方法

Discussions and Feedback During Classes

成績評価の方法

1. Mid term Presentation - 30%
2. Class Discussions and Participation - 30%
3. Final Presentation - 40%
4. Total - 100%

その他

The instructor can make changes to the syllabus if needed after discussions with students. Any changes made will be announced in advanced.

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACD521E			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	アカデミック・プレゼンテーション研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Publishing the outcomes of research in reputable international journals (usually written in English) is a separate skill to writing a dissertation or thesis. This module will guide students through the process of developing their research ideas in the context of the international research literature, writing to the accepted standard of structure and referencing. It will also cover the related topics of how to present such research at a conference, how to chair a conference session, and how to review others' papers. By the end of the second module (Pragmatics of Academic Communication (B)) successful students will have written a paper suitable for submission to a reputable international journal.

授業内容

- 1 : Overview: Getting Started - Three Projects in One
- 2 : Presentation Skills: Slides, Notes, Verbal Elements, Physical Elements, Chairing
- 3 : Building and Maintaining a Bibliography Database
- 4 : Identifying Relevant Papers
- 5 : How to read journal articles
- 6 : Taking notes on a body of literature
- 7 : Problem Consciousness - Significance
- 8 : Problem Consciousness - formulating researchable issues and research questions
- 9 : Problem Consciousness - Indicating a strategy
- 10 : Problem Consciousness - Bringing it all together and planning research
- 11 : Writing a literature review
- 12 : Extended Presentations session I
- 13 : Extended Presentations session II
- 14 : Identifying target journals

履修上の注意

This course is available ONLY to students in Year 2 or above of Masters or PhD courses, who have already undertaken significant research work, which they and their dissertation supervisors believe is suitable to be written up in English for submission to an international journal.

The course will be given in English. The course is NOT an English language skills improvement class.

Students will be expected to make weekly class presentations on their progress.

準備学習（予習・復習等）の内容

The course will be given in English. The course is NOT an English language skills improvement class.

Students will be expected to make weekly class presentations on their progress.

教科書

- ・Cohen, J. & Medley, G. *Stop working & start thinking: a guide to becoming a scientist*. Taylor & Francis US, 2005.
- ・Gilbert, N. *From Postgraduate to Social Scientist: A Guide to key Skills*. Sage, 2006.
- ・Harris, A. & Tyner-Mullings, A. R. *Writing for Emerging Sociologists* Sage Publications 2013

参考書

TBA

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on verbal presentations will be given in class immediately following the presentations.

Verbal and written feedback on written materials will be given in class, and for the final report written feedback will be sent by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail
Presentations: 15%
Written Reports: 85%

その他

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) ACD521E			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	アカデミック・プレゼンテーション研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 Ph.D. Andrew Alexander ADAMS		

授業の概要・到達目標

Publishing the outcomes of research in reputable international journals (usually written in English) is a separate skill to writing a dissertation or thesis. This module will guide students through the process of developing their research ideas in the context of the international research literature, writing to the accepted standard of structure and referencing. It will also cover the related topics of how to present such research at a conference, how to chair a conference session, and how to review others' papers. By the end of the second module (Pragmatics of Academic Communication (B)) successful students will have written a paper suitable for submission to a reputable international journal.

授業内容

- 1 : Writing methodology descriptions
- 2 : Critiquing others work
- 3 : Extended Presentations session I
- 4 : Extended Presentations session II
- 5 : Presenting Findings I
- 6 : Presenting Findings II
- 7 : Writing introductions
- 8 : Writing conclusions
- 9 : Writing abstracts
- 10 : Extended Presentations session I
- 11 : Extended Presentations session II
- 12 : Peer critique session
- 13 : Submission and review processes
- 14 : Post-review revision

履修上の注意

This course is available ONLY to students in Year 2 or above of Masters or PhD courses, who have already undertaken significant research work, which they and their dissertation supervisors believe is suitable to be written up in English for submission to an international journal. This course is only available to students who have successfully completed Academic Presentation A with this lecturer.

The course will be given in English. The course is NOT an English language skills improvement class.

Students will be expected to make weekly class presentations on their progress.

準備学習（予習・復習等）の内容

The course will be given in English. The course is NOT an English language skills improvement class.

Students will be expected to make weekly class presentations on their progress.

教科書

- ・Cohen, J. & Medley, G. *Stop working & start thinking: a guide to becoming a scientist*. Taylor & Francis US, 2005.
- ・Gilbert, N. *From Postgraduate to Social Scientist: A Guide to key Skills*. Sage, 2006.
- ・Harris, A. & Tyner-Mullings, A. R. *Writing for Emerging Sociologists* Sage Publications 2013

参考書

See the module handout for a list of reference materials for each session.

課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in class.
Verbal feedback on written material will be given in class.
Written feedback on the final report will be sent by email.

成績評価の方法

90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail
Presentations: 15%
Written Reports: 85%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	経営学研究方法特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	特任教授 経済学博士 新宅 純二郎		

授業の概要・到達目標

経営学の研究において、定性的研究の方法論について、2冊の本を教科書として学んでいく。前半の教科書『経営学研究法』では、Field-Based Research Method (FBRM) など、実証研究を進めるための方法論と基本的な考え方を学ぶ。後半の教科書『ブラックスワンの経営学』は、優れたケース論文の方法論とその意義について、英文学術雑誌に掲載された論文を解説したものであるが、授業では英語のオリジナル論文を読む。修士論文、博士論文を定性的方法論で執筆するための基礎を身に付けることが目標である。

授業内容

- 初 回 ガイダンス
- 第 1 回 実証研究の方法論：Field-Based Research Method (FBRM) (a1章)
- 第 2 回 創発的研究の事例 (a3章)
- 第 3 回 理論と現象の往来による多様な研究の展開 (a4章)
- 第 4 回 研究テーマの見極め (a7章)
- 第 5 回 世界観の作り方 (a8章)
- 第 6 回 研究と教育の両立 (a9章)
- 第 7 回 因果関係を解き明かす事例研究の力 (b1章)
- 第 8 回 通説を覆した「たった1つの事例」 (b2章)
- 第 9 回 脅威に直面したときの「慣性の法則」 (b3章)
- 第10回 無意識に行われている「2つの判断プロセス」 (b4章)
- 第11回 専門家集団を遮る「見えない壁」 (b5章)
- 第12回 売り手と買い手の「信頼」の非対称性 (b6章)
- 第13回 ビジネスの実務に役立つ事例研究の方法 (b7章)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、授業で扱う部分について、全員がレジュメを提出し、学期中2回程度発表すること。
教科書bについては毎回、該当する英文論文も読んでくること。

教科書

- a) 藤本・高橋・新宅・阿部・粕谷『経営学研究法』有斐閣、2005年。
b) 井上達彦『ブラックスワンの経営学』日経BP、2014年。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックする。

成績評価の方法

提出されたレジュメ、発表、出席など、平常点で総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	経営学研究方法特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	特任教授 経済学博士 新宅 純二郎		

授業の概要・到達目標

前半では、経営学におけるケース研究の方法論について主要な論文を読みながら学んでいく。後半では、受講者が自身を取り組んでいる研究（過去の研究、現在進行形の研究、準備中の研究）について、①過去の主要な関連研究となる英文論文の紹介、②過去の研究のレビュー、③自身の研究プロポーザルなどを発表し、コメントしていく。①、②、③のいずれに重点を置くかは、参加者のレベルや人数によって決める。優れた研究プロポーザルを完成することが到達目標である。

授業内容

- 初 回 ガイダンス
- 第 1 回 ケース・スタディ方法論
- 第 2 回 ケース研究による理論構築
- 第 3 回 科学的ケース研究の要件
- 第 4 回 リサーチクエスションの立て方
- 第 5 回 フィールドスタディの準備
- 第 6 回 関連研究論文の紹介
- 第 7 回 関連研究論文の紹介
- 第 8 回 関連研究論文の紹介
- 第 9 回 研究レビューの発表
- 第10回 研究レビューの発表
- 第11回 研究レビューの発表
- 第12回 リサーチ・プロポーザルの発表
- 第13回 リサーチ・プロポーザルの発表
- 第14回 リサーチ・プロポーザルの発表

履修上の注意

春学期の「経営学研究方法特論A」の応用的な授業なので、春学期の授業を履修していることが強く望まれる。また、後半で自分の研究プロポーザルを発表してもらうので、その準備のない者は受講資格がない。

準備学習（予習・復習等）の内容

前半は論文を読んでレジュメを提出、発表することが受講者の義務である。
後半は、自分の研究プロポーザルを発表してもらう。

教科書

横澤公道, 辺成祐, & 向井悠一朗. (2013). ケース・スタディ方法論: どのアプローチを選ぶか 経営学輪講. Glaser and Strauss (1967), Yin (1984), Eisenhardt (1989a) の比較分析. 赤門マネジメント・レビュー, 12(1), 41-68.
Eisenhardt, K. M. (1989). Building theories from case study research. *Academy of management review*, 14(4), 532-550.
金熙珍. (2016). 科学的ケース・スタディの要件 IB トップ 3 ジャーナル掲載論文からの帰納的探求. *国際ビジネス研究*, 8(2), 37-50.
大木清弘. (2016). 筋が悪いリサーチクエスションとは何か? 経営学分野の学術論文作成のための手引き. 赤門マネジメント・レビュー, 15(10), 509-522.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の中でフィードバックする。

成績評価の方法

提出されたレジュメ、発表、出席など、平常点で総合的に評価する。

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN596E			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	経営学研究方法特論A〔M〕		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	特任教授 博士 (経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

Social science research (also called social research) has gained popularity today as an integral part of learning and teaching in universities located across the globe. Obviously, social science research is interdisciplinary in its character, so it requires social science researchers to associate themselves closely with a multitude of sources of the literature that range from journal articles to books to many other sources of existing knowledge. This course is about how to utilize these sources of the literature for scientific communication whilst observing tenaciously ethical principles of conducting, writing, and publishing social science research. Quintessentially, it purports to bring to the foreground academic writing skills and ethics of conceptualizing, designing, conducting, and writing social science research for the orderly production and dissemination of new/original knowledge. As such learning partners (students) from any social science, in the broadest sense, may benefit from taking this course. This course progresses through getting learning partners engaged actively in doing hands-on exercises of numerous aspects of academic writing in the classroom. They will be provided with only a basic knowledge of the art and skill of academic writing. Also, they are encouraged a great deal to apply rigorously this knowledge and skills whilst adhering to the guidelines elaborated in the seventh edition of Publication Manual of the American Psychological Association (APA-style). At the end of this course, learning partners will be able to:
a) explain how to benefit from a multiple sources of the literature
b) identify major academic writing skills
c) recognize the vitality of observing tenaciously ethics in research and academic writing
d) assemble basics of APA-style referencing system for producing a thesis/ research report.

授業内容

The mode of delivery of this course will be in the form of a media-based class. Thus, all class meetings will be conducted by using Zoom Video-conferencing Technology.
Session 1 What social science research is all about: The nature and process (focusing on qualitative research)
Session 2 Social science research designs and research strategies
Session 3 Ethical rigor of social science research
Session 4 Review of the literature
Session 5 Formulating a research issue: Spotting gaps, questions, and objectives of the study
Session 6 Avoiding plagiarism in academic writing
Session 7 Ethical academic writing for scientific communication: Paraphrasing, synthesizing, and quoting 1
Session 8 Hands-on exercises on identifying sources of the literature, paraphrasing, synthesizing, and quoting 2
Session 9 Hands-on exercises on paraphrasing, synthesizing, and quoting 3
Session 10 Hands-on exercises on paraphrasing, synthesizing, and quoting 4
Session 11 Placing in-text citations and compiling the list of references/bibliography: Hands-on exercises 5
Session 12 Writing review of the literature: Components, structuring, and signposting
Session 13 Presentations of preliminary review of the literature and the list of references/bibliography
Session 14 Reflections and course wrap up

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s.
Learning partners could select freely this course, depending on their current learning needs, interests, and future plans. They are welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.
Learning and teaching methods: Short lectures, journal article-based discussions, hands-on exercises on academic writing in the classroom, short presentations by learning partners on selected topics, and reflective learning through interactive discussions
Note: Active participation and engagement in classroom meetings offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills in a friendly environment. This is in addition to them acquiring academic writing skills for scientific communication.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course creates a platform for learning partners to acquire hands-on academic writing skills using APA-style (based on the seventh edition of the Publication Manual of the American Psychological Association). All prospective learning partners are, thus, advised in advance to keep a copy of this publication manual handy as and when they participate in classroom meetings.

教科書

There is no specific textbook recommended for this course. Instead, learning partners are encouraged to read the latest edition of textbooks on social science research, academic writing, and ethics of conducting social science research.
Furthermore, they are required to be familiar with academic journals of their own choice that are indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI)/Science Citation Index Expanded (SCIE)/Emerging Sources Citation Index (ESCI)/Arts and Humanities Citation Index (AHCI). These indices are available in the Web of Science Group Master Journal List.

参考書

Aguinis, H., & Henle, C. A. (2002). Ethics in research. In S. G. Rogelberg (Ed.), *Handbook of research methods in industrial and organizational psychology* (pp. 34-56). Blackwell Publishers.
Alvesson, M., & Deetz, S. (2021). *Doing critical research*. SAGE Publications Ltd.
American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.). <https://doi.org/10.1037/000165-000>
Creswell, J. W., & Poth, C. N. (2018). *Qualitative inquiry & research design: Choosing among five approaches* (4th ed.). SAGE Publications, Inc.
Hamp-Lyons, L., & Courter, K. B. (1984). *Research matters*. Newbury House.
Rocco, T. S., & Plakhotnik, M. S. (2009). Literature reviews, conceptual frameworks, and theoretical frameworks: Terms, functions, and distinctions. *Human Resource Development Review*, 8(1), 120-130.
Sandberg, J., & Alvesson, M. (2011). Ways of constructing research questions: gap-spotting or problematization? *Organization*, 18 (1), 23-44. doi: 10.1177/1350508410372151
Saunders, M., Lewis, P., & Thornhill, A. (2016). *Research methods for business students* (7th ed.). Pearson Education Limited.
Sekaran, U., & Bougie, R. (2016). *Research methods for business: A skill-building approach* (7th ed.). John Wiley & Sons Ltd.
Siddaway, A. P., Wood, A. M., & Hedges, L. V. (2019). How to do a systematic review: A best practice guide for conducting and reporting narrative reviews, meta-analyses, and meta-syntheses. *Annual Review of Psychology*, 70, 91-924.
Stake, R. E. (1995). *The art of case study research*. Sage Publications, Inc.
Uyangoda, J. (2010). *Writing research proposals in the social sciences and humanities: A theoretical and practical guide*. Social Scientists' Association.
Yin, R. K. (2018). *Case study research and applications: Design and methods* (6th ed.). Sage Publications, Inc.

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *kaisei*-oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

a) Active participation and engagement in classroom meetings—70%
b) Preliminary review of the literature and compilation of the list of references/bibliography, i.e. written output and oral presentations—30%
No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together for producing and disseminating new knowledge whilst embracing profoundly ethics in research and academic writing for scientific communications.
Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.
This faculty member is reachable at msaman62@meiji.ac.jp

博士前期課程

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN596E			
外国語及び基礎経営・会計研究	備 考		
科 目 名	経営学研究方法特論B〔M〕		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	特任教授 博士 (経済学) Dassanayake Mudiyansele SAMAN		

授業の概要・到達目標

This is a continuation of Research Methods of Management A. The aim of this course is to provide learning partners (students) with a deeper knowledge and understanding of academic writing for scientific communication and ethical considerations of producing and disseminating scientific knowledge. By and large, the emphasis is given to help them with acquiring further skills required for reviewing journal articles, writing a review of the literature, developing a research proposal, and compiling a list of references/bibliography using the latest edition (seventh edition) available of the Publication Manual of the American Psychological Association (APA-style). The common thread which runs across all these areas of emphasis is building awareness in learning partners on how to become an ethically driven social science researcher for conducting scientific communication that may take the form of a thesis, dissertation, or research paper, to name a few. This course may benefit learning partners irrespective of their major area of social science chosen for conducting research as social science research itself is interdisciplinary in its character.

At the end of this course, learning partners will be able to:
a) execute a wide array of academic writing skills required for producing a research proposal and thesis/research report
b) recognize the vital and decisive role played by ethics in building the academic rigor of social science research and establishing the credibility and integrity of a social science researcher
c) assemble basics of APA-style referencing system for producing a thesis/research report.

授業内容

The mode of delivery of this course will be in the form of a media-based class. Thus, all class meetings will be conducted by using Zoom Video-conferencing Technology.

Session 1 What social science research is all about: A cursory glance through fundamentals 1
Session 2 What social science research is all about: A cursory glance through fundamentals 2
Session 3 Ethics and social science research: Major areas of concern 1
Session 4 Ethics and social science research: Practical applications in a social science research project 2
Session 5 Writing a research proposal: Major components and supporting materials 1
Session 6 Writing a research proposal: Major components and supporting materials 2
Session 7 Writing a research proposal: Major components and supporting materials 3
Session 8 Review of the literature and building theoretical lens (theoretical framework)
Session 9 Hands-on exercises on identifying sources of the literature, paraphrasing, synthesizing, and quoting 1
Session 10 Hands-on exercises on paraphrasing, synthesizing, and quoting 2
Session 11 Hands-on exercises on paraphrasing, synthesizing, and quoting 3
Session 12 Hands-on exercises on placing in-text citations and compiling a list of references/bibliography 4
Session 13 Hands-on exercises on vocabulary and basic grammar for academic writing 5
Session 14 Presentations of the research proposal and the list of references/bibliography (and reflections and course wrap up)

履修上の注意

There is no pre-requisite course/s.
Learning partners should select freely this course in consideration of their learning needs, interests, and future plans. They are advised to be aware of what is covered in Research Methods of Management A course offered in the spring semester. These learning partners are always welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings.

Learning and teaching methods: Short lectures, journal article-based discussions, hands-on exercises on academic writing in the classroom, short presentations by learning partners, and reflective learning through interactive discussions.

Note: Active participation and engagement in classroom meetings offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills in a friendly environment. This is in addition to them improving further their academic writing skills for scientific communications.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course creates a platform for all learning partners to acquire hands-on academic writing skills using APA-style (based on the seventh edition/the latest edition available of the Publication Manual of the American Psychological Association).

All prospective learning partners are, thus, advised in advance to keep a copy of this publication manual handy as and when they participate in classroom meetings.

教科書

There is no specific textbook recommended for this course. Instead, learning partners are encouraged to read the latest edition of textbooks on social science research, academic writing, and ethics of conducting social science research.

Furthermore, they are required to be familiar with academic journals of their own choice that are indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI)/Science Citation Index Expanded (SCIE)/Emerging Sources Citation Index (ESCI)/Arts and Humanities Citation Index (AHCI). These indices are available in the Web of Science Group Master Journal List.

参考書

Aguinis, H., & Henle, C. A. (2002). Ethics in research. In S. G. Rogelberg (Ed.), *Handbook of research methods in industrial and organizational psychology* (pp. 34-56). Blackwell Publishers.
Alvesson, M., & Deetz, S. (2021). *Doing critical research*. SAGE Publications Ltd.
American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.). <https://doi.org/10.1037/0000165-000>
Emanuel, E. J., Wendler, D., & Grady, C. (2000). What makes clinical research ethical?. *Journal of American Medical Association*, 283 (20), 2701-2711.
Hamp-Lyons, L., & Coulter, K. B. (1984). *Research matters*. Newbury House.
Minto, B. (2009). *The pyramid principle: Logic in writing and thinking* (3rd ed.). Pearson Education Limited.
Rocco, T. S., & Plakhotnik, M. S. (2009). Literature reviews, conceptual frameworks, and theoretical frameworks: Terms, functions, and distinctions. *Human Resource Development Review*, 8 (1), 120-130.
Sandberg, J., & Alvesson, M. (2011). Ways of constructing research questions: gap-spotting or problematization? *Organization*, 18 (1), 23-44. doi: 10.1177/1350508410372151
Saunders, M., Lewis, P., & Thornhill, A. (2016). *Research methods for business students* (7th ed.). Pearson Education Limited.
Siddaway, A. P., Wood, A. M., & Hedges, L. V. (2019). How to do a systematic review: A best practice guide for conducting and reporting narrative reviews, meta-analyses, and meta-syntheses. *Annual Review of Psychology*, 70, 91-924.
Stake, R. E. (1995). *The art of case study research*. Sage Publications, Inc.
Uyangoda, J. (2010). *Writing research proposals in the social sciences and humanities: A theoretical and practical guide*. Social Scientists' Association.
Yin, R. K. (2018). *Case study research and applications: Design and methods* (6th ed.). Sage Publications, Inc.

課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a *safe* and open-minded mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.

成績評価の方法

a) Active participation and engagement in classroom meetings—70%
b) Research proposal writng, i.e. written output and oral presentations—30%
No final written examination given at the end of the semester

その他

Let us learn together for producing and disseminating new knowledge whilst embracing profoundly ethics in research and research writing for scientific communications.

Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究	備 考		
科 目 名	経営学研究方法特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 博士 (経営学) 児玉 麻衣子		

授業の概要・到達目標

本講義では、経営学の研究手法論の1つである定量的研究方法の基礎を扱う。調査やデータ収集から展開される定量的研究を適切に進めるには、最終的なデータ分析で得ることができる知見の内容を理解した上で、調査の企画や仮説の構築、データ収集法の設計を行う必要がある。本講義では、このような点を常に意識しながら、データ分析をするうえで必須である統計学的な知識を養うことを目的とする。

最初に定量的研究方法について概観する。次に、実際の調査事例を用いながら、推定、検定、回帰分析等の基礎的なデータ分析方法について説明する。最後に、これらを基礎とした調査設計について学ぶ。

この講義を通して、受講生は、定量的研究を行う上で必要な社会調査および統計学の基礎知識と能力を身につけることを目的とする。

授業内容

第 1 回:定量的研究方法について
第 2 回:データ分析とは
第 3 回:正規分布と基礎統計量
第 4 回:データ収集の考え方
第 5 回:平均値の差の t 検定
第 6 回:回帰分析1
第 7 回:回帰分析2
第 8 回: t 値による回帰直線の確からしさの確認
第 9 回:重回帰分析
第10回:ダミー変数、交差項と対数変換
第11回:分散分析
第12回:ロジスティック回帰
第13回:研究テーマの選び方
第14回:学生のプレゼンテーション

履修上の注意

本講義はデータの読み方にフォーカスする講義であるため、実践的なデータの解析方法の習得のために経営学研究方法特論Bと併せて履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義の内容に関して積極的な予復習を行うこと。

教科書

『経営学のための統計学・データ分析』久保克行 (東洋経済新報社, 2021)
『社会科学のための統計学入門』毛塚和宏 (講談社, 2022)

参考書

『統計学入門』小島寛之 (ダイヤモンド社, 2010)
『定量分析の教科書』グロービス著 (東洋経済, 2021)
『リサーチ・デザイン』田村正紀著 (白桃書房, 2019)
『言葉と数式で理解する多変量解析入門』小杉考司 (北大路書房, 2019)

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での貢献度60%、期末レポート課題40%

その他

リサーチコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
外国語及び基礎経営・会計研究		備 考	
科 目 名	経営学研究方法特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 博士（経営学） 児玉 麻衣子		

授業の概要・到達目標

本講義では、経営学の研究手法論の1つである定量的研究方法の基礎を身につける。定量的研究を適切に進めるには、最終的なデータ分析で得ることができる知見の内容を理解した上で、調査の企画や仮説の構築、データ収集法の設計を行う必要がある。本講義では、このような点を常に意識しながら、統計ソフトウェアRを用いたデータ分析技法について、実践的な学習を行う。

最初にRの基本的な使い方を説明し、度数分布、平均、分散といったデータ記述・記述統計量や、ヒストグラム、散布図の算出方法を学ぶ。次に、カテゴリカルデータ分析（クロス集計）、推定、検定、分散分析、回帰分析等についてRを用いた解析方法を説明する。最後に、学生の研究上の関心に基づいた発展的な解析方法を説明する。

この講義を通して、受講生は、Rを用いたデータ分析能力を身につけ、研究において定量的分析方法を用いることができるようにすることを目的とする。

授業内容

- 第1回：統計ソフトウェアRの使い方
- 第2回：調査目的と調査方法、データの記述と可視化
- 第3回：記述統計量
- 第4回：多変量間の関係とクロス集計
- 第5回：推測統計の考え方とサンプリング
- 第6回：推定
- 第7回：統計的仮説検定の考え方
- 第8回：さまざまな検定
- 第9回：分散分析と多重比較
- 第10回：回帰分析
- 第11回：因子分析
- 第12回：クラスター分析
- 第13回：カテゴリカルデータの取り扱い
- 第14回：受講生による分析報告

履修上の注意

本講義は統計ソフトのRを用いた実践的なデータの解析方法の習得を目的とした講義であるため、定量的研究の基礎的な考え方やデータの読み方を事前に習得するため、経営学研究方法特論Aと併せて履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究課題に関連するデータを準備する、講義後の復習として演習内容を別のデータで実施するなど、積極的な予復習を行うこと。

教科書

浅野正彦・矢内勇生『Rによる計量政治学』（オーム社、2018）

参考書

『リサーチ・デザイン』田村正紀著（白桃書房、2019）
『言葉と数式で理解する多変量解析入門』小杉考司（北大路書房、2019）

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表内容及び貢献度60%、期末レポート課題40%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN512J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	企業行動論演習ⅠA (MC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士（経営学）		牛丸 元

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

定量的アプローチによる修士論文を書くために必要な知識と解析能力を養う。

〈到達目標〉

経営研究に必要な多変量解析の基礎がわかるようになる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：データの分布
- 第3回：推測統計とさまざまな多変量解析
- 第4回：平均値の差の検定
- 第5回：一元配置分散分析
- 第6回：二元配置分散分析
- 第7回：相関と検定
- 第8回：単回帰分析
- 第9回：重回帰分析
- 第10回：単純傾斜分析
- 第11回：媒介分析ならびに最近の検定法としてのブートストラップ法
- 第12回：因子分析(1)
- 第13回：因子分析(2)
- 第14回：パス解析

履修上の注意

・コンピューターを使用する。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。

理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

小宮あすか・布井雅人著『Excelで今すぐはじめる心理統計』講談社。

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表10%。レポート90%

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN512J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動論演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	博士(経営学)	牛丸 元

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

定量的アプローチによる修士論文を書くために必要な知識と文献理解力を養う。

〈到達目標〉

定量的アプローチによる実証論文を理解できるようになる。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：実証文献研究1
第3回：実証文献研究2
第4回：実証文献研究3
第5回：実証文献研究4
第6回：実証文献研究5
第7回：実証文献研究6
第8回：実証文献研究7
第9回：実証文献研究8
第10回：実証文献研究9
第11回：実証文献研究10
第12回：実証文献研究11
第13回：実証文献研究12
第14回：総まとめ

履修上の注意

・使用する文献は、文献5までは、こちらで準備したものを使用しますが、6以降は自分の研究に関する論文を準備し、各々発表してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。

理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

・Academy of Management Journal
・Strategic Management Journal
・組織科学
・日本経営学会誌
・経営行動科学学会誌

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表10%。レポート90%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN612J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動論演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	博士(経営学)	牛丸 元

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

企業間関係に関する基礎理論の研究。

〈到達目標〉

企業間関係に関する研究にとって必要な諸研究を検討する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：企業間関係論の概要
第3回：資源依存パースペクティブ
第4回：組織セットパースペクティブ
第5回：協同戦略パースペクティブ
第6回：制度化パースペクティブ
第7回：取引コストパースペクティブ
第8回：企業間パワーとコミュニケーション
第9回：企業間関係の調整メカニズム
第10回：企業間構造と企業間文化
第11回：企業間媒介企業
第12回：企業間変動
第13回：経営戦略と企業間関係
第14回：地域戦略と企業間関係

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

配布文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。

理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表10%。レポート90%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN612J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動論演習ⅡB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 牛丸 元		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

企業間関係に関する社会ネットワーク論の研究。

〈到達目標〉

企業間ネットワークに関する研究にとって必要な諸研究を検討する。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：J.A.バーンズの研究
 第3回：エリザベス・ボットの研究
 第4回：ミルグラムの研究
 第5回：グラノヴェッターの研究
 第6回：ウェルマンの研究
 第7回：コールマンの研究
 第8回：パートの競争の社会的構造
 第9回：パートの構造的空隙の研究
 第10回：構造的空隙論における定式化
 第11回：構造的空隙論における利益転換
 第12回：構造的空隙論による昇進研究
 第13回：構造的空隙論における二面性
 第14回：構造的空隙論による生存と関与研究

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

配布文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。

理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表10%。レポート90%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN522J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	戦略マネジメント演習ⅠA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 歌代 豊		

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略に関する研究を進めようとする大学院生を対象に、研究方法論を学ぶとともに、経営戦略に関する今日的テーマの先行研究レビューを行う。また、これらを踏まえ、研究テーマの設定および研究アプローチの検討を行う。

授業内容

研究方法論、リサーチデザインに関する入門書を題材に、輪読および討議を行う。
 第1回：経営学研究入門
 第2回：リサーチデザイン
 第3回：先行研究レビュー
 第4回：調査方法(2次データの収集)
 第5回：調査方法(1次データの収集)
 第6回：データ分析の概要
 第7回：相関分析と重回帰分析
 第8回：因子分析
 第9回：共分散構造分析
 第10回：ケース研究法
 第11回：研究アプローチの分析(ぬるま湯体質研究)
 第12回：研究アプローチの分析(Product Development Performance)
 第13回：研究アプローチの分析(日本企業の競争戦略)
 第14回：研究アプローチの分析(消費者行動のメカニズム)

履修上の注意

授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表、討議の準備を行うこと。

教科書

藤本隆宏他(2005)『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ。

参考書

・ロバート・K.イン(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房。
 ・その他授業の中で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度(40%)、授業での貢献(20%)、および研究報告レポート(40%)を総合的に評価する。

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN522J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	戦略マネジメント演習ⅠB (MC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 歌代 豊		

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略に関する研究を進めようとする大学院生を対象に、研究方法論を学ぶとともに、経営戦略に関する今日的テーマの先行研究レビューを行う。また、これらを踏まえ、研究テーマの設定および研究アプローチの検討を行う。

授業内容

研究方法論、リサーチデザインに関する入門書を題材に、輪読および討議を行う。

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：関心領域に関する発表・討議
- 第3回：関心領域に関する動向調査
- 第4回：関心領域のまとめと決定
- 第5回：関心領域に関する先行研究レビュー（嚆矢研究）
- 第6回：関心領域に関する先行研究レビュー（先端研究）
- 第7回：先行研究レビューのまとめ
- 第8回：研究課題に関する発表・討議
- 第9回：研究フレームワークに関する発表・討議
- 第10回：研究仮説に関する発表・討議
- 第11回：研究仮説の精緻化と討議
- 第12回：研究課題/フレームワーク/仮説のまとめ
- 第13回：調査計画に関する発表・討議
- 第14回：分析手法に関する発表・討議

履修上の注意

リサーチ・マインドを育むの内容
授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表、討議の準備を行うこと。

教科書

藤本隆宏他(2005)『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ。

参考書

・ロバート・K.イン(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房。
・その他授業の中で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度(40%)、授業での貢献(20%)、および研究報告レポート(40%)を総合的に評価する。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN622J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	戦略マネジメント演習ⅡA (MC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 歌代 豊		

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略に関する研究を進めようとする大学院生を対象に、研究方法論を学ぶとともに、経営戦略に関する今日的テーマの先行研究レビューを行う。また、これらを踏まえ、研究テーマの設定および研究アプローチの検討を行う。

授業内容

研究方法論、リサーチデザインに関する入門書を題材に、輪読および討議を行う。

- 第1回：経営学研究入門
- 第2回：リサーチデザイン
- 第3回：先行研究レビュー
- 第4回：調査方法(2次データの収集)
- 第5回：調査方法(1次データの収集)
- 第6回：データ分析の概要
- 第7回：相関分析と重回帰分析
- 第8回：因子分析
- 第9回：共分散構造分析
- 第10回：ケース研究法
- 第11回：研究アプローチの分析(多角化研究)
- 第12回：研究アプローチの分析(ユーザ・イノベーション研究)
- 第13回：研究アプローチの分析(組織学習研究)
- 第14回：研究アプローチの分析(ダイナミック・ケイパビリティ研究)

履修上の注意

リサーチ・マインドを育むの内容
授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表、討議の準備を行うこと。

教科書

藤本隆宏他(2005)『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ。

参考書

・ロバート・K.イン(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房。
・その他授業の中で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度(40%)、授業での貢献(20%)、および研究報告レポート(40%)を総合的に評価する。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN622J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	戦略マネジメント演習ⅡB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 歌代 豊		

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略に関する研究を進めようとする大学院生を対象に、研究方法論を学ぶとともに、経営戦略に関する今日的テーマの先行研究レビューを行う。また、これらを踏まえ、研究テーマの設定および研究アプローチの検討を行う。

授業内容

研究方法論、リサーチデザインに関する入門書を題材に、輪読および討議を行う。

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 関心領域に関する発表・討議
- 第3回: 関心領域に関する動向調査
- 第4回: 関心領域のまとめと決定
- 第5回: 関心領域に関する先行研究レビュー (嚆矢研究)
- 第6回: 関心領域に関する先行研究レビュー (先端研究)
- 第7回: 先行研究レビューのまとめ
- 第8回: 研究課題に関する発表・討議
- 第9回: 研究フレームワークに関する発表・討議
- 第10回: 研究仮説に関する発表・討議
- 第11回: 研究仮説の精緻化と討議
- 第12回: 研究課題/フレームワーク/仮説のまとめ
- 第13回: 調査計画に関する発表・討議
- 第14回: 分析手法に関する発表・討議

履修上の注意

※授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、発表、討議の準備を行うこと。

教科書

藤本隆宏他(2005)『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ。

参考書

- ・ロバート・K.イン(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房。
- ・その他授業の中で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席態度(40%)、授業での貢献(20%)、および研究報告レポート(40%)を総合的に評価する。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営倫理特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(学術)	木全 晃	

授業の概要・到達目標

この講義は、「自然と折り合いをつける経営」を念頭に「人間性」(経営倫理特論A)と「地球環境」(経営倫理特論B)の問題について考えるものです(自然には、①本質や「本性」、②社会や歴史と対置される「自然環境」という意味がありますが、本講義では①ととらえ、人間性は内なる自然であり、人間は自然の一部であると捉えます)。もっとも現代の私たちは自然を②の対象物(死んだモノ)の意味でとらえ、地球環境(生態系)を単なる経済的消費財として扱ってしまっているところに地球環境問題の根源があり、一方で経営においては、人間をとすれば手段(モノ)として扱ってしまいがちな傾向に問題が潜んでいるのではないかと、そして、官僚制の進展や組織の大規模化、AIなどの新たなテクノロジーの発達を通じ、本来、人間の幸福を目的とするはずの消費や所有、経済成長といった手段がとすれば目的化してしまっているのではないかと、そのような考え方を講義の根底に据えています。

授業内容

前期の経営倫理特論Aでは、経営倫理・哲学を考える際の2つの接近の仕方をまずみていきます。一つは、経営学の一領域としての経営倫理・哲学—経営管理、経営戦略等と同じレベルであり、もう一つは、倫理学の一領域としての経営倫理・哲学—生命倫理、情報倫理等の応用倫理のレベルです。前者については、経営哲学的アプローチにおける倫理問題の取り扱い—私益と公益、合理と倫理、組織と個人、理性と感情といった二項対立として取り扱われがちな概念等についてみます。また後者については、規範倫理の諸説—義務論、功利主義、社会主義、実存主義といった基本的思潮を扱い所にししながら、人間という生き物の本性、在り方について皆さんと考えます。

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回～第6回 経営学の一領域としての経営倫理：経営生活論、組織倫理学、経営の科学化など
- 第7回～第14回 倫理学の一領域としての経営倫理：規範倫理の諸説、社会科学のパラダイムなど

履修上の注意

抽象概念を扱うので、柔軟な思考を心掛けられたい。そして日頃から「違和感」を大切にされたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

日常的に抱いた「違和感」を記録されること、関連する資料をストックされること。講義のなかでの抽象概念を身近な現実に置き換え、腑に落ちる理解を心掛けられたい。教科書等の輪読形式をとるため、各々の担当セクションについてレジュメを作成するなどの事前の予習が必要となる。

教科書

小松光彦・樽井正義・谷寿美『倫理学案内—理論と課題』慶応義塾大学出版会、2006年、を予定している。初回講義時に調整する。加えて、配布資料により講義を進める。

参考書

小笠原英司『経営哲学研究序説—経営学的経営哲学の構想』文真堂、2004年。ほか適宜、講義中に示す。

課題に対するフィードバックの方法

受講者の報告時に逐次、応答する。

成績評価の方法

講義への参加、報告時のレジュメと説明内容、議論への積極的参加の度合い等により総合的に評価する。

その他

状況に応じ、オンライン形式で講義を進める場合がある。

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	経営倫理特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 博士(学術)		木全 晃

授業の概要・到達目標

この講義は、経営倫理特論Aと同様の考えをもとに、その継続として講義を進めるものです。基礎知識の学習に相当する経営倫理特論Aでの議論をあくまで基礎とし、倫理問題を取り扱ううえでの基本事項の理解を前提としながら、地球環境(生態系)の問題を中心に考えます。

授業内容

後期の経営哲学Bでは、環境倫理・哲学を考える際の根本となる、環境問題の源についてまず考えます。そこには、動物と人間の差異(ヤコブ・フォン・ユススキュルの環世界、マックス・シェラーの世界開在性)に遡るシンボル化能力、ロビンソン・クルーソー的人間類型(マックス・ウェーバーのプロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神)にみられる目的合理的思考や、ユダヤ＝キリスト教に代表される人間中心主義的な宗教(リン・ホワイトの生態学的危機の歴史的根源)、など多様な見解がみられます。共通するのは、人間はもはや自然の一部ではなく解き放たれてしまったことにあるのかもしれない。これを踏まえながら、自然資本、宇宙船地球号、人間中心主義と生命圏平等主義の対比などを拠り所にしなが

ら、人間と地球環境(生態系)の在り方について皆さんと考えます。
第1回 イン트로ダクション
第2回～第6回 環境問題の根源：シンボル化能力、ロビンソン・クルーソー的人間類型、人間中心主義的な宗教など
第7回～第14回 地球環境(生態系)との折り合い：自然資本、宇宙船地球号、生命圏平等主義など

履修上の注意

経営倫理特論Aからの継続的受講が望ましい。履修上の注意事項は経営倫理特論Aに同じとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

日常的に抱いた「違和感」を記録されること、関連する資料をストックされること。講義のなかでの抽象概念を身近な現実置き換え、腑に落ちる理解を心掛けられたい。教科書等の輪読形式をとるため、各々の担当セクションについてレジュメを作成するなどの事前の予習が必要となる。

教科書

鬼頭秀一著『自然保護を問いなおすー環境倫理とネットワーク』筑摩書房(ちくま新書)、2021年(原著1996年)、を予定している。最初の講義時に調整する。加えて、配布資料により講義を進める。

参考書

ロデリック・F・ナッシュ著、松野弘訳『自然の権利ー環境倫理の文明史』ミネルヴァ書房、2011年。ほか適宜、講義中に示す。

課題に対するフィードバックの方法

受講者の報告時に逐次、応答する。

成績評価の方法

講義への参加、報告時のレジュメと説明内容、議論への積極的な参加の度合い等により総合的に評価する。

その他

状況に応じ、オンライン形式で講義を進める場合がある。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	オーガニゼーション・スタディ特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師		黒澤 壮史

授業の概要・到達目標

概要：本科目は、経営組織論の中でも特にマクロ組織論と呼ばれる領域を中心に理論・学説を中心とした体系的な知識を習得することを目的としている。本科目では組織理論をメタファーの観点から理解することで、体系的な理解をするだけに留まらず実践的な応用への手がかりとする。
到達目標：経営組織論(特にマクロ組織論領域)の体系的な理解、理論知識の実践的な応用

授業内容

組織理論に関する体系的知識を下記の授業構成に基づいて進行していく。各回では発表者がテキストの要約と関連する知見をまとめて発表していくものとする。

※ただし、履修者人数に応じて進め方は修正する可能性がある

第1回：イントロダクション
第2回：組織構造 テキスト1章
第3回：官僚制と科学的管理 テキスト2章
第4回：組織均衡と組織生態学 テキスト3章
第5回：意思決定理論 テキスト4章
第6回：システム論的組織観 テキスト5章
第7回：組織変革論 テキスト7章
第8回：組織学習 テキスト8章
第9回：組織文化論 テキスト9章
第10回：組織シンボリズム テキスト10章
第11回：センスメイキング理論 テキスト11章
第12回：資源依存理論と権力論 テキスト12章
第13回：コミュニティとしての組織 テキスト13章
第14回：最終プレゼンテーションと総括

履修上の注意

経営心理学、産業・組織心理学、など関連する科目を履修済みもしくは並行して履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習については、発表の担当の場合は予習として発表準備が求められる。それ以外の回では、事前にテキストの対応箇所を読んでおき、疑問点などを整理しておくこと。

復習については、授業内容の振り返りを行うこと。

教科書

ダフト著『組織の経営学』ダイヤモンド社

参考書

高橋正泰ほか編『マクロ組織論』学文社

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業内でフィードバックを行う。必要に応じて、メールなどでも対応する。

成績評価の方法

授業内の発言、プレゼンテーションによって評価する。

その他

特になし。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	オーガニゼーション・スタディ特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 黒澤 壮史		

授業の概要・到達目標

概要：本科目は、前期で習得した体系的な経営組織論に関する知見に基づいて、現代的なトピックスへの理解をより深めていくことを目的とする。特に本科目では、「パワー（権力・影響力）」について理解を深めるが、単にテキスト指定される文献だけを理解するだけではなく、前期に扱った体系的な組織理論に基づいてより深く、時に批判的な議論を展開できることを目的とする。

到達目標：体系的な組織論の知見に基づく現代的なトピックスの理解と、トピックスへの批判的な議論を展開できること

授業内容

組織理論に関する体系的知識を下記の授業構成に基づいて進行していく。各回では発表者がテキストの要約と関連する知見をまとめて発表していくものとする。

※ただし、履修者人数に応じて進め方は修正する可能性がある

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：テキスト1章
- 第3回：テキスト2・3章
- 第4回：テキスト4・5章
- 第5回：テキスト6・7章
- 第6回：テキスト8・9章
- 第7回：テキスト10・11章
- 第8回：テキスト12・13章
- 第9回：テキスト14・15章
- 第10回：テキスト16・17章
- 第11回：テキスト18章
- 第12回：影響力のマネジメントに関する総括と議論
- 第13回：最終プレゼンテーション
- 第14回：総括

履修上の注意

経営戦略論、経営心理学、産業・組織心理学、など関連する科目を履修済みもしくは並行して履修していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、発表の担当の場合は予習として発表準備が求められる。それ以外の回では、事前にテキストの対応箇所を読んでおき、疑問点などを整理しておくこと。
復習については、授業内容の振り返りを行うこと。

教科書

ジェフリー・フェファラー著 『影響力のマネジメント』東洋経済新報社

参考書

高橋正泰ほか編『マクロ組織論』学文社
高橋正泰ほか編『ミクロ組織論』学文社

課題に対するフィードバックの方法

原則的に授業内でフィードバックするが、必要に応じてメールなどでも対応する。

成績評価の方法

授業内の発言、プレゼンテーションによって評価する。

その他

特になし。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動方法特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士（経営学）	牛丸 元	

授業の概要・到達目標

- ・カーネギー学派による企業行動論を理解するうえで不可欠と思われる経営理論について検討する。
- ・企業行動方法特論ではとくに、戦略論とカーネギー学派の企業行動論の基礎を検討する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：SCP理論
- 第3回：SCPと戦略論
- 第4回：リソースベースレビュー
- 第5回：SCPとリソースベースとビュー
- 第6回：取引理論
- 第7回：ゲーム理論
- 第8回：トピック研究（アクセルロッドの研究）
- 第9回：カーネギーの企業行動理論
- 第10回：知の探索と深化の理論(1)
- 第11回：知の探索と深化の理論(2)
- 第12回：組織の記憶の理論(1)
- 第13回：認知心理学ベースの進化理論
- 第14回：ダイナミックケイパビリティ

履修上の注意

- ・発表者を決めて、テキストの内容についてまとめて発表してもらいます。
- ・テキストプラスアルファの発表内容にするよう努力してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。
- ・理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

入山章栄著『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

宿題40%，発表内容30%，授業貢献度30%

その他

特になし

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	企業行動測定特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学)	牛丸 元	

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

- ・カーネギー学派による企業行動論を理解するうえで不可欠と思われる経営理論について検討する。
- ・企業行動測定特論ではとくに、社会学ディシプリン系の理論を検討する。

【目標】

- ・ビジネス現象と理論との関連性を理解できるようになる。

授業内容

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: エンベデッドネス理論
- 第3回: 弱いつながりの強さの理論
- 第4回: ストラクチャルホール理論
- 第5回: ソーシャルキャピタル理論
- 第6回: 社会学ベースの制度理論
- 第7回: 資源依存理論
- 第8回: 組織エコロジー論
- 第9回: エコロジーベースの進化理論
- 第10回: レッドクイーン理論
- 第11回: 企業ガバナンスと経営理論
- 第12回:アントレプレナーシップと経営理論
- 第13回: 企業組織と経営理論
- 第14回: 最先端の経営学研究例

履修上の注意

- ・発表者を決めて、テキストの内容についてまとめて発表してもらいます。
- ・テキストプラスアルファの発表内容にするよう努力してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・文献を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。
- ・理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。

教科書

入山章栄著『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

宿題40%、発表内容30%、授業貢献度30%

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
経営理論・管理系		備考	秋学期開講
科目名	マーケティング戦略特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経営学)	川端 庸子	

授業の概要・到達目標

基本的なテキストの学習を通じて、マーケティング戦略論における基礎理論、基礎概念の習得を目指す。そしてマーケティング担当者が自社のマーケティング戦略を立案する際に必要とされる諸概念、諸技法についてその意義、有用性、限界点などを理解し、応用できることを到達目標にする。

授業内容

- 第1回 マーケティング戦略論と授業概要
 - 第2回 マーケティング戦略の基礎理論(1)
 - 第3回 マーケティング戦略の基礎理論(2)
 - 第4回 製品戦略(1)
 - 第5回 製品戦略(2)
 - 第6回 価格戦略(1)
 - 第7回 価格戦略(2)
 - 第8回 流通戦略(1)
 - 第9回 流通戦略(2)
 - 第10回 販売促進戦略(1)
 - 第11回 販売促進戦略(2)
 - 第12回 小売マーケティング
 - 第13回 サービス・マーケティング
 - 第14回 総括
- 授業内容は進度・理解レベルによって変更することもありうる。

履修上の注意

初学者も歓迎します。受講生の興味や関心などによって、柔軟に授業内容・形式・日程を調整して行うこともあります。授業は教員の説明、受講者の報告・発表から構成されます。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で紹介した内容については文献等で知識を収集してください。

教科書

授業開講時に最新のものを適宜指示します。

参考書

大石芳裕編(2015)『マーケティング零』白桃書房。
大石芳裕編(2017)『グローバル・マーケティング零』白桃書房
佐々木保幸・鳥羽達郎編(2019)『欧米小売企業の国際展開』中央経済社。
Kazuo Usui (2014) Marketing and Consumption in Modern Japan, Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

報告者の研究報告（レポート/口頭発表）内容のレベルと発表回数（70%）と、講義参加者の積極的な関与と発言など（30%）を総合的に勘案して評価する。

その他

新型コロナウイルス感染症の状況によって、大学の開講方針にあわせて、受講者人数を鑑み、対面授業科目の規定内においてメディアを有効活用した形式での開講となることもあります。ご承知おきください。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN591J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	マーケティング事例研究特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 川端 庸子		

授業の概要・到達目標

国内外の企業のマーケティング戦略に関する事例研究を行う。事例研究を通じてマーケティング担当者の立場からのマーケティング戦略の構想力、基礎理論・技法からの分析を可能にすることを目標とする。また、受講者による事例研究の作成を最終目標とする。

授業内容

第1回 ケース研究の意義
 第2回 マーケティング戦略における事例研究(1)
 第3回 マーケティング戦略における事例研究(2)
 第4回 製品戦略における事例研究(1)
 第5回 製品戦略における事例研究(2)
 第6回 価格戦略における事例研究(1)
 第7回 価格戦略における事例研究(2)
 第8回 流通戦略における事例研究(1)
 第9回 流通戦略における事例研究(2)
 第10回 販売促進戦略における事例研究(1)
 第11回 販売促進戦略における事例研究(2)
 第12回 小売マーケティングにおける事例研究
 第13回 サービス・マーケティングにおける事例研究
 第14回 総括
 進度、理解レベルによって授業内容は変更することがある。

履修上の注意

初学者も歓迎します。
 授業は報告者による報告と教員の説明、講義参加者の討論・発表から構成される。そのため、講義への積極的な関与が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で紹介した内容については文献等で調べておくこと。

教科書

授業開講時に最新のものを適宜指示します。

参考書

薄井和夫『『実践としてのマーケティング』研究と実践コミュニティ『実践論的転回』によせて』中央大学『商学論纂』第54巻第5号、2013年3月。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

教科書を通じた報告者による報告の内容とその回数(40%)、講義受講者の積極的発言と関与(30%)、そして報告者自身による事例研究の作成と報告(40%)とする。

その他

新型コロナウイルス感染症の状況によって、大学の開講方針にあわせて、受講者人数を鑑み、対面授業科目の規定内においてメディアを有効活用した形式での開講となることもあります。ご承知おきください。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	戦略マネジメント特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 歌代 豊		

授業の概要・到達目標

経営戦略論には、さまざまな研究アプローチがあり、その中から多くの有用な概念・理論が提示されてきた。経営戦略特論では、これらの中で基礎となる概念と理論をしっかり理解することを目的とする。

授業内容

第1回：戦略の概念
 第2回：目標、価値および業績
 第3回：産業分析—基本原理
 第4回：産業分析と競争分析にかんする追加的話題
 第5回：資源と能力の分析
 第6回：組織の構造と経営システム
 第7回：競争優位の本质と源泉
 第8回：コスト優位
 第9回：差別化優位
 第10回：総合分析1
 第11回：総合分析2
 第12回：総合分析3
 第13回：総合分析4
 第14回：総合分析5

履修上の注意

受講生全員が教科書を予習するとともに、受講生が分担し、教科書の説明と解説を行い、それを受け討議する。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生全員が教科書を予習するとともに、受講生が分担し、教科書の説明と解説を行い、それを受け討議する。

教科書

ロバート・M・グラント『グラント現代戦略分析(第2版)』中央経済社、2019年

参考書

ジェイ B.バーニー・ウィリアム S.ヘスタリー『[新版]企業戦略論(上・中・下)』ダイヤモンド社、2021年
 マイケル・A・ヒット・R・デュエーン・アイルランド・ロバート・E・ホスキソン『戦略経営論(第3版)競争力とグローバリゼーション』パンローリング、2021年

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業の出席態度(40%)、授業での説明・解説、授業での討議等貢献(30%)、レポート(30%)に基づき総合評価する。

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー: (BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	戦略マネジメント特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 歌代 豊		

授業の概要・到達目標

経営戦略論には、さまざまな研究アプローチがあり、その中から多くの有用な概念・理論が提示されてきた。戦略マネジメント特論では、これらの中で基礎となる概念と理論をしっかりと理解することを目的とする。

授業内容

第1回:産業発展と戦略変化
 第2回:技術に基礎を置く産業と革新の管理
 第3回:成熟産業での競争優位
 第4回:垂直統合と企業の事業領域
 第5回:グローバル戦略と多国籍企業
 第6回:多角化戦略
 第7回:多角化事業(マルチビジネス)企業経営
 第8回:戦略的経営の現在の傾向
 第9回:総合分析1
 第10回:総合分析2
 第11回:総合分析3
 第12回:総合分析4
 第13回:総合分析5
 第14回:総合分析6

履修上の注意

受講生全員が教科書を予習するとともに、受講生が分担し、教科書の説明と解説を行い、それを受け討議する。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生全員が教科書を予習するとともに、受講生が分担し、教科書の説明と解説を行い、それを受け討議する。

教科書

ロバート・M・グラント『グラント現代戦略分析(第2版)』中央経済社, 2019年

参考書

ジェイ B.バーニー・ウィリアム S.ヘスタリー『[新版]企業戦略論(上・中・下)』ダイヤモンド社, 2021年
 マイケル・A・ヒット・R・デュエーン・アイルランド・ロバート・E・ホスキソン『戦略経営論(第3版) 競争力とグローバリゼーション』パンローリング, 2021年

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業の出席態度(40%), 授業での説明・解説, 授業での討議等貢献(30%), レポート(30%)に基づき総合評価する。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー: (BA) MAN521E			
経営理論・管理系		備考	
科目名	生産管理特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

This course provides with the knowledge and application of production management principles, concepts and practices. The emphasis is on the managerial processes for effective operations for both goods producing and service providing organizations.
 Goals)

1. To understand importance of production management for productivity and competitiveness
2. To develop suitable strategic decisions in production management including capacity, location, inventory and quality management
3. To explore and apply mathematical techniques for good decision making in production management

授業内容

1. Operations and Productivity - Introduction to Operations
2. Production and Operations Strategy - Area Specific Strategies to Operations
3. Forecasting - Techniques for Demand Forecasting
4. Case Study 1 - Forefront Manufacturing
5. Design of goods and services - Issues
6. Sustainability in supply chain - Elements of Sustainability in Supply Chain
7. Managing Quality - Principles of Quality Management
8. Managing Quality - Techniques for Quality Management
9. Statistical Process Control - Tools to Control Quality
10. Process design and technologies - Decision for selection of process
11. Capacity Planning - Manage and planning capacity
12. Case Study 2 - Galanz
13. Location and layout decisions - Facilities place and arrangement
14. Review and Project Presentation (Group project)

履修上の注意

This course is conducted in English. The course content may be changed if needed. Active participation and discussions is required for this course.

準備学習(予習・復習等)の内容

Assigned chapters, video, reading material should be done before classes are conducted. Class discussions and cases study will be used extensively.

教科書

1. Heizer, Jay, and Render, Barry, (2017), Principles of Operations Management, 10th edition, Pearson Education

参考書

1. Suitable books in Production and Operations management
2. Journals and Conference papers

課題に対するフィードバックの方法

Posted in Oh-ol Meiji and feedback during classes

成績評価の方法

Class Participation and Exercises - 20%
 Test - 20%
 Case Studies - 40%
 Group Project - 20%
 TOTAL - 100%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN521E			
経営理論・管理系		備考	
科目名	生産管理特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	特任教授 Ph.D. Yusof Sha'ri Mohd		

授業の概要・到達目標

This course provides with the knowledge and application of production management principles, concepts and practices. The emphasis is on the managerial processes for effective operations for both goods producing and service providing organizations.

〈Goals〉

1. To understand importance of production management for productivity and competitiveness
2. To develop suitable strategic decisions in production management including supply chain, scheduling, and lean
3. To explore and apply selected mathematical techniques for good decision making in production management

授業内容

1. Review on Production Management - Revisit Production Management and Operations Strategies for success
2. Human resource in operations - Importance of human resource strategies to support operations excellence
3. Work design and measurement - Techniques used for analysing and measure work, including determining standard times
4. Managing the Supply Chain - Importance of supply chain management
5. Supply Chain Analytics (Supp) - Techniques for Measuring SC
6. Managing the Supplier Performance - PQI International Case Study
7. Managing Inventory 1 - Importance of Inventory Management and Techniques for Inventory Control
8. Managing Inventory 2 - Techniques for Inventory Control
9. Aggregate Planning - Strategies for Aggregate planning
10. Materials Requirement Planning 1 - Importance of MRP Technique for determining MPS
11. Materials Requirement Planning 2 - Determining Master Production Schedule and Generate MRP
12. Operations Scheduling - Job shop and short term scheduling methods
13. Leans Operations - Principles and concepts of lean and Toyota Production System
14. Review and Project Presentation - Group Project

履修上の注意

This course is conducted in English. The course content may change if needed. Active participation and discussions is practiced in this course. This is an active learning class.

準備学習（予習・復習等）の内容

Assigned chapters, video, and reading material must be made/completed before classes are conducted. Class discussion and cases study will be used extensively.

教科書

1. Heizer, Jay, Render, Barry, (2017), Principles of Operations Management, 10th edition, Pearson Education

参考書

1. Suitable books in Production and Operations management.
2. Journals and Conference papers.

課題に対するフィードバックの方法

Post in Oh-o! Meiji and feedback in the class

成績評価の方法

Class Participation and Exercises - 20%
Test - 20%
Case Studies - 40%
Group Project - 20%
TOTAL - 100%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	競争戦略特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 文 智彦		

授業の概要・到達目標

本講義は、競争戦略を中心とした経営戦略に関する理論ならびに実践がテーマである。

経営戦略とは、組織が存続発展していくための重要な指針である。経済のグローバル化と情報通信技術の発展により企業間競争がますます激しくなっている今日のような環境下において、経営戦略論は極めて重要な学問領域である。

本講義では、まず成長戦略や多角化戦略に関する基本理論および、近年一層注目されているビジネスモデルに関わる事業システム戦略について取り上げる。さらにM.E.ポーターの競争戦略論に基づき、業界の競争要因、競争優位の原理、価値創造などについて講義する。

次に、ルメルト著『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版）について輪読し解説を行う。

本講義は、実務経験を有する受講生がこのような経営戦略ならびに競争戦略に関する概念や理論について体系的に理解し、それらを実践的に活用するための応用力を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 経営戦略の基本
- 第3回 マイケル・ポーターの競争戦略①:5つの競争要因
- 第4回 マイケル・ポーターの競争戦略②:競争優位の原理
- 第5回 マイケル・ポーターの競争戦略③:価値創造
- 第6回 ルメルトの戦略論①:悪い戦略の特徴
- 第7回 ルメルトの戦略論②:良い戦略の基本構造
- 第8回 ルメルトの戦略論③:フォーカス
- 第9回 ルメルトの戦略論④:優位性
- 第10回 ルメルトの戦略論⑤:ダイナミクス
- 第11回 ルメルトの戦略論⑥:慣性とエントロピー
- 第12回 ルメルトの戦略論⑦:ストラテジストの思考法
- 第13回 ルメルトの戦略論⑧:戦略思考のテクニック
- 第14回 総括

履修上の注意

双方向型の講義形式を取り入れているため、受講生には講義内での積極的な発言・議論等を行うことを求める。

受講生による発表も適宜行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献等を紹介するのでそれらに基づいて予習する。復習として、講義に基づき、文献や事例の分析を行い、発表の準備を行う。

教科書

『良い戦略、悪い戦略』ルメルト著(日本経済新聞出版)

参考書

『マイケル・ポーターの競争戦略』マグレッタ著(早川書房)

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、授業時間内およびOh-o! Meiji システム等を利用して実施する。

成績評価の方法

研究姿勢(授業内での発言・議論等: 60%)および研究成果(研究レポート・発表等: 40%)に基づき総合的に評価する。

その他

特になし。

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN521J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	競争戦略特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 文 智彦		

授業の概要・到達目標

本講義は、競争戦略を中心とした経営戦略に関する理論ならびに実践がテーマである。

経営戦略とは、組織が存続発展していくための重要な指針である。経済のグローバル化と情報通信技術の発展により企業間競争がますます激しくなっている今日のような環境下において、経営戦略論は極めて重要な学問領域である。

本講義ではまず、競争と協調の戦略、競争戦略の論理と実践(戦略コンセプトの創出と実現)、競争戦略とイノベーションについて講義する。さらに、戦略の策定プロセスと実行プロセス、経営戦略とリーダーのあり方、戦略的思考、等々について講義する。

次に、『戦略の要諦』ルメルト著(日本経済新聞出版)について輪読し、課題に基づく戦略と最重要ポイント、診断、最重要ポイントの攻略、リーダーを迷わす誘惑、戦略ファウンドリー、などについて解説する。

本講義は、実務経験を有する受講生がこのような経営戦略に関する概念や理論について体系的に理解し、それらを実践的に活用するための応用力を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 競争と協調の戦略
- 第3回 競争戦略の論理と実践
- 第4回 競争戦略とイノベーション
- 第5回 戦略の策定と実行
- 第6回 戦略の要諦①:どこなら勝てるか
- 第7回 戦略の要諦②:戦略と成長
- 第8回 戦略の要諦③:戦略と権力
- 第9回 戦略の要諦④:強みを探す
- 第10回 戦略の要諦⑤:組織の機能不全
- 第11回 戦略の要諦⑥:戦略と診断
- 第12回 戦略の要諦⑦:戦略と目標
- 第13回 戦略の要諦⑧:戦略ファウンドリー
- 第14回 総括

履修上の注意

双方向型の講義形式を取り入れているため、受講生には講義内での積極的な発言・議論等を行うことを求める。

受講生による発表も適宜行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に文献等を紹介するのでそれらに基づいて予習する。復習として、講義に基づき、文献や事例の分析を行い、発表の準備をする。

教科書

『戦略の要諦』ルメルト著(日本経済新聞出版)

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、授業時間内およびOh-ol Meiji システム等を利用して実施する。

成績評価の方法

研究姿勢(授業内での発言・議論等:60%)および研究成果(研究レポート・発表等:40%)に基づき総合的に評価する。

その他

特になし。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN512J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	中小企業経営論演習ⅠA(MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

(授業概要)

日本では中小企業研究が盛んにおこなわれてきており、その歴史も古い。このことは、日本において、中小企業問題が顕著に現れているということを物語っているといえる。また、この中小企業研究において、その対象となる中小企業の観方が、経済環境の変化とともに変わってきていることも興味あるところである。このことについて、「中小企業観の変化は、中小企業の実態の変化を表現しているものなのか」という疑問の声も少なくない。ここでは、そうした議論をふまえて、中小企業の実態を探っていくとともに、中小企業問題の理論研究をおこなっていく。

(到達目標)

修士論文作成に向けた必要知識の習得。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 研究計画作成
- 第4回 先行研究論文調査
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論
- 第8回 基本資料講読および仮説の検証
- 第9回 論文構想の確認
- 第10回 実証研究方法の検討
- 第11回 実証研究の進捗報告
- 第12回 研究作業の課題の確認
- 第13回 論文のテーマの修正案の提示
- 第14回 論文構想最終発表

履修上の注意

(履修上の注意)

修士論文の作成を目的としているので、履修者の研究報告をもとに議論していく。受け身の講義の場ではないことに注意すること。

(準備学習)

中小企業研究の基本的な文献については一通り通読しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

修士論文の作成に向けての授業であるため、特にテキストを用いることはせず、随時必要文献を指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN512J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	中小企業経営論演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

(授業概要)

日本では中小企業研究が盛んにおこなわれてきており、その歴史も古い。このことは、日本において、中小企業問題が顕著に現れているということを物語っているといえる。また、この中小企業研究において、その対象となる中小企業の観方が、経済環境の変化とともに変わってきていることも興味あるところである。このことについて、「中小企業観の変化は、中小企業の実態の変化を表現しているものなのか」という疑問の声も少なくない。ここでは、そうした議論をふまえて、中小企業の実態を探っていくとともに、中小企業問題の理論研究をおこなっていく。

(到達目標)

修士論文作成に向けた必要知識の習得。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 研究計画作成
- 第4回 先行研究論文調査
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論
- 第8回 基本資料講読および仮説の検証
- 第9回 論文構想の確認
- 第10回 実証研究方法の検討
- 第11回 実証研究の進捗報告
- 第12回 研究作業の課題の確認
- 第13回 論文のテーマの修正案の提示
- 第14回 論文構想最終発表

履修上の注意

(履修上の注意)

修士論文の作成を目的としているので、履修者の研究報告をもとに議論していく。受け身の講義の場ではないことに注意すること。

(準備学習)

中小企業研究の基本的な文献については一通り通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマに関連する学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

修士論文の作成に向けての授業であるため、特にテキストを用いることはせず、随時必要文献を指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN612J			
企業論系		備考	
科目名	中小企業経営論演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

(授業概要)

演習ⅠA・Bでおこなった授業を踏まえて、さらに中小企業問題の理論研究をおこなっていく。その内容については、世界的にも手も長い歴史と蓄積を持つ日本の中小企業研究をあらためてレビューし、今日的な問題意識をもって中小企業のおかれている現状を客観的に把握するとともに、問題解決に向けての理論的な研究を目指す。

(到達目標)

修士論文作成に向けた必要知識の習得。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 研究計画作成
- 第4回 先行研究論文調査
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論
- 第8回 基本資料講読および仮説の検証
- 第9回 論文構想の確認
- 第10回 実証研究方法の検討
- 第11回 実証研究の進捗報告
- 第12回 研究作業の課題の確認
- 第13回 論文のテーマの修正案の提示
- 第14回 論文構想最終発表

履修上の注意

(履修上の注意)

修士論文の作成を目的としているので、履修者の研究報告をもとに議論していく。受け身の講義の場ではないことに注意すること。

(準備学習)

中小企業研究の基本的な文献については一通り通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

修士論文の作成に向けての授業であるため、特にテキストを用いることはせず、随時必要文献を指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN612J			
企業論系		備 考	
科 目 名	中小企業経営論演習ⅡB (MC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		岡田 浩一

授業の概要・到達目標

(授業概要)

演習ⅠA・Bならびに演習ⅡAでおこなった授業を踏まえて、さらに中小企業問題の理論研究をおこなっていく。その内容については、世界的にも手も長い歴史と蓄積を持つ日本の中小企業研究をあらためてレビューし、今日的な問題意識をもって中小企業のおかれている現状を客観的に把握するとともに、問題解決に向けての理論的な研究を目指す。

(到達目標)

修士論文作成に向けた必要知識の習得をもとに修士論文の完成。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 研究計画作成
- 第4回 先行研究論文調査
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論
- 第8回 基本資料講読および仮説の検証
- 第9回 論文構想の確認
- 第10回 実証研究方法の検討
- 第11回 実証研究の進捗報告
- 第12回 研究作業の課題の確認
- 第13回 論文のテーマの修正案の提示
- 第14回 論文構想最終発表

履修上の注意

(履修上の注意)

修士論文の作成を目的としているので、履修者の研究報告をもとに議論していく。受け身の講義の場ではないことに注意すること。

(準備学習)

中小企業研究の基本的な文献については一通り通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

修士論文の作成に向けての授業であるため、特にテキストを用いることはせず、随時必要文献を指示する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
企業論系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	東アジア企業論演習ⅠA (MC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 経済学博士		郝 燕書

授業の概要・到達目標

この授業では、国有企業、民営企業、外資系企業の事例を中心に、その改革と成長の歴史を振り返るとともに、既存の経営管理方式の長所と短所を吟味し、外国企業の経営管理方式と融合するプロセスを考察し、現在形成されつつある中国の経営管理方式の特質を考察する。

中国における改革開放政策実施の究極的目標は、競争力のある企業の創出により経済発展を図り、国民生活を向上させることにある。中国企業は、改革・開放政策を実施して以後、政府主導の下で企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式・技術を吸収、習得し、進化してきた。かつての国営「工場」から、改革開放後の30数年間において、いかなるプロセスを経て多岐にわたる競争のある多様化の形態の企業を創出し得たのか、現状との問題点はなにか、どの程度まで進化を遂げたのか、中国企業の創出と成長の過程を考察することによって、現時点の中国企業の進化の到達点を把握し、今後の課題を検討する。

授業内容

- 第1回：中国企業の創出と進化
- 第2回：国有企業の改革
- 第3回：国有企業の技術形成
- 第4回：国有企業の人材育成
- 第5回：国有企業の労務管理
- 第6回：民営企業の生成
- 第7回：民営企業の成長
- 第8回：民営企業の企業家
- 第9回：民営企業の経営管理
- 第10回：民営企業の地域制
- 第11回：外資系企業の経営管理
- 第12回：外資系企業の労務管理
- 第13回：外資系企業の人材育成
- 第14回：外資系企業の技術移転

*講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し、開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年。その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業でのレポートおよび期末レポートによる。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN562J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	東アジア企業論演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

この授業では、国有企業、民営企業、外資系企業の事例を中心に、その改革と成長の歴史を振り返るとともに、既存の経営管理方式の長所と短所を吟味し、外国企業の経営管理方式と融合するプロセスを考察し、現在形成されつつある中国の経営管理方式の特質を考察する。

中国における改革開放政策実施の究極的目標は、競争力のある企業の創出により経済発展を図り、国民生活を向上させることにある。中国企業は、改革・開放政策を実施して以後、政府主導の下で企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式・技術を吸収、習得し、進化してきた。かつての国営「工場」から、改革開放後の30数年間において、いかなるプロセスを経て多岐にわたる競争のある多様化の形態の企業を創出し得たのか、現状との問題点はなにか、どの程度まで進化を遂げたのか、中国企業の創出と成長の過程を考察することによって、現時点の中国企業の進化の到達点を把握し、今後の課題を検討する。

授業内容

第1回：国有企業の歴史
 第2回：国有企業の事例研究(1)
 第3回：国有企業の事例研究(2)
 第4回：国有企業の事例研究(3)
 第5回：国有企業の事例研究(4)
 第6回：民営企業の生成
 第7回：民営企業の事例研究(1)
 第8回：民営企業の事例研究(2)
 第9回：民営企業の事例研究(3)
 第10回：民営企業の事例研究(4)
 第11回：外資導入と外資系企業
 第12回：合併企業の事例研究
 第13回：独資企業の事例研究
 第14回：外資系企業の事例研究
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し、開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
 その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業でのレポートおよび期末レポートによる。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN662J			
企業論系		備考	
科目名	東アジア企業論演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

この授業では、国有企業、民営企業、外資系企業の事例を中心に、その改革と成長の歴史を振り返るとともに、既存の経営管理方式の長所と短所を吟味し、外国企業の経営管理方式と融合するプロセスを考察し、現在形成されつつある中国の経営管理方式の特質を考察する。

中国における改革開放政策実施の究極的目標は、競争力のある企業の創出により経済発展を図り、国民生活を向上させることにある。中国企業は、改革・開放政策を実施して以後、政府主導の下で企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式・技術を吸収、習得し、進化してきた。かつての国営「工場」から、改革開放後の30数年間において、いかなるプロセスを経て多岐にわたる競争のある多様化の形態の企業を創出し得たのか、現状との問題点はなにか、どの程度まで進化を遂げたのか、中国企業の創出と成長の過程を考察することによって、現時点の中国企業の進化の到達点を把握し、今後の課題を検討する。

授業内容

第1回：中国企業の創出と進化
 第2回：国有企業の改革
 第3回：国有企業の技術形成
 第4回：国有企業の人材育成
 第5回：国有企業の労務管理
 第6回：民営企業の生成
 第7回：民営企業の成長
 第8回：民営企業の企業家
 第9回：民営企業の経営管理
 第10回：民営企業の地域制
 第11回：外資系企業の経営管理
 第12回：外資系企業の労務管理
 第13回：外資系企業の人材育成
 第14回：外資系企業の技術移転
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し、開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
 その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業でのレポートおよび期末レポートによる。

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN662J			
企業論系		備 考	
科 目 名	東アジア企業論演習ⅡB (MC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

この授業では、国有企業、民営企業、外資系企業の事例を中心に、その改革と成長の歴史を振り返るとともに、既存の経営管理方式の長所と短所を吟味し、外国企業の経営管理方式と融合するプロセスを考察し、現在形成されつつある中国の経営管理方式の特質を考察する。

中国における改革開放政策実施の究極的目標は、競争力のある企業の創出により経済発展を図り、国民生活を向上させることにある。中国企業は、改革・開放政策を実施して以後、政府主導の下で企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式・技術を吸収、習得し、進化してきた。かつての国営「工場」から、改革開放後の30数年間において、いかなるプロセスを経て多岐にわたる競争のある多様化の形態の企業を創出し得たのか、現状との問題点はなにか、どの程度まで進化を遂げたのか、中国企業の創出と成長の過程を考察することによって、現時点の中国企業の進化の到達点を把握し、今後の課題を検討する。

授業内容

第1回：国有企業の歴史
第2回：国有企業の事例研究(1)
第3回：国有企業の事例研究(2)
第4回：国有企業の事例研究(3)
第5回：国有企業の事例研究(4)
第6回：民営企業の生成
第7回：民営企業の事例研究(1)
第8回：民営企業の事例研究(2)
第9回：民営企業の事例研究(3)
第10回：民営企業の事例研究(4)
第11回：外資導入と外資系企業
第12回：合併企業の事例研究
第13回：独資企業の事例研究
第14回：外資系企業の事例研究
* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し、開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年 その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業でのレポートおよび期末レポートによる。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
企業論系		備 考	
科 目 名	中国企業事例研究特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

中国企業は改革・開放政策を実施して以降、国有企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式、技術を吸収し、習得することによって大きく変貌してきた。本特論では、日米欧諸国の企業に比較しながら、国有企業、民営企業、外資系企業等中国企業の事例を通じて、その管理方式の諸特質を考察し、それぞれの共通点、相違点等を検討する。

授業内容

第1回：講義の概要解説、院生の研究課題の把握
第2回：企業体制の国際比較
第3回：日米独の企業管理システム
第4回：中央国有企業の事例
第5回：地方国有電機企業の事例
第6回：新型国有自動車企業の事例
第7回：政経一体民営企業の事例
第8回：中小民営企業の事例
第9回：外向型の民営企業の事例
第10回：日系合併企業の事例
第11回：日系独資企業の事例
第12回：日系自動車企業の事例
第13回：日系自動車部品企業の事例
第14回：韓国系企業の事例
* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年 その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

討論参加・発表・レポートの状況など総合状況による評価。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN561J			
企業論系		備 考	
科 目 名	中国企業事例研究特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 経済学博士	郝 燕書	

授業の概要・到達目標

企業組織、雇用システム、生産システム、企業の技術形態、企業の経営文化、人材育成等諸側面において、欧米日諸国の企業の諸特徴に比較しながら、中国企業の実例研究を通じて、国有企業、民営企業、外資系企業の管理方式の諸特質を考察し、それぞれの共通点、相違点等を検討する。

授業内容

第1回：講義の概要を解説、院生の研究課題の把握
 第2回：企業体制の国際比較
 第3回：日米独の企業経営システム
 第4回：中央国有大企業の企業組織の事例
 第5回：地方国有企業の企業組織の事例
 第6回：新型国有自動車企業の技術形態の事例
 第7回：政経一体民営企業の技術形態の事例
 第8回：中小民営企業の生産システムの事例
 第9回：外向型の民営企業の販売形態の事例
 第10回：日系合併企業の技術移転の事例
 第11回：日系独資企業の人材育成の事例
 第12回：日系自動車企業の販売形態の事例
 第13回：日系自動車部品企業の企業文化の事例
 第14回：日系電機企業の人材育成の事例
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年 その他参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

討論参加・発表・レポートの状況など総合状況による評価。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
企業論系		備 考	
科 目 名	中小企業経営特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授	岡田 浩一	

授業の概要・到達目標

概要

日本の中小企業問題について、問題の解明と課題克服を目指し、歴史的視点をもって展開していく。
 合わせて海外から見た日本の中小企業の現状・経営動向について比較検討もしていく。

到達目標

中小企業問題の克服と個別企業の成長戦略策定をはかれるようにする。

授業内容

80年代、日本の経営、日本の生産システムが世界から注目された。日本の経営の3種の神器といえ、終身雇用、年功序列賃金、企業別労働組合であり、日本の生産システムといえ下請、系列であった。日本製品の海外市場席巻を目の当たりにした諸外国は、「その原動力がどこにあるのか」に興味を持ち、そして、日本の経営と日本の生産システムに注目したのである。しかし、日本では90年代に入りバブルははじけて以降、これらは崩壊してきているといわれる。ここでは、日本的といわれてきたものが、どのように変わってきているのかを中小企業経営の視点から捉えていく。

中小企業経営の実務やコンサルティング的な内容ではありません。

授業の進捗に関しては、およそ以下のような順で授業を進めていく。

第1回：導入(最近の中小企業の動向)
 第2回：中小企業の定義
 第3回：国民経済における中小企業の位置
 第4回：中小企業の存立形態
 第5回：中小企業問題の登場とその研究
 第6回：高度経済成長と中小企業近代化
 第7回：低成長期の中小企業
 第8回：バブル経済から今日の中小企業経営
 第9回：下請問題
 第10回：系列問題
 第11回：中小商業問題
 第12回：商店街と地域活性化
 第13回：国際化と中小企業
 第14回：情報化と中小企業

履修者との相談により項目内容の変更もあり。

履修上の注意

大学院の授業なので、ただ講義を聴くということではなく、履修者の研究報告をもとに議論していく場であることを理解した上で履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

開講時に提示する。

参考書

岡田編著『中小企業のIT経営論』同友館

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN511J			
企業論系		備 考	
科 目 名	中小企業経営特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

概要

日本の中小企業問題について、問題の解明と課題克服を目指す、歴史的視点をもって展開していく。

合わせて海外から見た日本の中小企業の現状・経営動向について比較検討もしていく。

到達目標

中小企業問題の克服と個別企業の成長戦略策定をはかれるようにする。

授業内容

かつて、中小企業研究は、ダークサイドとして中小企業を捉え、その保護育成を中心課題として展開されてきたが、最近の中小企業研究は、ベンチャービジネスに代表される成長・発展論が大きな部分を占めてきている。ベンチャービジネスとは何かという問題は別として、成長・発展する中小企業と、社会的・経済的弱者といわれる中小企業との間にはいかなる差異があるのか。この問いにたいする解答を模索していくことを一つの目的として、経済環境の変化のなかで如何に中小企業が生き残りをかけて事業を展開しているのかについてみていくことにする。ただし、中小企業経営の実務やコンサルティンク的な内容ではありません。

授業の進捗に関しては、およそ以下のような順で授業を進めていく。

第1回：導入

第2回：近年の中小企業・ベンチャービジネスの動向について

第3回：二重構造論と中堅企業論

第4回：ベンチャービジネス論登場とその経済的背景

第5回：ベンチャービジネス

第6回：ベンチャービジネス・ブーム

第7回：中小企業を巡る金融環境

第8回：ベンチャーキャピタルの現状

第9回：証券市場の動向

第10回：起業・創業環境の変化

第11回：中ボ企業のイノベーション

第12回：ベンチャービジネスの経営課題

第13回：課題克服に向けた戦略策定

第14回：中小企業政策とベンチャービジネス

履修者との相談により項目内容の変更もあり。

履修上の注意

大学院の授業なので、ただ講義を聴くということではなく、履修者の研究報告をもとに議論していく場であることを理解した上で履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマにかかわる学術論文の検索と熟読をしておくこと。

教科書

開講時に提示する。

参考書

岡田編著『中小企業のIT経営論』同友館

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-o! Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50％、参加貢献度50％

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN532J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	企業内教育論演習 I A (MC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆するための構想を行いながら、人事労務管理、および企業内教育の生成過程について学術的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ：大学院での学びについて

第2回 修士論文執筆計画の発表1

第3回 修士論文執筆計画の発表2

第4回 企業内教育に関する論文1

第5回 企業内教育に関する論文2

第6回 企業内教育に関する論文3

第7回 企業内教育に関する論文4

第8回 修士論文執筆計画の発表3

第9回 修士論文執筆計画の発表4

第10回 企業内教育に関する論文5

第11回 企業内教育に関する論文6

第12回 企業内教育に関する論文7

第13回 修士論文執筆計画の発表5

第14回 修士論文執筆計画の発表6

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

特に指定しない

参考書

特に指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN532J			
人事・労務系		備考	
科目名	企業内教育論演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆するための構想を行いながら、人事労務管理、および企業内教育の生成過程について学術的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 修士論文執筆計画の発表1
第3回 修士論文執筆計画の発表2
第4回 企業内教育に関する論文1
第5回 企業内教育に関する論文2
第6回 企業内教育に関する論文3
第7回 企業内教育に関する論文4
第8回 修士論文執筆計画の発表3
第9回 修士論文執筆計画の発表4
第10回 企業内教育に関する論文5
第11回 企業内教育に関する論文6
第12回 企業内教育に関する論文7
第13回 修士論文執筆計画の発表5
第14回 修士論文執筆計画の発表6

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

特に指定しない

参考書

特に指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN632J			
人事・労務系		備考	
科目名	企業内教育論演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆すること、および人事労務管理、および企業内教育の生成過程について学術的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 修士論文執筆計画の発表1
第3回 修士論文執筆計画の発表2
第4回 企業内教育に関する論文1
第5回 企業内教育に関する論文2
第6回 企業内教育に関する論文3
第7回 企業内教育に関する論文4
第8回 修士論文執筆計画の発表3
第9回 修士論文執筆計画の発表4
第10回 企業内教育に関する論文5
第11回 企業内教育に関する論文6
第12回 企業内教育に関する論文7
第13回 修士論文執筆計画の発表5
第14回 修士論文執筆計画の発表6

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

特に指定しない

参考書

特に指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN632J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	企業内教育論演習ⅡB (MC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆すること、および人事労務管理、および企業内教育の生成過程について学術的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 修士論文執筆計画の発表1
第3回 修士論文執筆計画の発表2
第4回 企業内教育に関する論文1
第5回 企業内教育に関する論文2
第6回 企業内教育に関する論文3
第7回 企業内教育に関する論文4
第8回 修士論文執筆計画の発表3
第9回 修士論文執筆計画の発表4
第10回 企業内教育に関する論文5
第11回 企業内教育に関する論文6
第12回 企業内教育に関する論文7
第13回 修士論文執筆計画の発表5
第14回 修士論文執筆計画の発表6

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

特に指定しない

参考書

特に指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN532J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	経営労務演習ⅠA (MC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

修士論文作成のための第一歩としての研究論文の作成とそのための基礎的事項の習得を到達目標とする。そのためには、どのようにテーマを設定すればよいのか、自分の興味関心はどこにあるのか、テーマが定まればどのようなステップで作業を進めればよいのかといったことを受講生が選択した文献の輪読と報告を通じて全員で学んでいく。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ 研究論文を書くとは
第2回 全受講生による問題関心事項の報告
第3回 輪読用文献の検討
第4回 輪読と報告1
第5回 輪読と報告2
第6回 輪読と報告3
第7回 輪読と報告4
第8回 輪読と報告5
第9回 輪読と報告6
第10回 輪読と報告7
第11回 輪読と報告8
第12回 輪読と報告9
第13回 輪読と報告10
第14回 輪読と報告11

履修上の注意

労務管理特論を受講することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読用文献の収集は受講生自らが提示することが求められる。また、報告時には輪読した内容だけでなく参考文献についてもリストを提示すること。

教科書

山崎憲著『はたらくことを問いなおす』(岩波書店2014年)

参考書

必要な参考資料や文献などは、適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、報告内容50%。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN532J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	経営労務演習ⅠB (MC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

経営労務演習ⅠAで収集，整理した参考文献を拡充するとともに，それらを活用した研究論文の作成ができるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回 インTRODakション
第2回 研究論文案報告1
第3回 研究論文案報告2
第4回 研究論文案報告3
第5回 研究論文案報告4
第6回 研究論文案報告5
第7回 研究論文案報告6
第8回 研究論文案報告7
第9回 研究論文案報告8
第10回 研究論文案報告9
第11回 研究論文案報告10
第12回 研究論文案報告11
第13回 研究論文案報告12
第14回 研究論文提出

履修上の注意

経営労務演習ⅠAを受講していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

経営労務演習ⅠAで収集した先行研究をもとに研究論文案を検討しておくこと。

教科書

石黒圭著『論文・レポートの基本』（日本実業出版社2012年）
清水幾多郎著『論文の書き方』（岩波新書1959年）

参考書

必要な参考資料や文献などは，適宜，指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において，随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%，報告内容50%。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN632J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	経営労務演習ⅡA (MC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

修士論文作成には，テーマ設定，先行研究整理，研究方法の設定という段階を踏む必要がある。経営労務演習Ⅱは修士論文作成を到達目標とするが，Aでは先行研究整理からテーマ設定，章立てといったドラフトを作成することを目指す。そのために，受講生のテーマに沿った参考文献の輪読およびドラフトの報告を通じて全員で学んでいくこととする。

授業内容

第1回 インTRODakション
第2回 全受講生によるテーマ案の報告
第3回 輪読と報告1
第4回 輪読と報告2
第5回 修士論文ドラフト報告1
第6回 輪読と報告3
第7回 輪読と報告4
第8回 修士論文ドラフト報告2
第9回 輪読と報告5
第10回 輪読と報告6
第11回 修士論文ドラフト報告3
第12回 輪読と報告7
第13回 輪読と報告8
第14回 修士論文ドラフト報告4

履修上の注意

労務管理特論を受講していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

先行研究の整理を日常的に行うこと。

教科書

石黒圭著『論文・レポートの基本』（日本実業出版社2012年）
清水幾多郎著『論文の書き方』（岩波新書1959年）

参考書

必要な参考資料や文献などは，適宜，指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において，随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%，報告内容50%。

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN632J			
人事・労務系		備考	
科目名	経営労務演習ⅡB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

修士論文完成を到達目標として、受講生のテーマに沿った参考文献の輪読を通じてドラフトをブラッシュアップさせていくとともに、実際に論文を執筆しその内容を報告することで全員で学んでいく。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 輪読と報告1
第3回 輪読と報告2
第4回 修士論文ドラフト報告1
第5回 輪読と報告3
第6回 輪読と報告4
第7回 修士論文ドラフト報告2
第8回 輪読と報告5
第9回 輪読と報告6
第10回 修士論文ドラフト報告3
第11回 輪読と報告7
第12回 輪読と報告8
第13回 修士論文案プレゼン1
第14回 修士論文案プレゼン2

履修上の注意

労務管理特論を受講していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

先行研究の整理を日常的に行うこと。

教科書

石黒圭著『論文・レポートの基本』（日本実業出版社2012年）
清水幾多郎著『論文の書き方』（岩波新書1959年）

参考書

必要な参考資料や文献などは、適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、報告内容50%。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) IND512J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係演習ⅠA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

学術書並びに学術誌に掲載の、査読つき論文を中心に、雇用労働についての研究論文をとりあげ、輪読し検討する。演習で取り上げる論文は、受講生が決めることとする。論文内容だけでなく、「どこが研究として優れているのか」や論文の書き方について、受講生の理解が深まることを企図する。

授業内容

第1回：社会問題論文
第2回：貧困問題論文
第3回：労働時間論文
第4回：労務管理論文
第5回：人的資源管理論文
第6回：労働組合論文
第7回：国際的労使関係論文
第8回：コミュニティ・オーガナイズング論文
第9回：労働運動論文
第10回：労使関係論文
第11回：労働教育論文
第12回：労働政策論文
第13回：雇用理論論文
第14回：労働行政論文

履修上の注意

予習と出席が重要。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の参考書リストに挙げたテキストの予習と出席が重要。

教科書

鈴木好和(2025)『人的資源管理論(第7版)』創成社を当該研究分野の総合カタログ的に、研究テーマの探索過程で活用する。

参考書

石塚史樹(2008)『現代ドイツ企業の管理層職員の形成と変容』明石書店。
首藤若菜(2017)『グローバル化の中の労使関係』ミネルヴァ書房。
鈴木好和(2022)『人的資源管理(第6版)』創文社。
仁田道夫・中村圭介・野川忍(2021)『労働組合の基礎：働く人の未来をつくる』日本評論社。
マースデン著、宮本光晴・久保克行訳(2007年)『雇用システムの理論』NTT出版。
山内麻理(2013)『雇用システムの多様化と国際的収斂』慶應義塾大学出版会。
その他多数。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加の積極性50点と期末の課題レポート50点で評価。

その他

なし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) IND512J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

学術誌に掲載の、査読つき論文を中心に、雇用労働についての研究論文をとりあげ、輪読し検討する。演習で取り上げる論文は、受講生が決めることとする。論文内容だけでなく、「どこが研究として優れているのか」や論文の書き方について、受講生の理解が深まることを企図する。

授業内容

第1回：社会問題論文
第2回：貧困問題論文
第3回：労働時間論文
第4回：労務管理論文
第5回：人的資源管理論文
第6回：労働組合論文
第7回：労働者組織論文
第8回：人事組織論文
第9回：労働運動論文
第10回：労使関係論文
第11回：労働教育論文
第12回：労働政策論文
第13回：労働市場論文
第14回：労働行政論文

履修上の注意

予習と出席が重要。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の参考書リストに挙げたテキストの予習と出席が重要。

教科書

鈴木好和(2025)『人的資源管理論(第7版)』創成社を当該研究分野の総合カタログ的に、研究テーマの探索過程で活用する。

参考書

一守靖(2016)『日本の雇用関係は変化しているのか—本社人事部の役割』慶応義塾大学出版会。
服部泰宏(2013)『日本企業の心理的契約(増補改訂版)』白桃書房。
宮本光晴(2014)『日本の企業統治と雇用制度のゆくえ—ハイブリッド組織の可能性』ナカニシヤ出版。
三輪卓己(2015)『知識労働者の人的資源管理』中央経済社。
山崎憲(2014)『「働くこと」を問い直す』岩波新書。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加の積極性50点と期末の課題レポート50点で評価。

その他

なし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) IND612J			
人事・労務系		備考	
科目名	労使関係演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

学術誌に掲載の、査読つき論文を中心に、雇用労働についての研究論文をとりあげ、輪読し検討する。演習で取り上げる論文は、受講生が決めることとする。論文内容だけでなく、「どこが研究として優れているのか」や論文の書き方について、受講生の理解が深まることを企図する。

授業内容

第1回：社会問題論文
第2回：貧困問題論文
第3回：労働時間論文
第4回：労務管理論文
第5回：人的資源管理論文
第6回：労働組合論文
第7回：労働者組織論文
第8回：労働NPO論文
第9回：労働運動論文
第10回：労使関係論文
第11回：労働教育論文
第12回：労働政策論文
第13回：労働市場論文
第14回：労働行政論文

履修上の注意

予習と出席が重要。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の参考書リストに挙げたテキストの予習と出席が重要。

教科書

鈴木好和(2025)『人的資源管理論(第7版)』創成社を当該研究分野の総合カタログ的に、研究テーマの探索過程で活用する。

参考書

石田光男(1990)『賃金の社会科学：日本とイギリス』中央経済社。
石田光男(2003)『仕事の社会科学：労働研究のフロンティア』ミネルヴァ書房。
石田光男・樋口純平(2009)『人事制度の日米比較：成果主義とアメリカの現実』ミネルヴァ書房。
石田光男・富田義典・三谷直紀(2009)『日本自動車企業の仕事・管理・労使関係：競争力を維持する組織原理』中央経済社。
石田光男・篠原健一編著『GMの経験：日本への教訓』中央経済社。
石田光男、上田眞士編著(2022)『パナソニックのグローバル経営：仕事と報酬のガバナンス』ミネルヴァ書房。
石田光男(2013)『仕事と賃金のルール：「働き方改革」の社会的対話に向けて』法律文化社。
石塚史樹(2008 a)『現代ドイツ企業の管理層職員の形成と変容』明石書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加の積極性50点と期末の課題レポート50点で評価。

その他

なし

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) IND612J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	労使関係演習ⅡB (MC)		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

学術誌に掲載の、査読つき論文を中心に、雇用労働についての研究論文をとりあげ、輪読し検討する。演習で取り上げる論文は、受講生が決めることとする。論文内容だけでなく、「どこが研究として優れているのか」や論文の書き方について、受講生の理解が深まることを企図する。

授業内容

第1回:社会問題論文
第2回:貧困問題論文
第3回:労働時間論文
第4回:労務管理論文
第5回:人的資源管理論文
第6回:労働組合論文
第7回:労働者組織論文
第8回:労働NPO論文
第9回:労働運動論文
第10回:労使関係論文
第11回:労働教育論文
第12回:労働政策論文
第13回:労働市場論文
第14回:労働行政論文

履修上の注意

予習と出席が重要。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の参考書リストに挙げたテキストの予習と出席が重要。

教科書

鈴木好和(2025)『人的資源管理論(第7版)』創成社を当該研究分野の総合カタログ的に、研究テーマの探索過程で活用する。

参考書

石田光男(1990)『賃金の社会科学：日本とイギリス』中央経済社。
石田光男(2003)『仕事の社会科学：労働研究のフロンティア』ミネルヴァ書房。
石田光男・樋口純平(2009)『人事制度の日米比較：成果主義とアメリカの現実』ミネルヴァ書房。
石田光男・富田義典・三谷直紀(2009)『日本自動車企業の仕事・管理・労使関係：競争力を維持する組織原理』中央経済社。
石田光男、篠原健一編著『GMの経験：日本への教訓』中央経済社。
石田光男、上田眞士編著(2022)『パナソニックのグローバル経営：仕事と報酬のガバナンス』ミネルヴァ書房。
石田光男(2013)『仕事と賃金のルール：「働き方改革」の社会的対話に向けて』法律文化社。
石塚史樹(2008 a)『現代ドイツ企業の管理層職員の形成と変容』明石書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加の積極性50点と期末の課題レポート50点で評価。

その他

なし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) PSY592J			
人事・労務系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経営心理学演習ⅠA (MC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。したがって、研究理論、研究方法も多様であるが、本演習では受講生の研究関心を確認したうえで、その研究活動上必要となる知識・技能の習得をめざす。

〈到達目標〉

修士論文作成に必要な基礎力をつけるのが目的である。具体的には、文献を輪読し、研究にとって必要な視点を養成する。1年生の年末の段階で、1万字程度の学術論文を作成し、2年生の年末の段階で修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

受講生の研究テーマにそった文献収集・解読、研究方法論の理解のための書籍輪読を中心に、可能であれば学内や学会・研究会等での発表を目標とした論文作成を行う。

おおよそのスケジュールは以下のとおりであるが、演習という性格上、変動する場合がある。

第1回 研究のための準備
第2回 組織行動研究の俯瞰
第3回 「知っている」ということについて
第4回 概念と理論
第5回 組織行動の測定
第6回 リーダーシップ
第7回 組織の中の公正
第8回 欲求とモチベーション
第9回 人的資本、社会関係資本、心理的資本
第10回 組織と個人の心理的契約
第11回 組織コミットメント、ジョブ・エンベデッドネス
第12回 組織行動の成果
第13回 2つの知のサイクルが共振する共同研究
第14回 組織行動研究のレリバンスを求めて

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションには『Oh-ol Meiji』を積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

以下の文献をもとに経営学・経営心理学の基礎知識を理解していること。

- 『マネジメントの心理学』(中西晶著)日科技連出版社 2014。
- 『経営学への扉』(明治大学経営学研究会著)白桃書房 2015。

以下の文献等を参考に論理的思考の基礎ができていないこと。
『論理ノート』(DQ:マキナー、水谷淳 著)ダイヤモンド社 2005。

研究に必要な情報リテラシーを備えていること。
(検索、文書作成、プレゼンテーション、表計算等)
受験時に作成した研究計画書に関連する参考文献を紹介できること。

教科書

『組織行動論の考え方・使い方－良質のエビデンスを手にするために』(服部泰宏著)有斐閣、2020。

参考書

『マネジメント研究への招待』(須田敏子著)中央経済社、2019。
『社会科学の考え方－認識論、リサーチ・デザイン、手法－』(野村康著)名古屋大学出版会、2017。
その他、受講者の研究関心に合わせて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションの中でフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、論文内容40%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) PSY592J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営心理学演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。したがって、研究理論、研究方法も多様であるが、本演習では受講生の研究関心を確認したうえで、その研究活動上必要となる知識・技能の習得をめざす。

〈到達目標〉

修士論文作成に必要な基礎力をつけるのが目的である。具体的には、1年生の年末の段階で、1万字程度の学術論文を作成し、2年生の年末の段階で修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

受講生の研究テーマにそった文献収集・解説、研究方法論の理解を中心に、可能であれば学内や学会・研究会等での発表を目標とした論文作成を行う。

おおよそのスケジュールは以下のとおりであるが、演習という性格上、変動する場合がある。

- 第1回：研究進捗状況の確認
- 第2回：学術研究論文の作成準備
- 第3回：研究のためのディスカッション1
- 第4回：研究のためのディスカッション2
- 第5回：研究のためのディスカッション3
- 第6回：研究のためのディスカッション4
- 第7回：研究のためのディスカッション5
- 第8回：研究のためのディスカッション6
- 第9回：研究のためのディスカッション7
- 第10回：研究のためのディスカッション8
- 第11回：研究のためのディスカッション9
- 第12回：研究のためのディスカッション10
- 第13回：研究のためのディスカッション11
- 第14回：1年次研究成果発表

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションには『Oh-ol Meiji』やGooglegroupを積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

春学期の段階で、修士論文に向けての研究計画が演習のなかでレビューされていること。

授業開始までに、修士論文研究に必要なコア文献を読み込み、授業内で批判的に紹介できる準備ができていくこと。

教科書

受講生個々の関心と成熟度に合わせて選択する。

参考書

受講者の研究関心に合わせて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションおよび論文添削においてフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、論文内容40%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) PSY692J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営心理学演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。したがって、研究理論、研究方法も多様であるが、本演習では受講生の研究関心を確認したうえで、その研究活動上必要となる知識・技能の習得をめざす。

〈到達目標〉

修士論文作成に必要な基礎力をつけるのが目的である。具体的には、1年生の年末の段階で完成させた1万字程度の学術論文をもとに、修士論文作成のために必要な文献レビュー、調査分析等を行い、2年生の年末の段階で修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

受講生の研究テーマにそった文献収集・解説、研究方法論の理解を中心に、可能であれば学内や学会・研究会等での発表を目標とした論文作成を行う。

おおよそのスケジュールは以下のとおりであるが、演習という性格上、変動する場合がある。

- 第1回：研究進捗状況の確認
- 第2回：研究計画のリバイズ
- 第3回：研究計画の確認
- 第4回：研究のためのディスカッション1
- 第5回：研究のためのディスカッション2
- 第6回：研究のためのディスカッション3
- 第7回：研究のためのディスカッション4
- 第8回：研究のためのディスカッション5
- 第9回：研究のためのディスカッション6
- 第10回：研究のためのディスカッション7
- 第11回：研究のためのディスカッション8
- 第12回：研究のためのディスカッション9
- 第13回：研究のためのディスカッション10
- 第14回：まとめと修士論文に向けての作業計画

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションには『Oh-ol Meiji』やGooglegroupを積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

1年次の段階で、1万字程度の学術研究論文を作成し、レビューを受けていくこと。

教科書

受講生個々の関心と成熟度に合わせて選択する。

参考書

受講者の研究関心に合わせて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションおよび論文添削においてフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、論文内容40%

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) PSY692J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営心理学演習ⅡB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	中西 晶	

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、産業・組織心理学、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。したがって、研究理論、研究方法も多様であるが、本演習では受講生の研究関心を確認したうえで、その研究活動上必要となる知識・技能の習得をめざす。

〈到達目標〉

修士論文作成に必要な基礎力をつけるのが目的である。具体的には、1年生の年末の段階で、1万字程度の学術論文を作成し、2年生の年末の段階で修士論文を完成させることを目標とする。演習ⅡBでは、修士論文の提出を持って目標達成とする。

授業内容

受講生の研究テーマにそった文献収集・解説、研究方法論の理解を中心に、可能であれば学内や学会・研究会等での発表を目標とした論文作成を行う。

おおよそのスケジュールは以下のとおりであるが、演習という性格上、変動する場合がある。

- 第1回：研究進捗状況の確認
- 第2回：修士論文目次案の提出
- 第3回：研究のためのディスカッション1
- 第4回：研究のためのディスカッション2
- 第5回：研究のためのディスカッション3
- 第6回：研究のためのディスカッション4
- 第7回：研究のためのディスカッション5
- 第8回：研究のためのディスカッション6
- 第9回：研究のためのディスカッション7
- 第10回：研究のためのディスカッション8
- 第11回：研究のためのディスカッション9
- 第12回：研究のためのディスカッション10
- 第13回：修士論文の完成
- 第14回：口頭試問にむけての振り返り

履修上の注意

レジュメやレポートの提出、ディスカッションには『Oh-ol Meiji』やGooglegroupを積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

1年次の段階で、1万字程度の学術研究論文を作成していること。

その他、修士論文研究に必要な文献レビュー、調査分析が完了していること。

教科書

受講生個々の関心と成熟度に合わせて選択する。

参考書

受講者の研究関心に合わせて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションおよび論文添削においてフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表30%、授業への参加度30%、論文内容40%

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備考	
科目名	労務管理特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学)	山崎 憲	

授業の概要・到達目標

日本企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化とAI、IoTといった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。そのなかで長時間労働の削減や過労死・ハラスメントの防止、非正規労働者の処遇改善、男女の労働条件格差の是正といった働く側の課題から、才能のある人材を採用する方法、そうした人材を確保し続けるための報酬や評価の仕組みなど、人事労務管理、人的資源管理を通じて企業の競争力をどうやって高めていくのかといった働かせる側の課題の解決にむけた方策を検討していく。

到達目標は課題解決にむけた理論的フレームワークを身に着けることである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：人事労務管理概観
- 第2回 産業革命とテラーシステム1
- 第3回 産業革命とテラーシステム2
- 第4回 ウェルフェアマネジメント
- 第5回 人間関係管理
- 第6回 フォード生産システム
- 第7回 フォード生産システムと労務管理
- 第8回 ニューディール体制と人事労務管理1
- 第9回 ニューディール体制と人事労務管理2
- 第10回 経営環境と人事労務管理の変化1
- 第11回 経営環境と人事労務管理の変化2
- 第12回 人事労務管理と人的資源管理
- 第13回 企業の国際化の進展と人事労務管理
- 第14回 企業経営と人事労務管理の社会的役割

履修上の注意

労務管理特論Bを受講することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の予習および関連参考文献を調べておくこと。

教科書

守屋隆司・中村艶子・橋場俊展(編著)『価値創発(EVP)時代の人的資源管理-Industry4.0の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房 2018年

参考書

黒田兼一・山崎憲『フレキシブル人事の失敗』旬報社 2012年
そのほか授業で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、発表内容50%。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備考	
科目名	労務管理特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

日本企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化とAI、IoTといった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。企業競争力の向上のみならず、持続可能な経済成長や働く側のキャリア育成とやりがい、地域社会における役割など人事労務管理に求められる範囲が拡大している。その一方で、RPA (Robotic Process Automation) の導入が進むなど人事労務管理にはより高度なスキルが求められるようになっていく。これらを検討することを通じて、課題解決にむけたフレームワークを身に着けることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 AIとプラットフォームビジネス1
- 第3回 AIとプラットフォームビジネス2
- 第4回 AIとプラットフォームビジネス3
- 第5回 日本的経営と人事労務管理1
- 第6回 日本的経営と人事労務管理2
- 第7回 日本的経営と人事労務管理3
- 第8回 働き方改革と成長戦略1
- 第9回 働き方改革と成長戦略2
- 第10回 働き方改革と成長戦略3
- 第11回 雇用システムの各国比較1
- 第12回 雇用システムの各国比較2
- 第13回 雇用システムの各国比較3
- 第14回 地域社会とのつながり

履修上の注意

労務管理特論Aを受講していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考文献等の整理を行っておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、発表内容50%。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ECN591J			
人事・労務系		備考	
科目名	労働経済特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

労働市場・労働組織・雇用システムの構造とその国際比較という観点から、労働経済学の基本的概念の理解をふかめるため、教科書・参考書を輪読する。

授業内容

- 第1回 目的と構成
- 第2回 内部労働市場と外部労働市場
- 第3回 日本の働き方、世界の働き方
- 第4回 「能力主義」的人事管理
- 第5回 「日本的雇用」は本当に特殊なのか：ドイツとの比較
- 第6回 雇用システムの変化を起こすもの
- 第7回 労働力の移動・転職
- 第8回 「学歴」を巡る問題
- 第9回 労働市場の二重構造の事例研究
- 第10回 労働組織を支える制度的補完性
- 第11回 集権的労使関係と労働経済
- 第12回 労働組織と知識
- 第13回 事業再構築と労働市場
- 第14回 まとめ

履修上の注意

参加者と合意の上、教科書・参考書を輪読とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の参考書リストに挙げたテキストの予習をしない受講は、十分な理解ができないことに注意。

教科書

鈴木好和(2025)『人的資源管理論(第7版)』創成社を当該研究分野の総合カタログ的に、研究テーマの探索過程で活用する。

参考書

石塚史樹(2008)『現代ドイツ企業の管理層職員の形成と変容』明石書店。
 石塚史樹他(2020)『福祉国家の転換―連携する労働と福祉』旬報社。
 石田光男、樋口純平(2009)『人事制度の日米比較』ミネルヴァ書房。
 グラノベッター著・渡辺深訳(1998)『転職：ネットワークとキャリアの研究』ミネルヴァ書房。
 首藤若菜(2017)『グローバル化の中の労使関係』ミネルヴァ書房。
 竹内洋(1995)『日本のメロトクラシー：構造と心性』東京大学出版会。
 野中郁次郎・勝見明(2004)『イノベーションの本質』日経BP社。
 野村正實(1993)『トヨタイズム』ミネルヴァ書房。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加の積極性50点と期末の課題レポート50点で評価。

その他

なし

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	賃金管理特論		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経済学) 石塚 史樹		

授業の概要・到達目標

賃金および人事制度が大きく変化しようとしている現状について、国際比較の観点を踏まえ、理論・現状の両面から理解をふかめることを目的とする。著書を輪読する形式でおこなう。

授業内容

第1回：賃金の歴史1
第2回：賃金の歴史2
第3回：賃金を巡る諸理論
第4回：賃金とモチベーション
第5回：目標管理と賃金
第6回：賃金格差の問題：衡平性の観点から
第7回：正規労働者の賃金
第8回：非正規労働者の賃金
第9回：賃金制度改革の動向
第10回：賃金形態の分類：能力給・職務給・役割給を中心に
第11回：「成果主義賃金」とは何か
第12回：同一価値労働同一賃金の問題：「仕事」本来の性格を考えて
第13回：成果主義から「No Rating」への動き
第14回：まとめ

履修上の注意

春学期の労働経済特論を受講していることが非常に望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の参考書リストに挙げたテキストの十分な予習をすること。

教科書

鈴木好和(2025)『人的資源管理論(第7版)』創成社を当該研究分野の総合カタログ的に、研究テーマの探索過程で活用する。

参考書

石塚史樹(2009)「事業再構築におけるドイツ管理層職員の俸給構造の変動」『大原社会問題研究所雑誌』
労働政策研究・研修機構(2016)『米国・ドイツ企業の雇用管理の変化と実態—日本における職務限定正社員制度における参考として—』JILPT資料シリーズ、No.173。
佐野嘉秀(2021)『英国の人事管理・日本の人事管理』東京大学出版会。
鈴木良始(2017)「アメリカ企業における業績評価制度の変革運動とその背景」『同志社商学』。
高橋伸夫(2004)『虚妄の成果主義—日本型年功制復活のススメ』日経BP社。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加の積極性50点と期末の課題レポート50点で評価。

その他

なし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	人材育成特論		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

人材育成に関する学術的な研究に触れ、体系的に理解する。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 研究の中の能力開発とキャリア
第3回 多様な職業訓練・能力開発1 職業教育と福祉
第4回 多様な職業訓練・能力開発2 文献紹介『コマンド・カルチャー』
第5回 日本の職業教育訓練1(明治～敗戦) 隅谷三喜男(1971)『日本職業訓練発展史』(上・下)より
第6回 日本の職業教育訓練2(戦後)
第7回 教育訓練制度の国際比較1
第8回 教育訓練制度の国際比較2
第9回 各論の論文1
第10回 各論の論文2
第11回 各論の論文3
第12回 各論の論文4
第13回 各論の論文5
第14回 まとめ

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったか検討してくること。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備考	
科目名	人的資源開発特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経営学) 早川 佐知子		

授業の概要・到達目標

企業内教育、人的資源開発に関する学術的な研究に触れ、体系的に理解する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
 第2回 能力主義は本当に人を幸せにするのか？
 第3回 『暴走する能力主義－教育と現代社会の病理』1
 第4回 『暴走する能力主義－教育と現代社会の病理』2
 第5回 関連文献の紹介
 第6回 『暴走する能力主義－教育と現代社会の病理』3
 第7回 研究報告
 第8回 『ジョブ型雇用社会とは何か』1
 第9回 『ジョブ型雇用社会とは何か』2
 第10回 『ジョブ型雇用社会とは何か』3
 第11回 『ジョブ型雇用社会とは何か』4
 第12回 関連文献の紹介
 第13回 研究報告
 第14回 まとめ

履修上の注意

予定されている教材は必ず読み、自分なりの感想や意見、疑問点などを用意してくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

その都度学習したことを踏まえ、自らの修士論文にどのような示唆があったかを検討してくること。

教科書

中村高康(2018)『暴走する能力主義－教育と現代社会の病理』(ちくま新書)

→学校教育からのつながりの中で、能力主義評価について考える。

濱口桂一郎(2021)『ジョブ型雇用社会とは何か』(岩波新書)

→流行語のようにになっているジョブ型雇用については是非を考える。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

個別指導など

成績評価の方法

授業内での研究報告(100%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) PSY591J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	産業・組織心理学特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業概要〉

経営心理学、産業・組織心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。関連する分野は、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、集団心理学、社会心理学、消費者行動論など多岐にわたる。本講義では、組織内外で生じる経営心理学的現象を見ていく。具体的には、教科書を輪読し、ディスカッションを行うという形で進める。

〈到達目標〉

産業・組織心理学特論においては授業全体を通じて産業・組織心理学分野で使用する概念が理解できるようにしたい。

授業内容

以下のようなスケジュールで考えている。

- 第1回 産業・組織心理学とは
 第2回 人事の心理学
 第3回 キャリア開発
 第4回 人間関係と働き方
 第5回 組織行動とリーダーシップ
 第6回 モチベーション
 第7回 作業安全
 第8回 ストレスとメンタルヘルス
 第9回 インターフェースと設計
 第10回 消費者行動
 第11回 事例研究(1)
 第12回 事例研究(2)
 第13回 事例研究(3)
 第14回 まとめ

履修上の注意

基本的な用語については、原語(英語)も対応させながら学習するので、必要ならば辞書持参のこと。

レジュメやレポートの提出、ディスカッションにはOh-o! Meijiを積極的に利用する予定なので、操作に慣れておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

経営学・経営心理学の基礎知識を理解していること。

教科書

『産業・組織心理学を学ぶ: 心理職のためのエッセンシャルズ(産業・組織心理学講座 第1巻)』(金井篤子編著)北大路書房, 2019。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションでフィードバックする。

成績評価の方法

授業内での発表60%、授業への参加度40%。

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN551J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	ナレッジ・マネジメント特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

現代は、知識社会・情報社会と呼ばれる。だからこそ、現代の経営の基盤をなすものとして、知識や学習のマネジメントが重要である。この授業では、代表的な文献を精読し、その研究の貢献と課題を批判的に理解することができるような目線が向上することをめざす。今年度は、近年、学習や創造性、危機管理などの点から注目されているエドモンドソンの心理的安全性について、著書『恐れのない組織』を輪読することで検討していく。また、それを材料にグループ・ディスカッションも行う。

〈到達目標〉

心理的安全性に関する概念がわかり、ビジネスの現場における現象について、分析・説明することができるようになることが目標である。

授業内容

以下のような予定で考えている。()内は教科書の対応する章を示している。

- 第1回 授業の位置づけ
- 第2回 心理的安全性とは(第1章 土台)
- 第3回 関連研究(第2章 研究の軌跡)
- 第4回 失敗の回避(第3章 回避できる失敗)
- 第5回 沈黙の危険性(第4章 危険な沈黙)
- 第6回 恐れのない職場とは(第5章 フィアレスな職場)
- 第7回 組織安全と心理的安全性(第6章 無事に)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 心理的安全性の実現(第7章 実現させる)
- 第10回 心理的安全性の将来(第8章 次に何が起きるのか)
- 第11回 関連論文の探索(1)
- 第12回 関連論文の探索(2)
- 第13回 関連論文の探索(3)
- 第14回 全体のディスカッション

履修上の注意

グループディスカッションを行うので、他の受講者との情報交換が必要になる。

準備学習(予習・復習等)の内容

学部卒レベルの経営学の知識(本学部テキスト『経営学への扉』等参照)を備えていること。

毎回、授業までに少なくとも教科書を読み、自分なりにまとめていること。

基本的な情報リテラシーを備えていること。

教科書

『恐れのない組織』エドモンドソン著、英知出版、2021。

参考書

授業時に関連文献、サイト等を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションでフィードバックする。

成績評価の方法

発表30%、ディスカッションへの貢献度30%、最終レポート40%。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN531J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	労務監査特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(経営学) 田村 豊		

授業の概要・到達目標

本講義では、労務監査の役割と今後の評価体系の深化と発展を、現在の経営環境、社会環境など様々な観点から検討をくわえ、これからの企業活動、労働市場、社会にとって労務監査がどのような役割を果たすのか明らかにしていきたい。とりわけ①ジョブ型雇用、リモートワークに示される労働力活用の新たな変化を見据え、日本企業の経営、人事についての基本的考え方を検討し、どのように労務監査の視点から把握するのか検討する。②マクロ的な視点からも雇用状況の流れを追い、企業での人材活用との接点を検討し、③①、②の検討を踏まえ、これからの企業戦略と労務監査展開の必要条件と十分条件を探る。以上3点に配慮し講義を進めたい。講義のポイントは、これからの企業経営が必要とする人的リソースの管理と人材活用の方策、それらと企業展開との関係性、および従来の日本的雇用モデルとはどのような関係にあるのか検討する。統合報告書の構成要素なども踏まえ、国際的な視野からも将来の新たな労務監査論の基本骨格を検討していきたい。

授業内容

- 第1回:講義の概要説明
- 第2回:労務監査論のねらい
- 第3回:労務監査論の概要
- 第4回:労務監査論の歴史—日本
- 第5回:労務監査論の構成—企業評価に必要な基本的知識1
- 第6回:労務監査論の構成—企業評価に必要な基本的知識2
- 第7回:労務監査論の構成—企業評価に必要な基本的知識3
- 第8回:日本企業と人事管理—欧米企業との比較を通じて—賃金
- 第9回:日本企業と人事管理—欧米企業との比較を通じて—処遇
- 第10回:人的資源管理論—概要
- 第11回:人的資源管理論—歴史
- 第12回:企業評価とCSR報告書
- 第13回:企業評価と統合報告書
- 第14回:まとめ—企業評価のこれから

履修上の注意

講義への参加者には日本企業の経営、またその労務管理に関心のある方、社会保険労務士の方などを想定している。講義では書籍、論文の輪読、その上で各参加者の意見や見解を基礎にして討論を進める。参加者の積極的参加を望みたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義開始時点で、必要な文献や論文の紹介を行ない、輪読などについても説明するので、参加者は準備し報告に備えてほしい。

教科書

必要に応じて、資料を配布する。

参考書

日本労務管理研究センター労務監査開発研究会編『経営労務監査の手法』(中央経済社)
経営労務監査研究会[監修]『経営労務監査の実務』(中央経済社)第2版
淡路圓治郎監修『労務監査ハンドブック』(ダイヤモンド社)他
(なお必要に応じて文献、新聞などを随時指示する)

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

出席者の報告内容、授業での発言などを総合的に判断し、評価を行う。

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) LAW591J			
人事・労務系		備考	
科目名	ADR論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		内藤 忍

授業の概要・到達目標

ADR論Aでは、ADR（裁判外紛争処理）のしくみや関係する法の総論を学ぶ。基本的に、参加者の報告後、ディスカッションを行う形で授業を進める。

民事紛争処理システム全体におけるADRの位置を理解すること、ADRの意義を考えることを授業のねらいとする。

授業内容

第1回：イントロダクション「ADRとは」(授業計画の説明含む)
 第2回：交渉と合意（参考書(1)1章）
 第3回：紛争処理の全体システム（参考書(1)3章）
 第4回：ADR総論（参考書(1)4章）
 第5回：ADRの意義1（参考書(2)1章）
 第6回：ADRの意義2（参考書(2)1章）
 第7回：ADRの主体・手続・解決基準（参考書(2)2章）
 第8回：裁判は何のためにあるか（参考書(1)6章）
 第9回：裁判制度の構造的課題（参考書(1)7章）
 第10回：裁判官の役割とは（参考書(1)11章）
 第11回：ADRと裁判（参考書(2)3章）
 第12回：ADRの法制（参考書(2)4章）
 第13回：行政型ADR1（参考書(2)5章）
 第14回：行政型ADR2（参考書(2)5章）

履修上の注意

- ・隔週土曜日2時限分を予定している。
- ・受講者には、明確な受講目的と積極的な授業参加態度（報告、ディスカッション）を期待する。
- ・具体的な授業内容は、初回などに、受講者の関心・要望も参考にして決めるので、参考書は事前に購入しなくてよい。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・報告担当者は、あらかじめ指定する関連資料にしっかり目を通し、レジュメ等の準備をすること。
- ・報告をしない参加者は、指定の文献を必ず読んで、授業に臨むこと。

教科書

なし

参考書

- (1)『交渉と紛争処理』和田仁孝ほか編（日本評論社、2002年）
 - (2)『ADR仲裁法』山本和彦・山田文（第2版）（日本評論社、2015年）
 - (3)『民事紛争処理論』和田仁孝（信山社、1994年）
- ほか、必要に応じて書籍・論文等を指示する。
 具体的な授業内容は、初回などに、受講者の関心・要望も参考にして決めるので、これらの参考書は事前に購入しなくてよい。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

成績は、授業・ディスカッションへの参加度50%、報告の内容50%によって評価する。

その他

紛争とは何か、「解決」とは何か、ともに考えられればと思います。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) LAW591J			
人事・労務系		備考	
科目名	ADR論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師		内藤 忍

授業の概要・到達目標

ADR論Bでは、ADR（裁判外紛争処理）のしくみや関係する法の各論や、労働分野のADRについて学ぶ。基本的に、参加者の報告後、ディスカッションを行う形で授業を進める。

調停や仲裁、各分野のADRについて学び、ADRの今後の課題を考えることを授業のねらいとする。

授業内容

第1回：調停総論
 第2回：司法型調停
 第3回：民間型調停
 第4回：仲裁総論
 第5回：仲裁法の概要
 第6回：国際仲裁の諸問題
 第7回：紛争類型とADR
 第8回：企業内紛争処理
 第9回：労働局の紛争処理
 第10回：労働委員会の紛争処理
 第11回：社会保険労務士とADR
 第12回：諸外国の個別労働紛争解決システム（イギリス）
 第13回：ADR手続き上の課題
 第14回：ADRの今後の課題

履修上の注意

- ・隔週土曜日2時限分を予定している。
- ・受講者には、明確な受講目的と積極的な授業参加態度（報告、ディスカッション）を期待する。
- ・具体的な授業内容は、初回などに受講者の関心・要望も参考にして決めるので、参考書は事前に購入しなくてよい。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・報告担当者は、あらかじめ指定する関連資料にしっかり目を通し、レジュメ等の準備をすること。
- ・報告をしない参加者は、指定の文献を必ず読んで、授業に臨むこと。

教科書

なし

参考書

- (1)『ADR仲裁法』山本和彦・山田文（第2版）（日本評論社、2015年）
 - (2)『労働紛争処理法』山川隆一（弘文堂、2012年）
- ほか、必要に応じて書籍・論文等を指示する。
 具体的な授業内容は、初回などに、受講者の関心・要望も参考にして決めるので、これらの参考書は事前に購入しなくてよい。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

成績は、授業・ディスカッションへの参加度50%、報告の内容50%によって評価する。

その他

紛争とは何か、「解決」とは何か、ともに考えられればと思います。

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN582J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	日本経営史演習ⅠA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では、日本の経営史についての基礎的な素養を身につけることを目的とする。

授業内容

第1回：授業の目的と概要
第2回：経営史学の課題
第3回：江戸時代の商家経営
第4回：幕末・維新期の企業者活動
第5回：後進国の工業化と企業者活動
第6回：会社制度の導入と普及
第7回：財閥の定義とその形成
第8回：居留地貿易と商社の役割
第9回：所有経営者と専門経営者
第10回：コンツェルンの形成
第11回：明治・大正期の工場労働とホワイトカラー層の形成
第12回：科学的管理法の普及
第13回：財界団体の系譜と都市型第3次産業の形成
第14回：戦前日本経営史の課題と方法のまとめ

履修上の注意

授業では、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

宮本・阿部・宇田川・沢井・橘川編『日本経営史[第3版]』（有斐閣、2023年）、佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善、2001年）、佐々木聡『グラフィック経営史』（新世社、2022年）

参考書

佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善、2011年）、佐々木聡『暮らしを変えた美容と衛生』（芙蓉書房、2009年）、佐々木聡『産業経営史シリーズ⑩石鹸・洗剤産業』（日本経営史研究所、2016年）、佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所、2017年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論についての評価と課題レポートおよび最終(期末)試験を総合して評価する。

その他

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN582J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	日本経営史演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では、演習ⅠAで学習した内容を基礎に、現在の学会の中心的な議論などについて学ぶことを主眼とする。

授業内容

第1回：企業者活動の国際化
第2回：戦時期の企業者活動
第3回：財閥解体と集中排除
第4回：復興期の経済政策と朝鮮特需
第5回：労使関係の変化
第6回：大企業集団の形成とその特徴
第7回：新しい経営管理手法の導入と生産性向上運動
第8回：高度成長・安定成長・バブル崩壊の流れ
第9回：高度成長期の企業者活動
第10回：中間組織の成長促進要因
第11回：産業政策の功罪
第12回：3大メガバンク体制
第13回：日本的経営再考と日本の国際競争力の源泉
第14回：授業全体のまとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進める。授業では、学問的理解を深めるために歴史的評価についての議論を中心に進めることにしたいので、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

宮本・阿部・宇田川・沢井・橘川編『日本経営史[第3版]』（有斐閣、2023年）、佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善、2001年）、佐々木聡『グラフィック経営史』（新世社、2022年）

参考書

佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善、2011年）、佐々木聡『暮らしを変えた美容と衛生』（芙蓉書房、2009年）、佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹸・洗剤産業』（日本経営史研究所、2016年）、佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所、2017年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論についての評価と課題レポートおよび最終(期末)試験を総合して評価する。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN682J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	日本経営史演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では、近代日本の各時期においてさまざまなイノベーションを実現した企業と企業家について事例研究によって学ぶ。すなわち企業者の主体的な活動とイノベーションの過程とその内容および影響を考察することによって、日本の経営発展についての理解を深めることを目的とする。

授業内容

第1回：授業の課題と方法
 第2回：大阪紡績
 第3回：三菱合資
 第4回：阪急
 第5回：資生堂
 第6回：三井物産
 第7回：松下電器産業
 第8回：ダイエー
 第9回：トヨタ
 第10回：ホンダとソニー
 第11回：全日空
 第12回：セゾン
 第13回：吉野家
 第14回：全体のまとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、学問的理解を深めるために歴史的評価についての議論を中心に進めることにしたいので、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書

佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善，2003年），佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣，2001年），佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善，2011年），佐々木聡『暮らしを変えた美容と衛生』（芙蓉書房，2009年），加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ 日本の企業』（有斐閣，2013年），佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹼・洗剤産業』（日本経営史研究所，2016年），佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所，2017年），佐々木聡監修『すごい実業家のあかん話』（ナツメ社，2022年），佐々木聡編著『グラフィック経営史』（新世社，2022年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論についての評価と課題レポートおよび最終(期末)試験を総合して評価する。

その他

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN682J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	日本経営史演習ⅡB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では、日本経営史ⅡAに続いて、日本の各時期の主だった革新の事例について学び、日本の経営発展についてさらに理解を深めることを主眼とする。

授業内容

第1回：オリエンテーション(課題と方法)
 第2回：集英社
 第3回：オリエンタルランド
 第4回：任天堂
 第5回：ソフトバンク
 第6回：ファーストリテイリング
 第7回：沖牙太郎(沖電気)と岩垂邦彦(日本電気)
 第8回：日比翁助(三越)と2代小菅丹治(伊勢丹)
 第9回：五島慶太(東急)と堤康次郎(西武)
 第10回：高碕達之助(東洋製缶)と中島董一郎(キューピー)
 第11回：内田信也(内田汽船)と山下亀三郎(山下汽船)
 第12回：山辺丈夫(大阪紡績)と菊地恭三(大日本紡績)
 第13回：万代順四郎(三井銀行)と加藤武男(三菱銀行)
 第14回：授業全体のまとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書

佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善，2001年），佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善，2003年），佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善，2011年），佐々木聡編『戦後日本の企業家史』（有斐閣，2001年），佐々木聡『暮らしを変えた美容と衛生』（芙蓉書房，2009年），加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ 日本の企業』（有斐閣，2013年），宇田川勝編『ケースブック 日本の企業家』（有斐閣，2013年，佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹼・洗剤産業』（日本経営史研究所，2016年），佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』（PHP研究所，2017年），佐々木聡監修『すごい実業家のあかん話』（ナツメ社，2022年），佐々木聡編著『グラフィック経営史』（新世社，2022年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論に対する評価と課題レポートおよび最終(期末)試験を総合して評価する。

その他

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備考	
科目名	企業家活動特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		松本 和明

授業の概要・到達目標

本講は、日本および世界の企業・ビジネスの成長を主導した企業家・経営者の活動について、ふりかえることを課題とする。
本講の到達目標は、日本および世界を代表する企業家・経営者のビジネス活動のダイナミズムと多様性を理解ないし把握する能力を身に付けることである。

授業内容

日本および世界における代表的な企業家活動について、歴史的、長期的視点をもって分析できる能力の育成を目標とする。起業構想や戦略・組織の策定、製品・サービスの開発、販売・マーケティング活動の展開・発展のプロセスについて着目していくこととしたい。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：松本の研究論文についての講義
- 第3回：イギリスの企業家群像
- 第4回：石橋正二郎
- 第5回：フランスの企業家群像
- 第6回：渋沢栄一と岩崎弥太郎・弥之助
- 第7回：小林一三と堤康次郎
- 第8回：小平浪平と松下幸之助
- 第9回：井深大・盛田昭夫と本田宗一郎・藤沢武夫
- 第10回：出光佐三
- 第11回：石坂泰三
- 第12回：ドイツの企業家群像
- 第13回：アメリカの企業家群像
- 第14回：中国の企業家群像

履修上の注意

基本的にはテキストの輪読を中心に進めるが、受講者それぞれの問題意識や興味・関心および研究テーマに即した積極的な発言・コメントおよび問題点の指摘によるディスカッションの展開を期待したい。

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の講義内容について、事前にテキスト等でリサーチしておくことが望ましい。

教科書

佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善、2001年）
同『日本の企業家群像』Ⅱ、Ⅲ（丸善、2003、11年）
同『日本の戦後企業家史』（有斐閣、2001年）
梅井義雄『日本資本主義の群像―人物財界史』（ちくま学芸文庫、2021年）
上記以外の文献あるいは論文は、必要に応じて複写を配布することとしたい。

参考書

湯沢威『イギリス鉄道経営史』（日本経済評論社、1988年）
原輝史『フランス資本主義：成立と展開』（日本経済評論社、1986年）
渡辺尚『ラインの産業革命』（東洋経済新報社、1987年）
渡辺喜七『アメリカの工業化と経営理念』（日本経済評論社、2000年）
周見『張謇と渋沢栄一―近代中日企業家の比較研究―』（日本経済評論社、2016年）
経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004年）
松本和明編著『渋沢栄一がめざした「地域」の持続的成長』（ミネルヴァ書房、2023年）

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは適宜おこない、受講者と共有していく。

成績評価の方法

授業への参加度（30%）＋各回での報告ないし発言・コメント（40%）＋期末レポート（30%）

その他

「歴史を学ぶ」科目ではなく「歴史に学ぶ」科目である。
今時「温故知新」こそ有益かつ有意義と考える。
詳細については、松本までメールにて問い合わせ頂きたい
（アドレス：matukazu@cc.kyoto-su.ac.jp）

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備考	
科目名	企業戦略特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師		松本 和明

授業の概要・到達目標

本講は、前期開講の「企業家活動特論」で取り上げ議論した内容をふまえて、企業ないし経営戦略を歴史的視点をもって検討・考察することを課題とする。

本講の到達目標は、企業ないし経営戦略を、現象面に止まらず、長期的パースペクティブで理解ないし把握する能力を身に付けることである。

授業内容

日本および欧米における代表的な企業の発展および成長のプロセスについて、歴史的、長期的視点をもって分析できる能力の育成を目標とする。企業がいかに立ち上げられ、発展・成長を遂げ、あるいは低迷から脱却して再生を果たしたのか、具体的なケースに即して明らかにしていくこととしたい。

- 第1回：アップル
- 第2回：大阪紡績（現・東洋紡）
- 第3回：松下電器産業（現・パナソニック）
- 第4回：ダイエー
- 第5回：トヨタ自動車
- 第6回：本田技研工業
- 第7回：ソニー（現・ソニーグループ）
- 第8回：セブンイレブン・ジャパン
- 第9回：セゾングループ
- 第10回：吉野家
- 第11回：GE
- 第12回：オリエンタルランド
- 第13回：ユニリーバ
- 第14回：ファーストリテイリング

履修上の注意

基本的にはテキストの輪読を中心に進めるが、受講者それぞれの問題意識に基づく積極的な発言・コメントおよび論点の指摘による活発なディスカッションの展開を期待したい。また、受講者それぞれの興味・関心があるトピックスの紹介や研究課題・テーマに関する報告も適宜求めていくこととする。

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の講義内容について、事前にテキスト等でリサーチしておくことが望ましい。

教科書

安部悦生編著『グローバル企業』（文真堂、2017年）
松本和明編著『渋沢栄一がめざした「地域」の持続的成長』（ミネルヴァ書房、2023年）
加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本の企業』（第2版）（有斐閣、2025年12月刊行予定）

参考書

柏谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012年）
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』（第3版）（有斐閣、2019年）

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは適宜おこない、受講者と共有していく。

成績評価の方法

講義への参加度（30%）＋各回での報告ないし発言・コメント（40%）＋期末レポート（30%）

その他

春学期開講の「企業家活動特論」と併せて受講されることをおすすめする。
詳細については、松本までメールにて問い合わせ頂きたい
（アドレス：matukazu@cc.kyoto-su.ac.jp）

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備考	
科目名	日本企業発展特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

(2023年度は休講)

この授業では今日の企業経営の課題を歴史的に検証することを通じて、日本の企業システムの諸特徴の生成過程についての理解を深め、近未来の日本企業のあるべき姿を展望する能力を身につけることを目的とする。

授業内容

- 第1回:授業の目的と概要
- 第2回:日本的企業経営の源流を探る
- 第3回:江戸期の経営システム
- 第4回:近代的経営組織の形成
- 第5回:近代的経営管理の形成
- 第6回:工業化と政府の役割
- 第7回:財閥の形成とコンツェルン組織
- 第8回:新興コンツェルン
- 第9回:財界団体の系譜
- 第10回:戦時経済下の企業経営
- 第11回:財閥解体と集中排除
- 第12回:企業集団の形成
- 第13回:高度成長期から21世紀初頭までの日本企業
- 第14回:まとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、学問的理解を深めるために歴史的評価についての議論を中心に進めることにしたいので、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

相当な事前の予習時間が必要であり、事後的にも学習内容を咀嚼するうえで文献による追加的な学習が必要となる。

教科書

阿部・宇田川・橘川・沢井・宮本編『日本経営史[第3版]』(有斐閣, 2023年)
佐々木聡編著『グラフィック経営史』(新世社, 2022年)

参考書

佐々木聡編、『日本の企業家群像』(丸善, 2001年), 佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』(丸善, 2003年), 佐々木聡編『戦後日本の企業家史』(有斐閣, 2001年), 佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』(丸善, 2011年), 佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹼・洗剤産業』(日本経営史研究所, 2016年), 佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』(PHP研究所, 2017年), 佐々木聡監修『すごい実業家のあかん話』(ナツメ社, 2022年), 佐々木聡編著『グラフィック経営史』(新世社, 2022年)

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物(課題レポートなど)の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での評価と課題レポートおよび最終(期末)試験を総合して評価する。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) MAN581J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	日本企業者史特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

この授業では今日の日本の企業経営の基礎を築いた代表的な企業家による「革新」を歴史的に検証することを通じて、企業家職能(アントルプルヌールシップ)についての理解を深め、近未来の日本企業に期待される「経営革新」の姿を展望する能力を身につけることを目的とする。

対面授業のなかに一部メディア授業(ZOOMによるリアルタイム型オンライン授業)を採り入れるタイプの授業形態で実施する。オンライン授業実施回については、下記の授業内容の横に(オンライン授業)と記しているが、都合により変更することもある。

授業内容

- 第1回:授業の目的と概要
- 第2回:渋沢栄一と岩崎弥太郎・弥之助
- 第3回:初代長瀬富郎(花王)と2代鈴木三郎助(味の素)
- 第4回:鮎川義介(日産)と豊田喜一郎(トヨタ)
(オンライン授業①)
- 第5回:小林一三(阪急・東宝)と堤康次郎(西武)
- 第6回:小平浪平(日立)と松下幸之助(パナソニック)
- 第7回:井深大・盛田昭夫(ソニー)と本田宗一郎・藤沢武夫(ホンダ)
- 第8回:中内仞(ダイエー)と鈴木敏文(セブンイレブン)
(オンライン授業②)
- 第9回:武藤山治(鐘淵紡績)と大原孫三郎(倉敷紡績)
(オンライン授業③)
- 第10回:鳥井信治郎(サントリー)と石橋正二郎(プリダストン)
(オンライン授業④)
- 第11回:松永安左エ門(東邦電力)と出光佐三(出光)
(オンライン授業⑤)
- 第12回:立石一真(立石電機)と塚本幸一(ワコール)
- 第13回:田口利八(西濃運輸)と飯田亮(セコム)
(オンライン授業⑥)
- 第14回:まとめ

履修上の注意

教科書の輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握も要する。授業では、学問的理解を深めるために歴史的評価についての議論を中心に進めることにしたいので、基礎的な知識・情報の整理のために相当の予習が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定したテキストに関連する参考文献を、一定程度まで予習してもらいます。

教科書

佐々木聡編『日本の企業家群像』(丸善, 2001年), 佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』(丸善, 2003年), 佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』(丸善, 2011年), 佐々木聡『情熱の日本経営史③ 暮らしを変えた美容と衛生』(芙蓉書房, 2009年), 佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹼・洗剤産業』(日本経営史研究所, 2016年), 佐々木聡『日本の企業家シリーズ9 丸田芳郎』(PHP研究所, 2017年), 佐々木聡監修『すごい実業家のあかん話』(ナツメ社, 2022年), 佐々木聡編著『グラフィック経営史』(新世社, 2022年)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物(課題レポートなど)の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

各回の授業での報告や議論についての評価(50%)と課題レポート(25%)および期末試験(25%)を総合して評価する。

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC562J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	監査論演習ⅠA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

近年の企業不祥事に伴う監査に対する社会的信頼を回復するために、様々な監査制度改革が行われている。特に英国ではBrexiteを契機に自国の資本市場を魅力あるものにすべく積極的に監査制度改革を行っている。そこで、英国で公表された監査制度改革に対する報告書を読み解くことによって、監査制度の基本について学んでいく。

〈到達目標〉

財務諸表監査に関する事例分析を通して、現代の経済社会になくなくてはならない財務諸表監査の基礎理論について学ぶ。学習を通して監査に関する社会的期待、財務諸表監査が有する経済的機能についての分析ができる能力を身につける。

授業内容

- 第1回：イントロダクション ―財務諸表監査のフレームワーク
第2回：株式会社の成立過程とその背景
第3回：コーポレート・ガバナンスと財務監査の機能
第4回：企業情報ディスクロージャー制度
第5回：監査のフレームワーク
第6回：財務諸表監査の特質
第7回：監査の経済的機能
第8回：監査制度の生成と展開 ―イギリス
第9回：監査制度の生成と展開 ―アメリカ
第10回：監査制度の生成と展開 ―日本
第11回：監査規範の意義と体系
第12回：監査基準の生成と展開 ―イギリス・アメリカ
第13回：監査基準の生成と展開 ―日本
第14回：まとめ
* 講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

英文テキストを使用する。
ASSESS, ASSURE AND INFORM IMPROVING AUDIT QUALITY AND EFFECTIVENESS (Brydon Review)

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

教科書

Wallace, W. "Auditing Monographs"

参考書

適宜紹介する

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点（講義への貢献度、発表）（70%）と課題提出物（30%）

その他

講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC562J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	監査論演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

監査理論の基本書とされるMautz, R. K. & Sharaf, Hussein A. "Philosophy of Auditing"の輪読を行う。

〈到達目標〉
監査に対する社会的な批判が高まる不正な財務報告の事例を概観しながら、財務諸表監査の基本となる監査基準の規定を通して、財務諸表監査がどのように行われているのかについての理解ができる能力を身につける。

授業内容

- 第1回：イントロダクション ―監査実施プロセスの全体像
第2回：リスクアプローチの概要
第3回：監査計画
第4回：財務諸表監査における要証命題
第5回：監査リスクと重要性
第6回：リスク評価手続
第7回：企業および企業環境の理解
第8回：内部統制
第9回：リスク対応手続
第10回：監査の完了と監査意見形成
第11回：監査報告の意義と種類
第12回：ゴーイングコンサーン問題と監査意見
第13回：不正への対応
第14回：まとめ
* 講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

資料を事前に配布するので、指定した箇所を読んでおくこと。

教科書

- ・開講時に指示する
- ・各回の内容に関連する監査基準委員会報告書等

参考書

適宜紹介する

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点（講義への貢献度、発表）（70%）と課題提出物（30%）

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC662J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	監査論演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

近年の企業不祥事に伴う監査に対する社会的信頼を回復するために、様々な監査制度改革が行われている。アメリカ証券取引委員会SECの公表しているAAERを読んで、企業不祥事の概要、監査上の問題点を探り、監査における不正への対応について学んでいく。

〈到達目標〉

不正を行った企業を中心に、実際の企業の財務諸表、新聞記事や雑誌の記事、テレビニュースなどを題材にして、会計・監査上どのような問題があったのかを検討し、健全なアカウンティング・マインドを身につけるとともに、このような企業不祥事を防止するために、どのような会計基準の整備が必要であり、企業側にどのようなガバナンスや内部統制が必要であったか等を検討し、問題を解決する能力を身につける。

授業内容

- 第1回：イントロダクション—企業不正と財務諸表監査
- 第2回：クロイゲル&トル事件
- 第3回：マケソン&ロビンス事件
- 第4回：シーボード事件
- 第5回：ペン・セントラル事件
- 第6回：センコ事件
- 第7回：エクイティ・ファウンディング事件
- 第8回：コンチネンタル・ペンディング・マシン事件
- 第9回：ロッキード事件
- 第10回：S&L事件
- 第11回：エンロン事件
- 第12回：ワールドコム事件
- 第13回：リーマン・ブラザーズ事件
- 第14回：まとめ

* 講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

該当するAccounting Series Release及びAccounting and Auditing Enforcement Releaseを中心に輪読を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に資料を指定するので読んでおくこと。

教科書

特に使用しない

参考書

適宜指示する

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(講義への貢献度、発表)(70%)と課題提出物(30%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC662J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	監査論演習ⅡB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

これまで学習してきた財務諸表監査に関する様々な問題点からテーマを選定して、修士論文にまとめ上げ、問題点を自分なりの視点で分析し、解決する能力を身につける。

授業内容

- 第1回：問題点の抽出と背景の検討
 - 第2回：問題点の概要把握
 - 第3回：問題点の分析
 - 第4回：修士論文の全体構想の検討
 - 第5回：先行研究のレビュー
 - 第6回：既存の研究との比較
 - 第7回：分析方法の検討
 - 第8回：反証例の収集
 - 第9回：反証例の検討
 - 第10回：自説の展開
 - 第11回：自説と反証例の検討
 - 第12回：反証例に対する自説の優位性の論拠がため
 - 第13回：これまでの研究成果のまとめ
 - 第14回：最終報告とプレゼンテーション
- * 講義内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

修士論文作成に関しては入念な準備学習が必要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した参考資料を読み、論文を書き進めておくこと。

教科書

特になし

参考書

適宜紹介する

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

修士論文の内容によって評価する

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC532J			
財務会計系		備考	
科目名	財務諸表論演習ⅠA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

外部報告会計としての財務会計を考究するにあたって、理解しておくべき基本的な思考について確認し検討する。

〔到達目標〕

財務会計の基本的な思考についての知識を深めること。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：会計学の対象と会計計算の対象
第3回：マクロ会計とミクロ会計、営利会計と非営利会計
第4回：財務会計と管理会計、制度会計と非制度会計
第5回：静的観と動的観
第6回：会計主体論：資本主理論
第7回：会計主体論：代理人理論
第8回：会計主体論：エンティティ理論
第9回：会計目的：債権者保護思考
第10回：会計目的：出資者保護思考
第11回：会計目的：投資者保護思考
第12回：概念的フレームワーク：必要性
第13回：概念的フレームワーク：設定アプローチ
第14回：概念的フレームワーク：内容

履修上の注意

具体的テーマを取りあげて検討することがあるので、各種基準の指示内容の知識と基本的な会計処理スキルを必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『討議資料 財務会計の概念フレームワーク』企業会計基準委員会

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

課題(50%)、授業での質疑(25%)、授業への貢献(25%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC532J			
財務会計系		備考	
科目名	財務諸表論演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

外部報告会計としての財務会計を考究するにあたって、理解しておくべき基本的な思考について確認し検討する。

〔到達目標〕

財務会計の基本的な思考についての知識を深めること。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：財務会計の機能：受託責任機能 —株式会社観—
第3回：財務会計の機能：受託責任機能 —情報の特性—
第4回：財務会計の機能：利害調整機能 —利害関係の衝突—
第5回：財務会計の機能：利害調整機能 —情報の特性—
第6回：財務会計の機能：情報提供機能 —情報ニーズの多様性—
第7回：財務会計の機能：情報提供機能 —情報の特性—
第8回：会計公準：演繹的公準
第9回：会計公準：帰納的公準
第10回：会計公準：企業実体の公準
第11回：会計公準：継続企業の公準
第12回：会計公準：貨幣評価の公準
第13回：主義と原則と基準
第14回：会計関連規定の階層性

履修上の注意

毎回レジュメを用いた解説を行い、その内容に関する課題について討論を行う。

具体的テーマを取りあげて検討することがあるので、財務会計に関する基礎知識のみならず近時の問題点に関する情報収集が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『体系現代会計学第1巻企業会計の基礎概念』斎藤静樹責任編集(中央経済社)

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

課題(50%)、授業での質疑(25%)、授業への貢献(25%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC632J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務諸表論演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

基礎的な知識・概念を習得した上で、近時、国際財務報告基準(IFRS)との収斂等との関係で問題となっている各種領域を考究する。

〔到達目標〕

財務会計の総論から各論まで多角的な視点から考究する能力の養成。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：会計事象の認識：広義説
 第3回：会計事象の認識：狭義説
 第4回：認識対象の測定と評価
 第5回：測定属性：原価
 第6回：測定属性：購入市場時価と売却市場時価
 第7回：測定属性：割引現在価値
 第8回：測定属性：公正価値
 第9回：測定属性：キャッシュ・イン・ベースとキャッシュ・アウト・ベース
 第10回：記録方式の多様性
 第11回：表示形式の多様性
 第12回：財務諸表の解釈(販売業)
 第13回：財務諸表の解釈(製造業)
 第14回：財務諸表の解釈(金融業)

履修上の注意

具体的テーマを取りあげて検討することがあるので、各種基準の指示内容の知識と基本的な会計処理スキルを必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『財務会計講義』桜井久勝著(中央経済社)最新版

課題に対するフィードバックの方法

定期的 to 実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

課題(50%)、授業での質疑(25%)、授業への貢献(25%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC632J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務諸表論演習ⅡB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

基礎的な知識・概念を習得した上で、近時、国際財務報告基準(IFRS)との収斂等との関係で問題となっている各種領域を考究する。

〔到達目標〕

財務会計の総論から各論まで多角的な視点から考究する能力の養成。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：財産法と損益法：意義の多様性
 第3回：収益・費用アプローチ
 第4回：資産・負債アプローチ：5要素の関係性
 第5回：資産・負債アプローチ：定義との関係性
 第6回：資産：有形資産概念
 第7回：資産：無形資産概念
 第8回：資産：金融資産概念
 第9回：負債：時価評価問題
 第10回：資本：負債と持分の区分
 第11回：収益認識の展開：リスク・経済価値アプローチ
 第12回：収益認識の展開：近時の展開
 第13回：公正価値評価
 第14回：のれん

履修上の注意

具体的テーマを取りあげて検討することがあるので、各種基準の指示内容の知識と基本的な会計処理スキルを必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『体系現代会計学第1巻企業会計の基礎概念』斎藤静樹責任編集(中央経済社)

課題に対するフィードバックの方法

定期的 to 実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

課題(50%)、授業での質疑(25%)、授業への貢献(25%)

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC561J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	監査基礎特論		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本講義は、金融商品取引法の下における監査制度について正しく理解することを目的とする。特に、そのために、金融商品取引法監査に関する概説書の講読だけでなく、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎についても学ぶ。さらに、広く財務諸表監査の会計プロフェッションによる監査制度の実態についての最新情報を取り上げる。

また監査は、つねに実務を念頭において実務と整合するものでなければならない。このため、本講義では、関連する社会経済上のトピックス等についても積極的に取り上げる予定である。

〈到達目標〉

今日の財務諸表監査は、投資者の投資行動に資するために、企業が公表する財務諸表の信頼性を保証する社会的制度であり、同時に企業にとっても、財務諸表の適正性を担保してもらうことにより証券市場において有利に資金調達を行うことができる制度でもある。本講義は財務諸表監査のフレームワーク（監査の意義、社会的機能、監査制度等）と、監査基準（一般基準、監査人の人的条件、職業倫理等）等について理論的考察を行える知識を習得することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：株式会社の成立過程とその背景
 - 第3回：株式会社とコーポレートガバナンス
 - 第4回：ディスクロージャー制度の生成要因
 - 第5回：財務諸表監査の生成要因
 - 第6回：金融商品取引法の下における開示制度(1)
 - 第7回：金融商品取引法の下における開示制度(2)
 - 第8回：金融商品取引法監査の基本的枠組み(1)
 - 第9回：金融商品取引法監査の基本的枠組み(2)
 - 第10回：公認会計士・監査法人の役割と責任
 - 第11回：「監査基準」の設定と経緯
 - 第12回：公認会計士法に見る監査人の適格性
 - 第13回：監査報告書の情報効果
 - 第14回：まとめ
- * 講義内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

本講義では、監査関係の法令やJICPAの各種委員会報告等も取り上げるため、これらが収載されている資料集（『監査法規集』など）があれば便利である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に資料を配付するので、各回の該当箇所を読んでおくこと。

教科書

ガイダンス時に指示する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(講義への貢献度、発表)(70%)と課題提出物(30%)

その他

特になし。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC561J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	監査応用特論		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本講義は、わが国の会社法の下における監査制度について、その制定から発展そして今日の規制内容について基本的な知識の習得を図ることを目的としている。この目的を達成するために、わが国の会社法の下における監査制度に関する諸問題に焦点を当てて、受講生の理解を深めていきたい。合わせて、監査を取り巻く最新の動向についてもできる限り講義に反映させていくよう工夫する。

〈達成目標〉

本講義は会社法の下における監査制度について、その制定から発展そして今日の規制内容について基本的な知識の習得を図ることを目標としている。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：会社法の意義および役割
 - 第3回：会社法とコーポレート・ガバナンス
 - 第4回：会社法開示制度の概要
 - 第5回：会社法改正の経緯
 - 第6回：会社の機関
 - 第7回：会社法監査制度の概要
 - 第8回：監査役の権限
 - 第9回：監査委員会制度の概要
 - 第10回：会社法における内部統制
 - 第11回：内部統制の展開
 - 第12回：監査役等と外部監査人の連携
 - 第13回：監査役の監査報告
 - 第14回：まとめ
- * 講義内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

本講義は、監査基礎特論を受講済みであることを前提とするものではないが、同特論を受講していれば、さらに深く理解できると思われる。また、監査関係の法令やJICPAの各種委員会報告等も取り上げるため、これらが収載されている資料集（『監査法規集』など）があれば便利である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した参考図書の該当箇所を読んでおくこと。

教科書

ガイダンス時に指示する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(講義への貢献度、発表)(70%)と課題提出物(30%)

その他

特になし。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	債券格付特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師		乾 智里

授業の概要・到達目標

企業ごとに「AA」「BBB+」などと付される符号は「格付け」を表しています。新聞紙上等でも格付けについての記事がしばしば見受けられます。債券格付けは、企業が発行する社債などについて、約定通りの元金・利息支払いの確からしさ、すなわち債券の信用力・安全性を簡単な符号で示した投資情報です。投資においてはリスクとリターンが重要な要素となりますが、債券格付けは、債券のリスク情報を提供するものです。金融・資本市場が円滑に機能するため、格付けという信用力評価システムが活用されているのは、債券投資におけるリスク評価を容易に入手することができるからです。一方、例えば企業が破綻したときには、格付けの機能不全が問われることもあります。格付け情報の受け手は、格付け結果にいたずらに振り回されることのない理解力を持つことを求められているのです。

この授業では、企業を対象に信用力の分析手法を学ぶという観点から、
・債券格付けの意義、資本市場における役割の理解
・債券格付けが決定される手続き、手法に対する理解
・格付けを決定するための企業財務分析等の手法の考え方を習得することを目標とします。
なお、この授業では、基本的に、企業が発行する社債に対する格付けを想定します。格付けの対象は社債にとどまりませんが、最もベーシックかつ一般的な分野に着目するとともに、企業財務分析の手法と合わせて学習するという意図によるものです。

授業内容

格付けの意義・機能・手法について、基本からていねいに解説していきます。まず、主に日本の資本市場における格付けの歴史と現状を整理します。そのうえで、格付けがどのような手続きによって決定されているのか、また、その過程における分析と評価の視点はどのようなものなのかを理解できるように授業を進めます。さらに、企業の財務分析手法について、格付けの視点を踏まえつつ、適宜、触れていきます。
なお、授業の進度・内容については、履修者の人数・事前知識・要望などを踏まえて、文献輪読を取り入れるなど調整することがあります。
第1回：イントロダクション～授業の狙いと全体像の整理
第2回：債券格付けの意義と目的
第3回：債券格付けの歴史〔1〕
第4回：債券格付けの歴史〔2〕
第5回：格付会社の成り立ちとはたらき
第6回：格付けの機能〔1〕
第7回：格付けの機能〔2〕
第8回：債券格付けの手順〔1〕
第9回：債券格付けの手順〔2〕
第10回：債券格付けの視点と手法〔1〕～フレームワーク
第11回：債券格付けの視点と手法〔2〕～企業情報の収集と評価
第12回：債券格付けの視点と手法〔3〕～事業リスクの評価
第13回：債券格付けの視点と手法〔4〕～財務リスクの評価
第14回：総括(秋学期「債券格付特論B」との連携および準備を含めて)

履修上の注意

秋学期に開講される「債券格付特論B」を継続して履修し、企業分析リポートを作成することを想定しています。このため、「債券格付特論B」の授業内容についても合わせて参照してください。また、秋学期開始までの間に「債券格付特論B」に向けた準備を進めることが強く期待されます(内容については授業で説明します)。

ただし、春学期「債券格付特論A」のみの履修とすることも妨げません。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の進行に合わせて簡単な報告を課すことがあります。その場合は適切な準備が必要です。また、定期試験に代えたりポート課題を予定しています。「記憶」のための復習は求めませんが、「理解」が不十分にならないように復習および質問を奨励します。

教科書

特定の教科書は使用しません。授業は、配布する資料に即して進めます。

参考書

田中英隆・石渡明 『格付～価値の再認識と広がる投資戦略』（日本経済新聞出版社、2016年）
森田隆大 『格付けの深層～知られざる経営とオペレーション』（日本経済新聞出版社、2010年）
※参考資料としての位置づけです。あらかじめ購入しておく必要はありません。（秋学期・債券格付特論Bと共通）

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては、授業内において、その意図を示したうえで、求められる論点や立論について解説します。また、必要に応じて文章としての適切性についての指導を含めて、授業中に講評を行います。

成績評価の方法

課題の提出・報告とその内容(30%)および授業への参加度(70%)により評価します。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC591J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	債券格付特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師		乾 智里

授業の概要・到達目標

格付けは、企業等の信用力を評価して符号化したものですが、符号の単純さとは裏腹に、それを決定するまでの分析過程では多様な角度からの検討が欠かせません。格付けをより有効に活用しあるいは研究するには、公表された格付け結果に対して単に「高い／低い」などと表層的に批評するのではなく、背景にある考え方や手法を十分に理解して読み解くことが大切です。そのために、春学期「債券格付特論A」で得た基本的理解をもとにして、より具体的・実証的な分析手法を学んでいきます。

授業では、格付会社が格付けを付与する分析過程・手法を可能な範囲でトレースして（もちろん、完全にトレースすることは困難ですが）、格付けを決定することを想定した企業分析リポートを執筆・作成していくことが中心となります。自らの手で企業情報を収集し、財務諸表分析などを行い、その結果をリポートに取りまとめるという一連の手順を実際に手がけることで、
・債券格付けの手法に基づく、企業分析過程の実践経験
・企業分析の視点に応じた手法についての理解
・債券格付けシステムに対する広範な理解
を得ることを目標とします。

授業内容

債券格付けの手法に基づく企業分析の実践として、履修者は、各自が選択した企業を対象にリポートを執筆することになります。授業では、リポートの執筆過程で報告と討議を重ねていきます。並行して、格付け手法に関連する分析手法について、リポート作成の参考となる解説（例として、下記参照）を行います。授業の進め方・各回の授業内容については、履修者の人数や進度に応じて柔軟に調整することにより、理解を深めつつ確実にリポート作成を進められるように配慮します。
第1回：イントロダクション～リポート作成に向けての手順と注意事項
第2回：報告〔1〕収集した企業情報の整理
第3回：クレジット分析の視点からの財務分析手法〔総論〕
第4回：財務分析手法〔各論1〕～各種の財務指標の見方と活用
第5回：報告〔2〕
第6回：財務分析手法〔各論2〕～ROAとROE
第7回：報告〔3〕
第8回：財務分析手法〔各論3〕～CF計算書と資金繰り
第9回：報告〔4〕
第10回：財務分析手法〔各論4〕～損益岐点分析の論点
第11回：報告〔5〕
第12回：〔補論〕債券格付けの視点と手法～社債契約と社債権者の地位
第13回：報告〔6〕
第14回：総括～完成版の提出および講評

履修上の注意

春学期に開講される「債券格付特論A」から継続して履修することを前提としています。秋学期のこの授業のみを履修することも可能ですが、その場合は春学期授業の内容と同等の、債券格付けおよび財務諸表分析についての基礎的な知識を有していることが必要です。

準備学習（予習・復習等）の内容

・各自で選定した分析対象企業について、秋学期開始までに財務データをはじめとする情報収集を進めておくことを強く推奨します。
・作成過程では中間報告（経過報告）として、授業でプレゼンテーションし、それに対する質疑応答などを踏まえて修正していくプロセスを繰り返すこととなります。したがって、報告・討議を行う回の授業に先立って資料（作成途上のリポート）を準備（原則として前日までに担当教員および他の履修者が閲覧できる状態とする）して、授業時に報告できるようにする必要があります。
・最終的に、企業分析リポートを完成させ提出することを必須とします。

教科書

特定の教科書は使用しません。講義形式の回（報告・討議でない回）については、都度配布する資料に即して進めます。また、必要に応じてリポートの作成に参考となる資料を配布します。

参考書

田中英隆・石渡明 『格付～価値の再認識と広がる投資戦略』（日本経済新聞出版社、2016年）
森田隆大 『格付けの深層～知られざる経営とオペレーション』（日本経済新聞出版社、2010年）
※参考資料としての位置づけです。あらかじめ購入しておく必要はありません。（春学期・債券格付特論Aと共通）

課題に対するフィードバックの方法

「報告」を課した回については、それぞれの履修者がリポートの進捗状況や、その時点での論点などをプレゼンテーションし、他の履修者との間で質疑応答を行うスタイルとなります。担当教員からは、報告された内容を基に、論点およびその評価の適切性、今後さらに検討が必要な点とその方向性、文章としての適切性などについてコメントし、リポートの完成をサポートします。
最終的に提出されたリポートについては、原則として最終回の授業で講評を行います。

成績評価の方法

成績評価の前提として、リポートを完成させて提出することを必須とします。その内容の評価を主とし（70%）、リポート作成過程での報告と討議の状況を加味（30%）します。

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC531J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	制度会計特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

財務諸表による情報開示制度について、わが国の歴史的経緯・現状の理解を通してその特質究明を試みる。また、各国の財務諸表に係る制度的な特徴の把握につとめる。

〔到達目標〕

財務諸表による情報開示制度の特質について多角的な視点から考究する能力の養成。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：ディスクロージャー論(情報の非対称性)
第3回：ディスクロージャー論(逆選択とモラルハザード)
第4回：ディスクロージャー論(契約以前の問題と契約以後の問題)
第5回：ディスクロージャー論(情報開示システムによる解決法)
第6回：強制情報開示の意義と限界
第7回：任意情報開示の意義と限界
第8回：商法会計と会社法会計
第9回：証券取引法会計と金融商品取引法会計
第10回：証券取引所規定とIR
第11回：財務諸表の種類
第12回：国際財務報告基準(IFRS)の基本思考
第13回：国際財務報告基準(IFRS)と財務諸表
第14回：財務諸表の有用性

履修上の注意

具体的テーマを取りあげて検討することがあるので、各種基準の指示内容の知識と基本的な会計処置スキルを必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

『体系現代会計学第3巻会計情報の有用性』伊藤邦雄責任編集(中央経済社)

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meijiシステムを通して行う。

成績評価の方法

課題(50%)、授業での質疑(25%)、授業への貢献(25%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC531J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	制度会計特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

財務諸表において示される各種情報の指示内容を、5要素の認識、測定・評価、表示の側面から特質究明を試みる。

〔到達目標〕

財務諸表による情報開示制度の特質について多角的な視点から考究する能力の養成。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：貸借対照表(資産の認識)
第3回：貸借対照表(資産の測定・評価)
第4回：貸借対照表(資産の表示)
第5回：貸借対照表(負債の認識)
第6回：貸借対照表(負債の測定・評価)
第7回：貸借対照表(負債の表示)
第8回：貸借対照表(純資産の認識)
第9回：貸借対照表(純資産の測定・評価)
第10回：貸借対照表(純資産の表示)
第11回：損益計算書(収益と費用の認識)
第12回：損益計算書(収益と費用の測定・評価)
第13回：損益計算書(収益と費用の表示)
第14回：キャッシュ・フロー計算書

履修上の注意

具体的テーマを取りあげて検討することがあるので、各種基準の指示内容の知識と基本的な会計処理スキルを必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを配布する。

参考書

特定の参考書は使用しない。必要に応じて提示する。

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meijiシステムを通して行う。

成績評価の方法

課題(50%)、授業での質疑(25%)、授業への貢献(25%)

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC521J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	経営原価計算特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 建部 宏明		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕
現在、原価計算は大きな転換点を迎えている。今まで、原価計算はそれ単独で財務諸表作成、原価管理、利益管理、経営意思決定などの各局面において大きな役割を果たしてきた。
しかしながら、近年の経営環境の激変に伴い、それまでの伝統的な原価計算システムが陳腐化したとの議論が行われ、新しい枠組みの原価計算が戦略との関連で議論されるようになった。
こうして、原価企画、ABC、品質原価計算、ライフサイクル・コストینگなどに注目が集まった。原価計算に大きな変化をもたらした原因の1つは、経営管理における市場志向性の増大である。それまで、企業は大量見込生産によって製造した製品を顧客に売り込んでいくという生産中心思考をとってきた。しかしながら、作れば売れる時代は去り、顧客は他人と違ったものを求め、企業側もこれに対応して顧客ニーズに即した生産を無駄なく行うという市場中心思考に変わった。かくて、企業にとって長期的な安定を目指すために、「企業環境を熟慮し、適切に経営資源を配分すること」、すなわち戦略が不可欠となり、原価計算には戦略策定と遂行という新しい任務が課せられた。このために、原価計算はJIT方式、品質管理、ライフ・サイクル、コンピュータ・テクノロジーといったさまざまな学際的諸方法と結びつく必要性が出てきた。これがコントロールの手法に大きな発想の転換をもたらし、現在の原価計算の体系を多様化させた。このために、原価計算は管理会計の1分野にされたり、同義にとらえられたり、この位置付けは混沌としている。〔到達目標〕
本講義においては、原価計算の基本的計算構造をおもに理論的な側面から理解できるようにすることが目的であり、到達目標である。

授業内容

本講義では経営管理システムのなかで原価計算が有する基本的な機能である製品原価算定の考察を出発点として、マネジメント・コントロール(原価管理、利益管理)、経営意思決定において原価計算がいかなる機能を発揮するかについて考察を行っている。
第1回 原価計算とは 原価計算の定義・役割、原価計算の目的
第2回 費目別計算 材料費の計算、労務費の計算、経費の計算
第3回 製造間接費の計算、部門別計算1 製造間接の配賦、部門とは何か
第4回 部門別計算2 部門別計算の手続(第1次集計、第2次集計)
第5回 個別原価計算1 製品別計算、個別原価計算の意義、個別原価計算の手続き、単純個別原価計算
第6回 個別原価計算2 部門別個別原価計算、ロット別個別原価計算
第7回 総合原価計算1 総合原価計算の意義、総合原価計算の体系、単純総合原価計算(おもに期末仕掛品原価の計算)
第8回 総合原価計算2 組別総合原価計算、工程別総合原価計算(累加法、非累加法)等級別総合原価計算、連産品原価の計算
第9回 標準原価計算 原価管理と標準原価計算の意義・目的
第10回 直接原価計算 利益管理と損益分岐点分析の意義および損益分岐点図表、損益分岐点の計算
第11回 意思決定のための原価計算1 業務執行の意思決定のための原価計算
第12回 意思決定のための原価計算2 戦略的意思決定のための原価計算
第13回 戦略の策定と遂行のための原価計算1 原価企画、LCC、品質原価計算
第14回 戦略の策定と遂行のための原価計算2 ABC、ABM、BSC

履修上の注意

経営原価計算特論A、Bを連続して、履修することが望ましい。Aは原価計算概論を中心とした原価計算論研究、Bは原価計算各論を中心とした原価計算論研究にするつもりである。いずれにしても、受講者の積極的な参加によって講座を運営したいと考えているので、予習および復習は欠かすことができないであろう。上記授業内容は、1つのモデルであり、受講者の希望に沿って変更してきている。

準備学習（予習・復習等）の内容

〔準備学習〕講読書の内容は管理会計論、原価計算論、原価管理論であるので、当該領域に関する基礎知識を持っておくことと良い。
〔予習〕授業進度に合わせて、教科書を事前に読んでくること。
〔復習〕授業終了後、当該範囲を復習すること。

教科書

『基本原価計算(第6版)』建部、長屋、山浦(同文館)令和7年
仮に上記を挙げたが、開講時に受講者と相談の上決定する(受講者の数、ニーズなどを勘案して決定したい)。
過去には、櫻井通晴『経営のための原価計算』中央経済社、東海幹夫『会計プロフェッションのための原価計算・管理会計』清文社、建部、山浦、長屋『スタンダード原価計算』同文館、建部宏明『日本原価計算理論形成史研究』同文館、建部宏明『日本原価計算制度形成史』同文館を使用した。

参考書

『原価計算(六訂版)』岡本 清(国元書房)平成12年
『現代原価計算論』小林哲夫(中央経済社)平成5年
『基本管理会計(第2版)』建部、長屋、山浦(同文館)令和5年
『日本原価計算理論形成史研究』建部宏明(同文館)平成15年
『日本原価計算制度形成史』建部宏明(同文館)平成31年

課題に対するフィードバックの方法

レポートなどで提出された課題は、添削・評価の上、講評を加えて返却する。

成績評価の方法

プレゼンテーション(80%)、レポート(20%)などを中心とした総合評価であり、試験は実施しない。

その他

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC521J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	経営原価計算特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 建部 宏明		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕
経営原価計算特論Aにおいては原価計算に対するより広い基本知識の習得を目指したが、これを基礎として経営原価計算特論Bではより専門的な分野へと立ち入る。このために、歴史的アプローチを採りたい。
英米における原価計算は基本的に実務が先んじ、それが後に学問として集成されていく傾向を有し、この両者は相互に干渉しながら高度化した。しかしながら、わが国の原価計算の進展では、学問の高度化と実務の高度化を二分して考えるべきである。実務的側面では原価計算は官営工場などにおいて外国からの技術移転のひとつとして、外人指導者のもとで実践された。他方、学問的側面では原価計算はおもに研究者によって翻訳ないしは執筆された文献によって学問として導入、普及、高度化が行われた。当初、実務と学問は明確な交渉は持たずに、各々が独自に展開した。その後、大正末期から昭和初期に生じた不況の到来によって実践と理論は次第にその距離を狭め、準戦時下および戦時下のもとで統制経済運営のために原価計算規程が作成され、これによって一定の原価計算の実施が各工場に強制されたために、両者はついに交わる。この時期に、原価計算は実務として大規模製造業のみならず、中小製造業にも急速に普及した。準戦時下、戦時下において比較的短期間に原価計算実務が展開した理由として、わが国に原価計算後進国としての優位性が存在していたからであり、もちろん受け皿は学問としての原価計算の存在である。したがって、わが国の原価計算の発展においては、英米のように実務を映し出す鏡として原価計算理論が存在していたのではなく、わが国では理論的な高度化が先に生じ、それをベースにやがて実務として実践され、これが文献に著わされたり紹介されたりすることによって、理論にも影響をあたえ始めた。本講義では、こうしたわが国の原価計算史のもとで、原価計算による管理思考がいかに生成し、それがいかに展開してきたかの考察によって、「原価計算とは何か」に対する本源的考察を行う。
〔到達目標〕
本授業における原価計算の成り立ちやその展開過程の考察を基礎として「原価計算とは何か」を理解し、それが論じられるようになることを目標とする。

授業内容

第1回 講座の展望を示す
第2回 会計史とは何か 分析視点としての歴史
第3回 会計が歩んで来た道
第4回 原価計算史研究の過去の業績とその方法(教科書第1章)
第5回 期間費用集計としての内部価値移転記録の形成(教科書第2章)
第6回 原価計算の理論的研究の始まりと製品原価概念の生成(教科書第3章)
第7回 原価計算の理論的枠組みの定着と製品原価概念の確立(教科書第4章)
第8回 産業合理化運動と部門費計算論の確立(教科書第5章)
第9回 標準原価計算論の展開と初期的原価管理思考の形成(教科書第6章)
第10回 ドイツ原価計算論と伝統的原価計算理論の形成(教科書第7章)
第11回 戦時期におけるわが国の原価計算制度の進展
第12回 統制経済下における原価計算の制度的確立(教科書第8章)
第13回 わが国における原価計算論の発展形態(教科書第9章)
第14回 総括 歴史研究から得られる産物(歴史が意味するもの)

履修上の注意

できれば、経営原価計算特論A、Bを連続して、履修することが望ましい。Aは原価計算概論を中心とした原価計算論研究、Bは原価計算各論を中心とした原価計算論研究にするつもりである。いずれにしても、受講者の積極的な参加によって講座を運営したいと考えているので、予習および復習は欠かすことができないであろう。

上記は1つのモデルであり、受講者の希望により変更してきている。経営原価計算特論Bは、原価計算の応用を目指しているので、過去には原価管理論、管理会計論などをテーマとした。

準備学習（予習・復習等）の内容

〔準備学習〕講読書の内容は管理会計論、原価計算論、原価管理論であるので、当該領域に関する基礎知識を持っておくことと良い。
〔予習〕授業進度に合わせて、教科書を事前に読んでくること。
〔復習〕授業終了後、当該範囲を復習すること。

教科書

『日本原価計算理論形成史研究』建部宏明(同文館)平成15年
仮に上記を挙げたが、開講時に受講者と相談の上決定するので、変更可。過去には受講者の希望により、東海幹夫『会計プロフェッションのための原価計算・管理会計』清文社や建部、長屋、山浦『基本管理会計』同文館などを使用した。また、原価管理に関するレジュメを配付し、これに基づいた演習を行ったこともある。

参考書

『原価計算(六訂版)』岡本 清(国元書房)平成12年
『経営のための原価計算』櫻井通晴(中央経済社)平成7年
『日本原価計算制度形成史』建部宏明(同文館)平成31年

課題に対するフィードバックの方法

レポートなどで提出された課題は、添削・評価の上、講評を加えて返却する。

成績評価の方法

プレゼンテーション(80%)、レポート(20%)などを中心とした総合評価であり、試験は実施しない。

その他

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ACC551J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	財務分析特論		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師 博士(経営学) 青淵 正幸		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

企業経営にとって、自社や競合他社の状況を正しく把握し、理解することは重要である。企業の活動は貨幣単位に置き換えられ、財務諸表へと集約される。企業の状況を把握するには、財務諸表に示された数値を読み解く能力、すなわち財務分析の能力が求められる。

本講義におけるスタンスは、財務諸表を用いた財務分析である。健康診断の結果を見ながら医師がその人の健康管理を行うのと同様、経営者や投資家は財務諸表を用いて自社あるいは他社の業績を分析・評価する。本講義では、財務諸表の構造の理解および財務諸表数値の見方や使い方の修得を目指す。

〈到達目標〉

財務諸表には、出資者が託した資金を経営者がどのように活用し、どれだけの成果をもたらしたかが示されている。そこには経営者の様々なメッセージが込められている。本講義では、財務諸表の構造の理解と数値の読解力を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 経営分析の基礎知識
- 第3回 ディスクロージャーと財務諸表
- 第4回 貸借対照表項目の検討
- 第5回 流動性比率による分析
- 第6回 資金計算書の分析
- 第7回 損益計算書項目の検討
- 第8回 利益率の分析
- 第9回 損益分岐点の分析
- 第10回 利益の質と決算操作
- 第11回 連結財務諸表の分析
- 第12回 企業の総合評価
- 第13回 企業価値の評価
- 第14回 総括

履修上の注意

履修にあたり、会計学の基礎知識を有していることが望ましいが、分析に必要な知識は講義内にて補足する。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業へ臨むにあたり、事前に教科書や配付資料等に目を通しておくこと。

教科書

『要説経営分析〔六訂版〕』青木茂男編著（森山書店）

参考書

必要に応じて講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を提示した以降の回に評価できる点・改善すべき点などをコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度35% 授業内での報告や発言35% レポート30%

その他

授業は全回対面で実施する。
授業の内容は、順番を入れ替えたり、一部変更する場合もある。

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ECN562J			
公共経営系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	社会的金融論演習 I A (MC)		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：社会的金融の意義と理論、社会的金融の現状を中心に検討を進める。

到達目標：社会的金融の諸側面を包括的に検討し、課題を見出すこと。

授業内容

- 第1回 社会的金融の意義
- 第2回 社会的金融の歴史(ヨーロッパ)
- 第3回 社会的金融の歴史(アメリカ)
- 第4回 社会的金融の歴史(日本)
- 第5回 社会的金融の歴史(途上国)
- 第6回 社会的金融の理論(金融包摂)
- 第7回 社会的金融の理論(インパクト投資)
- 第8回 社会的金融の理論(マイクロファイナンス)
- 第9回 社会的金融の現状(ヨーロッパ)
- 第10回 社会的金融の現状(アメリカ)
- 第11回 社会的金融の現状(途上国)
- 第12回 社会的金融の現状(日本)
- 第13回 社会的金融の課題
- 第14回 社会的金融の展望

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

受講者の研究課題に沿った参考書を選定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ECN562J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	社会的金融論演習ⅠB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：金融排除・金融包摂の理論と現状を中心に検討を進める。
 到達目標：金融排除・金融包摂の諸側面を包括的に検討し、課題を見出すこと。

授業内容

第1回 金融排除・金融包摂の概論
 第2回 金融排除・金融包摂の歴史(ヨーロッパ)
 第3回 金融排除・金融包摂の歴史(アメリカ)
 第4回 金融排除・金融包摂の歴史(途上国)
 第5回 金融排除・金融包摂の歴史(日本:近代)
 第6回 金融排除・金融包摂の歴史(日本:現代)
 第7回 金融排除・金融包摂の理論
 第8回 各論(1)地理的排除
 第9回 各論(2)多重・過剰債務
 第10回 各論(3)マイノリティ
 第11回 各論(4)金融教育
 第12回 各論(5)デジタル金融
 第13回 各論(6)消費者保護政策
 第14回 金融排除・金融包摂の課題と展望

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

受講者の研究課題に沿った参考書を選定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ECN662J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	社会的金融論演習ⅡA (MC)		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：社会的金融及びその関連領域の先行研究を幅広く読み、研究動向と論点を整理する。
 到達目標：社会的金融に関する研究動向と、社会的金融をめぐる論点について理解を深めること。

授業内容

第1回 金融排除論
 第2回 金融包摂論
 第3回 社会開発論
 第4回 コミュニティ開発論
 第5回 貧困研究
 第6回 社会保障論
 第7回 社会的企業論(社会学)
 第8回 社会的企業論(経営学)
 第9回 非営利組織論(社会学)
 第10回 非営利組織論(経営学)
 第11回 社会的経済論
 第12回 協同組合論
 第13回 地域金融論
 第14回 リレーションシップバンキング

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

受講者の研究課題に沿った参考書を選定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

博士前期課程

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ECN662J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	社会的金融論演習ⅡB (MC)		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：マイクロファイナンス及びその関連領域の先行研究を幅広く読み、研究動向と論点を整理する。
到達目標：先進国におけるマイクロファイナンスに関する研究動向と、マイクロファイナンスをめぐる論点について理解を深めること。

授業内容

- 第1回 マイクロファイナンスの概論
- 第2回 マイクロファイナンスの歴史
- 第3回 マイクロファイナンスの市場規模
- 第4回 マイクロファイナンスの利用者層
- 第5回 マイクロファイナンス機関の経営
- 第6回 マイクロファイナンス機関のガバナンス
- 第7回 融資手法：グループ融資
- 第8回 融資手法：個別融資
- 第9回 預金・保険・送金
- 第10回 零細企業の経営支援
- 第11回 マイクロファイナンスの社会的インパクト
- 第12回 マイクロファイナンス政策
- 第13回 マイクロファイナンスに対する批判(ミッション・ドリフト論)
- 第14回 マイクロファイナンスに対する批判(新自由主義批判)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

受講者の研究課題に沿った参考書を選定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ECN561J			
公共経営系		備考	
科目名	ソーシャル・ファイナンス特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：社会的金融の意義と理論、日本における社会的金融の現状を中心に検討を進める。
到達目標：日本における社会的金融の諸側面を包括的に検討し、課題を見出すこと。

授業内容

- 第1回 イントロダクション・ソーシャル・ファイナンスの基礎
- 第2回 ソーシャル・ファイナンスの歴史(日本) 1
- 第3回 ソーシャル・ファイナンスの歴史(日本) 2
- 第4回 中小企業融資
- 第5回 社会的企業の資金調達
- 第6回 NPO融資
- 第7回 クラウドファンディング
- 第8回 コミュニティ財団と市民出資
- 第9回 インパクト投資・インパクト評価
- 第10回 サステナブル投資
- 第11回 消費者の金融排除
- 第12回 被災者の金融排除
- 第13回 外国人の金融排除
- 第14回 地域通貨

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

マネジメントコース

科目ナンバー：(BA) ECN561J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	ソーシャル・ファイナンス特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(社会学) 小関 隆志		

授業の概要・到達目標

授業の概要：海外における社会的金融の歴史と現状を中心に検討を進める。

到達目標：海外における社会的金融の諸側面を包括的に検討し、課題を見出すこと。

授業内容

- 第1回 ヨーロッパのSF(1)歴史
- 第2回 ヨーロッパのSF(2)金融包摂
- 第3回 ヨーロッパのSF(3)ソーシャル・バンク
- 第4回 アメリカのSF(1)金融包摂
- 第5回 アメリカのSF(2)コミュニティ開発金融
- 第6回 アメリカのSF(4)社会的企業の資金調達
- 第7回 途上国のSF(1)マイクロファイナンス1
- 第8回 途上国のSF(2)マイクロファイナンス2
- 第9回 途上国のSF(3)金融包摂
- 第10回 グローバルな動向(1)サステナブル投資
- 第11回 グローバルな動向(2)インパクト投資
- 第12回 グローバルな動向(3)ESG債
- 第13回 グローバルな動向(4)デジタル金融と金融排除
- 第14回 移民に対する金融包摂

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後に、毎回の授業内容に即した文献を収集し、考察すること。

教科書

特になし

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

經 営 学 研 究 科

博士後期課程

(授業科目・担当者及び履修方法)

1. 修了要件

- (1) 指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
- (2) 指導教員が必要と認める授業科目 12 単位を、修得しなければならない。
- (3) 指導教員が必要と認めた場合には、博士前期課程設置科目、他研究科設置科目及び別表 1 の 2 に規定する研究科間共通科目を履修することができる。

2. 修了について

- (1) 在籍中（再入学の場合を含む）に博士学位請求論文を提出しようとする者は、4 月 1 日から 8 月 31 日までに予備登録を行い、予備登録当日から 8 月 31 日 23 時 59 分までに博士学位請求論文等を提出しなければならない。
- (2) 予備審査委員 3 名以上による予備審査の後、研究科委員会において論文の受理の可否を決定し、受理が承認された場合に本審査を開始する。

審査委員（3 名以上）を選定し、審査委員による本審査の後、研究科委員会において審査報告がなされ、論文合否を決定する。審査期間は、原則として 2 月の研究科委員会までに終了するものとする。研究科委員会で論文合格が承認された後、大学院委員会で審議され、最終判定を決する。

博士後期課程

授業科目及び担当者

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	2026年度開講せず
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 2 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	2026年度開講せず
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 2 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 3 A	講2	—		—	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	2026年度開講せず
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 3 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 3 B	講2		—	—	専任教授 博士(経営学) 原 田 将	2026年度開講せず
経 営 理 論 ・ 管 理 特 殊 研 究 3 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 牛 丸 元	
企 業 論 特 殊 研 究 1 A	講2	—		—	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	2026年度開講せず
企 業 論 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 岡 田 浩 一	
企 業 論 特 殊 研 究 1 B	講2		—	—	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	2026年度開講せず
企 業 論 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 岡 田 浩 一	
企 業 論 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	2026年度開講せず
企 業 論 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 岡 田 浩 一	2026年度開講せず
企 業 論 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	2026年度開講せず
企 業 論 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 岡 田 浩 一	2026年度開講せず
企 業 論 特 殊 研 究 3 A	講2	○		○	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
企 業 論 特 殊 研 究 3 A	講2	○		○	専任教授 岡 田 浩 一	
企 業 論 特 殊 研 究 3 B	講2		○	○	専任教授 経済学博士 郝 燕 書	
企 業 論 特 殊 研 究 3 B	講2		○	○	専任教授 岡 田 浩 一	
経 営 科 学 特 殊 研 究 1 A	講2	—		—		2026年度開講せず
経 営 科 学 特 殊 研 究 1 B	講2		—	—		2026年度開講せず
経 営 科 学 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—		2026年度開講せず
経 営 科 学 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—		2026年度開講せず
経 営 科 学 特 殊 研 究 3 A	講2	—		—		2026年度開講せず
経 営 科 学 特 殊 研 究 3 B	講2		—	—		2026年度開講せず
人 事 労 務 特 殊 研 究 1 A	講2	—		—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
人 事 労 務 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
人 事 労 務 特 殊 研 究 1 B	講2		—	—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
人 事 労 務 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
人 事 労 務 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
人 事 労 務 特 殊 研 究 2 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
人 事 労 務 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	2026年度開講せず
人 事 労 務 特 殊 研 究 2 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	
人 事 労 務 特 殊 研 究 3 A	講2	○		○	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	
人 事 労 務 特 殊 研 究 3 A	講2	—		—	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	2026年度開講せず
人 事 労 務 特 殊 研 究 3 B	講2		○	○	専任教授 博士(学術) 中 西 晶	
人 事 労 務 特 殊 研 究 3 B	講2		—	—	専任教授 博士(経営学) 山 崎 憲	2026年度開講せず
経 営 史 特 殊 研 究 1 A	講2	—		—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず
経 営 史 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	
経 営 史 特 殊 研 究 1 B	講2		—	—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず

科 目 名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担 当 教 員	備 考
経 営 史 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	
経 営 史 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず
経 営 史 特 殊 研 究 2 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	
経 営 史 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	2026年度開講せず
経 営 史 特 殊 研 究 2 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	
経 営 史 特 殊 研 究 3 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	
経 営 史 特 殊 研 究 3 A	講2	—		—	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	2026年度開講せず
経 営 史 特 殊 研 究 3 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡	
経 営 史 特 殊 研 究 3 B	講2		—	—	専任教授 博士(経営学) 宮 田 憲 一	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 小 俣 光 文	
財 務 会 計 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 大 倉 学	
財 務 会 計 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 博士(学術) 千 葉 貴 律	
財 務 会 計 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 博士(経営学) 石 津 寿 恵	
財 務 会 計 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 小 俣 光 文	
財 務 会 計 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 大 倉 学	
財 務 会 計 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 博士(学術) 千 葉 貴 律	
財 務 会 計 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 博士(経営学) 石 津 寿 恵	
財 務 会 計 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 小 俣 光 文	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 大 倉 学	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 博士(学術) 千 葉 貴 律	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 博士(経営学) 石 津 寿 恵	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 小 俣 光 文	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 大 倉 学	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 博士(学術) 千 葉 貴 律	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 博士(経営学) 石 津 寿 恵	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 3 A	講2	—		—	専任教授 小 俣 光 文	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 3 A	講2	○		○	専任教授 大 倉 学	
財 務 会 計 特 殊 研 究 3 A	講2	—		—	専任教授 博士(学術) 千 葉 貴 律	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 3 A	講2	—		—	専任教授 博士(経営学) 石 津 寿 恵	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 3 B	講2		—	—	専任教授 小 俣 光 文	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 3 B	講2		○	○	専任教授 大 倉 学	
財 務 会 計 特 殊 研 究 3 B	講2		—	—	専任教授 博士(学術) 千 葉 貴 律	2026年度開講せず
財 務 会 計 特 殊 研 究 3 B	講2		—	—	専任教授 博士(経営学) 石 津 寿 恵	2026年度開講せず
管 理 会 計 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 大 槻 晴 海	
管 理 会 計 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 大 槻 晴 海	
管 理 会 計 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 大 槻 晴 海	2026年度開講せず
管 理 会 計 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 大 槻 晴 海	2026年度開講せず
管 理 会 計 特 殊 研 究 3 A	講2	—		—	専任教授 大 槻 晴 海	2026年度開講せず
管 理 会 計 特 殊 研 究 3 B	講2		—	—	専任教授 大 槻 晴 海	2026年度開講せず
公 共 経 営 特 殊 研 究 1 A	講2	○		○	専任教授 塚 本 一 郎	
公 共 経 営 特 殊 研 究 1 A	講2	—		—	専任教授 博士(政治学) 菊 地 端 夫	2026年度開講せず
公 共 経 営 特 殊 研 究 1 B	講2		○	○	専任教授 塚 本 一 郎	
公 共 経 営 特 殊 研 究 1 B	講2		—	—	専任教授 博士(政治学) 菊 地 端 夫	2026年度開講せず
公 共 経 営 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 塚 本 一 郎	2026年度開講せず
公 共 経 営 特 殊 研 究 2 A	講2	—		—	専任教授 博士(政治学) 菊 地 端 夫	2026年度開講せず
公 共 経 営 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 塚 本 一 郎	2026年度開講せず
公 共 経 営 特 殊 研 究 2 B	講2		—	—	専任教授 博士(政治学) 菊 地 端 夫	2026年度開講せず
公 共 経 営 特 殊 研 究 3 A	講2	○		○	専任教授 塚 本 一 郎	

科目名	単位	春学期	秋学期	研究指導	担当教員	備考
公共経営特殊研究3A	講2	—		—	専任教授 博士(政治学) 菊地 端 夫	2026年度開講せず
公共経営特殊研究3B	講2		○	○	専任教授 塚本 一 郎	
公共経営特殊研究3B	講2		—	—	専任教授 博士(政治学) 菊地 端 夫	2026年度開講せず
International Business Research 1A	講2	○				
International Business Research 1B	講2		○			
International Business Research 2A	講2	○				
International Business Research 2B	講2		○			
International Business Research 3A	講2	○				
International Business Research 3B	講2		○			

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営理論・管理特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 原田 将		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、ブランドに関する英語論文を読む。特に、ブランド志向、ブランドコミットメントへの効果に関する論文を読む。その合間に各自の研究報告をしてもらう。

〈到達目標〉

ブランド研究に関する最先端の知識を身につけること。そして、クオリティの高い学術論文が執筆できるようになること。

授業内容

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 学術論文輪読1
- 第3回 学術論文輪読2
- 第4回 学術論文輪読3
- 第5回 学術論文輪読4
- 第6回 学術論文輪読5
- 第7回 研究報告
- 第8回 学術論文輪読6
- 第9回 学術論文輪読7
- 第10回 学術論文輪読8
- 第11回 学術論文輪読9
- 第12回 学術論文輪読10
- 第13回 研究報告
- 第14回 総括

履修上の注意

マーケティング、消費者行動、組織論の知識は、履修のため不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを事前に読んで、レジュメを作って報告してもらうので予習は必須である。授業の後、不明な点は自分で調べること。それでも不明な場合、遠慮なく質問して欲しい。

教科書

第1回目に指定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

毎回の参加度60%、自分の研究テーマ発表40%。

その他

時々研究報告の機会を与えるので事前に準備しておくこと。

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営理論・管理特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 牛丸 元		

授業の概要・到達目標

企業行動に関する博士論文を執筆するために必要な実証的アプローチによる能力を養成する。

授業内容

- 1回 方法論の研究1
- 2回 方法論の研究2
- 3回 方法論の研究3
- 4回 方法論の研究4
- 5回 方法論の研究5
- 6回 方法論の研究6
- 7回 方法論の研究7
- 8回 研究テーマに関する研究1
- 9回 研究テーマに関する研究2
- 10回 研究テーマに関する研究3
- 11回 研究テーマに関する研究4
- 12回 研究テーマに関する研究5
- 13回 研究テーマに関する研究6
- 14回 研究テーマに関する研究7

履修上の注意

多変量解析の知識を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文を読み、サマリーをつくってもらいます。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

- 添削後、メールにてフィードバックする。
- Zoomを利用する場合もある。

成績評価の方法

発表内容70%
授業態度30%

その他

特になし

博士後期課程

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	経営理論・管理特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学)	原 田	将

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、ブランドに関する英語論文を読む。特に、ブランド志向、ブランドコミットメントへの効果に関する論文を読む。その合間に各自の研究報告をしてもらう。

〈到達目標〉

ブランド研究に関する最先端の知識を身につけること。そして、クオリティの高い学術論文が執筆できるようになること。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 学術論文輪読1
第3回 学術論文輪読2
第4回 学術論文輪読3
第5回 学術論文輪読4
第6回 学術論文輪読5
第7回 研究報告
第8回 学術論文輪読6
第9回 学術論文輪読7
第10回 学術論文輪読8
第11回 学術論文輪読9
第12回 学術論文輪読10
第13回 研究報告
第14回 総括

履修上の注意

マーケティング、消費者行動、組織論の知識は、履修のため不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを事前に読んで、レジュメを作って報告してもらうので予習は必須である。授業の後、不明な点は自分で調べること。それでも不明な場合、遠慮なく質問して欲しい。

教科書

第1回目に指定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

毎回の参加度60%、自分の研究テーマ発表40%。

その他

時々研究報告の機会を与えるので事前に準備しておくこと。

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	経営理論・管理特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学)	牛 丸	元

授業の概要・到達目標

実証系の博士論文を執筆するために必要な能力を養成する。

授業内容

1回 研究テーマの定量的側面に関する検討1
2回 研究テーマの定量的側面に関する検討2
3回 研究テーマの定量的側面に関する検討3
4回 研究テーマの定量的側面に関する検討4
5回 研究テーマの定量的側面に関する検討5
6回 研究テーマの定量的側面に関する検討6
7回 研究テーマの定量的側面に関する検討7
8回 研究テーマの定性的側面に関する検討1
9回 研究テーマの定性的側面に関する検討2
10回 研究テーマの定性的側面に関する検討3
11回 研究テーマの定性的側面に関する検討4
12回 研究テーマの定性的側面に関する検討5
13回 研究テーマの定性的側面に関する検討6
14回 研究テーマの定性的側面に関する検討7

履修上の注意

多変量解析の知識を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文を読み、サマリーをつくってもらいます。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

- 添削後、メールにてフィードバックする。
- Zoomを利用する場合もある。

成績評価の方法

発表70点
態度30点

その他

特になし

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経営理論・管理特殊研究2A		
開 講 期	春学期	単 位	講 2
担 当 者	専任教授 博士（経営学）		原 田 将

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、インターナル・ブランディングに関する英語論文を読む。ブランド研究、マーケティング研究、サービス研究、HR研究など、様々な観点からインターナル・ブランディングはアプローチされている。各研究におけるホットトピックの論文を読各。その合間に各自の研究報告をしてもらう。

〈到達目標〉

インターナル・ブランディング研究に関する最先端の知識を身につけること。そして、クオリティの高い学術論文が執筆できるようになること。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 学術論文輪読1
- 第3回 学術論文輪読2
- 第4回 学術論文輪読3
- 第5回 学術論文輪読4
- 第6回 学術論文輪読5
- 第7回 研究報告
- 第8回 学術論文輪読6
- 第9回 学術論文輪読7
- 第10回 学術論文輪読8
- 第11回 学術論文輪読9
- 第12回 学術論文輪読10
- 第13回 研究報告
- 第14回 総括

履修上の注意

最低限、マーケティングの知識、国際経営の知識は、履修のため不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを事前に読んで、レジュメを作って報告してもらうので予習は必須である。授業の後、不明な点は自分で調べること。それでも不明な場合、遠慮なく質問して欲しい。

教科書

第1回目に指定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

毎回の参加度60%、自分の研究テーマ発表40%。

その他

時々研究報告の機会を与えるので事前に準備しておくこと。

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	経営理論・管理特殊研究2A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士（経営学）		牛丸 元

授業の概要・到達目標

企業行動に関する博士論文を執筆するために必要な実証的アプローチによる能力を養成する。

授業内容

- 1回 方法論の研究1
- 2回 方法論の研究2
- 3回 方法論の研究3
- 4回 方法論の研究4
- 5回 方法論の研究5
- 6回 方法論の研究6
- 7回 方法論の研究7
- 8回 研究テーマに関する研究1
- 9回 研究テーマに関する研究2
- 10回 研究テーマに関する研究3
- 11回 研究テーマに関する研究4
- 12回 研究テーマに関する研究5
- 13回 研究テーマに関する研究6
- 14回 研究テーマに関する研究7

履修上の注意

多変量解析の知識を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文を読み、サマリーをつくってもらいます。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

- 添削後、メールにてフィードバックする。
- Zoomを利用する場合もある。

成績評価の方法

発表内容70%
授業態度30%

その他

特になし

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経営理論・管理特殊研究2B		
開 講 期	秋学期	単 位	講 2
担 当 者	専任教授 博士（経営学）		原 田 将

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、インターナル・ブランディングに関する英語論文を読む。ブランド研究、マーケティング研究、サービス研究、HR研究など、様々な観点からインターナル・ブランディングはアプローチされている。各研究におけるホットトピックの論文を読各。その合間に各自の研究報告をしてもらう。

〈到達目標〉

インターナル・ブランディング研究に関する最先端の知識を身につけること。そして、クオリティの高い学術論文が執筆できるようになること。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 学術論文輪読1
- 第3回 学術論文輪読2
- 第4回 学術論文輪読3
- 第5回 学術論文輪読4
- 第6回 学術論文輪読5
- 第7回 研究報告
- 第8回 学術論文輪読6
- 第9回 学術論文輪読7
- 第10回 学術論文輪読8
- 第11回 学術論文輪読9
- 第12回 学術論文輪読10
- 第13回 研究報告
- 第14回 総括

履修上の注意

最低限、マーケティングの知識、国際経営の知識は、履修のため不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを事前に読んで、レジュメを作って報告してもらうので予習は必須である。授業の後、不明な点は自分で調べること。それでも不明な場合、遠慮なく質問して欲しい。

教科書

第1回目に指定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

毎回の参加度60%、自分の研究テーマ発表40%。

その他

時々研究報告の機会を与えるので事前に準備しておくこと。

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備 考	
科 目 名	経営理論・管理特殊研究2B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士（経営学）		牛丸 元

授業の概要・到達目標

実証系の博士論文を執筆するために必要な能力を養成する。

授業内容

- 1回 研究テーマの定量的側面に関する検討1
- 2回 研究テーマの定量的側面に関する検討2
- 3回 研究テーマの定量的側面に関する検討3
- 4回 研究テーマの定量的側面に関する検討4
- 5回 研究テーマの定量的側面に関する検討5
- 6回 研究テーマの定量的側面に関する検討6
- 7回 研究テーマの定量的側面に関する検討7
- 8回 研究テーマの定性的側面に関する検討1
- 9回 研究テーマの定性的側面に関する検討2
- 10回 研究テーマの定性的側面に関する検討3
- 11回 研究テーマの定性的側面に関する検討4
- 12回 研究テーマの定性的側面に関する検討5
- 13回 研究テーマの定性的側面に関する検討6
- 14回 研究テーマの定性的側面に関する検討7

履修上の注意

多変量解析の知識を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文を読み、サマリーをつくってもらいます。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

- 添削後、メールにてフィードバックする。
- Zoomを利用する場合もある。

成績評価の方法

発表70点
態度30点

その他

特になし

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営理論・管理特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学)	原田 将	

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、消費者行動に関する英語論文を読む。特に、買物行動における感情に関する論文を読む。その合間に各自の研究報告をしてもらう。

〈到達目標〉

消費者行動研究に関する最先端の知識を身につけること。そして、クオリティの高い学術論文が執筆できるようになること。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 学術論文輪読1
第3回 学術論文輪読2
第4回 学術論文輪読3
第5回 学術論文輪読4
第6回 学術論文輪読5
第7回 研究報告
第8回 学術論文輪読6
第9回 学術論文輪読7
第10回 学術論文輪読8
第11回 学術論文輪読9
第12回 学術論文輪読10
第13回 研究報告
第14回 総括

履修上の注意

マーケティング、消費者行動の知識は、履修のため不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを事前に読んで、レジメを作って報告してもらうので予習は必須である。授業の後、不明な点は自分で調べること。それでも不明な場合、遠慮なく質問して欲しい。

教科書

第1回目に指定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

毎回の参加度60%、自分の研究テーマ発表40%。

その他

時々研究報告の機会を与えるので事前に準備しておくこと。

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営理論・管理特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学)	牛丸 元	

授業の概要・到達目標

企業行動に関する博士論文を執筆するために必要な実証的アプローチによる能力を養成する。

授業内容

1回 方法論の研究1
2回 方法論の研究2
3回 方法論の研究3
4回 方法論の研究4
5回 方法論の研究5
6回 方法論の研究6
7回 方法論の研究7
8回 研究テーマに関する研究1
9回 研究テーマに関する研究2
10回 研究テーマに関する研究3
11回 研究テーマに関する研究4
12回 研究テーマに関する研究5
13回 研究テーマに関する研究6
14回 研究テーマに関する研究7

履修上の注意

多変量解析の知識を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文を読み、サマリーをつくってもらいます。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

- 添削後、メールにてフィードバックする。
- Zoomを利用する場合もある。

成績評価の方法

発表内容70%
授業態度30%

その他

特になし

博士後期課程

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営理論・管理特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学)	原田 将	

授業の概要・到達目標

〈概要〉

本演習は、消費者行動に関する英語論文を読む。特に、買物行動における感情に関する論文を読む。その合間に各自の研究報告をしてもらう。

〈到達目標〉

消費者行動研究に関する最先端の知識を身につけること。そして、クオリティの高い学術論文が執筆できるようになること。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 学術論文輪読1
第3回 学術論文輪読2
第4回 学術論文輪読3
第5回 学術論文輪読4
第6回 学術論文輪読5
第7回 研究報告
第8回 学術論文輪読6
第9回 学術論文輪読7
第10回 学術論文輪読8
第11回 学術論文輪読9
第12回 学術論文輪読10
第13回 研究報告
第14回 総括

履修上の注意

マーケティング、消費者行動の知識は、履修のため不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを事前に読んで、レジюмеを作って報告してもらうので予習は必須である。授業の後、不明な点は自分で調べること。それでも不明な場合、遠慮なく質問して欲しい。

教科書

第1回目に指定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対しては、対面でフィードバックする。課題については、コメント付きの提出資料をフィードバックする。

成績評価の方法

毎回の参加度60%、自分の研究テーマ発表40%。

その他

時々研究報告の機会を与えるので事前に準備しておくこと。

科目ナンバー：(BA) MAN761J			
経営理論・管理系		備考	
科目名	経営理論・管理特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学)	牛丸 元	

授業の概要・到達目標

実証系の博士論文を執筆するために必要な能力を養成する。

授業内容

1回 研究テーマの定量的側面に関する検討1
2回 研究テーマの定量的側面に関する検討2
3回 研究テーマの定量的側面に関する検討3
4回 研究テーマの定量的側面に関する検討4
5回 研究テーマの定量的側面に関する検討5
6回 研究テーマの定量的側面に関する検討6
7回 研究テーマの定量的側面に関する検討7
8回 研究テーマの定性的側面に関する検討1
9回 研究テーマの定性的側面に関する検討2
10回 研究テーマの定性的側面に関する検討3
11回 研究テーマの定性的側面に関する検討4
12回 研究テーマの定性的側面に関する検討5
13回 研究テーマの定性的側面に関する検討6
14回 研究テーマの定性的側面に関する検討7

履修上の注意

多変量解析の知識を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文を読み、サマリーをつくってもらいます。

教科書

適宜指示

参考書

適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

- 添削後、メールにてフィードバックする。
- Zoomを利用する場合もある。

成績評価の方法

発表70点
態度30点

その他

特になし

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	企業論特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

履修者の問題関心に基づいて関係文献を研究し、現地調査やヒアリングも行う。進化している中国企業の経営管理の最新情報と資料を収集し、それを討論し分析した上で、最新の成果をまとめる。

中国の国有企業・民営企業・外資系企業の競争優位の形成をテーマとする。中国国内では企業間競争の激化と企業間の合従連衡による大企業化の時代が訪れつつある。中国企業は日米欧の先進各国の企業と競争と共生の道を探りながら、生き残りを図っている。本講義では、グローバル時代における後発国である中国企業の経営戦略、組織構造、経営管理等の分野において競争優位の形成及び確立の過程を考察し、その問題点も検討し、理論分析及び実証分析の両側面から研究を進めていく。

授業内容

- 第1回：中国企業の創出と進化
- 第2回：国有企業の改革
- 第3回：国有企業の経営戦略
- 第4回：国有企業の人材育成
- 第5回：国有企業の組織構造
- 第6回：民営企業の生成
- 第7回：民営企業の成長
- 第8回：民営企業の企業家
- 第9回：民営企業の経営戦略
- 第10回：外資系企業の経営戦略
- 第11回：外資系企業の労務管理
- 第12回：外資系企業の人材育成
- 第13回：外資系企業の技術移転
- 第14回：試験とまとめ

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を読むこと。授業に積極的に参加し発言すること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し、開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年。その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

問題を分析する能力、研究の意欲を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備考	
科目名	企業論特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

概要

中小企業研究の理論と実証研究について、後期課程に求められるレベルでの研究を展開する。

到達目標

博士論文作成を目標とする。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 研究課題の設定
- 第3回 研究計画概要作成
- 第4回 先行研究等の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 中小企業研究の最新動向検討
- 第7回 中小企業研究における各論の最新動向検討1
- 第8回 中小企業研究における各論の最新動向検討2
- 第9回 民主化研究の最新動向検討
- 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
- 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
- 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
- 第13回 今後に向けて研究計画の検証
- 第14回 まとめと総括

必要に応じて柔軟に対応する。

履修上の注意

講義形式の授業ではないので、問題意識を明確したうえで履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

中小企業研究関連の古典的文献を基本的に精読しておくこと。

教科書

履修者の問題意識に応じて選択する。

参考書

履修者の問題意識に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-o! Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

博士後期課程

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	企業論特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講 2
担 当 者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

履修者の問題関心に基づいて関係文献を研究し、現地調査やヒヤリングも行う。進化している中国企業の経営管理の最新情報と資料を収集し、それを討論し分析した上で、最新の成果をまとめる。

中国の国有企業・民営企業・外資系企業の競争優位の形成をテーマとする。中国国内では企業間競争の激化と企業間の合従連衡による大企業化の時代が訪れつつある。中国企業は日米欧の先進各国の企業と競争と共生の道を探りながら、生き残りを図っている。本講義では、グローバル時代における後発国である中国企業の経営戦略、組織構造、経営管理等の分野において競争優位の形成及び確立の過程を考察し、その問題点も検討し、理論分析及び実証分析の両側面から研究を進めていく。

授業内容

- 第1回：国有企業の歴史
 - 第2回：国有企業の事例研究(1)
 - 第3回：国有企業の事例研究(2)
 - 第4回：国有企業の事例研究(3)
 - 第5回：国有企業の事例研究(4)
 - 第6回：民営企業の生成
 - 第7回：民営企業の事例研究(1)
 - 第8回：民営企業の事例研究(2)
 - 第9回：民営企業の事例研究(3)
 - 第10回：民営企業の事例研究(4)
 - 第11回：外資導入と外資系企業
 - 第12回：合併企業の事例研究
 - 第13回：独資企業の事例研究
 - 第14回：試験とまとめ
- * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を読むこと。授業に積極的に参加し発言すること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し、開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年。その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

問題を分析する能力、研究の意欲を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備 考	
科 目 名	企業論特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

概要

中小企業研究の理論と実証研究について、後期課程に求められるレベルでの研究を展開する。

到達目標

博士論文作成を目標とする。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
 - 第2回 研究課題の設定
 - 第3回 研究計画概要作成
 - 第4回 先行研究等の検討
 - 第5回 文献リストの作成
 - 第6回 中小企業研究の最新動向検討
 - 第7回 中小企業研究における各論の最新動向検討1
 - 第8回 中小企業研究における各論の最新動向検討2
 - 第9回 民主化研究の最新動向検討
 - 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
 - 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
 - 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
 - 第13回 今後に向けて研究計画の検討
 - 第14回 まとめと総括
- 必要に応じて柔軟に対応する。

履修上の注意

講義形式の授業ではないので、問題意識を明確したうえで履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

中小企業研究の古典的業績は基本的小さくおさえておくこと。

教科書

履修者の問題意識に応じて選択する。

参考書

履修者の問題意識に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-o! Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

発表50%、参加貢献度50%

その他

特になし

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	企業論特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

中国企業は改革・開放政策を実施して以降、国有企業改革を進めながら、外国企業の経営管理方式、技術を吸収し、習得することによって大きく変貌してきた。本特論では、日米欧諸国の企業に比較しながら、国有企業、民営企業、外資系企業等中国企業の事例を通じて、その管理方式の諸特質を考察し、それぞれの共通点、相違点等を検討する。

授業内容

第1回：講義の概要解説、院生の研究課題の把握
 第2回：企業体制の国際比較
 第3回：日米独の企業管理システム
 第4回：中央国有企業の実例
 第5回：地方国有電機企業の実例
 第6回：新型国有自動車企業の実例
 第7回：政経一体民営企業の実例
 第8回：中小民営企業の実例
 第9回：外向型の民営企業の実例
 第10回：日系合併企業の実例
 第11回：日系独資企業の実例
 第12回：日系自動車企業の実例
 第13回：日系自動車部品企業の実例
 第14回：韓国系企業の実例
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年。その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

討論参加・発表・レポートの状況など総合状況による評価。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	企業論特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

概要

中小企業研究の理論と実証研究について、企業論特殊研究1Aの修得を踏まえたレベルでの研究を展開する。

到達目標

博士論文作成を目標とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
 第2回 研究課題の確認
 第3回 当該年次当該期間の研究計画概要作成
 第4回 先行研究等の検討
 第5回 文献リストの作成
 第6回 中小企業研究の最新動向検討
 第7回 中小企業研究における各論の最新動向検討1
 第8回 中小企業研究における各論の最新動向検討2
 第9回 関連分野の最新研究の確認
 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
 第13回 今後に向けて研究計画の検証
 第14回 まとめと総括

履修上の注意

講義形式の授業ではないので、問題意識を明確したうえで履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

中小企業研究関連の古典的文献、基本的な文献を精読しておくこと。

教科書

履修者の問題意識に応じて選択する。

参考書

履修者の問題意識に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

筆記試験は行わず、日常的な研究姿勢と授業内における議論の内容を評価する(100%)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	企業論特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 経済学博士 郝 燕書		

授業の概要・到達目標

履修者の問題関心に基づいて関係文献を研究し、現地調査やヒヤリングも行う。進化している中国企業の経営管理の最新情報と資料を収集し、それを討論し分析した上で、最新の成果をまとめる。

中国の国有企業・民営企業・外資系企業の競争優位の形成をテーマとする。中国国内では企業間競争の激化と企業間の合従連衡による大企業化の時代が訪れつつある。中国企業は日米欧の先進各国の企業と競争と共生の道を探りながら、生き残りを図っている。本講義では、グローバル時代における後発国である中国企業の経営戦略、組織構造、経営管理等の分野において競争優位の形成及び確立の過程を考察し、その問題点も検討し、理論分析及び実証分析の両側面から研究を進めていく。

授業内容

第1回：国有企業の歴史
 第2回：国有企業の事例研究(1)
 第3回：国有企業の事例研究(2)
 第4回：国有企業の事例研究(3)
 第5回：国有企業の事例研究(4)
 第6回：民営企業の生成
 第7回：民営企業の事例研究(1)
 第8回：民営企業の事例研究(2)
 第9回：民営企業の事例研究(3)
 第10回：民営企業の事例研究(4)
 第11回：外資導入と外資系企業
 第12回：合併企業の事例研究
 第13回：独資企業の事例研究
 第14回：試験とまとめ
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を読むこと。授業に積極的に参加し発言すること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し、開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年 その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

問題を分析する能力、研究の意欲を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備考	2026年度開講せず
科目名	企業論特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 岡田 浩一		

授業の概要・到達目標

概要

中小企業研究の理論と実証研究について、企業論特殊研究1Bの修得を踏まえたレベルでの研究を展開する。

到達目標

博士論文作成を目標とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
 第2回 研究課題の確認
 第3回 当該年次当該期間の研究計画概要作成
 第4回 先行研究等の検討
 第5回 文献リストの作成
 第6回 中小企業研究の最新動向検討
 第7回 中小企業研究における各論の最新動向検討1
 第8回 中小企業研究における各論の最新動向検討2
 第9回 関連分野の最新研究の確認
 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
 第13回 今後に向けて研究計画の検証
 第14回 まとめと総括

履修上の注意

講義形式の授業ではないので、問題意識を明確したうえで履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

中小企業研究関連の古典的文献、基本的な文献を精読しておくこと。

教科書

履修者の問題意識に応じて選択する。

参考書

履修者の問題意識に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

筆記試験は行わず、論文作成過程での議論と論文への反映状況を評価する(100%)。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備 考	
科 目 名	企業論特殊研究3A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 経済学博士	郝 燕書	

授業の概要・到達目標

東アジアにおける代表的な企業である日本企業、韓国企業、華人企業の中国大陸の進出および現地経営に焦点を当て、中国で同企業を取り巻く経営環境の変化、経営組織、管理、さらには華人の行動パターンなどの諸側面及び諸特質を考察し、その共通点、相違点等を比較し検討する。

授業内容

第1回：講義の概要を解説、院生の研究課題の把握
第2回：中国における外資系の諸形態
第3回：日系企業の概要と特徴
第4回：日系独資企業の事例
第5回：日系合弁企業の事例
第6回：日系電機企業の事例
第7回：日系自動車企業の事例
第8回：華人系企業の概要と特徴
第9回：華人系企業の事例
第10回：台湾系企業の概要と特徴
第11回：台湾系巨大EMS企業の事例
第12回：韓国系企業の概要と特徴
第13回：韓国系電機企業の事例
第14回：韓国系自動車企業の事例
* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を事前に読むこと。積極的に発言し授業を双方向に進めること。

教科書

李捷生等『日系企業の人事・労務管理—人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015年11月6日発行

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年
その他の参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

討論参加・発表・レポートの状況など総合状況による評価。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備 考	
科 目 名	企業論特殊研究3A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授	岡田 浩一	

授業の概要・到達目標

概要

中小企業研究の理論と実証研究について、企業論特殊研究2Aの修得を踏まえたレベルでの研究を展開する。

到達目標

博士論文作成を目標とする。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 研究課題の確認
第3回 当該年次当該期間の研究計画概要作成
第4回 先行研究等の検討
第5回 文献リストの作成
第6回 中小企業研究の最新動向検討
第7回 中小企業研究における各論の最新動向検討1
第8回 中小企業研究における各論の最新動向検討2
第9回 関連分野の最新研究の確認
第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
第12回 博士論文要旨・章立て等検討
第13回 今後に向けて研究計画の検証
第14回 まとめと総括

履修上の注意

講義形式の授業ではないので、問題意識を明確したうえで履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

中小企業研究関連の古典的文献、基本的な文献を精読しておくこと。

教科書

履修者の問題意識に応じて選択する。

参考書

履修者の問題意識に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-o! Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

筆記試験は行わず、日常的な研究姿勢と授業内における議論の内容を評価する(100%)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備 考	
科 目 名	企業論特殊研究3B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 経済学博士	郝 燕書	

授業の概要・到達目標

履修者の問題関心に基づいて関係文献を研究し、現地調査やヒヤリングも行う。進化している中国企業の経営管理の最新情報と資料を収集し、それを討論し分析した上で、最新の成果をまとめる。

中国の国有企業・民営企業・外資系企業の競争優位の形成をテーマとする。中国国内では企業間競争の激化と企業間の合従連衡による大企業化の時代が訪れつつある。中国企業は日米欧の先進各国の企業と競争と共生の道を探りながら、生き残りを図っている。本講義では、グローバル時代における後発国である中国企業の経営戦略、組織構造、経営管理等の分野において競争優位の形成及び確立の過程を考察し、その問題点も検討し、理論分析及び実証分析の両側面から研究を進めていく。

授業内容

- 第1回：国有企業の歴史
 - 第2回：国有企業の事例研究(1)
 - 第3回：国有企業の事例研究(2)
 - 第4回：国有企業の事例研究(3)
 - 第5回：国有企業の事例研究(4)
 - 第6回：民営企業の生成
 - 第7回：民営企業の事例研究(1)
 - 第8回：民営企業の事例研究(2)
 - 第9回：民営企業の事例研究(3)
 - 第10回：民営企業の事例研究(4)
 - 第11回：外資導入と外資系企業
 - 第12回：合弁企業の事例研究
 - 第13回：独資企業の事例研究
 - 第14回：試験とまとめ
- * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

全員にレポート提出を義務付けている。事前の学習と準備が不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された文献を読むこと。授業に積極的に参加し発言すること。

教科書

とくに定めない。履修者の関心事を考慮し、開講時に決定する。

参考書

上山邦雄等『日中韓 産業競争力構造の実証分析—自動車・電機産業における現状と連携の可能性』創成社、2011年 その他参考文献一覧は、授業のときに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

問題を分析する能力、研究の意欲を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN711J			
企業論系		備 考	
科 目 名	企業論特殊研究3B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授	岡田 浩一	

授業の概要・到達目標

概要

中小企業研究の理論と実証研究について、企業論特殊研究2Bの修得を踏まえたレベルでの研究を展開する。

到達目標

博士論文作成を目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 研究課題の確認
- 第3回 当該年次当該期間の研究計画概要作成
- 第4回 先行研究等の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 中小企業研究の最新動向検討
- 第7回 中小企業研究における各論の最新動向検討1
- 第8回 中小企業研究における各論の最新動向検討2
- 第9回 関連分野の最新研究の確認
- 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
- 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
- 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
- 第13回 今後に向けて研究計画の検証
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

講義形式の授業ではないので、問題意識を明確したうえで履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

中小企業研究の古典的業績は基本的におさえておくこと。

教科書

履修者の問題意識に応じて選択する。

参考書

履修者の問題意識に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての解説などは、主にOh-ol Meijiを使って通知する。

成績評価の方法

筆記試験は行わず、論文作成過程での議論と論文への反映状況を評価する(100%)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	人事労務特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

経営心理学分野における院生それぞれの研究内容を議論することによって、博士論文研究を進めていく。研究計画とリサーチクエスチョンを確認し、受講生自らが該当分野における国内外の重要文献をレビューして紹介する。

<到達目標>

1. 博士後期課程の学生として必要な研究能力、研究態度、研究倫理を獲得する。
2. 学会発表、もしくは、紀要論文等の学術研究論文の準備ができる。

授業内容

- 第1回 研究計画の確認
- 第2回 研究のためのディスカッション(1)
- 第3回 研究のためのディスカッション(2)
- 第4回 研究のためのディスカッション(3)
- 第5回 研究のためのディスカッション(4)
- 第6回 研究のためのディスカッション(5)
- 第7回 研究のためのディスカッション(6)
- 第8回 研究のためのディスカッション(7)
- 第9回 研究のためのディスカッション(8)
- 第10回 研究のためのディスカッション(9)
- 第11回 研究のためのディスカッション(10)
- 第12回 研究のためのディスカッション(11)
- 第13回 研究のためのディスカッション(12)
- 第14回 まとめと今後に向けての課題整理

履修上の注意

積極的に国内外の関連学会や研究会に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

博士論文完成までの研究計画書を準備しておくこと。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションを等してのフィードバック、および提出された論文(課題)についての電子的な添削を行う。

成績評価の方法

毎回のディスカッションへの参加度 50%
学術研究論文の内容 50%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備考	
科目名	人事労務特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

日本の人事労務管理研究における歴史、思想、社会的特殊性とアメリカの人事労務管理における制度学派的な発展、そして1980年代以降に拡大した人的資源管理について、歴史的、社会的環境とあわせて輪読を通じて学んでいきます。日本の人事労務管理は社会政策の一環として捉えられてきましたが、一方でアメリカの人事労務管理は制度経済学のなかで位置づけられてきたとみることができます。一方で、企業活動を組織効率としてとらえる人的資源管理がおなじくアメリカで発展してきました。両者の歴史は時に絡み合いながら、時に方向性を変えて発展してきています。その現代的意味を模索しながら、人事労務管理、人的資源管理、そこで生きるわたしたちの働きがいとを重層的に検討していきます。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 輪読と報告1
- 第3回 輪読と報告2
- 第4回 研究報告1
- 第5回 輪読と報告3
- 第6回 輪読と報告4
- 第7回 研究報告2
- 第8回 輪読と報告5
- 第9回 輪読と報告6
- 第10回 研究報告3
- 第11回 輪読と報告7
- 第12回 輪読と報告8
- 第13回 研究報告4
- 第14回 まとめ

履修上の注意

先行研究の整理を日常的に行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で指示します。

教科書

講義で指示します。

参考書

講義で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

講義内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行います。

成績評価の方法

講義への参加と貢献50%、報告50%

その他

博士後期課程

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	人事労務特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術)	中西 晶	

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

経営心理学分野における院生それぞれの研究内容を議論することによって、博士論文研究を進めていく。研究の進捗を確認し、必要があれば計画をリバイズする。これまでの研究成果をまとめ、学会発表や論文投稿で得たフィードバックを確認して、リサーチクエスションや具体的研究方法について検討する。

<到達目標>

1. 博士後期課程の学生として必要な研究能力、研究態度、研究倫理を獲得する。
2. 学会発表、もしくは、紀要論文等の学術研究論文を提出する。

授業内容

- 第1回 研究計画の確認
- 第2回 研究のためのディスカッション(1)
- 第3回 研究のためのディスカッション(2)
- 第4回 研究のためのディスカッション(3)
- 第5回 研究のためのディスカッション(4)
- 第6回 研究のためのディスカッション(5)
- 第7回 研究のためのディスカッション(6)
- 第8回 研究のためのディスカッション(7)
- 第9回 研究のためのディスカッション(8)
- 第10回 研究のためのディスカッション(9)
- 第11回 研究のためのディスカッション(10)
- 第12回 研究のためのディスカッション(11)
- 第13回 研究のためのディスカッション(12)
- 第14回 まとめと今後に向けての課題整理

履修上の注意

積極的に国内外の関連学会や研究会に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

博士論文完成までの研究計画書のリバイズ。学会報告や論文投稿のスケジュール。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションを等してのフィードバック、および提出された論文(課題)についての電子的な添削を行う。

成績評価の方法

毎回のディスカッションへの参加度 50%
学術研究論文の内容 50%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	人事労務特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学)	山崎 憲	

授業の概要・到達目標

前期に引き続き、後期においても、日本の人事労務管理研究における歴史、思想、社会的特殊性とアメリカの人事労務管理における制度学派的な発展、そして1980年代以降に拡大した人的資源管理について、歴史的、社会的環境とあわせて輪読を通じて学んでいきます。日本の人事労務管理は社会政策の一環として捉えられてきましたが、一方でアメリカの人事労務管理は制度経済学のなかで位置づけられてきたとみることが出来ます。一方で、企業活動を組織効率としてとらえる人的資源管理がおなじくアメリカで発展してきました。両者の歴史は時に絡み合いながら、時に方向性を変えて発展してきました。その現代的意味を模索しながら、人事労務管理、人的資源管理、そこで生きるわたしたちの働きがいとを重層的に検討していきます。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 輪読と報告1
- 第3回 輪読と報告2
- 第4回 研究報告1
- 第5回 輪読と報告3
- 第6回 輪読と報告4
- 第7回 研究報告2
- 第8回 輪読と報告5
- 第9回 輪読と報告6
- 第10回 研究報告3
- 第11回 輪読と報告7
- 第12回 輪読と報告8
- 第13回 研究報告4
- 第14回 まとめ

履修上の注意

先行研究の整理を日常的に行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

教科書

講義で指示します。

参考書

講義で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

講義内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行います。

成績評価の方法

講義への参加と貢献50%、報告50%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	人事労務特殊研究2A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術)		中西 晶

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

経営心理学分野における院生それぞれの研究内容を議論することによって、博士論文研究を進めていく。1年次の結果をもとに、研究計画を見直し、リサーチクエストを明確化するとともに、研究方法(論)について確定していく。

<到達目標>

1. 博士後期課程の学生として必要な研究能力、研究態度、研究倫理を獲得する。
2. 学会発表、もしくは、紀要論文等の学術研究論文の準備ができる。
3. 博士学位請求論文の目次立て(構造化)ができる。

授業内容

- 第1回 研究計画の再確認
- 第2回 研究のためのディスカッション(1)
- 第3回 研究のためのディスカッション(2)
- 第4回 研究のためのディスカッション(3)
- 第5回 研究のためのディスカッション(4)
- 第6回 研究のためのディスカッション(5)
- 第7回 研究のためのディスカッション(6)
- 第8回 研究のためのディスカッション(7)
- 第9回 研究のためのディスカッション(8)
- 第10回 研究のためのディスカッション(9)
- 第11回 研究のためのディスカッション(10)
- 第12回 研究のためのディスカッション(11)
- 第13回 研究のためのディスカッション(12)
- 第14回 まとめと今後に向けての課題整理

履修上の注意

積極的に国内外の関連学会や研究会に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

博士論文完成までの研究計画書を準備しておくこと。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションを等してのフィードバック、および提出された論文(課題)についての電子的な添削を行う。

成績評価の方法

毎回のディスカッションへの参加度 50%
学術研究論文の内容 50%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	人事労務特殊研究2A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士（経営学） 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

日本の人事労務管理研究における歴史、思想、社会的特殊性とアメリカの人事労務管理における制度学派的な発展、そして1980年代以降に拡大した人的資源管理について、歴史的、社会的環境とあわせて輪読を通じて学んでいきます。人事労務特殊研究1に継続して制度経済学の古典および現代的な課題に課関する論文を温香ながら、人事労務管理、人的資源管理、そこで生きるわたしたちの働きがいとを重層的に検討していきます。

後期課程3年間の中間にあたり、査読論文執筆指導など博士論文完成にむけて歩みを進めていきます。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 輪読と報告1
- 第3回 輪読と報告2
- 第4回 研究報告1
- 第5回 輪読と報告3
- 第6回 輪読と報告4
- 第7回 研究報告2
- 第8回 輪読と報告5
- 第9回 輪読と報告6
- 第10回 研究報告3
- 第11回 輪読と報告7
- 第12回 輪読と報告8
- 第13回 研究報告4
- 第14回 まとめ

履修上の注意

先行研究の整理を日常的に行うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義で指示します。

教科書

講義で指示します。

参考書

講義で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

講義内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行います。

成績評価の方法

講義への参加と貢献50%、報告50%

その他

博士後期課程

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	人事労務特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 中西 晶		

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

経営心理学分野における院生それぞれの研究内容を議論することによって、博士論文研究を進めていく。博士学位請求論文のコアとなる部分について、学術研究論文を作成し、査読を受けたうえで受理されるように検討する。

<到達目標>

1. 博士後期課程の学生として必要な研究能力、研究態度、研究倫理を獲得する。
2. 学会発表、もしくは、紀要論文等の学術研究論文のフィードバックを受け、研究内容を向上させている。
3. 博士学位請求論文の中核となる部分についての学術研究論文が受理されている。

授業内容

- 第1回 博士学位請求論文の構成
- 第2回 研究のためのディスカッション(1)
- 第3回 研究のためのディスカッション(2)
- 第4回 研究のためのディスカッション(3)
- 第5回 研究のためのディスカッション(4)
- 第6回 研究のためのディスカッション(5)
- 第7回 研究のためのディスカッション(6)
- 第8回 研究のためのディスカッション(7)
- 第9回 研究のためのディスカッション(8)
- 第10回 研究のためのディスカッション(9)
- 第11回 研究のためのディスカッション(10)
- 第12回 研究のためのディスカッション(11)
- 第13回 研究のためのディスカッション(12)
- 第14回 まとめと今後に向けた課題整理

履修上の注意

積極的に学会誌、学内紀要等に投稿すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

複数の投稿論文が準備されていることが望ましい。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションを等してのフィードバック、および提出された論文(課題)についての電子的な添削を行う。

成績評価の方法

毎回のディスカッションへの参加度 50%
学術研究論文の内容 50%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備考	
科目名	人事労務特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 山崎 憲		

授業の概要・到達目標

日本の人事労務管理研究における歴史、思想、社会的特殊性とアメリカの人事労務管理における制度学派的な発展、そして1980年代以降に拡大した人的資源管理について、歴史的、社会的環境とあわせて輪読を通じて学んでいきます。人事労務特殊研究1に継続して制度経済学の古典および現代的な課題に課関する論文を温香ながら、人事労務管理、人的資源管理、そこで生きるわたしたちの働きがいとを重層的に検討していきます。

後期課程3年間の中間にあたり、査読論文執筆指導など博士論文完成にむけて歩みを進めていきます。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 輪読と報告1
- 第3回 輪読と報告2
- 第4回 研究報告1
- 第5回 輪読と報告3
- 第6回 輪読と報告4
- 第7回 研究報告2
- 第8回 輪読と報告5
- 第9回 輪読と報告6
- 第10回 研究報告3
- 第11回 輪読と報告7
- 第12回 輪読と報告8
- 第13回 研究報告4
- 第14回 まとめ

履修上の注意

先行研究の整理を日常的に行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で指示します。

教科書

講義で指示します。

参考書

講義で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

講義内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行います。

成績評価の方法

講義への参加と貢献50%、報告50%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備 考	
科 目 名	人事労務特殊研究3A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術)	中西	晶

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

経営心理学分野における院生それぞれの研究内容を議論することによって、博士学位請求論文を完成させる。

<到達目標>

1. 博士後期課程の学生として必要な研究能力、研究態度、研究倫理を獲得する。
2. 学会発表、もしくは、紀要論文等の学術研究論文が提出できる。
3. 博士学位請求論文を完成させる。

授業内容

- 第1回 研究計画の再確認
- 第2回 研究のためのディスカッション(1)
- 第3回 研究のためのディスカッション(2)
- 第4回 研究のためのディスカッション(3)
- 第5回 研究のためのディスカッション(4)
- 第6回 研究のためのディスカッション(5)
- 第7回 研究のためのディスカッション(6)
- 第8回 研究のためのディスカッション(7)
- 第9回 研究のためのディスカッション(8)
- 第10回 研究のためのディスカッション(9)
- 第11回 研究のためのディスカッション(10)
- 第12回 研究のためのディスカッション(11)
- 第13回 研究のためのディスカッション(12)
- 第14回 博士学位請求論文原稿の提出

履修上の注意

積極的に国内外の関連学会や研究会に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

博士学位請求論文提出に必要な3本の学術研究論文を執筆していること。もしくは、提出中であること。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションを等してのフィードバック、および提出された論文(課題)についての電子的な添削を行う。

成績評価の方法

毎回のディスカッションへの参加度 50%
博士学位請求論文の内容 50%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	人事労務特殊研究3A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学)	山崎	憲

授業の概要・到達目標

日本の人事労務管理研究における歴史、思想、社会的特殊性とアメリカの人事労務管理における制度学派的な発展、そして1980年代以降に拡大した人的資源管理について、歴史的、社会的環境とあわせて輪読を通じて学んでいきます。人事労務特殊研究1に継続して制度経済学の古典および現代的な課題に課関する論文を温香ながら、人事労務管理、人的資源管理、そこで生きるわたしたちの働きがいとを重層的に検討していきます。

後期課程3年間の最後にあたり、博士論文完成にむけて歩みを進めていきます。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 輪読と報告1
- 第3回 輪読と報告2
- 第4回 研究報告1
- 第5回 輪読と報告3
- 第6回 輪読と報告4
- 第7回 研究報告2
- 第8回 輪読と報告5
- 第9回 輪読と報告6
- 第10回 研究報告3
- 第11回 輪読と報告7
- 第12回 輪読と報告8
- 第13回 研究報告4
- 第14回 まとめ

履修上の注意

先行研究の整理を日常的に行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で指示します。

教科書

講義で指示します。

参考書

講義で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

講義内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行います。

成績評価の方法

講義への参加と貢献50%、報告50%

その他

博士後期課程

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備考	
科目名	人事労務特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術)	中西	晶

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

提出した博士学位請求論文について、自己の研究内容を振り返り、口頭試問に向けて検討する。

<到達目標>

博士学位請求論文について、予備審査、本審査に耐えうるものとする。

授業内容

- 第1回 研究計画の再確認
- 第2回 研究のためのディスカッション(1)
- 第3回 研究のためのディスカッション(2)
- 第4回 研究のためのディスカッション(3)
- 第5回 研究のためのディスカッション(4)
- 第6回 研究のためのディスカッション(5)
- 第7回 研究のためのディスカッション(6)
- 第8回 研究のためのディスカッション(7)
- 第9回 研究のためのディスカッション(8)
- 第10回 研究のためのディスカッション(9)
- 第11回 研究のためのディスカッション(10)
- 第12回 研究のためのディスカッション(11)
- 第13回 研究のためのディスカッション(12)
- 第14回 博士学位請求論文原稿の提出

履修上の注意

博士学位請求論文を提出中であることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

博士学位請求論文を提出中であること。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

毎週のディスカッションを等してのフィードバック、および提出された論文(課題)についての電子的な添削を行う。

成績評価の方法

博士学位請求論文の内容 100%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN731J			
人事・労務系		備考	2026年度開講せず
科目名	人事労務特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学)	山崎	憲

授業の概要・到達目標

日本の人事労務管理研究における歴史、思想、社会的特殊性とアメリカの人事労務管理における制度学派的な発展、そして1980年代以降に拡大した人的資源管理について、歴史的、社会的環境とあわせて輪読を通じて学んでいきます。人事労務特殊研究1に継続して制度経済学の古典および現代的な課題に課関する論文を温香ながら、人事労務管理、人的資源管理、そこで生きるわたしたちの働きがいとを重層的に検討していきます。

後期課程3年間の最後にあたり、博士論文完成にむけて歩みを進めていきます。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 輪読と報告1
- 第3回 輪読と報告2
- 第4回 研究報告1
- 第5回 輪読と報告3
- 第6回 輪読と報告4
- 第7回 研究報告2
- 第8回 輪読と報告5
- 第9回 輪読と報告6
- 第10回 研究報告3
- 第11回 輪読と報告7
- 第12回 輪読と報告8
- 第13回 研究報告4
- 第14回 まとめ

履修上の注意

先行研究の整理を日常的に行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で指示します。

教科書

講義で指示します。

参考書

講義で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

講義内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行います。

成績評価の方法

講義への参加と貢献50%、報告50%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営史特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

日本の科学的管理史の基礎を学ぶとともに、今日の日本の企業経営の経営管理全般に関する歴史的生成要因を探求する視座を養成することが受講者の到達目標となる。

授業内容

- 第1回:授業の目的と概要
- 第2回:科学的管理法の導入
- 第3回:日本電気にみる科学的管理の実際
- 第4回:芝浦製作所にみる科学的管理の実際
- 第5回:三菱電機にみる科学的管理の導入と展開
- 第6回:政府と財界団体の認識と動向
- 第7回:国際的関心と科学的管理運動の生成
- 第8回:戦時経済下の産業能率運動
- 第9回:財界の施策と流れ作業の概況
- 第10回:日本能率協会の設立と活動
- 第11回:中島飛行機にみる生産システム合理化の試み
- 第12回:三菱重工業にみる生産システム合理化の試み
- 第13回:戦後の生産性向上運動
- 第14回:日本における科学的管理発展のまとめ

履修上の注意

専門の研究者を志す者として、真摯かつ積極的な姿勢を求めたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各章で示している関連参考文献の学習も必要となります。

教科書

佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』（有斐閣、1998年）

参考書

必要に応じて、その都度、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

通常の授業中の学習姿勢と理解度（50％）および課題レポート（25％）と最終試験（25％）によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備考	
科目名	経営史特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

<概要>
この経営史特殊研究1では、アメリカにおける企業、産業、ビジネス・システム、企業家、企業家精神、経営文化の歴史を検討する。本講義では、18世紀後半から現在までを時代対象とし、その対象期間における企業成長、産業発展、企業家活動の様々な経路や解釈について読み、議論していく。加えて、企業が、その当時の経済、技術、文化、経済的コンテクストに組み込まれていく点も考察する。コース全体の目的は、博士後期課程の学生に、ビジネス、資本主義の歴史の中心的な課題を紹介し、それら内容と他の学術領域との関連を探っていくものとなる。
各回のトピックは、近代的マネジメントの出現、ビッグビジネスの台頭、政府の政策の影響、ビジネスに関わる法律的枠組み、産業の転換、資本主義経済における企業家精神の役割などを取り扱う。それらを通じて、歴史あるいは地理的といった特殊なコンテクストに埋め込まれたビジネス制度、構造、そして実践の出現を理解するフレームワークを学んでいく。そして、各テーマの著名な研究者による重要文献を議論し、それら論文の基礎となっている前提について考えていく。毎回の授業では、各トピックに関する最近の研究や出版物に加えて古典的な研究も合わせて取り扱っていく。
今期の経営史特殊研究1Aでは、近代企業、新しい技術、近代ビジネスの各システムについて検討し、博士後期課程における自らの研究テーマとアメリカ経営史領域全体との関係を探り、位置づける手掛かりを得ることを目的としたい。
ただし受講生の希望を踏まえて、より博士論文に沿った内容に変更する場合がある。
<到達目標>
・アメリカ経営史研究の専門知識を学習する。
・アメリカ経営史研究領域における自らの研究テーマの位置付けと目指す貢献について理解する
・ビジネス、資本主義の歴史の中心的な課題と他学術領域との関連性を見出す洞察力を養う。

授業内容

- 【イントロダクション】
第01回 研究報告①
【第Ⅰ部】
第02回 アメリカ経営史CW（1）:経営史というアプローチ; Gras (1934), Beckert (2011) etc
研究報告②
第03回 アメリカ経営史CW（2）:初期の商人とビジネス; Doeflinger (1983), Jaffee (1991) etc
研究報告③
第04回 アメリカ経営史CW（3）:大企業の形成; McCraw (2008), Chandler (1977) etc.
研究報告④
【第Ⅱ部】
第05回 アメリカ経営史CW（4）:マーケティングの進化; Chandler (1962), Friedman (2004) etc
研究報告⑤
第06回 アメリカ経営史CW（5）:自動車と大量生; McCraw (1996), McKenna (2006) etc
研究報告⑥
第07回 アメリカ経営史CW（6）:テレコミュニケーション; John (2010), Wu (2010) etc
研究報告⑦
【春学期総括】
第14回 アメリカ経営史CW（7）:クレジット・システム; Olegrio (2016), Calder (1999) etc

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・対象の論文やテキストを事前に読んだ上で毎回授業に臨むこと。
- ・履修者の希望に応じて輪読論文等を変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 予習(4時間)
 - ・指定された論文やテキストを読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
 - ・輪読論文やテキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
 - ・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。
- 復習(1時間)
 - ・授業での議論を踏まえて、輪読論文やテキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

輪読論文の詳細については初回授業で説明します。
※ただし参加者の要望を踏まえて、論文を変更する場合がある。

参考書

The Oxford Handbook of Business History, Geoffrey Jones and Jonathan Zeitlin編 (Oxford University Press), 2010
American Business since 1920, McCraw, Thomas and William Childs 著 (Wiley Blackwell), 2018.
The Rise of Big Business: 1860-1920, Poter, Glenn 著 (Wiley Blackwell), 2005.
American Business History, Walter, Friedman 著 (Oxford University Press), 2020.
『経営史の再構想』フィリップ・スクラントン＝パトリック・フリダグソン(著天社出版) 2017年。
『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。
その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営史特殊研究1B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

日本の流通史の基礎を学ぶとともに、今日の日本の企業経営の経営管理全般に関する歴史的生成要因を探究する視座を養成することが受講者の到達目標となる。

授業内容

- 第1回:日本の流通史を学ぶにあたっての目的と概要
第2回:化粧品問屋と化粧品業界の生成
第3回:初期のライオンによる流通合理化の試み
第4回:資生堂販売会社の設立と経営概況
第5回:戦前期花王の流通革新
第6回:戦時下の石鹸統制の背景と課題
第7回:日本石鹸配給統制会社の設立
第8回:ライオン石鹸配給会社の経営と実績
第9回:戦後の石鹸配給と石鹸配給規則
第10回:販売業者と石鹸メーカーの動向と卸売業界への影響
第11回:ライオン歯磨の流通組織化
第12回:再販売価格維持制度導入前の花王
第13回:花王の再販制度の導入と販社の設立
第14回:日本流通史の一断面

履修上の注意

専門の研究者を志す者として、真摯かつ積極的な姿勢を求めたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各章で示している関連参考文献の学習も必要になります。

教科書

佐々木聡『日本の流通の経営史』（有斐閣、2007年）、佐々木聡『地域卸売企業ダイカの開拓』（ミネルヴァ書房、2015年）、佐々木聡『中部地域有力卸売企業・伊藤伊の展開』（ミネルヴァ書房、2019年）、佐々木聡『西日本の有力卸売企業サンビックの成立と展開』（2023年）

参考書

必要に応じて、その都度、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

通常の授業中の学習姿勢と理解度（50％）および課題レポート（25％）と最終試験（25％）によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備考	
科目名	経営史特殊研究1B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

<概要>
この経営史特殊研究では、アメリカにおける企業、産業、ビジネス・システム、企業家、企業家精神、経営文化の歴史を検討する。本講義では、18世紀後半から現在までを時代対象とし、その対象期間における企業成長、産業発展、企業家活動の様々な経路や解釈について読み、議論していく。加えて、企業が、その当時の経済、技術、文化、経済的コンテクストに組み込まれていく点も考察する。コース全体の目的は、博士後期課程の学生に、ビジネス、資本主義の歴史の中心的な課題を紹介し、それら内容と他の学術領域との関連を探っていくものとなる。
各回のトピックは、近代的マネジメントの出現、ビッグビジネスの台頭、政府の政策の影響、ビジネスに関わる法律的枠組み、産業の転換、資本主義経済における企業家精神の役割などを取り扱う。それらを通じて、歴史的あるいは地理的といった特殊なコンテクストに埋め込まれたビジネス制度、構造、そして実践の出現を理解するフレームワークを学んでいく。そして、各テーマの著名な研究者による重要文献を議論し、それら論文の基礎となっている前提について考えていく。毎回の授業では、各トピックに関する最近の研究や出版物に加えて古典的な研究も合わせて取り扱っていく。
今期の経営史特殊研究1Bでは、企業家、組織人、文化について国際比較の視点も加えつつ検討し、博士後期課程における自らの研究テーマとアメリカ経営史領域全体との関係を探り、位置づける手掛かりを得ることを目的としたい。
ただし受講生の希望を踏まえて、より博士論文に沿った内容に変更する場合がある。
<到達目標>
・アメリカ経営史研究の専門知識を学習する。
・アメリカ経営史研究領域における自らの研究テーマの位置付けと目指す貢献について理解する
・ビジネス、資本主義の歴史の中心的な課題と他学術領域との関連性を見出す洞察力を養う。

授業内容

- 【イントロダクション】
第01回 研究報告①
【第Ⅰ部】
第02回 アメリカ経営史CW（8）:経営コンサルタント;Friedman (2013), Galambos (1970) etc
研究報告②
第03回 アメリカ経営史CW（9）:企業家とイノベーション;McCraw (2006), Schumpeter (2008) etc
研究報告③
第04回 アメリカ経営史CW（10）:家族企業と資本主義;Cannadine (2008), Hall (1998) etc
研究報告④
【第Ⅱ部】
第08回 アメリカ経営史CW（11）:組織人と業界紙;Brinkley (2011), Whyte (1966) etc
研究報告⑤
第09回 アメリカ経営史CW（12）:ビジネス、文化、企業経済(国際比較);Lipartito & Sicilia (2004), Casson (1991) etc
第10回 研究報告⑥
第12回 アメリカ経営史CW（13）:経営史における企業家と企業家精神（国際比較）;Casson (2005), Berghoff & Moller (1994) etc
第13回 研究報告⑦
【秋学期総括】
第14回 アメリカ経営史CW（14）:これからの経営史;Galambos (2005) etc

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・対象の論文や書籍を事前に読んで上で毎回授業に臨むこと。
- ・履修者の希望に応じてテキストを変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 予習(4時間)
・テキストの指定された部分を読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
・テキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。
□復習(1時間)
・授業での議論を踏まえて、テキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

輪読論文の詳細については初回授業で説明します。
※ただし参加者の要望を踏まえて、論文を変更する場合がある。

参考書

The Oxford Handbook of Business History, Geoffrey Jones and Jonathan Zeitlin編 (Oxford University Press) , 2010
American Business since 1920, McCraw, Thomas and William Childs著 (Wiley Blackwell) , 2018.
The Rise of Big Business: 1860-1920, Poter, Glenn著 (Wiley Blackwell) , 2005.
American Business History, Walter, Friedman著 (Oxford University Press) , 2020.
『経営史の再構想』フィリップ・スクラントン＝パトリック・フリダソン(著)天社出版) 2017年。
『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。
その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営史特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

経営史に関する研究テーマの博士論文の執筆のための指導を行う。具体的には、学術的に意義のある研究のテーマ設定、テーマに関する先行研究の調査・整理、実証的検証のための調査対象の設定などである。受講者は、次年度までに経営史研究に関する博士論文の作成を実現するための基礎的な視野と方法を身につけることが到達目標となる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション（経営史研究の博士論文作成の概要）
- 第2回 経営史研究の視座と視野Ⅰ
- 第3回 経営史研究の視座と視野Ⅱ
- 第4回 経営史研究の視座と視野Ⅲ
- 第5回 経営史研究の意義と方法Ⅰ
- 第6回 経営史研究の意義と方法Ⅱ
- 第7回 経営史研究の意義と方法Ⅲ
- 第8回 研究テーマ別の調査対象の範囲と設定Ⅰ
- 第9回 研究テーマ別の調査対象の範囲と設定Ⅱ
- 第10回 研究テーマ別の調査対象の範囲と設定Ⅲ
- 第11回 研究テーマ別の調査対象の範囲と設定Ⅳ
- 第12回 研究テーマ別の調査対象の範囲と設定Ⅴ
- 第13回 研究テーマ別の調査対象の範囲と設定Ⅵ
- 第14回 学習到達度の確認とまとめ

履修上の注意

受講者は、経営史研究に関する博士論文作成に取り組む者とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修前までに、博士論文を構成する諸論文を一定程度、学術雑誌に掲載されていること。

教科書

特に定めない。

参考書

佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』（有斐閣、1998年）、同『日本の流通の経営史』（有斐閣、2007年）、同『地域有力卸売企業ダイカの展開』（ミネルヴァ書房、2015年）、同『中部地域有力卸売企業伊藤伊の展開』（ミネルヴァ書房、2019年）、同『西日本有力卸売企業サンビックの瀬立と成立と展開』（ミネルヴァ書房、2023年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

平常の授業内での質疑応答などの平常点と最終回の理解度確認によって評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備考	
科目名	経営史特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

<概要>

この経営史特殊研究2では、国際経営史をテーマに企業、産業、ビジネス・システム、企業家、企業家精神、政府とビジネスの関わりを検討する。本講義では、18世紀後半から現在までを時代対象とし、その対象期間における企業成長、産業発展、企業家活動の様々な経路や解釈について読み、議論していく。加えて、企業が、その当時の経済、技術、文化、経済的コンテクストに組み込まれていく点も考察する。コース全体の目的は、博士後期課程の学生に、ビジネス、資本主義の歴史の中心的な課題を紹介し、それら内容と他の学術領域との関連を探っていくものとなる。

各回のトピックは、近代的マネジメントの出現、ビッグビジネスの台頭、政府の政策の影響、ビジネスに関わる法律的枠組み、産業の転換、資本主義経済における企業家精神の役割などを取り扱う。それらを通じて、歴史のあるいは地理的といった特殊なコンテクストに埋め込まれたビジネス制度、構造、そして実践の出現を理解するフレームワークを学んでいく。そして、各テーマの著名な研究者による重要文献を議論し、それら論文の基礎となっている前提について考えていく。毎回の授業では、各トピックに関する最近の研究や出版物に加えて古典的な研究も合わせて取り扱っていく。

今期の経営史特殊研究2Aでは、近代企業、新しい技術、近代ビジネスの各システムについて検討し、博士後期課程における自らの研究テーマと国際経営史領域全体との関係を探り、位置づける手掛かりを得ることを目的としたい。

<到達目標>

- ・国際経営史研究の専門知識を学習する。
- ・国際経営史研究領域における自らの研究テーマの位置付けと目指す貢献について理解する
- ・ビジネス、資本主義の歴史の中心的な課題と他学術領域との関連性を見出す洞察力を養う。

授業内容

【イントロダクション】

第01回 研究報告①

【第Ⅰ部】

- 第02回 国際経営史CW（1）：経営史とは何か？；Chandler (1978), Jones (2002) etc
- 第03回 研究報告②
- 第04回 国際経営史CW（2）：ファミリー・ビジネス; Blackford (1991), Chadeau (1993) etc
- 第05回 研究報告③
- 第06回 国際経営史CW（3）：大企業の形成：鉄道ビジネス; Chandler (1977), Ericson (1996) etc.

第07回 研究報告④

【第Ⅱ部】

- 第08回 国際経営史CW（4）：大企業：情報と競争の管理; Mass and Lazonick (1990), Levenstein (1991) etc
- 第09回 研究報告⑤
- 第10回 国際経営史CW（5）：近代産業：自動車と大量生産とマス・マーケティング; Freeland (1996), Raff (1991) etc

第11回 研究報告⑥

- 第12回 国際経営史CW（6）：技術とイノベーション; Scranton (2006), Lipartito (2003) etc
- 第13回 研究報告⑦

【春学期総括】

- 第14回 国際経営史CW（7）：ビジネス、政府、法律; North (1990), Kipping (2003) etc

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・対象の論文やテキストを事前に読んだ上で毎回授業に臨むこと。
- ・履修者の希望に応じて輪読論文等を変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

□予習(4時間)

- ・指定された論文やテキストを読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
- ・輪読論文やテキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
- ・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。

□復習(1時間)

- ・授業での議論を踏まえて、輪読論文やテキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

輪読論文の詳細については初回授業で説明します。
※ただし参加者の要望を踏まえて、論文を変更する場合がある。

参考書

The Oxford Handbook of Business History, Geoffrey Jones and Jonathan Zeitlin編 (Oxford University Press), 2010
American Business since 1920, McCraw, Thomas and William Childs著 (Wiley Blackwell), 2018.
The Rise of Big Business: 1860-1920, Potter, Glenn著 (Wiley Blackwell), 2005.
American Business History, Walter, Friedman著 (Oxford University Press), 2020.
『経営史の再構想』フィリップ・スクラントン＝バトリック・フリダグソン(蒼天社出版) 2017年。
『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。
その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経営史特殊研究2B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

経営史研究2Aの履修をふまえて、引き続き経営史に関する研究テーマの博士論文の執筆のためのより具体的な指導を行う。具体的には、テーマに関する先行研究の調査・整理、実証的検証のための調査対象の設定、史料調査の方法、史料の批判的整理・検討と史料から導き出される事実の論理への組み入れ方、論理の展開、結論の書き方ほかである。の受講者は、次年度までに経営史研究に関する博士論文の作成を実現するための基礎的な視野と方法を身につけることが到達目標となる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション（経営史研究の博士論文作成の概要）
- 第2回 先行研究の調査と整理Ⅰ
- 第3回 先行研究の調査と整理Ⅱ
- 第4回 調査対象の設定とアクセスⅠ
- 第5回 調査対象の設定とアクセスⅡ
- 第6回 調査対象の設定とアクセスⅢ
- 第7回 史料調査の方法Ⅰ
- 第8回 史料調査の方法Ⅱ
- 第9回 史料調査の方法Ⅲ
- 第10回 史料の批判的整理・検討Ⅰ
- 第11回 史料の批判的整理・検討Ⅱ
- 第12回 史料の批判的整理・検討Ⅲ
- 第13回 史料の批判的整理・検討Ⅳ
- 第14回 学習到達度の確認とまとめ

履修上の注意

受講者は、経営史研究に関する博士論文作成に取り組む者とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修前までに、博士論文を構成する諸論文を一定程度、学術雑誌に掲載されていること。

教科書

特に定めない。

参考書

佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』（有斐閣、1998年）、同『日本の流通の経営史』（有斐閣、2007年）、同『地域有力卸売企業ダイカの展開』（ミネルヴァ書房、2015年）、同『中部地域有力卸売企業伊藤伊の展開』（ミネルヴァ書房、2019年）、同『西日本の有力卸売企業サンビックの成立と展開』（ミネルヴァ書房、2023年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

平常の授業内での質疑応答などの平常点と最終回の理解度確認によって評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備 考	
科 目 名	経営史特殊研究2B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

<概要>
この経営史特殊研究2では、国際経営史をテーマに企業、産業、ビジネス・システム、企業家、企業家精神、政府、経営文化などを検討する。本講義では、18世紀後半から現在までを時代対象とし、その対象期間における企業成長、産業発展、企業家活動の様々な経路や解釈について読み、議論していく。加えて、企業が、その当時の経済、技術、文化、経済的コンテクストに組み込まれていく点も考察する。コース全体の目的は、博士後期課程の学生に、ビジネス、資本主義の歴史の中心的な課題を紹介し、それら内容と他の学術領域との関連を探っていくものとなる。
各回のトピックは、近代的マネジメントの出現、ビッグビジネスの台頭、政府の政策の影響、ビジネスに関わる法律的枠組み、産業の転換、資本主義経済における企業家精神の役割などを取り扱う。それらを通じて、歴史のあるいは地理的といった特殊なコンテクストに埋め込まれたビジネス制度、構造、そして実践の出現を理解するフレームワークを学んでいく。そして、各テーマの著名な研究者による重要文献を議論し、それら論文の基礎となっている前提について考えていく。毎回の授業では、各トピックに関する最近の研究や出版物に加えて古典的な研究も合わせて取り扱っていく。
今期の経営史特殊研究2Bでは、カルテル、産業集積、経営文化、企業家精神について検討し、博士後期課程における自らの研究テーマと国際経営史領域全体との関係を探り、位置づける手掛かりを得ることを目的とした。
ただし受講生の希望を踏まえて、より博士論文に沿った内容に変更する場合がある。

<到達目標>
・国際経営史研究の専門知識を学習する。
・国際経営史研究領域における自らの研究テーマの位置付けと目指す貢献について理解する
・ビジネス、資本主義の歴史の中心的な課題と他学術領域との関連性を見出す洞察力を養う。

授業内容

【イントロダクション】

- 第01回 研究報告①
- 【第Ⅰ部】
- 第02回 国際経営史CW（1）：集積、ネットワーク、カルテル; Reich (1992), Whitford and Zeitlin (2004) etc
- 第03回 研究報告②
- 第04回 国際経営史CW（2）：ビジネス、文化、企業経済; Lipartito and Sicilia (2004), Casspm (1991) etc
- 第05回 研究報告③
- 第06回 国際経営史CW（3）：経営史における企業家、企業家精神(1); Fear (2005), Berlin (2005) etc.
- 第07回 研究報告④
- 【第Ⅱ部】
- 第08回 国際経営史CW（4）：経営史における企業家、企業家精神(2); Brown (2000), Ioannides and Minoglou (2005) etc
- 第09回 研究報告⑤
- 第10回 国際経営史CW（5）：企業家精神、イノベーション、企業の成功(1); Baumol (1990), Nicholas (1999) etc
- 第11回 研究報告⑥
- 第12回 国際経営史CW（6）：企業家精神、イノベーション、企業の成功(2); Lazonic (2003), McCraw (2006) etc
- 第13回 研究報告⑦
- 【春学期総括】
- 第14回 国際経営史CW（7）：コース全体の議論および発表 etc

履修上の注意

・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
・対象の論文やテキストを事前に読んだ上で毎回授業に臨むこと。
・履修者の希望に応じて輪読論文等を変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

□予習(4時間)
・指定された論文やテキストを読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
・輪読論文やテキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。
□復習(1時間)
・授業での議論を踏まえて、輪読論文やテキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

輪読論文の詳細については初回授業で説明します。
※ただし参加者の要望を踏まえて、論文を変更する場合がある。

参考書

The Oxford Handbook of Business History, Geoffrey Jones and Jonathan Zeitlin編 (Oxford University Press) , 2010
American Business since 1920, McCraw, Thomas and William Childs著 (Wiley Blackwell) , 2018.
The Rise of Big Business: 1860-1920, Poter, Glenn著 (Wiley Blackwell) , 2005.
American Business History, Walter, Friedman著 (Oxford University Press) , 2020.
『経営史の再構想』フィリップ・スクラントン＝パトリック・フリダソン(著天社出版) 2017年。
『外国経営史の基礎知識』経営史学会編(有斐閣) 2005年。
その他参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

・授業への貢献度(60%)、発表内容や課題への取り組み(40%)により総合的に評価する。
・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備考	
科目名	経営史特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士（経営学） 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

経営史に関する研究テーマの博士論文の完成のための指導を行う。具体的には、博士論文の内容と構成、新たに発見された史実の整理、論理の展開などである。受講者は、本年度の定められた日か次年度までに経営史研究に関する博士論文の作成を実現する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション（経営史研究の博士論文作成の概要）
第2回 経営史的博士論文の内容と構成の検討Ⅰ
第3回 経営史的博士論文の内容と構成の検討Ⅱ
第4回 経営史的博士論文の内容と構成の検討Ⅲ
第5回 経営史的博士論文の内容と構成の検討Ⅳ
第6回 経営史的博士論文の内容と構成の検討Ⅴ
第7回 経営史的論文の新事実と史料の整理Ⅰ
第8回 経営史的論文の新事実と史料の整理Ⅱ
第9回 経営史的論文の新事実と史料の整理Ⅲ
第10回 経営史的論文の新事実と史料の整理Ⅳ
第11回 経営史的論文の論理展開Ⅰ
第12回 経営史的論文の論理展開Ⅱ
第13回 経営史的論文の論理展開Ⅲ
第14回 到達目標の確認とまとめ

履修上の注意

履修者は本年度の定められた日あるいは次年度の定められた日までに経営史的研究の博士論文を提出する者とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修前までに、博士論文を構成する諸論文を一定程度、学術雑誌に掲載されていること。

教科書

特に定めない。

参考書

佐々木聡『科学的管理法の日本の展開』（有斐閣、1998年）、同『日本の流通の経営史』（有斐閣、2007年）、同『地域有力卸売企業ダイカの展開』（ミネルヴァ書房、2015年）、同『中部地域有力卸売企業伊藤伊の展開』（ミネルヴァ書房、2019年）、同『西日本有力卸売企業サンビツの成立と展開』（ミネルヴァ書房、2023年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

平常の授業内での質疑応答などの平常点（50％）と最終回の理解度確認（50％）によって評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備考	2026年度開講せず
科目名	経営史特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士（経営学） 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

<概要>
この経営史特殊研究3では、日本クリエイティブ産業の経営史をテーマに企業、産業、ビジネス・システム、企業家、企業家精神、政府とビジネスの関わりを検討する。本講義では、20世紀後半から現在までを時代対象とし、その対象期間における企業成長、産業発展、企業家活動の様々な経路や解釈について読み、議論していく。加えて、企業が、その当時の経済、技術、文化、経済的コンテクストに組み込まれていく点も考察する。コース全体の目的は、博士後期課程の学生に、クリエイティブ産業史に関する中心的な課題を紹介し、それら内容と他の学術領域との関連を探っていくものとなる。

各回のトピックは、メディアミックスに関する企業、マネジメント、ビッグビジネスの台頭、政府の政策の影響、ビジネスに関わる法律的枠組み、産業の転換、クリエイティブ産業における企業家精神の役割などを取り扱う。それらを通じて、歴史的あるいは地理的といった特殊なコンテクストに埋め込まれたビジネス制度、構造、そして実践の出現を理解するフレームワークを学んでいく。そして、各テーマの著名な研究者による重要文献を議論し、それら論文の基礎となっている前提について考えていく。毎回の授業では、各トピックに関する最近の研究や出版物に加えて古典的な研究も合わせて取り扱っていく。

今期の経営史特殊研究3Aでは、創発的システムの形成から計画的システムの導入について検討し、博士後期課程における自らの研究テーマと日本クリエイティブ産業史領域全体との関係を探り、位置づける手掛かりを得ることを目的とした。

<到達目標>
・日本クリエイティブ産業史研究の専門知識を学習する。
・日本クリエイティブ産業史研究領域における自らの研究テーマの関連性と位置付けについて理解する
・日本クリエイティブ産業史の中心的な課題と他学術領域との関連性を見出す洞察力を養う。

授業内容

- 【イントロダクション】
第01回 研究報告①
【第Ⅰ部】
第02回 日本クリエイティブ産業史CW（1）：クリエイティブ産業史研究とは
第03回 研究報告②
第04回 日本クリエイティブ産業史CW（2）：メディア・ミックスという考え方
第05回 研究報告③
第06回 日本クリエイティブ産業史CW（3）：メディア・フランチャイズとメディア・ミックス
第07回 研究報告④
【第Ⅱ部】
第08回 日本クリエイティブ産業史CW（4）：少年漫画雑誌とメディア・ミックス
第09回 研究報告⑤
第10回 日本クリエイティブ産業史CW（5）：アニメオリジナル作品とメディア・ミックス
第11回 研究報告⑥
第12回 日本クリエイティブ産業史CW（6）：ゲームソフト作品とメディア・ミックス
第13回 研究報告⑦
【春学期総括】
第14回 日本クリエイティブ産業史CW（7）：消費者とメディア・ミックス

履修上の注意

・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
・対象の論文やテキストを事前に読んで上で毎回授業に臨むこと。
・履修者の希望に応じて輪読論文等を変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

□予習（4時間）
・指定された論文やテキストを読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
・輪読論文やテキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。
□復習（1時間）
・授業での議論を踏まえて、輪読論文やテキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

輪読論文の詳細については初回授業で説明します。
※ただし参加者の要望を踏まえて、論文を変更する場合がある。

参考書

参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

・授業への貢献度（60%）、発表内容や課題への取り組み（40%）により総合的に評価する。
・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備 考	
科 目 名	経営史特殊研究3B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士（経営学） 佐々木 聡		

授業の概要・到達目標

経営史に関する研究テーマの博士論文の完成のための指導を行う。具体的には、論理展開に必要な図表とその作成、研究史と博士論文の意義の再考、推敲の要点、などである。受講者は、本年度の定められた日から次年度までに経営史研究に関する博士論文の作成を実現する。

授業内容

第1回 イントロダクション(経営史研究の博士論文作成の概要)
第2回 経営史的博士論文の論理展開に必要な図表とその作成Ⅰ
第3回 経営史的博士論文の論理展開に必要な図表とその作成Ⅱ
第4回 経営史的博士論文の論理展開に必要な図表とその作成Ⅲ
第5回 経営史的博士論文の論理展開に必要な図表とその作成Ⅳ
第6回 経営史的博士論文の意義の再考Ⅰ
第7回 経営史的博士論文の意義の再考Ⅱ
第8回 経営史的博士論文の意義の再考Ⅲ
第9回 経営史的博士論文の意義の再考Ⅳ
第10回 推敲の要点Ⅰ
第11回 推敲の要点Ⅱ
第12回 推敲の要点Ⅲ
第13回 推敲の要点Ⅳ
第14回 到達目標の確認とまとめ

履修上の注意

履修者は本年度の定められた日あるいは次年度の定められた日までに経営史的研究の博士論文を提出する者とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修前までに、博士論文を構成する諸論文を一定程度、学術雑誌に掲載されていること。

教科書

特に定めない。

参考書

佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』（有斐閣，1998年），同『日本の流通の経営史』（有斐閣，2007年），同『地域有力卸売企業ダイカの展開』（ミネルヴァ書房，2015年），同『中部地域有力卸売企業伊藤伊の展開』（ミネルヴァ書房，2019年），同『西日本の有力卸売企業サンビックの成立と展開』（ミネルヴァ書房，2023年）

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した際、全員の提出物（課題レポートなど）の内容を確認したうえで、コメントと解説を行う。

成績評価の方法

平常の授業内での質疑応答などの平常点（50％）と最終回の理解度確認（50％）によって評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN781J			
経営史系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経営史特殊研究3B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士（経営学） 宮田 憲一		

授業の概要・到達目標

<概要>

この経営史特殊研究3では、日本クリエイティブ産業の経営史をテーマに企業、産業、ビジネス・システム、企業家、企業家精神、政府とビジネスの関りを検討する。本講義では、20世紀後半から現在までを時代対象とし、その対象期間における企業成長、産業発展、企業家活動の様々な経路や解釈について読み、議論していく。加えて、企業が、その当時の経済、技術、文化、経済的コンテクストに組み込まれていく点も考察する。コース全体の目的は、博士後期課程の学生に、クリエイティブ産業史に関する中心的な課題を紹介し、それら内容と他の学術領域との関連を探っていくものとなる。

各回のトピックは、メディアミックスに関する企業、マネジメント、ビッグビジネスの台頭、政府の政策の影響、ビジネスに関わる法律的枠組み、産業の転換、クリエイティブ産業における企業家精神の役割などを取り扱う。それらを通じて、歴史あるいは地理的といった特殊なコンテクストに埋め込まれたビジネス制度、構造、そして実践の出現を理解するフレームワークを学んでいく。そして、各テーマの著名な研究者による重要文献を議論し、それら論文の基礎となっている前提について考えていく。毎回の授業では、各トピックに関する最近の研究や出版物に加えて古典的な研究も合わせて取り扱っていく。

今期の経営史特殊研究3Bでは、大企業システムの形成からファンダムシステムとの接続について検討し、博士後期課程における自らの研究テーマと日本クリエイティブ産業史領域全体との関係を探り、位置づける手掛かりを得ることを目的としたい。

<到達目標>

- ・日本クリエイティブ産業史研究の専門知識を学習する。
- ・日本クリエイティブ産業史研究領域における自らの研究テーマの関連性と位置付けについて理解する
- ・日本クリエイティブ産業史の中心的な課題と他学術領域との関連性を見出す洞察力を養う。

授業内容

【イントロダクション】

第01回 研究報告①

【第Ⅰ部】

第02回 日本クリエイティブ産業史CW（1）:CG技術とメディア・ミックス

第03回 研究報告②

第04回 日本クリエイティブ産業史CW（2）:音楽とメディア・ミックス

第05回 研究報告③

第06回 日本クリエイティブ産業史CW（3）:資金調達とメディア・ミックス

第07回 研究報告④

【第Ⅱ部】

第08回 日本クリエイティブ産業史CW（4）:コミケとメディア・ミックス

第09回 研究報告⑤

第10回 日本クリエイティブ産業史CW（5）:声優とメディア・ミックス

第11回 研究報告⑥

第12回 日本クリエイティブ産業史CW（6）:UGCとメディア・ミックス

第13回 研究報告⑦

【春学期総括】
第14回 日本クリエイティブ産業史CW（7）:日本クリエイティブ産業とメディア・ミックス

履修上の注意

- ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- ・対象の論文やテキストを事前に読んだ上で毎回授業に臨むこと。
- ・履修者の希望に応じて輪読論文等を変更する場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

□予習（4時間）

- ・指定された論文やテキストを読み、論点や疑問点、読後感などを考えておく。
- ・輪読論文やテキストの他に補足資料が配付された場合は、それも事前に読んでおく。
- ・報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布すること。

□復習（1時間）

- ・授業での議論を踏まえて、輪読論文やテキストで理解不足であった点を確認する。

教科書

輪読論文の詳細については初回授業で説明します。
※ただし参加者の要望を踏まえて、論文を変更する場合がある。

参考書

参考書については適宜講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

- ・授業への貢献度（60%）、発表内容や課題への取り組み（40%）により総合的に評価する。
- ・なお、無断欠席が続く場合は、評価の対象とならない。

その他

質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	
科目名	財務会計特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〔概要〕

論文作成指導を行う。

〔到達目標〕

論文1本作成することを目標とする。

授業内容

第1回 研究の目的
 第2回 研究の背景と動向
 第3回 研究の意義
 第4回 和文献レビュー
 第5回 和文献レビューの報告と検討
 第6回 洋文献レビュー
 第7回 洋文献レビューの報告と検討
 第8回 仮説の検討
 第9回 仮説の検証
 第10回 データの収集
 第11回 データの分析
 第12回 データによる仮説の検証
 第13回 分析結果の報告
 第14回 まとめ

履修上の注意

論文を作成できる英語力、データ解析のできる統計処理能力、研究への真摯な姿勢が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した課題を読み進める。

教科書

必要に応じて指定する。

参考書

その都度指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

提出課題(60%)、授業での報告(20%)、授業への貢献(20%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	
科目名	財務会計特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

博士学位請求論文執筆のための準備として基本的考究をおこなう。

〔到達目標〕

博士学位請求論文執筆のための視座が明確にもてること。

授業内容

第1回:イントロダクション
 第2回:研究課題の設定
 第3回:研究課題の論点整理
 第4回:研究計画の策定(1)
 第5回:研究計画の策定(2)
 第6回:先行研究レビュー (1)
 第7回:先行研究レビュー (2)
 第8回:視点の設定:会計行為の識別
 第9回:視点の設定:会計制度の識別
 第10回:紀要論文等の執筆準備(1)
 第11回:紀要論文等の執筆準備(2)
 第12回:紀要論文等原稿の報告(1)
 第13回:紀要論文等原稿の報告(2)
 第14回:紀要論文等原稿の検討

履修上の注意

明確な問題意識を持つてのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、上記に示した授業内容についてコメントするので、基本事項について文献等で調べておくこと。

教科書

使用しない。収集した諸文献を用いる。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

定期的に実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-ol Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

目標への進捗度20%、討論状況（理解度、論理一貫性等）80%として評価をおこなう。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	財務会計特殊研究1A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地球環境問題については、国際的な政策課題として、政治経済、科学技術の各分野はもとより、歴史的、文化的、社会学的背景を踏まえつつ、さまざまなアプローチがなされています。それらのアプローチをどのように認識し、いかに測定評価し、その適切性や有効性を確認していくのが、環境マネジメント及び環境会計の目指すところです。その具体的な方法論について検討します。

〈到達目標〉

学位論文の作成を目指します。

授業内容

- 第1回：イントロダクション ―環境会計の現状―
 第2回：研究テーマと研究手法の選択
 第3回：研究計画の作成(1)
 第4回：研究計画の作成(2)
 第5回：先行研究調査(1)
 第6回：先行研究調査(2)
 第7回：基本資料の検討(1)
 第8回：基本資料の検討(2)
 第9回：論文構想についての予備発表
 第10回：基本資料の検討(3)
 第11回：基本資料の検討(4)
 第12回：研究計画の遂行状況と経過の確認
 第13回：研究計画の修正
 第14回：論文構想についての発表

履修上の注意

環境問題を憂うだけでは問題の解決にはなりません。何をどうしたいのか、それができるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えてください。

また、学位論文の作成に向けての先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組むとともに、自分の作成する論文のどこに独創性や学問的貢献があるのかを意識してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

学位論文の構成とその論述内容について、繰り返し検討することが日々の学習になります。

環境への取り組みは変化の激しい領域ですので、最新の動向を常にチェックすることも欠かせません。

教科書

研究テーマにより異なるので、指定はしません。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
 ②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
 ③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
 ④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
 ⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
 ⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
 ⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
 ⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
 ⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
 ⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
 ⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
 ⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

授業中の研究発表並びに論文作成状況を評価資料(100%)とします。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	財務会計特殊研究1A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

テーマは財務会計の拡張である。財務会計は企業会計にとどまらず、様々な非営利会計においても重要なテーマになっている。社会的課題解決を切り口として、それに取り組む組織体を営利・非営利問わず取り上げて、その会計情報について検討していく。

【到達目標】

現行会計の現状と課題を理解した上で、企業会計の拡張展開領域である非営利組織を含めて関心を広め、多角的な視点から「財務報告」を捉えることができるようになる。

授業内容

以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1:授業の概要
- 2:営利・非営利の財務会計の過去と現在
- 3:営利・非営利の財務報告の意義と課題
- 4:非営利財務報告の制度
- 5:非営利財務報告のディスクロージャー
- 6:財務情報の拡張
- 7:中間とりまとめ
- 8:様々な財源調達
- 9:公益法人会計の現状と発展
- 10:学校法人会計の現状と発展
- 11:NPO法人会計の現状と発展
- 12:社会福祉法人会計の現状と発展
- 13:非財務情報の監査・保証業務
- 14:授業のまとめ

履修上の注意

下記テキストを用いるので、事前に読んでおくこと。受講生が持ち回りで報告をし、討論する。報告者に事前の準備が必要なことは言うまでもないが、活発な質疑が行われるよう、報告者以外の出席者も十分な準備が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記テキストを熟読しておくこと。

教科書

石津寿恵他編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識』白桃書房。

参考書

平井克彦他(2013)『損益計算と情報開示』白桃書房。
 藤井秀樹(2025)『入門・財務会計(5版)』中央経済社。
 その他、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは、添削の上返却します。

成績評価の方法

授業での発表50％、授業中の質疑で40％、出席態度で10％。ただし、正当な理由のない欠席を重ねた場合は評価の対象にならない。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	
科目名	財務会計特殊研究1B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〈概要〉

論文作成指導を行う。

〈到達目標〉

論文1本作成することを目標とする。

授業内容

第1回 研究の目的
第2回 研究の背景と動向
第3回 研究の意義
第4回 和文献レビュー
第5回 和文献レビューの報告と検討
第6回 洋文献レビュー
第7回 洋文献レビューの報告と検討
第8回 仮説の検討
第9回 仮説の検証
第10回 データの収集
第11回 データの分析
第12回 データによる仮説の検証
第13回 分析結果の報告
第14回 まとめ

履修上の注意

論文を作成できる英語力、データ解析のできる統計処理能力、研究への真摯な姿勢が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定した課題を読み進める。

教科書

その都度指定する。

参考書

必要に応じてその都度指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

課題(60%)、授業での報告(20%)、授業への貢献(20%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	
科目名	財務会計特殊研究1B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

1Aに続き博士学位請求論文執筆のための応用的考究をおこなう。

〔到達目標〕

博士学位請求論文を執筆すること。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：新たな研究課題の設定
第3回：研究課題の論点整理
第4回：研究計画の策定(1)
第5回：研究計画の策定(2)
第6回：先行研究レビュー (1)
第7回：先行研究レビュー (2)
第8回：視点の設定：会計行為の識別
第9回：視点の設定：会計制度の識別
第10回：紀要論文等の執筆準備(1)
第11回：紀要論文等の執筆準備(2)
第12回：紀要論文等原稿の報告(1)
第13回：紀要論文等原稿の報告(2)
第14回：紀要論文等原稿の検討

履修上の注意

博士学位請求論文の執筆に真摯にのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の検討内容を踏まえて、次回への準備を継続的に行うこと。

教科書

使用しない。収集した諸文献を用いる。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meijiシステムを通して行う。

成績評価の方法

目標への進捗度20%、討論状況（理解度、論理一貫性等）80%として評価をおこなう。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	財務会計特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地球環境問題については、国際的な政策課題として、政治経済、科学技術の各分野はもとより、歴史的、文化的、社会学的背景を踏まえつつ、さまざまなアプローチがなされています。それらのアプローチをどのように認識し、いかに測定評価し、その適切性や有効性を確認していくのが、環境マネジメント及び環境会計の目指すところです。その具体的な方法論について検討します。

〈到達目標〉

学位論文の作成を目指します。

授業内容

第1回：研究計画進捗状況の確認
 第2回：研究論文の予備的報告
 第3回：研究資料の追加的検討(1)
 第4回：研究資料の追加的検討(2)
 第5回：研究資料の追加的検討(3)
 第6回：研究発表に向けての報告資料作成(1)
 第7回：研究発表に向けての報告資料作成(2)
 第8回：研究発表に向けての報告資料作成(3)
 第9回：研究計画の進捗状況の確認
 第10回：論文作成状況の報告と確認(1)
 第11回：論文作成状況の報告と確認(2)
 第12回：論文作成状況の報告と確認(3)
 第13回：研究論文の発表
 第14回：総括

履修上の注意

環境問題を憂うだけでは問題の解決にはなりません。何をどうしたいのか、それはできるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えてください。

また、学位論文の作成に向けての先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組むとともに、自分の作成する論文のどこに独創性や学問的貢献があるのかを意識してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

学位論文の構成と、その論述内容について、繰り返し検討することが日々の学習になります。

環境への取り組みは変化の激しい領域ですので、最新の動向を常にチェックすることも欠かせません。

教科書

研究テーマにより異なるので、指定はしません。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
- ②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
- ③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
- ④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
- ⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
- ⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
- ⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
- ⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
- ⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
- ⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
- ⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
- ⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

授業中の研究発表並びに論文作成状況を評価資料(100%)とします。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備 考	
科 目 名	財務会計特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

「新しい資本主義」の流れの中で、社会的課題解決のために存在している非営利組織や民間企業によるソーシャルエンタープライズが果たすべき役割、その会計的特質について研究する。

【到達目標】

「新しい資本主義」の意味内容を理解した上で、社会的課題解決のための組織の活動について、会計的側面から捉えることが出来るようにする。

授業内容

授業は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1：授業の概要
- 2：「新しい資本主義」の内容研究
- 3：「新しい資本主義」における会計的側面の検討
- 4：「新しい資本主義」の会計的課題
- 5：社会的課題解決のための多様な法人形態についての検討
- 6：中間的とりまとめ
- 7：法人形態・非営利組織(1)
- 8：法人形態・非営利組織(2)
- 9：法人形態・営利組織
- 10：法人形態・公的部門(1)
- 11：法人形態・公的部門(2)
- 12：情報開示の概要と現状
- 13：情報開示の課題と方向性
- 14：授業のまとめ

履修上の注意

下記のテキストを用いて、受講生が持ち回りで報告をし、討論する。報告者に事前の準備が必要なことは言うまでもないが、活発な質疑が行われるよう、報告者以外の出席者も十分な準備が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記テキストを熟読して授業に臨むこと。

教科書

石津寿恵他編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識一寄付等による支援先を選ぶために一』白桃書房。

参考書

大塚宗治、黒川行治(2012)『政府と非営利組織の会計』中央経済社。

山本清(2005)『政府会計改革のビジョンと戦略』中央経済社

『会計法規集』『非営利法人会計監査六法』(中央経済社)

その他、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは添削の上返却します。

成績評価の方法

授業での発表60%、授業中の質疑で40%。ただし、正当な理由のない欠席を重ねた場合は評価の対象にならない。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		小俣 光文

授業の概要・到達目標

〔概要〕

論文作成指導を行う。

〔到達目標〕

論文1本作成することを目標とする。

授業内容

- 第1回 研究の目的
- 第2回 研究の背景と動向
- 第3回 研究の意義
- 第4回 和文献レビュー
- 第5回 和文献レビューの報告と検討
- 第6回 洋文献レビュー
- 第7回 洋文献レビューの報告と検討
- 第8回 仮説の検討
- 第9回 仮説の検証
- 第10回 データの収集
- 第11回 データの分析
- 第12回 データによる仮説の検証
- 第13回 分析結果の報告
- 第14回 まとめ

履修上の注意

論文を作成できる英語力、データ解析のできる統計処理能力、研究への真摯な姿勢が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した課題を読み進める。

教科書

必要に応じて指定する。

参考書

その都度指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

提出課題(60%)、授業での報告(20%)、授業への貢献(20%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

博士学位請求論文執筆のための応用的考究をおこなう。

〔到達目標〕

博士学位請求論文を執筆すること。

授業内容

- 第1回:イントロダクション
- 第2回:博士学位請求論文の構成策定(1)
- 第3回:博士学位請求論文の構成策定(2)
- 第4回:博士学位請求論文の構成策定(3)
- 第5回:章ごとの報告(1)
- 第6回:前回報告内容の検討(1)
- 第7回:章ごとの報告(2)
- 第8回:前回報告内容の検討(2)
- 第9回:章ごとの報告(3)
- 第10回:前回報告内容の検討(3)
- 第11回:章ごとの報告(4)
- 第12回:前回報告内容の検討(4)
- 第13回:全体構成の確認
- 第14回:まとめと総括

履修上の注意

博士学位請求論文の執筆に真摯にのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の検討内容を踏まえて、次回への準備を継続的に行うこと。

教科書

使用しない。収集した諸文献を用いる。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

目標への進捗度20%、討論状況（理解度、論理一貫性等）80%として評価をおこなう。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地球環境問題については、国際的な政策課題として、政治経済・科学技術の各分野はもとより、歴史的、文化的、社会学的背景を踏まえつつ、さまざまなアプローチがなされています。それらのアプローチをどのように認識し、いかに測定評価し、その適切性や有効性を確認していくのが、環境マネジメント及び環境会計の目指すところです。その具体的な方法論について検討します。

〈到達目標〉

学位論文の作成を目指します。

授業内容

第1回：イントロダクション ―環境会計の現状―
 第2回：研究テーマと研究方法の選択
 第3回：研究計画の作成(1)
 第4回：研究計画の作成(2)
 第5回：先行研究調査(1)
 第6回：先行研究調査(2)
 第7回：基本資料の検討(1)
 第8回：基本資料の検討(2)
 第9回：論文構想についての予備発表
 第10回：基本資料の検討(3)
 第11回：基本資料の検討(4)
 第12回：研究計画の遂行状況と経過の確認
 第13回：研究計画の修正
 第14回：論文構想についての発表

履修上の注意

環境問題を憂うだけでは問題の解決にはなりません。何をどうしたいのか、それはできるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えてください。

また、学位論文の作成に向けての先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組むとともに、自分の作成する論文のどこに独創性や学術的貢献があるのかを意識してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

学位論文の構成と、その論述内容について、繰り返し検討することが日々の学習になります。

環境への取り組みは変化の激しい領域ですので、最新の動向を常にチェックすることも欠かせません。

教科書

研究テーマにより異なるので指定はしません。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
- ②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
- ③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
- ④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
- ⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
- ⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
- ⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
- ⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
- ⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
- ⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
- ⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
- ⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

課題研究の進捗・遂行状況に応じて評価(100%)します。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

非営利組織（助成財団、学校、病院、介護施設、市役所等）が経済規模が拡大するにつれ、非営利組織会計は重要性を増してきている。そして、民間企業が用いている「企業会計的手法」は、近年、非営利組織にもとり入れられるようになってきている。当講義で前期課程での内容をさらに発展させて、様々な主体の財務会計について、アカウンタビリティの視点から「企業会計的手法」導入のあり方について、また情報利用者との相互コミュニケーションの有り方について検討を加える。このことは、財務会計ディスクロージャーの社会的役割を捉えることにつながると考える。

【到達目標】

本講義では、非営利組織会計の概要をさらに深く理解した上で、その概念や実務的課題、発展方向について把握できるようになること。

授業内容

授業は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1:授業の概要
- 2:非営利組織・会計の概要
- 3:情報開示の必要性
- 4:活動支援の方法
- 5:非営利組織の財源
- 6:企業会計概要
- 7:公益法人会計
- 8:学校法人会計
- 9:社会福祉法人会計
- 10:NPO法人会計
- 11:非営利組織の税制
- 12:地方公共団体の財政と会計
- 13:諸外国の非営利組織会計
- 14:国や地方公共団体の発生主義会計

履修上の注意

下記テキストを熟読した上で出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを熟読した上で出席すること。

教科書

石津寿恵他編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識—寄付等による支援先を選ぶために—』白桃書房。

参考書

テキストのほか、関係する研究論文については適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは添削の上返却する。

成績評価の方法

報告60%、授業でのディスカッションへの参加40%。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

〔概要〕

論文作成指導を行う。

〔到達目標〕

論文1本作成することを目標とする。

授業内容

第1回 研究の目的
第2回 研究の背景と動向
第3回 研究の意義
第4回 和文献レビュー
第5回 和文献レビューの報告と検討
第6回 洋文献レビュー
第7回 洋文献レビューの報告と検討
第8回 仮説の検討
第9回 仮説の検証
第10回 データの収集
第11回 データの分析
第12回 データによる仮説の検証
第13回 分析結果の報告
第14回 まとめ

履修上の注意

論文を作成できる英語力、データ解析のできる統計処理能力、研究への真摯な姿勢が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定した課題を読み進める。

教科書

その都度指定する。

参考書

必要に応じてその都度指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

課題(60%)、授業での報告(20%)、授業への貢献(20%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 大倉 学		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

2Aの結果を踏まえ博士学位請求論文執筆のための応用的考究をおこなう。

〔到達目標〕

博士学位請求論文を執筆すること。

授業内容

第1回:イントロダクション
第2回:博士学位請求論文の構成策定の確認(1)
第3回:博士学位請求論文の構成策定の確認(2)
第4回:博士学位請求論文の構成策定の確認(3)
第5回:章ごとの報告(1)
第6回:前回報告内容の検討(1)
第7回:章ごとの報告(2)
第8回:前回報告内容の検討(2)
第9回:章ごとの報告(3)
第10回:前回報告内容の検討(3)
第11回:章ごとの報告(4)
第12回:前回報告内容の検討(4)
第13回:全体構成の確認
第14回:まとめと総括

履修上の注意

博士学位請求論文の執筆に真摯にのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の検討内容を踏まえて、次回への準備を継続的に行うこと。

教科書

使用しない。収集した諸文献を用いる。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

定期的に実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-ol Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

目標への進捗度20%、討論状況（理解度、論理一貫性等）80%として評価をおこなう。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地球環境問題については、国際的な政策課題として、政治経済、科学技術の各分野はもとより、歴史的、文化的、社会学的背景を踏まえつつ、さまざまなアプローチがなされています。それらのアプローチをどのように認識し、いかに測定評価し、その適切性や有効性を確認していくのが、環境マネジメント及び環境会計の目指すところです。その具体的な方法論について検討します。

〈到達目標〉

学位論文の作成を目指します。

授業内容

第1回：研究計画進捗状況の確認
 第2回：研究論文の予備的報告
 第3回：研究資料の追加的検討(1)
 第4回：研究資料の追加的検討(2)
 第5回：研究資料の追加的検討(3)
 第6回：研究発表に向けての報告資料作成(1)
 第7回：研究発表に向けての報告資料作成(2)
 第8回：研究発表に向けての報告資料作成(3)
 第9回：研究計画の進捗状況の確認
 第10回：論文作成状況の報告と確認(1)
 第11回：論文作成状況の報告と確認(2)
 第12回：論文作成状況の報告と確認(3)
 第13回：研究論文の発表
 第14回：総括

履修上の注意

環境問題を憂うだけでは問題の解決にはなりません。何をどうしたいのか、それはできるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えてください。
 また、学位論文の作成に向けての先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組みとともに、自分の作成する論文のどこに独創性や学問的貢献があるのかを意識してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

学位論文の構成と、その論述内容について、繰り返し検討することが日々の学習になります。
 環境への取り組みは変化の激しい領域ですので、最新の動向を常にチェックすることも欠かせません。

教科書

研究テーマにより異なるので、指定はしません。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
- ②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
- ③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
- ④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
- ⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
- ⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
- ⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
- ⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
- ⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
- ⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
- ⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
- ⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

授業中の研究発表並びに論文作成状況を評価資料(100%)とします。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

「新しい資本主義」の流れの中で、社会的課題解決のために存在している非営利組織や民間企業によるソーシャルエンタープライズについて事例を踏まえて研究する。

【到達目標】

社会的課題解決のための組織の活動について、具体的事例を踏まえて深く理解する。

授業内容

授業は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1：授業の概要
- 2：社会的課題解決のための多様な法人形態についての具体的検討
- 3：法人形態・非営利組織の具体的事例研究(1)
- 4：法人形態・非営利組織の具体的事例研究(2)
- 5：法人形態・非営利組織の具体的事例研究(3)
- 6：中間的とりまとめ
- 7：法人形態・営利組織の具体的事例研究(1)
- 8：法人形態・営利組織の具体的事例研究(2)
- 9：法人形態・営利組織の具体的事例研究(3)
- 10：法人形態・公的部門の具体的事例研究(1)
- 11：法人形態・公的部門の具体的事例研究(2)
- 12：法人形態・公的部門の具体的事例研究(3)
- 13：情報開示の現状・課題・方向性
- 14：授業のまとめ

履修上の注意

下記のテキストを用いて、受講生が持ち回りで報告をし、討論する。報告者に事前の準備が必要なことは言うまでもないが、活発な質疑が行われるよう、報告者以外出席者も十分な準備が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記テキストを熟読して授業に臨むこと。

教科書

石津寿恵他編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識』白桃書房。

参考書

平井克彦他(2013)『損益計算と情報開示』白桃書房。
 藤井秀樹(2025)『入門・財務会計(5版)』中央経済社。
 その他、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは、添削の上返却します。

成績評価の方法

授業での発表50%、授業中の質疑で40%、出席態度で10%。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

〔概要〕

論文作成指導を行う。

〔到達目標〕

論文1本作成することを目標とする。

授業内容

- 第1回 研究の目的
- 第2回 研究の背景と動向
- 第3回 研究の意義
- 第4回 和文献レビュー
- 第5回 和文献レビューの報告と検討
- 第6回 洋文献レビュー
- 第7回 洋文献レビューの報告と検討
- 第8回 仮説の検討
- 第9回 仮説の検証
- 第10回 データの収集
- 第11回 データの分析
- 第12回 データによる仮説の検証
- 第13回 分析結果の報告
- 第14回 まとめ

履修上の注意

論文を作成できる英語力、データ解析のできる統計処理能力、研究への真摯な姿勢が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した課題を読み進める。

教科書

必要に応じて指定する。

参考書

その都度指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

提出課題(60%)、授業での報告(20%)、授業への貢献(20%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	
科目名	財務会計特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

博士学位請求論文執筆・提出のための応用的考究をおこなう。

〔到達目標〕

博士学位請求論文を執筆すること。

授業内容

- 第1回:イントロダクション
- 第2回:章ごとの報告(1)
- 第3回:前回報告内容の検討(1)
- 第4回:章ごとの報告(2)
- 第5回:前回報告内容の検討(2)
- 第6回:章ごとの報告(3)
- 第7回:前回報告内容の検討(3)
- 第8回:章ごとの報告(4)
- 第9回:前回報告内容の検討(4)
- 第10回:章ごとの報告(5)
- 第11回:前回報告内容の検討(5)
- 第12回:全体構成の確認(1)
- 第13回:全体構成の確認(2)
- 第14回:まとめと総括

履修上の注意

博士学位請求論文の執筆に真摯にのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の検討内容を踏まえて、次回への準備を継続的に行うこと。

教科書

使用しない。収集した諸文献を用いる。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meijiシステムを通して行う。

成績評価の方法

目標への進捗度20%、討論状況（理解度、論理一貫性等）80%として評価をおこなう。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地球環境問題については、国際的な政策課題として、政治経済・科学技術の各分野はもとより、歴史的、文化的、社会学的背景を踏まえつつ、さまざまなアプローチがなされています。それらのアプローチをどのように認識し、いかに測定評価し、その適切性や有効性を確認していくのが、環境マネジメント及び環境会計の目指すところです。その具体的な方法論について検討します。

〈到達目標〉

学位論文の作成を目指します。

授業内容

第1回：イントロダクション ―環境会計の現状―
 第2回：研究テーマと研究方法の選択
 第3回：研究計画の作成(1)
 第4回：研究計画の作成(2)
 第5回：先行研究調査(1)
 第6回：先行研究調査(2)
 第7回：基本資料の検討(1)
 第8回：基本資料の検討(2)
 第9回：論文構想についての予備発表
 第10回：基本資料の検討(3)
 第11回：基本資料の検討(4)
 第12回：研究計画の遂行状況と経過の確認
 第13回：研究計画の修正
 第14回：論文構想についての発表

履修上の注意

環境問題を憂うだけでは問題の解決にはなりません。何をどうしたいのか、それではできないのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えてください。
 また、学位論文の作成に向けての先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組むとともに、自分の作成する論文のどこに独創性や学問的貢献があるのかを意識してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

学位論文の構成と、その論述内容について、繰り返し検討することが日々の学習になります。
 環境への取り組みは変化の激しい領域ですので、最新の動向を常にチェックすることも欠かせません。

教科書

研究テーマにより異なるので指定はしません。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
- ②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
- ③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
- ④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
- ⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
- ⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
- ⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
- ⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
- ⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
- ⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
- ⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
- ⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

課題研究の進捗・遂行状況に応じて評価(100%)します。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

非営利組織が経済規模が拡大するにつれ、非営利組織会計は重要性を増してきている。そして、民間企業が用いている「企業会計的手法」は、近年、非営利組織にもとり入れられるようになってきている。

当講義で前期課程での内容をさらに発展させて、様々な主体の財務会計について、アカウンタビリティの視点から「企業会計的手法」導入のあり方について、また情報利用者との相互コミュニケーションのの有り方について検討を加える。具体的事例を踏まえた研究を行う。
 このことは、財務会計ディスクロージャーの社会的役割を具体的に捉えることにつながると考える。

【到達目標】

本講義では、非営利組織会計の概要をさらに深く理解した上で、その概念や実務的課題、発展方向及び実務的課題について把握できるようになること。

授業内容

授業は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1：授業の概要
- 2：非営利組織・会計の概要と事例
- 3：情報開示の必要性和具体的適用
- 4：活動支援の方法と具体的手法
- 5：非営利組織の財源の実情と課題
- 6：企業会計と非営利会計の相違
- 7：公益法人会計の事例研究
- 8：学校法人会計の事例研究
- 9：社会福祉法人会計の事例研究
- 10：NPO法人会計の事例研究
- 11：非営利組織の税制の具体的適用
- 12：地方公共団体の財政と会計の事例研究
- 13：諸外国の非営利組織会計の事例研究
- 14：国や地方公共団体の発生主義会計の具体的適用

履修上の注意

下記テキストを熟読した上で出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

非営利組織の会計の具体的事例を探しておくこと。

教科書

石津寿恵他編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識一寄付等による支援先を選ぶために―』白桃書房。

参考書

テキストのほか、関係する研究論文については適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは添削の上返却する。

成績評価の方法

報告60%、授業でのディスカッションへの参加40%。

その他

報告60%、授業でのディスカッションへの参加40%。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 小俣 光文		

授業の概要・到達目標

〈概要〉

論文作成指導を行う。

〈到達目標〉

論文1本作成することを目標とする。

授業内容

- 第1回 研究の目的
- 第2回 研究の背景と動向
- 第3回 研究の意義
- 第4回 和文献レビュー
- 第5回 和文献レビューの報告と検討
- 第6回 洋文献レビュー
- 第7回 洋文献レビューの報告と検討
- 第8回 仮説の検討
- 第9回 仮説の検証
- 第10回 データの収集
- 第11回 データの分析
- 第12回 データによる仮説の検証
- 第13回 分析結果の報告
- 第14回 まとめ

履修上の注意

論文を作成できる英語力、データ解析のできる統計処理能力、研究への真摯な姿勢が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定した課題を読み進める。

教科書

その都度指定する。

参考書

必要に応じてその都度指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

課題(60%)、授業での報告(20%)、授業への貢献(20%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	
科目名	財務会計特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		大倉 学

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

3Aでの検討内容に基づき、博士学位請求論文執筆のための応用的考察をおこなう。

〔到達目標〕

博士学位請求論文を執筆すること。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：章ごとの報告(1)
- 第3回：前回報告内容の検討(1)
- 第4回：章ごとの報告(2)
- 第5回：前回報告内容の検討(2)
- 第6回：章ごとの報告(3)
- 第7回：全体構成の確認(1)
- 第8回：全体構成の確認(2)
- 第9回：全体構成の確認(3)
- 第10回：全体構成の確認(4)
- 第11回：全体構成の確認(5)
- 第12回：形式面の確認(1)
- 第13回：形式面の確認(2)
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

博士学位請求論文の執筆に真摯にのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の検討内容を踏まえて、次回への準備を継続的に行うこと。

教科書

使用しない。収集した諸文献を用いる。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

定期的実施する課題レポートの評価・講評は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。

成績評価の方法

目標への進捗度20%、討論状況（理解度、論理一貫性等）80%として評価をおこなう。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 千葉 貴律		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地球環境問題については、国際的な政策課題として、政治経済、科学技術の各分野はもとより、歴史的、文化的、社会学的背景を踏まえつつ、さまざまなアプローチがなされています。それらのアプローチをどのように認識し、いかに測定評価し、その適切性や有効性を確認していくのが、環境マネジメント及び環境会計の目指すところです。その具体的な方法論について検討します。

〈到達目標〉

学位論文の作成を目指します。

授業内容

第1回：研究計画進捗状況の確認
 第2回：研究論文の予備的報告
 第3回：研究資料の追加的検討(1)
 第4回：研究資料の追加的検討(2)
 第5回：研究資料の追加的検討(3)
 第6回：研究発表に向けての報告資料作成(1)
 第7回：研究発表に向けての報告資料作成(2)
 第8回：研究発表に向けての報告資料作成(3)
 第9回：研究計画の進捗状況の確認
 第10回：論文作成状況の報告と確認(1)
 第11回：論文作成状況の報告と確認(2)
 第12回：論文作成状況の報告と確認(3)
 第13回：研究論文の発表
 第14回：総括

履修上の注意

環境問題を憂うだけでは問題の解決にはなりません。何をどうしたいのか、それはできるのかできないのか、どのような成果が期待されるのか、具体的な実践手法を考えてください。
 また、学位論文の作成に向けての先行研究レビューや論拠の基礎固めに取り組みとともに、自分の作成する論文のどこに独創性や学問的貢献があるのかを意識してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

学位論文の構成と、その論述内容について、繰り返し検討することが日々の学習になります。
 環境への取り組みは変化の激しい領域ですので、最新の動向を常にチェックすることも欠かせません。

教科書

研究テーマにより異なるので、指定はしません。

参考書

- ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」
- ②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」
- ③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」
- ④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB.
- ⑤IFRS S2 (2023), "Climate-related Disclosures", ISSB.
- ⑥TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures".
- ⑦TNFD (2023), "Final Report Recommendations of the Task Force on Nature-related Financial Disclosures".
- ⑧SBTi (2025), "Corporate Net-Zero Standard V2.0 Consultation Draft Explanatory guide".
- ⑨IIRC (2021), "International<IR> Framework".
- ⑩ISO14051:2011 Material flow cost accounting — General framework
- ⑪ISO14052:2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain
- ⑫ISO14053:2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、発表内容へのコメントや考察を行います。

成績評価の方法

授業中の研究発表並びに論文作成状況を評価資料(100%)とします。

その他

環境会計並びに環境マネジメントの実際を知ることも大切なので、校外学習会や見学会、その他学外で開催されるセミナーや研究会にも参加してもらいます。

科目ナンバー：(BA) ACC731J			
財務会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	財務会計特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経営学) 石津 寿恵		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

非営利組織や民間企業によるソーシャルエンタープライズが果たすべき役割、その会計の特質について海外の状況を踏まえて研究する。

【到達目標】

社会的課題解決のための組織の活動・会計について、海外の状況の概要を修得し、具体例も踏まえて理解することが出来るようになる。

授業内容

授業は以下のように進める予定である。しかし、受講生の状況によって変更することがあり得る。

- 1: 授業の概要
- 2: 社会的課題解決のための多様な法人形態についての米国の状況
- 3: 社会的課題解決のための多様な法人形態についての英国の状況
- 4: 社会的課題解決のための多様な法人形態についてのドイツの状況
- 5: 米国における非営利会計の研究
- 6: 英国における非営利会計の研究
- 7: ドイツにおける非営利会計の研究
- 8: 中間的とりまとめ
- 9: 米国における非営利会計情報ディスクロージャーの仕組みと事例研究
- 10: 英国における非営利会計情報ディスクロージャーの仕組みと事例研究
- 11: ドイツにおける非営利会計情報ディスクロージャーの仕組みと事例研究
- 12: 非営利会計の国際的統合化
- 13: ワールドワイドな中間支援組織の役割と発展方向
- 14: 授業のまとめ

履修上の注意

授業では、関係する研究論文を用いて多角的に研究する。指示した論文について熟読した上で出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業では、関係する研究論文を用いて多角的に研究する。指示した論文について熟読した上で出席すること。

教科書

関係する研究論文を紹介する。

参考書

石津寿恵他編著(2023)『非営利組織会計の基礎知識』白桃書房。

課題に対するフィードバックの方法

報告レジュメは添削の上返却する。

成績評価の方法

授業での発表50％、授業中の質疑で40％、出席態度で10％。

その他

科目ナンバー：(BA) ACC741J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	管理会計特殊研究1A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業では、管理会計研究のための理論的基礎を体系的に学ぶ。管理会計研究は、経営戦略論、組織論、行動科学、情報経済学など多様な学問領域の影響を受けて発展してきた。本授業では、これらの主要理論を比較・整理し、管理会計研究の発展史、パラダイム転換、方法論の多様性を理解するとともに、各自の研究関心に基づいて、博士学位請求論文のテーマ設定に必要な理論的視座を獲得することを目的とする。

＜到達目標＞

1. 管理会計の主要理論と研究潮流を体系的に理解している。
2. 自らの研究関心を理論的パラダイムに基づいて明確に説明できる。
3. 主要学術誌掲載論文を批判的に読解できる。
4. 博士学位請求論文の構想を文章化できる。

授業内容

- 第1回 管理会計研究の歴史的変遷と概念的枠組み
- 第2回 管理会計研究における経済学のアプローチ
- 第3回 管理会計研究における心理学のアプローチ
- 第4回 管理会計研究における社会学のアプローチ
- 第5回 経営戦略と管理会計
- 第6回 MCSの理論Ⅰ：MCSのフレームワーク
- 第7回 MCSの理論Ⅱ：LOC理論等
- 第8回 量的研究の基礎
- 第9回 質的研究の基礎
- 第10回 主要学術誌レビューⅠ
- 第11回 主要学術誌レビューⅡ
- 第12回 研究構想Ⅰ
- 第13回 研究構想Ⅱ
- 第14回 研究提案書発表・講評

履修上の注意

博士後期課程の学生として、単なる知識の吸収ではなく、既存の理論や先行研究を批判的に検討する姿勢が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・予習：指定された文献を精読し、レジュメを作成すること。
- ・復習：授業での議論を踏まえ、自らの研究関心にどう関連するかを研究メモにまとめること。

教科書

特定の教科書は使用せず、主要な学術雑誌の掲載論文を使用する。

参考書

- ・『Planning and Control Systems: A Framework for Analysis』R. N. Anthony (Division of Research, Graduate School of Business Administration, Harvard University)
 - ・『The Management Control Function』R. N. Anthony (Harvard Business School Press)
 - ・『Levers of Control: How Managers Use Innovative Control Systems to Drive Strategic Renewal』R. Simons (Harvard Business School Press)
 - ・『Levers of Organization Design: How Managers Use Accountability Systems for Greater Performance and Commitment』R. Simons (Harvard Business School Press)
- その他の参考文献は、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の報告に対し、指導教員および受講生間でディスカッションを行い、口頭で詳細なフィードバックを行う。

成績評価の方法

文献レビュー（50%）、議論への貢献（20%）、研究提案書（30%）に基づき、総合的に評価する。

その他

- ・管理会計に関する知識が不足している者は、各自で知識の向上に努めること。
- ・国内外のワークショップやカンファレンスへの積極的な参加および査読付学術雑誌への投稿を強く推奨する。

科目ナンバー：(BA) ACC741J			
管理会計系		備 考	
科 目 名	管理会計特殊研究1B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業では、管理会計特殊研究1Aで得た理論的基礎をもとに、研究課題の設定、仮説構築、方法論の選択、研究倫理など、実際の研究設計に必要な知識と技能を習得する。また、各自のテーマに関する報告と議論を通じ、研究の独自性と貢献を明確にして行く。本授業では、博士学位請求論文の研究テーマを確定し、研究計画書を完成させることを目的とする。

＜到達目標＞

1. 先行研究レビューを批判的に行い、リサーチ・ギャップを明確にできる。
2. 自らの研究の学術的意義と位置づけを説明できる。
3. 研究課題・目的・仮説・方法論等を統合した研究計画書を作成できる。

授業内容

- 第1回 先行研究レビューⅠ
- 第2回 先行研究レビューⅡ
- 第3回 研究課題設定Ⅰ
- 第4回 研究課題設定Ⅱ
- 第5回 理論枠組みⅠ：概念フレームワーク
- 第6回 理論枠組みⅡ：分析フレームワーク
- 第7回 仮説構築Ⅰ
- 第8回 仮説構築Ⅱ
- 第9回 研究方法論Ⅰ：量的研究
- 第10回 研究方法論Ⅱ：質的研究
- 第11回 研究倫理
- 第12回 研究計画書作成Ⅰ
- 第13回 研究計画書作成Ⅱ
- 第14回 研究計画書提出・講評

履修上の注意

博士後期課程の学生として、単なる知識の吸収ではなく、既存の理論や先行研究を批判的に検討する姿勢が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・予習：自らの研究計画に関連する最新の先行研究を探索し、研究ノートを作成すること。
- ・復習：授業での議論や指導教員からの指摘を踏まえ、自らの研究計画書に反映させること。

教科書

特定の教科書は使用せず、主要な学術雑誌の掲載論文を使用する。

参考書

- ・『Research Methods in Accounting』Malcolm Smith (SAGE Publications Ltd.)※最新版を入手すること。
 - ・『会計学の研究手法』マルコム・スミス著、平松一夫監訳(中央経済社)
 - ・『ケース・スタディの方法』ロバート・K.イン著(千倉書房)
 - ・『新版 質的研究入門』ウヴェ・フリック著(春秋社)
 - ・『グランデッド・セオリー・アプローチ 改訂版：理論を生みだすまで』戈木クレイグヒル滋子(新曜社)
- その他の参考文献は、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の報告に対し、指導教員および受講生間でディスカッションを行い、口頭で詳細なフィードバックを行う。

成績評価の方法

先行研究レビュー（50%）、議論への貢献(20%)、研究計画書(30%)に基づき、総合的に評価する。

その他

- ・管理会計に関する知識が不足している者は、各自で知識の向上に努めること。
- ・国内外のワークショップやカンファレンスへの積極的な参加および査読付学術雑誌への投稿を強く推奨する。

科目ナンバー：(BA) ACC741J			
管理会計系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	管理会計特殊研究2A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業では、管理会計特殊研究1Bで作成した研究計画書に基づいて具体的な調査を計画・実施し、仮説の検証段階へと進む。また、統計分析・質的データ分析・事例研究の手法を習得し、分析フレームワークを具体化する。本授業では、実際の調査（パイロット調査を含む）を開始することを目的とする。

＜到達目標＞

1. 研究デザインを実際に運用できる水準に仕上げる。
2. データ収集・分析を自立的に実施できる。
3. 研究倫理とデータ管理基準を遵守できる。

授業内容

- 第1回 研究計画の確認と研究手法の検討
- 第2回 量的研究手法の深化Ⅰ
- 第3回 質的研究手法の深化Ⅱ
- 第4回 データの設計
- 第5回 サンプルの選定
- 第6回 調査票の作成
- 第7回 インタビュー・ガイドの作成
- 第8回 倫理審査への対応
- 第9回 パイロット調査の実施と分析
- 第10回 統計分析手法Ⅰ
- 第11回 統計分析手法Ⅱ
- 第12回 質的分析手法Ⅰ
- 第13回 質的分析手法Ⅱ
- 第14回 データ収集状況報告

履修上の注意

- ・博士後期課程の学生として、単なる知識の吸収ではなく、既存の理論や先行研究を批判的に検討する姿勢が求められる。
- ・実証研究においては調査対象の確保が不可欠であるため、早期に調査対象へのアプローチを開始すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・予習:統計分析ソフト（SPSS等）や質的データ分析ソフト（NVivo等）の操作を習得すること。
- ・復習:収集した生データの整理およびクリーニングを行うこと。

教科書

特定の教科書は使用せず、分析手法に応じた文献を適宜指示する。

参考書

- ・『Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches』J. W. Creswell and J. D. Creswell (SAGE Publications)
 - ・『Internet, Phone, Mail, and Mixed-Mode Surveys: The Tailored Design Method』D. A. Dillman, J. D. Smyth and L. M. Christian (Wiley)
 - ・『Case Study Research and Applications: Design and Methods』R. K. Yin (SAGE Publications)
 - ・『The Coding Manual for Qualitative Researchers』J. Saldaña (SAGE Publication)
- その他の参考文献は、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の報告に対し、指導教員および受講生間でディスカッションを行い、口頭で詳細なフィードバックを行う。

成績評価の方法

分析手法に関するレポート(50%)、議論への貢献(30%)、データ収集状況報告(20%)に基づき、総合的に評価する。

その他

- ・管理会計や分析手法に関する知識が不足している者は、各自で知識の向上に努めること。
- ・研究倫理(捏造・改ざん・盗用の防止)を厳守すること。
- ・国内外のワークショップやカンファレンスへの積極的な参加および査読付学術雑誌への投稿を強く推奨する。

科目ナンバー：(BA) ACC741J			
管理会計系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	管理会計特殊研究2B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業では、管理会計特殊研究2Aに引き続いて、収集したデータの分析を行い、仮説の検証または現象の理論的記述を行う。本授業では、量的分析手法または質的分析手法を用いて得られた結果を客観的かつ理論的に解釈し、先行研究との比較を通じて考察することで、自らの研究が管理会計の理論に対して果たす貢献を明確にすることを目的とする。

＜到達目標＞

1. 適切な分析手法を用いて、収集したデータから科学的な結論を導き出すことができる。
2. 分析結果の頑健性を確認し、理論的含意と実務的含意を深く考察できる。
3. 学会報告や論文投稿を通じて、第三者からの批判を仰ぎ、研究の質を向上させる。

授業内容

- 第1回 夏季休暇中の研究進捗報告
- 第2回 分析の準備と基礎的分析の実施
- 第3回 主要分析の実施Ⅰ
- 第4回 主要分析の実施Ⅱ
- 第5回 追加分析の実施
- 第6回 分析結果の理論的解釈Ⅰ
- 第7回 分析結果の理論的解釈Ⅱ
- 第8回 中間報告
- 第9回 先行研究との比較Ⅰ
- 第10回 先行研究との比較Ⅱ
- 第11回 理論的含意と実務的含意の抽出
- 第12回 フルペーパーの作成Ⅰ
- 第13回 フルペーパーの作成Ⅱ
- 第14回 模擬報告・講評

履修上の注意

- ・統計分析ソフト（SPSS等）や質的データ分析ソフト（NVivo等）の基本操作を習得済みであること。
- ・隔週で進捗報告を行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・予習:指導を受ける際には、事前に分析結果の出力や修正した原稿を指導教員に送付すること。また、自らの研究に関連する最新の論文を常にチェックすること。
- ・復習:授業での指摘事項に基づき、分析の再実行や論理構成の修正等を速やかに行うこと。

教科書

特定の教科書は使用せず、分析手法に応じた文献を適宜指示する。

参考書

- ・『Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches』J. W. Creswell and J. D. Creswell (SAGE Publications)
 - ・『Internet, Phone, Mail, and Mixed-Mode Surveys: The Tailored Design Method』D. A. Dillman, J. D. Smyth and L. M. Christian (Wiley)
 - ・『Case Study Research and Applications: Design and Methods』R. K. Yin (SAGE Publications)
 - ・『The Coding Manual for Qualitative Researchers』J. Saldaña (SAGE Publication)
- その他の参考文献は、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

指導教員および受講生間で報告に対するディスカッションを行い、口頭で詳細なフィードバックを行う。また、フルペーパーについては、口頭および書面（メールや校閲機能等）を通じて詳細なフィードバックを行う。

成績評価の方法

中間報告(25%)、模擬報告(25%)、フルペーパー(50%)に基づき、総合的に評価する。

その他

- ・管理会計や分析手法に関する知識が不足している者は、各自で知識の向上に努めること。
- ・研究倫理(捏造・改ざん・盗用の防止)を厳守すること。
- ・国内外のワークショップやカンファレンスへの積極的な参加および査読付学術雑誌への投稿を強く推奨する。

科目ナンバー：(BA) ACC741J			
管理会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	管理会計特殊研究3A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

本授業では、これまでの研究成果を博士学位請求論文として統合する執筆段階に入る。序論、本論(先行研究レビュー、研究方法、分析結果、考察)、結論という連の学位論文構成に従い、論理の一貫性を保ちながら各章を記述する。本授業では、断片的な研究成果を、統一的なテーマのもとに体系化された学術論文として編成し直すことを目的とする。

<到達目標>

1. 博士学位請求論文の全体構成(目次)を確定させ、論理的矛盾のない章立てを構築できる。
2. 各章の執筆を進め、学期内に博士学位請求論文の初稿を完成させる。
3. 自らの研究が管理会計学の発展にどのように寄与するかを、説得力を持って記述できる。

授業内容

- 第1回 全体構成の確認
- 第2回 序論の執筆
- 第3回 先行研究レビューの再構成
- 第4回 研究方法論の詳述
- 第5回 分析結果の提示Ⅰ
- 第6回 分析結果の提示Ⅱ
- 第7回 中間報告
- 第8回 考察の執筆Ⅰ
- 第9回 考察の執筆Ⅱ
- 第10回 結論の執筆
- 第11回 全体の調整
- 第12回 要旨の作成
- 第13回 初稿の推敲
- 第14回 初稿の完成と課題整理

履修上の注意

- ・学術研究論文3本以上を査読付学術雑誌に投稿していること。
- ・本年度の定められた日までに博士学位請求論文を提出予定であること。

準備学習(予習・復習等)の内容

- ・予習:各回の授業内容に該当する章の原稿を、授業の3日前までに提出すること。
- ・復習:指導教員のフィードバックに基づき、即座に原稿を修正すること。

教科書

特定の教科書は使用せず、各自が2年次までに作成したレジュメ、研究メモ、研究ノート、フルペーパー等を使用する。

参考書

- ・『Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches』J. W. Creswell and J. D. Creswell (SAGE Publications)
 - ・『Internet, Phone, Mail, and Mixed-Mode Surveys: The Tailored Design Method』D. A. Dillman, J. D. Smyth and L. M. Christian (Wiley)
 - ・『Case Study Research and Applications: Design and Methods』R. K. Yin (SAGE Publications)
 - ・『The Coding Manual for Qualitative Researchers』J. Saldaña (SAGE Publication)
- その他の参考文献は、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された原稿について、対面(またはオンライン)形式で直接指導を行う。なお、必要に応じて修正履歴を用いた書面によるフィードバックを併用する。

成績評価の方法

博士学位請求論文における各章の執筆進捗状況と内容の深化(80%)と初稿の完成度(20%)

その他

- ・「明治大学大学院経営学研究科博士学位取得のためのガイドライン」を熟読すること。
- ・「<博士学位請求論文>提出書類作成の手引き(学位請求書・履歴書・業績書・要旨・要約)」を確認すること。
- ・学位請求スケジュールを念頭に、逆算して執筆を進めること。
- ・研究倫理(捏造・改ざん・盗用の防止)を厳守すること。
- ・研究者としてのキャリア形成を見据え、国内外のワークショップやカンファレンスへの積極的な参加および査読付学術雑誌への投稿を強く推奨する。

科目ナンバー：(BA) ACC741J			
管理会計系		備考	2026年度開講せず
科目名	管理会計特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 大槻 晴海		

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

本授業では、提出した博士学位請求論文の精緻化と最終的な推敲を行う。指導教授とのディスカッションや予備審査を通じて得られた指摘事項を論文に反映させ、学位請求論文としての完成度を高めることを目的とする。また、本審査(ディフェンス)に向けたプレゼンスキルと質疑応答能力を磨く。

<到達目標>

1. 論文全体の論理的・形式的な完成度を極限まで高め、学位請求論文として提出する。
2. 審査における厳しい学術的批判に対し、論理的かつ建設的に反論・回答できる能力を証明する。
3. 博士学位取得後に独立した研究者として、次なる研究課題を展望できる。

授業内容

- 第1回 提出論文の全体確認
- 第2回 論理構成の最終検証
- 第3回 先行研究レビューの精緻化
- 第4回 実証結果の表現の洗練化
- 第5回 予備審査に向けた確認
- 第6回 予備審査指摘事項の整理
- 第7回 論文の修正・補強Ⅰ
- 第8回 論文の修正・補強Ⅱ
- 第9回 形式的完成度の向上
- 第10回 学位請求論文の最終確認
- 第11回 本審査に向けた確認Ⅰ
- 第12回 本審査に向けた確認Ⅱ
- 第13回 研究者としての展望
- 第14回 研究の総括

履修上の注意

博士学位請求論文を提出中であること。

準備学習(予習・復習等)の内容

- ・予習:指導教授との面談前に、修正した箇所とその理由を明記した「修正対照表」を作成すること。
- ・復習:指摘事項に即座に対処し、次回の議論までに修正稿を準備すること。

教科書

特定の教科書は使用せず、提出した初稿を使用する。

参考書

- ・『Writing for Social Scientists: How to Start and Finish Your Thesis, Book, or Article』H. S. Becker (The University of Chicago Press)
- その他の参考文献は、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された原稿について、対面(またはオンライン)形式で直接指導を行う。なお、必要に応じて修正履歴を用いた書面によるフィードバックを併用する。

成績評価の方法

博士学位請求論文の完成度(80%)と審査における応答能力(20%)

その他

- ・「明治大学大学院経営学研究科博士学位取得のためのガイドライン」を熟読すること。
- ・「<博士学位請求論文>提出書類作成の手引き(学位請求書・履歴書・業績書・要旨・要約)」を確認すること。
- ・事務手続きを含めたスケジュール管理を徹底すること。
- ・研究倫理(捏造・改ざん・盗用の防止)を厳守すること。
- ・研究者としてのキャリア形成を見据え、国内外のワークショップやカンファレンスへの積極的な参加および査読付学術雑誌への投稿を強く推奨する。

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	
科目名	公共経営特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

【概要】

ニューパブリックマネジメント(NPM)からニューパブリックガバナンスという変化の中で、NPOの公共サービス供給役割や組織の変化を理論をベースに理解し、文献研究・実証研究を行う。

【到達目標】

研究課題を設定し、研究課題に関連して先行研究をサーベイし、過去の研究を超える、新たな視点から理論研究あるいは実証研究ができるようになる。

授業内容

1. イントロダクション
2. 研究課題の設定
3. 研究方法
4. 先行研究の整理
5. データの整理
6. 先行研究における課題整理
7. 研究仮説の設定
8. 研究計画の準備
9. 研究計画
10. 学会発表準備
11. 学会発表の事前プレゼン
12. 学会発表の反省
13. 論文テーマ・方法の再検討
14. 論文執筆計画

履修上の注意

自ら主体的に研究に取り組む姿勢を重視。演習での積極的な議論を重視。

準備学習（予習・復習等）の内容

自ら先行研究を整理し、研究仮説、研究計画について十分な検討をした上で演習に臨む。
演習後は、研究遂行上の課題を踏まえ、自らの視点や方法論などを再検討する。

教科書

毎回レジュメを配布

参考書

塚本一郎他編『ソーシャルインパクト・ボンドとは何か』ミネルヴァ書房。
塚本一郎他編『インパクト評価と社会イノベーション』第一法規。
塚本一郎他編『インパクト評価と価値創造経営』第一法規。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji、「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

演習持の議論への参加(40点)や発表内容(60点)で評価

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	公共経営特殊研究1A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、博士論文の作成指導を通じて論文の構想に関する指導を行う。本演習を通じて、博士論文へ向けた学術論文の投稿を行い、研究に対する理解が深まることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 先行研究論文の調査方法
- 第4回 先行研究論文調査のまとめ方
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論(1)
- 第8回 基本資料講読および討論(2)
- 第9回 基本資料講読および討論(3)
- 第10回 研究テーマ、論文構想の確認
- 第11回 研究の方法論、対象に関する議論
- 第12回 研究テーマ、論文構想の修正案の提示
- 第13回 研究テーマ、論文構想に関する最終議論
- 第14回 論文構想の発表

履修上の注意

論文を作成、報告できる日本語力と英語力、大量の文献を読みこなす読解力、基礎的な実証研究の方法論に関する知識と理解を要する。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度30%、論文作成70%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	
科目名	公共経営特殊研究1B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

【概要】

ニューパブリックマネジメント(NPM)からニューパブリックガバナンスという変化の中で、NPOの公共サービス供給役割や組織の変化を理論をベースに理解し、文献研究・実証研究を行う。

【到達目標】

研究課題を設定し、研究課題と関連して先行研究をサーベイし、過去の研究を超える、新たな視点から理論研究あるいは実証研究ができるようになる。

授業内容

1. イントロダクション
2. 博士論文執筆計画
3. 研究方法・研究仮説の再検討
4. 先行研究の整理・再検討
5. 実証研究の方法の検討
6. 調査計画
7. 研究課題、研究方法の確定
8. 研究対象の確定、研究計画の検討
9. 研究計画の確定
10. 学会発表準備
11. 学会発表の事前プレゼン
12. 学会発表の反省
13. 博士論文のアウトラインの検討
14. 論文執筆準備

履修上の注意

自ら主体的に研究に取り組む姿勢を重視。演習での積極的な議論を重視。

準備学習（予習・復習等）の内容

自ら先行研究を整理し、研究仮説、研究計画について十分な検討をした上で演習に臨む。

演習後は、研究遂行上の課題を踏まえ、自らの視点や方法論などを再検討する。

教科書

毎回レジュメを配布

参考書

塚本一郎他編『ソーシャルインパクト・ボンドとは何か』ミネルヴァ書房。

塚本一郎他編『インパクト評価と社会イノベーション』第一法規。

塚本一郎他編『インパクト評価と価値創造経営』第一法規。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji、「クラスウェブ」に提出された課題についてはコメント機能を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

演習持の議論への参加(40点)や発表内容(60点)で評価

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	公共経営特殊研究1B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、博士論文の作成指導を通じて論文の構想に関する指導を行う。本演習を通じて、博士論文へ向けた学術論文の投稿を行い、研究に対する理解が深まることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究テーマ相談・討論
- 第3回 行政学、地方自治論の最新研究動向調査
- 第4回 先行研究と研究テーマの位置づけ
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 研究作業（データ分析やヒアリング調査など）のスケジュール確認
- 第7回 基本資料講読および討論(1)
- 第8回 基本資料講読および討論(2)
- 第9回 基本資料講読および討論(3)
- 第10回 研究テーマ、論文構想の確認
- 第11回 研究テーマに関連する先行研究の整理と議論
- 第12回 研究テーマ、論文構想の修正案の提示
- 第13回 研究テーマ、論文構想に関する最終議論
- 第14回 論文構想の発表

履修上の注意

論文を作成、報告できる日本語力と英語力、大量の文献を読みこなす読解力、基礎的な実証研究の方法論に関する知識と理解を要する。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度30%、論文作成70%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	公共経営特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

【概要】

ニューパブリックマネジメント(NPM)からニューパブリックガバナンス、パブリックサービス・エコシステムという変化の中で、非営利組織等の公共サービス供給役割や組織の変化を理論をベースに理解し、文献研究・実証研究を行う。

【到達目標】

研究課題を設定し、研究課題と関連して先行研究をサーベイし、過去の研究を超える、新たな視点から理論研究あるいは実証研究ができるようになる。

授業内容

1. NPMからNPG、パラダイム転換の検討
2. NPGパースペクティブからの理論研究の発展
3. NPGパースペクティブからの実証研究の発展
4. NPGパースペクティブの意義と限界
5. 公共経営関連のネットワーク理論の検討
6. ネットワーク理論の限界
7. 公共経営関連のHybridity理論の検討
8. Hybridity理論の限界
9. Public Entrepreneurship理論の検討
10. Public Entrepreneurship理論の限界
11. 価値共創マーケティング理論の検討
12. 価値共創マーケティング理論の限界
13. Public Service Ecosystem (PSE)理論の検討
14. PSE理論の限界

履修上の注意

無断欠席は厳禁。事前(困難な場合は事後)に連絡すること
課題未提出は、大幅な減点となる。
授業に積極的、主体的に参加すること

準備学習（予習・復習等）の内容

予め授業関連の文献を指定するので、それらの文献を読んでおくこと。精読にはこだわらないが、それらの文献のエッセンスを理解すること。可能な範囲で、次の授業のテーマに関連した先行研究や統計データ等をサーベイしておくこと

教科書

特に教科書は用いず、毎回、パワーポイント資料を提供する。

参考書

授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiのコメント機能を通じて、フィードバックする。
授業中、コメントする。

成績評価の方法

課題提出状況、提出物の内容、授業における発表・発言、出席状況などを総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	公共経営特殊研究2A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、博士論文の作成指導を通じて論文の構想に関する指導を行う。本演習を通じて、博士論文へ向けた学術論文の投稿を行い、研究に対する理解が深まることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究目的・課題の設定
- 第3回 先行研究と研究内容の位置づけの確認
- 第4回 研究関連資料講読および討論(1)
- 第5回 研究関連資料講読および討論(2)
- 第6回 研究関連資料講読および討論(3)
- 第7回 研究内容・章立てに関する発表
- 第8回 研究目的・課題の再修正と討論
- 第9回 各章の細かい概要・構想の発表
- 第10回 研究作業の課題やスケジュールの確認
- 第11回 論文執筆の指導:序章案の報告
- 第12回 論文執筆の指導:序章案の検討
- 第13回 論文執筆の指導:序章案の修正
- 第14回 論文構想の最終確認

履修上の注意

論文を作成、報告できる日本語力と英語力、大量の文献を読みこなす読解力、基礎的な実証研究の方法論に関する知識と理解を要する。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度30%、論文作成70%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	公共経営特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

ニューパブリックマネジメント(NPM)からニューパブリックガバナンス、パブリックサービス・エコシステムという変化の中で、非営利組織等の公共サービス供給役割や組織の変化を理論をベースに理解し、文献研究・実証研究を行う。特にPublic Private Partnership関連の具体的事例を扱い議論する。

【到達目標】

研究課題を設定し、研究課題と関連して先行研究をサーベイし、過去の研究を超える、新たな視点から理論研究あるいは実証研究ができるようになる。

授業内容

1. Public Private Partnership (PPP)に関する先行研究のアプローチ
2. PPPの事例(英国)
3. PPPの事例(米国)
4. PPPの事例(日本)
5. Payment by Results(PbR)型公契約の事例(英国)
6. PbR型公契約の事例(米国)
7. PbR型公契約の事例(日本)
8. Social Impact Bond(SIB)の事例(英国)
9. SIBの事例(米国)
10. SIBの事例(日本)
11. Collaborative Governanceの事例(英国)
12. Collaborative Governanceの事例(米国)
13. Collaborative Governanceの事例(日本)
14. PPPの意義と課題

履修上の注意

無断欠席は厳禁。事前(困難な場合は事後)に連絡すること。課題未提出は、大幅な減点となる。授業に積極的、主体的に参加すること

準備学習(予習・復習等)の内容

予め授業関連の文献を指定するので、それらの文献を読んでおくこと。精読にはこだわらないが、それらの文献のエッセンスを理解すること。可能な範囲で、次の授業のテーマに関連した先行研究や統計データ等をサーベイしておくこと

教科書

特に教科書は用いず、毎回、パワーポイント資料を提供する。

参考書

授業中、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiのコメント機能を通じて、フィードバックする。授業中、コメントする。

成績評価の方法

課題提出状況、提出物の内容、授業における発表・発言、出席状況などを総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	公共経営特殊研究2B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、博士論文の作成指導を通じて論文の構想に関する指導を行う。本演習を通じて、博士論文へ向けた学術論文の投稿を行い、研究に対する理解が深まることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究目的・課題の設定
- 第3回 先行研究と研究内容の位置づけの確認
- 第4回 研究関連資料講読および討論(1)
- 第5回 研究関連資料講読および討論(2)
- 第6回 研究関連資料講読および討論(3)
- 第7回 研究内容・章立てに関する発表
- 第8回 研究目的・課題の再修正と討論
- 第9回 各章の細かい概要・構想の発表
- 第10回 研究作業の課題やスケジュールの確認
- 第11回 論文執筆の指導: 各省案の報告
- 第12回 論文執筆の指導: 各省案の検討
- 第13回 論文執筆の指導: 各省案の修正
- 第14回 論文構想の最終確認

履修上の注意

論文を作成、報告できる日本語力と英語力、大量の文献を読みこなす読解力、基礎的な実証研究の方法論に関する知識と理解を要する。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度30%、論文作成70%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備 考	
科 目 名	公共経営特殊研究3A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

【概要】

博士学位申請論文の完成を目的に講義を行う。
各回、博士論文に関する論文指導をしつつ、博士論文に関連した知識提供や、関連文献に関する議論も行う。
基本的には、ニューパブリックマネジメント（NPM）からニューパブリックガバナンス、パブリックサービス・エコシステムという変化の中で、官民連携の可能性や限界について考察する。

【到達目標】

研究課題を設定し、研究課題と関連して先行研究をサーベイし、過去の研究を超える、新たな視点から理論研究あるいは実証研究ができるようになる。

授業内容

論文指導とともに、関連した知識提供や意見交換を行う。

1. 論文指導、NPM理論の再検討
2. 論文指導、NPG理論の再検討
3. 論文指導、価値共創マーケティング理論の再検討
4. 論文指導、公共経営理論の再検討
5. 論文指導、ネットワーク理論の再検討
6. 論文指導、Hybridity理論の検討
7. 論文指導、Public Entrepreneurship理論の検討
8. 論文指導、Public Service Ecosystem (PSE) 理論の検討
9. 論文指導、インパクト評価理論の再検討
10. 論文指導、PPP（公民連携）理論の再検討
11. 論文指導、日本とイギリスのPPPの制度比較
12. 論文指導、インパクト投資の活用可能性
13. 論文指導、PPPの組織論的考察
14. 論文指導、PPPと政策評価

履修上の注意

先行研究のサーベイを踏まえて論文発表を行うこと

準備学習（予習・復習等）の内容

最低限おさえておくべきと指定された文献は事前に精読しておくこと

教科書

特に無し

参考書

推奨文献は授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通じてフィードバック

成績評価の方法

論文発表内容(60点)、授業参加度(40点)

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	公共経営特殊研究3A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、博士論文の作成指導を通じて論文の構想に関する指導を行う。本演習を通じて、博士論文へ向けた学術論文の投稿を行い、研究に対する理解が深まることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文構想・章立て
- 第3回 研究作業の課題やスケジュールの確認
- 第4回 論文執筆の指導:本論案の報告(1)
- 第5回 論文執筆の指導:本論案の報告(2)
- 第6回 論文執筆の指導:本論案の検討(1)
- 第7回 論文執筆の指導:本論案の検討(2)
- 第8回 論文執筆の指導:本論案の修正指導(1)
- 第9回 論文執筆の指導:本論案の修正指導(2)
- 第10回 文献一覧表の報告
- 第11回 文献一覧表の修正
- 第12回 論文要旨報告
- 第13回 論文要旨修正
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

論文を作成、報告できる日本語力と英語力、大量の文献を読みこなす読解力、基礎的な実証研究の方法論に関する知識と理解を要する。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度30%、論文作成70%

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	
科目名	公共経営特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 塚本 一郎		

授業の概要・到達目標

【概要】

博士学位申請論文の完成を目的に講義を行う。
各回、博士論文の完成に向けた論文指導を実施する。併せて、研究方法、調査方法、調査結果等の検証を随時行い、必要に応じて博士論文に関連した知識提供や、関連文献に関する議論も行う。

基本的には、ニューパブリックマネジメント（NPM）からニューパブリックガバナンス、パブリックサービス・エコシステムという変化の中で、官民連携の可能性や限界について考察する。

【到達目標】

研究課題を設定し、研究課題と関連して先行研究をサーベイし、過去の研究を超える、新たな視点から理論研究あるいは実証研究ができるようになる。

授業内容

論文指導とともに、関連した知識提供や意見交換を行う。

1. 論文指導、実証研究の方法の再検討
2. 論文指導、実証研究で対象とするデータや調査票再検討
3. 論文指導、調査計画の確認、再検討
4. 論文指導、調査実施の中間報告
5. 論文指導、調査結果の検証：信頼性、手続面の妥当性（著作権、個人情報保護含め）の検証
6. 論文指導、調査結果のインプリケーションの検討
7. 論文指導、仮説と調査結果のインプリケーションとの矛盾・整合性の検証
8. 論文指導、論文の論理一貫性、鍵概念の適切さ検討
9. 論文指導、導き出される考察の検討
10. 論文指導、考察の一般化可能性の検討
11. 論文指導、考察を踏まえて最終結論の検討
12. 論文指導、最終結論の新奇性、創造性についての検討
13. 論文指導、論文全体の整合性や課題点の検討
14. 論文指導、論文の最終チェック（体裁、用語使用法、引用・参考文献表記、リーガル面含め）

履修上の注意

先行研究のサーベイ、前回講義で指摘された課題点を踏まえて論文発表を行うこと

準備学習（予習・復習等）の内容

最低限おさえておくべきと指定された文献は事前に精読しておくこと

教科書

特に無し

参考書

推奨文献は授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通じてフィードバック

成績評価の方法

論文発表内容(60点)、授業参加度(40点)

その他

科目ナンバー：(BA) MAN771J			
公共経営系		備考	2026年度開講せず
科目名	公共経営特殊研究3B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 菊地 端夫		

授業の概要・到達目標

本演習では、博士論文の作成指導を通じて論文の構想に関する指導を行う。本演習を通じて、博士論文へ向けた学術論文の投稿を行い、研究に対する理解が深まることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文構想・章立て
- 第3回 研究作業の課題やスケジュールの確認
- 第4回 論文執筆の指導：本論案の報告(1)
- 第5回 論文執筆の指導：本論案の報告(2)
- 第6回 論文執筆の指導：本論案の検討(1)
- 第7回 論文執筆の指導：本論案の検討(2)
- 第8回 論文執筆の指導：本論案の修正指導(1)
- 第9回 論文執筆の指導：本論案の修正指導(2)
- 第10回 文献一覧表の報告
- 第11回 文献一覧表の修正
- 第12回 論文要旨報告
- 第13回 論文要旨修正
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

論文を作成、報告できる日本語力と英語力、大量の文献を読みこなす読解力、基礎的な実証研究の方法論に関する知識と理解を要する。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習は受講生が事前に準備・講読した内容を基に議論・指導をして理解を深める場所なので、毎回、次回の内容に関する課題をこなすこと。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

個別講評を実施する。

成績評価の方法

授業への参加度30%、論文作成70%

その他

交通遅延発生時の授業等の措置について

	緊急時には、Oh-o! Meiji システム又は本学ホームページ等でお知らせを配信しますので、必ず確認するようにしてください。
1 悪天候等により大規模な交通遅延が予想される場合	悪天候等により、授業日に大規模な交通遅延が予想され、授業の臨時休講等の特別な措置を講じる場合には、当該授業開始時間の3時間前までを目途に、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。
2 本学への通学における主要交通機関に遅延が生じた場合	本学の各キャンパスへの通学における主要路線に大規模な遅れや運休が生じた場合は、急遽特別な措置を講じる場合があります。その場合には、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。 なお、自身が利用する交通機関の遅延・運休により、授業を遅刻または欠席せざるを得なかった場合は、交通機関にて遅延証明書等を入手したうえで、各授業担当教員にご相談ください。

大規模地震等災害発生時の対応について

1 大規模地震発生時の行動	授業中に大規模地震が発生した場合は、あわてず次のような安全行動をとり、館内放送の指示に従ってください。本学の建物は耐震建築又は耐震補強がなされており、容易に倒壊することはないと想定しています。 (1) 地震発生時の行動 身の安全を図り、揺れがおさまるまで次の事項に留意し、冷静に行動してください。(大きな地震でも1～2分で揺れはおさまります。) ・机の下に隠れる、衣類や鞆等で頭を覆う等の安全行動をはかり、落下物から身を守ってください。 ・自動販売機、ロッカー等は倒れたり、窓ガラスが割れたりすることでケガをする恐れがあるため、近寄らないでください。 (2) 地震直後の行動 大きな地震の後には、必ず余震が来るとお考えください。余震を念頭におきながら、次の事項に留意し、冷静に行動してください。 ・余震に注意し、避難口を確保してください。避難口確保の際は、各教室に備え付けのドアストッパーを利用してください。あわてて外に出るとかえって危険な場合があります。 ・ガスの元栓・コンセント等、火の元を確認してください。出火した場合は、消火器等を利用した初期消火活動を行うとともに、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全を確認してください。 (3) 地震後の行動 ・傷病者がいる場合、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全の再確認及び周囲の状況の確認をしてください。
---------------	---

	(4) 避難行動 ・地震が発生しても身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災、壁に大きな亀裂が入るなど躯体への影響が懸念される場合、薬品漏出、実験機器転倒の恐れ等がある場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により、各建物ごとに指定された「一時集合場所」へ移動してください。 ・授業中の場合は、授業の受講者単位で移動してください。 ・傷病者や身体障がい者の避難をサポートしてください。 ・屋外に避難する時は、衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守ってください。地面の亀裂や陥没、隆起及び塀や電柱の倒壊に注意してください。 ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。 ・各キャンパスの一時集合場所は、明治大学HP内にある「明治大学防災ガイド」(https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html)を確認してください。 (5) 帰宅困難対策について 大規模地震が発生した場合、交通機関が麻痺し帰宅困難となる場合があります。無理に帰宅せず、大学施設等の安全な場所に留まるようにしてください。なお、大学では、非常用の食料等を備蓄しています。 2 火災発生時の対応 (1) 火災を発見した場合の行動 ・大声で「火事だ」と叫び、周りの人に知らせてください。 ・最寄りの防災センター・守衛所・事務室に連絡してください。 ・消火栓の火災報知器ボタンを押してください。 ・消火できそうな火災は、消火器等を利用して初期消火にあたってください。 (2) 初期消火のポイント ・炎や煙に惑わされず、燃えているものを確かめてください。 ・燃えているものに適した消火器等を使用し、適切な距離(3～5m)から消火してください。 ・出来るだけ多くの人で消火等を集めて、一気に消火してください。 ・2か所以上から同時に出火していたら、人命に影響を及ぼす場所の消火を優先してください。 (3) 避難行動 ・煙が発生した場合には、姿勢を低くし、ハンカチを口と鼻にあてるなどして煙を吸わないようにしてください。 ・建物内で火災が発生した場合、その煙・熱等で感知器が作動し、自動で防火戸・防火シャッターが閉鎖します。避難する前に防火戸が閉まった場合は、避難方向に出られるよう開けられます。 ・防火戸・防火シャッターが自動で閉鎖しない場合は、煙の拡散を防ぐために必ず手動で閉めるようにしてください。 ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。
--	---

3 災害発生時の連絡方法	(1) 非常時には、電話線の切断、故障、電話パニック等のため、電話がつながりにくくなります。また、大学では家族から学生の安否の問い合わせがあっても、個別の確認には即座に対応できないことがあります。普段から、非常時の連絡方法について、家族、友人又はクラス・ゼミ単位で話し合っておいてください。(遠方の親戚や友人を安否確認の中継点にする・災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板(Web171)・Google パーソンファインダー等を利用するなど。) (2) 大学からの情報の伝達・安否確認については地震発生後、体制が整い次第、HP及び所属の学部事務室等から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせしますので、その指示に従ってください。 また、補助的手段として、X (旧 Twitter) からも情報発信を行います。以下の大学のアカウントをフォローしておくことをお勧めします。 明治大学公式アカウント (@Meiji_Univ_PR) 《参考》 ・災害発生時の公衆電話・ 災害が発生し、加入電話の発信が規制されると、緊急通報(119)も含めて電話がかかりにくくなります。そうした時は、比較的公衆電話がつながるようです。あらかじめ公衆電話がどこにあるか確かめておきましょう。災害救助法が適用される規模の災害が発生した際に運用されますが、電力会社からの送電が止まっても、NTT回線がつながっていれば、無料で電話がかけられます。
4 平常時の備え	(1) 大学HPに掲出の「明治大学防災ガイド」には避難マニュアル、避難場所、備蓄品、帰宅困難時の対応、応急手当など災害時に必要な情報が載っています。必ず確認をしてください。 (2) 非常時に備え、避難経路、避難先等を確認しておいてください。避難路(通路、階段等)には物を置かないようにし、出入口周辺のロッカー、戸棚等の転倒防止などを実施してください。また、落下物防止の観点から、ロッカー、戸棚等の上には物を置かないようにしてください。 (3) 火災の発生に備え、消火器・消火栓の位置、使用方法を確認しておいてください。 (4) 実験室や研究室では化学薬品や発火物等の危険物の安全対策を施してください。 (5) 応急手当の方法を身につけてください。また、機会を見つけて防災訓練、救急救命訓練等に参加してください。

大規模地震発生時の避難マニュアル (駿河台キャンパス) 【学生用】

大規模地震発生時の初動マニュアル

地震発生時の行動

- (1) **身の安全の確保！(落下物に注意)**
机の下などへ！書棚・ロッカー等の備品から離れる。



地震直後の行動

- (1) **余震に注意**
天吊りプロジェクターやガラスからは離れる。
- (2) **火の元確認。初期消火！**
出火した時は、落ち着いて消火活動と各建物の防災センター／守衛所に通報する。
- (3) **避難口の確保、避難場所の確認**
出入口等を開け、逃げ道を確保する。
あわてて外部に出るとかえって危険な場合がある。
- (4) **館内放送に注意、その指示に従う。**
- (5) **教室の安全を確認**
声をかける、傷病人がいないか確認する。



地震後の行動

- (1) **館内放送の指示に従う。**
- (2) **教室の安全を再確認**
傷病人がいないか再度確認し、いた場合は、各建物の防災センター／守衛所に通報する。
- (3) **周囲の状況を確認する。**
火の元を確認する。



以下、大規模地震発生時の避難フローへ

緊急連絡先：

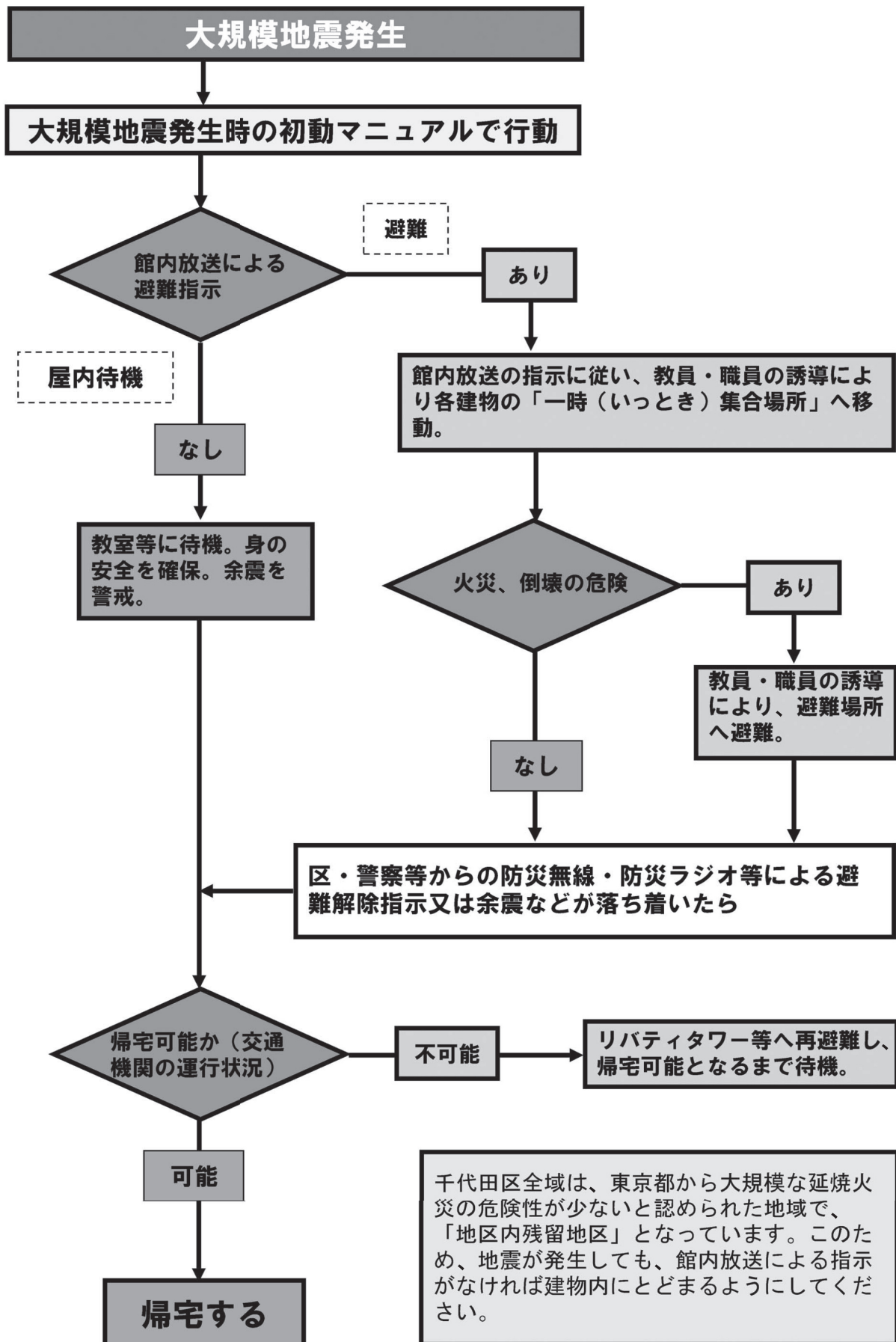
リバティタワー防災センター (03-3296-4445)

アカデミーコモン防災センター (03-3296-4498)



2018年4月改訂 明治大学

大規模地震発生時の避難フロー



大規模地震発生時にはこうしよう

【日常的な備え】

教室内に、①大地震・火災が発生した場合の対応、②避難経路図を掲出していますので確認してください。リパティタワーやアカデミーコモンの非常用エレベーター付近の消火栓扉内には、防災センターに通じる非常電話を設置しています。教室内の電話と併せて確認してください。

【地震時の心構え】－落ち着いて行動－

地震時の生命の危険性は、発生した瞬間とその後に起こる火事にあると言われています。大きな揺れでも1～2分です。まずは、身の安全を確保して、落ち着いて行動をしてください。本学の建物は、耐震建築又は耐震補強がなされており、建物が容易に倒壊するということはないと想定しています。

【地震発生時の行動】－身の安全確保－ <自助>

落下物や転倒物から身の安全を確保するため、机の下に隠れたり、天吊りプロジェクター、窓ガラス、自動販売機、ロッカーなどから離れるようにしてください。

【地震直後の行動】－避難口の確保と火の始末－

小さな揺れのときや大きな揺れがおさまったときに、出入口を開けて避難口を確保するとともに、速やかに火の始末を行ってください。

【地震後の行動】－状況確認と救出・消火－ <共助>

余震に注意しながら、周りの状況を確認し、傷病人等助けを必要とする人や、火災を発見したら、周りの人と協力して対応するとともに、最寄りの事務室や防災センター／守衛所にも連絡をしてください。（事務室等から119番通報します。）消火の際は、身の安全を第一に考え、消火器では消えないような火災のときは、無理に消そうとせず、直ちに避難してください。

【エレベーター】

大きな地震の時は最寄り階に止まるように設定されていますが、乗っているときに地震に気づいた際は、全ての階のボタンを押して、停止した階で降りてください。また、万が一、降りられなくなったら、エレベーター内の非常ボタンを数秒間押して警備員に連絡した後、エレベーター保守業者による救助を待ってください。（閉じ込めの発生しているエレベーターは業者の最優先対応となります。）

【屋外避難】

地震が発生しても、身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣の火災や、壁に大きな亀裂が走るなど躯体への影響が懸念される場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により各建物で指定する「一時（いっとき）集合場所」へ移動してください。その後、千代田区指定の避難場所に移動します。なお、授業中に地震が発生した場合は、授業単位で避難するようにしてください。

※駿河台キャンパスでは、原則 大きな揺れがあった際は、各建物の防災センター／守衛所から館内放送を行います。（なお、猿楽町第五校舎は館内放送設備がないためハンドマイク等で対応します。）

【本学の一時（いっとき）集合場所の指定】

各建物の一時集合場所は、原則として次のように指定します。ただし、状況に応じて変更することもありますので、館内放送に注意してください。

- リパティタワー、研究棟、大学会館、12号館、紫紺館、10号館
⇒リパティタワー（低層階教室）
- アカデミーコモン⇒A1～A6会議室（2階）
- グローバルフロント⇒グローバルホール、多目的室（1階）
- 14号館、猿楽町校舎⇒猿楽町第一校舎グラウンド

【千代田区内の避難場所】

千代田区は、全域が東京都の調査により建物の不燃化が進み、大規模な延焼火災の危険性が少ないと認められた地域のため、「地区内残留地区」となっています。このため、地震発生の際はすぐに避難を開始するのではなく、建物内にとどまり、被災状況を把握し、万が一危険を感じた場合は、に避難することとなっています。

本学では、千代田区内で指定された、「災害時退避場所」のうち、次の場所を「避難場所」とします。

- ①北の丸公園、②皇居東御苑、③皇居外苑

※避難時には、①～③のいずれかを指定し、館内放送、避難誘導により周知します。

【大学からの情報の伝達・安否確認】

地震発生後、体制が整い次第、大学HP及び所属の学部事務室から「Oh-o!Meiji システム」を通じてお知らせします。その際に大学への安否連絡方法もお知らせしますので、その指示に従って御連絡ください。X（公式アカウント@Meiji_Univ_PR）でも情報発信を行います。

一時集場所

グローバルフロント

一時集場所

一時集場所

一時集場所

紫紺館

アカデミーコモン

12号館

大学会館

研究棟

リベティタワー

10号館

14号館

部室センターB棟

部室センターC棟

プレハブ棟

第五校舎

第四校舎

第三校舎

猿楽町校舎

第二校舎

第一校舎

一時集場所
(グラウンド)

明治大学大学院
経営学研究科 ☎03-3296-4705

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学大学院事務室